ワークスペース環境管理™ 2607

Workspace Environment Managementは、インテリジェントなリソース管理およびプロファイル管理テクノロジーを使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops™展開に最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーション応答時間を提供します。これは、ソフトウェアのみのドライバー不要のソリューションです。

リソース管理 - ユーザーに最高の体験を提供するために、Workspace Environment Managementはユーザーとアプリケーションの動作をリアルタイムで監視および分析し、ユーザーワークスペース環境のRAM、CPU、およびI/Oをインテリジェントに調整します。

プロファイル管理 - 最高のログオンパフォーマンスを提供するために、Workspace Environment Managementは、一般的に使用されるWindowsグループポリシーオブジェクト、ログオンスクリプト、および設定を、各仮想マシンまたはサーバーに展開されるエージェントに置き換えます。エージェントはマルチスレッドであり、必要な場合にのみユーザー環境に変更を適用し、ユーザーが常に可能な限り迅速にデスクトップにアクセスできるようにします。

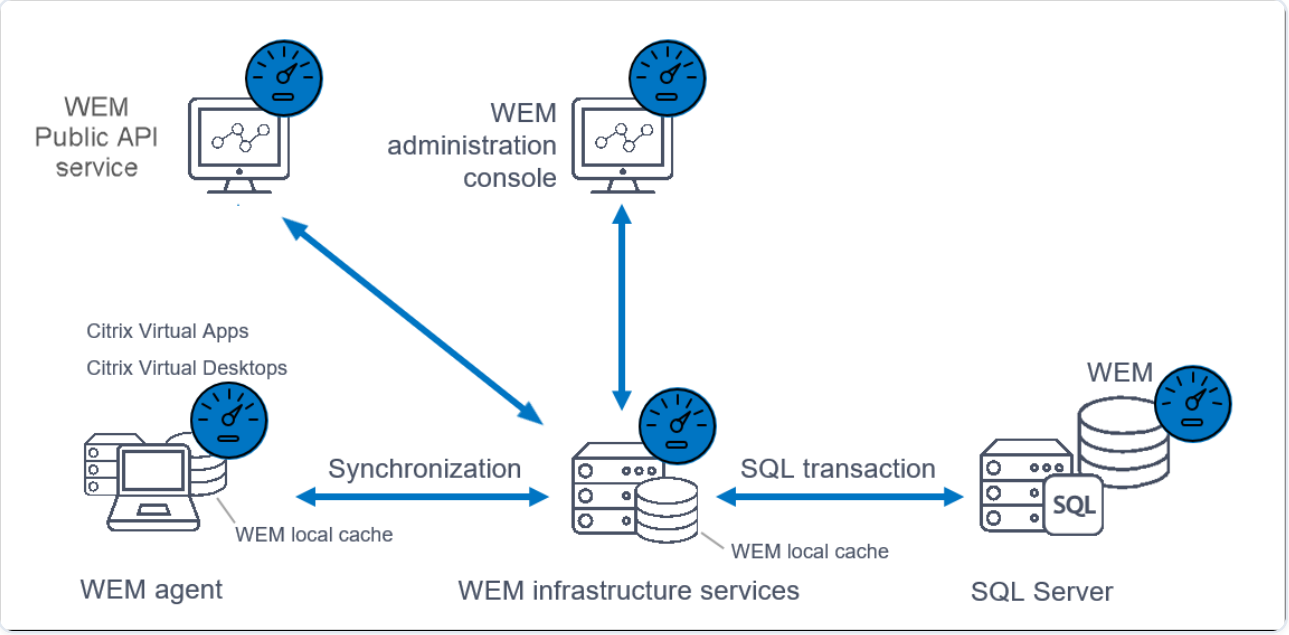
アップグレードについては、「展開のアップグレード」を参照してください。

現在のリリースのインストールについては、「インストールと構成」を参照してください。

> **注:**
>
> Workspace Environment Managementは、Citrix Virtual Apps and DesktopsのCurrent Releases (CR) ライフサイクルでカバーされています。詳細については、「製品マトリックス」を参照してください。

技術概要

Workspace Environment Management (WEM) は次のアーキテクチャを備えています。



インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスは、マルチセッションOSにインストールされます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント（SQL ServerおよびActive Directory）をフロントエンドコンポーネント（管理コンソールおよびエージェント）と同期します。

> **注:**
>
> インフラストラクチャサービスはドメインコントローラーにはインストールできません。Kerberos認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しません。

> **管理コンソール**。Workspace Environment Management管理コンソールは、シングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされます。インフラストラクチャサービスに接続します。管理コンソールを使用して、Workspace Environment Managementのインストールを管理します。たとえば、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

WEMパブリックAPIサービス。Workspace Environment ManagementパブリックAPIサービスは、WEM Webコンソールをサポートし、WEMインフラストラクチャサービスと通信するためのHTTPSサービスを提供します。

エージェント。Workspace Environment Managementエージェントは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスに接続し、管理コンソールで構成した設定を適用します。Virtual Delivery Agent (VDA) にエージェントを展開できます。これにより、シングルセッショ

ンまたはマルチセッション環境を管理できます。物理Windowsエンドポイントにエージェントを展開することもできます。

注:

- エージェントはインフラストラクチャサーバーにはインストールできません。このシナリオでは、エージェントインストーラーが失敗します。
- Transformer機能は、マルチセッションOSではサポートされていません。

SQL Serverデータベース。Workspace Environment Managementでは、設定を保存するためにSQL Serverデータベースが必要です。必要に応じて、データベースはSQL Server Always On可用性グループでホストできます。(詳細については、「システム要件」を参照してください。)

Microsoft Active Directoryサーバー。Workspace Environment Managementでは、ユーザーに設定をプッシュするためにActive Directoryへのアクセスが必要です。

ヒント:

最新のWorkspace Environment Managementインストーラーは、Citrix Virtual Apps and Desktopsダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードできます。そのページで、Citrix Virtual Apps and Desktopsの最新バージョンの**コンポーネント**の下にあるインストーラーにアクセスしてください。

新機能

2607 の新機能

> ヒント:

> 最新の Workspace Environment Management インストーラーは、Citrix Virtual Apps and Desktops のダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードできます。そのページで、Citrix Virtual Apps and Desktops の最新バージョンの の下にあるインストーラーにアクセスしてください。

> このリリースでは、ユーザーエクスペリエンスを向上させるために 問題 が解決されています。

修正された問題

Workspace Environment Management™ 2607 には、以下の修正された問題が含まれています。

- ログオフ外部タスクトリガーが有効で、多数のGPOが構成されている場合、WEMエージェントはセッション起動中に過剰なリソースを消費する可能性があります。
- ICAセッションのパフォーマンスメトリックを収集しているときに、WEMエージェントサービスが予期せず終了する可能性があります。
- 新規インストール後、管理者はWEM Webコンソールにログインできない可能性があります。
- デバッグモードが無効になっている場合（デフォルト）、Citrix Licensing Activation Service (LAS) を介したWEMライセンス認証は失敗します。その結果、ライセンス認証が完了しません。

既知の問題

Workspace Environment Management™ 2607 には、以下の既知の問題が含まれています。

- マルチドメイン環境では、**割り当てターゲット**ページで割り当てターゲット名が SID として表示される場合があります。

サードパーティ通知

Workspace Environment Management™ の現在のリリースには、以下のドキュメントに定義されている条件に基づいてライセンスされているサードパーティ製ソフトウェアが含まれている場合があります。

Workspace Environment Management サードパーティ通知

非推奨

この記事のお知らせは、段階的に廃止されるプラットフォームおよびWorkspace Environment Management™の機能について事前にお知らせし、お客様がタイムリーなビジネス上の意思決定を行えるようにすることを目的としています。Citrix®は、お客様の使用状況とフィードバックを監視して、それらがいつ廃止されるかを決定します。お知らせは、その後のリリースで変更される可能性があり、廃止されるすべての機能が含まれるとは限りません。

製品ライフサイクルサポートの詳細については、「製品ライフサイクルサポートポリシー」を参照してください。

非推奨と削除

次の表は、廃止または削除されたプラットフォームおよびWorkspace Environment Management（WEM）機能を示しています。

*廃止された*項目は、すぐに削除されるわけではありません。Citrixは、このリリースでは引き続きサポートしますが、将来のCurrent Releaseで削除されます。アスタリスク（*）が付いている項目は、次回のCitrix Virtual Apps and Desktops Long Term Service Release（LTSR）リリースまでサポートされます。

*削除された*項目は、Workspace Environment Managementで削除されたか、サポートされなくなった項目です。

項目	発表日	削除日	代替
ファイルベースのライセンス	2507	2026年4月	License Activation Service (LAS) は、Citrix製品全体で製品アクティベーション

項目	発表日	削除日	代替
			を行うための次世代テクノロジーです。ファイルベースのライセンスを使用している場合は、LAS互換リリースにアップグレードし、April 15, 2026までに移行を完了する必要があります。その日付以降、LASはCitrixオンプレミスコンポーネントをアクティブ化およびライセンス供与する唯一の方法となります。詳細については、「ファイルベースのライセンスシステムEOL通知」を参照してください。
キャッシュ同期ポートのサポート（Workspace Environment Management 1909以前に適用。Workspace Environment Management 1912以降のキャッシュデータ同期ポートに置き換えられました）。	2012	**2103**	Workspace Environment Management 1912以降にアップグレードします。注：Workspace Environment Management 2103以降を使用している場合は、Workspace Environment Managementエージェントを1912以降にアップグレードしてください。
VMware Persona設定のサポート。	1906	**1909**	

項目	発表日	削除日	代替
次のOSプラットフォームでのWEMインフラストラクチャサービスのサポート：Windows Server 2008 R2 SP1、およびWindows Server 2012。	4.7	**1808**	
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート: Windows Vista SP2 32-bitおよび64-bit、Windows 7 SP1 32-bitおよび64-bit、Windows 8.x 32-bitおよび64-bit、Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1、および Windows Server 2012。	4.7	**1808**	
以下のOSプラットフォームでのWEMエージェントのサポート: Windows Vista SP2 32-bitおよび64-bit、および Windows Server 2008 SP2。	4.7	**1808**	
WEM 3.0、3.1、3.5、3.5.1からWEM 4.xへのインプレースアップグレード。*	4.5	WEM 3.5.2にアップグレードし、その後WEM 4.xにアップグレードします。	
Windows XP SP3 32-bitおよび64-bitで	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォーム

項目	発表日	削除日	代替
のすべてのWEMコンポーネントのサポート。			を使用してください。
以下のOSプラットフォームでのWEMエージェントのサポート：Windows XP SP3 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 R2 32ビットおよび64ビット	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
GPOを介した既存の（バージョン4.3以前の）エージェントのサイトへの割り当てとバインドのサポート。	4.3		エージェントをWorkspace Environment Management 4.3以降にアップグレードしてください。
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート：Windows XP SP3 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 R2 32ビットおよび64ビット	4.2	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート：Windows	4.2	4.5	

項目	発表日	削除日	代替
Vista SP1 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2			
Microsoft .NET Framework 4.0、4.5.0、または4.5.1上のすべてのWEMコンポーネントのサポート。	4.2	4.5	Microsoft .NET Framework 4.5.2 にアップグレードする。

クイックスタートガイド

このガイドでは、Workspace Environment Management™ (WEM) のインストールと構成方法について説明します。段階的なインストールと構成の手順、および推奨されるベストプラクティスを提供します。

概要

WEM は、ユーザーに最高のワークスペースエクスペリエンスを提供できるように設計されたユーザー環境管理ソリューションです。これは、ソフトウェアのみで構成され、ドライバー不要のソリューションです。

前提条件

環境に WEM をインストールする前に、すべてのシステム要件を満たしていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

インストールと構成

Citrix® は、WEM の最新バージョンをインストールすることを推奨します。WEM の展開は、インフラストラクチャサービス、管理コンソール、エージェントの3つのコアコンポーネントのインストールと構成で構成されます。以下の手順では、これらのコンポーネントのインストールと構成方法について詳しく説明します。

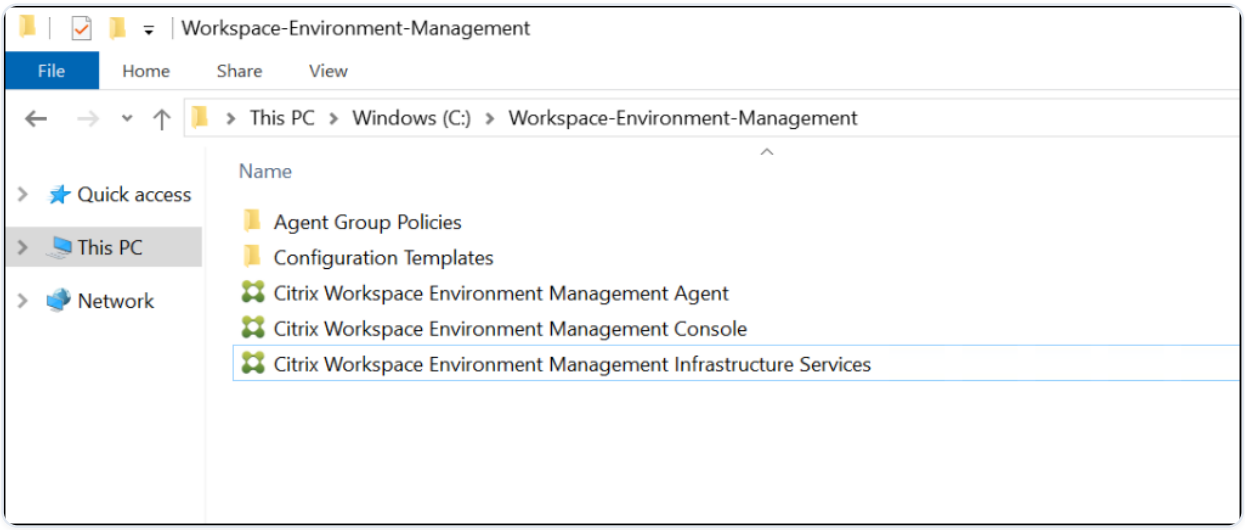
- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- Webコンソール
- エージェント

> **注:**
>
> - 上記のコンポーネントをドメインコントローラーにインストールしないでください。

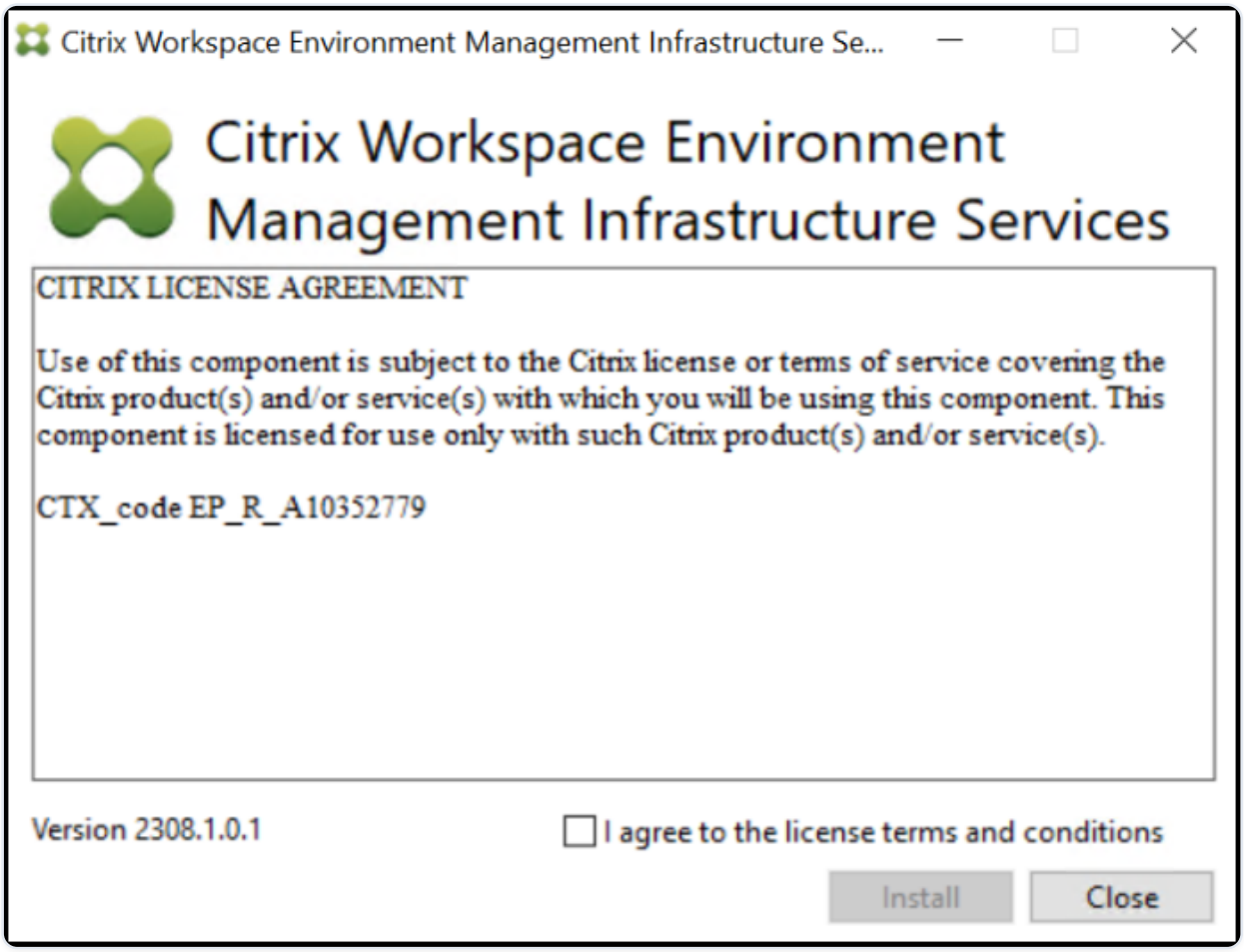
- Delivery Controller™ がインストールされているサーバーにインフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

ステップ1：インフラストラクチャサービスをインストールする

1. 最新の WEM インストーラーを Citrix Virtual Apps and Desktops Advanced または Premium Edition Components のダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードします。zip ファイルを任意のフォルダーに展開します。



2. インフラストラクチャサーバーで **Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe** を実行します。
3. 「**インストール**」をクリックします。
4. **次へ**をクリックします。
5. ライセンス契約で「ライセンス条項と条件に同意します」を選択します。

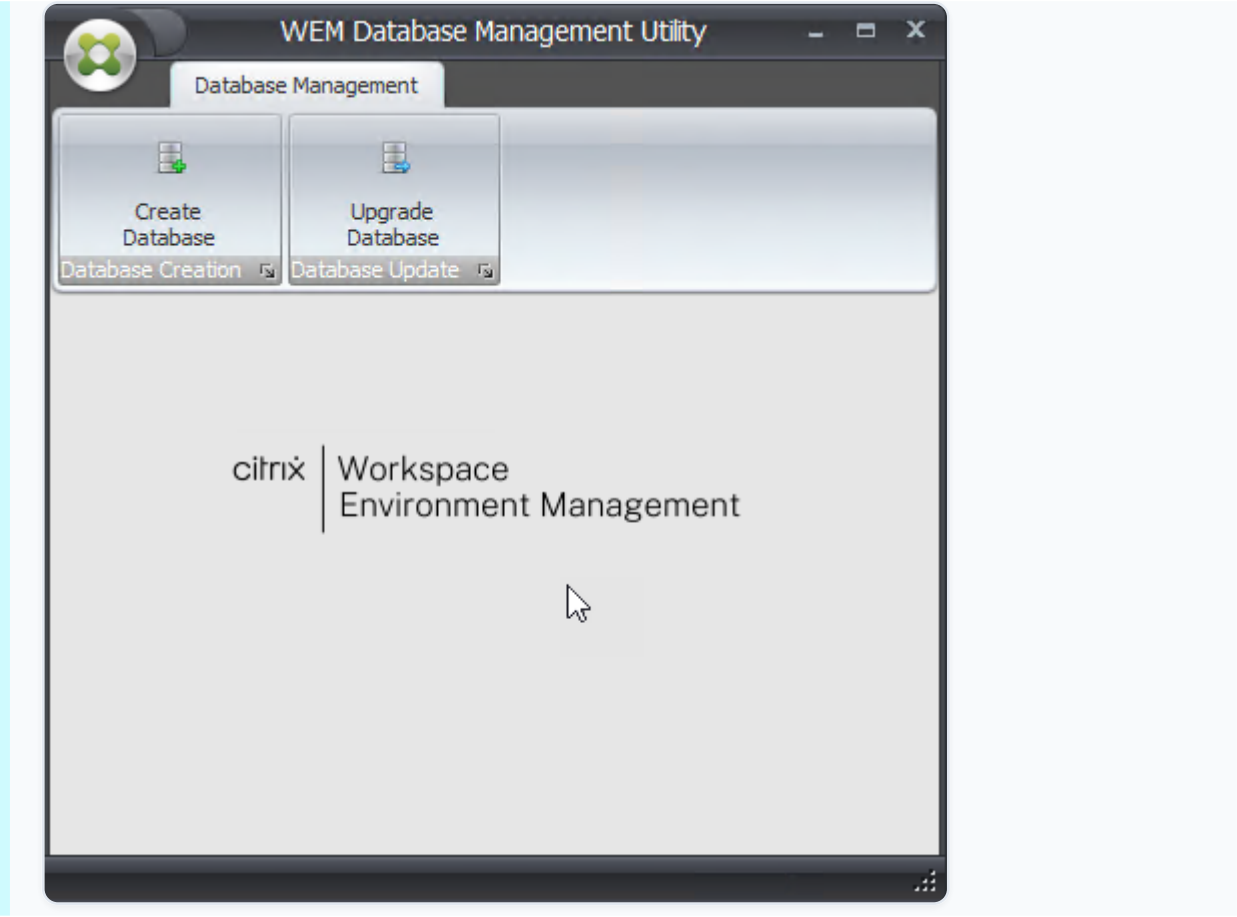


6. ウィザードの指示に従って手順を完了します。

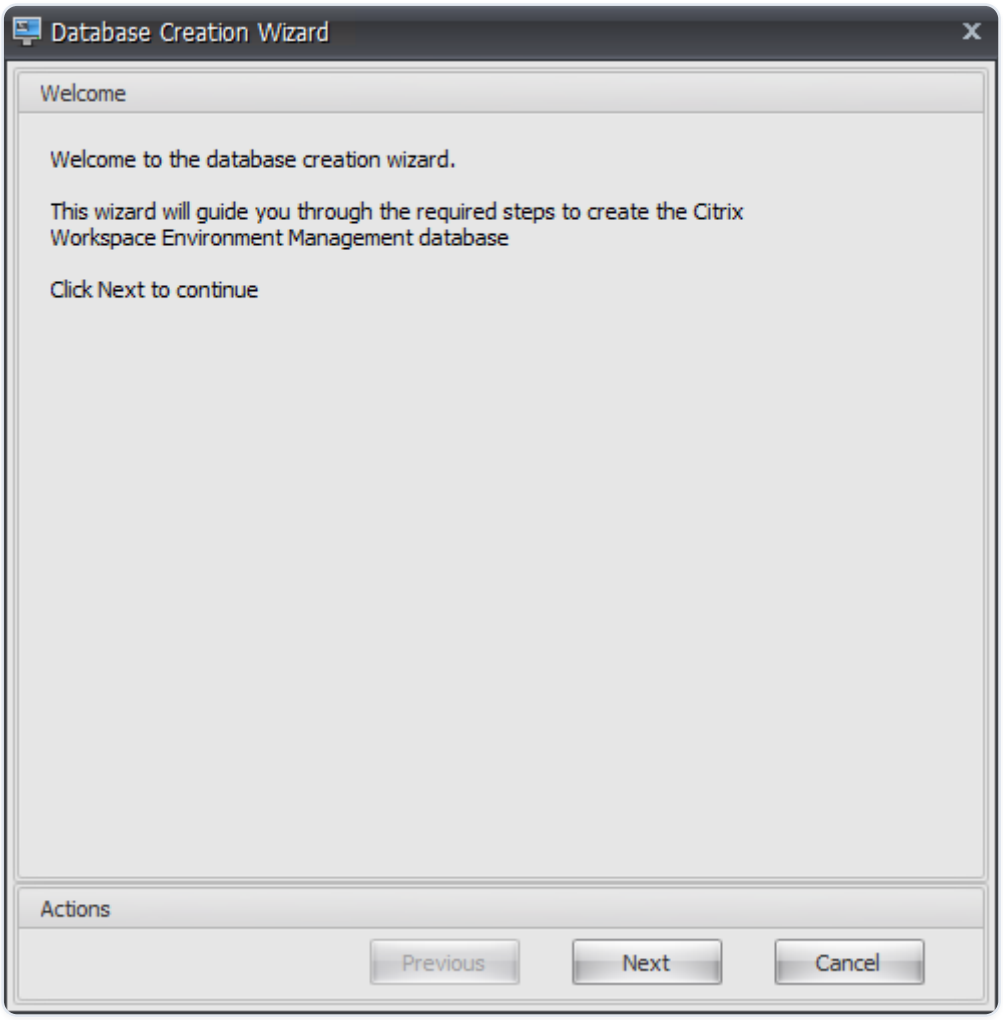
ステップ2：WEMデータベースを作成する

1. データベース管理ユーティリティで、**データベースの作成**をクリックして、展開用のWEMデータベースを作成します。データベース作成ウィザードが表示されます。

> **注:**
>
> SQL ServerでWindows認証を使用している場合は、システム管理者権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行してください。

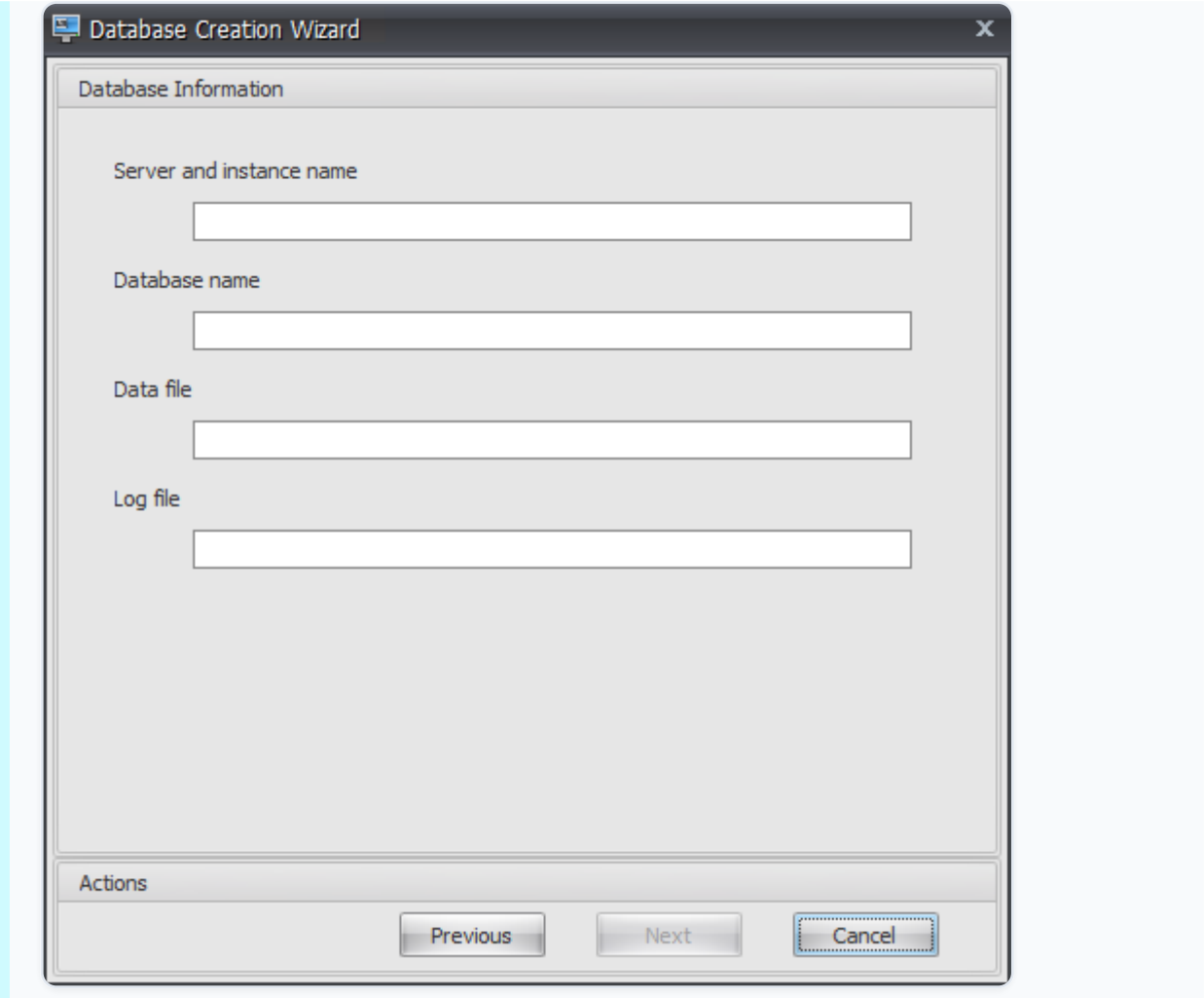


2. ようこそページで、**次へ**をクリックします。

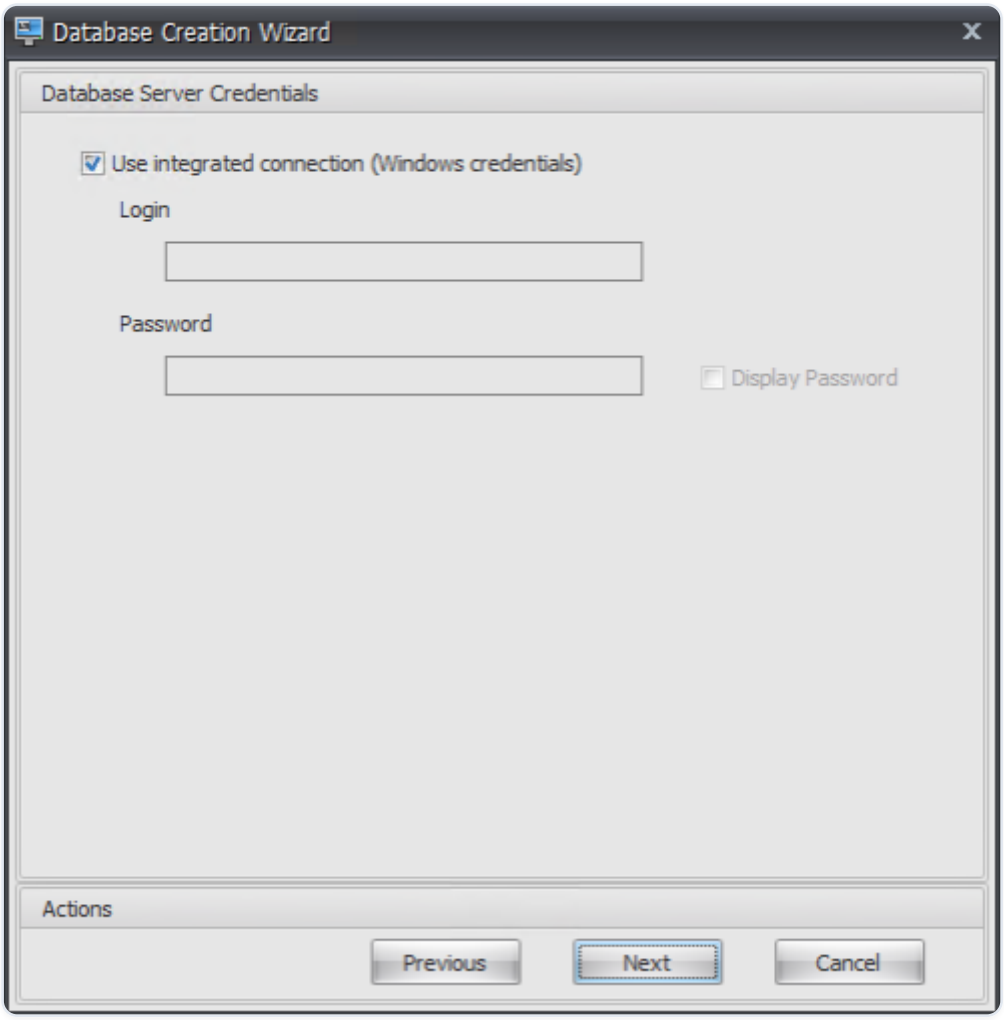


3. データベース情報ページで、必要な情報を入力し、**次へ**をクリックします。

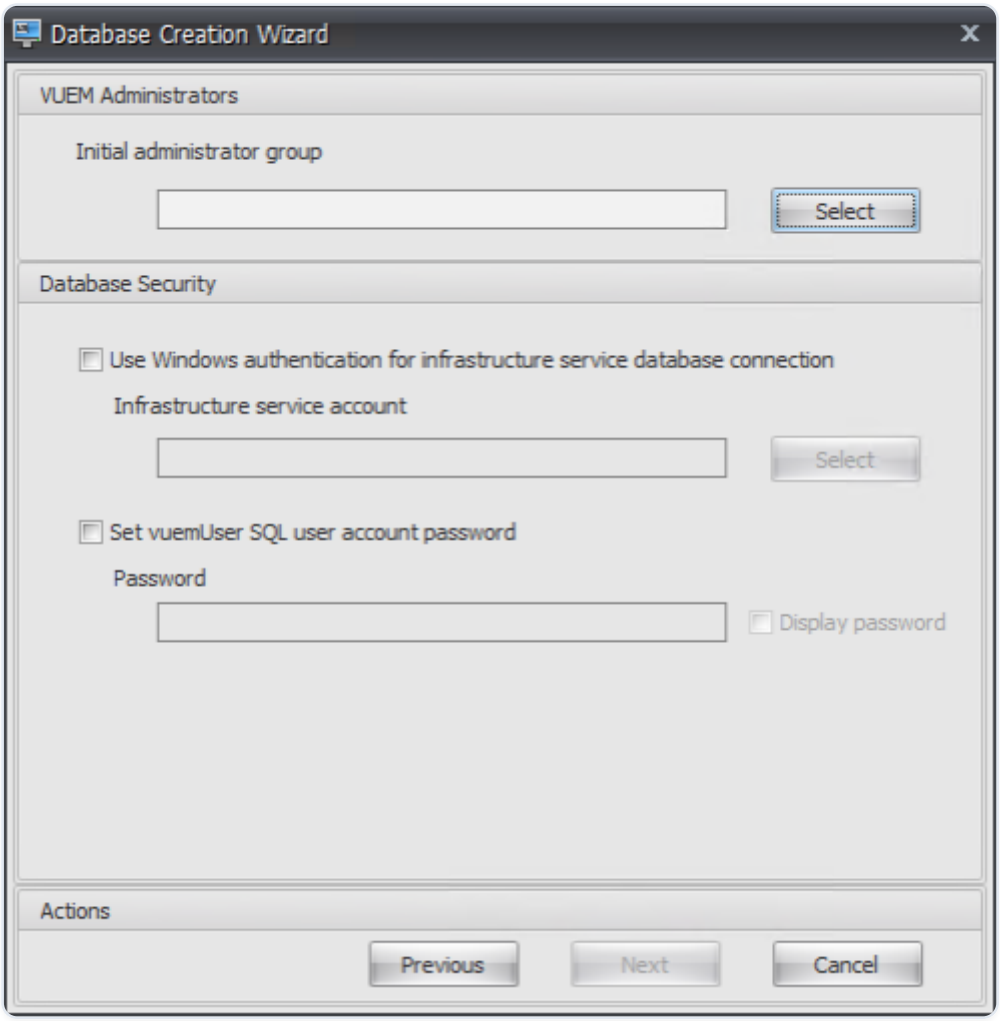
> **注:**
>
> - サーバー名とインスタンス名には、マシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
> - ファイルパスには、データベース管理者が指定した正確なパスを入力します。自動入力されたファイルパスが正しいことを確認してください。



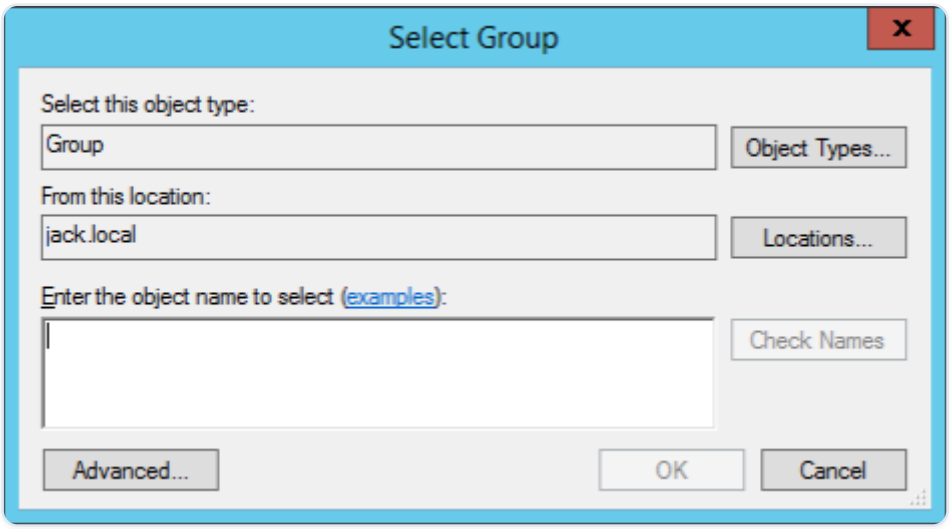
4. データベースサーバー資格情報ページで、必要な情報を入力し、**次へ**をクリックします。



5. VUEM Administratorsで、「**選択**」をクリックします。



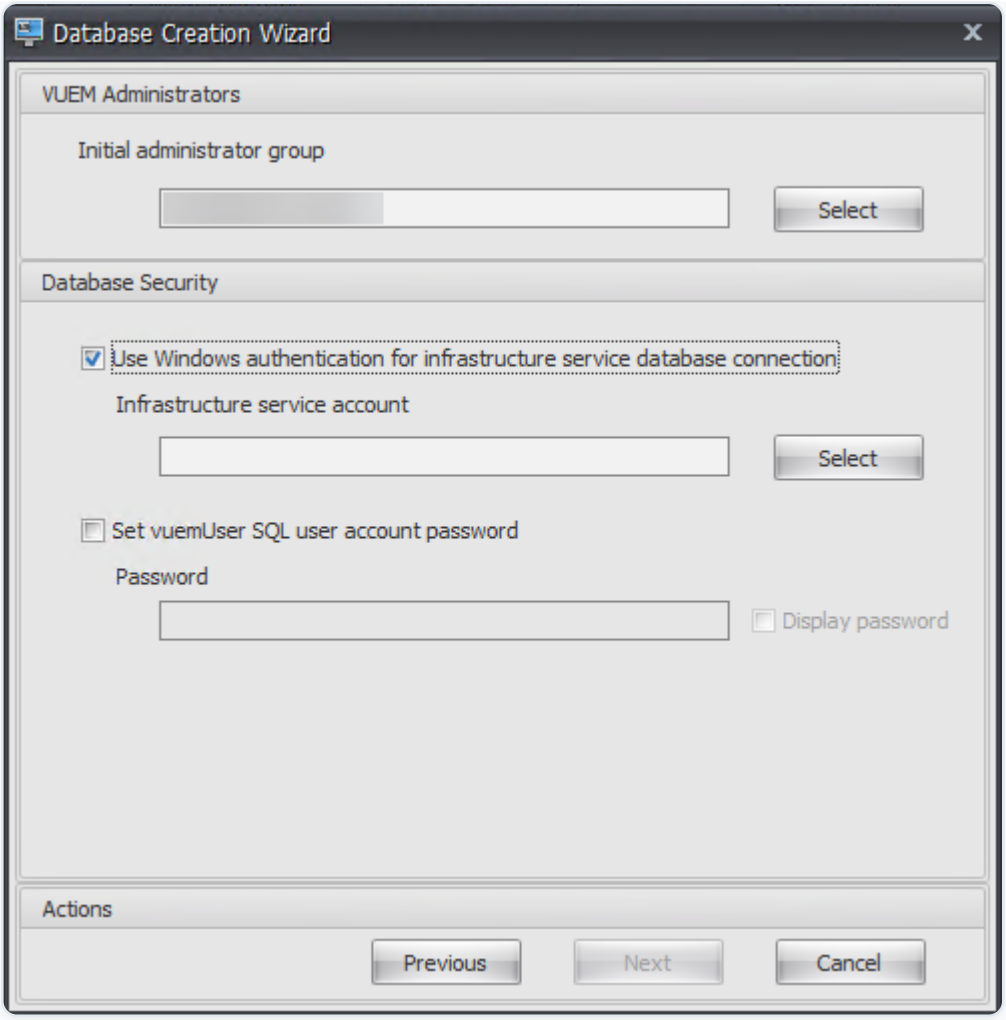
6. 「グループの選択」ウィンドウで、管理コンソールへの管理権限を持つユーザーグループを入力し、「**名前の確認**」をクリックしてから、「**OK**」をクリックします。



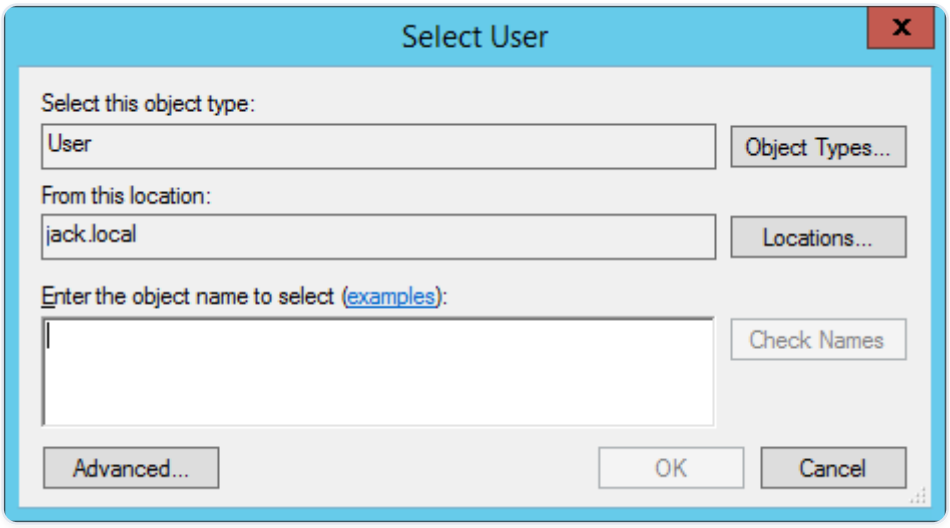
7. 「データベースセキュリティ」で、「**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**」を選択し、「**選択**」をクリックします。

> **注:**

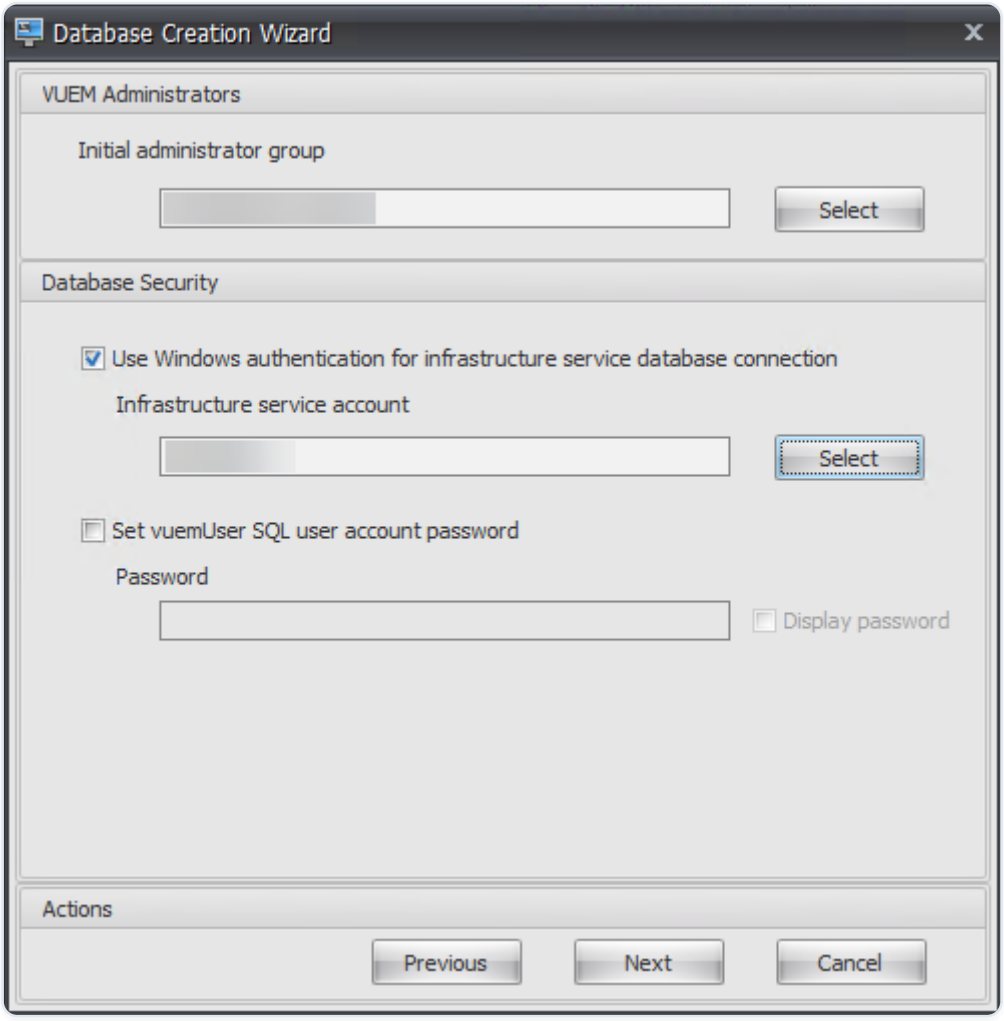
- 「**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**」も「**vuemUser SQLユーザーアカウントパスワードを設定する**」も選択しない場合、SQLユーザーアカウントがデフォルトで使用されます。
- 独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを使用するには（たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合）、「**vuemUser SQLユーザーアカウントパスワードを設定する**」を選択します。



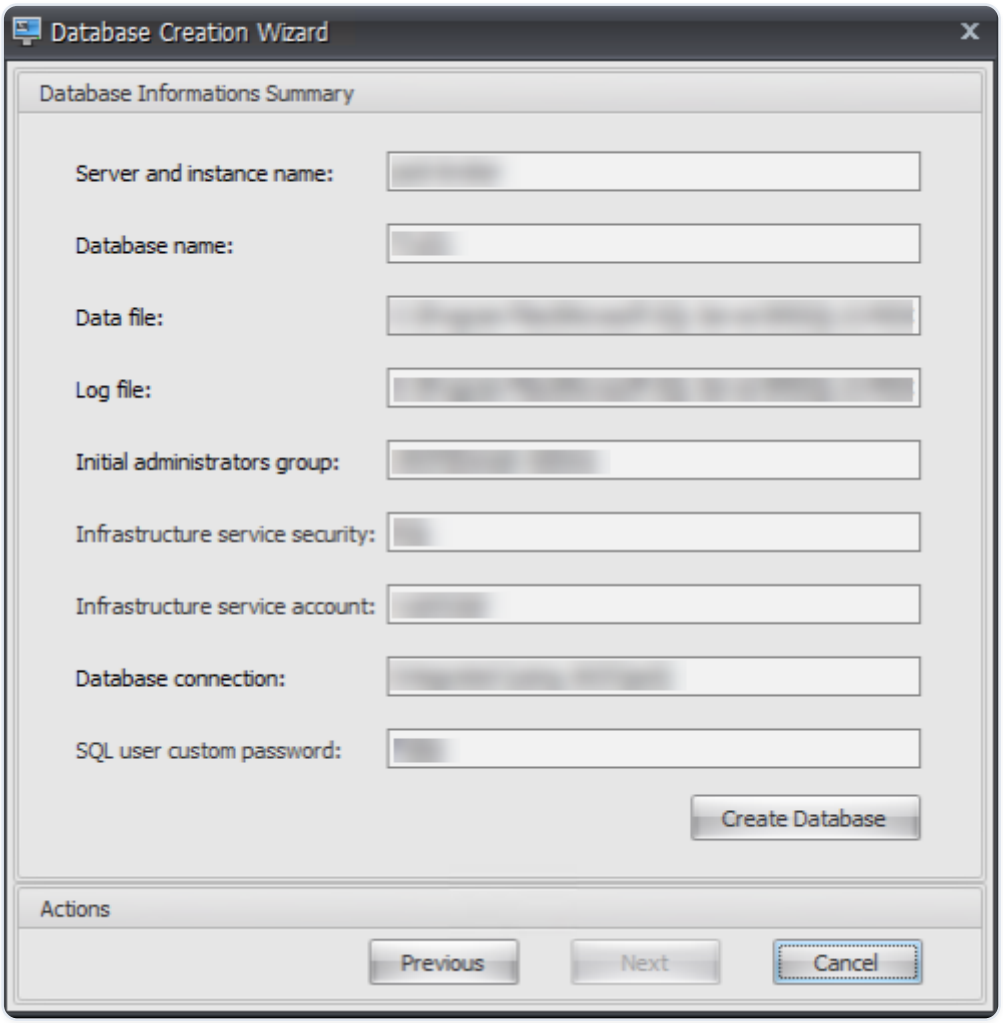
8. 「ユーザーの選択」ウィンドウで、インフラストラクチャサービスアカウントの名前を入力し、「**名前の確認**」をクリックしてから、「**OK**」をクリックします。



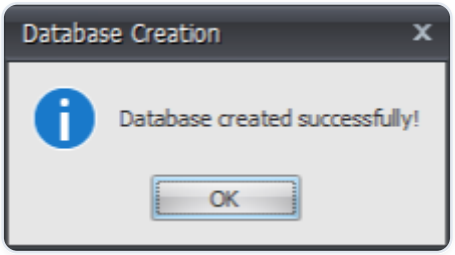
9. **次へ**をクリックします。



10. 「データベース情報サマリー」ページで、「**データベースの作成**」をクリックします。



11. **OK**をクリックします。



12. 「データベース情報概要」ページで、「**完了**」をクリックします。

    WEMデータベースの作成 12(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-creating-a-wem-database-12.png)

13. 「**WEMデータベース管理ユーティリティ**」を閉じます。

    WEMデータベースの作成 13(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-creating-a-wem-database-13.png)

14. 「アプリケーションの終了」ダイアログで、「**はい**」をクリックします。

> **注:**

> データベースの作成中にエラーが発生した場合は、詳細については、インフラストラクチャサービスインストールフォルダーにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。

> WEMデータベースの作成 14(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-creating-a-wem-database-14.png)

ステップ3：インフラストラクチャサービスを構成する

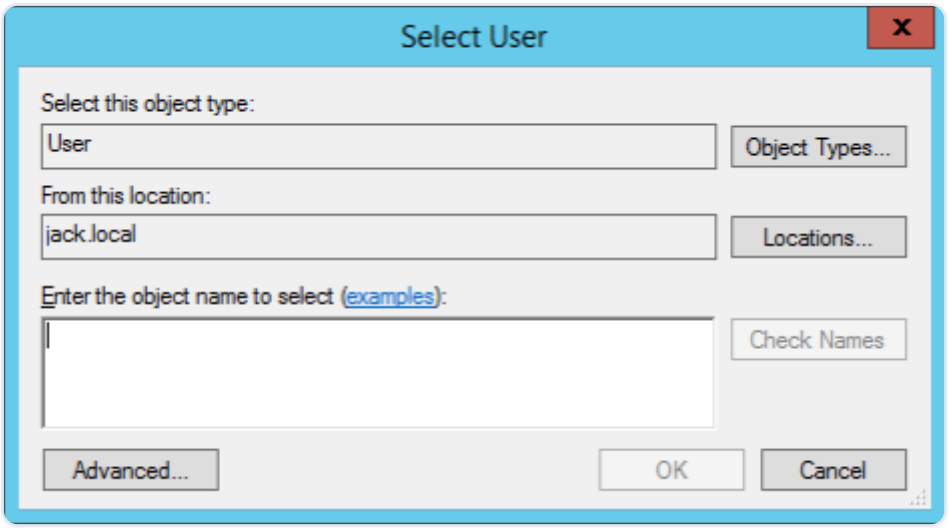
1. 「**スタート**」メニューから「**WEMインフラストラクチャサービス構成ユーティリティ**」を開きます。
2. 「**データベース設定**」タブで、必要な情報を入力します。

   インフラストラクチャサービスの構成 01(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-infrastructure-services-01.png)
3. 「**詳細設定**」タブで、「**Windowsアカウントの偽装を有効にする**」を選択し、「**参照**」をクリックします。

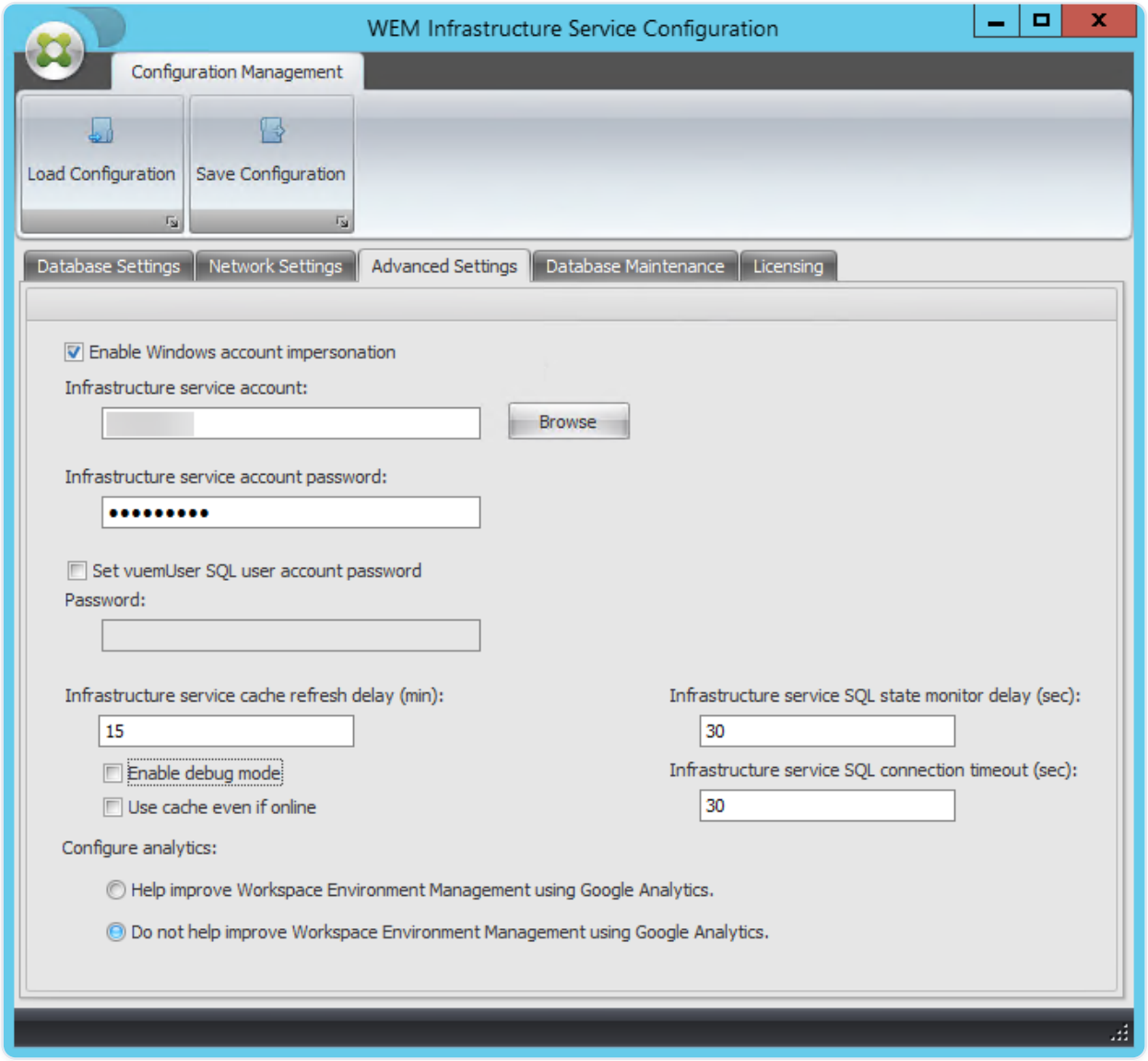
> **注:**
>
> ステップ2でWEMデータベースの作成中に選択した内容に応じて、「**Windowsアカウントの偽装を有効にする**」または「**vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**」を選択します。

> インフラストラクチャサービスの構成 02(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-infrastructure-services-02.png)

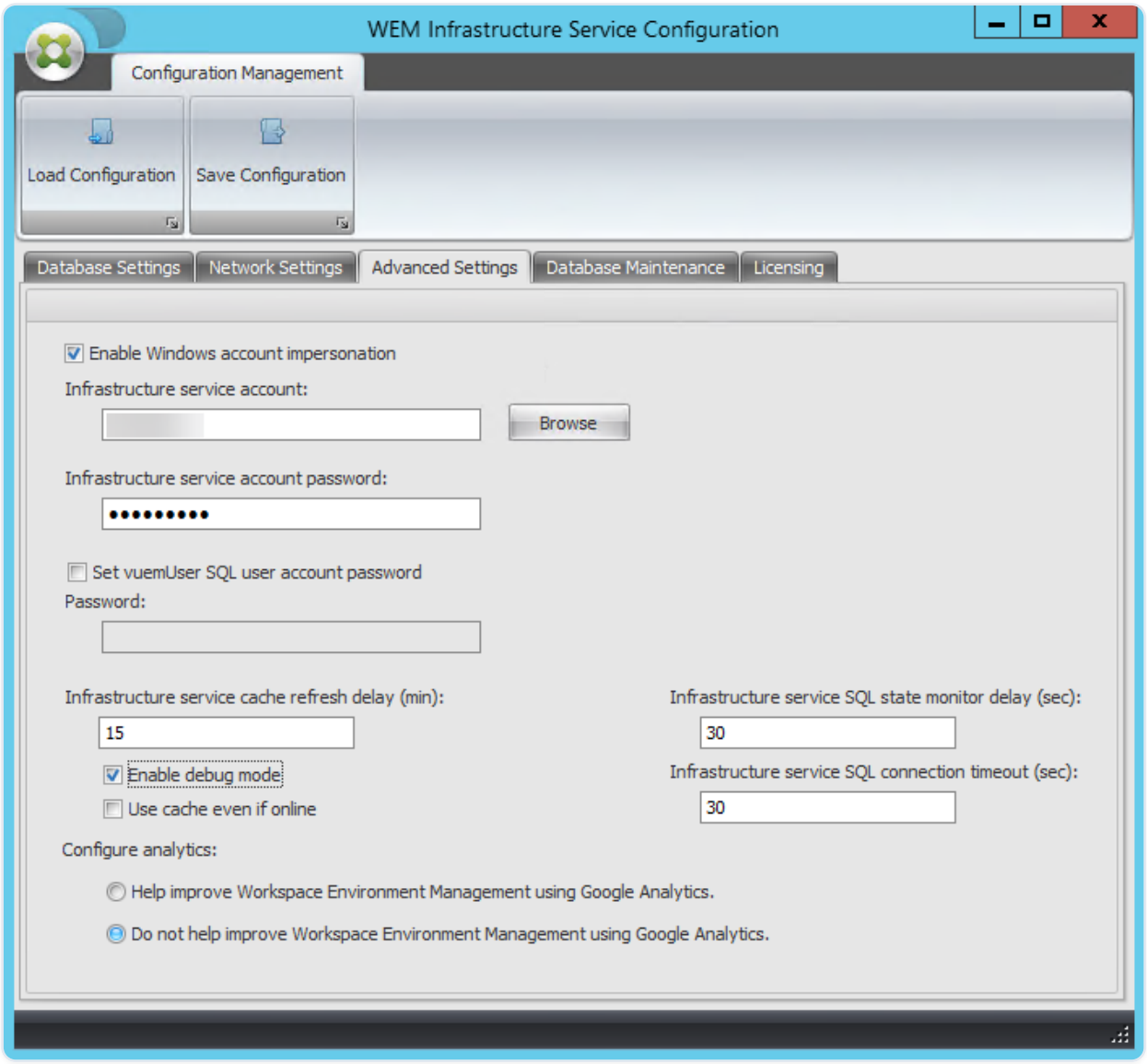
4. ユーザー名を入力し、「**名前の確認**」をクリックし、「**OK**」をクリックします。



5. インフラストラクチャサービスアカウントのパスワードを入力します。

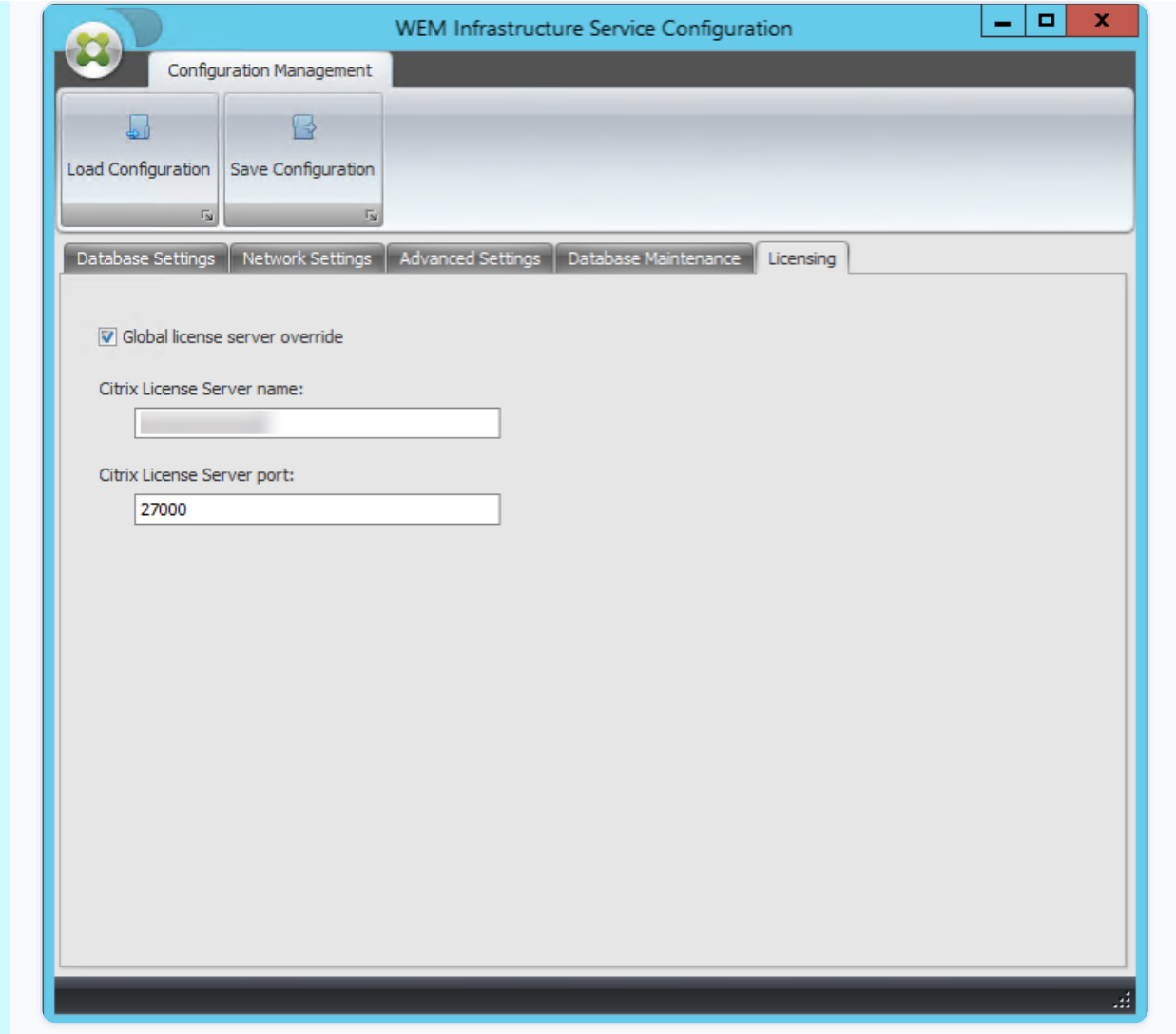


6. **デバッグモードを有効にする**を選択します。

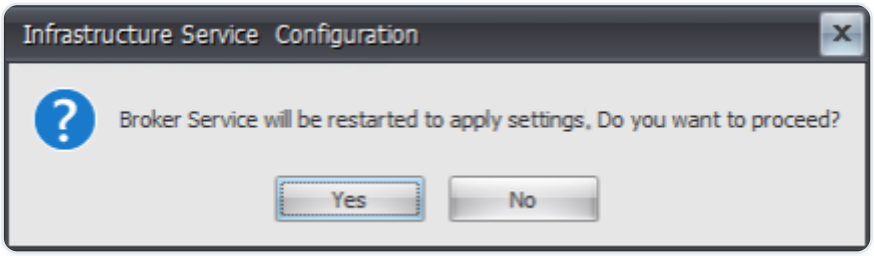


7. **ライセンス**タブで、**グローバルライセンスサーバーのオーバーライド**を選択し、ライセンス情報を入力して、**構成の保存**をクリックします。

> **注:**
>
> - Citrix License Server名には、ライセンスサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
> - Citrix License Serverポートの場合、デフォルトポートは27000です。



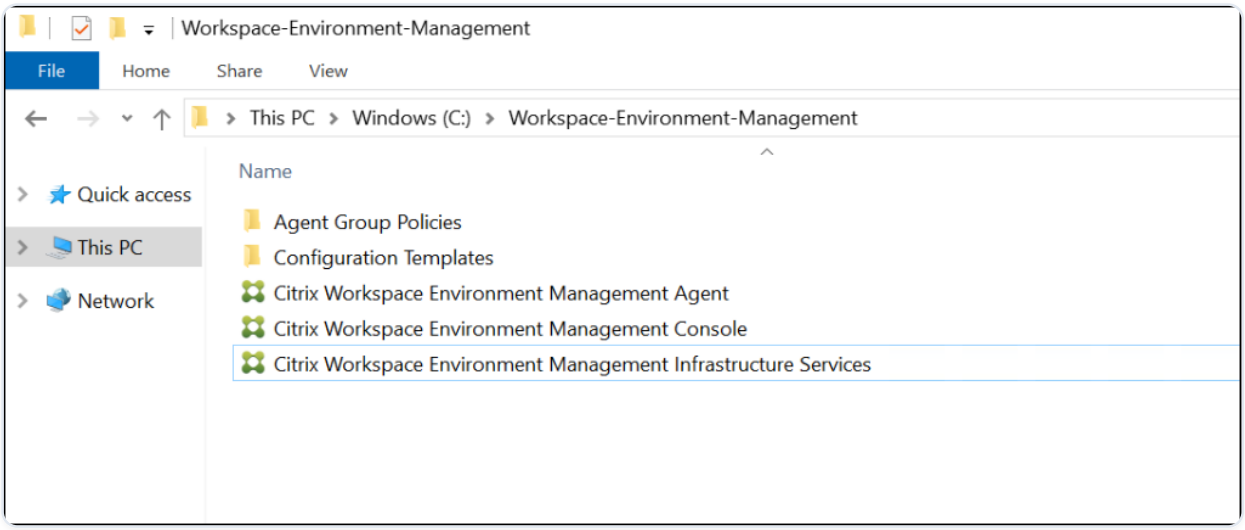
8. **はい**をクリックします。



9. **WEMインフラストラクチャサービス構成**ユーティリティを閉じます。

ステップ4：管理コンソールのインストール

1. **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** ファイルを実行してください。



2. 「ライセンス契約」ページで、「ライセンス条項と条件に同意します」を選択します。

   管理コンソールのインストール 02(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-installing-the-administration-console-02.png)

3. ウィザードの指示に従って手順を完了します。

ステップ 5: 構成セットの構成

1. **スタート**メニューから**WEM 管理コンソール**を開き、**接続**をクリックします。

   構成セットの構成 01(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-01.png)

2. 「新しいインフラストラクチャサーバー接続」ウィンドウで情報を確認し、**接続**をクリックします。

   > **注:**
   >
   > - インフラストラクチャサーバー名には、WEM インフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを入力します。
   > - 管理ポートには、デフォルトポートは 8284 です。

   > 構成セットの構成 02(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-02.png)

3. **ホーム**タブのリボンで、**作成**をクリックして構成セットを作成します。

構成セットの構成 03(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-03.png)

4. 「構成セットの作成」ウィンドウで、構成セットの名前と説明を入力し、**OK**をクリックします。

   構成セットの構成 04(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-04.png)

5. リボンで、**構成セット**の下にある新しく作成した構成セットを選択します。

   構成セットの構成 05(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-05.png)

6. リボンで、「**バックアップ**」の下にある「**復元**」をクリックします。復元ウィザードが表示されます。

   構成セットの構成 06(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-06.png)

7. 復元する項目の選択ページで、「**設定**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

   構成セットの構成 07(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-07.png)

8. 設定の復元ページで、「**次へ**」をクリックします。

   構成セットの構成 08(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-08.png)

9. ソースページで、「**参照**」をクリックします。

   構成セットの構成 09(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-09.png)

10. フォルダーの参照ウィンドウで、「**Default Recommended Settings**」フォルダー（Workspace Environment Management に付属）を参照し、「**OK**」をクリックします。

    構成セットの構成 10(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-10.png)

11. ソースページで、「**System Optimization Settings**」、「**Agent Configuration Settings**」、および「**System Monitoring Settings**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

    構成セットの構成 11(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-11.png)

12. 設定の復元処理ページで、「設定の復元」の下にある「**設定の復元**」をクリックします。

    構成セットの構成 12(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-12.png)

13. 「**はい**」をクリックします。

    構成セットの構成 13(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-13.png)

14. 「**完了**」をクリックします。

    構成セットの構成 14(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configuring-configuration-sets-14.png)

ステップ6：グループポリシーテンプレートを追加する（オプション）

オプションで、グループポリシーを構成することを選択できます。WEMエージェントパッケージで提供される**エージェントグループポリシー**管理用テンプレートは、エージェントホスト構成ポリシーを追加します。

1. WEMインストールパッケージに付属の**エージェントグループポリシー**フォルダーをWEMドメインコントローラーにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
    a. **エージェントグループポリシー > ADMX**フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx*および*CitrixBase.admx*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .admlファイルを追加します。
    a. **エージェントグループポリシー > ADMX > en-US**フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.adml*および*CitrixBase.adml*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

4. グループポリシー管理エディターウィンドウで、**コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート > Citrixコンポーネント > Workspace Environment Management > エージェントホスト構成**に移動し、**インフラストラクチャサーバー**をダブルクリックします。

   グループポリシー管理エディター(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-group-policy-man-editor-2-24.png)

5. インフラストラクチャサーバーウィンドウで、**有効**を選択し、オプションで、インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューターのIPアドレスを入力し、**適用**と**OK**をクリックします。

   グループポリシーの構成 - インフラストラクチャサーバー(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-configure-infra-server-group-policy.png)

6. エージェントホストに移動し、コマンドラインを開き、`gpupdate /force`と入力します。

   グループポリシーの更新(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-update-group-policy.png)

ステップ7：エージェントのインストール

> **重要:**
>
> インフラストラクチャサーバーにWEMエージェントをインストールしないでください。

1. マシンで**Citrix Workspace Environment Management Agent.exe**を実行します。

   WEMインストーラーフォルダー(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-installer-folder.png)

2. **ライセンス条項に同意します**を選択し、**インストール**をクリックします。

   エージェントのインストール 01(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-installing-the-agent-01.png)

3. ようこそページで、**次へ**をクリックします。

   エージェントのインストール 02(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-installing-the-agent-02.png)

4. インストール先フォルダーページで、**次へ**をクリックします。

エージェントのインストール 03(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-installing-the-agent-03.png)

5. 「展開の種類」ページで、該当する展開の種類を選択し、**次へ**をクリックします。この場合は、**オンプレミス展開**を選択します。

   エージェントのインストール 04(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-installing-the-agent-04.png)

6. 「インフラストラクチャサービス構成」ページで、**インフラストラクチャサービスを構成**を選択し、インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、**次へ**をクリックします。

   > **注:**
   >
   > エージェントサービスポートのデフォルトポートは8286です。キャッシュされたデータ同期ポートのデフォルトポートは8288です。詳しくは、「ポート情報」を参照してください。

   > エージェントのインストール 05(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-installing-the-agent-05.png)

7. 「詳細設定」ページで、**次へ**をクリックします。

   エージェントのインストール 06(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-installing-the-agent-06.png)

8. 「インストールの準備完了」ページで、**インストール**をクリックします。
9. **完了**をクリックして、インストールウィザードを終了します。

手順8：作成した構成セットにエージェントを追加する

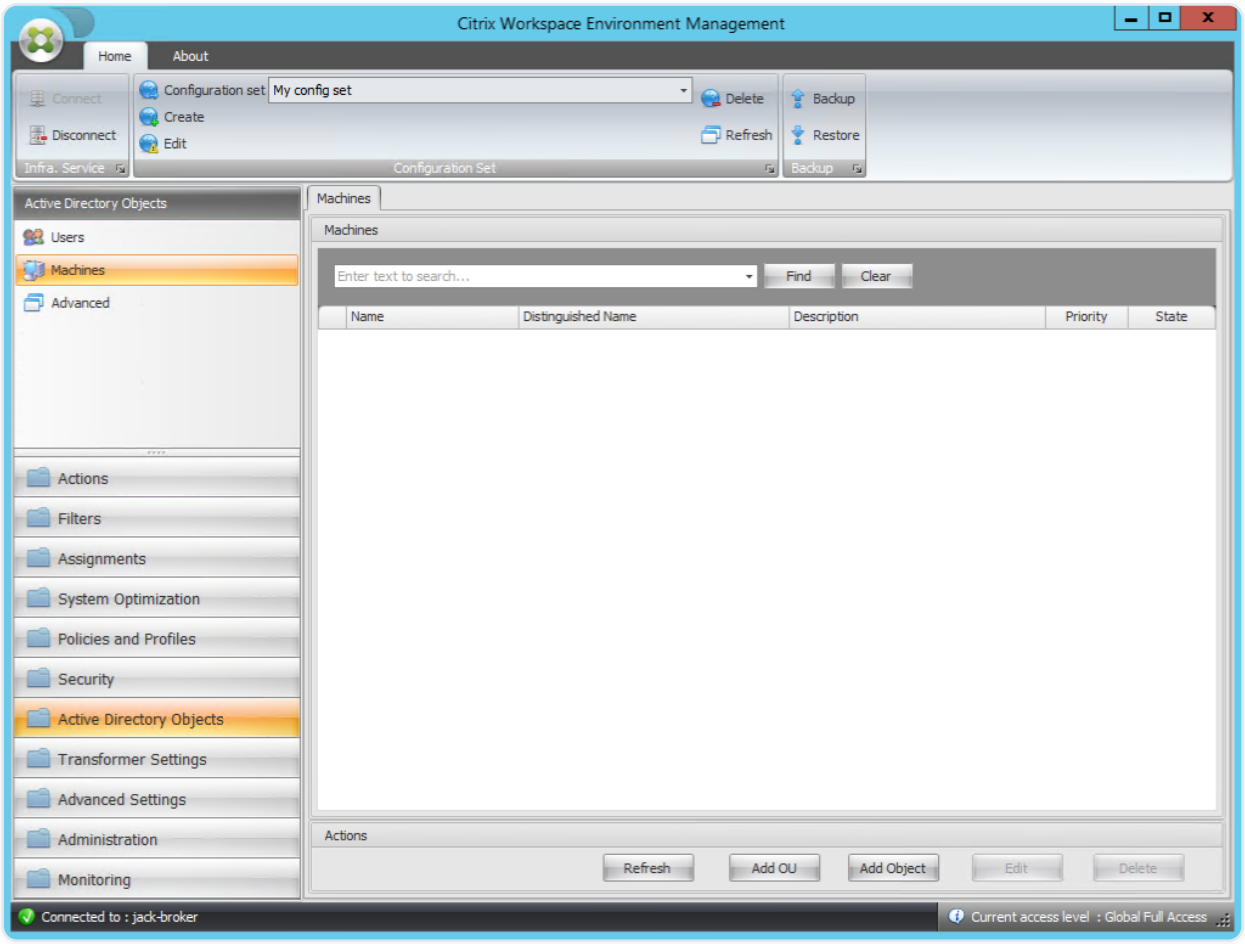
1. **スタート**メニューから**WEM管理コンソール**を開き、**Active Directoryオブジェクト**をクリックして、**追加**をクリックします。

   構成セットへのエージェントの追加 01(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-adding-the-agent-to-the-configuration-set-01.png)

2. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウで、名前を入力し、**名前の確認**をクリックして、**OK**をクリックします。

構成セットへのエージェントの追加 02(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-adding-the-agent-to-the-configuration-set-02.png)

3. **マシン**をクリックします。



4. **マシン**タブで、**OUの追加**または**オブジェクトの追加**をクリックして、作成した構成セットに管理するマシンを追加します。

システム要件

ソフトウェアの前提条件

.NET Framework 4.8以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービス、管理コンソール、エージェント、およびWebコンソールに必要です。まだインストールされていない場合は、セットアップ中に自動的にインストールされます。ただし、インストールを進める前に、この前提条件を手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、インストールを続行するためにマシンを再起動する必要がある場合があり、かなりの時間がかかることがあります。

Microsoft Visual C++。このコンポーネントは、Workspace Environment Management™エージェントに必要です。まだインストールされていない場合、Microsoft Visual C++ 2015–2019再頒布可能パッケージはエージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

Microsoft Edge WebView2 Runtimeバージョン98以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Managementサービスエージェントに必要です。まだインストールされていない場合、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

注:

- バージョン2209以降のみ、このコンポーネントが必要です。
- Microsoft Edge WebView2 Runtimeをダウンロードしてインストールするには、インターネットアクセスが必要です。

Microsoft SQL Server 2016 SP2以降。Workspace Environment Managementは、データベースを作成するためにSQL Serverインスタンスへの**sysadmin**アクセスを必要とし、データベースを使用するためにデータベースへの**読み取り/書き込み**アクセスを必要とします。データベースの作成中に、Workspace Environment ManagementはSQLログインを作成し、そのログインにデータベースユーザーマッピングを追加します。ユーザーには、データベースへの読み取り/書き込みアクセスが*自動的に*付与されます。SQL Serverインスタンスは、大

文字と小文字を区別しない照合順序を使用する必要があります。そうしないと、データベースの作成またはアップグレードが失敗します。

注:

アップグレード中は、**sysadmin**サーバーロールを持つユーザーアカウントを使用することをお勧めします。

Microsoft Active Directory。Workspace Environment Managementは、構成された設定をユーザーにプッシュするために、Active Directoryへの**読み取りアクセス**を必要とします。

注:

- WEMのグローバルカタログは、フォレスト内のすべてのActive Directoryオブジェクトのコピーを保存する*外部信頼*関係をサポートしていません。代わりに、*フォレスト信頼*関係などの他の関係タイプを使用する必要があります。
- WEMは、フォレスト間の一方向フォレスト信頼関係もサポートしていません。

Citrix License Server 11.14。Workspace Environment ManagementにはCitrixライセンスが必要です。Citrixライセンスは、Citrix License Serverで管理および保存されます。

Citrix Virtual Apps and Desktops。Workspace Environment Managementのこのリリースには、Citrix Virtual AppsまたはCitrix Virtual Desktopsのサポートされているバージョンが必要です。

Citrix Workspace™ app for Windows。Workspace Environment Management管理コンソールから構成されたCitrix StoreFront™ストアリソースに接続するには、Citrix Workspace app for Windowsが管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにインストールされている必要があります。以下のバージョンがサポートされています。

- 管理コンソールマシン上：
  - Citrix Receiver for Windows バージョン: 4.9 LTSR、4.10、4.10.1、4.11、および 4.12
  - Citrix Workspaceアプリ 1808 for Windows 以降
- エージェントホストマシン上:

- Citrix Receiver for Windows バージョン: 4.4 LTSR CU5、4.7、4.9、4.9 LTSR CU1、および 4.10
- Citrix Workspaceアプリ 1808 for Windows 以降

Transformer キオスク対応マシンでは、Citrix Workspaceアプリ for Windows をシングルサインオンを有効にしてインストールし、パススルー認証用に構成する必要があります。詳細については、Citrix Workspaceアプリのドキュメントを参照してください。

オペレーティングシステムの前提条件

> **注:**
>
> Workspace Environment Management および関連コンポーネントは、製造元がサポートするオペレーティングシステムバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステム製造元から延長サポートを購入する必要がある場合があります。

インフラストラクチャサービス

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows Server 2025 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション

> **注:**
>
> 異なるオペレーティングシステムバージョンのサーバープール（インフラストラクチャサーバー）でWorkspace Environment Managementインフラストラクチャサービスを実行することはサポートされています。インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

管理コンソール

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン 1607 以降、32ビット、および 64ビット
- Windows Server 2025 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション

Web コンソール

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows Server 2025 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション

エージェント

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン 1607 以降、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2025 Standard および Datacenter エディション*
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション*
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション*

* Transformer 機能は、マルチセッション オペレーティング システムではサポートされていません。

WEM 4.4では、Windows XPがサポートされていました。

> **注:**

> マルチセッションオペレーティングシステムで実行されているCitrix Workspace Environment Managementエージェントは、MicrosoftのDynamic Fair Share Scheduling (DFSS) が有効になっている場合、正しく動作できません。DFSSを無効にする方法については、CTX127135を参照してください。

SQLサーバー オールウェイズオン

Workspace Environment Managementは、Microsoft SQL Serverに基づくデータベースの高可用性のために、Always On可用性グループ（BasicおよびAdvanced）をサポートしています。Citrix®は、Microsoft SQL Server 2017を使用してこれをテストしました。

Always On可用性グループを使用すると、プライマリSQL Serverのハードウェアまたはソフトウェアに障害が発生した場合にデータベースが自動的にフェールオーバーし、Workspace Environment Managementが期待どおりに動作し続けることが保証されます。Always On可用性グループ機能では、SQL ServerインスタンスがWindows Serverフェールオーバークラスター（WSFC）ノード上に存在する必要があります。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/availability-groups/windows/always-on-availability-groups-sql-server?view=sql-server-ver15>`を参照してください。

Always On可用性グループでWorkspace Environment Management (WEM) を使用するには：

1. **WEM Database Management Utility**を開き、WEMデータベースを作成します。
    - **Set vuemUser SQL user account password**オプションを選択し、vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを入力してください。データベースを可用性グループに追加する際に、このパスワードを指定する必要があります。
    - 「Server and instance name」には、プライマリSQL Serverの名前を入力します。

    > **注:**
    >
    > WEMデータベースはプライマリSQL Server上に作成されます。

2. プライマリSQL Serverに移動し、作成したWEMデータベースをバックアップします。
    - **Add Database to Availability Group > Select Databases**ページでWEMデータベースを選択するには、パスワード（手順1で作成したパスワード）を入力する必要があります。そのためには、Password列の対応する空白領域を右クリックし、パスワードを入力して、**Refresh**をクリックします。
    - データベースバックアップのリカバリモデルとして**Full**を選択します。
3. SQL Serverで、WEMデータベースを可用性グループに追加し、可用性グループリスナーを構成します。

4. **vuemUser**ログインは、**Always On HA group**のセカンダリSQLインスタンスに作成する必要があります。詳細については、Transfer logins and passwords between instances - SQL Server を参照してください。
5. WEMインフラストラクチャサービスマシンに移動し、**WEMインフラストラクチャサービス構成**ユーティリティを開きます。
    - **データベースサーバーとインスタンス**。可用性グループリスナーの名前を入力します。
    - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。空のままにします。
    - **データベース名**。データベースの名前を入力します。

ハードウェアの前提条件

インフラストラクチャサービス: 4 vCPU、8 GB RAM、80 GBの空きディスク容量。インフラストラクチャサービスの規模とサイズに関する考慮事項については、「展開の規模とサイズに関する考慮事項」を参照してください。

管理コンソール: 最小デュアルコアプロセッサ、2 GB RAM、40 MBの空きディスク容量（インストール中は100 MB）。

エージェント: 平均RAM消費量は10 MBですが、安全のため20 MBを提供することをお勧めします。40 MBの空きディスク容量（インストール中は100 MB）。

データベース: Workspace Environment Managementデータベース用に最低75 MBの空きディスク容量。

サービスの依存関係

Netlogon。エージェントサービス（「Norskale Agent Host service」）は、ログオンが行われる前にエージェントサービスが実行されていることを確認するために、Net Logon Dependenciesリストに追加されます。

ウイルス対策の除外

デフォルトでは、Workspace Environment Managementエージェントとインフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます。

- エージェント
    - `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (64ビットOSの場合)

    - `C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (32ビットOSの場合)

- インフラストラクチャサービス

    - `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services`

エージェントとインフラストラクチャサービスについて、「Citrix」インストールフォルダー全体に対してオンアクセススキャンを無効にする必要があります。「Citrix」インストールフォルダーに対してオンアクセススキャンを無効にできない場合は、次のプロセスを除外する必要があります。

インフラストラクチャサービスのインストールフォルダー内

- WEM インフラストラクチャ サービス.exe
- WEM インフラストラクチャ サービス 構成ユーティリティ.exe
- WEM インフラストラクチャ データベース 管理ユーティリティ.exe

エージェントのインストールフォルダー内

- エージェント ログ パーサー.exe
- AgentCacheUtility.exe
- AgentGroupPolicyUtility.exe
- AppsMgmtUtil.exe
- Citrix.Wem.Agent.Service.exe
- Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe
- PrnsMgmtUtil.exe
- VUEMAppCmd.exe
- VUEMAppCmdDbg.exe
- VUEMAppHide.exe
- VUEMCmdAgent.exe
- VUEMMaintMsg.exe
- VUEMRSAV.exe
- VUEMUIAgent.exe

インストールと構成

以下のコンポーネントをインストールして構成します。

- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- Webコンソールサービス
- ライセンス設定
- エージェント

インストーラーをダウンロードする

WEMインストーラーをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. Citrix Virtual Apps and Desktopsダウンロードページにアクセスします。
2. ダウンロードしたいバージョンを見つけて展開します（例：**Citrix Virtual Apps and Desktops 7 2511**）。
3. **Components**ノードを展開します。次に、**Workspace Environment Management <Version_number>**をクリックします。
4. 下までスクロールし、**Download File**をクリックします。
5. **End-User License Agreement**ダイアログボックスで、契約に同意し、ダウンロードを開始するダウンロードフォルダーを選択します。

   ダウンロードが完了すると、指定したフォルダーに`Workspace-Environment-Management-_<version_number>.zip`ファイルが表示されます。

> **注:**
>
> WEMインストーラーは、Citrix Virtual Apps and Desktopsイメージの`\x64\Workspace Environment Management`ディレクトリにもあります。

インフラストラクチャサービス

Windowsインフラストラクチャサービスは1つあります: **Citrix WEM Infrastructure Service(NT SERVICE\\Citrix WEM Infrastructure Service)**。これはWorkspace Environment Management (WEM) インフラストラクチャサービスを管理します。

アカウント要件: `NetworkServicem` または、サービスが実行されるインフラストラクチャサーバーのAdministratorグループのメンバーである指定されたユーザーアカウントを使用します。

インフラストラクチャサービスをインストールする

重要:

- WEMインフラストラクチャサービスはドメインコントローラーにインストールできません。Kerberos認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しません。
- Delivery Controller™がインストールされているサーバーには、インフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

使用状況データ収集に関する通知:

- デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは毎晩WEMの使用状況に関する匿名の分析データを収集し、HTTPS経由でGoogle Analyticsサーバーに即座に送信します。分析データの収集は、Citrixプライバシーポリシーに準拠しています。
- インフラストラクチャサービスをインストールまたはアップグレードすると、データ収集はデフォルトで有効になります。オプトアウトするには、WEM Infrastructure Service Configurationダイアログの**Advanced Settings**タブで、**Do not help improve Workspace Environment Management™ using Google Analytics**オプションを選択します。

インフラストラクチャサービスをインストールするには、インフラストラクチャサーバーで**Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe**を実行します。PowerShell SDKモジュールはデフォルトでインストールされます。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます: `C:\Program Files`

> `(x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services`。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例:

- .\Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe `/quiet BrokerLocation="C:\test\Infrastructure Services" /log "C:\test\test.log"` をダブルクリックして実行します。
- `/quiet BrokerLocation="C:\test\Infrastructure Services" /log "C:\test\test.log"`
  - `/quiet`。サイレントモードを示します。
  - `/log`。ログファイルの場所を示します。
  - `BrokerLocation`。インフラストラクチャサービスのインストールパスを示します。

サービスプリンシパル名を作成する

> **重要:**
>
> - **ロードバランシング**を使用する場合、インフラストラクチャサービスのすべてのインスタンスは、同じサービスアカウント名を使用してインストールおよび構成する必要があります。
> - **Windows認証**は、ADを使用するSQLインスタンスの特定の認証方法です。もう1つのオプションは、代わりにSQLアカウントを使用することです。

> インストーラーの完了後、インフラストラクチャサービス用のSPNを作成します。WEMでは、エージェント、インフラストラクチャサービス、およびドメインコントローラー間の接続と通信はKerberosによって認証されます。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。インフラストラクチャサービスインスタンスのログオンアカウントと、SPNに登録されているアカウントとの間にリレーションシップを構成する必要があります。したがって、Kerberos認証要件に準拠するために、環境に適したコマンドを使用して、WEM SPNを既知のADアカウントに関連付けるように構成します。

- Windows認証またはロードバランシングを使用しない場合は、次のコマンドを使用します。

    - `setspn -C -S [SPN name] [hostname]`

  ここで、`hostname` はインフラストラクチャサーバーの名前です。

- Windows認証またはロードバランシング（Windows認証が必要）を使用する場合は、次のコマンドを使用します。

    - `setspn -U -S [SPN name] [accountname]`

  ここで、`accountname` はWindows認証に使用されているサービスアカウントの名前です。

- `[SPN name]` のデフォルト値は `Norskale/BrokerService` です。複数のWEM展開が同じフォレストにある場合、次のレジストリ値を追加して、複数のSPNを構成する必要がある場合があります。

    - `setspn -C -S [SPN name] [hostname]` または `setspns -U -S [SPN name] [accountname]`
    - エージェントマシン用: HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host
    - インフラストラクチャおよびコンソールマシン用: HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Infrastructure Services
    - 名前: AlternativeSPN
    - 種類: REG_SZ
    - 値: の実際の値

SPNでは大文字と小文字が区別されます。

グループ管理サービスアカウント

WEM 用のグループ管理サービスアカウント (gMSA) ソリューションを実装できます。gMSA ソリューションを使用すると、新しい gMSA プリンシパルに対してサービスを構成でき、パスワード管理は Windows によって処理されます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/group-managed-service-accounts-overview>` を参照してください。gMSA がサービスプリンシパルとして使用される場合、Windows オペレーティングシステムは、管理者がパスワードを管理するのではなく、アカウントのパスワードを管理します。これにより、後でアカウントのパスワードを変更した場合でも、インフラストラクチャサービス用に構成した Windows アカウントの偽装設定を変更する必要がなくなります。

WEM 用の gMSA ソリューションを実装するには、次の手順に従います。

1. 既存の gMSA がある場合は、次の操作を行います。

   a. 次のコマンドを使用して、Citrix WEM SPN をアカウントにバインドします。

      - `setspn -C -S Norskale/BrokerService [gMSA]$`

      ここで、`gMSA` は gMSA アカウントの名前です。

   b. 次のコマンドを使用して、関連するマシンをアカウントに追加します。

      - `Set-ADServiceAccount -Identity [gMSA] -PrincipalsAllowedToRetrieveManagedPassword [hostname]`

      ここで、 はインフラストラクチャサーバーの名前です。

2. gMSA がない場合は、ドメインコントローラーに移動して作成し、Citrix WEM SPN をそれにバインドします。次のコマンドを使用します。

   - `New-ADServiceAccount [gMSA] -DNSHostName [hostname 1] -PrincipalsAllowedToRetrieveManagedPassword [hostname 2], [hostname 3] -KerberosEncryptionType RC4, AES128, AES256 -ServicePrincipalNames Norskale/BrokerService`

   ここで、 は DNS サーバーの名前です。

   ここで、、 はインフラストラクチャサーバーの名前です。

   gMSA の作成の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/getting-started-with-group-managed-service-accounts>` を参照してください。

3. gMSA を手動で構成します。

   a. アカウントがデータベースにアクセスできるようにします。

      i. プライマリ SQL Server で、 **>** に移動し、 を右クリックして、 を選択します。

      ii. ウィンドウで、 をクリックします。

      iii. 「**ユーザーまたはグループの選択**」ウィンドウで、次のように設定を構成し、「**OK**」をクリックしてウィンドウを閉じます。

         - **オブジェクトの種類**。「**サービスアカウント**」のみを選択します。
         - **場所**。「**管理されたサービスアカウント**」を選択します。
         - オブジェクト名。手順1で作成したアカウント名を入力します。

iv. 「**ユーザーマッピング**」ページで、gMSAを適用するデータベースを選択し、そのデータベースのロールメンバーシップとして「**db-owner**」を選択します。

v. 「**ステータス**」ページで、「**許可**」と「**有効**」オプションが選択されていることを確認します。

vi. 「**OK**」をクリックして、「**ログイン - 新規**」ウィンドウを閉じます。

b. 追加したサービスアカウントを使用して、Citrix WEM Infrastructure Serviceを開始します。

i. インフラストラクチャサーバーで、Windowsサービスマネージャーを開き、Citrix WEM Infrastructure Serviceを右クリックして、「**プロパティ**」を選択します。

ii. 「**ログオン**」ページで、「**このアカウント**」を選択し、「**参照**」をクリックして、手順3の3番目のサブステップで説明されているように設定を構成します。

iii. 「**OK**」をクリックして、「**Citrix WEM Infrastructure Serviceのプロパティ**」ウィンドウを閉じます。

iv. Windowsサービスマネージャーで、Citrix WEM Infrastructure Serviceを再起動します。

> **注:**
>
> または、WEM GUIを使用してアカウントを構成することもできます。「WEMデータベースの作成」および「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。

負荷分散の構成

> **ヒント:**
>
> 「Citrix ADCによる負荷分散」の記事では、WEM管理コンソールとWEMエージェントからの受信要求を負荷分散するようにCitrix ADCアプライアンスを構成する方法の詳細が説明されています。

ロードバランシングサービスでWEMを構成するには：

1. WEMインフラストラクチャサービスがWEMデータベースに接続するためのWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを作成します。

2. WEMデータベースを作成するときは、「**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**」オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウント名を指定します。詳細については、「Workspace Environment Managementデータベースの作成」を参照してください。
3. 各インフラストラクチャサービスを、SQL認証ではなくWindows認証を使用してSQLデータベースに接続するように構成します。「**Windowsアカウントの偽装を有効にする**」オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウントの資格情報を指定します。詳細については、「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。
4. WEMインフラストラクチャサービスがインフラストラクチャサービスアカウント名を使用するようにSPNを構成します。詳細については、「サービスプリンシパル名の作成」を参照してください。

> **重要:**
>
> WEM環境を展開する前に、サービスアカウントを使用するかマシンアカウントを使用するかを決定します。WEM環境がすでに展開されている場合、元に戻すことはできません。たとえば、すでにマシンアカウントを使用している状態で受信要求の負荷分散を行いたい場合は、サービスアカウントではなくマシンアカウントを使用する必要があります。

5. VIPの背後に配置するインフラストラクチャサーバーの数をカバーする仮想IPアドレス（VIP）を作成します。エージェントがVIPに接続するとき、VIPによってカバーされるすべてのインフラストラクチャサーバーが対象となります。
6. エージェントホスト構成GPOを構成するときは、インフラストラクチャサーバーの設定を、個々のインフラストラクチャサーバーのアドレスではなくVIPに設定します。詳細については、「エージェントのインストールと構成」を参照してください。
7. 管理コンソールとインフラストラクチャサービス間の接続にはセッション永続性が必要です。（エージェントとインフラストラクチャサービス間のセッション永続性は不要です。）VIPを使用するのではなく、各管理コンソールをインフラストラクチャサービスサーバーに直接接続することをお勧めします。

Workspace Environment Managementデータベースの作成

> **ヒント:**

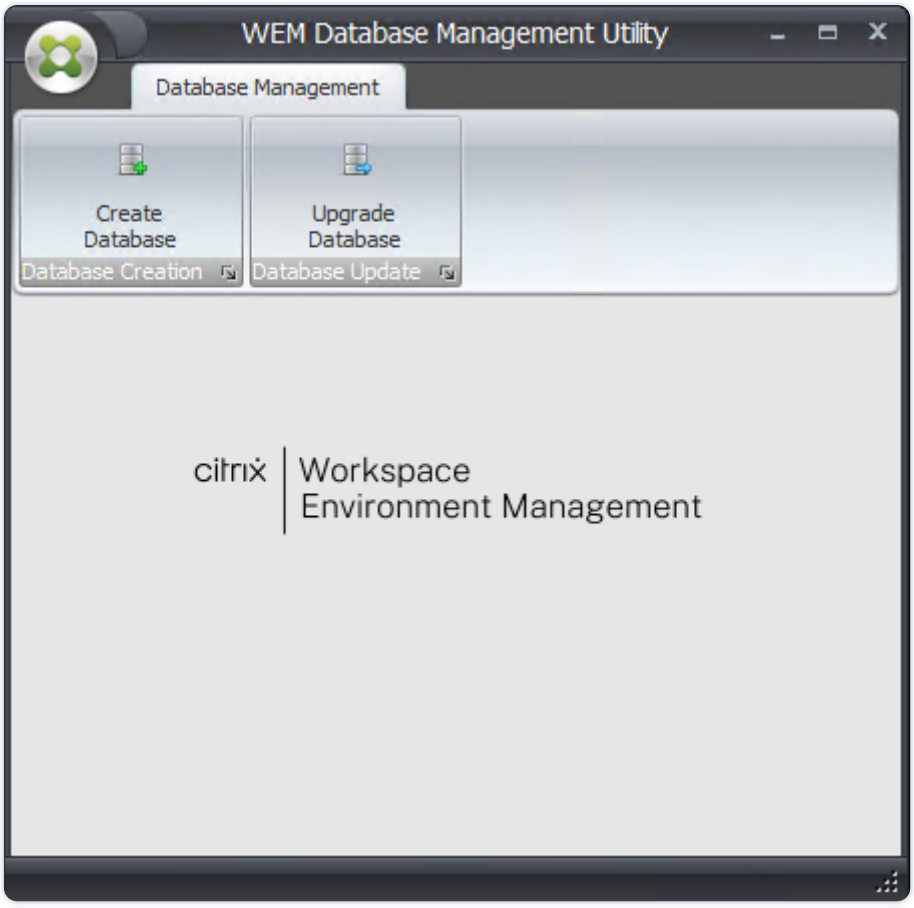
WEM PowerShell SDKモジュールを使用してデータベースを作成することもできます。SDKドキュメントについては、「Citrix Developer Documentation」を参照してください。

注:

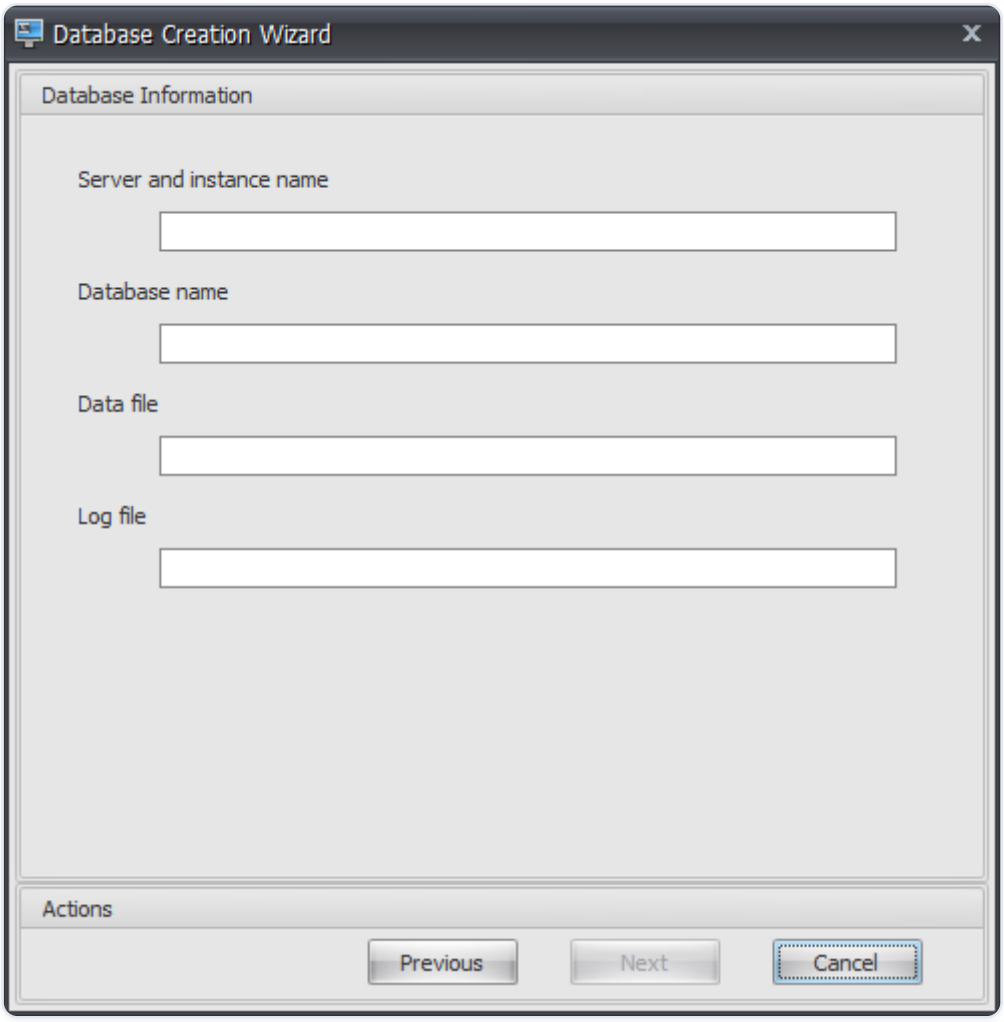
- SQL ServerにWindows認証を使用している場合は、sysadmin権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行します。
- Citrixでは、WEMデータベースのプライマリファイル（.mdfファイル）をデフォルトサイズ50 MBで構成することをお勧めします。

データベースを作成するには、**WEM Database Management Utility**を使用します。これはインフラストラクチャサービスのインストールプロセス中にインストールされ、その後すぐに起動します。

1. Database Management Utilityがまだ開いていない場合は、**スタート**メニューから「**Citrix>Workspace Environment Management>WEM Database Management Utility**」を選択します。



2. 「**データベースの作成**」をクリックし、「**次へ**」をクリックします。



3. 次のデータベース情報を入力し、「**次へ**」をクリックします。

- **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされる SQL Server のアドレス。このアドレスは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。サーバーとインスタンス名を、マシン名、完全修飾ドメイン名、または IP アドレスとして入力します。完全なインスタンスアドレスを「**serveraddress,port\ \instancename**」として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトの SQL ポート番号 (1433) が使用されます。
- **データベース名**。作成する SQL データベースの名前。

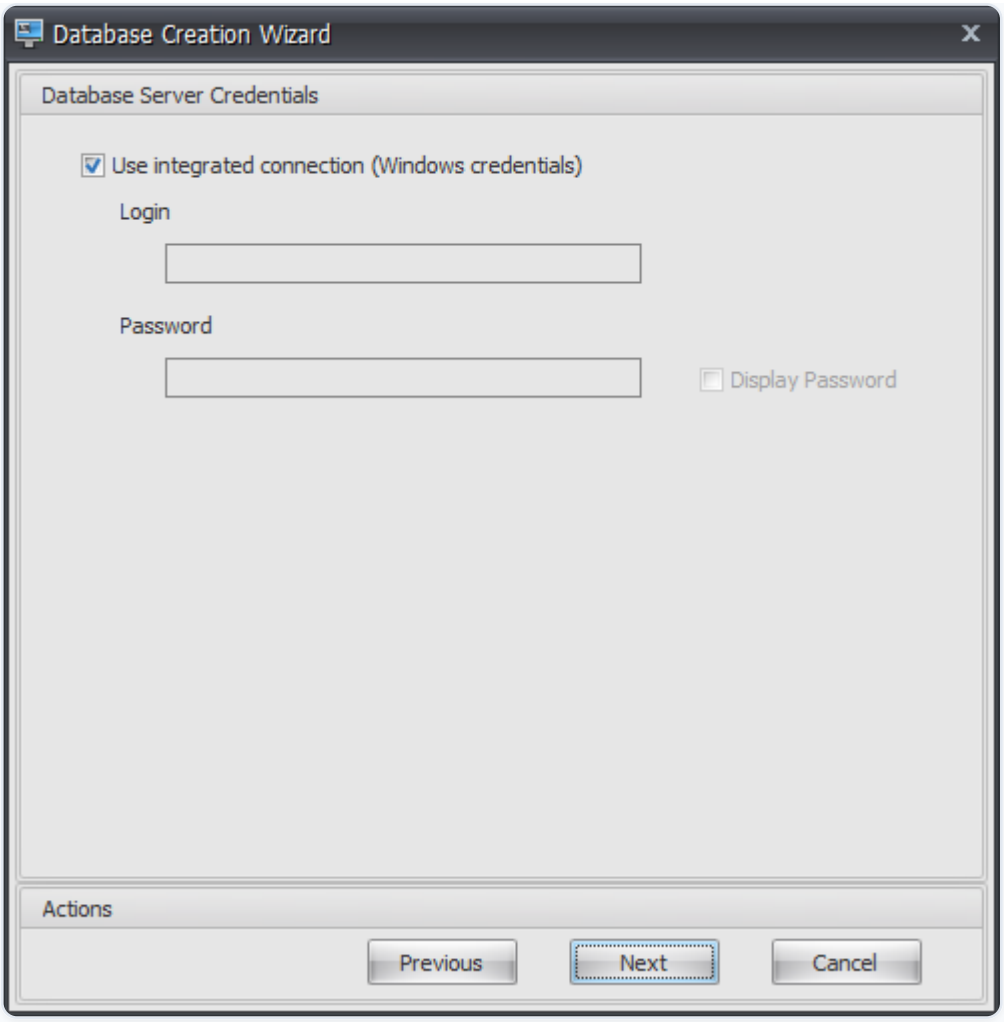
> **注:**
>
> ハイフン (-) やスラッシュ (/) などの特殊文字は、データベース名では使用できません。

- **データファイル**: SQL Server 上の **.mdf** ファイルの場所へのパス。

- **ログファイル**: SQL Server 上の **.ldf** ファイルの場所へのパス。

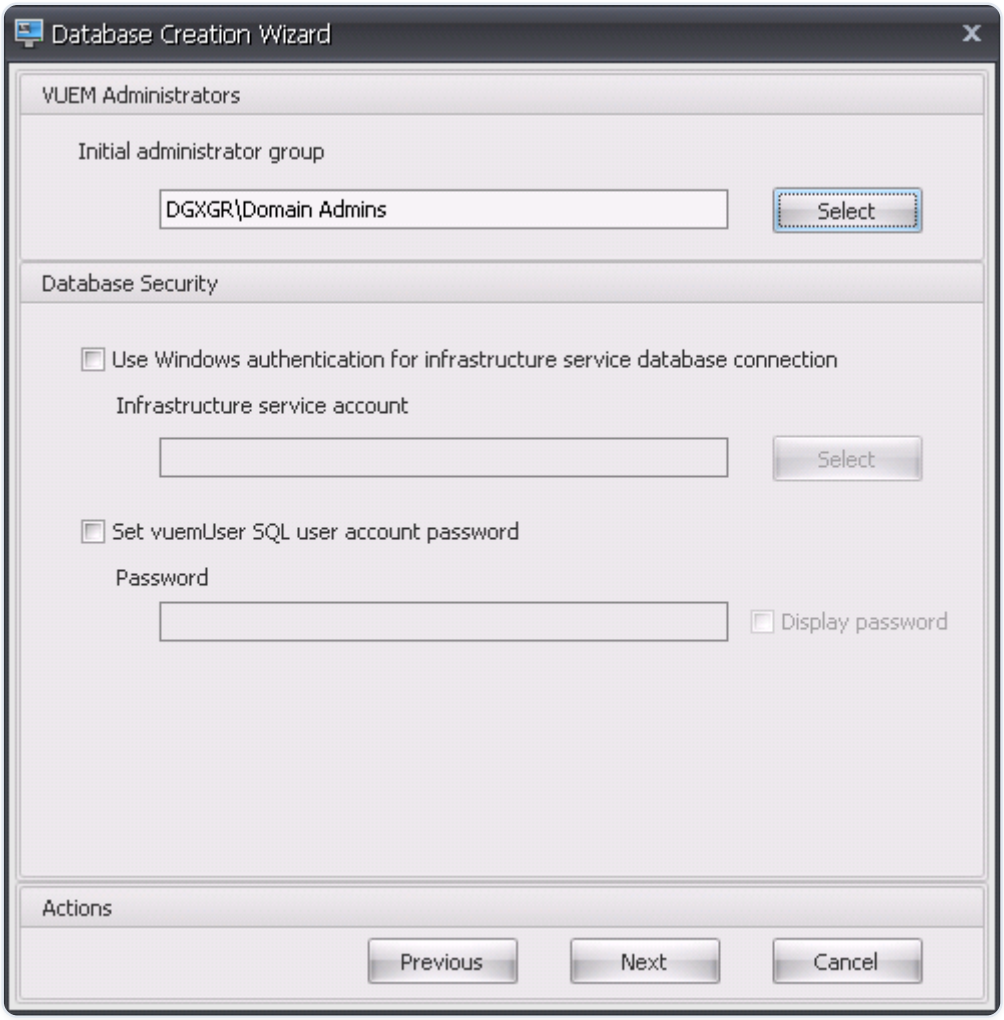
注:

データベース管理ユーティリティは、データファイルとログファイルのデフォルトの場所を SQL Server に問い合わせることはできません。これらは、MS SQL Server のデフォルトインストールにおけるデフォルト値に設定されます。これらの2つのフィールドの値が MS SQL Server のインストールに対して正しいことを確認してください。そうしないと、データベース作成プロセスは失敗します。



4. ウィザードがデータベースの作成に使用できるデータベースサーバーの資格情報を入力し、「**次へ**」をクリックします。これらの資格情報は、インフラストラクチャサービスがデータベース作成後にデータベースに接続するために使用する資格情報とは独立しています。これらは保存されません。

「**統合接続を使用**」オプションはデフォルトで選択されています。これにより、ウィザードは実行中の ID の Windows アカウントを使用して SQL に接続し、データベースを作成できます。この Windows アカウントにデータベースを作成する十分な権限がない場合は、十分な権限を持つ Windows アカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして十分な権限を持つ SQL アカウントを指定することができます。



5. VUEM 管理者とデータベースセキュリティの詳細を入力し、「**次へ**」をクリックします。ここで指定する資格情報は、インフラストラクチャサービスがデータベース作成後にデータベースに接続するために使用されます。これらはデータベースに保存されます。

   - **初期管理者グループ**。このユーザーグループは、管理コンソールのフルアクセス管理者として事前設定されています。Workspace Environment Management管理者として設定されたユーザーのみが管理コンソールを使用できます。有効なユーザーグループを指定しないと、管理コンソールを自分で使用できなくなります。

> **注:**

デフォルトでは、アカウントを参照する際に *LDAP* が使用されます。*LDAPS* を介したセキュアな通信を強制するには、次のレジストリエントリを追加します。

- パス: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM`
- 名前: `EnableLDAPS`
- 種類: `REG_SZ`
- 値: `1`

- **インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**。このオプションがオフの場合（デフォルト）、データベースはインフラストラクチャサービスが *vuemUser* SQLユーザーアカウントを使用して接続することを想定しています。vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセスによって作成されます。これには、SQLインスタンスで混合モード認証が有効になっている必要があります。

このオプションが選択されている場合、データベースはインフラストラクチャサービスがWindowsアカウントを使用して接続することを想定しています。この場合、選択したWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインを持っていてはなりません。つまり、データベースの作成に使用したのと同じWindowsアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用することはできません。

gMSAを選択するには、ADユーザーを選択する場合と同じ手順に従います。

- **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**。デフォルトでは、vuemUser SQLアカウントは、大文字と小文字、数字、句読点を使用する8文字のパスワードで作成されます。独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを入力したい場合（たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが要求される場合）は、このオプションを選択します。

重要:

- SQL Server Always On可用性グループにWorkspace Environment Managementデータベースを展開する予定がある場合は、vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する必要があります。
- ここでパスワードを設定した場合は、インフラストラクチャサービスを構成する際に同じパスワードを指定することを忘れないでください。

6. 概要ペインで、選択した設定を確認し、問題がなければ **データベースの作成** をクリックします。
7. データベースの作成が正常に完了したという通知が表示されたら、**完了** をクリックしてウィザードを終了します。

   データベースの作成中にエラーが発生した場合は、インフラストラクチャサービスのインストールディレクトリの下にある **Logs** フォルダー内のログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。

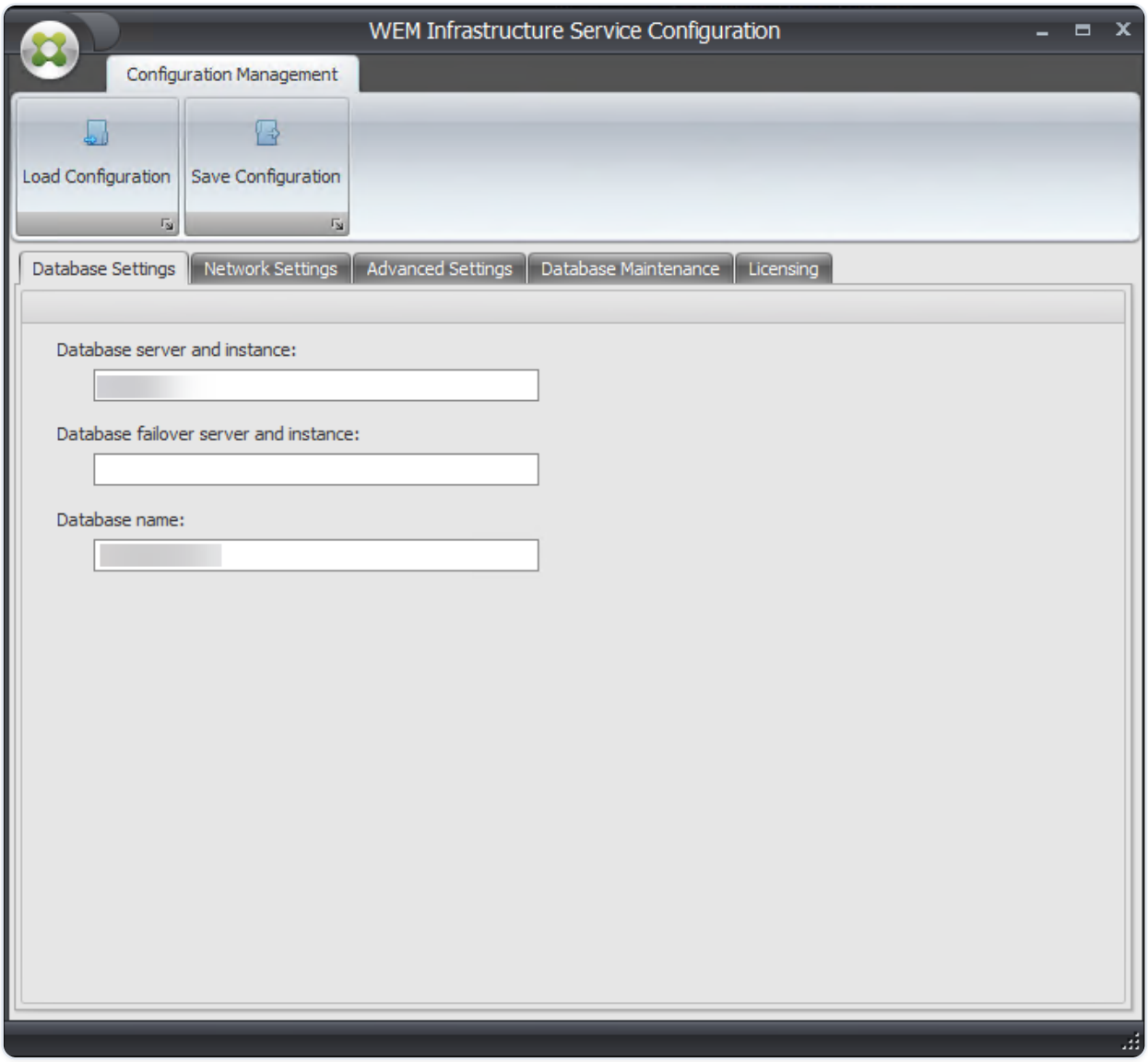
インフラストラクチャサービスを構成する

> **ヒント:**
>
> Workspace Environment Management PowerShell SDKモジュールを使用してインフラストラクチャサービスを構成することもできます。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

> インフラストラクチャサービスを実行する前に、ここで説明するように、**WEM Infrastructure Service Configuration** ユーティリティを使用して構成する必要があります。

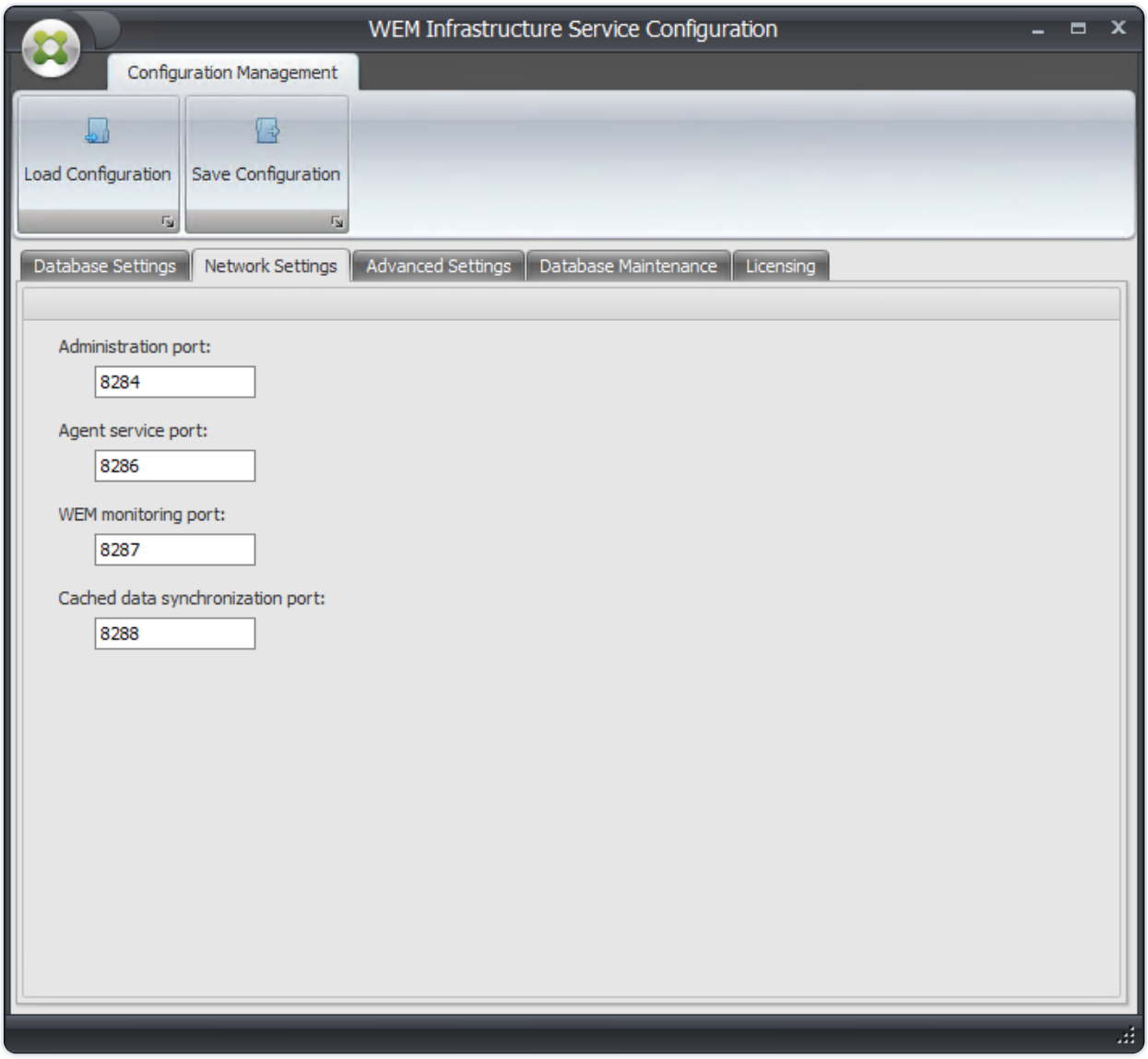
1. **スタート** メニューから **Citrix > Workspace Environment Management > WEM Infrastructure Service Configuration Utility** を選択します。
2. 「**データベース設定**」タブで、次の詳細を入力します。

   - **データベースサーバーとインスタンス**。Workspace Environment Managementデータベースがホストされ ているSQL Serverインスタンスのアドレス。これは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。完全なインスタンスアドレスを「serveraddress, port\\instancename」として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号（1433）が使用されます。
   - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。データベースミラーリングを使用している場合は、ここにフェールオーバーサーバーアドレスを指定します。
   - **データベース名**。SQLインスタンス上のWorkspace Environment Managementデータベースの名前。



3. 「**ネットワーク設定**」タブで、インフラストラクチャサービスが使用するポートを入力します。

   - **管理ポート**。このポートは、管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するために使用されます。
   - **エージェントサービスポート**。このポートは、エージェントホストがインフラストラクチャサービスに接続するために使用されます。
   - **キャッシュ同期ポート**。このポートは、エージェントサービスがそのキャッシュをインフラストラクチャサービスと同期するために使用されます。
   - **WEM監視ポート**。



4. 「**詳細設定**」タブで、偽装と自動更新の設定を入力します。

   - **Windowsアカウントの偽装を有効にする**。デフォルトでは、このオプションはオフになっており、インフラストラクチャサービスは混合モード認証を使用してデータベースに接続します（データベース作成時に作成されたSQLアカウント *vuemUser* を使用）。代わりに、データベース作成時にWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを選択した場合は、このオプションを選択し、接続時にインフラストラクチャサービスが偽装する同じWindowsアカウントを指定する必要があります。選択するアカウントは、インフラストラクチャサーバーのローカル管理者である必要があります。

     gMSAを選択するには、ADユーザーを選択する場合と同じ手順に従います。

> **注:**

デフォルトでは、アカウントを参照する際に *LDAP* が使用されます。*LDAPS* を介したセキュアな通信を強制するには、次のレジストリエントリを追加します。

- パス: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM`
- 名前: `EnableLDAPS`
- 種類: `REG_SZ`
- 値: `1`

- **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**。データベース作成時に *vuemUser* SQLユーザー用に構成されたカスタムパスワードをインフラストラクチャサービスに通知できます。データベース作成時に独自のパスワードを指定した場合にのみ、このオプションを有効にしてください。
- **インフラストラクチャサービスのキャッシュ更新遅延**。インフラストラクチャサービスがキャッシュを更新するまでの時間（分）。インフラストラクチャサービスがSQLに接続できない場合、キャッシュが使用されます。
- **インフラストラクチャサービスのSQL状態監視遅延**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーをポーリングする各試行間の時間（秒）。
- **インフラストラクチャサービスのSQL接続タイムアウト**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーとの接続を確立しようとするときに、試行を終了してエラーを生成するまでに待機する時間（秒）。
- **デバッグモードを有効にする**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは詳細ログモードに設定されます。
- **オンラインでもキャッシュを使用する**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは常にキャッシュからサイト設定を読み取ります。
- **パフォーマンスチューニングを有効にする**。接続されているエージェントの数が特定のしきい値（デフォルトでは200）を超えるシナリオでパフォーマンスを最適化できます。その結果、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するまでの時間が短縮されます。
  - **ワーカースレッドの最小数**。スレッドプールがオンデマンドで作成するワーカースレッドの最小数を指定します。ワーカースレッドの数を30～3000の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、ワーカースレッドの最小数は200です。

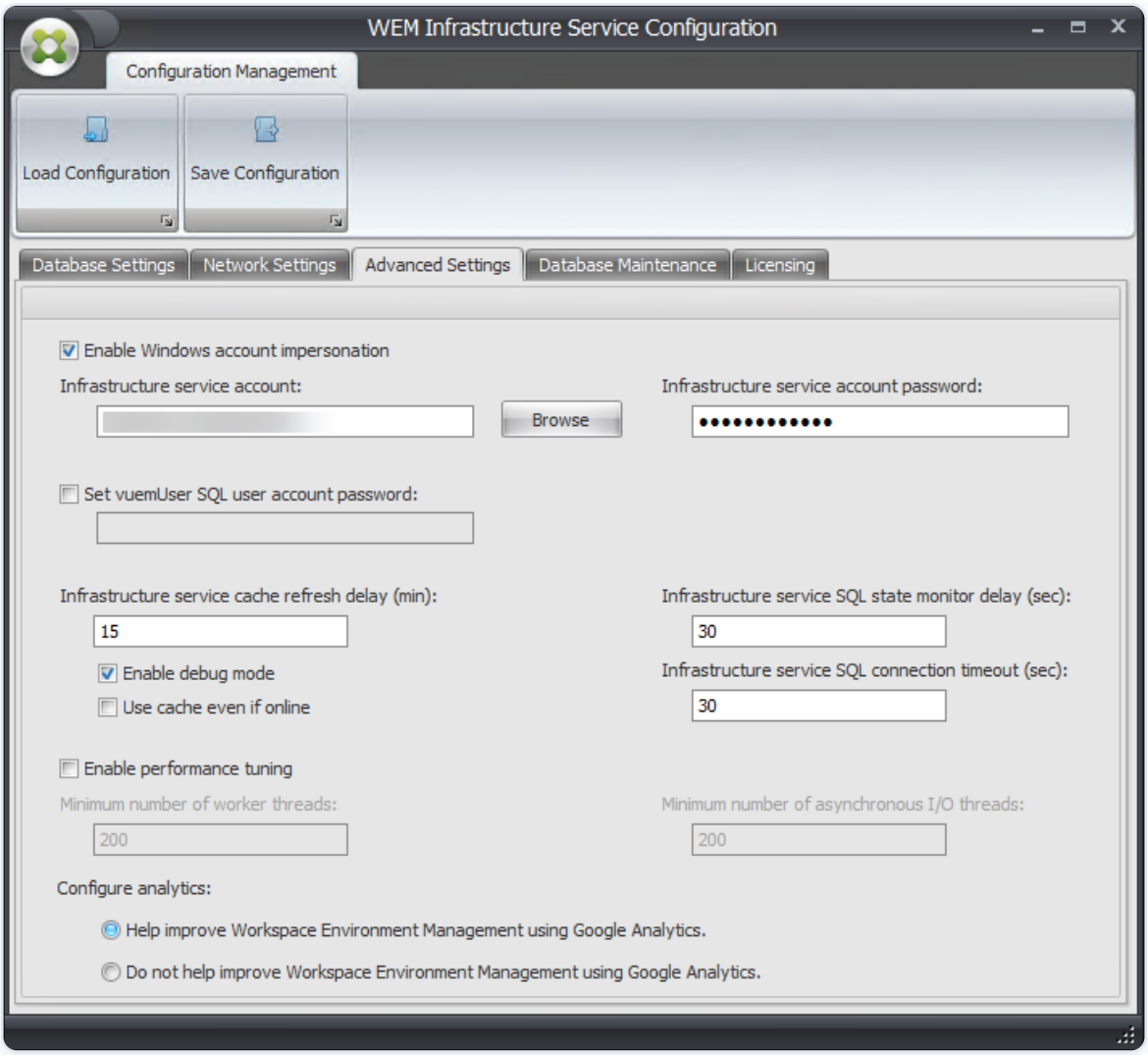
- **非同期I/Oスレッドの最小数**。スレッドプールがオンデマンドで作成する非同期I/Oスレッドの最小数を指定します。非同期I/Oスレッドの数を30～3000の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、非同期I/Oスレッドの最小数は200です。

> **重要:**
>
> この機能は、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスから断続的に切断される場合に特に役立ちます。

> **注:**
>
> パフォーマンスチューニングを有効にするフィールドで設定した値は、新しいリクエストが行われたとき、およびスレッドの作成と破棄を管理するアルゴリズムに切り替える前に使用されます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/api/system.threading.threadpool.setminthreads?view=netframework-4.8>`および`<https://support.microsoft.com/en-sg/help/2538826/wcf-service-may-scale-up-slowly-under-load>`を参照してください。

- **Google Analyticsを使用してWorkspace Environment Managementの改善に協力する**。選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データをGoogle Analyticsサーバーに送信します。
- **Google Analyticsを使用してWorkspace Environment Managementの改善に協力しない**。選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データをGoogle Analyticsサーバーに送信しません。

> **重要:**
>
> 2212以降、Workspace Environment Managementは、インフラストラクチャサービスをホストするマシンの地域に基づいて、選択するオプションを決定します。マシンがヨーロッパ以外の地域にある場合は最初のオプションが選択され、ヨーロッパの地域にある場合は2番目のオプションが選択されます。この動作は新規インストールにのみ適用されます。



5. 「**データベースメンテナンス**」タブを使用して、データベースメンテナンスを構成できます。

   - **スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にする**。有効にすると、この設定により、古い統計レコードが定期的にデータベースから削除されます。
   - **統計保持期間**。ユーザーおよびエージェントの統計が保持される期間を決定します。デフォルトは365日です。
   - **システム監視保持期間**。システム最適化統計が保持される期間を決定します。デフォルトは90日です。
   - **エージェント登録保持期間**。エージェント登録ログがデータベースに保持される期間を決定します。デフォルトは1日です。
   - **実行時間**。データベースメンテナンスアクションが実行される時間を決定します。デフォルトは02:00です。

> **ヒント**

> ベストプラクティスとして、データベースサイズを削減し、最高のパフォーマンスを実現するために、スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にすることをお勧めします。単一のWEM展開に複数のインフラストラクチャサービスがある場合は、1つのインフラストラクチャサービスに対してのみ有効にしてください。

> インフラストラクチャサービス構成データベースメンテナンス(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-infra-service-config-dbasemaint.png)

6. インフラストラクチャサービスの構成中に、オプションで「**ライセンス**」タブを使用してCitrixライセンスサーバーを指定できます。指定しない場合、管理コンソールが新しいWorkspace Environment Managementデータベースに初めて接続するときに、管理コンソールリボンの「**バージョン情報**」タブでCitrixライセンスサーバーの資格情報を入力する必要があります。Citrixライセンスサーバーの情報は、どちらの場合もデータベース内の同じ場所に保存されます。

   - **グローバルライセンスサーバーのオーバーライド**。このオプションを選択して、Workspace Environment ManagementのCitrixライセンスサーバーの詳細を指定します。Citrixライセンスサーバー名、Citrixライセンスサーバーポート、およびライセンス用Webサービスポート（ライセンスアクティベーションサービスポートとも呼ばれます）を入力します。これらの設定は、Workspace Environment Managementデータベースに保存されている既存のCitrixライセンスサーバー情報をすべて上書きします。

     インフラストラクチャサービス構成ライセンス(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-infra-service-config-licensing.png)

7. 設定を保存するには、**構成の保存**をクリックします。
8. License Activation Service (LAS) を使用してWorkspace Environment Management (WEM) をアクティブ化するには、ダイアログボックスで**承認**をクリックしてセキュリティ証明書を承認します。

   インフラストラクチャサービス構成ライセンス(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/infra-las-cert.png)

> **注:**
>
> LASが利用できない場合、WEMはアクティベーションのために従来のCitrixライセンスサーバーにフォールバックします。

管理コンソール

管理コンソールをインストールする

> **注:**
>
> 管理コンソールからWorkspace Environment ManagementでCitrix StoreFrontストアに公開されているリソースをアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにCitrix Workspace app for Windowsがインストールされていることを確認してください。詳細については、システム要件を参照してください。

管理者コンソール環境で**Citrix Workspace Environment Management Console.exe**を実行します。

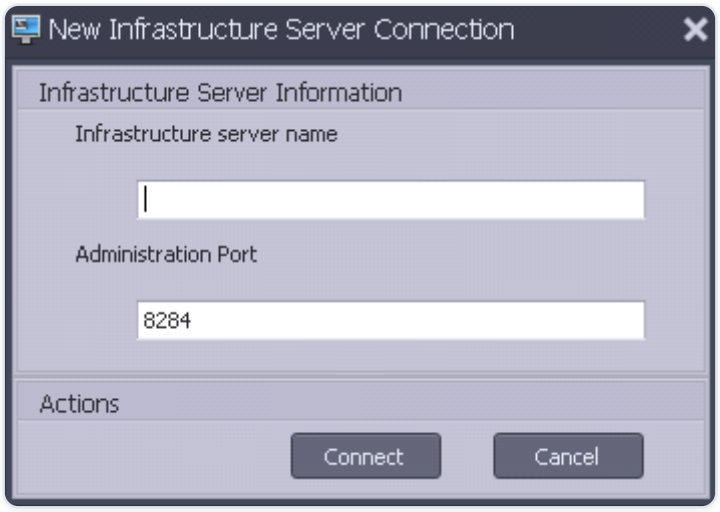
インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例：

- シトリックス ワークスペース環境管理コンソール.exe `/quiet ConsoleLocation="C:\test\Administration Console" /log "C:\test\test.log"`
- `/quiet ConsoleLocation="C:\test\Administration Console" /log "C:\test\test.log"`
  - `/quiet`。サイレントモードを示します。
  - `/log`。ログファイルの場所を示します。
  - `ConsoleLocation`。管理コンソールのインストールパスを示します。

インフラストラクチャサーバー接続を作成する

スタートメニューで、**Citrix® > Workspace Environment Management™ > WEM Administration Console**を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。

リボンで、**接続**をクリックして**新しいインフラストラクチャサーバー接続**ウィンドウを開きます。



次の値を入力し、**接続**をクリックします。

インフラストラクチャサーバー名。Workspace Environment Managementインフラストラクチャサーバーの名前です。管理コンソール環境から入力したとおりに解決される必要があります。

管理ポート。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートです。

新しいデータベースに初めて接続すると、有効なライセンスを持つCitrixライセンスサーバーがまだ構成されていないため、次のメッセージが表示されます。

WEMライセンスサーバーの警告(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-license-server-warning.png)

ライセンスサーバーでデータベースを構成する

ライセンスサーバーでデータベースを構成するには、管理コンソールのリボンで をクリックし、次に をクリックして、Citrixライセンスサーバーの詳細を入力します。

- Citrixライセンスサーバー名: サーバーのFQDNを入力します。
- Citrixライセンスサーバーポート: サーバーポートを入力します。
- Web Services for Licensingポート: ライセンスアクティベーションサービスポートを入力します。

Citrixライセンスサーバーのアドレスは、管理コンソール環境から入力されたとおりに解決される必要があります。

ライセンスサーバーの構成(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-config-license-server.png)

> **注:**

> License Activation Service (LAS) を使用してWorkspace Environment Management (WEM) をアクティブ化するには、変更を保存するために をクリックした後に表示されるダイアログボックスで をクリックして、そのセキュリティ証明書を受け入れます。

クイックスタート設定のインポート

Workspace Environment Managementには、Workspace Environment Managementデータベースをすぐに概念実証可能な状態に事前構成するために使用できるXMLファイルが含まれています。これらのXMLファイルは、Workspace Environment Managementインストーラーパッケージ内の「Configuration Templates」フォルダーに用意されています。

クイックスタート設定ファイルをインポートするには、 リボンの をクリックします。

管理コンソールリボン(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-admin-console-ribbon-home.png)

「**復元ウィザード**」で、「**設定**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

復元ウィザード(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-admin-console-restore-settings.png)

「**復元ウィザード**」で、クイックスタート設定ファイルを含むフォルダー「Configuration Templates」を選択し、すべての設定の種類を選択します。

Active Directory 接続を暗号化するために LDAPS を強制する

デフォルトでは、WEM は Active Directory クエリに *LDAP* を使用します。*LDAPS* を介したセキュアな通信を強制するには、「**詳細設定 > Active Directory オブジェクト**」の下にある「**Active Directory 接続を暗号化するために LDAPS を有効にする**」を選択します。

LDAPS を有効にする(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/ldps-enable.png)

Web コンソールサービス

Web コンソールサービスは、Workspace Environment Management (WEM) Web コンソールをサポートし、WEM インフラストラクチャサービスと通信するための HTTPS サービスを提供します。

アカウント: WEM のグローバルなフルアクセス権を持ち、Web コンソールサービスが実行されている Web コンソールサーバー上の管理者ユーザーグループに属する、指定されたドメインユーザーアカウント。

Web コンソールサービスは、WEM インフラストラクチャサービスが実行されているマシンにインストールすることをお勧めします。

Web コンソールサービスをインストールする

Web コンソールサービスをインストールするには、**Citrix Workspace Environment Management Web Console.exe** を実行します。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます: `C:\\Program Files (x86)\\Citrix\\Workspace Environment Management Web Console`。

次の引数を使用して、インストールをカスタマイズできます。

ApiLocation: Web コンソールサービスをインストールするディレクトリ。

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例:

- .\Citrix Workspace Environment Management Web Console.exe 実行ファイル `/quiet ApiLocation="C:\WEM\webconsole"`
- `.\setup.exe /quiet ApiLocation="path:\to\install" /log="path:\to\log"`
  - setup.exe。インストーラーのファイル名に置き換えることができます。
  - `/quiet`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
  - `/log`。ログファイルの場所を示します。
  - `ApiLocation="path:\to\install"`。Web コンソールサービスをインストールする場所を指定します。

Web コンソールサービスを構成する

インストールパスにある次のツールを使用して、Web コンソールサービスを構成する必要があります: `WEM Web Console Configuration.exe`。

前提条件

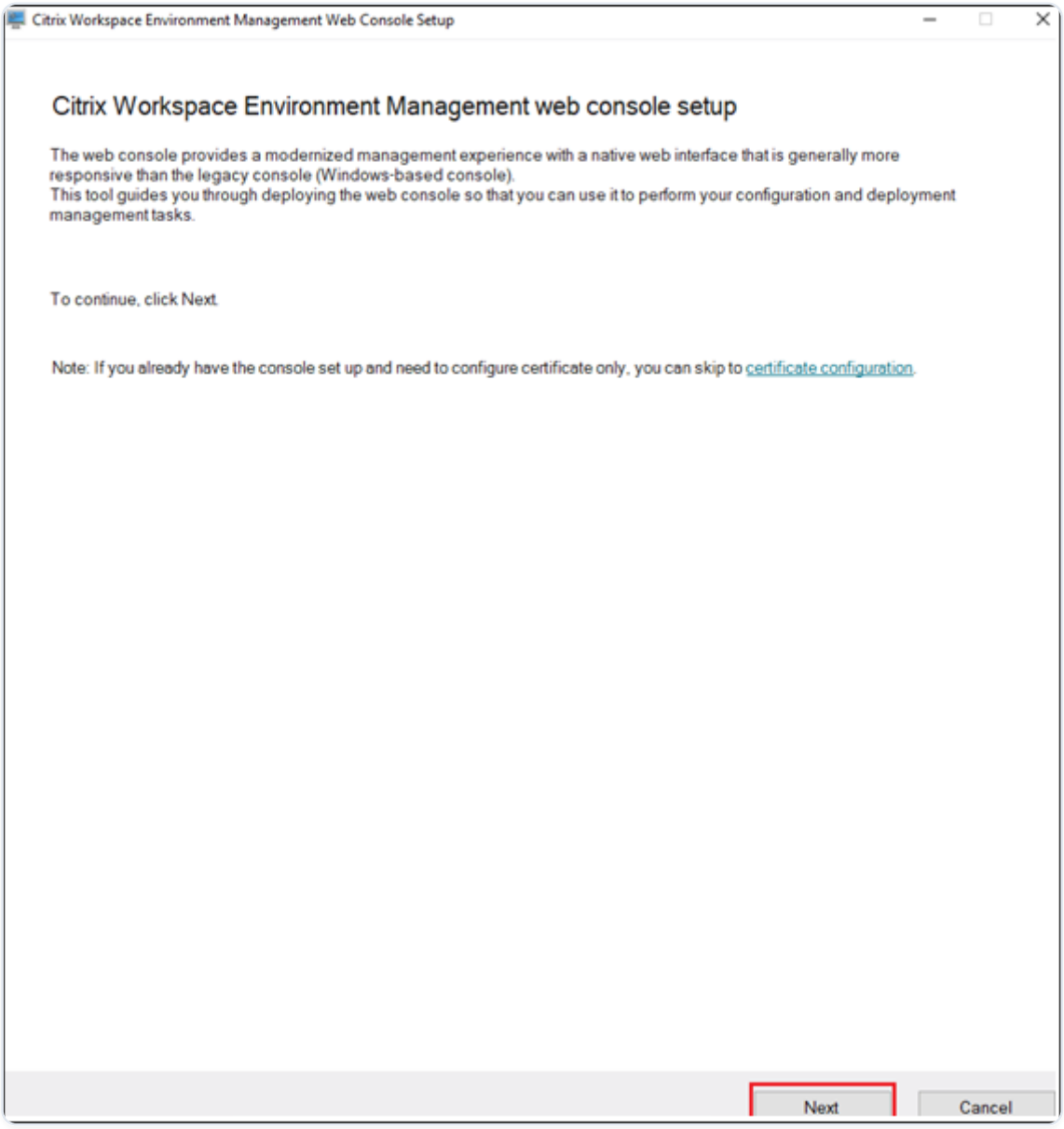
このリリースのWebコンソールサービスは、WEM 2303以降の展開と互換性があります。

2303より前の展開の場合は、まず2303にアップグレードしてから、Webコンソールサービスを構成してください。

Webコンソールサービスを構成して開始する

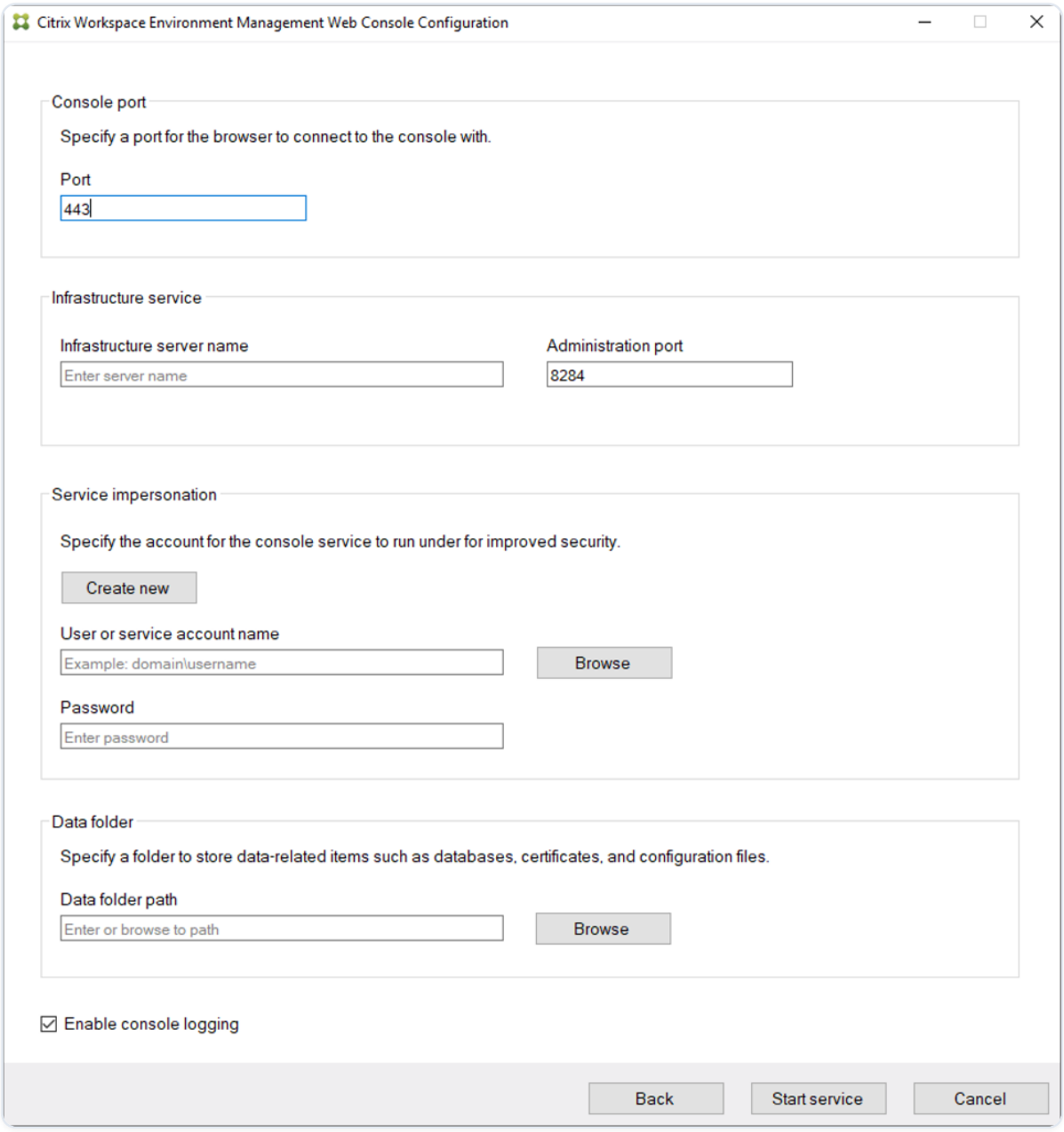
Webコンソールサービスを構成して開始するには、次の手順を実行します。

1. Webコンソールサービスフォルダーで `WEM Web Console Configuration.exe` ツールを起動し、**「次へ」**をクリックします。



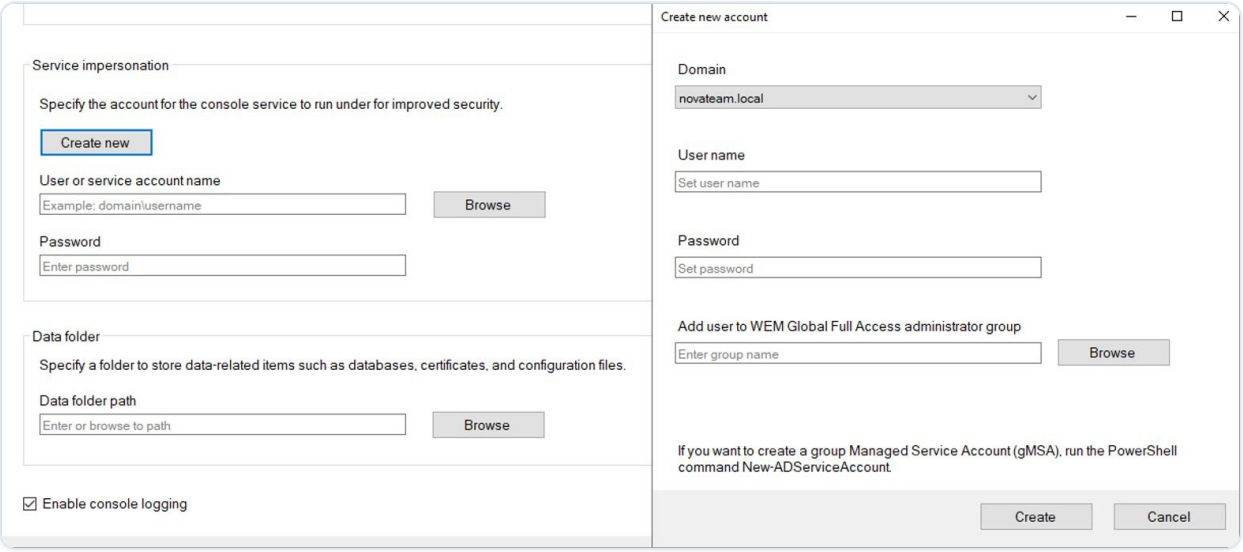
2. ブラウザーがコンソールに接続するためのポートを指定して、コンソールポートを構成します。デフォルトポートは443です。
3. インフラストラクチャサービス情報を指定して、インフラストラクチャサービスを構成します。

   - インフラストラクチャサーバー名には、WEMインフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
   - 管理ポートには、Webコンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートを入力します。デフォルトポートは8284です。

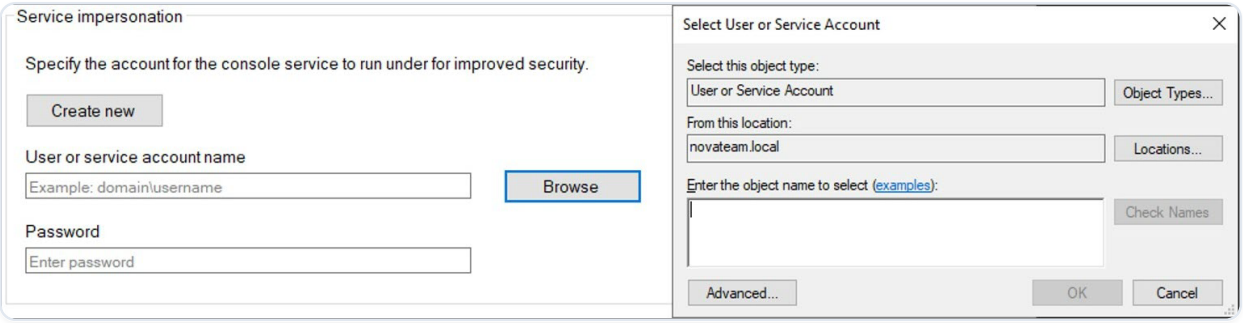


4. セキュリティを向上させるために、Webコンソールサービスが特定のユーザーアカウントを偽装する場合に**サービス偽装**を構成します。新しいユーザーを作成するか、既存のユーザーを選択できます。

    - 新しいユーザーを作成し、そのユーザーをWEMグローバルフルアクセス管理者グループに追加します。

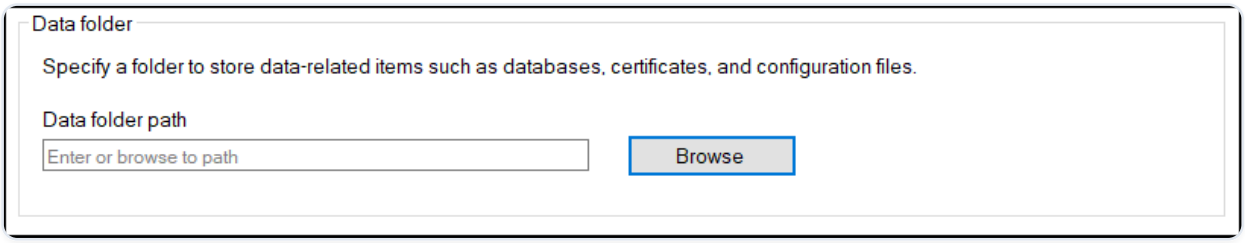


- WEMグローバルフルアクセス管理者グループから既存のユーザーを選択します。

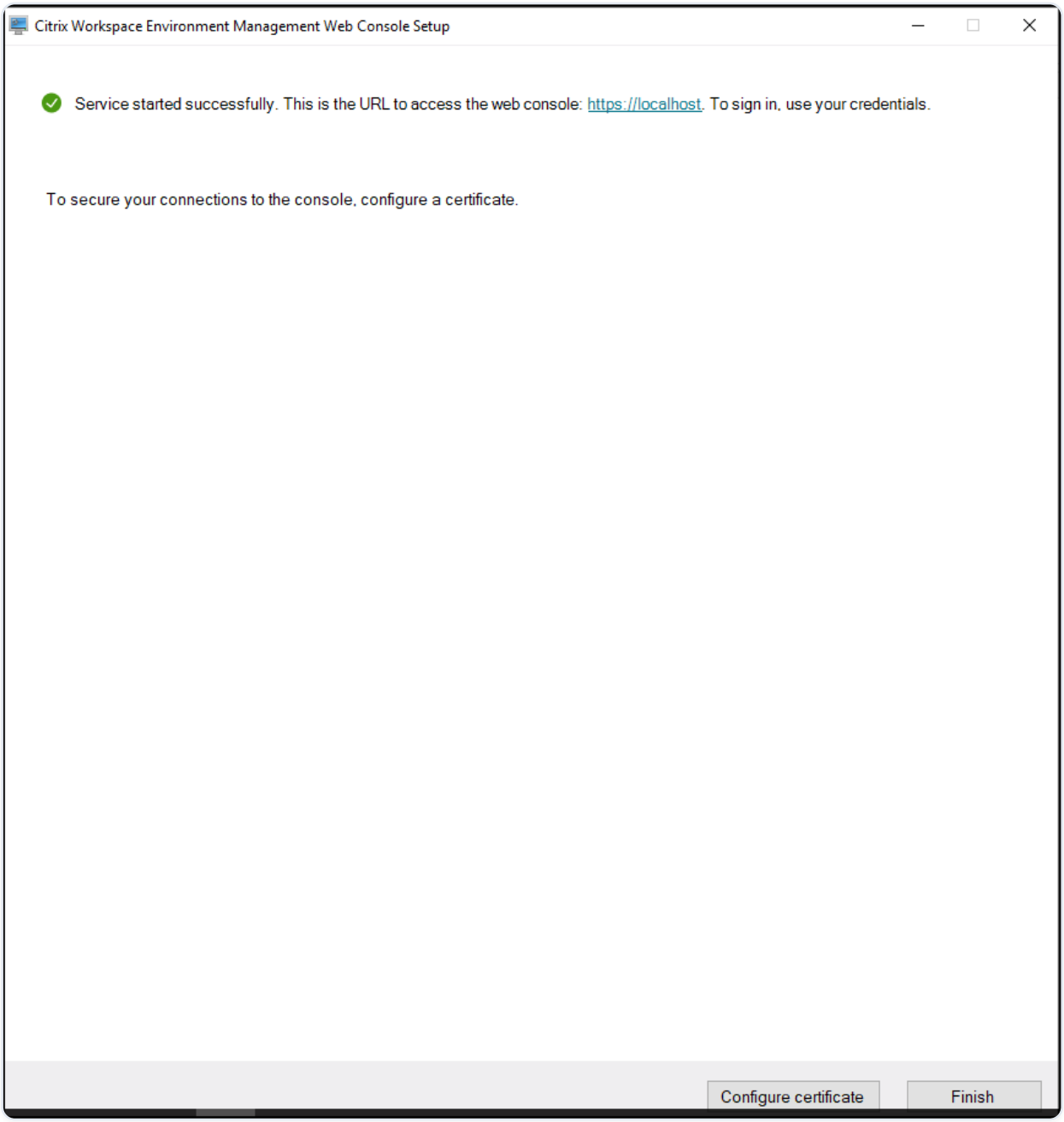


> **注:**
>
> デフォルトでは、アカウントの参照時に *LDAP* が使用されます。*LDAPS* を介したセキュアな通信を強制するには、次のレジストリエントリを追加します。
>
> - パス: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM`
> - 名前: `EnableLDAPS`
> - 種類: `REG_SZ`
> - 値: `1`

5. データベースや構成ファイルなどのデータ関連アイテムを共有するフォルダーを指定して、**データフォルダー**を構成します。

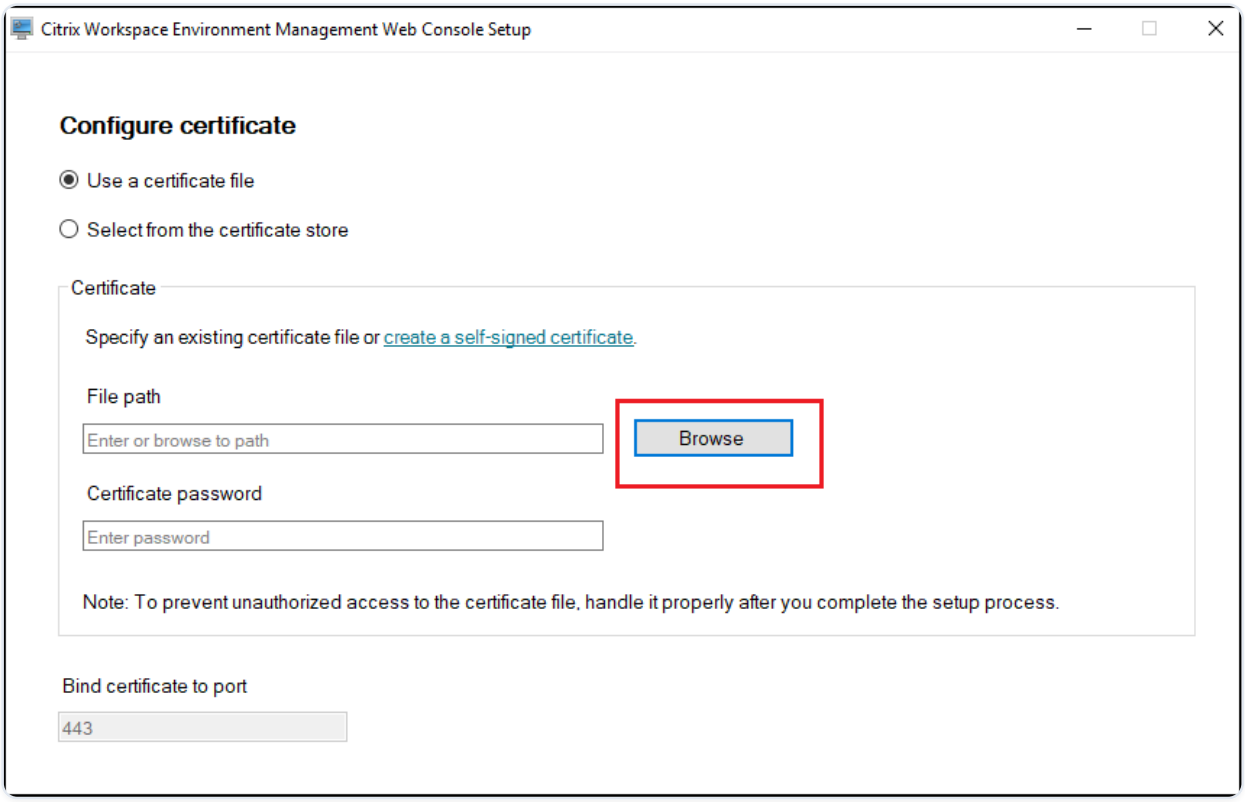


6. **サービスを開始**をクリックします。

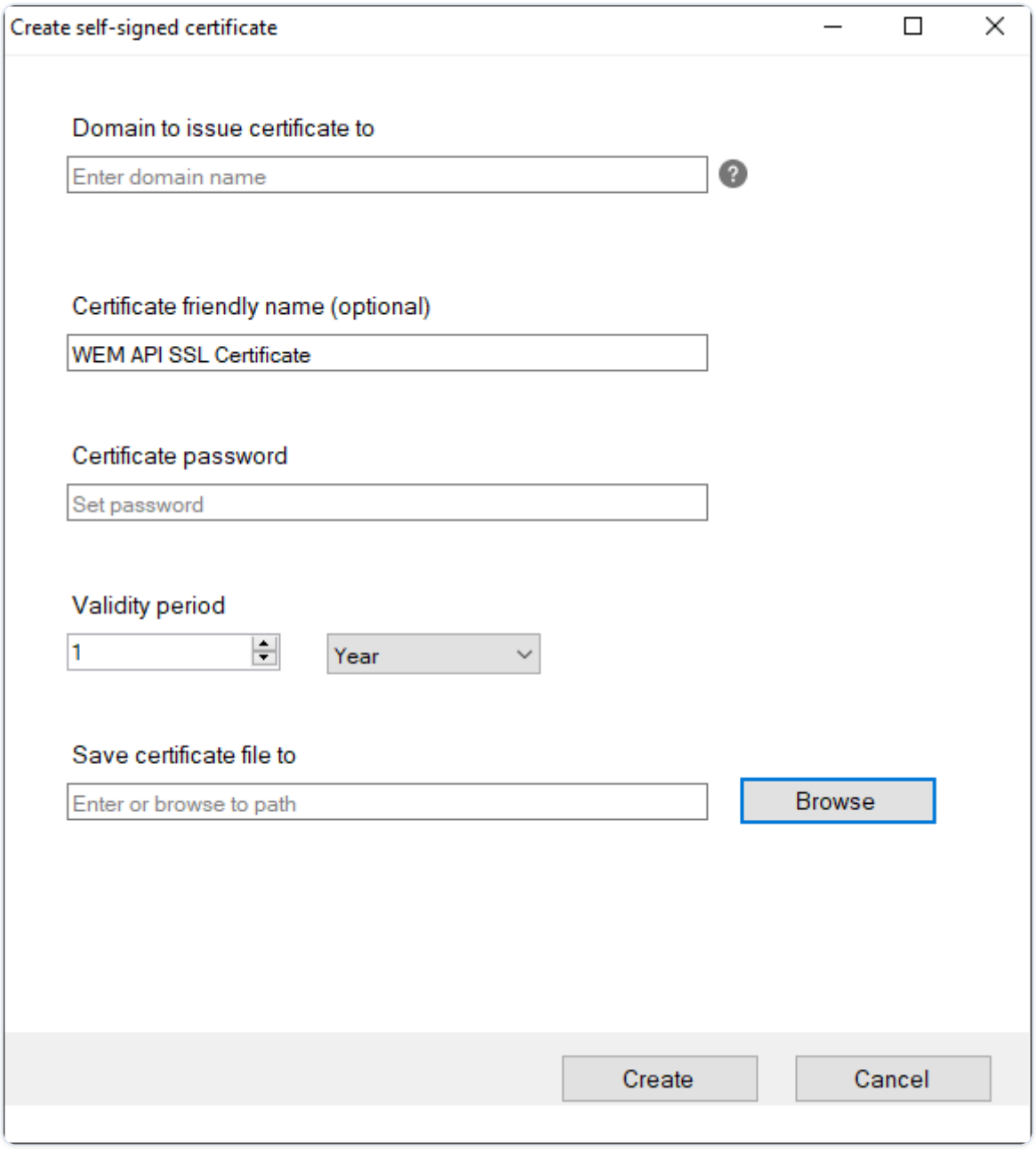


7. Webコンソールサービスの起動が成功したら、**証明書の構成**をクリックして証明書を構成します。証明書を構成する方法は2つあります。

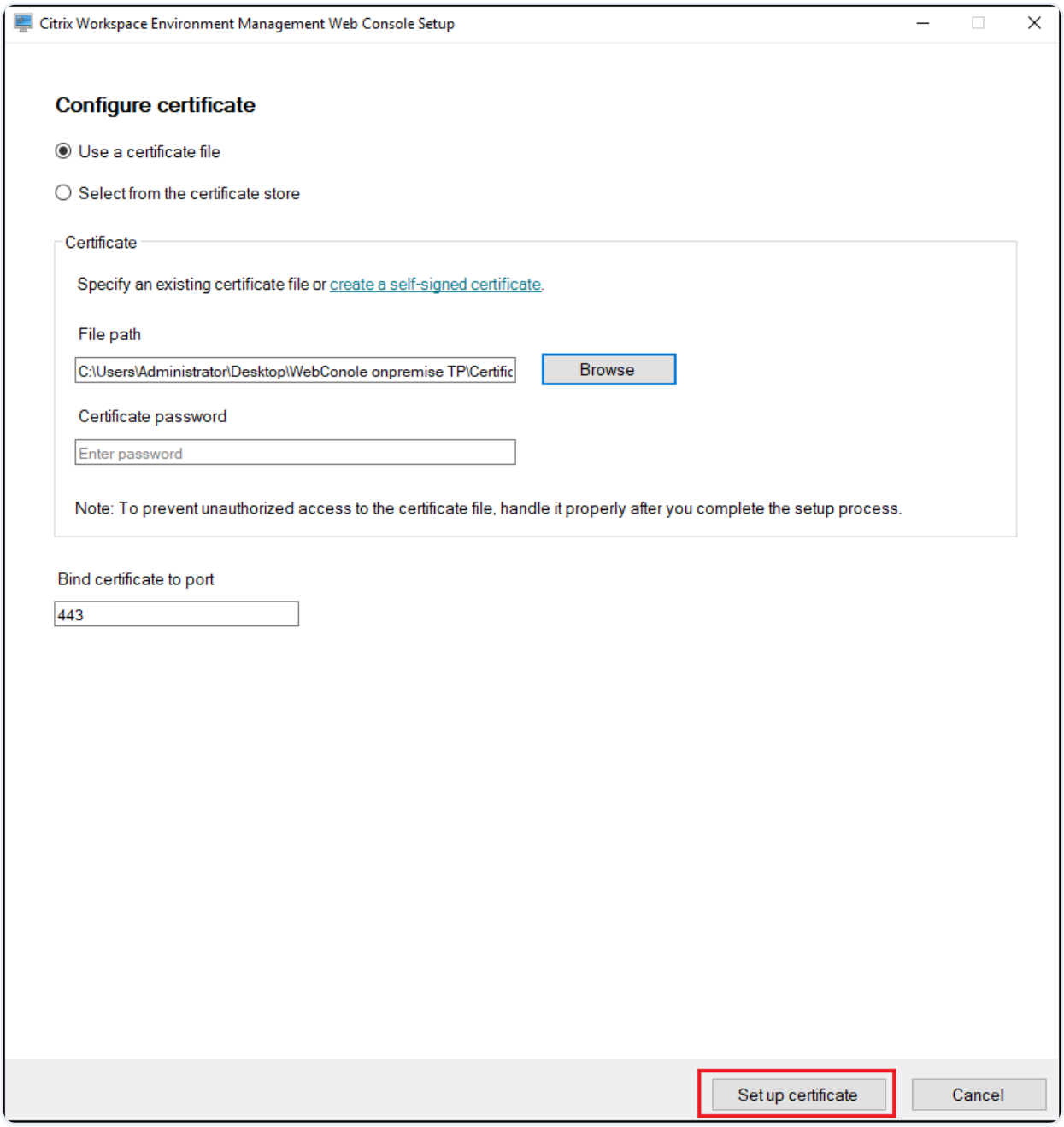
   - 証明書ファイルを使用するには、**参照**をクリックします。



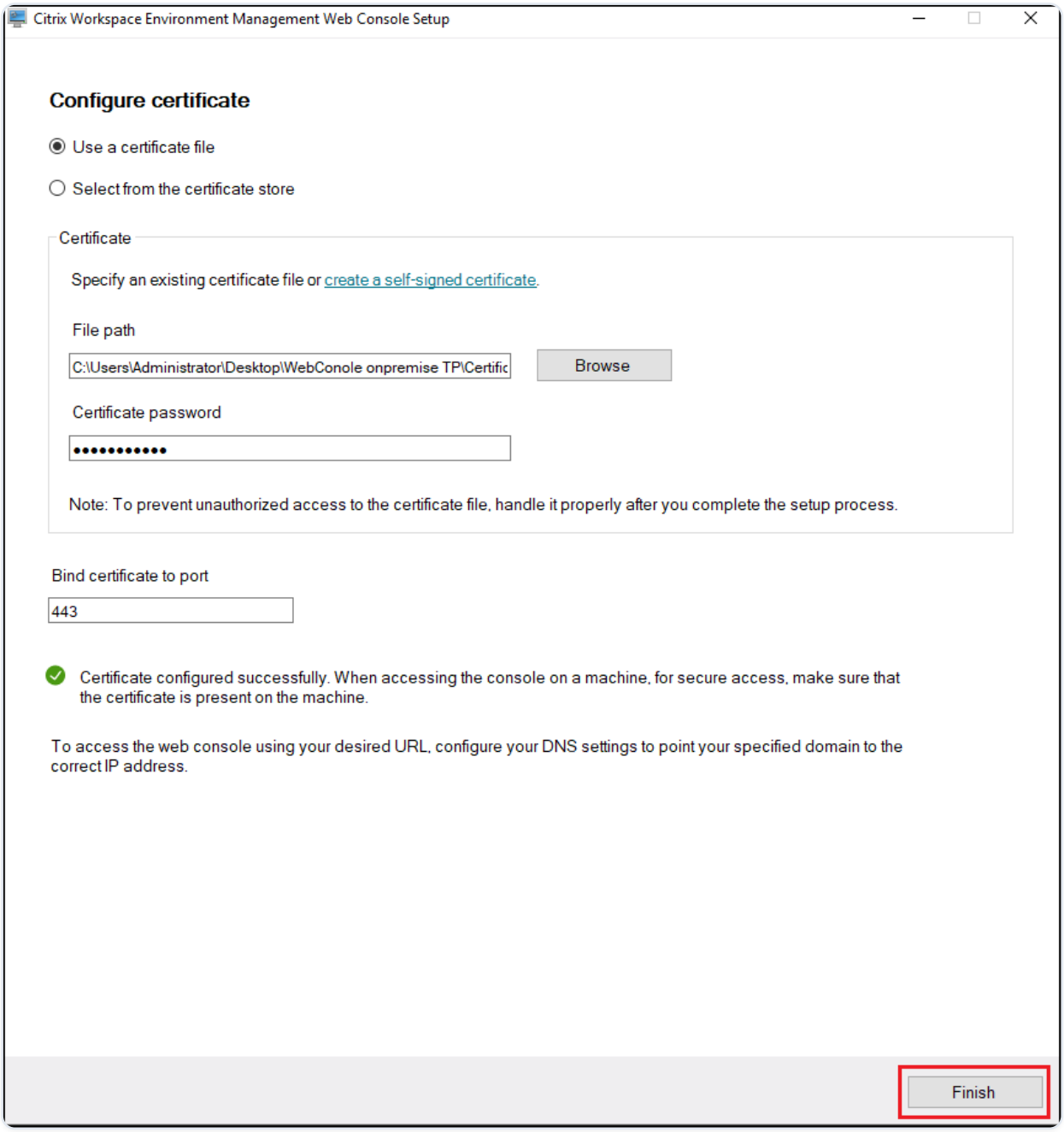
- 自己署名証明書を作成するには、**自己署名証明書の作成**をクリックします。



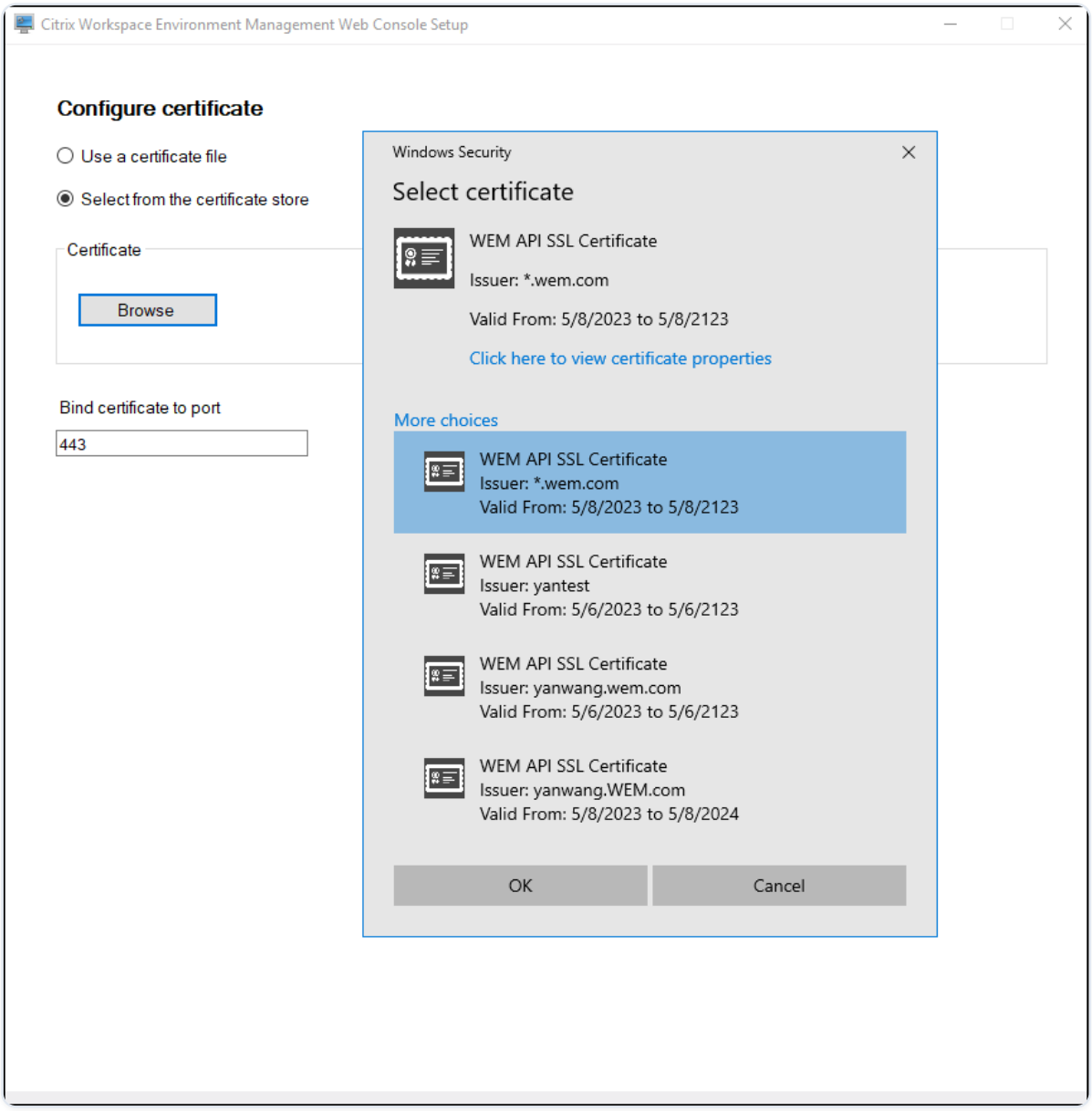
- **証明書をセットアップ**をクリックします。



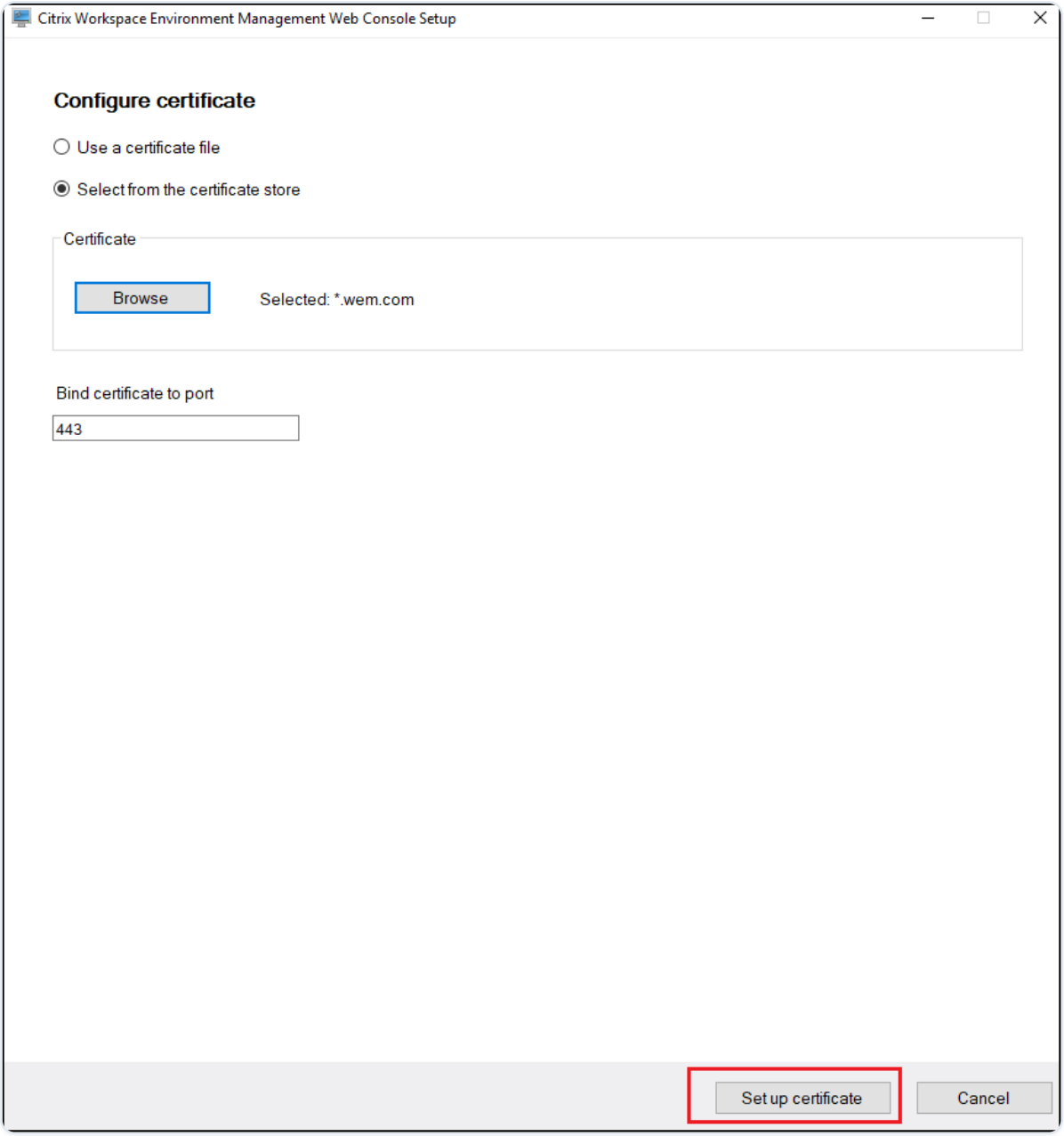
- 証明書が正常に構成されたら、**完了**をクリックします。



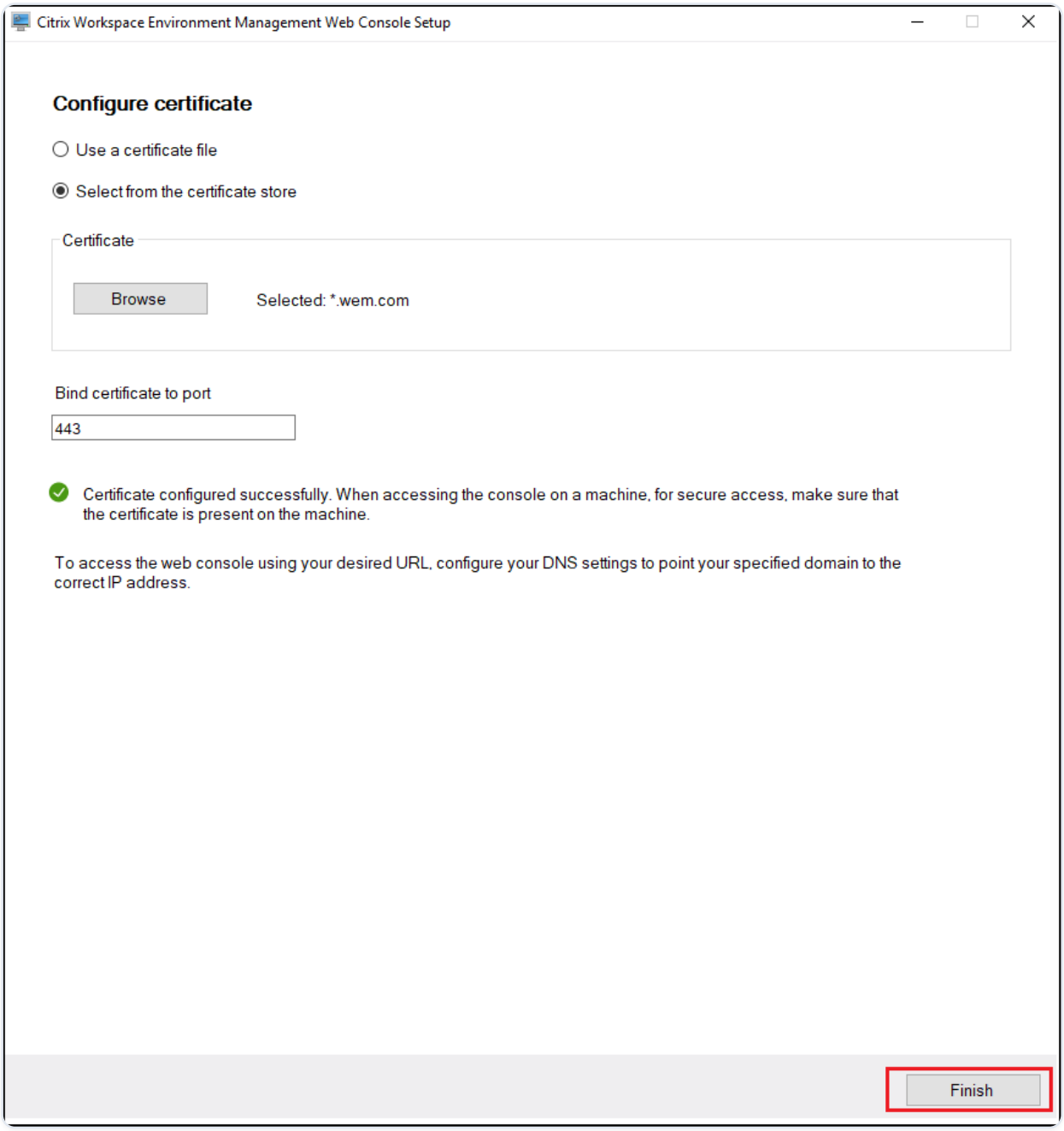
- 証明書ストアから証明書を使用するには、目的の証明書を選択します。



- **証明書を設定**をクリックします。



- 証明書を正常に構成した後、**完了**をクリックします。



8. グローバルなフルアクセスアカウントを作成するには、レガシーコンソールに移動し、**管理**をクリックして権限を管理します。

> **注:**
>
> Windowsドメインアカウントは、グローバルなフルアクセスアカウントである必要があります。
>
> Webコンソールを使用する前に、Windowsドメインアカウントを使用してログインする必要があります。

WEM Webコンソールの詳細については、管理 (Webコンソール)を参照してください。

9. テンプレートベースのGPO、スクリプトタスク、バックアップと復元、およびファイルを使用するには、共有ストレージフォルダーを設定する必要があります。

> **注:**
>
> 共有フォルダーのアクセス許可を設定するには、次のガイドラインに従ってください。
>
> - 少なくとも1人のユーザーが、アクセス許可の変更または所有権の取得のアクセス許可を除き、共有フォルダーへのフルアクセス権を持っていることを確認してください。
> - 共有フォルダーがWebコンソールサービスをホストしているマシンからアクセス可能であることを確認してください。
> - 構成されたユーザーがWebコンソールサービスによって偽装されたユーザーと同じである場合、Webコンソールで共有フォルダーを構成する際に、資格情報を省略できます。そうでない場合は、資格情報を指定する必要があります。偽装されたユーザーを使用することが推奨されるアプローチです。 セキュリティを強化し、アクセスを最小限に抑えるため、共有フォルダーへのアクセス許可を持つアカウントの数を可能な限り制限してください。
>
> Webコンソールに移動し、右上隅にあるアカウント名をクリックし、**Storage folder**をクリックして、共有SMBパスを構成します。

ライセンスを設定する

Workspace Environment Management™ (WEM) は、Citrix License Server を介してライセンスの資格を検証します。使用するコンソールに基づいて、WEM のライセンスを設定します。

- レガシーコンソールを使用する場合は、WEM インフラストラクチャサービスのライセンスを設定します。
- Web コンソールを使用する場合は、WEM インフラストラクチャサービスと Web コンソールの両方のライセンスを設定します。

WEM ライセンスの資格は、WEM エージェントの機能には影響しません。Web コンソールまたはレガシーコンソールを介して設定を構成する管理者の能力にのみ影響します。有効なライセンスがない場合、管理者はコンソールを介して新しいポリシーを展開したり、既存のポリシーを変更

したりすることはできません。すでにエージェントに配信されているポリシーは影響を受けません。

> **注:**
>
> WEM は、Citrix® Licensing Activation Service (LAS) を使用して資格を検証します。以下へのアップグレードをお勧めします。
>
> - レガシーコンソールを使用する場合は、WEM バージョン **2511** 以降。
> - Web コンソールを使用する場合は、WEM バージョン **2603** 以降。

前提条件

ライセンスを設定する前に、以下を確認してください。

- 有効な WEM 資格を持つ Citrix License Server が利用可能であること。
- WEM インフラストラクチャサーバーが、LAS ポート (デフォルト: **8083**) で HTTPS 経由でライセンスサーバーに到達できること。

> **注:**
>
> ライセンスサーバーに到達できない場合、ライセンス構成と証明書の受け入れは失敗します。接続チェックの詳細については、「WEM LAS の問題のトラブルシューティング」を参照してください。

インフラストラクチャサービスのライセンスを構成する

インフラストラクチャサービス用の WEM ライセンスは、次の2つの方法で構成できます。

- WEM インフラストラクチャサービス用にライセンスサーバーをグローバルに構成する
- 単一のWEMインフラストラクチャサーバーのライセンスサーバーを構成する(#configure-the-license-server-for-a-single-wem-infrastructure-server)

WEMインフラストラクチャサービス用にライセンスサーバーをグローバルに構成する

複数のWEMインフラストラクチャサーバーがある場合は、WEMレガシーコンソールでライセンスサーバーを**グローバルに**構成し、すべてのサーバーに同じ設定を適用します。

1. WEMコンソールで、 > をクリックして、構成ダイアログボックスを開きます。
2. ライセンスサーバー情報を入力します。
3. **OK**をクリックします。
4. ダイアログボックスが表示されたら、証明書を承認して構成を完了します。

   WEMコンソール ダイアログボックス(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/configure-license-server-console.png)

   ダイアログボックス(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/accept-security-certificate.png)

単一のWEMインフラストラクチャサーバーのライセンスサーバーを構成する

WEM Infrastructure Service Configuration utility を使用して、特定のWEMインフラストラクチャサーバーのライセンスサーバーを構成します。

1. **WEMインフラストラクチャサービス構成ユーティリティ** を起動します。
2. タブで、ライセンスサーバー情報を入力します。
3. をクリックします。
4. ダイアログボックスが表示されたら、証明書を承認して構成を完了します。

   WEMインフラストラクチャサービス構成ユーティリティ、ライセンス タブ(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/configure-license-server-norskale.png)

   「セキュリティ証明書の承諾」ダイアログボックス(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/accept-security-certificate.png)

Webコンソール用のライセンスを構成する

Webコンソールバージョン**2603**以降を使用している場合は、インフラストラクチャサービスのライセンスを構成した後、Webコンソール用のライセンスサーバーを構成します。ライセンスサーバーのFQDN、ポート、およびライセンスアクティベーションサービス (LAS) ポートを含むCitrixライセンスサーバーの接続詳細を指定します。

> **注:**
>
> LASは、ライセンスアクティベーションコードや製品固有のライセンスファイルをダウンロード、アップロード、または管理する必要をなくすことで、ライセンスエクスペリエンス

を簡素化します。詳細については、「ライセンスアクティベーションサービス」を参照してください。

1. Webコンソールを起動します。ライセンスサーバーが構成されていない場合、プロンプトが表示されます。

   ライセンスサーバーが構成されていない場合のWebコンソールのプロンプト(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/web-console-license-prompt.png)

2. **［構成］**をクリックし、ライセンスサーバー情報を入力します。

   Webコンソールのライセンスサーバー構成ダイアログボックス(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/web-console-configure-license.png)

3. **［セキュリティ証明書の承諾］**ダイアログボックスが表示されたら、証明書を承諾して構成を完了します。

   Webコンソールでライセンスサーバー証明書を承諾する(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/web-console-accept-cert.png)

ライセンスサーバー証明書を再承諾する

ライセンスサーバーを初めて構成するときに、構成手順の一部として証明書を承諾します。次の状況で証明書を再承諾する必要があります。

- WEMを**LASをサポートしていなかった**バージョンから、**初めてLASをサポートする**バージョンにアップグレードしている場合。
- ライセンスサーバー証明書を**更新または置き換えた**場合。

注:

ライセンスサーバー証明書をマシンの**信頼されたルート証明機関**に追加している場合、ダイアログボックスは表示されません。証明書はすでに信頼されているため、LASは引き続き機能するため、これは予期された動作です。

証明書を再承認するには、ライセンスサーバーの構成に使用したのと同じ方法を使用します。

- **WEM Infrastructure Service Configuration utility**。ユーティリティを再起動し、**Save Configuration** をクリックします。**Accept Security Certificate** ダイアログボックスが表示されたら、証明書を承認します。
- **WEM console**。WEM コンソールでライセンスサーバーを再構成します。この操作により、証明書承認プロセスがトリガーされます。

WEM LAS が機能していることを確認する

ライセンスサーバーを構成し、証明書を承認したら、使用するコンポーネントに基づいて LAS を確認します。

- インフラストラクチャサービスとレガシーコンソールの(#verify-las-for-the-infrastructure-service-and-legacy-console)アクティベーションログを確認する
- Web コンソールで(#check-license-server-information-in-the-web-console)ライセンスステータスを確認する

インフラストラクチャサービスとレガシーコンソールの LAS を確認する

WEM が LAS を使用していることを確認するには、**イベントビューアー**または**Citrix WEM Infrastructure Service Debug.log**で次のログエントリを確認します。ログファイルを有効にするには、「(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/reference/view-log-files.html#logs-related-to-the-infrastructure-service)ログファイルの表示」を参照してください。

```
Finish to check activation from Citrix Licensing Service (Web), license
valid: True
```

このログエントリが存在する場合、WEM は LAS を使用して正常にアクティブ化されています。

イベントビューアーのライセンスアクティベーションログエントリ(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/verify-las-event-viewer.png)

注:

LAS が失敗した場合、WEM はレガシー V6 ライセンスに切り替わります。その場合、ログエントリには代わりに`Citrix Licensing Service (Legacy)`が含まれます。

Web コンソールでライセンスサーバー情報を確認する

Web コンソールで現在のライセンスサーバー情報を確認できます。

1. 右上隅にある名前をクリックし、**Licensing** を選択します。ダイアログボックスに現在のライセンス情報が表示されます。

   Webコンソールでのライセンスメニュー項目(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/web-console-licensing-menu.png)

2. ライセンスの状態を確認し、必要に応じてライセンスサーバー情報を再構成します。

   Webコンソールでの現在のライセンス情報(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/web-console-license-info.png)

ライセンスの問題のトラブルシューティング

ライセンス構成が失敗した場合、または証明書承認ダイアログボックスが表示されない場合は、証明書エラー、ホスト名の不一致、および接続チェックに関するガイダンスについては、WEM LASの問題のトラブルシューティングを参照してください。

エージェント

エージェントのインストールと構成

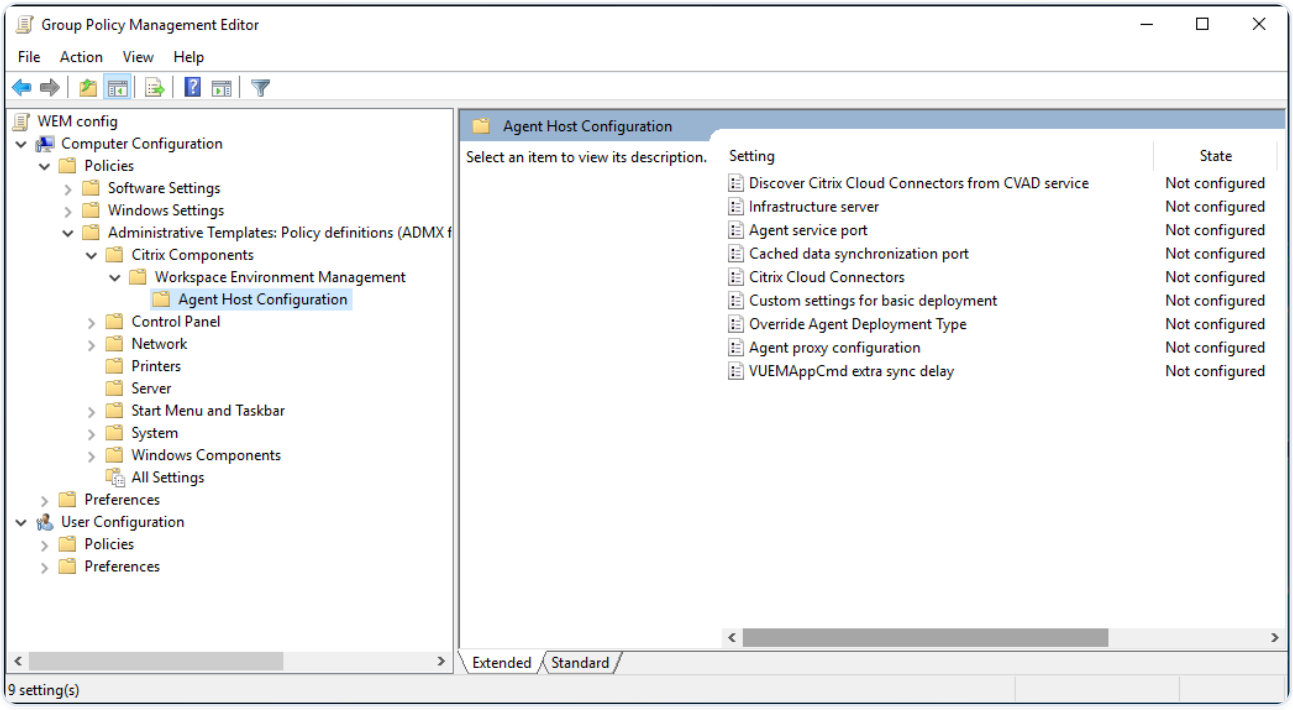
> **注:**
>
> - Workspace Environment Management™ (WEM) エージェントをインフラストラクチャサーバーにインストールしないでください。
> - WEM エージェントと管理コンソールを同じマシンにインストールしないでください。
> - Citrix StoreFront ストアで公開されているリソースを、管理コンソールから WEM のアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールとエージェントホストマシンに Citrix Workspace アプリ for Windows がインストールされていることを確認してください。詳しくは、「システム要件」を参照してください。

手順 1：グループポリシーの構成（オプション）

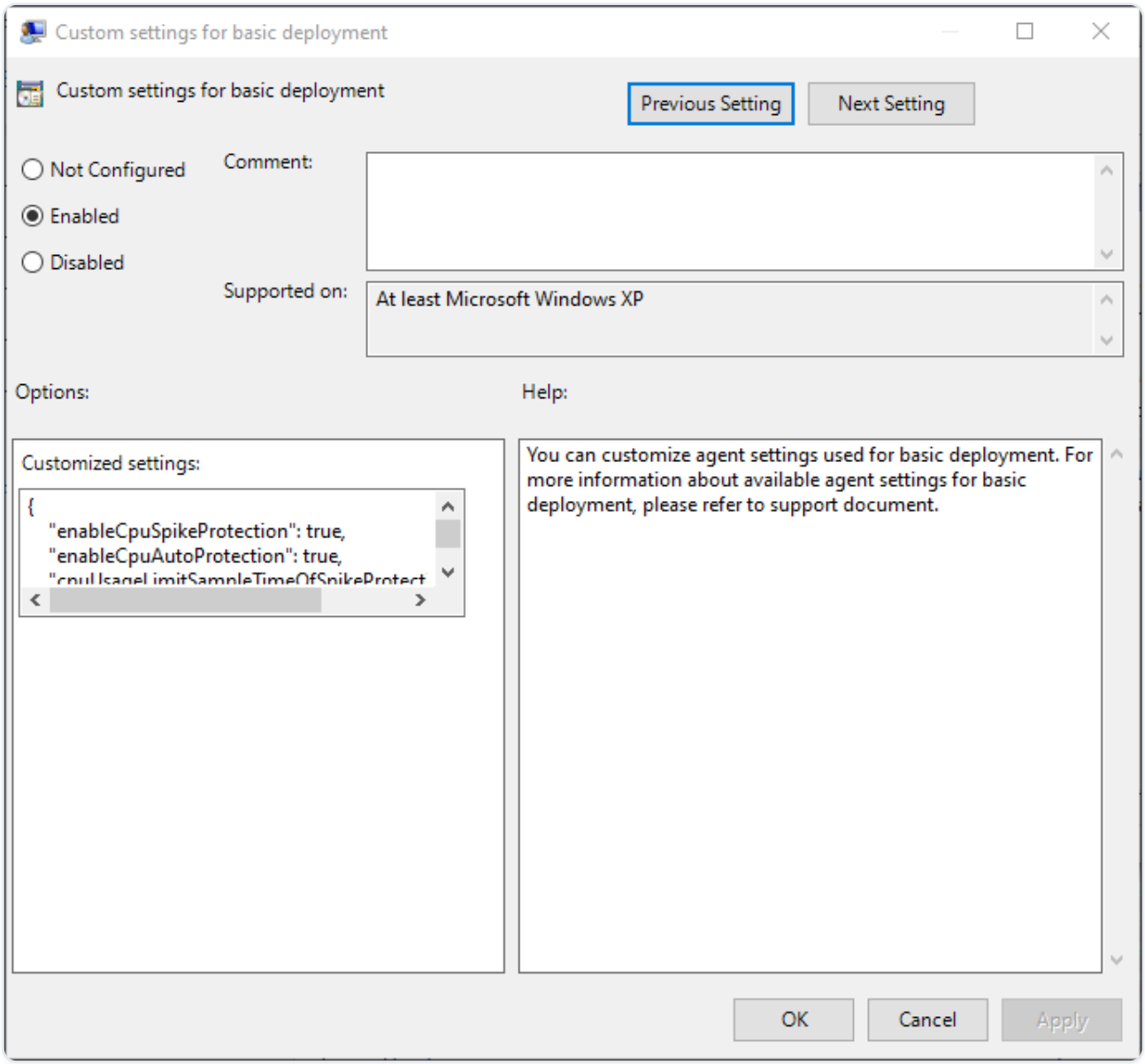
オプションで、**Agent Group Policies** 管理用テンプレートを使用してエージェントのグループポリシーを構成できます。WEM インストールパッケージにはこのテンプレートが含まれています。テンプレートファイルは、.admx ファイルと、言語固有の .adml ファイルに分かれています。グループポリシーはドメインコントローラーで構成することをお勧めします。

Agent Host Configuration ポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

1. WEM インストールパッケージに含まれている **Agent Group Policies** フォルダーを WEM ドメインコントローラーにコピーします。
2. .admx ファイルを追加します。
   a. **Agent Group Policies > ADMX** フォルダーに移動します。
   b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx* と *CitrixBase.admx*）をコピーします。
   c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions` フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .adml ファイルを追加します。
   a. **Agent Group Policies > ADMX > en-US** フォルダーに移動します。
   b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.adml* と *CitrixBase.adml*）をコピーします。
   c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US` フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
4. **グループポリシー管理エディター**ウィンドウで、**コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート > Citrix コンポーネント > Workspace Environment Management > エージェントホストの構成**に移動し、次の設定を構成します::



基本展開のカスタム設定。展開に使用されるカスタマイズされたエージェント設定。基本展開で利用可能なエージェント設定の詳細については、「基本展開エージェントの管理」を参照してください。



エージェント展開タイプのオーバーライド。WEMエージェントの展開タイプをオーバーライドします。次のいずれかのオプションを選択します:

- **クラウドサービス展開:** エージェントをCitrix CloudのWEMサービスに接続し、WEMの全機能を提供します。
- **オンプレミス展開:** エージェントをオンプレミスのWEM展開に接続し、WEMの全機能を提供します。
- **基本展開:** WEMインフラストラクチャに接続せずに、機能を制限したシングルマシンモードでエージェントを実行します。
- **無効:** エージェントがインストールされているマシン上のすべてのWEM機能を無効にします。

CVADサービスからCitrix Cloud Connector™を検出。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態は「未構成」のままにしてください。

インフラストラクチャサーバー。WEMインフラストラクチャサーバーのアドレス。インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンの名前またはIPアドレスを入力します。

エージェントサービスポート。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。エージェントサービスポートは、インフラストラクチャサービス構成中にエージェントサービスポートとして構成したポートと同じである必要があります。指定しない場合、ポートはデフォルトで8286になります。

キャッシュデータ同期ポート。（Workspace Environment Management 1912以降に適用。Workspace Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。）エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポート。キャッシュデータ同期ポートは、インフラストラクチャサービス構成中にキャッシュデータ同期ポート（**WEM Infrastructure Service Configuration > Network Settings**）として構成したポートと同じである必要があります。ポートはデフォルトで8288であり、`CachedDataSyncPort` コマンドライン引数に対応します。または、WEMエージェントのサイレントインストールでコマンドラインオプションを使用してポートを指定することもできます。例:

- `citrix_wem_agent_bundle.exe /quiet CachedDataSyncPort=9000`

Citrix Cloud™ Connectors。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態を「**未構成**」のままにします。

エージェントプロキシ構成。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態を「**未構成**」のままにします。

VUEMAppCmdの追加同期遅延。ミリ秒単位で、Citrix Virtual Apps and Desktopsの公開リソースが起動される前に、エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が待機する時間を指定します。これにより、必要なエージェント作業が最初に完了することが保証されます。推奨値は100～200です。デフォルト値は0です。

ステップ2：エージェントをインストールする

> **重要:**
>
> エージェントのインストール中に.NET Frameworkが自動的にインストールされることもありますが、エージェントをインストールする前に手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

> ユーザー環境で**Citrix Workspace™ Environment Management Agent**を実行できます。コマンドラインを使用してエージェントをインストールすることもできます。デフォルトでは、エージェントはオペレーティングシステムに応じて、次のいずれかのフォルダーにインストールされます。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64ビットOSの場合)
- C:\Program Files\ Citrix\Workspace Environment Management Agent (32ビットOSの場合)

エージェントを対話形式でインストールするには、次の手順を実行します。

1. マシンで**Citrix Workspace Environment Management Agent.exe**を実行します。
2. 「**I agree to the license terms and conditions**」を選択し、「**Install**」をクリックします。
3. ようこそページで、「**Next**」をクリックします。

   > **注:**
   >
   > ようこそページが表示されるまでに時間がかかる場合があります。この遅延は、必要なソフトウェアが不足しており、バックグラウンドでインストールされている場合に発生します。

4. 宛先フォルダーページで、「**Next**」をクリックします。

   - デフォルトでは、宛先フォルダーフィールドにはデフォルトのフォルダーパスが自動的に入力されます。エージェントを別のフォルダーにインストールする場合は、「**Change**」をクリックしてそのフォルダーに移動し、「**Next**」をクリックします。
   - WEMエージェントを既にインストールしている場合、宛先フォルダフィールドには既存のインストールフォルダパスが自動的に入力されます。

5. 展開の種類ページで、該当する展開の種類を選択し、**次へ**をクリックします。この場合は、**オンプレミス展開**を選択します。
6. **基本展開**の種類を選択することもできます。**基本展開**の種類を選択すると、エージェントはインフラストラクチャサービスに接続せずに、デフォルトの最適化設定をオンにします。

   WEMエージェントのインストール 01(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-agent-deployment-type-basic-deployment.png)

7. インフラストラクチャサービス構成ページで、エージェントが接続するインフラストラクチャサービスを指定し、**次へ**をクリックします。

   - **構成をスキップ**。グループポリシーを使用して設定を既に構成している場合は、このオプションを選択します。
   - **インフラストラクチャサービスを構成**。インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、インフラストラクチャサービスを構成できます。
   - **エージェントサービスポート**。デフォルトでは、値は8286です。
   - **キャッシュデータ同期ポート**。デフォルトでは、値は8288です。

   WEMエージェントのインストール 02(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-agent-cloud-service-config-page.png)

8. 詳細設定ページで、エージェントの詳細設定を構成し、**次へ**をクリックします。

   - **代替キャッシュの場所（オプション）**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。**参照**をクリックして、該当するフォルダに移動します。または、レジストリを介して行うこともできます。そのためには、まずCitrix WEM Agent Host Serviceを停止し、次のレジストリキーを変更します。

     HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェント ホスト

     名前: AgentCacheAlternateLocation

     種類: REG_SZ

     値: 空

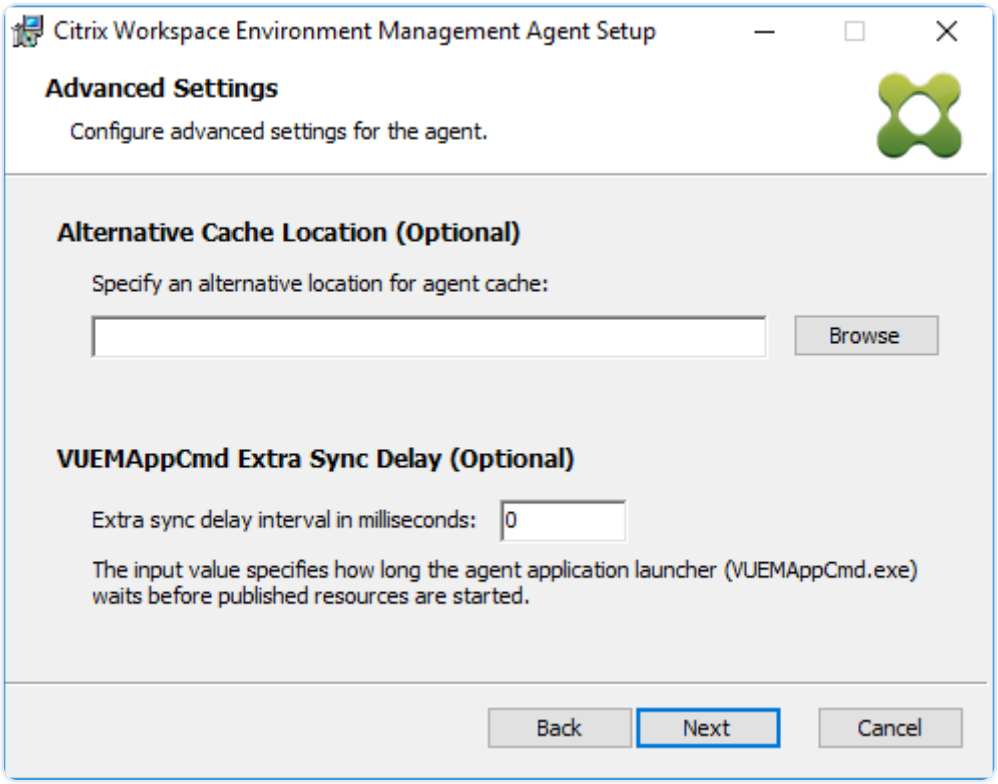
     デフォルトでは、値は空です。デフォルトのフォルダーは次のとおりです: `<WEM agent installation folder path>\Local Databases Set`。必要に応じて、別のフォルダーパスを指定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Service を再起動します。変更が有効になると、フォルダーに次のファイルが表示されます: **LocalAgentCache.db** および **LocalAgentDatabase.db**。

     > **注意:**
     >
     > レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジスト

> リエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **VUEMAppCmd の追加同期遅延 (オプション)**。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が公開リソースの開始前に待機する時間を指定できます。この遅延を設定することで、必要なエージェント作業が最初に完了するようにします。デフォルト値は 0 です。

> **注:**
>
> 追加同期遅延間隔に入力する値は、0 以上の整数である必要があります。



9. インストールの準備完了ページで、**インストール**をクリックします。
10. **完了**をクリックして、インストールウィザードを終了します。

または、WEM エージェントのサイレントインストールを選択することもできます。そのためには、次のコマンドラインを使用します。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`

> **ヒント:**

- オンプレミスの WEM 展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=0` と入力します。WEM サービス展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=1` と入力します。
- エージェントのインストールをトラブルシューティングするために、ログファイルを参照することをお勧めします。デフォルトでは、インストール中に発生するすべてのアクションを記録するログファイルは %TEMP% に作成されます。`/log log.txt` コマンドを使用して、ログファイルを保存する特定の場所を指定できます。

> コマンドラインオプションを使用してカスタム引数を指定することもできます。これにより、インストールプロセス中にエージェントとシステムの設定をカスタマイズできます。詳細については、知っておくと良いこと を参照してください。

インストール後、エージェントは *Citrix WEM Agent Host Service* (旧 Norskale Agent Host Service) および *Citrix WEM Agent User Logon Service* として実行されます。エージェントは *LocalSystem* アカウントとして実行されます。このアカウントの変更はサポートされていません。このサービスには、**ローカルシステムとしてログオン**する権限が必要です。

ステップ 3: マシンを再起動してインストールを完了する

前提条件と推奨事項

WEM エージェントが適切に機能するように、次の前提条件と推奨事項に注意してください。

前提条件

次の要件が満たされていることを確認します。

- Windowsサービス「**System Event Notification Service**」は、起動時に自動的に開始するように構成されています。
- WEMエージェントサービス「**Citrix WEM Agent Host Service**」と「**Citrix WEM User Logon Service**」は、起動時に自動的に開始するように構成されています。
- エージェントキャッシュは、可能な限り永続的な場所に配置されます。非永続的なキャッシュの場所を使用すると、キャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。

おすすめ

エージェントの展開を成功させるには、このセクションの推奨事項に従ってください。

- たとえば、ログオンスクリプトやスタートアップスクリプトを使用して、**Citrix WEM Agent Host Service** を手動で操作しないでください。**Citrix WEM Agent Host Service** の停止や再起動などの操作は、Netlogonサービスが動作しなくなる原因となり、他のアプリケーションに問題を引き起こす可能性があります。
- UIモードまたはCMDモードのエージェントを起動するためにログオンスクリプトを使用しないでください。そうしないと、一部の機能が動作しなくなる可能性があります。

エージェントの起動動作

- **Citrix WEM Agent Host Service** は、サービス開始後、グループポリシーを通じて構成されたCloud Connector設定を自動的に再ロードします。
- **Citrix WEM Agent User Logon Service** は、最初ログオン時にエージェントホストサービスが起動しない場合、**Citrix WEM Agent Host Service** を自動的に起動します。この動作により、ユーザー構成が適切に処理されることが保証されます。
- **Citrix WEM Agent Host Service** は、起動時に次のローカルデータベースファイルに対して自動的にチェックを実行します: `LocalAgentCache.db` および `LocalAgentDatabase.db`。仮想マシンがプロビジョニングされており、ローカルデータベースファイルがベースイメージからのものである場合、データベースファイルは自動的にパージされます。
- **Citrix WEM Agent Host Service** が起動すると、エージェントのローカルキャッシュが最近更新されたことを自動的に確認します。キャッシュが設定されたキャッシュ同期時間間隔の2倍以上更新されていない場合、キャッシュは直ちに同期されます。たとえば、デフォルトのエージェントキャッシュ同期間隔が30分であるとします。過去60分間にキャッシュが更新されていない場合、**Citrix WEM Agent Host Service** の起動直後に同期されます。
- インストール中に、WEMエージェントインストーラーはWindowsサービス「**System Event Notification Service**」を自動的に開始するように構成します。
- WEMエージェントのアップグレードが完了すると、WEMエージェントインストーラーはNetlogonサービスを自動的に開始します。

エージェントキャッシュユーティリティのオプション

Citrix WEM Agent Host Service は、設定の更新とキャッシュの同期を自動的に処理します。エージェントキャッシュユーティリティは、設定を直ちに更新し、キャッシュを同期する必要があるシナリオでのみ使用してください。

コマンドラインを使用して、エージェントのインストールフォルダーで *AgentCacheUtility.exe* を実行します。実行可能ファイルは、次のコマンドライン引数を受け入れます。

- `-help`: 許可されている引数のリストを表示します。

- `-RefreshCache` または `-r`: キャッシュの構築または更新をトリガーします。
- `-RefreshSettings` または `-S`: エージェントホストの設定を更新します。
- `-Reinitialize` または `-I`: `-RefreshCache` オプションと組み合わせて使用すると、エージェントキャッシュを再初期化します。

コマンドラインの使用方法の詳細については、以下の例を参照してください。

- エージェントホストの設定を更新します。
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`
- エージェントホストの設定とエージェントキャッシュを同時に更新します。
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings -RefreshCache`
- エージェントキャッシュを再初期化します。
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache -Reinitialize`

知っておくと良いこと

エージェント実行可能ファイルは、「エージェント設定」および「システム設定」セクションで説明されているカスタム引数を受け入れます。

エージェント設定

WEMエージェント設定には以下が含まれます。

- **AgentLocation**。エージェントのインストール場所を指定できます。有効なフォルダーパスを指定してください。
- **AgentCacheLocation**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。構成されている場合、エージェントのローカルキャッシュファイルは、エージェントのインストールフォルダーではなく、指定された場所に保存されます。
- **AgentCacheSyncPort**。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポートを指定できます。
- **AgentServicePort**。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポートを指定できます。
- **InfrastructureServer**。インフラストラクチャサービスが実行されているインフラストラクチャサーバーのFQDNまたはIPアドレスを指定できます。

- **VUEMAppCmdDelay**。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) がCitrix Virtual Apps and Desktops公開リソースの起動前に待機する時間を指定できます。デフォルト値は0（ミリ秒）です。追加の同期遅延間隔として入力する値は、0以上の整数である必要があります。

次の点に注意してください。

- コマンドラインで設定を構成すると、WEMエージェントインストーラーは構成された設定を使用します。
- コマンドラインで設定を構成せず、以前に構成された設定がある場合、インストーラーは以前に構成された設定を使用します。
- コマンドラインで設定を構成せず、以前に構成された設定がない場合、インストーラーはデフォルト設定を使用します。

システム設定

エージェントホストマシンに関連付けられているシステム設定には、次のものがあります。

- **GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**。インストール中に作成されるGpNetworkStartTimeoutPolicyValueレジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ログオン時のポリシー処理中にグループポリシーがネットワーク可用性通知を待機する時間を指定します。引数は1（最小）から600（最大）の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は120です。
- **SyncForegroundPolicy**。エージェントのインストール中にSyncForegroundPolicyレジストリ値を構成できます。このポリシー設定は、グループポリシー処理が同期であるかどうかを決定します。許容される値：0、1。値が設定されていない場合、または値を0に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceはログオンを遅延させず、ユーザーグループポリシー設定はバックグラウンドで処理されます。値を1に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceはユーザーグループポリシー設定の処理が完了するまでログオンを遅延させます。デフォルトでは、インストール中に値は変更されません。

> **重要:**
>
> グループポリシー設定がバックグラウンドで処理される場合、すべてのポリシー設定が処理される前にWindows Shell (Windows Explorer) が起動する可能性があります。そのため、一部の設定はユーザーが最初にログオンしたときに有効にならない場合があります。ユーザーが最初にログオンしたときにすべてのポリシー設定を処理したい場合は、値を1に設定します。

- **WaitForNetwork**。インストール中に作成される**WaitForNetwork**レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、エージェントホストがネットワークが完全に初期化され利用可能になるまで待機する時間を指定します。引数は0（最小）から300（最大）の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は30です。

上記の3つのキーは、Windowsログオン画面が表示される前にWEMエージェントサービスが開始されることを保証します。これら3つのキーはすべて、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Winlogon**の下に作成されます。これらのキーはまた、ログオン前にユーザー環境がインフラストラクチャサーバーアドレスGPOを受信することを保証します。Active Directoryまたはドメインコントローラーサーバーの応答が遅いネットワーク環境では、ログオン画面が表示される前に追加の処理時間が発生する可能性があります。影響を与えるためには、**GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**キーの値を最低30に設定することをお勧めします。

- **ServicesPipeTimeout**。ServicesPipeTimeoutレジストリキーの値を構成できます。このキーは、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control**の下に作成されます。このレジストリキーは、サービスコントロールマネージャーがWEMエージェントサービスの状態を報告する前に遅延を追加します。この遅延により、ネットワークが初期化される前にエージェントサービスが起動するのを防ぎ、エージェントの障害を防止します。この引数は任意のミリ秒単位の値を受け入れます。指定しない場合、デフォルト値の60000（60秒）が使用されます。

> **注:**
>
> コマンドラインを使用して上記の値を構成しない場合、WEMエージェントインストーラーはインストール中にそれらを処理しません。

例

次のコマンドライン形式を使用して設定を構成できます。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" <key=value>`

例:

- WEMエージェントのサイレントインストールまたはアップグレードを選択します
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`
- ユーザーログオンネットワーク待機時間を60秒に設定します

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" WaitForNetwork=60`

デプロイの規模とサイズに関する考慮事項

Workspace Environment Management™ (WEM) は、大規模なエンタープライズ展開向けに設計されています。WEM のサイジングとスケーラビリティを評価する際には、データベースのパフォーマンス、Active Directory のセットアップ、ファイアウォールルールなどを考慮する必要があります。

WEM のスケーラビリティは、エージェントとユーザーの数に基づいています。利用可能なインフラストラクチャサーバーが多いほど、WEM はより多くのエージェントとユーザーをサポートできます。インフラストラクチャサーバーは、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server および Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソールおよびエージェント) と同期します。

インフラストラクチャサーバーが実行されているマシンが次の仕様を使用していると仮定します。

- 4 vCPU、8 GB RAM、および 80 GB の利用可能なディスク容量。

展開に必要なインフラストラクチャサーバーの数を計算するには、次の式を使用できます。この式は、特定の顧客に関連する統計に基づいて開発されています。

- インフラストラクチャサーバーの数 = (エージェントの数/1,000) + (ユーザーの数/3,000)

注:

- NTLM 認証を使用するシナリオでは、Workspace Environment Management 2006 以前で特定のパフォーマンスの問題が確認されています。Kerberos 認証を使用する場合は、これらの問題は確認されていません。
- Workspace Environment Management 2006 以降では、NTLM 認証と Kerberos 認証の間でパフォーマンスの違いは確認されていません。
- WEM 2212 以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この機能強化により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスへの負荷を最大 50% 削減できます。「新機能」を参照してください。このメリットを享受するために、エージェントを 2212 以降にアップグレードすることをお勧めします。

デプロイをアップグレードする

はじめに

注:

WEM 2212以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この機能強化により、帯域幅の消費量とインフラストラクチャサービスへの負荷を最大50%削減できます。新機能を参照してください。このメリットを享受できるように、エージェントを2212以降にアップグレードすることをお勧めします。

新しいマシンやサイトを最初にセットアップすることなく、Workspace Environment Management™ (WEM) の展開を新しいバージョンにアップグレードできます。これはインプレースアップグレードと呼ばれます。

Workspace Environment Management 4.7より前のバージョンからバージョン1808以降へのインプレースアップグレードはサポートされていません。それらの以前のバージョンからアップグレードするには、まずバージョン4.7にアップグレードしてから、ターゲットバージョンにアップグレードする必要があります。詳細については、次の表を参照してください。

元	対象	インプレースアップグレードのサポート
4.6以前	4.7	はい
4.6以前	1808以降	いいえ（ターゲットバージョンにアップグレードする前にバージョン4.7にアップグレードしてください）
4.7	1808以降	はい

注:

- WEMデータベース、インフラストラクチャサービス、および管理コンソールはすべて同じバージョンである必要があります。
- 2006より前のWEM展開を2209以降にアップグレードする予定がある場合は、次の点に注意してください。データベースのアップグレードの失敗を避けるため、まず2103にアップグレードしてから2209以降にアップグレードしてください。

Workspace Environment Managementコンポーネントは、次の順序でアップグレードする必要があります。

1. インフラストラクチャサービスをアップグレードする(#step-1-upgrade-the-infrastructure-services)
2. データベースをアップグレードする(#step-2-upgrade-the-database)
3. インフラストラクチャサービスを再構成する(#step-3-reconfigure-the-infrastructure-services)
4. 管理コンソールをアップグレードする(#step-4-upgrade-the-administration-console)
5. Webコンソールサービスをアップグレードして再構成する(#step-5-upgrade-and-reconfigure-the-web-console-service)
6. エージェントをアップグレードする(#step-6-upgrade-the-agent)

手順1：インフラストラクチャサービスをアップグレードする

Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスをアップグレードするには、インフラストラクチャサーバーで新しいWorkspace Environment Managementインフラストラクチャサービスのセットアップを実行します。アップグレード手順は、それ以外はインストール手順と同じです。

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードする

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

注:

Windows Server 2022にアップグレードした後、WEMインフラストラクチャサービスが応答しなくなることがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEMデータベースに接続するように構成してください。

手順2：データベースをアップグレードする

重要:

データベースのアップグレードプロセスは元に戻せません。アップグレードプロセスを開始する前に、有効なデータベースバックアップがあることを確認してください。

ヒント:

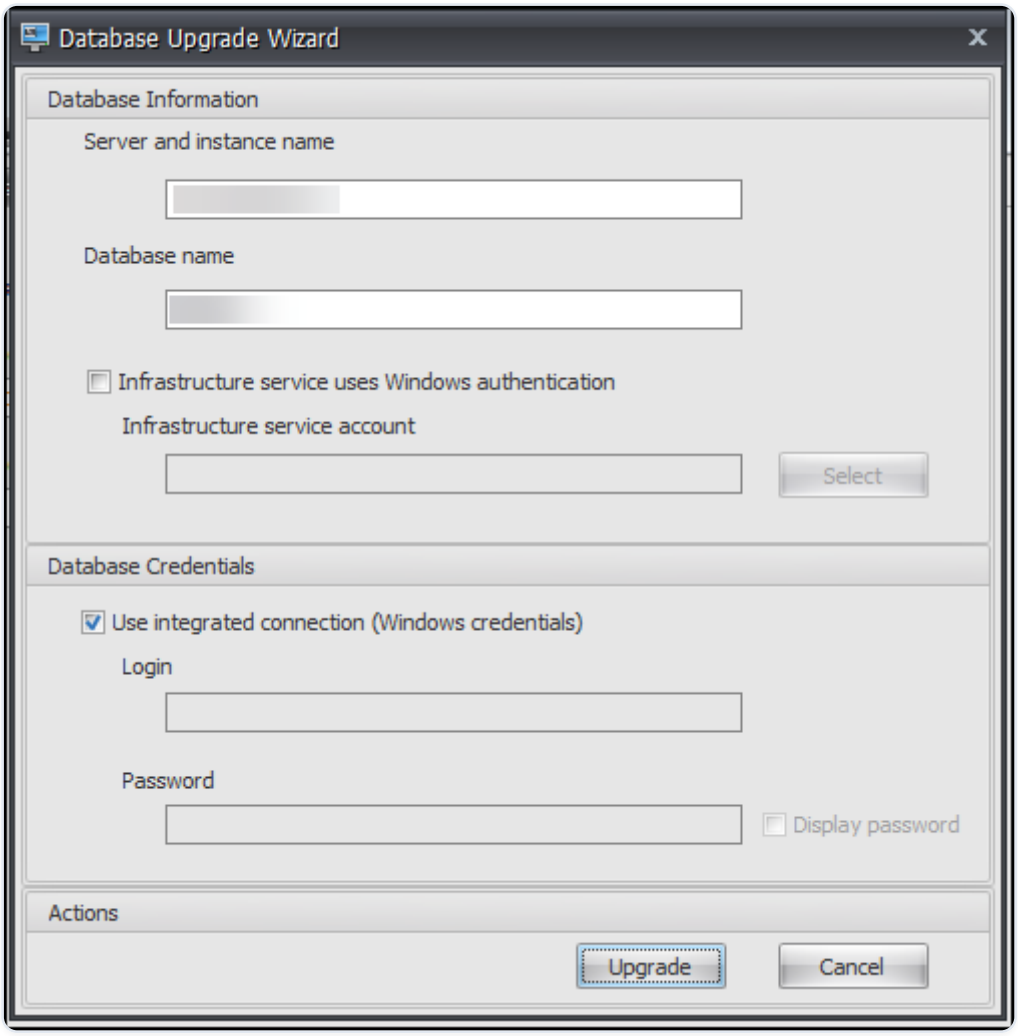
Workspace Environment Management PowerShell SDKモジュールを使用してデータベースをアップグレードすることもできます。SDKドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

データベースを更新するには、**WEM Database Management Utility**を使用します。これは、インフラストラクチャサービスのインストールプロセス中にWorkspace Environment Managementインフラストラクチャサーバーにインストールされます。

注:

SQL Server に Windows 認証を使用している場合は、sysadmin 権限を持つ ID でデータベースアップグレードユーティリティを実行してください。

1. 「**スタート**」メニューから、「**Citrix® > Workspace Environment Management > WEM Database Management Utility**」を選択します。
2. 「**データベースのアップグレード**」をクリックします。
3. データベースアップグレードウィザードで、必要な情報を入力します。



- **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされている SQL Server\インスタンスのアドレス。インフラストラクチャサーバーから入力どおりに到達できる必要があります。
- **データベース名**。アップグレードするデータベースの名前。
- **インフラストラクチャサービスは Windows 認証を使用します**。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。この場合、インフラストラクチャサービスは vuemUser SQL ユーザーアカウントを使用してデータベースに接続します。（vuemUser SQL ユーザーアカウントはインストールプロセス中に作成されます。）SQL インスタンスで混合モード認証が有効になっていることを確認してください。

  選択すると、インフラストラクチャサービスは Windows アカウントを使用してデータベースに接続します。この場合、選択した Windows アカウントは、SQL インスタンスにすでにログインがあってはなりません。つまり、データベースの作成に使用した Windows アカウントと同じアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用しないでください。

gMSA を選択するには、AD ユーザーを選択する場合と同じ手順に従います。gMSA にデータベースの **db-owner** ロールメンバーシップがあることを確認してください。

- **統合接続を使用**。デフォルトでは、このオプションが選択されています。このオプションを使用すると、ウィザードは、ウィザードが実行されている ID の Windows アカウントを使用して SQL Server に接続し、データベースを作成できます。この Windows アカウントにデータベースを作成する十分な権限がない場合は、十分な権限を持つ Windows アカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして、代わりに十分な権限を持つ SQL アカウントを入力してください。

4. 「**アップグレード**」をクリックして、データベースのアップグレードプロセスを開始します。データベースのアップグレードが正常に完了したら、ウィザードを終了します。

データベースのアップグレード中にエラーが発生した場合は、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスインストールフォルダーにある「**VUEM Database Management Utility Log**」ファイルを確認してください。

手順 3：インフラストラクチャサービスを再構成する

WEM Infrastructure Service Configuration ユーティリティを使用して、インフラストラクチャサービスを再構成します。「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。

ステップ 4: 管理コンソールをアップグレードする

> **注:**
>
> 管理コンソールで構成されたすべての Workspace Environment Management 設定は、データベースに保存され、アップグレード中に保持されます。

> 管理コンソールをアップグレードするには、管理コンソールのセットアップ実行可能ファイルを実行します。それ以外の手順は、インストール手順と同じです。

ステップ 5: Web コンソールサービスをアップグレードして再構成する

1. Web コンソールサービスのセットアップ実行可能ファイルを実行して、Web コンソールサービスをアップグレードします。それ以外の手順は、インストール手順と同じです。

2. WEM Web コンソールサービス構成ユーティリティを実行して、Web コンソールサービスを再構成します。

詳しくは、「Web コンソールサービスのインストールと構成」を参照してください。

ステップ 6: エージェントをアップグレードする

重要:

- エージェントをアップグレードする前に、ユーザーがログオンしていないことを確認してください。これにより、アップグレードプロセスがそのマシンのファイルを変更できるようになります。
- WEM インフラストラクチャサービスのバージョンは、WEM エージェントのバージョン以上である必要があります。Citrix は、最新の機能を使用できるように、エージェントを最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

エージェントをアップグレードするには、ターゲットマシンで新しいエージェントのセットアップ実行可能ファイルを実行します。

管理 (Webコンソール)

Webコンソールを使用して、お使いのWorkspace Environment Management™ (WEM) 展開を管理します。

- ホーム
- 構成セット
- ディレクトリオブジェクト
- 監視
- スクリプトタスク
- ファイル

ホーム

このページでは、Workspace Environment Management™ (WEM) の展開の概要と、WEM をすばやく理解して使い始めるために必要な情報を提供します。 インターフェイスは次の4つの部分で構成されています。

- **概要**
- **クイックアクセス**
- **ハイライト**
- **プレビュー機能**

概要

WEM展開の概要を提供します。これには次の情報が含まれます。

- すべての構成セットの合計エージェント数
- ユーザーが最近ログオンしたエージェントマシンの数
- VDAの健全性ステータス

エージェントを詳細に表示するには、**エージェント統計の表示**をクリックして**監視 > 管理 > エージェント**に移動します。ここでは、エージェント情報を表示し、キャッシュの更新、設定のカス

タマイズ、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。詳細については、WEMエージェントを参照してください。

VDAの健全性ステータスを詳細に表示するには、**通常**の下にある**表示**をクリックして正常な状態のVDAに関するレポートを表示するか、**異常**の下にある**表示**をクリックして異常な状態のVDAに関するレポートを表示します。詳細については、レポートを参照してください。

クイックアクセス

WEMが提供する主要機能の一部にすばやくアクセスできます。Webコンソールでは、次の機能が利用可能です。

- **リソース使用率の最適化**。ユーザーのログオン時間を短縮し、アプリケーションの応答性を向上させます。
- **インサイトの取得**。プロファイルコンテナとアプリケーションの動作に関するインサイトを取得できます。
- **スクリプト化されたタスクを構成する**。独自の環境管理ニーズに合わせてスクリプト化されたタスクをカスタマイズできます。

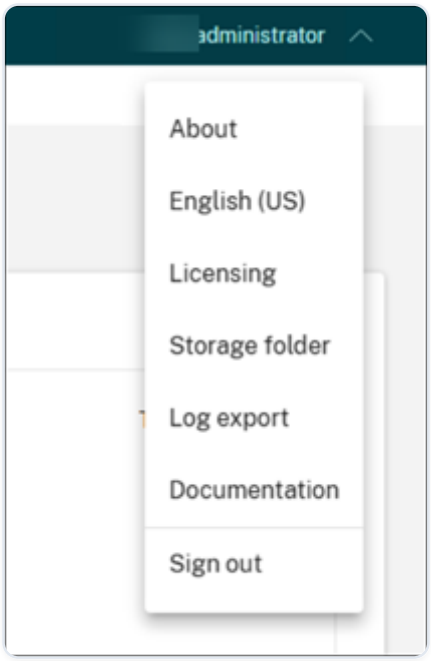
> **ヒント:**
>
> クイックアクセスリンクをクリックすると、適用可能な構成セットを選択するよう求めるウィンドウが表示されます。その後、構成セット内の機能ページに直接移動します。

レガシーコンソールで利用できる機能は次のとおりです。

- **プロファイル管理を最適化する**。すべてのユーザーデスクトップで統一されたエクスペリエンスを提供できます。
- **グループポリシーを割り当てる**。他のアクションを割り当てるのと同じように、グループポリシーオブジェクトを異なるActive Directoryグループに割り当てることができます。
- **エンタープライズセキュリティを適用する**。追加のAppLockerルールを適用することでデスクトップを保護できます。

グローバル構成

グローバル構成は、Webコンソールの右上隅にあるドロップダウンリストです。



機能とその説明は次のとおりです。

- **バージョン情報**。WEMのバージョンと著作権を確認できます。
- **英語 (米国)**。言語を切り替えることができます。
- **ストレージフォルダー**。グローバルストレージフォルダーを定義し、テンプレートベースのGPO、スクリプト化されたタスク、バックアップと復元、およびファイルを使用するには、共有ストレージフォルダーを設定する必要があります。
- **ライセンス**。Citrixライセンスサーバーの接続詳細を表示または構成できます。
- **ログのエクスポート**。インフラストラクチャサービスとWebコンソールのログをGrafanaやSplunkなどのサードパーティプラットフォームにエクスポートできます。

  それを有効にするには、「**Create Destination**」をクリックし、ログプラットフォームに必要な情報を入力します。たとえば、URL、ユーザー名、キーなどです。その後、「**Done**」をクリックします。
- 「**Documentation**」。WEMのドキュメントを表示できます。
- 「**Sign out**」。現在のアカウントからサインアウトできます。

ハイライト

WEMが提供する主要な機能を表示します。Webコンソールで利用可能な機能は次のとおりです。

- CPU管理
- スクリプト化されたタスク

レガシーコンソールで利用可能な機能は次のとおりです。

- 特権昇格
- 外部タスク

プレビュー機能

現在プレビュー中の機能を表示します。プレビュー機能を表示するには、コンソールの右上隅にあるプレビュー機能アイコンをクリックします。新しいプレビュー機能が利用可能になるたびに、赤い点が表示されます。表示するプレビュー機能がない場合、次のツールヒントが表示されます: `No preview features to show at the moment`。

プレビュー機能は完全にローカライズされていない可能性があり、非本番環境での使用が推奨されます。プレビュー機能で見つかった問題は、Citrixテクニカルサポートの対象外です。

プレビュー機能を有効または無効にした後、変更を有効にするには、ブラウザウィンドウを更新してください。

構成セット

このページでは、構成セットを管理できます。構成セットは、Workspace Environment Management™ (WEM) 構成のセットを整理するために使用される論理コンテナです。次の操作を実行できます。

- 構成セットを追加する
- 構成セットを編集または削除する
- 構成セットをお気に入りに追加する
- 構成セットの設定を構成する
- 現在の構成のバックアップコピーを保存する
- WEM サービス構成の以前にバックアップされたバージョンに戻す
- 検索ボックスを使用して構成セットを検索する
- 構成リストを更新する

組み込みの構成セットは2つあります。

- **Default Site**。組み込みのWEM構成セットです。
- **Unbound Agents**。組み込みのWEM構成セットです。どの構成セットにもバインドされていないエージェントでのみ使用できます。この構成セットの設定をそれらのエージェントに適用するには、**Directory Objects > Advanced settings** に移動します。

注:

- **Default Site** は削除できません。必要に応じて、名前と説明を変更できます。
- **Unbound Agents** は削除または編集できません。**Edit configuration set** オプションは使用できません。

構成セットを追加する

ディレクトリオブジェクト（ユーザー、マシン、グループ、OU）に設定を適用するために、構成セットを作成します。これを行うには、次の手順を実行します。

1. **構成セット**ノードで、**構成セットの追加**をクリックします。
2. 構成セットの名前を入力します。
3. 構成セットを識別しやすくするための説明を入力します。
4. 「**保存**」をクリックします。

構成セットを編集または削除する

構成セットを編集または削除するには、次の手順を実行します。

1. **構成セット**ノードで、構成セットを見つけます。
2. 構成セットをクリックします。構成セットの詳細ビューが表示されます。
3. 右上隅にある**構成セットの編集**をクリックします。
4. 名前と説明を編集するか、**構成セットの削除**をクリックします。

構成セットをお気に入りに追加する

構成セットをお気に入りに追加するには、次の手順を実行します。

1. **構成セット**ノードで、構成セットを見つけます。
2. 構成セットをクリックします。
3. 右上隅で、**お気に入りに追加**をクリックします。

注:

- 最大5つの構成セットをお気に入りに追加できます。
- お気に入りは管理者ごとに保存されます。

構成セットの設定を構成する

構成セットの設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. **構成セット**ノードで、構成セットを見つけます。
2. 構成セットをクリックします。
3. 必要に応じて設定を構成します。

構成セットに対して、次の設定を構成できます。

- システム最適化
- 詳細設定
- スクリプトタスク設定

バックアップと復元

バックアップと復元ページには、既存のバックアップのリストが表示されます。バックアップには、自動バックアップと手動バックアップ（構成セットと設定）の2種類があります。自動バックアップと手動バックアップは、**コンテンツタイプ**列で区別できます。

各バックアップに対して、次の操作を実行できます。

- **復元**。バックアップから構成を復元できます。バックアップから構成を復元すると、選択した構成セットに関連するすべての設定がバックアップからの設定に置き換えられます。

  注:

  - 構成セットにプロファイル管理設定を復元するには、その構成セットの**プロファイル > プロファイル管理設定**ページでクイックセットアップ機能を使用することもできます。
  - バックアップからプロファイル管理設定を復元すると、関連サービスが使用するために選択されたSMB共有も復元されます。

- **ダウンロード**。バックアップのコピーをローカルマシンに保存できます。バックアップはブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。バックアップファイルはJSON形式です。
- **削除**。既存のバックアップを削除できます。

次の操作も実行できます。

- **アップロード**ボタンの横にある更新アイコンをクリックして現在のページを更新します
- 構成ファイルをアップロードする
- 自動バックアップを管理する
- 構成セットをバックアップする
- プロファイル管理設定をバックアップする

構成ファイルをアップロードする

以前のバックアップに戻すために使用するJSONファイルをアップロードできます。JSONファイルには、構成セットまたはプロファイル管理設定を含めることができます。

ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. **アップロード**をクリックします。**バックアップファイルのアップロード**ウィザードが表示されます。
2. 「**参照**」をクリックし、アップロードするファイルを参照して選択し、「**開く**」をクリックします。「**バックアップファイルのアップロード**」ウィザードに戻ります。
3. ファイルの名前を指定します。
4. 「**アップロード**」をクリックしてアップロードを開始します。

> **注:**
>
> - JSONファイルのみアップロードできます。
> - サイズが5 MB未満のファイルのみアップロードできます。

自動バックアップの管理

構成セットのバックアップを自動的に保存できます。この機能は、最も古い既存のファイルを上書きし始める前に、各構成セットに対して最大25個のバックアップファイルを保存することをサポートしています。構成セットに関連する以下の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

自動バックアップを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「**自動バックアップの管理**」をクリックします。「**自動バックアップの管理**」ウィザードが表示されます。
2. 自動的にバックアップする構成セットを見つけます。
3. その構成セットに対して、次の3つのオプションのいずれかを選択します。
    - **未構成**。選択すると、WEM は自動的にバックアップしません。
    - **毎日**。選択すると、WEM は毎日バックアップを実行します。
    - **毎週**。選択すると、WEM は毎週月曜日にバックアップを実行します。
4. 必要に応じて、他の構成セットについても、構成セットを見つけて上記の 3 つのオプションのいずれかを選択する手順を繰り返します。
5. **保存**をクリックして変更を保存し、ウィザードを終了します。

構成セットをバックアップする

> **重要:**

> 手動バックアップの数はアカウントごとに 25 に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

> 構成セットのバックアップコピーを保存し、そのバックアップを復元目的で使用できます。構成セットに関連する次の項目をバックアップできます。

- アクション
- アプリケーションセキュリティ、特権昇格、およびプロセス階層制御
- 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
- フィルター
- スクリプト化されたタスク設定

- ユーザー
- WEM 設定

構成セットに関連する次の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

構成セットをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. **バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ウィザードが表示されます。
2. ターゲットの構成セットを選択します。
3. リストからバックアップする構成セットを選択します。
4. バックアップの名前を指定します。
5. 必要に応じて、**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**を選択して、バックアップをローカルに保存します。

   > **注:**
   >
   > バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

6. **バックアップ**をクリックして、バックアップを開始します。

Profile Management設定のバックアップ

> **重要:**
>
> 手動バックアップの数はアカウントごとに25個に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除してから再試行してください。

Profile Management設定をバックアップするには、次の手順を実行します。

1. **バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ウィザードが表示されます。
2. ターゲットの構成セットを選択します。

3. **バックアップする内容**リストから**設定**を選択します。
4. **プロファイル管理設定**を選択します。
5. バックアップの名前を指定します。
6. 必要に応じて、バックアップをローカルに保存するには、**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。

> **注:**
>
> バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

7. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始します。

アクション

> **ヒント:**
>
> - WEMアクションを拡張してより強力にするために、動的トークンを使用できます。
> - Citrix Environment Tool Hubからコピーしたデータを Webコンソールに貼り付けるには、ブラウザがデータコピーを許可していることを確認してください。例: Microsoft Edgeの場合、**サイトのアクセス許可 > クリップボード > サイトがクリップボードにコピーされたテキストと画像を表示しようとしたときに確認する**オプションが有効になっていることを確認してください。

Workspace Environment Management™ (WEM) は、使いやすいアクションを提供することで、ワークスペース構成プロセスを効率化します。割り当てを使用して、アクションをユーザーが利用できるようにすることができます。WEMは、割り当てをコンテキスト化するためのフィルターも提供します。

グループポリシー設定

> **重要:**

- Workspace Environment Management (WEM) は現在、`HKEY_LOCAL_MACHINE`および`HKEY_CURRENT_USER`レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

Active Directory管理者が**グループポリシーの管理**コンソールを使用してグループポリシーオブジェクト (GPO) を管理するのではなく、WEMを介してGPOを展開できます。

開始する前に、**グループポリシー**設定を追加またはインポートします。次に、GPOの形式でユーザーに割り当てることで設定を展開します。各GPOの割り当ては、割り当てるターゲットを指定することで管理できます。

この機能が有効な場合:

- 設定を構成できます。
- WEMエージェントはグループポリシー設定を処理できます。

この機能が無効な場合:

- グループポリシー設定を構成できません。
- WEMエージェントは、グループポリシー設定がすでにユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、それらを処理しません。

注:

WEMエージェントがグループポリシー設定を適切に処理および適用するには、Citrix WEM User Logon Serviceが有効になっていることを確認してください。

レジストリベースの設定

このタブを使用して、レジストリ操作を構成することでWindowsの設定を構成します。

構成セットの**アクション > グループポリシー設定 > レジストリベース**で、次の操作を実行できます。

- レジストリベースのグループポリシー設定をWEMにインポートします。
- GPOを作成します
- GPOリストを更新します
- GPOを表示します

- GPOを編集します
- GPOの割り当てを管理します
- GPOをクローンします
- GPOを削除します

> **警告:**
>
> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、または削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならない可能性があります。

グループポリシー設定のインポート

GPOのバックアップまたはエクスポートされたレジストリファイルを含むzipファイルからGPOをインポートできます。

レジストリファイルから設定をインポートする場合、Windowsレジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当てのためにGPOに変換できます。開始する前に、次の点に注意してください。

- zipファイルから設定をインポートする場合、そのファイルには1つ以上のレジストリファイルを含めることができます。
- 各 .reg ファイルは GPO に変換されます。変換された各 GPO は、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。
- 変換された各 GPO の名前は、対応する .reg ファイルの名前に基づいて生成されます。例: .reg ファイルの名前が `test1.reg` の場合、変換された GPO の名前は `test1` です。
- この機能は、.reg ファイルで定義するレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートしています。.reg ファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>` を参照してください。
- 変換された GPO の説明は空です。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**インポート**をクリックします。
2. ファイルの種類を選択します。

- **GPO バックアップファイル**。GPO バックアップファイルから設定をインポートする場合は、このオプションを選択します。グループポリシー設定をバックアップする方法については、グループポリシー設定のバックアップ を参照してください。
- **エクスポートされたレジストリファイル**。Windows レジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリファイルから設定をインポートする場合は、このオプションを選択します。

3. **参照**をクリックして、zip ファイルに移動します。

> **注:**
>
> アップロードできるファイルは、サイズが 10 MB を超えないもののみです。

4. 同じ名前の既存の GPO を上書きするかどうかを選択します。
5. **インポート**をクリックして、インポートプロセスを開始します。

インポートが正常に完了すると、インポートされた GPO が**レジストリベース**タブに表示されます。

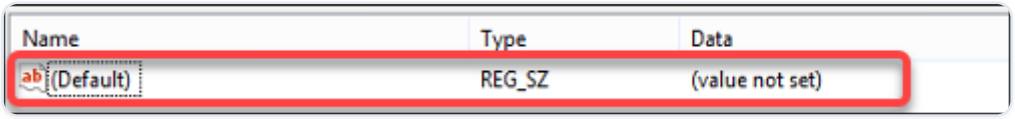
GPO を作成する

GPOを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**GPOの作成**をクリックします。
2. GPOの名前を指定します。
3. 必要に応じて、GPOを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. **追加**をクリックしてレジストリ操作を追加します。次の設定が利用可能になります。

- **アクション**。レジストリキーのアクションの種類を指定できます。
  - **値の設定**。レジストリキーの値を設定できます。
  - **値の削除**。レジストリキーの値を削除できます。
  - **キーの作成**。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定されたキーを作成できます。
  - **キーの削除**。レジストリキーの下のキーを削除できます。
  - **すべての値の削除**。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。
- **ルートキー**。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。

- **サブパス**。ルートキーを含まないレジストリキーの完全なパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーの完全なパスである場合、`Software\Microsoft\Windows` がサブパスです。
- **名前**。レジストリ値の名前を指定できます。次の図で強調表示されている項目全体がレジストリ値です。**名前**フィールドを空白のままにすると、そのキーの既定値として設定されます。



- **種類**。値のデータ型を指定できます。
  - **REG_SZ**。この種類は、人間が判読できるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
  - **REG_EXPAND_SZ**。この種類は、アプリケーションによって呼び出されたときに置き換えられる変数を含む、展開可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」はオペレーティングシステム内のフォルダーの実際の場所に置き換えられます。
  - **REG_BINARY**。任意の形式のバイナリデータ。
  - **REG_DWORD**。32ビットの数値。この種類は、ブール値によく使用されます。たとえば、*0* は無効を意味し、*1* は有効を意味します。
  - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の32ビット数値。
  - **REG_QWORD**。64ビットの数値。
  - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の64ビット数値。
  - **REG_MULTI_SZ**。この種類は、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用される複数文字列です。各エントリはヌル文字で区切られます。
  - **REG_NONE**。事前定義されたデータ型カテゴリに当てはまらないレジストリ値を構成できます。
- **データ**。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力する必要がある場合があります。

5. 完了したら、次をクリックします。

- **完了**。このアクションでGPOの作成が完了します。
- **保存して割り当て**。このアクションでGPOの作成が完了し、**割り当て**ページが開きます。このページで、作成したGPOの割り当てを続行できます。

GPOの表示

WEM グループポリシー設定とGPOの概要を、GPOを編集せずに読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

GPOを表示するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで をクリックします。
2. 名前、説明、およびレジストリ操作を表示します。
3. 完了したら、 をクリックします。

GPOを編集する

GPOを編集するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで をクリックします。
2. 名前と説明を編集します。レジストリキー値を作成または更新する際に、 フィールドを空白のままにすると、そのキーのデフォルト値として設定されます。
3. 必要に応じて、次の操作を行います。
    - をクリックしてレジストリ操作を追加します
    - レジストリ操作を選択して編集します
    - レジストリ操作を選択して削除します
    - レジストリ操作を下に移動するか、上に移動します。または、レジストリ操作を選択し、6つの点のアイコンをクリックして、目的の位置にドラッグします。
4. 完了したら、 をクリックします。

> **注:**

> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを編集するとそれらのユーザーに影響します。

GPOの割り当てを管理する

GPOをさまざまなADグループに割り当てることができます。グループにはユーザーとマシンを含めることができます。関連するマシンがグループに属している場合、マシンレベルの設定が有効になります。現在のユーザーがグループに属している場合、ユーザーレベルの設定が有効になります。

> **ヒント:**
>
> マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーはログオフして再度ログオンする必要があります。

GPOの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. GPOを作成したら、**保存して割り当て**ボタンをクリックして作成を完了し、次の手順に進みます。
2. GPOを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。
3. GPOを割り当てる割り当てターゲット（ユーザー、グループ、OU）を選択します。

   > **注:**
   >
   > GPOをマシンに割り当てる際は、マシンがOUまたは関連するセキュリティグループのいずれかに存在することを確認してください。

   - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
4. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化し、各ターゲットのGPOの優先度を設定します。

   > **ヒント:**
   >
   > フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザー設定とマシン設定で構成されます。一部のフィルター条件はユーザー設定にのみ適用されます。これらの条件をマシン設定に適用すると、WEMエージェントは設定を割り当てる前にフィルターを評価する際にそれらをスキップします。マシン設定に適用されない条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」を参照してください。
5. 各タイルにある省略記号アイコンをクリックし、必要に応じて次の操作を行います。

   - **構成のコピー**。割り当ての構成をコピーできます。

- **構成の貼り付け**。他の構成からコピーした構成を貼り付けることができます。
- **この構成をすべてのターゲットに適用**。割り当ての構成をすべてのターゲットに適用できます。

6. 完了したら、**保存**をクリックします。

GPOを複製する

GPOを複製するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**複製**をクリックします。
2. 名前と説明を編集します。
3. GPOの複製先となる構成セットを選択します。
4. **複製**をクリックして、複製プロセスを開始します。

GPOを削除する

GPOを削除するには、GPOを選択し、アクションバーで**削除**をクリックします。

> **注:**
>
> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

テンプレートベースの設定

このタブを使用して、グループポリシー管理用テンプレートを使用してWindowsの設定を構成します。マシンレベルとユーザーレベルでGPOを構成できます。

構成セットの**アクション > グループポリシー設定 > テンプレートベース**で、次の操作を実行できます。

- テンプレートを使用してGPOを作成します。
- テンプレートを管理します。
- テンプレートをインポートします。
- GPOリストを更新します。
- GPOを編集します。
- GPOの割り当てを管理します。
- GPOを複製します。

- GPOを削除します。

テンプレートを使用してGPOを作成する

テンプレートを使用してGPOを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**GPOの作成**をクリックします。
2. **基本情報**で:
    - GPOの名前を指定します。
    - 必要に応じて、GPOを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
3. **コンピューターの構成**で、マシンに適用するポリシーを構成します（誰がログオンしても関係ありません）。
4. **ユーザーの構成**で、ユーザーに適用するポリシーを構成します（どのマシンにログオンしても関係ありません）。
5. 「**概要**」で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、「**完了**」をクリックします。

「**コンピューターの構成**」と「**ユーザーの構成**」で、設定を選択して構成します。ポリシーはツリー表示とリスト表示で表示できます。リスト表示では、ポリシーはアルファベット順に並べ替えられ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス（テキストまたは数値として入力）、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、MicrosoftからGPOリファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートの管理

テンプレートを管理するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、「**テンプレートの管理**」をクリックします。
2. 「**テンプレートの管理**」ウィザードで：

- 「**コンピューターの構成**」を選択して、マシンに適用するポリシーを構成します（誰がログオンしているかに関係なく）。
- 「**ユーザーの構成**」を選択して、ユーザーに適用するポリシーを構成します（どのマシンにログオンしているかに関係なく）。

1. 完了したら、「**完了**」をクリックします。

「**コンピューターの構成**」と「**ユーザーの構成**」で、設定を選択して構成します。ポリシーはツリー表示とリスト表示で表示できます。リスト表示では、ポリシーはアルファベット順に並べ替えられ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス（テキストまたは数値として入力）、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、MicrosoftからGPOリファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートのインポート

> **重要:**

> テンプレートとして使用するためにADMXファイルをWEMにインポートする際は、zipファイル内のすべての.admlファイルが同じ言語であることを確認してください。

> ADMXファイルをWEMにインポートしてテンプレートとして使用できます。その後、それらのテンプレートを使用してGPOを作成します。テンプレートをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、 をクリックします。
2. ウィザードで、 をクリックします。
3. ADMXファイルを含むzipファイルを参照し、既存のテンプレートと同じ名前のテンプレートがファイルに含まれている場合の動作を決定します。
   - 。インポートをキャンセルします。
   - 。
   - 。上書きすると、既存のテンプレートから派生した関連設定が変更される可能性があります。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、それらのGPOを編集すると、関連設定は失われます。
4. をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. 完了したら、 をクリックして ウィザードに戻ります。
6. そこでテンプレートを管理するか、 をクリックして終了します。

インポートしたテンプレートファイルの管理方法については、「ファイル」を参照してください。そこで管理する際は、次の点を考慮してください。

- GPO管理用テンプレートファイルを削除すると、現在のテンプレートから関連設定が削除されます。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、それらのGPOを編集すると、関連設定は失われます。

GPOの表示

GPOを編集せずに、WEMグループポリシー設定とGPOの概要を読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクがなくなります。

GPOを表示するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**表示**をクリックします。
2. 名前、説明、および構成を表示します。
3. 完了したら、**閉じる**をクリックします。

GPOを編集する

GPOを編集するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**編集**をクリックします。
2. **基本情報**で、名前と説明を編集します。
3. **コンピューター構成**で、マシンポリシーを編集します。
4. **ユーザー構成**で、ユーザーポリシーを編集します。
5. **概要**で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、**保存**をクリックします。

> **注:**
>
> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを編集するとそれらのユーザーに影響します。

GPOの割り当てを管理する

テンプレートを使用して作成されたGPOの割り当ては、レジストリベースのGPOと同様に管理できます。詳細については、「GPOの割り当てを管理する」を参照してください。

GPOのクローンを作成する

GPOのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで をクリックします。
2. GPOをレジストリベースのGPOとしてクローンするか、テンプレートベースのGPOとしてクローンするかを決定します。

> **注:**
>
> レジストリベースとしてクローンされると、GPOはレジストリ値に変換され、 タブに表示されます。変換された各GPOは、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。

3. 名前と説明を編集します。
4. GPOのクローンを作成する構成セットを選択します。
5. をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPOを削除する

GPOを削除するには、GPOを選択し、アクションバーで をクリックします。

> **注:**
>
> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

アプリケーション

この機能を使用すると、ユーザーに割り当てるアプリケーションを追加できます。割り当てられると、それらのアプリケーションのショートカットは、構成に応じて、デスクトップ、スタートメニュー、またはタスクバーに作成されます。

> **ヒント:**
>
> Citrix DaaSのフル構成管理コンソールを使用して、アプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe** は、Citrix DaaSおよびCitrix Virtual Apps and Desktopsで公開されたアプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Managementエージェントが環境の処理を完了するこ

とを保証します。詳細については、「フル構成管理インターフェイスを使用したアプリケーション設定の編集」を参照してください。

次の操作を実行できます。

- アプリケーションを追加します。
- アプリケーションリストを更新します。
- アプリケーションを編集して、そのプロパティを管理します。
- アプリケーションの割り当てを管理します。
- アプリケーションを複製します。
- アプリケーションを削除します。
- スタートメニュービューに切り替えます。
- エージェントがアプリケーションを処理する方法を指定します。

アプリケーションを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > アプリケーション**に移動して、**アプリケーションの追加**をクリックします。アプリケーションの追加を参照してください。
2. 追加したアプリケーションを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。アプリケーションの割り当てを管理するを参照してください。

割り当てが有効になるまでには、詳細設定で指定したSQL設定の更新遅延の値に応じて時間がかかります。割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Webコンソール > 監視 > 管理 > エージェント > 統計**に移動し、エージェントを選択します。
2. アクションバーで**その他**をクリックし、**エージェント > エージェントホスト設定の更新**を選択します。

重要:

- エージェントがアクションを処理するには、次の設定が有効になっていることを確認します。
    - ログオン時にエージェントを起動する（ログオン時のアクションを処理するため）

    - 再接続時にエージェントを起動する（再接続時のアクションを処理するため）
    - デスクトップ互換モードを有効にする
- これらの設定は、レガシーコンソール > 詳細設定 > 構成 > メイン構成 > エージェントサービスアクション で確認できます。

アプリケーションを追加する

アプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「**アプリケーション**」で、「**アプリケーションの追加**」をクリックします。
2. 「**基本情報**」ページで、次の設定を構成します。
    - **名前**。アプリケーションを識別しやすい名前を指定します。
    - **説明**。アプリケーションに関する追加情報を指定します。
    - **状態**。アプリケーションを有効または無効にするか、メンテナンスモードにします。メンテナンスモードの場合、アプリケーションは使用できません。そのショートカットアイコンには、使用できないことを示す警告サインが含まれています。
    - **アプリケーションの種類**。ショートカットが開くアプリケーションの種類を指定します。ユーザーインターフェイスは、選択内容によって異なります。
        - **インストール済みアプリケーション**。ユーザーのマシンにインストールされているアプリケーションを開くショートカットを作成します。選択すると、次の項目を完了するように求められます。
            - **アプリケーションパス**。ユーザーのマシンにあるアプリケーションのフルパスを入力します。
            - **作業フォルダー**。ユーザーのマシン上のフォルダーへのフルパスを、アプリケーションの作業フォルダーとして入力します。このフィールドは、**アプリケーションパス**フィールドにフルパスを入力すると自動的に入力されます。
            - **パラメータ**。必要に応じて、アプリケーションの起動パラメータを入力します。
    - **ファイルまたはフォルダ**。ユーザーがショートカットアイコンをクリックしたときに、ユーザーのマシン上のターゲットファイルまたはフォルダを開くショートカットを作成できます。選択した場合、以下を完了するように求められます。
        - **パス**。ターゲットファイルまたはフォルダへのフルパスを入力します。

- **URL**。アプリケーションのURLを追加できます。選択した場合、以下を完了するように求められます。
  - **アプリケーションURL**。アプリケーションのURLを入力します。
- **Citrix Workspace™リソース**。Citrix Workspaceからアプリケーションを追加できます。選択した場合、以下を完了するように求められます。
  - **ストアURL**。アプリケーションショートカットから起動したいリソースを含むStoreFront™またはWorkspaceストアのURLを入力します。

> **注:**
>
> エージェントマシン上でSaaSアプリまたは**Citrix Workspace (Storefront)リソース**タイプの特定のアプリケーションを開くことはできません。

  - **リソース**。ターゲットのWorkspaceリソースを参照するには、**Citrix Environment Tool Hub > Application Assistant**を使用します。**Paste resource info**をクリックしてリソース情報をコピーし、ここに貼り付けます。**Open Application Assistant**をクリックして、Citrix Environment Tool Hub（インストールされている場合）を開きます。Citrix Environment Tool Hubをダウンロードするには、**Citrix Cloud > WEM service > Utilities**に移動します。詳細については、Citrix Environment Tool Hubを参照してください。

3. **オプション**ページで、次の設定を構成します。

- **アプリケーションアイコン**。**変更**をクリックして、別のアイコンを選択するか、新しいアイコンを追加します。
  - 新しいアイコンを追加するには、.icoファイルを参照するか、**Citrix Environment Tool Hub > Application Assistant**からコピーしたアイコンデータを貼り付けます。WEMは最大100個のアイコンの保存をサポートしています。詳細については、Citrix Environment Tool Hubを参照してください。
- **ユーザーのデスクトップ上のアイコン位置を設定**。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットのターゲット位置を指定します。値はピクセル単位です。移動した場合、ショートカットは次回のログオン時に指定された位置に戻ります。
- **表示名**。ショートカットの名前を指定します。その名前はユーザー環境に表示されます。

- **スタートメニュー統合**。**変更**をクリックして、スタートメニューの左側にアプリケーションショートカットを作成する場所を指定します。デフォルトでは、新しいショートカットは**プログラム**に作成されます。**スタートメニュー統合**ウィンドウで、次のことができます。
  - ショートカット用のカスタムフォルダーを作成します。
  - アプリケーションのショートカットがスタートメニューフォルダーのどこに配置されるかを指定します。
  - カスタムフォルダーの名前を変更します。

> **注:**
>
> カスタムフォルダーを削除するには、**Applications** の **Start menu view** に移動します。「スタートメニュービューに切り替える」を参照してください。

- **ウィンドウのスタイル**。アプリケーションがユーザーのマシンで最小化 (タスクバーに最小化)、通常 (通常の画面表示)、または最大化 (全画面表示) のいずれのウィンドウで開くかを指定します。
- **ホットキー**。ホットキーを設定するには、入力フィールドをクリックしてキーの組み合わせを押します。または、次の形式で組み合わせを入力します (例): Ctrl + Alt + S
- **自動復元を有効にする**。有効にすると、エージェントは更新時にショートカットを自動的に再作成します (移動または削除された場合)。
- **エージェントメニューからアプリケーションを非表示にする**。ユーザーのマシンからアクセスできるエージェントメニューでアプリケーションを表示するか非表示にするかを指定します。
- **ユーザーのお気に入りフォルダーにショートカットを作成する**。ユーザーのお気に入りフォルダーにアプリケーションのショートカットを作成するかどうかを指定します。

4. 完了したら、**Done** をクリックして保存し、終了します。

アプリケーションを編集する

アプリケーションを編集するには、次の手順を実行します。

1. **Applications** で、アプリケーションを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してアプリケーションをすばやく見つけます。
2. アクションバーで **Edit** をクリックします。

3. **Basic information** および **Options** ページで、必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

アプリケーションの割り当てを管理する

アプリケーションの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. アプリケーションを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。

- 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
- ターゲットを構成して、使用するフィルターとアプリケーションショートカットを作成する場所を指定します。
    - デスクトップショートカットを作成する
    - スタートメニューに追加する
    - スタートメニューにピン留めする
    - クイック起動に追加する
    - Windowsのスタートアップに追加する
    - タスクバーにピン留めする

1. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
    - フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
2. 完了したら、**完了**をクリックします。

アプリケーションのクローンを作成する

> **注:**
>
> 割り当てはクローンされません。

アプリケーションのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。

3. アプリケーションのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローン作成プロセスを開始します。

アプリケーションを削除する

アプリケーションを削除するには、アプリケーションを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> アプリケーションがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

メニュービューに切り替える

メニュービューに切り替えるには、 **メニュービュー**をクリックします。このビューには、各アプリケーションが メニューフォルダー内のどこにあるかが表示されます。次のことができます。

- カスタムフォルダーを作成します。
- アプリケーションを目的のフォルダーに移動します。
- カスタムフォルダーの名前を変更します。
- カスタムフォルダーを削除します。カスタムフォルダーを削除すると、そのフォルダー内のアプリケーションも削除されます。

エージェントがアプリケーションを処理する方法を指定する

処理:

- ログオン時および更新時にアプリケーションを処理する
- 再接続時にアプリケーションを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップからアプリケーションを削除する
- アプリケーションの処理を強制する
- アプリケーションのフィルター処理を強制する

StoreFront:

- StoreFront URLを追加し、必要に応じてその説明を入力します。「Citrix Workspaceリソース」タイプのアプリケーションを追加する際に、このURLが必要です。アプリケーションの追加を参照してください。

外部タスク

> **ヒント:**

> 外部タスクはユーザーセッションレベルで動作します。マシンレベルでタスクを実行するには、代わりにスクリプトタスクを使用してください。

> この機能を使用すると、ユーザーに割り当てる外部タスクを作成できます。外部タスクはユーザーセッションレベルで動作し、スクリプトまたはアプリケーションにすることができます。ターゲットエージェントマシンに、それらを実行するために必要なプログラムがあることを確認してください。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** および **.cmd** スクリプトがあります。

外部タスクを実行するタイミングを指定することで、ユーザー環境を正確かつ効果的に管理できます。

以下の操作を実行できます。

- 外部タスクを作成する
- 外部タスクを編集、複製、および削除する
- 外部タスクの割り当てを管理する
- 外部タスクリストを更新する
- スクリプトベースの外部タスクのレポートを有効にして表示する(#enable-and-view-reports-for-script-based-external-tasks)

> **ヒント:**

> **状態**列のトグルを使用して、外部タスクをすばやく有効または無効にできます。タスクを有効にするには、少なくとも1つのトリガーを構成します。

外部タスクを作成する

タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. **外部タスク**で、**外部タスクの作成**をクリックします。
2. **タスク**タブで、次の設定を構成します。

- **名前**。タスクを識別しやすいように名前を指定します。
- **説明**。タスクに関する追加情報を指定します。
- **このタスクを有効にする**。タスクが有効か無効かを制御します。無効になっている場合、タスクがユーザーに割り当てられていても、エージェントはタスクを処理しません。
- **タスクの詳細**
  - **スクリプトの実行**。サポートされているスクリプトの種類（ファイルの種類）は、**.ps1**、**.vbs**、**.cmd**、**.bat**、**.py** です。「**コンテンツの表示**」を選択してスクリプトを表示したり、「**置換**」をクリックしてスクリプトを置き換えたりできます。ただし、スクリプトが1MBより大きい場合、または無効なファイル/スクリプト形式を選択した場合は、エラーがスローされます。
    - **スクリプトの実行に使用するプログラム**。スクリプトの実行に使用するプログラムへのパスを入力します。このフィールドは、アップロードされたスクリプトが **.py**ファイル拡張子を持つPythonスクリプトの場合にのみ表示されます。
    - **引数**。引数を入力します。このエントリはオプションです。
    - **作業フォルダー**。作業フォルダーを入力します。このエントリもオプションです。
  - **コマンドの実行**。
    - **パス**。タスクへのパスを入力するか、タスクを参照します。パスはユーザー環境で解決されます。以下を確認してください。
      - ここで指定したパスがターゲットエージェントマシンと一致していること。
      - ターゲットエージェントマシンに、タスクを実行するための対応するプログラムがあること。
    - **引数**。起動パラメーターまたは引数を指定します。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれます。「**パス**」フィールドと「**引数**」フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。このエントリはオプションです。
    - **作業フォルダー**。作業フォルダーを入力します。このエントリもオプションです。
- **タスク設定**
  - **非表示で実行**。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。
  - **1回実行**。選択すると、WEMは「**トリガー**」でどのオプションを選択したか、およびエージェントが再起動したかどうかにかかわらず、タスクを1回だけ実行します。

- **実行順序**。複数のタスクがユーザーに割り当てられており、一部のタスクが他のタスクの正常な実行に依存している場合、このオプションを使用します。実行順序の値が0のタスクが最初に実行され、次に値が1のタスク、次に値が2のタスクというように実行されます。
- **タスクの完了を待機**。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定します。デフォルトでは、「**待機タイムアウト**」の値は30秒です。タスクがスクリプトベースの場合、「**タスク出力レポートの収集**」を選択して、タスクから出力データを収集できます。

3. 「**トリガー**」タブで、タスクに関連付けるトリガーを選択します。

> **注:**
>
> すべてのトリガーを外部タスクに関連付けることはできません。「考慮事項」を参照してください。

- **新しいトリガーを作成**します。「トリガーの作成」を参照してください。
- **このタスクに適用されるトリガーのみを表示**します。タスクに適用されないトリガーを除外します。

4. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

考慮事項

外部タスクはセッションレベルで機能します。外部タスクには、次のトリガーのみを関連付けることができます。タスクでサポートされているトリガーを一覧表示する、トリガーのサポートマトリックスの表を参照してください。

	スクリプトタスク	外部タスク
エージェントの更新		X
再接続		X
ログオン		X
ログオフ		X
切断		X

	スクリプトタスク	外部タスク
ロック		X
ロック解除		X
マシンの起動	X	
マシンのシャットダウン	X	
スケジュール済み	X	X
プロセス開始		X
プロセス終了		X
Windowsイベント	X	X
クラウドヘルスチェック結果	X	
プロファイル管理ヘルスチェック結果	X	
カスタムスクリプトタスク	X	

- 組み込みトリガー:
  - **エージェントの更新**
  - **再接続**
  - **ログオン**
  - **ログオフ**
  - **切断**
  - **ロック**
  - **ロック解除**
  - **マシンの起動**
  - **マシンのシャットダウン**
- Windowsトリガー:
  - **イベント**

- スケジュールされたトリガー:
- ユーザープロセス トリガー:
  - **プロセス開始**
  - **プロセス終了**

再接続組み込みトリガーを使用する場合、次の点を考慮してください:

- WEMエージェントが物理Windowsデバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。

切断、ロック、およびロック解除トリガーを使用する場合、次の点を考慮してください:

- 切断、ロック、ロック解除の実装はWindowsイベントに基づいています。一部の環境では、これらのオプションが期待どおりに機能しない場合があります。たとえば、Windows 10またはWindows 11のシングルセッションVDAで実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに、ロックオプションを使用してください。(このシナリオでは、受信するアクションは「ロック」です。)
- これらのトリガーはUIエージェントと組み合わせて使用することをお勧めします。理由は2つあります:
  - CMDエージェントと組み合わせて使用すると、対応するイベントが発生するたびにエージェントがユーザー環境で起動し、外部タスクが実行されるかどうかを確認します。
  - CMDエージェントは、同時タスクのシナリオでは最適に機能しない可能性があります。

ユーザープロセス トリガーを使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを供給し、プロセスが終了したときにそれらのリソースを取り消す外部タスクを定義できます。外部タスクのトリガーとしてプロセスを使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合と比較して、ユーザー環境をより正確に管理できます。ユーザープロセス トリガーを使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください:

- WEM エージェントが起動し、UI モードで実行されます。
- 指定されたプロセスは、ログオンしているユーザーと同じユーザーセッションで実行されます。
- 構成済みの外部タスクを最新の状態に保つには、**Advanced Settings > Configuration > Advanced Options** タブで **Enable Automatic Refresh** を必ず選択してください。

Windows イベントトリガーを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- ユーザー名が記録された Windows イベントのみが、外部タスクをトリガーするために使用できます。
- WEM エージェントが開き、UI モードで実行されます。

外部タスクを編集する

タスクを編集するには、次の手順を実行します。

1. **External Tasks** で、タスクを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく見つけます。
2. アクションバーで **Edit** をクリックします。
3. **Task** タブと **Triggers** タブで、必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**Done** をクリックします。

外部タスクの割り当てを管理する

外部タスクの割り当てを管理するには、次の手順を完了します。

1. タスクを選択し、アクションバーで **Manage assignments** を選択します。
2. タスクを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーおよびグループ）を選択します。
    - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
3. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
    - フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
4. 完了したら、**完了**をクリックします。

外部タスクのクローンを作成する

> **注:**
>
> トリガーの関連付けと割り当てはクローンされません。

タスクのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. タスクを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。

3. タスクのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックしてクローンプロセスを開始します。

外部タスクを削除する

タスクを削除するには、タスクを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> 外部タスクがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響します。

スクリプトベースの外部タスクのレポートを有効にして表示する

> **注:**
>
> 外部タスクの場合、レポートはスクリプトベースのタスクでのみ利用できます。

> Workspace Environment Management を構成して、スクリプトベースの外部タスクのレポートを生成および表示できます。利用可能なレポートは、**アクション処理結果**と**アクション処理イベント**の2種類です。

外部タスクのレポートを有効にする

スクリプトベースの外部タスクのレポートを有効にするには、次の設定を完了します。

1. **詳細設定 > 監視設定 > アクション処理結果**に移動し、**外部タスク**を選択します。
2. この外部タスクを作成するときに、**タスクの完了を待機**と**タスク出力レポートを収集**の両方を有効にします。

外部タスクの処理結果を表示する

アクション処理結果レポートには、レポートが有効になっている各スクリプトベースの外部タスクの最終ステータスが表示され、正常に完了したか、エラーが発生したかが示されます。

レポートを表示するには：

1. **監視 > レポート**に移動します。
2. **イベントタイプはアクション処理結果**フィルターを適用します。
3. 表示される**アクション処理結果**ページで、**外部タスク**タブを選択します。

外部タスクのイベント詳細を表示する

アクション処理イベントレポートは、レポートが有効になっている各スクリプトベースの外部タスクの詳細情報を提供します。詳細には以下が含まれます。

- タスクの結果
- タスクを実行したエージェント
- タスクをトリガーしたユーザー
- 構成セット名
- キャプチャされたコンソール出力

レポートを表示するには：

1. **>** に移動します。
2. **が** フィルターを適用します。

プリンター

この機能を使用すると、プリンターを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらのプリンターはユーザーのデスクトップ内で使用できるようになります。

次の操作を実行できます。

- プリンターを追加します。
- 印刷サーバーからプリンターを追加します。
- プリンターリストを更新します。
- プリンターを編集します。
- プリンターの割り当てを管理します。
- プリンターを複製します。
- プリンターを削除します。
- エージェントがプリンターを処理する方法を指定します。

プリンターを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > プリンター**に移動して、**プリンターの追加**をクリックします。「プリンターの追加」を参照してください。
2. 追加したプリンターを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。「プリンターの割り当ての管理」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

プリンターの追加

プリンターを追加するには、次の手順を実行します。

1. **プリンター**で、**プリンターの追加**をクリックします。
2. アクションの種類を指定します。選択したアクションの種類によってインターフェイスが異なります。
   - **ネットワークプリンターのマップ。**
     - **名前**。プリンターを識別しやすいように名前を指定します。
     - **説明（オプション）**。プリンターに関する追加情報を指定します。
     - **このプリンターを有効にする**。プリンターを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
     - **プリンターパス**。ユーザー環境で解決されるプリンターへのパスを指定します。
     - **特定の資格情報を使用して接続する**。デフォルトでは、エージェントは実行されているWindowsアカウントを使用してプリンターに接続します。ユーザーが接続に異なる資格情報を指定する必要がある場合は、このオプションを選択します。
     - **表示名**。プリンターの名前を指定します。この名前はユーザー環境に表示されます。
     - **自動復元を有効にする**。有効にすると、エージェントは更新時にプリンターを自動的に再作成します（削除されている場合）。
   - **プリンターマッピングファイルを使用する。**
     - **名前**。プリンターを識別しやすいように名前を指定します。
     - **説明（オプション）**。プリンターに関する追加情報を指定します。
     - **このプリンターを有効にする**。プリンターを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
     - **ファイルパス**。XMLプリンターリストファイルを使用して、ユーザーのプリンターを構成できます。このファイルを、イメージとして使用するエージェントマシンに配置します。エージェントが更新されると、XMLファイルが解析され、アクションキューに追加するプリンターが検索されます。詳細については、「XMLプリンターリストの構成」を参照してください。
3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

印刷サーバーからプリンターを追加する

ネットワーク印刷サーバーからプリンターを追加するには、**Citrix Environment Tool Hub > Printer Assistant**で目的のプリンターを探し、その情報をコピーして貼り付けます。「Citrix Environment Tool Hub」を参照してください。

プリンターを編集する

プリンターを編集するには、次の手順を実行します。

1. **プリンター**で、プリンターを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してプリンターをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

プリンターの割り当てを管理する

プリンターの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. プリンターを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. プリンターを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
    - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
    - ターゲットを構成して、使用するフィルターと、それをデフォルトプリンターとして設定するかどうかを指定します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了したら、**完了**をクリックします。

プリンターを複製する

> **注:**
>
> 割り当ては複製されません。

プリンターを複製するには、次の手順を実行します。

1. プリンターを選択し、アクションバーで**複製**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。

3. プリンターのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. クローン作成プロセスを開始するには、**クローン**をクリックします。

プリンターを削除する

プリンターを削除するには、プリンターを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> プリンターがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントがプリンターを処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時にプリンターを処理する
- 再接続時にプリンターを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップからプリンターを削除する
- プリンターの処理を強制する
- プリンターのフィルター処理を強制する
- プリンターを非同期で処理する（有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します）

ネットワークドライブ

この機能を使用すると、ネットワークドライブを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらのネットワークドライブはユーザーのデスクトップ内で使用できるようになります。

以下の操作を実行できます。

- ネットワークドライブを追加します。
- ネットワークドライブリストを更新します。
- ネットワークドライブを編集します。
- ネットワークドライブの割り当てを管理します。
- ネットワークドライブを複製します。
- ネットワークドライブを削除します。

- エージェントがネットワークドライブを処理する方法を指定します。

ネットワークドライブを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**Actions > Network Drive** に移動して、**Add network drive** をクリックします。「ネットワークドライブの追加」を参照してください。
2. 追加したネットワークドライブを選択し、アクションバーで **Manage assignments** をクリックします。「ネットワークドライブの割り当ての管理」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

ネットワークドライブを追加する

ネットワークドライブを追加するには、次の手順を実行します。

1. **Network Drives** で、**Add network drive** をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
   - **名前**。ネットワークドライブを識別するための名前を指定します。
   - **説明（オプション）**。ネットワークドライブに関する追加情報を指定します。
   - **このネットワークドライブを有効にする**。ネットワークドライブを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
   - **ターゲットパス**。ユーザー環境で解決されるネットワークドライブへのパスを指定します。
   - **特定の資格情報を使用して接続する**。デフォルトでは、エージェントは実行されているWindowsアカウントを使用してネットワークドライブに接続します。ユーザーが接続に異なる資格情報を指定する必要がある場合は、このオプションを選択します。
   - **表示名**。ネットワークドライブの名前を指定します。この名前はユーザー環境に表示されます。
   - **自動復元を有効にする**。有効にすると、エージェントは更新時にネットワークドライブを自動的に再作成します（削除されている場合）。
   - **ホームドライブとして設定する**。有効にすると、ネットワークドライブがホームドライブとして設定されます。
3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

ネットワークドライブを編集する

ネットワークドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. **ネットワークドライブ**で、ネットワークドライブを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してネットワークドライブをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

ネットワークドライブの割り当てを管理する

ネットワークドライブの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーで を選択します。
2. ネットワークドライブを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、 をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - 使用するフィルターとドライブ文字を指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了したら、 をクリックします。

ネットワークドライブをクローンする

> **注:**
>
> 割り当てはクローンされません。

ネットワークドライブをクローンするには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーで を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. ネットワークドライブのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. をクリックしてクローンプロセスを開始します。

ネットワークドライブを削除する

ネットワークドライブを削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> ネットワークドライブがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントがネットワークドライブを処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時にネットワークドライブを処理する
- 再接続時にネットワークドライブを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップからネットワークドライブを削除する
- ネットワークドライブの処理を強制する
- ネットワークドライブのフィルター処理を強制する
- **ネットワークドライブを非同期で処理する**。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

ドライブ文字:

- **割り当てに使用しないドライブ文字**。選択されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字の選択から除外されます。
- **割り当てでのドライブ文字の再利用を許可する**。有効にすると、割り当てで使用されたドライブ文字は、同じターゲットに割り当てられた他のドライブでも引き続き使用できます。

仮想ドライブ

この機能を使用すると、仮想ドライブを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、これらの仮想ドライブはユーザーのデスクトップ内で使用できるようになります。

次の操作を実行できます。

- 仮想ドライブを追加します。
- 仮想ドライブリストを更新します。
- 仮想ドライブを編集します。
- 仮想ドライブの割り当てを管理します。

- 仮想ドライブを複製します。
- 仮想ドライブを削除します。
- エージェントが仮想ドライブを処理する方法を指定します。

仮想ドライブを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**［アクション］>［仮想ドライブ］**の順に移動して、**［仮想ドライブの追加］**をクリックします。「仮想ドライブの追加」を参照してください。
2. 追加した仮想ドライブを選択し、アクションバーで**［割り当ての管理］**をクリックします。「仮想ドライブの割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

仮想ドライブを追加する

仮想ドライブを追加するには、次の手順を実行します。

1. **［仮想ドライブ］で、［仮想ドライブの追加］**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
   - **名前**。仮想ドライブを識別するための名前を指定します。
   - **説明 (オプション)**。仮想ドライブに関する追加情報を指定します。
   - **この仮想ドライブを有効にする**。仮想ドライブを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
   - **ターゲットパス**。ユーザー環境で解決される仮想ドライブへのパスを指定します。
   - **ホームドライブとして設定**。有効にすると、ネットワークドライブがホームドライブとして設定されます。
3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

仮想ドライブを編集する

仮想ドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. **仮想ドライブ**で、仮想ドライブを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して仮想ドライブをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。

4. 完了したら、**保存**をクリックします。

仮想ドライブの割り当てを管理する

仮想ドライブの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. 仮想ドライブを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - 使用するフィルターとドライブ文字を指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。

> **重要:**
>
> **次に利用可能**および**文字が割り当てられていません**オプションは、ネットワークドライブにのみ適用されます。

3. 完了したら、**完了**をクリックします。

仮想ドライブのクローンを作成する

> **注:**
>
> 割り当てはクローンされません。

仮想ドライブのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 仮想ドライブのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

仮想ドライブを削除する

仮想ドライブを削除するには、仮想ドライブを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**

> 仮想ドライブがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントが仮想ドライブを処理する方法を指定します

処理オプション:

- ログオン時および更新時に仮想ドライブを処理する
- 再接続時に仮想ドライブを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップから仮想ドライブを削除する
- 仮想ドライブのフィルター処理を強制する
- 仮想ドライブのフィルター処理を強制する

ドライブ文字:

- **割り当てに使用しないドライブ文字**。選択したドライブ文字は、ドライブリソースの割り当て時にドライブ文字の選択から除外されます。
- **割り当てでのドライブ文字の再利用を許可する**。有効にすると、割り当てで使用されているドライブ文字は、同じターゲットに割り当てられている他のドライブでも引き続き使用できます。

レジストリエントリ

この機能を使用すると、レジストリ値を作成、設定、削除し、それらを割り当ててレジストリを作成または変更できます。レジストリエントリにタグを追加し、複数のレジストリエントリを同時に割り当てることができます。

次の操作を実行できます:

- レジストリエントリを追加する
- レジストリエントリリストを更新する
- レジストリエントリを編集する
- レジストリエントリの割り当てを管理する
- レジストリエントリを複製する
- **reg** ファイルでレジストリエントリをインポートする
- レジストリエントリを削除する

- タグを削除する

レジストリエントリを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動します。**アクション** > **レジストリエントリ**に移動し、**レジストリエントリの追加**をクリックします。詳細については、「レジストリエントリの追加」を参照してください。
2. 追加したレジストリエントリを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。詳細については、「レジストリエントリまたは複数のレジストリエントリの割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

レジストリエントリの追加

レジストリエントリを追加するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリで、**レジストリエントリの追加**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。

   - **アクションの種類**。リソースのアクションの種類を記述します。
   - **名前**。レジストリエントリを識別するのに役立つ名前を指定します。レジストリキー値を作成するときに、**名前**フィールドを空白のままにすると、そのキーのデフォルト値として設定されます。
   - **説明**（オプション）。レジストリエントリに関する追加情報を指定します。
   - **タグ**。レジストリエントリの新しいタグを作成するか、既存のタグを選択できます。その後、タグを使用してレジストリエントリを一括処理および管理できます。
   - **このアクションを有効にする**。レジストリエントリを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーまたはマシンに割り当てられていても、エージェントによって処理されません。
   - **レジストリパス**。レジストリエントリのレジストリパスを指定します。
   - **値の名前**。レジストリに表示されるレジストリ値の名前（例: **NoNtSecurity**）。
   - **種類**。作成される可能性のあるレジストリエントリの種類。
   - **データ**。作成されたレジストリエントリの値（例: `0` または `C:\Program Files`）。
   - **1回実行**。選択すると、WEM はアクションを1回だけ実行します。

3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

レジストリエントリを編集する

レジストリエントリを編集するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリで、レジストリエントリを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用するか、リストにタグを付けてレジストリエントリをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

レジストリエントリの割り当てを管理する

レジストリエントリまたは複数のレジストリエントリの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリまたは複数のレジストリエントリを選択し、アクションバーで を選択します。必要に応じて、検索ボックスまたはタグリストを使用して、レジストリエントリまたは複数のレジストリエントリをすばやく見つけます。

> **注:**
>
> 複数のレジストリエントリの割り当てを管理するには、レジストリエントリのリストを確認し、 をクリックします。

1. レジストリエントリを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、 をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - 使用するフィルターを指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
2. 完了したら、 をクリックします。

レジストリエントリのクローンを作成する

> **注:**
>
> 割り当てはクローンされません。

> レジストリエントリのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを選択し、アクションバーで を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. レジストリエントリのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. クローンプロセスを開始するには、 をクリックします。

`reg` ファイルによるレジストリエントリのインポート

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には、以下の制限があります。

- `HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ値のみをサポートします。レジストリエントリ機能では、`HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- `REG_BINARY` および `REG_MULTI_SZ types` のレジストリ値はサポートしていません。

これらの制限を回避するには、**Group Policy Settings** の **Import Group Policy settings** を使用して、レジストリファイルをWEMにインポートすることをお勧めします。詳細については、「Import Group Policy settings」を参照してください。

レジストリエントリをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで **Import** を選択します。
2. ローカルの `reg` ファイルを参照します。
3. **Import** をクリックして、レジストリエントリをページにロードします。
4. ロードされたレジストリエントリの **Options** を選択します。
5. ロードされたレジストリエントリの **overwrite rule** を選択します。
6. **Import** をクリックして、インポートプロセスを開始します。

レジストリエントリを削除する

レジストリエントリを削除するには、レジストリエントリを選択し、アクションバーで **Delete** を選択します。

タグを削除する

レジストリエントリのタグを削除するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを選択し、アクションバーで **Remove tags** を選択します。
2. 削除プロセスを開始するには、**削除**をクリックします。

環境変数

この機能を使用すると、環境変数を割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらの環境変数はユーザー環境で作成または設定されます。

次の操作を実行できます。

- 環境変数を追加する。
- 環境変数リストを更新する。
- 環境変数を編集する。
- 環境変数の割り当てを管理する。
- 環境変数を複製する。
- 環境変数を削除する。
- エージェントが環境変数を処理する方法を指定する。

環境変数を追加および割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > 環境変数**に移動して、**環境変数の追加**をクリックします。環境変数を追加するを参照してください。
2. 追加した環境変数を選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。環境変数の割り当てを管理するを参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

環境変数を追加する

環境変数を追加するには、次の手順を実行します。

1. **環境変数**で、**環境変数を追加**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
    - **名前**。環境変数を識別するための名前を指定します。
    - **説明 (オプション)**。環境変数に関する追加情報を指定します。
    - **この環境変数を有効にする**。環境変数を有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
    - **変数名**。環境変数の機能名です。
    - **変数値**。環境変数の値です。

- **実行順序**。このオプションを使用して、エージェントが変数を処理する順序を決定します。エージェントは、まず実行順序の値が0の変数を処理し、次に値が1の変数、次に値が2の変数というように処理します。競合が発生した場合、最後に処理された変数が以前に処理された変数を上書きします。

3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

環境変数を編集する

環境変数を編集するには、次の手順を実行します。

1. **環境変数**で、環境変数を選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して環境変数をすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了後、**保存**をクリックします。

環境変数の割り当てを管理する

環境変数の割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. 環境変数を割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - ターゲットを構成して、使用するフィルターを指定します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了後、**完了**をクリックします。

環境変数をクローンする

> **注:**
>
> - 割り当てはクローンされません。

環境変数をクローンするには、次の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。

2. 名前と説明を編集します。
3. 環境変数をクローンする構成セットを選択します。
4. クローンプロセスを開始するには、**クローン**をクリックします。

環境変数を削除する

環境変数を削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> - 環境変数がすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントが環境変数を処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時に環境変数を処理する
- 再接続時に環境変数を処理する
- 割り当て解除時にデスクトップから環境変数を削除する
- 環境変数のフィルター処理を強制する
- 環境変数のフィルター処理を強制する

詳細情報

割り当てをすぐに有効にする

通常、割り当ては詳細設定で**SQL設定の更新遅延**に指定した期間の後に有効になります。割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Webコンソール > 監視 > 管理 > エージェント > 統計**に移動し、エージェントを選択します。
2. アクションバーで**その他**をクリックし、**エージェント > エージェントホスト設定の更新**を選択します。

> **重要:**

- エージェントがアクションを処理するには、次の設定が有効になっていることを確認します。
  - ログオン時にエージェントを起動する（ログオン時のアクションを処理するため）
  - 再接続時にエージェントを起動する（再接続時のアクションを処理するため）
  - デスクトップ互換モードを有効にする
- これらの設定は、**Legacy Console > Advanced Settings > Configuration > Main Configuration > Agent Service Actions** で確認できます。

グループポリシー設定をバックアップする

グループポリシー設定をバックアップするには、ドメインコントローラーで次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシー管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

注:

WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルのインポートをサポートしています。

WEM GPOを使用してFSLogixプロファイルコンテナを構成する

グループポリシー管理用テンプレートを使用してWindowsの設定を構成する方法の例については、WEM GPOを使用してFSLogixプロファイルコンテナを構成する を参照してください。

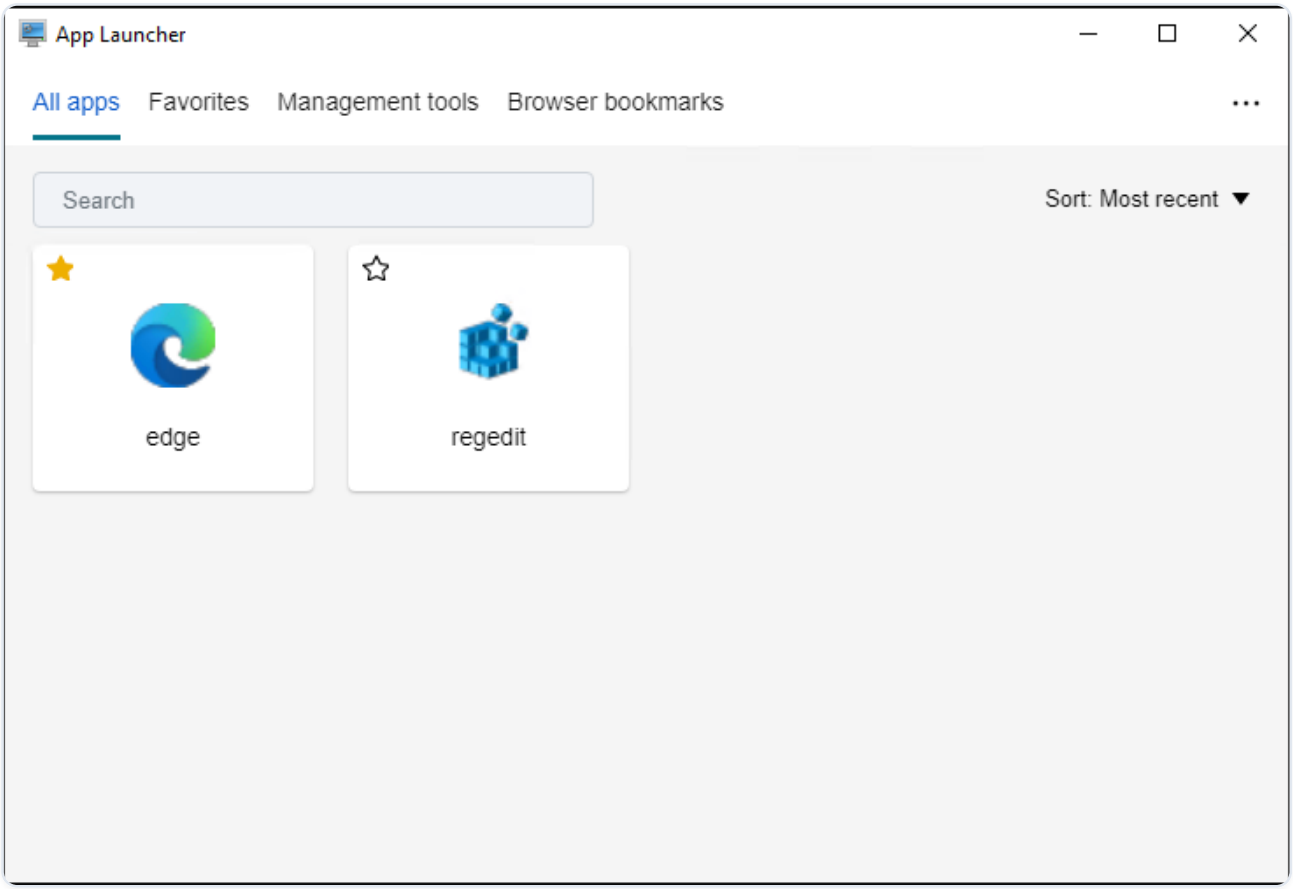
アプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーは、管理コンソールを通じてユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを集約します。このツールを使用すると、ユーザーは割り当てられたすべてのアプリケーションを1か所から起動できます。

> **ヒント:**
>
> このツールをCitrix仮想アプリとして公開することをお勧めします。
>
> この機能には、次の利点があります。

- 割り当てられたアプリケーションをより速く起動できます。
- ユーザーは、割り当てられたすべてのアプリケーションを1か所から起動できます。
- ユーザーはブックマークしたWebサイトにすばやくアクセスできます。プロファイル管理を使用すると、ブラウザのブックマークをローミングできます。

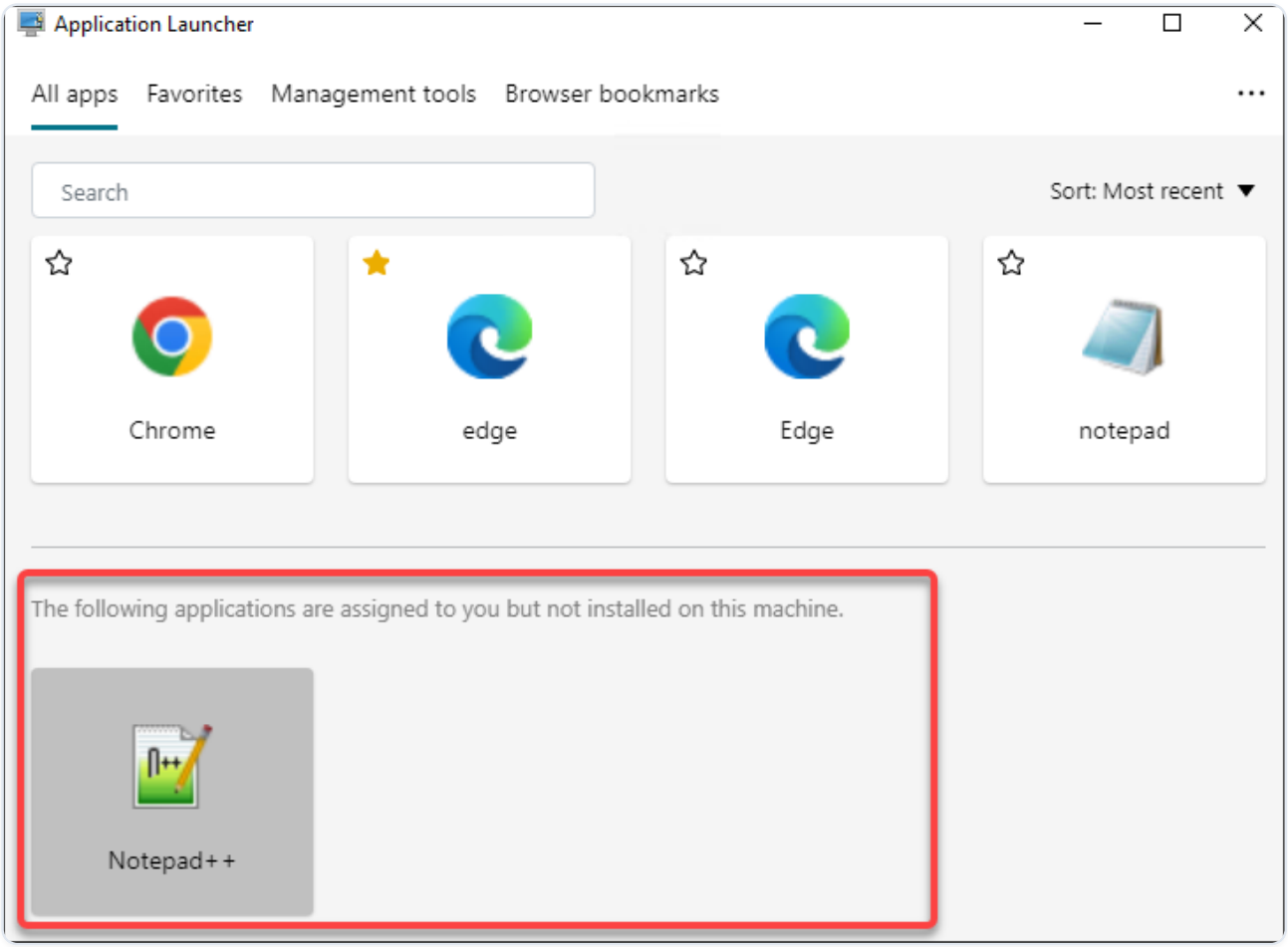
ユーザーは、自分の環境でアプリケーションランチャーツール (AppLauncherUtil.exe) を直接開くことができます。このツールは、エージェントのインストールフォルダー (`%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\ AppLauncherUtil.exe`) にあります。ツールを開くと、ユーザーには割り当てられたアプリケーションが反映された次の画面が表示されます。



- **すべてのアプリ**。割り当てられているすべてのアプリケーションを表示します。利用可能な並べ替えオプション: **最新**、**A-Z**、**Z-A**。

- **お気に入り**。お気に入りとしてマークされたアプリケーションを表示します。
- **管理ツール**。次の2つのツールを表示します。
  - **タスクマネージャー**。タスクマネージャーを開きます。
  - **VUEMUIAgent**。WEM UIエージェントを起動します。
- **ブラウザのブックマーク**。ブラウザのブックマークに保存されているWebサイトを表示します。ブックマークをクリックすると、ユーザーはブラウザをすばやく開き、目的のWebサイトにアクセスできます。ブックマークはブラウザごとにグループ化できます。この機能はGoogle ChromeとMicrosoft Edgeのみをサポートしています。利用可能な並べ替えオプション: **最新**、**A-Z**、**Z-A**。
- **省略記号アイコン**。ユーザーがセッションからサインアウトできる**サインアウト**オプションがあります。

割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンに存在することを確認してください。割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンにインストールされていない場合、そのアプリケーションは表示されますが、起動できません。



この機能の使用例については、「割り当てられたアプリケーションを1か所に集約する」を参照してください。

外部タスクの例

スクリプトの場合（例：PowerShellスクリプト）：

- フォルダーパスもスクリプト名も空白を含まない場合：
  - **パス**フィールドに、次のように入力します。`C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - **引数**フィールドに、次のように入力します。`C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

  または、**パス**フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例：`C:\<folder path>\<script name>.ps1`。**引数**フィールドで、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開かれるかは、ユーザー環境で構成されているファイルの種類に関連付けによって異なります。ファイルの種類に関連付けの詳細については、「ファイル関連付け」を参照してください。
- フォルダーパスまたはスクリプト名に空白が含まれる場合：
  - **パス**フィールドに、次のように入力します。`C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - **引数**フィールドに、次のように入力します。`-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーションの場合（例：iexplore.exe）：

- **パス**フィールドに、次のように入力します。`C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- **引数**フィールドに、開くWebサイトのURLを入力します。`https://docs.citrix.com/`。

ファイルシステム操作

ユーザーの環境へのフォルダーとファイルのコピーを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用すると、Workspace Environment Managementアクションを拡張して、より強力にすることができます。

ファイルシステム操作リスト

既存のファイルおよびフォルダー操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ファイルシステム操作の追加

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイルシステム操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダー操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集または作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステム操作の状態。ファイルシステム操作が有効か無効かを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーへのパスです。

ターゲットパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーの宛先パスです。

既存の場合にターゲットを上書き。ファイルまたはフォルダー操作が、ターゲットの場所に同じ名前の既存のファイルまたはフォルダーを上書きするかどうかを制御します。クリアされている場合、ターゲットの場所に同じ名前のファイルまたはフォルダーが既に存在すると、影響を受けるファイルはコピーされません。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management はエージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。このオプションを選択すると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、一度だけ操作を実行します。これにより、特に多くのファイルシステム操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このファイルまたはフォルダーアクションがどのような種類のアクションであるかを記述します: **コピー**、**削除**、**移動**、**名前の変更**、または**シンボリックリンク**操作。シンボリックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可するために、ユーザーに `SeCreateSymbolicLinkPrivilege` 権限を付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作より前に実行できるようにします。実行順序の値が 0 (ゼロ) の操作が最初に実行され、次に値が 1 の操作、次に値が 2 の操作というように続きます。

ファイルの種類のアソシエーション

> **重要:**

構成したファイルの種類のアソシエーション (FTA) は、自動的にデフォルトのアソシエーションになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法を選んでください」というウィンドウが表示され、ファイルを開くアプリケーションを選択するように求められる場合があります。ウィンドウを閉じるには、**OK** をクリックします。同様のウィンドウを再度表示したくない場合は、次の手順を実行します: グループポリシーエディターを開き、「**新しいアプリケーションがインストールされた通知を表示しない**」ポリシー (**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**) を有効にします。

ユーザー環境での FTA の作成を制御します。

ヒント:

動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

この機能を使用すると、FTA を割り当て可能なアクションとして追加できます。

次の操作を実行できます:

- FTA の追加
- FTA の更新
- FTA の編集
- 割り当ての管理
- FTA のクローン作成
- FTA の削除

FTAを追加するには

1. コンテキストメニューの**関連付けの追加**コマンドを使用します。
2. **ファイルタイプの関連付けの追加**ダイアログボックスに詳細を入力します。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

名前。ファイル関連付けリストに表示される、ファイル関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイル関連付けが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルタイプ関連付けに使用される拡張子です。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID**フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルタイプが存在する場合）。拡張子を直接入力することもできます。ただし、ブラウザ関連付けの場合は、拡張子を直接入力する*必要があります*。詳細については、「ブラウザ関連付け」を参照してください。

ProgID。アプリケーション（COM）に関連付けられたプログラム識別子です。リストからファイル拡張子を選択すると、この値が自動的に入力されます。ProgIDを直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションのProgIDを検出するには、OLE/COMオブジェクトビューア（oleview.exe）を使用し、Object Classes/Ole 1.0 Objectsを確認してください。ProgIDの詳細については、「プログラム識別子（ProgID）」を参照してください。

アクション。アクションの種類（開く、編集、印刷）を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用される実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。例：UltraEdit Text Editorの場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けたいアクションの種類を指定できます。例：

- 開くアクションの場合は、`"%1"`と入力します。
- 印刷アクションの場合は、`/p"%1"`と入力します。

デフォルトアクションとして設定。そのファイル名拡張子のデフォルトとして関連付けを設定するかどうかを切り替えます。

上書き。このファイル関連付けが、指定された拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management (WEM) はエージェントが更新されるたびにファイル関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新ごとにではなく、ファイル関連付けが一度だけ作成されます。これにより、特に多くのファイル関連付けがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

> **ヒント:**

> ファイルタイプ関連付けアシスタント データを使用して、管理コンソールで割り当て可能なアクションとして追加できます。

> 詳しくは、「知っておくと便利な情報」を参照してください。

ファイルタイプ関連付けを編集する

ファイルタイプ関連付けを編集するには、次の手順を実行します。

1. **ファイルタイプ関連付け**で、必要な関連付けを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して、必要なファイルタイプ関連付けをすばやく見つけます。
2. アクションバーで をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、 をクリックします。

割り当てを管理する

ファイルタイプ関連付けの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ファイルタイプ関連付けを選択し、アクションバーで を選択します。
2. 関連付けを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。

- 新しいターゲットを追加するには、 をクリックします。詳しくは、「割り当てターゲットを追加する」を参照してください。
- フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。必要に応じて、各ターゲットに必要な関連付けの優先度を設定します。
- 割り当てに関連付けられている3つの省略記号をクリックして、構成をコピーします。
- 割り当てに関連付けられているそれぞれのオプションを選択することで、コピーした構成をすべてのターゲットに適用することもできます。

ファイルの種類のアソシエーションをクローンする

ファイルの種類のアソシエーションをクローンするには、次の手順を実行します。

1. ファイルの種類のアソシエーションを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. ファイルの種類のアソシエーションをクローンする構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ファイルの種類のアソシエーションを削除する

ファイルの種類のアソシエーションを削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

エージェントがファイルの種類のアソシエーションを処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時にファイルの種類のアソシエーションを処理する
- 再接続時にFTAを処理する
- FTA のフィルター処理を強制する
- 割り当て解除時にデスクトップから FTA を削除する

JSON ファイル

この機能を使用すると、JSON オブジェクトを追加して割り当て、JSON ファイルを作成または変更できます。この機能を使用すると、JSON 構成ファイル (Microsoft Teams など) を使用して、アプリケーションにパーソナライズされた設定を適用できます。

次の操作を実行できます。

- JSON オブジェクトを追加する。
- JSON オブジェクトリストを更新する。
- Windows 11 のスタートメニューレイアウトに JSON オブジェクトを追加する
- JSON オブジェクトを編集する。
- JSON オブジェクトの割り当てを管理する。
- JSON オブジェクトを複製する。
- JSON オブジェクトを削除する。
- JSON オブジェクトを処理するかどうかを制御する。

JSON オブジェクトを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > JSON オブジェクト**に移動して、**JSON オブジェクトの追加**をクリックします。「JSON オブジェクトを追加する」を参照してください。
2. 追加したJSONオブジェクトを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。JSONオブジェクトの割り当てを管理するを参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、割り当てをすぐに有効にするを参照してください。

JSONオブジェクトを追加する

JSONオブジェクトを追加するには、次の手順を実行します。

1. **JSONオブジェクト**で、**JSONオブジェクトの追加**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。

   - **名前**。JSONオブジェクトを識別しやすい名前を指定します。
   - **説明（オプション）**。JSONオブジェクトに関する追加情報を指定します。
   - **このアクションを有効にする**。JSONオブジェクトを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーまたはマシンに割り当てられていても、エージェントによって処理されません。
   - **ファイルパスとコンテンツ**。オブジェクトが変更するJSONファイルへのパスを指定します。指定されたコンテンツは、ターゲットファイル内の既存のコンテンツとマージされます。コンテンツがどのようにマージされるかを理解するには、JSONコンテンツのマージ例を参照してください。

   パスとコンテンツを手動で入力したくない場合は、**テンプレートで生成**をクリックします。**テンプレートで生成**機能を使用すると、特定のアプリケーションを構成するためのテンプレートを使用してJSONコンテンツを生成できます。現在、この機能はMicrosoft Teamsにのみ適用されます。

   - **ファイルが存在しない場合は作成する**。これは、オブジェクトが期待どおりに機能することを保証するフェイルセーフオプションです。たとえば、Microsoft Teamsの場合、「desktop-config.json」ファイルはMicrosoft Teamsが初めて起動されるまで存在しません。
   - **元のファイルをバックアップする**。選択すると、エージェントはターゲットファイルのバックアップを同じ場所に自動的に保存します。バックアップは元のファイルの名前を継承し、「-WEMCopy」というサフィックスが付きます。
   - **処理モード**

     - **ユーザーレベルの処理**。ユーザーがログオンしたとき、またはエージェントが更新されたときにアクションを処理します。
     - **マシンレベルの処理**。マシンが起動したとき、またはエージェントがSQL接続設定を更新したときにアクションを処理します。

- **一度実行**。選択すると、WEM はアクションを一度だけ実行します。

3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

JSONコンテンツのマージ例

次の例は、指定されたコンテンツがターゲットJSONファイル内の既存のコンテンツとどのようにマージされるかを示しています。

ターゲットファイル内のコンテンツの例:

```
{

    "value": "value1",

    "array": ["test1", "test2"],

    "object": {"key1": "value1", "key2":  "value2"}

}
```

指定されたコンテンツの例:

```
{

    "value": "value2",

    "array": ["test2", "test3"],

    "object": { "key1": "changed", "key3": "value3", "key4": "value4" },

    "new": 1

}
```

マージ結果の例:

```
{

    "value": "value2",

    "array": ["test1", "test2", "test3"],
```

```
    "object": {"key1": "changed", "key2": "value2", "key3": "value3",
"key4": "value4" },

     "new": 1

}
```

Windows 11のスタートメニューレイアウトにJSONオブジェクトを追加する

Windows 11のスタートメニューレイアウトにJSONオブジェクトを追加するには、次の手順を実行します。

1. **新しいJSONオブジェクトの追加**をクリックします。
2. **Windows 11のスタートメニュー構成**を選択します。
3. **JSONオブジェクトの追加**ページに構成を貼り付けます。
4. 「**完了**」をクリックします。

詳細については、「Windows 11のスタートメニューレイアウトをカスタマイズする」を参照してください。

JSONオブジェクトを編集する

JSONオブジェクトを編集するには、次の手順を実行します。

1. **JSONオブジェクト**で、JSONオブジェクトを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してJSONオブジェクトをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**「編集」**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**「保存」**をクリックします。

JSONオブジェクトの割り当てを管理する

JSONオブジェクトの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. JSONオブジェクトを選択し、アクションバーで**「割り当ての管理」**を選択します。
2. JSONオブジェクトを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
    - 新しいターゲットを追加するには、「新しいターゲットの追加」をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
    - 使用するフィルターを指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。

3. 完了したら、**「完了」**をクリックします。

JSONオブジェクトを複製する

> **注:**
>
> - 割り当ては複製されません。

> JSONオブジェクトを複製するには、次の手順を実行します。

1. JSON オブジェクトを選択し、アクションバーで **クローン** を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. JSON オブジェクトのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン** をクリックして、クローン処理を開始します。

JSON オブジェクトを削除する

JSON オブジェクトを削除するには、それを選択し、アクションバーで **削除** を選択します。

> **注:**
>
> - JSON オブジェクトがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

INI ファイル

.ini ファイル操作の作成を制御し、**.ini** ファイルを変更できるようにします。

Ini ファイル操作リスト

既存の **.ini** ファイル操作のリストです。**検索** を使用して、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

INI ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの **追加** コマンドを使用します。
2. **INI ファイル操作の追加** ページで詳細を入力し、**OK** をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。.iniファイル操作の表示名で、**INIファイル操作**リストに表示されます。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.iniファイル操作の状態。.iniファイル操作を有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるときに変更される.iniファイルの場所を指定します。

> **注:**
>
> ドメインに参加していないエージェントを使用している場合、**ターゲットパス**がネットワーク共有であるとWEMが機能しない可能性があります。

> **ターゲットセクション**。この操作の対象となる.iniファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定すると、そのセクションが作成されます。

ターゲット値の名前。追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。値自体を指定します。

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Managementはエージェントが更新されるたびに.iniファイル操作を実行します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Managementは更新ごとにではなく、1回だけ操作を実行します。この操作は、特に多くの.iniファイル操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスを高速化します。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

INIファイル操作を編集する

編集するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで**編集**をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 完了したら、**保存**をクリックします。

割り当ての管理

割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. INIファイルを選択し、アクションバーで を選択します。
2. このINIファイルを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
3. フィルターを使用して、割り当てをコンテキスト化します。
4. 各ターゲットの選択したINIファイルの優先度を設定します。
5. 完了したら、 をクリックします。

INIファイル操作のクローン

クローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. INIファイルを選択し、アクションバーで を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. クローンを作成する必要がある構成セットを選択します。
4. をクリックして、クローンプロセスを開始します。

INIファイルの削除

INIファイルを削除するには、INIファイルを選択し、アクションバーで を選択します。

ポート

割り当て可能なアクションとしてポートマッピングを追加できます。ポート機能により、クライアントCOMポートマッピングが可能になります。Citrix Studioポリシーを使用して、COMポートの自動接続を有効にすることもできます。 ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix StudioでクライアントCOMポートリダイレクトポリシーを有効にすることを忘れないでください。デフォルトでは、COMポートリダイレクトは禁止されています。

ポートリスト

既存のポートのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ポートの追加

1. コンテキストメニューから**ポートマッピングの追加**を選択します。
2. **ポートマッピングの追加**ダイアログタブで詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名です。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名です。

ポートターゲット。ターゲットポートです。

オプションタブ

アクションの種類。このリソースが実行するアクションの種類を記述します。

例えば、ポート設定は次のように構成できます。

- **ポート名**: 「COM3:」を選択します。
- **ポートターゲット**: `\\Client\COM3:` と入力します。

ポートマッピングを編集

ポートマッピングを編集するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで**編集**をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 完了したら、**保存**をクリックします。

割り当てを管理

割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ポートマッピングを選択し、アクションバーで**割り当てを管理**を選択します。
2. このポートを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
3. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
4. 各ターゲットの選択したポートマッピングの優先度を設定します。
5. 完了したら、**保存**をクリックします。

ポートマッピングのクローン

クローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. ポートを選択し、アクションバーで を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. クローンを作成する必要がある構成セットを選択します。
4. をクリックして、クローン作成プロセスを開始します。

ポートマッピングの削除

ポートマッピングを削除するには、ポートマッピングを選択し、アクションバーで を選択します。

ユーザーDSN

ユーザーDSNの作成を制御します。

ユーザーDSNリスト

既存のユーザーDSNのリストです。 を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーDSNの追加

1. コンテキストメニューの コマンドを使用します。
2. ダイアログのタブに詳細を入力し、 をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザーDSNリストに表示されるユーザーDSNの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザーDSNの状態。ユーザーDSNが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

データソース名。ユーザーDSNの機能名です。

ドライバー。DSNドライバー。現在、SQL Server DSNのみがサポートされています。

サーバー名。ユーザーDSNが接続するSQLサーバーの名前です。

データベース名。ユーザーDSNが接続するSQLデータベースの名前です。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Managementはエージェントが更新されるたびにユーザーDSNを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment ManagementはユーザーDSNを更新ごとにではなく、一度だけ作成します。これにより、特に多くのDSNがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ユーザーDSNを編集する

ユーザーDSNを編集するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで**編集**をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 完了したら、**保存**をクリックします。

ユーザーDSNの割り当てを管理する

ユーザーDSNの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーDSNを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. ユーザーDSNを割り当てる割り当てターゲット（ユーザー、グループ、OU）を選択します。
3. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
4. 各ターゲットに対して、選択したユーザーDSNの優先度を設定します。
5. 完了したら、**保存**をクリックします。

ユーザーDSNをクローンする

ユーザーDSNをクローンするには、次の手順を実行します。

1. ユーザーDSNを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. クローンする必要がある構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローン処理を開始します。

ユーザーDSNを削除する

ユーザーDSNを削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

セキュリティ

アプリケーションセキュリティ

アプリケーションセキュリティ機能を使用すると、ユーザーが実行できるアプリケーションとファイルを制御するルールを定義できます。Webコンソールでアプリケーションセキュリティルールを構成し、ルール構成に必要な情報を取得するためのツールを提供できます。また、この機能を使用して、セキュリティルールを含む割り当てグループを作成することもできます。

構成

アプリケーションルールを処理と**DLLルールを処理**が有効になっている場合、**上書き**モードがデフォルトでオンになります。**上書き**モードでは、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードはシングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。この機能では、次のルールも作成できます。

- 実行可能ルール
- Windowsインストーラールール
- スクリプトルール
- パッケージアプリルール
- DLLルール

> **注:**
>
> ルールを作成する前に、重要なシステムファイルが実行できるように、まずデフォルトルールを追加することをお勧めします。

- **アプリケーションルールを処理**。選択すると、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セットのルールを処理し、それらをエージェントホスト上のAppLockerルールに変換します。選択されていない場合、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールは無効になります。

  > **注:**
  >
  > Workspace Environment Management™管理コンソールがWindows 7 SP1またはWindows Server 2008 R2 SP1（またはそれ以前のバージョン）にインストールされている場合、このオプションは利用できません。

- **DLLルールを処理**。選択すると、エージェントは現在の構成セットのDLLルールを処理します。このオプションは、**アプリケーションセキュリティルールを処理**を選択した場合にのみ利用できます。

  > **重要:**
  >
  > DLLルールを使用する場合、許可されているすべてのアプリで使用される各DLLに対して、*許可*権限を持つDLLルールを作成する必要があります。

  > **注意:**

> DLLルールを使用すると、ユーザーはパフォーマンスの低下を経験する可能性があります。

- **上書き**と**マージ**の設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールを処理する方法を決定できます。
  - **上書き**。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードはシングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
  - **マージ**。既存のルールとルールをマージできます。競合が発生した場合、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、マージモードでは値が異なる場合に古い値が保持されるため、上書きモードを使用してください。

ルールコレクション

各コレクション名には、含まれるルールの数が示されます（例：(12)）。コレクション名をクリックすると、ルールリストが次のいずれかのコレクションにフィルタリングされます。

- **実行可能ルール**。アプリケーションに関連付けられている.exeおよび.com拡張子のファイルを含むルール。
- **Windowsルール**。クライアントコンピューターおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラーファイル形式（.msi、.msp、.mst）を含むルール。
- **スクリプトルール**。次の形式のファイルを含むルール：.ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js。
- **パッケージルール**。ユニバーサルWindowsアプリとも呼ばれるパッケージアプリを含むルール。パッケージアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じIDを共有します。したがって、1つのルールでアプリ全体を制御できます。Workspace Environment Managementは、パッケージアプリのパブリッシャールールのみをサポートしています。
- **DLLルール**。次の形式のファイルを含むルール：.dll、.ocx。

ルールリストをコレクションにフィルタリングすると、**ルール適用**オプションが使用可能になります。次のルール適用値が可能です。

オフ（デフォルト）。ルールが作成され、*オフ*に設定されます。これは、ルールが適用されないことを意味します。

オン。ルールが作成され、*適用*に設定されます。これは、エージェントホストでアクティブであることを意味します。

監査。ルールが作成され、*監査*に設定されます。これは、エージェントホスト上で非アクティブな状態であることを意味します。

WINDOWSインストーラールールの作成

これには、**基本情報**と**例外**の2つのメニュー項目が含まれます。Windowsインストーラールールを作成するには、**基本情報**と**例外**の下で次の手順を完了します。

- *ルールの作成*を選択すると、**Windowsインストーラールールの作成**ページに移動します。
- 名前とオプションの説明を入力します。
- 目的の**アクション**を選択します。
- ドロップダウンリストから、**パス**、**発行元**、**ファイルハッシュ**などの**基準タイプ**を選択します。
- **ファイル情報ビューアを開く**を選択すると、Citrix Environment Tool Hubに移動します。Citrix Environment Tool Hubを使用して、必要な情報をすばやく取得します。詳細については、「ファイル情報ビューア」を参照してください。
- 必要に応じて、プライマリ基準に基づいて通常ルールに含まれるファイルを含めるための例外を追加できます。このタスクを実行するには、**例外の追加**を選択します。
- Citrix Environment Tool Hubに移動して、**ファイル情報ビューア**の下にある指定された基準のいずれかからデータをコピーし、**ファイル情報ビューアから貼り付け**をクリックします。
- 「**完了**」をクリックします。
- **割り当ての管理**ページで必要に応じて割り当てを更新するには、**割り当てに進む**を選択します。
- この項目を割り当てる**割り当てターゲット**（ユーザーとグループ）を選択します。フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。指定したフィルターは**上書き**モードでのみ有効であり、エージェントバージョン2406以降でのみサポートされます。
- 特定のルールをすべてのファイルに適用する必要がある場合は、アスタリスクを入力します。

WEM WebコンソールでAppLockerルールをインポートする

AppLocker XMLファイルからエクスポートされたアプリケーションセキュリティルールをWEM Webコンソールに直接インポートできます。これにより、既存のAppLocker構成から複数のルールをすばやく取り込み、セットアップを効率化し、環境全体の一貫性を向上させることができます。ルールをインポートすると、その割り当ても含まれます。

AppLockerルールをインポートするには、**セキュリティ > アプリケーションセキュリティ**タブに移動し、**AppLockerルールのインポート**を選択します。

AppLockerルールのインポートページでは、2つのインポートモードオプションが利用可能です。

- **スキップ**: 環境に存在する同じGUIDを持つルールは作成または更新されません。XMLファイルのルールを使用する代わりに、既存のルールが保持されます。
- **上書き**: 一致するGUIDを持つ既存のルールは、XMLファイルのルールを使用して更新されます。

> **注:**
>
> - AppLocker ルール XML ファイルは、サイズが 10 MB を超えてはなりません。
> - ファイルは有効な XML 形式である必要もあります。
> - 担当者が見つからない場合、またはルールをインポートできない場合、ボードにエラーメッセージが表示されます。
> - ルールが無効な場合、ルールの作成は失敗します。

特権昇格

この機能は、特定のプログラムを管理者特権で実行するためのルールを定義します。非管理者ユーザーの特権を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格させることができます。その結果、ユーザーは管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

特権昇格オプション

- 特権昇格ルールの処理: 選択すると、エージェントが特権昇格設定を処理できるようになり、特権昇格タブの他のオプションが利用可能になります。
- Windows Server OS に適用: 特権昇格設定を Windows Server オペレーティングシステムに適用するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーに割り当てられたルールは Windows Server マシンで機能します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。
- RunAsInvoker を強制: すべての実行可能ファイルを現在の Windows アカウントで実行するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーは実行可能ファイルを管理者として実行するように求められません。

このペインには、構成したルールの完全なリストも表示されます。「**実行可能ルール**」、「**Windows インストーラー ルール**」、または「**自己昇格**」をクリックして、ルールリストを特定のルールタイプにフィルタリングできます。「検索」を使用してリストをフィルタリングできます。割り当て済み列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

特権昇格は、実行可能ルールと Windows インストーラー ルールの 2 種類のルールを使用して構成できます。

- **実行可能ルール**: アプリケーションに関連付けられた .exe および .com 拡張子を持つファイルを含むルール。
- **Windows インストーラー ルール**: アプリケーションに関連付けられた `.msi` および `.msp` 拡張子を持つインストーラーファイルを含むルール。Windows インストーラー ルールを追加する際は、次のシナリオを考慮してください。
  - 特権の昇格は、Microsoft の msiexec.exe にのみ適用されます。`.msi` および `.msp` Windows インストーラーファイルを展開するために使用するツールが msiexec.exe であることを確認してください。
  - プロセスが指定された Windows インストーラー規則に一致し、その親プロセスが指定された実行可能規則に一致するとします。そのプロセスは、指定された実行可能規則で 設定が有効になっていない限り、昇格された特権を取得できません。
- **自己昇格**: 有効にすると、ファイルを右クリックしたときにコンテキストメニューに オプションが表示されます。このオプションを選択すると、昇格の理由の入力を求められます。その後、指定した条件に基づいて、昇格が許可されるか拒否されます。規則を構成するには、**Citrix Environment Tool Hub** > **File Info Viewer** を使用して、パス、発行元、ハッシュ値などの必要な情報をすばやく取得できます。期間を指定したり、曜日を選択したり、オプションで規則が有効になるマシンを決定する条件を設定したりすることもできます。構成セットで トグルが初めて有効になると、自己昇格規則が作成され、割り当てターゲットの割り当てを管理する際の規則リストで見つけることができます。この規則は作成後に削除されることはありません。

> **重要:**
>
> フォルダーベースのパス条件で特権昇格規則を構成する場合は、*管理者以外のユーザー*が指定されたパスへの **書き込み** アクセス権を持たないようにしてください。**書き込み** アクセスを許可すると、標準ユーザーがそれらの場所にファイルを配置し、昇格された特権を取得する可能性があります。

> フォルダーベースのパス条件をすでに構成しており、標準ユーザーが **書き込み** アクセス権を持っている場合は、フォルダーのアクセス許可を更新して管理者のみに **書き込み** アクセスを制限するか、規則を **ハッシュ** または **発行元** 条件を使用するように変更してください。

規則が有効な期間を指定できます。また、オプションで、規則が適用されるマシンを決定する条件を設定することもできます。次の条件のすべてまたは一部に一致するように選択できます。

- マシンカタログ名
- デリバリーグループ名
- デバイス名
- IP アドレス
- OS プラットフォームの種類
- OS バージョン
- 永続的なマシンステータス

、、または 規則を選択すると、 セクションに次の利用可能なアクションが表示されます。

- **編集**。既存の実行可能規則を編集できます。
- **削除**。既存の実行可能規則を削除できます。
- **規則の作成**。実行可能規則を作成できます。実行可能規則を作成するには、ウィザードの指示に従ってください。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、親子関係のシナリオで、特定の親プロセスから特定の子プロセスを開始できるかどうかを制御します。親プロセスを定義し、その子プロセスに対して許可リストまたはブロックリストを指定することで、ルールを作成します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

注:

- この機能は、Citrix Virtual Apps にのみ適用されます。

ルールの仕組みを理解するには、次の点に留意してください。

- プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、最も優先度の高いルールのみが適用されます。

- 定義したルールは、元の親子階層に限定されるだけでなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用されるルールは、ルールの優先度に関係なく、その子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の2つのルールを定義します。
  - ルール1：Word は CMD を開くことができません。
  - ルール2：メモ帳は CMD を開くことができます。

  この2つのルールがある場合、ルールの優先度に関係なく、まず Word を開き、次に Word からメモ帳を開くことで、メモ帳から CMD を開くことはできません。

この機能は、特定のプロセスベースの親子関係に依存して動作します。シナリオにおける親子関係を視覚化するには、Process Explorer ツールのプロセスツリー機能を使用します。Process Explorer の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>` を参照してください。

潜在的な問題を回避するために、Full Configuration 管理インターフェイスで **VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe** は、公開アプリケーションが開始する前に WEM エージェントが設定の処理を完了するようにします。次の手順を実行します。

1. **アプリケーション**ノードでアプリケーションを選択し、アクションバーで**プロパティ**をクリックしてから、**場所**ページに移動します。

   Full Configuration のアプリケーション設定ページ(/en-us/workspace-environment-management/service/media/full-configuration-interface-application-settings.png)
2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。
   - **実行可能ファイルへのパス**フィールドに、次のように入力します。

     ```
     <%ProgramFiles%>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe
     ```
3. アプリケーションを開くように指定するコマンドライン引数を入力します。
   - **コマンドライン引数**フィールドに、**VUEMAppCmd.exe** を介して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。

- たとえば、**VUEMAppCmd.exe** を介して iexplore.exe を起動するとします。その場合は、次のように入力します: `%ProgramFiles(x86)%\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。

考慮事項

この機能が動作するには、各エージェントマシンで **AppInfoViewer** ツールを使用して機能を有効にする必要があります。このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。この機能が有効になっている場合、次の考慮事項に注意してください。

- エージェントのアップグレードまたはアンインストール後には、エージェントマシンを再起動する必要があります。
- この機能が有効になっている場合、自動エージェントアップグレード機能は動作しません。自動エージェントアップグレード機能を使用するには、**AppInfoViewer** ツールを使用して、まずプロセス階層制御機能を無効にします。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンで **レジストリエディター** を開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、この機能は有効になっています。

- 32ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
- 64ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`

前提条件

この機能を使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix Virtual Appsの展開。
- エージェントがWindows 10またはWindows Serverで実行されていること。
- インプレースアップグレードまたは新規インストール後にエージェントホストが再起動されていること。

プロセス階層制御オプション

セキュリティで**プロセス階層制御**を選択すると、次のオプションが表示されます。

プロセス階層制御を有効にする：プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、「**プロセス階層制御**」タブの他のオプションが利用可能になり、構成された設定が有効になります。この機能は、Citrix Virtual Apps展開でのみ使用できます。

コンテキストメニューからを非表示にする：Windowsの右クリックコンテキストメニューから「**プログラムから開く**」オプションを表示または非表示にするかどうかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスから非表示になります。無効にすると、オプションは表示され、ユーザーはそれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、「**プログラムから開く**」オプションを介して開始されたプロセスには適用されません。現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを介してアプリケーションがプロセスを開始するのを防ぐために、この設定を有効にすることをお勧めします。

「**プロセス階層制御**」タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。「**検索**」を使用してリストをフィルタリングできます。割り当てられた列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

「**アクション**」セクションには、次のアクションが表示されます。

- **編集**：ルールを編集できます。
- **削除**：ルールを削除できます。
- **ルールの作成**：ルールを追加できます。

ルールの作成

1. 「**プロセス階層制御**」に移動し、「**ルールの作成**」をクリックします。「**ルールの作成**」ページが表示されます。
2. 「**表示**」セクションで、次のように入力します。
   - **名前**：ルールの表示名を入力します。名前はルールリストに表示されます。
   - **説明**：ルールに関する追加情報を入力します。
3. 「**優先度**」セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を構成する際は、次の点を考慮してください。優先度は、構成したルールが処理される順序を決定します。値が大きいほど優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合、優先度の高いルールが優先されます。
4. 「**条件タイプ**」セクションで、「**親プロセス**」を追加するオプションを選択します。
   - **パス**：ルールはファイルパスと一致します。
   - **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。
   - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。

5. **モード**セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。
    - **許可リスト**。親プロセスから開くことが許可されている子プロセスの基準を設定します。それ以外はすべて拒否されます。
    - **拒否リスト**。親プロセスから開くことが許可されていない子プロセスの基準を設定します。それ以外はすべて許可されます。
6. 子プロセスの基準。
7. ルールが有効になる期間を指定します。
8. マシン基準: ルールが有効になるマシンを決定するための基準を設定します。オプションで、ルールが適用されるマシンを決定するための基準を設定できます。次の基準のすべてまたは一部に一致するように選択できます。
    - マシンカタログ名
    - デリバリーグループ名
    - デバイス名
    - IPアドレス
    - OSプラットフォームの種類
    - OSバージョン
    - 永続的なマシンステータス

ユーザーにルールを割り当てるには

リストからルールを1つ選択し、**アクション**セクションで**割り当ての管理**をクリックします。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、**アクション**セクションで**削除**をクリックします。

割り当て

割り当てを使用して、アクションをユーザーが利用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

割り当てターゲット

割り当てターゲットページでは、ユーザーとグループ（ターゲット）を追加して、アクションとセキュリティルールを割り当てることができます。ターゲットを選択して、その割り当てを管理します。

> **注:**

SIDをターゲット名に変換するには時間がかかる場合があります。変換が正しくないか失敗した場合は、ヘルスステータスを表示することで、Cloud Connectorが正常に動作していることを確認してください。問題が解決しない場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

組み込みターゲットは2つあります。

- **全員**。匿名ユーザーやゲストを含むすべてのユーザーが含まれる組み込みグループです。メンバーシップはオペレーティングシステムによって制御されます。
- **管理者**。管理者グループのすべてのメンバーを含む組み込みグループです。オペレーティングシステムの初期インストール後、このグループの唯一のメンバーは管理者アカウントです。コンピューターがドメインに参加すると、Domain Adminsグループが管理者グループに追加されます。サーバーがドメインコントローラーになると、Enterprise Adminsグループが管理者グループに追加されます。

利用可能なオプションは次のとおりです。

- **フィルター**。リストをフィルターできます。
- **割り当てターゲットの追加**。ターゲットを追加できます。
- **ターゲット名の再クエリ**。ターゲット名を更新します。
- **表示。**組み込みターゲットの詳細を表示できます。
- **編集**。ターゲットを編集できます。説明、優先度、および有効化ステータスを変更できます。優先度を設定する際は、次の点を考慮してください。優先度は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。値が大きいほど、優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合、優先度の高いターゲットが優先されます。
- **有効化**。オブジェクト（ターゲット）を有効または無効にできます。
- **削除**。ターゲットを削除できます。注：組み込みターゲットは削除されません。

ヒント:

状態列のトグルを使用して、ターゲットをすばやく有効または無効にできます。

割り当てターゲットを追加する

割り当てを追加するには、次の手順を実行します。

1. **割り当てターゲット**ページで、**割り当てターゲットを追加**をクリックします。
2. IDプロバイダーを選択します。
3. 追加したいターゲットが存在するドメインを選択します。
4. ターゲットタイプを選択します。

> **注:**
>
> Active DirectoryおよびAzure Active Directoryの場合、検索をユーザーまたはセキュリティグループに絞り込むことができます。Active Directoryの場合、組織単位も選択できます。組織単位にはグループポリシー設定のみを割り当てることができることに注意してください。

5. 検索ボックスに、追加したいターゲットの名前を入力します。名前を入力すると、一致するものがメニューに表示されます。

> **注:**
>
> 検索では上位50件の結果のみが返されます。必要に応じて検索を絞り込んでください。

6. プラスアイコンをクリックしてターゲットを追加します。（既に追加したターゲットには緑色のチェックマークアイコンが表示されます。）

> **ヒント:**
>
> 別のIDプロバイダーからターゲットを追加したい場合は、別のIDタイプに切り替えて続行してください。

7. 完了したら、**追加**をクリックしてターゲットを追加し、ウィザードを終了します。

ターゲットの割り当てを管理する

ターゲットの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. **割り当てターゲット**ページで、ターゲットを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してターゲットをすばやく見つけます。

2. アクションバーで、**割り当ての管理**を選択します。**割り当ての管理**ウィンドウが表示されます。
3. 必要に応じて、各アクションまたはセキュリティルールの割り当てを管理します。また、セキュリティルール割り当ての管理ページでターゲットを割り当てるために、特権昇格ルールを選択することもできます。
4. **変更の確認**をクリックして、意図したとおりに変更が行われたことを確認します。

割り当てターゲットをクローンする

割り当てターゲットをクローンするには、次の手順を実行します。

1. **割り当てターゲット**ページで、ターゲットを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してターゲットをすばやく見つけます。
2. アクションバーで、**クローン**を選択します。**割り当てターゲットのクローン**ウィンドウが表示されます。
3. ターゲットのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックします。

> **注:**
>
> - 組み込みターゲットはクローンできません。
> - 一度に最大10個のターゲットをクローンできます。
> - ターゲットがすでに宛先に存在する場合、それはスキップされます。
> - クローンされたターゲットの説明は空です。それらの割り当てはクローンされず、優先度はデフォルト値 (100) に設定され、状態はデフォルトで有効 (チェックマークアイコン) になります。

フィルター

> **注:**
>
> - この機能はプレビュー版として利用できます。
> - フィルターは、割り当ておよびスクリプト化されたタスクで使用されます。

> **フィルター**ページでは、ユーザーにアクションを割り当てるタイミングを制御するためのフィルターを追加できます。フィルターは複数の条件で構成できます。

組み込みフィルターがあります:

- **常にtrue**。選択すると、関連するアクションは常にターゲットユーザーに割り当てられます。この組み込みフィルターは編集または削除できません。

利用可能なオプションは次のとおりです:

- **フィルターの追加**。アクションを割り当てるときに利用できるようにフィルターを追加できます。
- **条件の管理**。条件の追加、削除、編集ができます。
- **更新**。フィルターのリストを更新します。このオプションを使用すると、**条件の管理**にある条件のリストも更新されます。
- **編集**。フィルターを編集できます。ユーザーに割り当てられたアクションにバインドされているフィルターを編集すると、その変更はすぐにそれらのユーザーに影響します。
- **削除**。フィルターを削除できます。
- **状態**。フィルターを有効または無効にできます。

フィルターの作成

フィルターは次の2つの方法のいずれかを使用して作成できます:

- 手動で作成。条件を手動で構成して、ゼロからフィルターを作成します。
- テンプレートから作成。定義済みのテンプレートに基づいてフィルターを作成します。この方法では、条件が事前に入力されるため、設定が簡素化されます。

フィルターを手動で作成する

フィルターを最初から作成するには、次の手順に従います。

1. **フィルター**ページで、**フィルターの作成**をクリックし、**手動で作成**を選択します。
2. **フィルター**ページで、**フィルターの追加**をクリックします。
3. **基本情報**で、以下を設定し、**次へ**をクリックします。
    - **フィルター名**。フィルターの名前を入力します。
    - **説明**。他のフィルターと区別できるように、フィルターの説明を入力します。このフィールドはオプションです。

- **このフィルターを有効にする**。フィルターを有効にするには**はい**を、無効にするには**いいえ**を選択します。

4. **条件**で、条件を追加してフィルターを構築します。演算子をクリックして、**すべて一致**（**AND**演算子）または**いずれかに一致**（**OR**演算子）を切り替えます。両方の演算子を使用して、2つ以上の条件を複合条件に組み合わせることができます。

   - **条件の追加**。リストから条件を選択するか、新しい条件を作成します。
   - **条件グループの追加**。同じ論理演算子（**AND**または**OR**）を使用して一連の条件をグループ化するために、条件グループを追加します。条件グループ内に条件グループを追加できます。条件グループは最大3レベルまでネストできます。

   > **注:**
   >
   > - ここで作成した条件は、他のフィルターでも使用できます。
   > - 複合条件の基準をより深く理解するには、**概要**セクションを使用します。
   > - **OR**演算子を含むフィルターは、バージョン2210.2.0.1以降のエージェントでのみ評価されます。
   > - 特定の種類の条件は、ユーザー設定にのみ適用されます。それらをマシン設定（スクリプト化されたタスクやGPOなど）に適用すると、エージェントはフィルターの評価時にそれらをスキップします。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」を参照してください。
   > - 同じレベルのフィルター条件が**OR**で結合されている場合、そのレベルのいずれかの条件を満たせば十分です。同じレベルのフィルター条件が**AND**で結合されている場合、そのレベルのすべての条件を満たす必要があります。

5. 完了したら、**完了**をクリックします。

テンプレートからフィルターを作成する

定義済みのテンプレートに基づいてフィルターを作成すると、条件が事前に入力されるため、設定が簡素化されます。たとえば、**Citrix Virtual Desktops 用フィルター**テンプレートを使用すると、ユーザーセッションがCitrix Virtual Desktopsで発生した場合にのみアクションを割り当てるフィルターをすばやく作成できます。

> **注:**

- テンプレートベースのフィルターは現在、セッションレベルでのみ動作します。
- 現在、Citrix Virtual Apps™環境、Citrix Virtual Desktops環境、および時間範囲を識別するフィルターをすばやく作成するのに役立つ3つのテンプレートが利用可能です。

テンプレートからフィルターを作成するには、次の手順に従います。

1. **フィルター**ページで、**フィルターの作成**をクリックし、**テンプレートから作成**を選択します。**テンプレートからフィルターを作成**ページが表示されます。
2. フィルターの名前を入力します。
3. （オプション）フィルターを識別しやすくするために説明を入力します。
4. フィルターのテンプレートを選択します。利用可能なテンプレートについては、次の表を参照してください。

名前	目的	スコープ
Citrix Virtual Apps 用フィルター	Citrix Virtual Apps環境を識別するフィルターを作成するためのテンプレート。	セッションレベルのフィルタリング
Citrix仮想デスクトップのフィルター	Citrix Virtual Desktops環境を識別するフィルターを作成するためのテンプレート。	セッションレベルのフィルタリング
時間範囲のフィルター	特定の時間範囲を識別するフィルターを作成するためのテンプレート。	セッションレベルのフィルタリング
	注： 時間範囲フィルターは、デフォルトで30分ごとに発生する自動更新に依存して有効になります。そのため、フィルターは設定された時間に正確に適用されず、次回の更新まで遅延する可能性があります。	

5. 「**完了**」をクリックします。

注:

- テンプレートから作成されたフィルターは自動的に有効になります。
- これらのフィルターは、作成後に編集することで条件を追加できます。

条件を作成する

フィルターを追加するとき、または条件を管理するときに条件を作成できます。表示される**条件の作成**ウィザードで、次の手順を実行します。

1. 条件名を入力します。
2. 条件を有効にするには**はい**を、無効にするには**いいえ**を選択します。
3. リストから条件タイプを選択し、それに応じて設定を構成します。

条件タイプによって設定が異なる場合があります。利用可能な条件タイプは次のとおりです。

条件タイプ	説明
常に真	この条件は常に真となります。
アクティブディレクトリ属性	属性名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。属性値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 属性値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
Active Directoryグループ	グループ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。グループ名をセミコロン (;) で区切って入力します。
アクティブディレクトリパス	パスが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。パスをセミコロン (;) で区切って入力します。注: アスタリスク (*) を

条件タイプ	説明
	ワイルドカードとして使用できます。
Active Directoryサイト	サイト名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。サイト名をセミコロン (;) で区切って入力します。
Citrix Provisioning™イメージモード	イメージモードが**共有**または**プライベート**であるかどうかに応じて、真または偽になります。
Citrix Virtual Apps™ファーム名	ファーム名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。
Citrix Virtual Apps バージョン	バージョンが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
Citrix Virtual Apps ゾーン名	ゾーン名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
デリバリーグループ名	デリバリーグループ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。 **注:** サブフォルダーに保存されているデリバリーグループは、名前にフルパスを指定することでフィルター条件として使用できます。例: `Subfolder name\Delivery group name`

条件タイプ	説明
マシンカタログ名	マシンカタログ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。 **注:** サブフォルダーに保存されているマシンカタログは、名前にフルパスを指定することでフィルター条件として使用できます。例: `Subfolder name\Machine catalog name`
Citrix Virtual Desktops ファーム名	ファーム名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
クライアントIPアドレス	IPアドレスが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
クライアント名	クライアント名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。クライアント名をセミコロン (;) で区切って入力します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。動的トークンも使用できます。
クライアントOS	クライアントOSが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
クライアントリモートOS	クライアントリモートOSが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
コンピューター名	コンピューター名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。コンピューター名をセミコロン (;)

条件タイプ	説明
	で区切って入力します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。
接続状態	接続状態が**オンライン**か**オフライン**かに応じて、真または偽。
日付と時刻	日付と時刻が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。日付または日付範囲をセミコロン (;) で区切って入力します。日付は `mm/dd/yyyy` の形式で入力します。日付範囲は (時刻は任意で) `mm/dd/yyyy HH:mm - mm/dd/yyyy HH:mm` の形式で入力します。
曜日	曜日が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
動的値	動的値が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。動的式が解決する値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 動的式の値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
環境変数	環境変数が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。環境変数の値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 環境変数の値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。

条件タイプ	説明
ファイルバージョン	ファイルバージョンが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。ファイルバージョンをセミコロン (;) で区切って入力します。
ファイル/フォルダーの有無	パスが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。ファイルまたはフォルダーの完全なパスを入力します。動的トークンを使用できます。
IPアドレス	IPアドレスが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。IPアドレスまたはIPアドレス範囲をセミコロン (;) で区切って入力します。注: アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。
名前がリストにあるかどうか	名前が指定されたリストに含まれているかどうかに応じて、真または偽。**名前**フィールドに、リスト内で検索する名前を入力します。**XMLリストのファイルパス**フィールドに、XMLリストの完全なファイルパスを入力します。
名前/値がリストにあるかどうか	名前または値が指定されたリストに含まれているかどうかに応じて、真または偽。**名前**フィールドに、リスト内で検索する名前または値を入力します。**XMLリストのファイルパス**フィールドに、XMLリストの完全なファイルパスを入力します。

条件タイプ	説明
ネットワーク接続状態	ネットワーク接続の状態が**利用可能**か**利用不可**かに応じて、真または偽。
OSプラットフォームの種類	OSプラットフォームの種類が**x86**か**x64**かに応じて、真または偽。
公開リソース名	指定された値と名前が一致するかどうかに応じて、真または偽。公開リソース名をセミコロン (;) で区切って入力します。
レジストリ値	レジストリ値が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。**レジストリパスと名前**フィールドに、レジストリ値名を含む完全なパスを入力します。**レジストリ値**フィールドに、レジストリ値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: レジストリエントリの値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
トランスフォーマーモードの状態	状態が**無効**か**有効**かに応じて、真または偽。
地域形式	形式が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。必要に応じて、**リストにない値を追加**オプションを使用して、ISO 言語コードをセミコロン (;) で区切って入力します。
ユーザーSBCリソースの種類	種類が**デスクトップ**か**公開アプリケーション**かに応じて、真または偽。

条件タイプ	説明
ユーザーUI言語	言語が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
WMIクエリ	指定されたクエリに結果があるかどうかに応じて、真または偽。Windows Management Instrumentation (WMI) クエリ操作は、エージェントマシンでクエリを実行できます。クエリから返された結果に基づいて、この条件を定義できます。詳細については、Microsoft のドキュメントを参照してください: `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql>`。

「クライアント」および「コンピューター」関連の条件を使用する場合、次の2つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合:
  - 「クライアント」とは、エージェントホストに接続するクライアントデバイスを指します。
  - 「コンピューター」および「クライアントリモート」はエージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」が含まれる条件は適用されません。

詳細情報

マシン設定に適用されない条件

設定には次の2種類があります。

- **マシン設定**。これらの設定は、誰がログオンしているかに関係なく、マシンにのみ適用されます。例：グループポリシー設定とスクリプト化されたタスク。

- **ユーザー設定**。これらの設定は、どのマシンにログオンしているかに関係なく、ユーザーにのみ適用されます。例：ユーザーの言語設定。

以下の条件はマシン設定には適用されません。フィルターにこれらのいずれかが含まれている場合、エージェントはフィルターを評価する際にそれらをスキップします。

フィルター名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアントIPアドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCUで始まるレジストリ値を構成した場合、**レジストリ値の一致**フィルターは、マシン設定に適用されても機能しません。
ユーザーの国の一致	いいえ
ユーザーUI言語の一致	いいえ
ユーザーSBCリソースタイプ	いいえ
Active Directoryパスの一致	いいえ
Active Directory属性の一致	いいえ
クライアント名が一致しない	いいえ
クライアントIPアドレスが一致しない	いいえ
レジストリ値が一致しない	いいえ
ユーザーの国が一致しない	いいえ
ユーザーUI言語が一致しない	いいえ
Active Directoryパスが一致しない	いいえ
Active Directory属性が一致しない	いいえ
クライアントのリモートOSの一致	いいえ
クライアントのリモートOSが一致しない	いいえ

フィルター名	マシン設定に適用可能
Active Directoryグループの一致	いいえ
Active Directoryグループが一致しない	いいえ
公開リソース名	いいえ

トリガー

トリガーを作成し、それらにタスクを関連付けます。アクティブ化されると、トリガーはユーザー環境で関連付けられたタスクを開始します。トリガーに関連付けられたタスクを表示するには、トリガーをクリックして行を展開します。

次の操作を実行できます。

- トリガーを作成する
- ビューを更新する
- トリガーを編集する
- トリガーを複製する
- 関連付けを管理する
- トリガーを削除する

> **ヒント:**
>
> **状態**列のトグルを使用して、トリガーをすばやく有効または無効にできます。

> 組み込みトリガーは次のとおりです。

- セッショントリガー:
  - **エージェントの更新**。ユーザーがエージェントを更新したときにアクティブ化されます。
  - **再接続**。ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにアクティブ化されます。
  - **ログオン**。ユーザーがマシンにログオンしたときにアクティブ化されます。
  - **ログオフ**。ユーザーがマシンからログオフしたときにアクティブ化されます。
  - **切断**。ユーザーがマシンから切断したときにアクティブ化されます。
  - **ロック**。ユーザーがマシンをロックしたときにアクティブ化されます。

    - **ロック解除**。ユーザーがマシンをロック解除したときにアクティブ化されます。

> **注:**
>
> セッショントリガーを使用すると、セッションアクティビティをトリガーとして構成できます。これらは現在、外部タスクでのみ利用可能です。

- マシントリガー:
    - **マシンのシャットダウン**。マシンがシャットダウンしたときにアクティブ化されます。
    - **マシンの起動**。マシンが起動したときにアクティブ化されます。

> **注:**
>
> - 組み込みトリガーを削除および編集することはできません。
> - 起動トリガーとシャットダウントリガーの使用例については、「スクリプトタスクの起動トリガーとシャットダウントリガーを構成する」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/how-to/configure-startup-and-shutdown-triggers.html)を参照してください。

トリガーを作成する

トリガーを作成するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、**トリガーの作成**をクリックします。
2. トリガーの名前を指定します。
3. 必要に応じて、トリガーを識別しやすくするための追加情報を指定します。
4. トリガーを有効にするか（**はい**）、無効にするか（**いいえ**）を選択します。

> **注:**
>
> 無効になっている場合、エージェントはトリガーを評価および処理しません。

5. リストからトリガーの種類を選択し、必要な情報を入力します。

- **スケジュール済み**
- **プロセス開始**
- **プロセス終了**
- **Windowsイベント**
- **クラウドヘルスチェック結果**
- **Profile Managementヘルスチェック結果**
- **スクリプトタスク結果**

> **ヒント:**
>
> - 選択したトリガーの種類によって情報が異なります。詳細については、「利用可能なトリガーの種類」を参照してください。
> - Windowsイベントをトリガーとして使用してVDA登録の問題を検出する方法の例については、「Windowsイベントをトリガーとして使用してVDA登録の問題を検出する」を参照してください。

6. **概要**で、意図したとおりにトリガーが作成されていることを確認します。
7. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

利用可能なトリガーの種類

選択可能なトリガーの種類は次のとおりです。

- **スケジュール済み**。トリガーをアクティブにするタイミングをスケジュールします。次のオプションが利用可能です。
  - **日付と時刻**。トリガーがアクティブになるタイミングを指定します。
  - **繰り返し**。トリガーがアクティブになる頻度を指定するには、**はい**を選択します。たとえば、1時間ごと、2時間ごと、毎日、2日ごとなどです。**週**または**月**を選択した場合、1つまたは複数の特定の日を指定できます。トリガーを1回だけアクティブにする場合は、**いいえ**を選択します。
- ユーザープロセス トリガー
  - **プロセス開始**。指定されたプロセスが開始したときにトリガーをアクティブにします。
  - **プロセス終了**。指定されたプロセスが終了したときにトリガーをアクティブにします。

> **注:**
>
> ユーザープロセス トリガーを使用すると、ユーザープロセスをトリガーとして構成でき、現在、外部タスクでのみ利用可能です。

- **Windowsイベント**。トリガーをアクティブにするためにWindowsイベントが満たす必要のある条件を定義できます。次のオプションが利用可能です。
  - **条件の追加**。トリガーをアクティブにするためにWindowsイベントが満たす必要のある条件を定義します。
  - **間隔**。トリガーの間隔を分単位で指定します。アクティブ化された後、指定された間隔が経過するまでトリガーは再度アクティブ化されません。

> **注:**
>
> アプリケーション、システム、セキュリティなどのWindowsクラシックイベントログのみがサポートされています。

- **Cloud Health Checkの結果**。Cloud Health Checkが指定されたヘルスステータスを返したときにトリガーをアクティブにします。次のオプションが利用可能です。
  - **VDAヘルスステータス**。VDAヘルスステータスを使用してトリガーをアクティブにします。VDAは、ホーム > 概要に示されているように、正常または異常な状態になることがあります。
  - **タスクデータ**。関連付けられたタスクに渡すデータを選択し、そのタスクでデータを受信するパラメーターを指定します。ここで指定するパラメーターが関連付けられたタスク用に構成されたパラメーターと同じである場合、前者が優先されます。デフォルトのパラメーター名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。次のデータを指定できます。
    - **VDA ヘルスステータス (文字列)**。Cloud Health Check が返すヘルスステータス。関連付けられたタスクでパラメーターを使用して、ステータスを受け取ります。
    - **ヘルスレポート (文字列)**。Cloud Health Check が生成する VDA ヘルスチェックレポート。関連付けられたタスクでパラメーターを使用して、レポートのフルパスを受け取ります。詳細については、「ヘルスチェックの結果」を参照してください。

- **Profile Management ヘルスチェックの結果**。Profile Management ヘルスチェックが指定されたヘルスステータスを返すと、トリガーがアクティブになります。次のオプションが利用可能です。
  - **Profile Management ヘルスステータス**。次の Profile Management ヘルスステータスを使用して、関連付けられたタスクをトリガーします: 警告 (Profile Management の最適ではない状態) およびエラー (Profile Management が正しく構成されていません)。
  - **タスクデータ**。関連付けられたタスクに渡すデータを選択し、そのタスクでパラメーターを指定してデータを受け取ります。ここで指定するパラメーターが、関連付けられたタスク用に構成されているパラメーターと同じである場合、前者が優先されます。デフォルトのパラメーター名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。次のデータを指定できます。
    - **Profile Management ヘルスステータス (文字列)**。Profile Management ヘルスチェックが返すヘルスステータス。関連付けられたタスクでパラメーターを使用して、ステータスを受け取ります。詳細については、「管理」を参照してください。
    - **ヘルスレポート (文字列)**。Profile Management ヘルスチェックが生成するヘルスチェックレポート。関連付けられたタスクでパラメーターを使用して、レポートのフルパスを受け取ります。詳細については、「レポート」を参照してください。
- **スクリプト化されたタスクの結果**。スクリプト化されたタスクが指定された結果を返すと、トリガーがアクティブになります。まずカスタムスクリプトを指定し、次にスクリプトがトリガーをアクティブにするために満たす必要がある条件を定義します。次のオプションが利用可能です。
  - **条件の追加**。1つ以上のスクリプトを選択し、それらのスクリプトがトリガーをアクティブにするために満たす必要がある条件を定義します。
  - **タスクデータ**。関連付けられたタスクに渡すデータを選択し、そのタスクでパラメーターを指定してデータを受け取ります。ここで指定するパラメーターが、関連付けられたタスク用に構成されているパラメーターと同じである場合、前者が優先されます。デフォルトのパラメーター名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。次のデータを指定できます。
    - **スクリプト名 (文字列)**。関連付けられたタスクをトリガーするスクリプトの名前。関連付けられたタスクでパラメーターを使用して、名前を受け取ります。
    - **タスク名 (文字列)**。関連付けられたタスクをトリガーするスクリプト化されたタスクの名前。関連付けられたタスクでパラメーターを使用して、名前を受け取ります。

- **終了コード (整数)**。スクリプト化されたタスクが返す終了コード値。関連付けられたタスクでパラメーターを使用して、値を受け取ります。
- **コンソール出力 (文字列)**。スクリプト化されたタスクが書き込むコンソール出力。関連付けられたタスクでパラメーターを使用して、出力のフルパスを受け取ります。
- **ファイル出力 (文字列)**。スクリプト化されたタスクが生成するファイル出力。関連付けられたタスクでパラメーターを使用して、出力のフルパスを受け取ります。

トリガーを編集

トリガーを編集するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. **概要**で、意図したとおりに変更が加えられていることを確認します。
5. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

トリガーを複製

トリガーを複製するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで**複製**をクリックします。
3. 複製に名前を指定します。
4. 必要に応じて、トリガーを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
5. トリガーの複製先の構成セットを選択します。
6. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

関連付けを管理

トリガーの関連付けを管理するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで**関連付けを管理**をクリックします。
3. スクリプト化されたタスクを選択してトリガーに関連付けるか、スクリプト化されたタスクの選択を解除して関連付けを解除します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく検索します。
4. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

関連付けを管理する際は、次の点に注意してください。

- 無限ループを防ぐため、WEMは単一のループチェーンで最大10回のトリガーをサポートします。以下に例を示します。タスクAがタスクBをトリガーし、タスクBがタスクCをトリガーし、...、タスクKがタスクLをトリガーします。タスクKはタスクLをトリガーできません。この単一のループチェーンでのトリガー回数が10を超えたため、ループは終了します。



トリガーを削除

トリガーを削除するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで**削除**をクリックします。

> **注:**
>
> スクリプト化されたタスクが関連付けられているトリガーを削除すると、それらのタスクはトリガーされなくなります。

トリガーのサポート性マトリックス

以下の表は、どのトリガーがどのタスクでサポートされているかを示しています。

	スクリプトタスク	外部タスク
エージェントの更新		X
再接続		X
ログオン		X
ログオフ		X
切断		X
ロック		X

	スクリプトタスク	外部タスク
ロック解除		X
マシンの起動	X	
マシンのシャットダウン	X	
スケジュール済み	X	X
プロセス開始		X
プロセス終了		X
Windowsイベント	X	X
クラウドヘルスチェックの結果	X	
プロファイル管理ヘルスチェックの結果	X	
スクリプトタスクの結果	X	

プロファイル

これらの設定を使用すると、ユーザーGPOを置き換え、ユーザープロファイルを構成できます。

- Citrix プロファイル管理設定
- Microsoft USV 設定

Citrix プロファイル管理設定

> **注:**
>
> 一部のオプションは、特定のバージョンのProfile Managementでのみ機能します。詳細については、Profile Managementのドキュメントを参照してください。

> Workspace Environment Management™ (WEM)は、現在のバージョンに至るまですべてのバージョンのCitrix Profile Managementをサポートしています。

コンソール (**構成セット > プロファイル > Profile Management設定**) で、現在のバージョンのCitrix Profile Managementのすべての設定を構成できます。

WEMを使用してCitrix Profile Management機能を構成するだけでなく、Active Directory GPO、Citrix Studioポリシー、またはVDA上の.iniファイルを使用することもできます。一貫して同じ方法を使用することをお勧めします。

プロファイル管理設定

有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境にProfile Management関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成したProfile Management設定をWEMがエージェントに展開するかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management設定はエージェントに展開されません。

デフォルトでは、ほとんどのProfile Management設定はマシンレベルでのみ機能します。特定のProfile Management設定をユーザーレベルで機能するように有効にすることで、特定のユーザーに合わせてプロファイルエクスペリエンスを調整できます。ユーザーレベルのProfile Management設定を参照してください。

必要に応じてタグを選択して、プロファイル管理設定をフィルタリングできます。選択したタグに関連付けられた設定が表示され、残りは非表示になります。

- ファイルベース。ファイルベースのソリューションをサポートする設定。
- コンテナベース。コンテナベースのソリューションをサポートする設定。
- アプリケーションアクセス制御。アプリケーションアクセス制御に関連する設定。

ビューを切り替えると、選択したタグセットが今後の使用のために管理者設定の一部として保存されます。

クイックセットアップ

Profile Management を迅速にセットアップするには、バックアップから設定を復元するか、テンプレートから開始できます。

バックアップから復元

Profile Management 設定を含むバックアップが表示されます。Profile Management 設定を含むバックアップをアップロードするには、Profile Management 設定のバックアップを参照してください。

リストからバックアップを1つ選択します。**プレビュー**をクリックして設定を確認し、必要に応じて調整します。バックアップ内の他の種類の（もしあれば）設定は無視されます。

注:

- Profile Management 設定を復元するには、バックアップと復元機能も使用できます。
- バックアップからProfile Management 設定を復元すると、関連サービスで使用するために選択されたSMB共有も復元されます。

テンプレートから開始

重要:

Profile Management がすでに構成されている場合、テンプレートを使用すると、既存のすべての設定が上書きされることに注意してください。

ユーザープロファイルの処理方法に基づいて、2種類のユーザー ストアがあります。

- **ファイルベース**。ユーザープロファイルは、ログオン時にリモートユーザー ストアからローカルコンピューターにフェッチされ、ログオフ時に書き戻されます。
- **コンテナベース**。ユーザープロファイルはプロファイルコンテナに保存されます。これらのコンテナは、ログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

ユースケースに合わせてProfile Management を迅速にセットアップするには、テンプレートを選択します。

ユーザーレベル設定

この機能を使用すると、カスタマイズと詳細な制御のために、特定のプロファイル管理設定をユーザーレベルで構成できます。この機能を使用して、特定のプロファイル管理設定を個々のユーザーまたはユーザーグループに適用し、必要に応じてプロファイルエクスペリエンスを調整します。

プロファイル管理設定をユーザーレベルで構成するには、次の2つの方法があります。

- Workspace Environment Management Webコンソールを使用する
- プロファイル管理で利用可能なユーザーレベルのポリシー設定を使用する

Webコンソールは、プロファイル管理のユーザーレベル設定を構成するための、ユーザーフレンドリーなUIベースのインターフェイスを提供します。

Webコンソールを使用してユーザーレベル設定を構成するには、次の手順を実行します。

- ページで、ユーザーレベル設定リンクをクリックします。
- ユーザーレベル設定ページでは、次のことができます。
  - 構成を追加します。
  - グループの優先順位を設定します。
  - 2つのビューを切り替えます: と 。

構成の追加

構成を追加するには、次の手順を実行します。

1. 構成に名前を付けます。
2. この構成を適用する個々のユーザーまたはユーザーグループを追加します。

> **注:**
>
> Active Directory (AD) および Azure Active Directory (AAD) がサポートされています。

3. それらのユーザーに適用する設定を追加します。

> **注:**
>
> - UI には、ユーザーが利用できる設定のみが表示されます。
> - 必要に応じて、設定を編集または削除できます。

構成を追加するたびに、**アクション > グループポリシー設定 > その他**に表示されます。ユーザーレベルの設定を有効にするには、GPO 処理を有効にする必要があります（グループポリシー設定で**GPO の処理**オプションを有効にします）。

グループの優先順位を設定する

セッションが開始されると、Profile Management は、ユーザー設定をユーザーグループ設定よりも優先し、ユーザーグループ設定をマシン設定よりも優先することで、適用するポリシー設定を決定します。

ユーザーが競合する設定を持つ複数のグループに属している状況を処理するために、以下の手順を実行してグループの優先順位を設定できます。

1. **グループの優先順位を有効にする**オプションを選択します。
2. **追加**をクリックしてグループを追加します。
3. グループを優先順位の降順に並べます。

> **注:**
>
> ユーザーが競合する設定を持つ複数のグループに属している場合、リストの上位にあるグループが優先されます。

4. 完了したら、**保存**をクリックして終了します。

構成またはユーザー/グループで表示

2つのビューを切り替えて、ユーザー/グループ別または構成別に分類されたユーザーレベルの設定を表示できます。

フォルダーリダイレクト

この機能を使用すると、ルールセットを構成して、ローカルフォルダーのパスを新しい場所にリダイレクトできます。各ルールセットは、フォルダーにアクセスするユーザーに基づいて、フォルダーをリダイレクトする場所を指定します。ルールセットには主に次のものが含まれます。

- **リダイレクトルール。** リダイレクトするローカルフォルダーと、それらをリダイレクトする場所（ネットワークの場所など）を指定します。
- **割り当て。** リダイレクトルールを割り当てるユーザーを指定します。

構成セットのルールセットを追加するには、次の手順に従います。

1. ターゲット構成セットの**プロファイル管理設定**ページに移動します。
2. 検索ボックスの上にある**フォルダーリダイレクト**リンクをクリックします。
3. 表示される**フォルダーリダイレクト**ページで、**ルールセットの追加**をクリックします。
4. 表示される**ルールセットの追加**ページで、次の手順に従って設定を完了します。
    a. **リダイレクトルール**ページで、リダイレクトするフォルダーを選択し、リダイレクト先を指定して、**次へ**をクリックします。

- フォルダーをネットワークの場所、ユーザーのホームディレクトリ（特定のフォルダーのみ）、またはローカルユーザープロファイルの場所にリダイレクトできます。
- デフォルトでは、**コンテンツを新しい場所に移動**オプションが選択されており、リダイレクトターゲットパスを設定または変更すると、以前のパスのコンテンツが自動的に新しいパスに移動されることを示します。この動作を防ぐには、このオプションをオフにします。

b. **割り当て**ページで、リダイレクトルールを割り当てるユーザー、グループ、またはOUを選択し、**次へ**をクリックします。デフォルトのグループには、**Everyone**と**Administrators**が含まれます。グループを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。

c. **追加設定**ページで、ルールセットの次の設定を指定し、**次へ**をクリックします。

- **管理者へのアクセスを許可する: ローカル管理者**グループにリダイレクトターゲットパスへのアクセスを許可するかどうか。デフォルトでは、これらのパスはプロファイル所有者のみがアクセスできます。
- **特定のユーザーとグループへのアクセスを許可する:** 特定のユーザーとグループにリダイレクトターゲットパスへのアクセスを許可するかどうか。このオプションを選択した後、必要に応じて「ユーザー/グループの追加」をクリックしてユーザーとグループを指定します。
- **ドメイン名を含める:** UNCパスの一部として %userdomain% 環境変数を含めるかどうか。
- 数値を入力して、このルールセットの優先度を設定します。数値が大きいほど優先度が高くなります。複数のルールセットが同じターゲットに適用される場合、優先度の高い方が適用されます。

d. このルールセットのわかりやすい名前を入力し、設定を確認します。調整するには、左ペインの対応するステップをクリックします。

e. 「**完了**」をクリックします。

注:

現在、新しく展開されたルールセットを有効にするには、エンドユーザーが2回ログオンする必要があります。

基本設定

基本設定を適用して、Profile Management の使用を開始します。基本設定には、処理対象グループ、除外グループ、ユーザー ストアなどが含まれます。

Profile Management を有効にする。エージェントマシンで Profile Management サービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management サービスは機能しません。

エージェントにすでに展開されている設定が処理されなくなるように、Profile Management を完全に無効にしたい場合があります。その目的を達成するには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management を有効にする**チェックボックスをオフにし、変更が自動的に適用されるのを待つか、すぐに適用するために手動で変更を適用します。

   > **注:**
   >
   > この変更が有効になるまでには、詳細設定 で **SQL 設定の更新遅延 (分)** に指定した値に応じて時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新し、関連するすべてのエージェントの Profile Management 設定をリセットします。管理 を参照してください。

2. 変更が有効になったら、**Profile Management 設定**を無効にします。

処理対象グループを設定する。Profile Management によって処理されるグループを指定できます。指定されたグループのみが Profile Management 設定を処理されます。空のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外グループを設定する。Profile Management から除外されるグループを指定できます。

ローカル管理者ログオンを処理する。有効にすると、Profile Management のローカル管理者ログオンは非管理者ログオンと同じように扱われます。

ユーザーストアへのパスを設定する。Citrix ユーザープロファイルの集中管理場所であるユーザーストアへのパスを指定できます。絶対 UNC パスまたはホームディレクトリからの相対パスを入力します。パスの例:

- `\\<IP address or FQDN>\<user store directory>\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`!

ユーザーストアを移行する。ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されていたフォルダーへのパスを指定できます。以前使用していたユーザーストアのパスを入力しま

す。このオプションは、**ユーザーストアへのパスを設定する**オプションと組み合わせて使用します。

アクティブライトバックを有効にする。有効にすると、ユーザーセッション中にプロファイルがユーザーストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

- **アクティブライトバックレジストリを有効にする**。有効にすると、ユーザーセッション中にレジストリエントリがユーザーストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。
- **セッションロックおよび切断時にアクティブライトバックを有効にする**。有効にすると、プロファイルファイルとフォルダーはセッションがロックまたは切断された場合にのみ書き戻されます。このオプションと**アクティブライトバックレジストリを有効にする**オプションの両方が有効になっている場合、レジストリエントリはセッションがロックまたは切断された場合にのみ書き戻されます。

オフラインプロファイルサポートを有効にする。有効にすると、プロファイルは接続されていない間も使用できるようにローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ

プロファイルコンテナ設定を構成します。プロファイルコンテナは、ネットワーク上に保存され、ログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされる VHDX ディスクです。

プロファイルコンテナを有効にする。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを追加できます。ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに入れるには、代わりにアスタリスク（*）を追加します。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをネットワークに保存されているプロファイルディスクにマッピングし、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定してください。

- **プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**。有効にすると、各ローカルプロファイルがそのプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。このオプションでは、ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに入れる必要があります。
- **ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする**。ユーザーログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合に、ユーザーを強制的にログオフするかどうかを指定できます。このオプションを有効にすると、ユーザーに通知メッセージが表示され、ユーザーが をクリックするとログオフされます。

フォルダーの除外を有効にする。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダーを少なくとも1つ指定してください。

ファイルの除外を有効にする。有効にすると、Profile Management はリストされたファイルをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するファイルを少なくとも1つ指定してください。

フォルダーの包含を有効にする。有効にすると、Profile Management は、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたフォルダーをプロファイルコンテナに保持します。このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。つまり、このオプションは**フォルダーの除外を有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があります。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定してください。

ファイルインクルージョンを有効にする。有効にすると、Profile Management は、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたファイルをプロファイルコンテナーに保持します。このリストのファイルは、除外されたフォルダーに含まれている必要があります。これは、このオプションを**フォルダー除外を有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイルコンテナーに含めるファイルを少なくとも1つ指定します。

> **ヒント:**
>
> ファイルまたはフォルダーを追加するときは、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

> プロファイルコンテナーのコンテンツ、除外、およびインクルージョンを追加するときは、個別に、または一括で追加できます。一括で追加する場合は、改行で区切られたパスを入力します。その後、**検証を実行**をクリックして、追加しようとしている項目を検証します。有効な項目のみを追加できます。無効な項目はスキップされます。

また、プロファイルコンテナーのコンテンツ、除外、およびインクルージョンの階層ビューを表示することもできます。これを行うには、**階層を表示**をクリックします。

プロファイルコンテナーのVHD自動拡張を有効にする。有効にすると、プロファイルコンテナーが使用率90%に達したときに、最大容量80GBまで自動的に10GB拡張されます。必要に応じて、次のオプションを使用してデフォルトの自動拡張設定を調整できます。

- **自動拡張トリガーしきい値 (%)。**プロファイルコンテナーが自動拡張をトリガーするストレージ容量の使用率 (%) を指定できます。
- **自動拡張増分 (GB)。**自動拡張がトリガーされたときにプロファイルコンテナーが自動的に拡張するストレージ容量 (GB) を指定できます。

- **自動拡張制限 (GB)。**自動拡張がトリガーされたときにプロファイルコンテナーが自動的に拡張できる最大ストレージ容量 (GB) を指定できます。

プロファイルコンテナーにアクセスするユーザーとグループを設定する。プロファイルコンテナーに対する読み取りおよび実行権限を持つADドメインユーザーとグループを指定できます。デフォルトでは、プロファイルコンテナーはその所有者のみがアクセスできます。

プロファイルの処理

Profile Management がユーザープロファイルを処理する方法を指定します。

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されます。

- **キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延を設定する。**ログオフ時にキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延 (秒単位) を指定できます。サポートされる値: 0〜600。

既存のプロファイルの移行を有効にする。有効にすると、既存のWindowsプロファイルはログオン時にProfile Managementに移行されます。ユーザーストアが空の場合に移行するユーザープロファイルのタイプを指定します。タイプには以下が含まれます。

- ローカルとローミング
- ローカル
- ローミング

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルが自動的に移行されます。プロファイル管理は、ユーザーがログオンしたとき、およびユーザーストアにユーザープロファイルがないときに移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にする。プロファイル管理とWindowsプロファイルが競合する場合のWEMの処理方法を構成します。ユーザーストアにローカルWindowsユーザープロファイルとCitrixユーザープロファイルの両方が存在する場合の対処法を指定します。

- ローカルプロファイルを使用する
- ローカルプロファイルを削除する
- ローカルプロファイルの名前を変更する

テンプレートプロファイルを有効にする。テンプレートプロファイルのパスを入力できます。有効にすると、プロファイル管理は指定されたテンプレートプロファイルを使用します。追加設定は次のように構成できます。

- **テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする**。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きします。
- **テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書きする**。有効にすると、テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書きします。
- **すべてのログオンでテンプレートプロファイルをCitrix必須プロファイルとして使用する**。有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルを上書きします。

詳細設定

プロファイル管理の詳細設定を制御します。

アプリケーション

Microsoft Outlookユーザーの検索インデックスローミングを有効にする。有効にすると、ユーザー固有のMicrosoft Outlookオフラインフォルダファイル（*.ost）とMicrosoft検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。この機能により、Microsoft Outlookでのメール検索時のユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook検索インデックスデータベース – バックアップと復元**。有効にすると、プロファイル管理は検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損が発生した場合、プロファイル管理はそのコピーに戻します。その結果、検索インデックスデータベースが破損した場合に手動でデータベースを再インデックスする必要がなくなります。
- **同時セッションサポートを有効にする**。同時セッションでネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションは個別のOutlook OSTファイルを使用します。
    - **Outlook OSTファイルを保存するためのVHDXディスクの最大数**。Outlook OSTファイルを保存するためのVHDXディスクの最大数を指定できます。指定しない場合、Outlook OSTファイルを保存するために使用できるVHDXディスクは2つだけです（ディスクごとに1ファイル）。さらにセッションが開始されると、それらのOutlook OSTファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。サポートされる値: 1〜10。

OneDriveコンテナを有効にする。有効にすると、Profile ManagementはOneDriveフォルダをVHDXディスクに保存することで、ユーザーとともにローミングします。ディスクはログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

UWPアプリのローミングを有効にする。 有効にすると、UWP（Universal Windows Platform）アプリがユーザーとともにローミングします。その結果、ユーザーは異なるデバイスから同じUWPアプリにアクセスできます。

UWPアプリのロード高速化を有効にする。 UWPアプリのロードを高速化し、非永続環境での一貫性を向上させることができます。デフォルトでは、WindowsはUWPアプリの登録情報を各マシンにローカルに保存しますが、非永続環境では再起動時に失われる可能性があります。このポリシーを有効にすると、Profile Managementは各マシン用にVHDXコンテナを作成してUWPアプリの登録データを保存し、ユーザーログオンを高速化し、再起動時のデータ損失を防ぎます。

アプリケーション定義ファイルの使用を有効にする。 定義ファイルへのパスを入力できます。有効にすると、定義ファイルに含まれる設定のみが同期されます。Citrix仮想アプリ最適化定義ファイルが配置されているフォルダを指定します。定義ファイルの作成の詳細については、「定義ファイルの作成」を参照してください。

VHD設定

VHDコンテナのデフォルト容量（GB）。 各VHDコンテナのデフォルトのストレージ容量（GB）を指定できます。

VHDXファイルの保存パスをカスタマイズする。VHDXファイルを保存するための個別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDXファイルはユーザーストアに保存されます。VHDXファイルを使用するポリシーには、プロファイルコンテナ、Outlookの検索インデックスローミング、フォルダミラーリングの高速化などがあります。有効にすると、異なるポリシーのVHDXファイルは、ストレージパスの下の異なるフォルダに保存されます。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする。 FSLogixプロファイルコンテナとCitrix Profile Managementプロファイルコンテナの両方でマルチセッションライトバックを有効にできます。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、Profile Managementは各セッションで行われた変更をユーザーのプロファイルコンテナに同期して保存します。

マシン休止状態のマルチセッションサポートを有効にする。 有効にすると、休止状態のセッションで使用されているVHDXディスクは、他のセッションに再割り当てされません。これにより、マシンが休止状態から回復した後、ユーザープロファイルを再開でき、セッションの継続性が確保されます。

VHDディスクの圧縮を有効にする。有効にすると、特定の条件が満たされた場合、ユーザーログオフ時にVHDディスクが自動的に圧縮されます。このポリシーにより、プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびミラーフォルダコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。必要に応じて、および利用可能なリソースに応じて、「**VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする**」、「**VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率を設定する**」、および「**VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する**」オプションを使用して、デフォルトのVHD圧縮設定と動作を調整できます（詳細設定）。

- **VHDディスク圧縮をトリガーする解放可能領域比率を設定する。** VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮をトリガーする解放可能領域比率を指定できます。ユーザーログオフ時に解放可能領域比率が指定された値を超えると、ディスク圧縮がトリガーされます。

  - 解放可能領域比率 = (現在のVHDファイルサイズ – 必要な最小VHDファイルサイズ*) ÷ 現在のVHDファイルサイズ

    Microsoft Windowsオペレーティングシステムの`MSFT_Partition`クラスの`GetSupportedSize`メソッドを使用して取得されます。

- **VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする。** VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮のファイルデフラグを無効にするかどうかを指定できます。
- **VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数を設定。**VHDディスクの圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスクの圧縮をトリガーするユーザーログオフの回数を指定できます。前回の圧縮以降のログオフ回数が指定された値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする。有効にすると、プロファイルコンテナは一度に1つのアクセスのみを許可します。

OneDriveコンテナへの排他的アクセスを有効にする。有効にすると、OneDriveコンテナは一度に1つのアクセスのみを許可します。

ユーザー ストア

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を設定。WEMエージェントがロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を構成します。サポートされる値：0～100。

ユーザーストアをレプリケートする。有効にすると、Profile Managementは、**ユーザーストアへのパスを設定**オプションで指定されたパスに加えて、ログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートします。セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアに同期するには、アクティブなライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

既定では、複数のユーザーストアが利用可能な場合、Profile Managementは最新のプロファイルデータを持つストアを選択します。複数のストアが最新のプロファイルを持っている場合、Profile Managementは最も早く構成されたストアを選択します。**ユーザーストアの選択方法**オプションを使用すると、Profile Managementで最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択できるようになります。

コンテナベースのプロファイルソリューションで**ユーザーストアをレプリケートする**ポリシーを有効にすると、セッション全体のプロファイル冗長性を確保するために、**ユーザーストア間のセッション内プロファイルコンテナフェールオーバーを有効にする**ポリシーが自動的に有効になります。このポリシーが有効になっている場合、セッション中にProfile Managementがアクティブなプロファイルコンテナへの接続を失うと、自動的に別の利用可能なコンテナに切り替わります。このポリシーを無効にすると、プロファイルコンテナのフェールオーバーはユーザーログオン時にのみ発生します。

注:

このポリシーを有効にするには、展開でプロファイルコンテナのみが有効になっている必要があります。**OneDrive**、**UWP**、**Outlook**、**フォルダーミラーリング**、**保留領域のプロファイルストリーミング**などの他のコンテナが有効になっている場合、このポリシーは適用されません。

ログオフ時に同期されるユーザーストアの数を制限する。既定では、ユーザーログオフ時にプロファイルがすべてのユーザーストアに同期されるため、ログオフプロセスが長くなり、その後のログオンが遅れる可能性があります。このオプションを有効にすると、ログオフ中に同期されるユーザーストアの数を指定できます。指定された数にはメインのユーザーストアが含まれ、残りのユーザーストア（存在する場合）はログオフ完了後に同期されます。サポートされる値：1〜8。

ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする。無効にすると、Profile Managementは現在のユーザーを偽装してユーザーストアにアクセスします。したがって、現在のユーザーがユーザーストアに直接アクセスできることを確認してください。有効にすると、Profile Managementは詳細設定 > ファイル共有 > SMB共有で関連サービス用に構成された接続を介して、ユーザーに代わってユーザーストアにアクセスします。（必要に応じて、Profile Managementはユーザーストアをホストする選択されたSMB共有にアクセスします。）この設定を有効にすると、現在のユーザーがアクセス権を持たないファイル共有（Azure Filesなど）にユーザーストアを配置できます。このオプションを使用する場合は、以下を考慮してください。

- ユーザーストアをホストするSMB共有を追加するには、**詳細設定 > ファイル共有 > SMB共有**に移動します。
- 関連サービス用に**ファイル共有**で選択したSMB共有がここに表示されます。Profile Managementは必要に応じて選択されたSMB共有にアクセスします。

重要:

> この設定を無効にすると、WEMエージェントが以前に確立したすべてのユーザーストア接続が削除されます。

- 資格情報を追加または編集するときは、次のフィールドに入力します。
  - **サーバー共有**。サーバー共有を指定するUNCパスを入力します。
  - **ユーザー名**。`domain\username` の形式で名前を入力します。
  - **パスワード**。サーバー共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
  - **パスワードを表示**。パスワードを表示するか非表示にするかを制御します。

その他のオプション

自動構成を無効にする。有効にすると、動的構成が無効になります。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、Windowsが次のユーザーログオンの処理モード（同期または非同期処理モード）を決定するために使用するレジストリ値をユーザーとともにローミングします。レジストリ値が存在しない場合、同期モードが適用されます。このオプションを有効にすると、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。無効にすると、ユーザーが次の場合、非同期モードは期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するオプションが有効になっている同じマシンにログオンする。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する。有効にすると、古いCookieはログオフ時に削除されます。

プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに警告する。有効にすると、ユーザーのプロファイルサイズがクォータを超過した場合に通知メッセージが届きます。この機能を使用すると、デフォルト設定に基づいてクォータ制限と通知内容をカスタマイズできます。サポートされるクォータ範囲は0～100,000 MBです。

プロファイル読み込みタイムアウトを設定する。Citrix Profile Managementが一時プロファイルに切り替える前に、ユーザープロファイルの読み込みを待機する時間を構成できます。これにより、ニーズに合わせてよりスムーズで効率的なログオンエクスペリエンスが保証されます。有効なタイムアウト範囲は0～1,800です。

一般的な使用例：

- **Citrix Appsを実行している非永続的なマルチセッションVDA**。このような環境では、ユーザー固有のデータを読み込む必要がない場合があります。タイムアウトを0秒に設定することで、プロファイルの読み込みをバイパスし、一時プロファイルを使用できます。
- **ネットワーク障害の処理**。このポリシーは、プロファイルの読み込みがタイムアウト設定を超過した場合に一時プロファイルに自動的に切り替えることで、ネットワーク障害を軽減します。

> **注:**
>
> - この設定は、*プロファイルの移行*および*プロファイルのリセット*プロセスには適用されません。
> - 特に必要がない限り、タイムアウトを10秒より長く設定することをお勧めします。短いタイムアウトは、通常の状態でもユーザーが予期せず一時プロファイルにログオンする原因となる可能性があります。

> **問題が発生した場合にユーザーをログオフする**。有効にすると、問題が発生した場合にユーザーは一時プロファイルに切り替わるのではなく、ログオフされます。

Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラムに参加する。有効にすると、Profile Management はカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を使用して、匿名統計と使用状況情報を収集することで、Citrix 製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てます。CEIP の詳細については、「Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) について」を参照してください。

ファイル重複排除

重複排除のために共有ストアに含めるファイルを指定します。

さまざまなユーザープロファイル間に同一のファイルが存在する場合があります。これらのファイルをユーザーストアから分離し、一元的な場所に保存することで、重複を回避し、ストレージスペースを節約できます。

ユーザーストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ファイル名は、ユーザープロファイルに対する相対パスで指定します。

ファイル重複排除を有効にする。有効にすると、Profile Management は共有ストアを自動的に生成します。その後、指定されたファイルをユーザーストア内の各ユーザープロファイルではなく、

共有ストアに一元的に保存します。これにより、ファイルの重複を回避してユーザーストアの負荷を軽減し、ストレージコストを削減できます。

ヒント:

ファイルまたはフォルダーを追加するときは、ワイルドカードを使用できます。詳しくは、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

含める項目と除外する項目を追加するときは、個別に、または一括で追加できます。一括で追加する場合は、コンマまたは改行で区切ってパスを入力します。その後、**検証を実行**をクリックして、追加しようとしている項目を検証します。有効な項目のみが追加されます。無効な項目はスキップされます。

デフォルトでは、Profile Management は、プロファイルコンテナー内のファイルが 256 MB より大きい場合にのみ、そのファイルの重複排除を行います。必要に応じて、**このサイズ以上のファイルを重複排除する (MB)** に大きな値を指定することで、このしきい値サイズを増やすことができます。

ファイル除外を有効にする。有効にすると、Profile Management は指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、**ファイル重複排除を有効にする**オプションを有効にした後にのみ使用できます。共有ストアから除外するファイルを少なくとも 1 つ指定します。

ストリーミングユーザープロファイル

Profile Management がストリーミングユーザープロファイルを処理する方法を指定します。

プロファイルストリーミングを有効にする。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

- **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**。有効にすると、フォルダーはアクセスされたときにのみフェッチされるため、ログオン時にすべてのフォルダーを走査する必要がなくなります。これにより、帯域幅が節約され、ファイルの同期時間が短縮されます。

常にキャッシュ。有効にすると、指定されたサイズ (MB単位) 以上のファイルは常にキャッシュされます。サポートされる値: 0〜20,000。

ユーザーストアがロックされたままの場合の保留領域内のファイルのタイムアウトを設定。ユーザーストアがロックされたままの場合に、保留領域からユーザーストアにユーザーのファイルが書き戻されるまでの日数を指定できます。サポートされる値: 1〜30。

ストリーミングユーザープロファイルグループを設定。ストリーミングプロファイルが使用されるユーザーグループを追加できます。

除外フォルダーを設定。有効にすると、Profile Managementはこのリスト内のフォルダーをストリーミングせず、ユーザーがログオンしたときにすべてのフォルダーがユーザーストアからローカルマシンにすぐにフェッチされます。

保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする。有効にすると、保留領域内のファイルは要求されたときにのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオでの最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。保留領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間のプロファイルの一貫性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。保留領域内のすべてのファイルとフォルダーは、ログオン中にローカルプロファイルにフェッチされます。

ログ設定

Profile Managementのログ記録を構成します。

ログ記録を有効にする。Profile Management操作のログ記録を有効または無効にします。

ログに詳細情報を含める。ログに含める詳細情報（またはイベントの種類）を指定できます。以下が含まれます。

- 一般的な警告
- 一般情報
- ファイルシステム通知
- ファイルシステムのアクション
- レジストリアクション
- ログオフ時のレジストリの相違点
- Active Directory のアクション
- ログオン時およびログオフ時のポリシー値
- ログオン
- ログオフ
- パーソナライズされたユーザー情報

ログファイルの最大サイズを設定。Profile Managementログファイルの最大許容サイズを指定できます。ログファイルが最大サイズを超えると、そのバックアップ (.bak) が削除され、ログファ

イルの名前が .bak に変更され、新しいログファイルが作成されます。サポートされる値: 1〜100。

ログファイルへのパスを設定。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

Profile Managementの処理に含める、または除外するレジストリキーを指定します。

NTUSER.DAT バックアップ。有効にすると、Profile Management は NTUSER.DAT ファイルの最後に確認された正常なバックアップを保持します。Profile Management が破損を検出した場合、最後に確認された正常なバックアップコピーを使用してプロファイルを回復します。

デフォルトのレジストリ除外を有効にする。HKCU ハイブ内のユーザープロファイルに同期されないレジストリキーのデフォルトリストを提供します。有効にすると、このリストで選択されたレジストリ設定は、Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ除外を有効にする。有効にすると、追加したレジストリ設定は Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ包含を有効にする。有効にすると、追加したレジストリ設定は Profile Management プロファイルに強制的に含まれます。

アプリケーションアクセス制御

エンドユーザーのアプリケーションへのアクセスを制御したり、ファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーのリダイレクトを強制したりするためのルールを追加します。

1. 検索ボックスの横にある **アプリケーションアクセス制御** カテゴリを選択します。
2. **アプリケーションアクセス制御を有効にする** を選択します。
3. **ルールを追加** をクリックしてルールを追加します。
4. ルールを追加する際、`.rule` Citrix Environment Tool Hub > Rule Generator for App Access Control を使用して生成されたファイルを参照するか、クリップボードからデータを貼り付けることができます。ルールを追加した後、**管理** をクリックしてルールを表示、編集、または更新します。ルールを表示する際、カテゴリビューと生データビューを切り替えることができます。

ルールを作成する方法は2つあります。

- GUIベースのツール - シトリックス環境ツールハブ > アプリケーションアクセス制御のルールジェネレーター
- PowerShell ツール – Profile Management インストールパッケージで利用可能

例: HR、営業、R&D の3つの部門のユーザーに割り当てられたデスクトップで、アプリケーション (App1、App2、App3、App4) を提供する必要があるとします。

- HR部門のユーザーのみが App1 にアクセスできます。
- 営業部門のユーザーのみがApp2にアクセスできます。
- R&D部門のユーザーのみがApp3にアクセスできます。
- すべてのユーザーがApp4にアクセスできます。

この目標を達成するには、1つのイメージのみを使用してルールを展開できます。イメージには、アプリケーションApp1、App2、App3、App4が含まれています。次に、アプリケーションルールを次のように設定します。

- **App1のルールを作成します**。App1に関連付けられているオブジェクトと、営業部門およびR&D部門のユーザーを追加します。
- **App2のルールを作成します**。App2に関連付けられているオブジェクトと、人事部門およびR&D部門のユーザーを追加します。
- **App3のルールを作成します**。App3に関連付けられているオブジェクトと、人事部門および営業部門のユーザーを追加します。

ワイルドカードのサポート

ファイルまたはフォルダーを追加するときに、ワイルドカードを使用できます。ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されますが、フォルダー名内のワイルドカードは適用されません。垂直バー (\|) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限し、サブフォルダーに適用されないようにすることができます。

例:

- `AppData*.tmp` は、フォルダー `AppData` およびそのサブフォルダー内の拡張子 .tmp を持つすべてのファイルを除外します。
- `AppData*.tmp|` は、フォルダー `AppData` 内の拡張子 .tmp を持つすべてのファイルを除外します。
- `Downloads*\a.txt` は、 `Downloads` フォルダーの直下のサブフォルダーにある `a.txt` を除外します。注意: フォルダー名内のワイルドカードは再帰的に適用されません。
- `Downloads*` は、 `Downloads` フォルダーの直下のすべてのサブフォルダーを除外します。

Microsoft USV 設定

これらの設定により、Microsoft User State Virtualization (USV) を最適化できます。

移動プロファイルの構成

これらの設定により、Workspace Environment Management と Microsoft 移動プロファイルの統合を構成できます。

ユーザー状態仮想化構成の処理。エージェントが USV 設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV 設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、構成した USV 設定は管理者に適用されません。このオプションを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- **移動プロファイルの構成**タブと**移動プロファイルの高度な構成**タブの設定はマシンレベルであり、このオプションが有効になっているかどうかに関係なく適用されます。
- **フォルダーリダイレクト**タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定を管理者に適用するかどうかを制御します。

Windows 移動プロファイルパスの設定。Windows プロファイルへのパスを指定できます。

RDS 移動プロファイルパスの設定。RDS 移動プロファイルへのパスを指定できます。

RDS ホームドライブパスの設定。RDS ホームドライブへのパスと、ユーザー環境で表示されるドライブ文字を指定できます。

移動プロファイルの高度な構成

以下は、高度な移動プロファイル最適化オプションです。

フォルダーの除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーの移動プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが移動プロファイルの一部として必要としない大量のデータが含まれていることがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトの Windows 7 の除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトの Windows XP の除外を事前に入力することもできます。

移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除。有効にすると、エージェントは移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

移動ユーザープロファイルに管理者セキュリティグループを追加。有効にすると、Administrators グループが移動ユーザープロファイルの所有者として追加されます。

移動プロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しない。有効にすると、エージェントはアクションを実行する前に、ユーザーが移動プロファイルフォルダーを所有しているかどうかを確認しません。

低速ネットワーク接続を検出しない。有効にすると、接続速度の検出がスキップされます。

リモートユーザープロファイルを待機する。有効にすると、エージェントはリモートユーザープロファイルが完全にダウンロードされるまで待機してから、その設定を処理します。

プロファイルのクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイルクリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーのスキャン**をクリックしてから、プロファイルクリーナーウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルのクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルのクリーンアップ。このボタンは、フォルダー除外設定に従って選択したプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーのスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰レベルの数を制御します。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクト構成の処理。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、フォルダーリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびどこにリダイレクトするかを制御するオプションを選択します。

ローカルのリダイレクトされたフォルダーを削除する。有効にすると、エージェントはリダイレクト用に選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

スクリプトタスク

> **ヒント:**

> スクリプトタスクはマシンレベルで動作します。ユーザーセッションレベルでタスクを実行するには、代わりに外部タスクを使用します。

> このページでは、環境管理のニーズに合わせてスクリプトタスクを構成および自動化できます。

スクリプトタスクを作成する

スクリプトは、**組み込みスクリプト**と**カスタムスクリプト**の2種類に分類されます。各タイプには、**スクリプトビュー**と**タスクビュー**の2つの表示モードがあります。すべてのスクリプトタスクは、構成セットレベルで実行されます。

スクリプトからタスクを作成するには、次の手順に従います。

1. **スクリプトタスク**ページで、**スクリプトビュー**を選択し、特定のスクリプトを見つけて、**タスクの作成** (+) アイコンをクリックします。
2. **タスクの作成**ウィザードで、次の設定を構成します。
    - 一般
    - トリガー
    - パラメーター
    - 出力
3. 「**完了**」をクリックします。

> **注:**
>
> スクリプトタスクを作成した後、スクリプトリストから直接管理できます。スクリプトを展開してタスクを表示し、タスク行にカーソルを合わせると、**表示**、**編集**、**削除**のアクションアイコンにアクセスできます。

一般

一般ページで次の設定を構成します。

- **このタスクを有効にする**。現在の構成セットでタスクを有効にするか (**はい**)、無効にするか (**いいえ**) を選択します。無効にすると、エージェントはタスクを処理しません。
- **署名を検証する**。タスクを実行する前に署名を検証するかどうかを選択します。スクリプトタスクにフルアクセスが許可されている場合、署名検証は必須です。
- **タスクのタイムアウト**。タスクのタイムアウト（分単位）を設定するかどうかを選択します。タイムアウトが発生すると、タスクは強制的に終了されます。サポートされている値：1〜60。タスクにタイムアウトを設定することをお勧めします。そうしないと、タスクが実行されたままになり、他のタスクの実行が妨げられる可能性があります。

- **フィルター**。フィルターを選択してタスクをコンテキスト化するかどうかを選択します。フィルターが選択されている場合、このタスクはフィルター内のすべての条件が満たされた場合にのみ実行されます。フィルターを選択する際は、次の点を考慮してください。
    - フィルターにスクリプトタスクに適用されない条件が含まれている場合、エージェントはタスクを実行する前にフィルターを評価する際にそれらの条件をスキップします。スクリプトタスクに適用されない条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」を参照してください。

トリガー

トリガーページで次の設定を構成します。

- タスクのトリガーを構成します。次のことができます。
    - タスクに関連付けるトリガーを選択します。アクティブ化されると、これらのトリガーはユーザー環境でタスクを開始します。
    - このタスクに適用されるトリガーのみを表示するかどうかを選択します。
    - 新しいトリガーを作成します。「トリガーの作成」を参照してください。

> **注:**
>
> 既存のトリガーを編集するには、「トリガー」に移動します。

パラメーター

パラメーターページで次の設定を構成します。

- **スクリプトタスクにパラメーターを渡す**。スクリプトタスクにパラメーターを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクにパラメーター変数として入力を提供できます。これにより、基になるコードを変更せずにスクリプトタスクの動作を制御できるという利点があります。次のパラメータータイプが利用可能です。
    - **整数**。例：`123`。
    - **文字列**。例：`hello world`。
    - **ブール値**。True または False。
    - **文字**。例: `c`。
    - **スイッチ**。True または False。
    - **倍精度浮動小数点数**。例: `1.023`。

- **日付と時刻**。例: `YYYY-MM-DD HH:mm:ss`。
- **ファイルパス**。`System.IO.FileInfo` クラスに渡すパスを入力します。環境変数がサポートされています。パスには次の文字を含めることはできません: `* ? < >`。

> **注:**
>
> - 最大20個のパラメータを設定できます。
> - 名前フィールドは、「スイッチ」タイプのパラメータを除き、オプションです。
> - PowerShell は部分的なパラメータ名をサポートしています。部分的なパラメータ名を使用する場合は、その名前が一意であることを確認してください。既存のパラメータ名と区別してください。例: PowerShell では、次のパラメータ名は同じです: `-t`、`-ti`、および `-title`。この場合、他のパラメータと区別するために、パラメータ名の十分な文字数を指定してください。

出力

出力ページで次の設定を構成します:

- **出力ファイル**。タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択した場合、タスク用に生成されたレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境の出力ファイルにアクセスすることなく、レポートで出力ファイルの内容を表示できます。
- **出力の強調表示**。出力ファイルの内容とコンソール出力で特定のコンテンツを強調表示するかどうかを選択します。
  - **キーワードの強調表示**。レポートで強調表示するキーワードを指定します。複数のキーワードをコンマで区切って入力できます。キーワードを入力した後、**Enter**キーを押して続行します。指定した場合、生成されたレポートの**出力ファイルの内容**および**コンソール出力**セクションで、キーワードに一致するレポートの内容が強調表示されます。
  - **正規表現の一致を強調表示**。強調表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。正規表現は、PCRE互換である.NET正規表現ライブラリの構文に準拠している必要があります。詳細については、Microsoftのドキュメントを参照してください: `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference>`。
    - **正規表現**。強調表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。

- **大文字と小文字を区別しない**。コンテンツが大文字と小文字を正確に一致させる必要があるかどうかを選択します。
- **複数行マッチングを使用する**。複数行マッチングを使用するかどうかを選択します。複数行マッチングでは、\^ と \$ は出力コンテンツ全体の最初と最後ではなく、各行の最初と最後に一致します。
- **名前付きグループのみをキャプチャする**。名前付きグループのみをキャプチャするかどうかを選択します。キャプチャされたグループは、正規表現パターンで括弧を使用して定義されます。名前付きグループは、`(?<name> subexpression)` 構文によって明示的に名前または番号が割り当てられます。
- **コンテキストの手がかりとして含める行数**。ハイライトにコンテキストの手がかりとして含める、一致の前後の行数を指定します。サポートされる値: 1〜10。
- **レポートに正規表現の一致のみを含める**。レポートに出力コンテンツ全体を含めるか、正規表現に一致するコンテンツのみを含めるかを制御します。このオプションを有効にすると、Citrix Cloud に送信されるデータ量が削減されます。このオプションを有効にすると、指定されたキーワードに関係なく、キーワードの強調表示機能には表示するコンテンツがありません。

- **詳細オプション**。
  - **ランタイムエラーが発生した場合でも出力を収集する**。タスクの実行中にエラーが発生した場合でも、出力ファイルの内容とコンソール出力を収集するかどうかを制御します。

スクリプトタスクのレポートを表示する

1. **スクリプトタスク**ページで、スクリプト行のタスクドロップダウンメニューをクリックして、タスクリストを展開します。
2. タスクにカーソルを合わせると、アクションアイコンが表示されます。
3. **レポートの表示**アイコンをクリックします。

その結果、**監視 > レポート**ページに移動し、タスクに関連するレポート（存在する場合）が表示されます。詳細情報を表示するには、省略記号をクリックします。詳細については、「レポート」を参照してください。

> **注:**

> **ログオンユーザーとして実行**に設定されているスクリプトタスクを実行するには、**監視 > 管理 > エージェント**で最近接続されたエージェントを選択し、**その他 > スクリプトタスクの実行**を選択します。

アプリケーションパッケージの配信

この機能は、WEMエージェントインストーラーとカスタム`.exe`インストーラーをサポートするエージェントマシン向けに、アプリケーションのインストール/アンインストールタスクを構成できるようにすることで、アプリケーション配信機能を提供します。SMB共有にインストーラーが保存されているアプリケーションパッケージを追加し、パッケージのコマンド、実行条件、および関連設定を指定できます。その後、配信タスクを構成して、実行を処理するためのスケジュールとルールを設定して、ユーザー環境にアプリケーションを展開できます。アプリケーションパッケージは、すべての構成セットで共有されます。各構成セットでアプリケーションパッケージを使用して配信タスクを構成できます。マシン全体のインストーラーのみがサポートされています。

クラウド環境では、組み込みのWEMエージェントパッケージが1つだけ利用可能です。WEMエージェントパッケージに関連付けられている省略記号を使用して、配信タスクの作成、パッケージの編集、およびパッケージの削除を行うことができます。使用中のすべてのパッケージは削除できません。アプリケーションパッケージと配信タスクをアルファベット順または作成日順に並べ替えることもできます。

ストレージの場所を構成する

現在の構成セットのストレージの場所を構成するには、次の手順を実行します。

1. **ストレージの場所**セクションで、**編集**アイコンをクリックします。
2. 表示される**ストレージの場所**ページで、**新規追加**をクリックします。
3. 表示される**SMB共有の追加**ページで、SMB共有のUNCパスと、その共有にアクセスする権限を持つ管理者の資格情報を入力し、**完了**をクリックします。

   > **注:**
   >
   > 管理者資格情報を使用しないでください。専用のSMBユーザー名と読み取り専用アクセス権を持つパスワードを設定することをお勧めします。

4. 必要に応じて、手順3を繰り返してSMB共有を追加します。
5. **SMB共有**ドロップダウンリストで、インストーラーが保存されているものを選択します。

6. 「**保存**」をクリックします。

> **注:**
>
> 指定されたストレージの場所は、現在の構成セットにのみ適用されます。 インストーラーをSMB共有の次のパス`(Storage location)\Citrix\WEM\AppPackages`に保存し、**保存**をクリックしてください。

アプリケーションパッケージの追加

アプリケーションパッケージを追加するには、次の手順を実行します。

1. **アプリケーションパッケージの追加 > EXE**をクリックして、**アプリケーションパッケージの追加**ページにアクセスします。このページには、**基本情報**、**実行条件**、および**設定**がツリー構造で表示されます。

   - 「**実行基準**」アプリパッケージを実行する必要があるタイミングを決定する基準を指定する必要があります。実行基準は、「**ファイルまたはフォルダーの存在**」、「**ファイルの作成日**」、「**ファイルの変更日**」、「**ファイルのバージョン**」、「**ファイルサイズ**」、「**レジストリキーの存在**」、「**レジストリ値の存在**」、および「**レジストリ値**」に分類されます。パッケージの繰り返し実行によって発生するエラーを防ぐために、基準を構成してください。

     - 64ビット版Windowsで、`Program Files`ディレクトリ内にファイルまたはフォルダーのパスが構成されている場合、「**基準タイプ**」として「**ファイルまたはフォルダーの存在**」を選択すると、WEM エージェントは32ビットの`Program Files (x86)`と64ビットの`Program Files`フォルダーの両方を自動的にチェックします。たとえば、構成されたパスが`C:\Program Files\Test`の場合、WEM エージェントは次の2つのパスの存在を確認します: `C:\Program Files (x86)\Test`と`C:\Program Files\Test`。同様に、構成されたパスが`C:\Program Files (x86)\Test`の場合、WEM エージェントは`C:\Program Files (x86)\Test`と`C:\Program Files\Test`の両方をチェックします。これにより、32ビットおよび64ビットアプリケーションの両方で互換性とアクセシビリティが確保されます。
     - 「**基準タイプ**」として「**ファイルサイズ**」を選択した場合、WEM エージェントは、整数部分を考慮し、小数点以下の値を無視して、ファイルサイズをキロバイト (KB) で計算します。たとえば、ファイルサイズが46,913,080バイトの場合、WEM エージェントはファイルサイズを45,813 KBとして計算します (46,913,080を1024で割ると45,813.554になり、小数点以下の部分である「**.554**」は無視されます)。

    - 「**基準タイプ**」として「**レジストリキーの存在**」を選択した場合: 64ビット版Windowsでは、レジストリは32ビットキーと64ビットキーに分かれています。レジストリキーを64ビットバージョンとして構成すると、WEMエージェントは32ビットバージョンと64ビットバージョンの両方でレジストリキーの存在を確認しようとします。ただし、レジストリキーを32ビットバージョンとして構成した場合、WEMエージェントは32ビットバージョンでのみその存在を確認します。たとえば、構成されたレジストリキーが`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\test`の場合、次のいずれかのレジストリキーが存在すれば基準が満たされます: `HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\test`または`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\test`。構成されたレジストリキーが`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\test`の場合、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\test`が存在すれば基準が満たされます。

2. 各オプションの下にリストされているフィールドを更新します。
3. 一部のパッケージをインストールまたはアンインストールした後、必要に応じて「**設定**」の下にある「**実行後にマシンを再起動**」チェックボックスを選択できます。

    - アプリケーションパッケージがインストール中にマシンの再起動をトリガーした場合、正確な結果を取得できないため、ステータスは「**予期しない再起動**」として記録されます。再起動を防ぐためにインストールコマンドにパラメーターを組み込み、「**実行後にマシンを再起動**」チェックボックスも選択して、この問題に対処してください。
    - アプリケーションパッケージが再起動後に継続的な操作を必要とする場合、パッケージの結果は完全に正確ではない可能性があります。これは、WEMによって開始されなかったパッケージの結果をWEMが取得できないためです。

4. 成功ステータスを示すリターンコードを指定してください。パッケージのリターンコードは「**設定**」で定義できます。

WEMエージェントアップグレードタスクを作成する

WEMエージェントアップグレードタスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「**配信タスクの作成 > WEMエージェントのアップグレード**」タスクタイプを選択して、「**配信タスクの作成**」ページにアクセスします。このページには、「**基本情報**」と「**スケジュールとルール**」がツリー構造で表示されます。
2. 各オプションの下にリストされているフィールドを更新します。
3. デフォルトでは、「**アップグレード先**」の下で「**最新バージョン**」が選択されています。
4. UIモードで実行されているエージェントの場合、「**ユーザーによるエージェントの手動アップグレードを許可**」を有効にすると、エージェントのユーザーインターフェイスで「**アップグ**

レード」オプションが利用可能になります。このオプションを使用して、ドロップダウンメニューで指定されたバージョン (過去3バージョン) にエージェントをアップグレードできます。この設定は、WEMエージェントアップグレード配信タスクのサブセットです。つまり、手動アップグレードタスクは、設定されたルールに従って、WEMエージェントアップグレード配信タスクで指定されたバージョンにアップグレードされます。

5. 配信タスクは、スケジュールが設定されていないと手動で実行されないため、配信タスクを実行する必要がある時間枠と曜日を指定して、**スケジュール**を必ず設定してください。開始時刻と終了時刻は、少なくとも2時間以上離れていて、同じ日に設定する必要があります。
6. タスクを実行する必要があるエージェントを決定するために、**ルール**を設定することもできます。**マシンカタログ名**、**デリバリーグループ名**、**デバイス名**、**IPアドレス**、**OSプラットフォームタイプ**、**OSバージョン**、**永続マシン**のルールから、**すべて一致**または**いずれかに一致**を選択できます。

> **注:**
>
> 以下のWEMエージェントアップグレード設定は、2310より前のバージョンでエージェントアップグレードを実行する際に、互換性の問題を引き起こす可能性があります。
>
> - **曜日**はスケジュール設定で構成されます。
> - ルールは、**永続マシン**以外のルールで構成されています。
> - ルールで**いずれかに一致**が選択されています。
> - ルールはスケジュールなしで構成されています。

制限事項

- WEMエージェントをアップグレードする場合、2310より前のWEMエージェントバージョンは、現在利用可能なすべてのエージェントアップグレードタスクの中で、最初に作成されたタスクのみを使用できます。

カスタムタスクを作成する

カスタムタスクを作成するには、次の手順を完了します。

1. **配信タスクの作成**ページにアクセスするには、**配信タスクの作成 > カスタム**タスクタイプを選択します。このページには、ツリー構造で**基本情報**と**スケジュールとルール**が一覧表示されます。

2. 各オプションの下にリストされているフィールドを更新します。
3. 必要なアプリパッケージを選択し、実行したい順序に並べ替えることができます。
4. 他のスケジュールされたタスクをブロックしないように、選択したパッケージ機能（インストール/アンインストール）のいずれかが失敗した場合でも、他のアプリパッケージのシームレスな処理を続行するために、**タスクコンテンツ**の下にある**失敗しても続行**を選択してください。
5. **最後まで待って再起動**チェックボックスを選択すると、個々のアプリパッケージの再起動設定は無視され、タスクのリスト全体が実行を完了したときにマシンが再起動します。
6. 「**一度実行**」チェックボックスを選択すると、スケジュールされたタスクを一度だけ実行できます。
7. 配信タスクはスケジュールが設定されていないと手動では実行されないため、配信タスクを実行する必要がある時間枠と曜日を指定して、必ずスケジュールを設定してください。
8. 各パッケージの最大実行時間は60分です。それ以外の場合、パッケージはタイムアウトし、終了します。

詳細については、レポート、エージェント、および 詳細設定 を参照してください。

詳細設定

これらの設定を使用して、Workspace Environment Management™ (WEM) エージェントがアクションをどのように、いつ処理するかを制御します。

エージェント設定

このページでは、WEMエージェントの動作を構成できます。

エージェントオプション

エージェントの設定を構成します。

エージェントの起動動作:

- **ログオン時にエージェントを起動**。エージェントがログオン時に実行されるかどうかを制御します。
- **再接続時にエージェントを起動**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに、エージェントが実行されるかどうかを制御します。
- **管理者向けにエージェントを起動**。ユーザーが管理者である場合にエージェントが実行されるかどうかを制御します。

- **デスクトップ互換モードを有効にする**。エージェントが実行されているデスクトップとの互換性を確保します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントを起動するために必要です。
- **公開アプリケーションでCMDエージェントのみを実行**。有効にすると、公開アプリケーションでは、エージェントはUIモードではなくCMDモードで起動します。CMDモードでは、エージェントのスプラッシュ画面の代わりにコマンドプロンプトが表示されます。CMDモードとUIモードの詳細については、「CMDモードとUIモードのエージェント」を参照してください。

エージェント起動の除外:

- **指定されたグループのエージェントを起動しない**。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対してCitrix WEM Agent Hostは起動されません。
- **指定されたグループのエージェントのみを起動**。有効にすると、Citrix WEM Agent Hostは指定されたユーザーグループに属するユーザーに対してのみ起動されます。

エージェントログ:

- **エージェントログを有効にする**。有効にすると、エージェントはエージェントログファイルを出力します。
- **デバッグモード**。エージェントの詳細ログを有効にするかどうかを制御します。

更新:

- **環境設定を更新**。有効にすると、エージェントの更新時にユーザー環境設定の更新がトリガーされます。環境設定の詳細については、「環境設定」を参照してください。
- **システム設定を更新**。有効にすると、エージェントの更新時にWindowsシステム設定（Windowsエクスプローラーやコントロールパネルなど）の更新がトリガーされます。
- **環境設定の変更時に更新**。有効にすると、環境設定が変更されたときに、エージェントはエンドポイントでWindowsの更新をトリガーします。
- **デスクトップを更新**。有効にすると、エージェントの更新時にデスクトップ設定の更新がトリガーされます。デスクトップ設定の詳細については、「デスクトップ」を参照してください。
- **外観を更新**。有効にすると、エージェントの更新時にWindowsテーマとデスクトップの壁紙の更新がトリガーされます。

自動更新（UIエージェントのみ）:

- **自動更新を有効にする**。有効にすると、Citrix WEM Agent Hostは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新遅延は30分です。

オフラインモード:

- **オフラインモードを有効にする**。無効にすると、エージェントはWEMサービスへの接続に失敗した場合でもキャッシュにフォールバックしません。
- **オンライン時でもキャッシュを使用**。有効にすると、エージェントは常にキャッシュ（エージェントサービスがサイクルするたびに構築される）から設定とアクションを読み取ります。
- **キャッシュを使用してアクション処理を高速化**。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから関連設定を取得してアクションを処理します。これにより、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻したい場合は、このオプションを無効にしてください。

> **重要:**
>
> - エージェントのローカルキャッシュは、定期的にWEMサービスと同期されます。そのため、アクション設定の変更が有効になるまでには、**エージェントキャッシュの更新遅延**オプション（**詳細設定 > エージェント設定 > エージェントサービスオプション**タイル内）で指定した値に応じて、時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、より低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、**監視 > 管理 > エージェント > 統計**に移動し、対象のエージェントを選択してから、**その他**で**エージェント > キャッシュの更新**を選択します。
> - この設定を無効にしないことをお勧めします。無効にすると、ネットワーク接続が不安定なシナリオでは、ユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。無効にした場合、WEMサービスへのトラフィック量が多いシナリオでは、管理コンソールを通じて構成したアクションがエージェントホストに適用されない可能性があります。

エージェントサービスオプション

エージェントホストサービスの設定を構成します。

エージェントキャッシュの更新遅延（分）。この設定は、Citrix WEM Agent Host Serviceがキャッシュを更新するまで待機する時間を制御します。更新により、キャッシュはWEMサービスデータベースと同期されます。デフォルトは30分です。このオプションを使用する際は、次の点に注意してください。

- キャッシュがWEMサービスデータベースと同期する最小間隔は15分です。15分以上の整数を入力してください。

- 実際の同期間隔は異なる場合があります。指定された値に基づいて、WEMエージェントは、エージェントキャッシュの更新遅延がタイムアウトするたびに、ランダムな値が実際の同期間隔として選択される間隔を計算します。たとえば、値を30分に設定した場合、エージェントはこの間隔からランダムな値を選択します: 。

SQL設定の更新遅延（分）。この設定は、Citrix WEM Agent Host ServiceがSQL接続設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは15分です。15分以上の整数を入力してください。

エージェントの追加起動遅延（ミリ秒）。この設定は、Citrix WEM Agent Host Serviceがエージェントホスト実行可能ファイルを起動するまで待機する時間を制御します。デフォルトは0です。

> **ヒント:**

> エージェントホストにまず必要な作業を完了させたいシナリオでは、エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）が待機する時間を指定できます。VUEMAppCmd.exeは、Citrix DaaS（旧Citrix Virtual Apps and Desktopsサービス）およびCitrix Virtual Apps and Desktopsの公開アプリケーションが起動する前に、エージェントホストが環境の処理を完了することを保証します。待機時間を指定するには、エージェントホスト構成グループポリシーで利用可能なVUEMAppCmdの追加同期遅延設定を構成します。詳細については、「エージェントのインストールと構成」を参照してください。

> **デバッグモードを有効にする**。構成セットに接続するすべてのエージェントの詳細ログを有効にするかどうかを制御します。

ie4uinitチェックをバイパスする。デフォルトでは、Citrix WEM Agent Host Serviceは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前にie4uinitが実行されるのを待機します。この設定により、Citrix WEM Agent Hostサービスはie4uinitを待機しないように強制されます。

エージェントのアップグレード

この構成セットにバインドされているすべてのエージェントの自動アップグレードをスケジュールします。

エージェントのアップグレードは、新しい**App Package Delivery**機能内で行われるようになりました。エージェントのアップグレードを構成およびスケジュールするには、**App Package Delivery > Delivery tasks**に移動し、**WEM agent upgrade**デリバリータスクを作成します。以前に構成された設定は、自動的にデリバリータスクに変換されます。

その他

通知、初期環境クリーンアップ、Wake on LANなどの設定を構成します。

通知:

- **接続状態変更の通知を有効にする**。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりしたときに、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。Citrixは、品質の低いネットワーク接続ではこのオプションを有効にしないことを推奨します。そうしないと、接続状態変更の通知がエンドポイント（エージェントホスト）に頻繁に表示される可能性があります。

追加機能:

- **初期環境クリーンアップ**。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。
  - ユーザーネットワークプリンター。
    - **Cleanup Actions**タブで**自動作成されたプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。
    - **Cleanup Actions**タブで**特定のプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントはリストで指定されたプリンターを削除しません。
  - ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
  - すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
  - すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。
- **初期デスクトップUIクリーンアップ**。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。
  - すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
  - タスクバーとスタートメニューにピン留めされたすべてのショートカット。
- **ユーザーグループのクロスドメイン検索を有効にする**。有効にすると、エージェントはすべてのActive Directoryドメインでユーザーグループをクエリします。クロスドメイン検索は時間のかかる場合があります。必要な場合にのみこのオプションを選択してください。

- **エージェントがキャッシュされたドメイン検索結果を使用できるようにする**。有効にすると、エージェントはドメインクエリ結果のキャッシュを使用してパフォーマンスと回復性を向上させます。ドメインクエリ結果は最大7日間キャッシュされます。
- **アプリケーションの存在を確認する**。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。
- **アプリケーションの環境変数を展開する**。アプリケーションのターゲットパスと作業フォルダー内の環境変数を処理する前に展開するかどうかを制御します。
- **WEMサービスタイムアウト (ms)**。インフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合に、エージェントが独自のキャッシュに切り替えるまでのタイムアウト値。デフォルト値は15000ミリ秒です。
- **エージェントの並列処理の最大度**。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は0（プロセッサが物理的に許容する最大数のスレッド）です。1はシングルスレッド、2はデュアルスレッドなどです。通常、この値を変更する必要はありません。
- **ディレクトリサービスタイムアウト (ms)**。エージェントホストマシン上のディレクトリサービスのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはユーザーグループ関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は15000ミリ秒です。
- **ネットワークリソースタイムアウト (ms)**。ネットワークリソース（ネットワークドライブまたはネットワーク上にあるファイル/フォルダーリソース）を解決するためのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはそのアクションが失敗したと見なします。デフォルト値は500ミリ秒です。

ウェイク・オン・LAN:

このタブを使用して、エージェントホストをリモートで起動します。WEMは、ターゲットエージェントと同じサブネットにあるエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントをWake on LANメッセンジャーとして使用します。この機能には、Wake on LANと互換性のあるハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連するBIOS設定が構成されていることを確認してください。

エージェントのWake on LANを有効にする。エージェントホストのWake on LANを有効にするために、Windowsオペレーティングシステムの設定を構成するかどうかを制御します。選択すると、エージェントは次のシステム設定を構成します。

- ネットワークアダプターの**Energy Efficient Ethernet**を無効にする
- ネットワークアダプターの**Wake on Magic Packet**を有効にする

- ネットワークアダプターの**このデバイスでコンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする**を有効にする
- ネットワークアダプターの「**マジックパケットでのみコンピューターの起動を許可する**」を有効にします
- 「**高速スタートアップを有効にする**」を無効にします

このオプションを有効にした後、**監視 > 管理 > エージェント > 統計**に移動し、リストから1つ以上のエージェントを選択し、**その他**で**電源管理 > ウェイク**を選択して、選択したエージェントを起動します。

アクション設定

このページでは、アクションの処理とクリーンアップに関連する設定を構成できます。

アクション処理

エージェントがアクションを処理する方法とタイミング、および割り当てられていないアクションがデスクトップから削除されるかどうかを制御します。

ログオン時および更新時のアクション処理。以下の設定は、ユーザーがログオンしたとき、およびエージェントが更新されたときに、エージェントが処理するアクションを制御します。

- **ログオン時および更新時のアプリケーションの処理**
- **ログオン時および更新時のプリンターの処理**
- **ログオン時および更新時の仮想ドライブの処理**
- **ログオン時および更新時のレジストリの処理**
- **ログオン時および更新時の環境変数の処理**
- **ログオン時および更新時のポートの処理**
- **ログオン時および更新時のINIファイルの処理**
- **ログオン時および更新時に外部タスクを処理する**
- **ログオン時および更新時にファイルシステム操作を処理する**
- **ログオン時および更新時にユーザーDSNを処理する**
- **ログオン時および更新時にFTAを処理する**

その他の設定:

- **ログオン時にポリシーとJSONファイルの処理を待機する**。すべて設定（GPOおよびJSONオブジェクト）が処理されるまでユーザーがログオンを完了するようにしたい場合は、このオプションを使用します。

再接続時のアクション処理。以下の設定は、ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにエージェントが処理するアクションを制御します。

- **再接続時にアプリケーションを処理する**
- **再接続時にプリンターを処理する**
- **再接続時にネットワークドライブを処理する**
- **再接続時に仮想ドライブを処理する**
- **再接続時にレジストリを処理する**
- **再接続時に環境変数を処理する**
- **再接続時にポートを処理する**
- **再接続時にINIファイルを処理する**
- **再接続時に外部タスクを処理**
- **再接続時にファイルシステム操作を処理**
- **再接続時にユーザーDSNを処理**
- **再接続時にFTAを処理**

割り当て解除時にアクションを削除。これらの設定が有効になっている場合、エージェントは次回更新時に割り当て解除されたアクションをすべて削除します。

- **割り当て解除時にデスクトップからアプリケーションを削除**
- **割り当て解除時にデスクトップからプリンターを削除**
- **割り当て解除時にデスクトップからネットワークドライブを削除**
- **割り当て解除時にデスクトップから仮想ドライブを削除**
- **割り当て解除時にデスクトップからレジストリを削除**
- **割り当て解除時にデスクトップから環境変数を削除**
- **割り当て解除時にデスクトップからポートを削除**
- **割り当て解除時にデスクトップからファイルシステム操作を削除**
- **割り当て解除時にデスクトップからユーザーDSNを削除**
- **割り当て解除時にデスクトップからFTAを削除**

アクション処理を強制する。これらの設定が有効になっている場合、変更がなくてもエージェントは常にそれらのアクションを更新します。

- **アプリケーションの処理を強制する**

- **プリンターの処理を強制する**
- **ネットワークドライブの処理を強制する**
- **仮想ドライブの処理を強制する**
- **環境変数の処理を強制する**
- **ポートの処理を強制する**

フィルター処理を強制する。有効にすると、これらのオプションはエージェントに更新ごとにフィルターを再処理させます。

- **アプリケーションのフィルター処理を強制する**
- **プリンターのフィルター処理を強制する**
- **ネットワークドライブのフィルター処理を強制する**
- **仮想ドライブのフィルター処理を強制する**
- **レジストリのフィルター処理を強制する**
- **環境変数のフィルター処理を強制する**
- **ポートのフィルター処理を強制する**
- **ファイルシステム操作のフィルター処理を強制する**
- **ユーザーDSNのフィルター処理を強制する**
- **FTAのフィルター処理を強制する**

非同期処理:

- **プリンターを非同期で処理する**。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します。
- **ネットワークドライブを非同期で処理する**。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

アクションのクリーンアップ

このタイルに表示されるオプションは、エージェントが起動時にショートカットやその他の項目（ネットワークドライブやプリンター）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てるときに、ショートカットや項目の作成も制御できる場合があります。たとえば、アプリケーションの割り当てを管理するときに、アプリケーションショートカットを作成する場所を指定できます。Workspace Environment Managementは、これらのオプションを特定の優先順位に従って処理します。

1. **割り当ての管理**で割り当てられたアクションに対して構成されたオプション。

2. **アクションのクリーンアップ**タイルに表示されるオプション。

たとえば、**割り当ての管理**で割り当てられたアプリケーションに対して**デスクトップショートカットを作成**オプションを有効にしており、アプリケーションショートカットがすでにデスクトップに作成されているとします。**アクションのクリーンアップ**タイルで**起動時にデスクトップショートカットを削除**オプションを有効にした場合でも、エージェントの起動時にショートカットはデスクトップに残ります。

アプリケーションショートカット。以下の設定は、起動時に削除するショートカットを制御します。

- 起動時にデスクトップショートカットを削除する。
- 起動時にタスクバーにピン留めされたショートカットを削除する。
- 起動時にクイック起動ショートカットを削除する。
- 起動時にスタートメニューのショートカットを削除します。
- 起動時にスタートメニューにピン留めされたショートカットを削除します。

ネットワークプリンター:

- **起動時にネットワークプリンターを削除する**。有効にすると、エージェントは起動時にすべてのネットワークプリンターを削除します。

ネットワークドライブ:

- 起動時にネットワークドライブを削除する。有効にすると、エージェントは起動時にすべてのネットワークドライブを削除します。

UIエージェントのパーソナライズ

このページでは、ユーザー環境でのエージェント（UIモード）の外観をパーソナライズし、ユーザーがエージェントとどのように対話するかをカスタマイズできます。

外観と操作

UIエージェントの外観と操作をカスタマイズします。

スプラッシュ画面とテーマ:

- **カスタムロゴ**。デフォルトでは、エージェントの起動時または更新時に、ユーザーにはCitrix Workspace™ Environment Managementのロゴが表示されたスプラッシュ画面が表示されます。ロゴを置き換えるために、ユーザー環境からアクセス可能な画像を指定できます。
- **読み込み円の色**。カスタムロゴに合わせて読み込み円の色を変更します。

- **テキストラベルの色**。カスタムロゴに合わせて読み込みテキストの色を変更します。
- **UIエージェントのテーマ**。UIエージェントから開くダイアログの外観テーマを選択します。
- **エージェントのスプラッシュ画面を非表示にする**。有効にすると、エージェントの読み込みまたは更新時にスプラッシュ画面が非表示になります。この設定は、エージェントが最初に更新されるときには適用されません。
- **再接続時にエージェントのスプラッシュ画面を非表示にする**。有効にすると、ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにスプラッシュ画面が非表示になります。
- **公開アプリケーションのエージェントスプラッシュ画面を非表示にする**。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのエージェントスプラッシュ画面が非表示になります。
- **公開アプリケーションのエージェントアイコンを非表示にする**。有効にすると、公開アプリケーションにエージェントアイコンが表示されません。

ユーザー操作:

- **管理者のみがエージェントを閉じることができる**。有効にすると、管理者のみがエージェントを終了できます。その結果、管理者以外のユーザーのエンドポイントでは、エージェントメニューの オプションが無効になります。
- **管理者がエージェントを閉じることを禁止する**。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。
- **管理更新フィードバックを無効にする**。選択すると、管理者が管理コンソールを使用してエージェントを更新しても、ユーザー環境に通知は表示されません。
- **ユーザーによるアクションのリセットを許可する**。エージェントメニューに オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。 オプションを使用すると、現在のユーザーは環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが を選択すると、 ダイアログが表示されます。このダイアログで、ユーザーはリセットする内容を詳細に制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、 をクリックできます。これにより、対応するアクション関連のレジストリエントリが消去されます。

> **注:**
>
> エージェントメニューには、常に次の2つのオプションが表示されます: と 。 オプションは、WEMエージェント設定の即時更新をトリガーします。その結果、管理コンソールで構成された設定はすぐに有効になります。 オプションは、使用中のエージェントのバージョン詳細を表示するダイアログを開きます。

- **ユーザーによるアプリケーションの管理を許可する**。有効にすると、エージェントメニューのオプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして ダイアログを開き、次のオプションを構成できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。
- **ユーザーによるプリンターの管理を許可する**。有効にすると、エージェントメニューの オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして ダイアログを開き、デフォルトのプリンターを構成したり、印刷設定を変更したりできます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。
- **エージェントメニューに を表示する**。有効にすると、エージェントメニューに オプションが表示されます。表示されている場合、ユーザーは自分に割り当てられているアプリケーションを表示できます。
- **エージェントメニューに を表示する**。エージェントメニューに オプションを表示します。表示されている場合、ユーザーはメニューから を有効または無効にできます。

ヘルプデスクオプション

支援およびサポートのリンクを指定し、画面キャプチャオプションを設定します。

ヘルプとサポート

- **ヘルプリンク**。ユーザーがヘルプを求めることができるWebリンクを入力します。指定すると、エージェントメニューにヘルプオプションが表示されます。クリックするとWebサイトが開きます。
- **サポートリンク**。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできるWebリンクを入力します。指定すると、エージェントメニューにサポートオプションが表示されます。クリックするとWebサイトが開きます。

画面キャプチャ

画面キャプチャを有効にする。エージェントメニューに**キャプチャ**オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーはこのオプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには次のオプションがあります。

- **新規キャプチャ**。ユーザー環境のエラーのスクリーンショットを撮ります。
- **保存**。スクリーンショットを保存します。
- **サポートに送信**。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

サポートに送信オプションを表示。画面キャプチャツールに**サポートに送信**オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはこのオプションを使用して、スクリーン

ショットとログファイルを指定されたサポートメールアドレスに、指定された形式で直接送信できます。この設定には、動作する構成済みのメールクライアントが必要です。

サポートメールアドレス。メールアドレスを入力します。

メールテンプレート。画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメールコンテンツテンプレートを指定します。このフィールドは空にできません。

> **注:**
>
> メールテンプレートで使用できるハッシュタグのリストについては、動的トークンを参照してください。ユーザーがコメントを入力するオプションが表示されるのは、`##UserScreenCaptureComment## hash-tag`がメールテンプレートに含まれている場合のみです。

> **カスタム件名**。画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメール件名テンプレートを指定します。

SMTPを使用してメールを送信。有効にすると、MAPIの代わりにSMTPを使用してサポートメールを送信します。

省電力

エージェントマシンをシャットダウンまたはサスペンドするタイミングを指定します。

- **指定した時刻にシャットダウンする**。有効にすると、エージェントは実行中のマシンを指定した時刻に自動的にシャットダウンします。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
- **アイドル時にシャットダウンする**。有効にすると、エージェントは、実行中のマシンが指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）になった後、自動的にシャットダウンします。
- **シャットダウンではなくサスペンドする**。有効にすると、エージェントは、実行中のマシンを指定した時刻に、またはマシンが指定された時間アイドル状態になった後、シャットダウンする代わりにサスペンドします。

監視設定

このページには、次の設定が含まれています。

- **アクション処理結果**。アクション処理の結果を収集し、レポートを表示できます。結果を収集するアクションを選択します。

> **注:**
>
> 結果は4時間ごとにアップロードされます。エージェントからすぐに結果をアップロードするには、Monitoring > Administration > Agents の **Retrieve statistics from agent** オプションを使用します。

- **グループポリシー設定**
- **JSONファイル**
  - **グループポリシー設定**
  - **外部タスク**
  - **JSONファイル**
- **追加設定。** エージェントレポートの処理方法を設定します。
  - **Agent Insightsに表示するためにレポートをローカルに保存します。**エージェントがレポートをローカルに保存し、**Agent Insights**に表示できるようにします。この設定が有効な場合、以下の**保存するレポート**オプションが自動的に選択されます。
    - **保存するレポート。**ローカルに保存するレポートの種類を指定します。
      - **ログオン分析**: ログオン分析レポートを保存します。
      - **プロファイルインサイト**: プロファイルコンテナインサイトレポートを保存します。
  - **ローカルに保存されたエージェントレポートの代替場所を設定します。** レポートを保存するための代替場所を指定します。
- **最適化と使用状況のインサイト。**アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。エージェントがインサイト用のデータを収集およびアップロードするかどうかを制御するには、以下のオプションを使用します。
  - **最適化と使用状況のインサイトのためのデータ収集とアップロードを有効にする**

  このオプションを有効にすると、データの更新が完了するまでに数時間かかる場合があります。
- **プロファイルインサイト。**Profile ManagementおよびFSLogixのプロファイルコンテナに関するインサイトを得ることができます。エージェントがプロファイルコンテナ上の大きなファイルをスキャンするかどうかを制御するには、以下のオプションを使用します。

- **大容量ファイルのスキャンを有効にする**

  有効にすると、コンテナの使用量が指定されたしきい値を超えたときに、プロファイルコンテナ上の大容量ファイルのスキャンを実行します。スキャンは24時間に1回に制限されます。ファイルのサイズに基づいて、どのファイルを大容量ファイルとして扱うかを指定できます。

- **Profile Managementヘルスチェック**。Profile Managementヘルスチェックレポートに含める設定の範囲を指定できます。ヘルスチェックは24時間ごと、またはオンデマンドで実行されます。レポートに含めるProfile Management設定を選択します。

  > **注:**
  >
  > - オンデマンドでヘルスチェックを実行するには、監視 > 管理 > エージェントの**Profile Managementヘルスチェックの実行**オプションを使用します。
  > - 加えた変更は新しいレポートにのみ反映され、既存のレポートには影響しません。各エージェントについて、最新のレポートのみが保持されます。

- **セキュリティログ**。セキュリティルールの実行に関するログを収集し、レポートを生成できます。レポートに含めるセキュリティの側面を選択します。

  - 「**特権昇格**」セキュリティ側面は、「**EXE特権昇格**」、「**MSI特権昇格**」、「**自己昇格**」イベントのログ収集を制御します。
  - 「**プロセス階層制御**」セキュリティ側面を選択すると、「**ブロックされたアクティビティ**」オプションがデフォルトで選択されますが、「**許可されたアクティビティ**」オプションは編集できます。
  - 「**アプリケーションセキュリティログ**」セキュリティ側面を選択すると、「**ブロックされたアクティビティ**」オプションがデフォルトでチェックされますが、「**監査されたアクティビティ**」および「**許可されたアクティビティ**」オプションは編集できます。

  詳細については、「レポート」を参照してください。

- **アプリケーション配信結果**。アプリケーション配信の結果を収集し、レポートを生成します。「**アプリケーション配信タスクの結果**」チェックボックスをオンにすると、エージェントはレポートを収集し、WEMサーバーにアップロードします。詳細については、「レポート」を参照してください。

注:

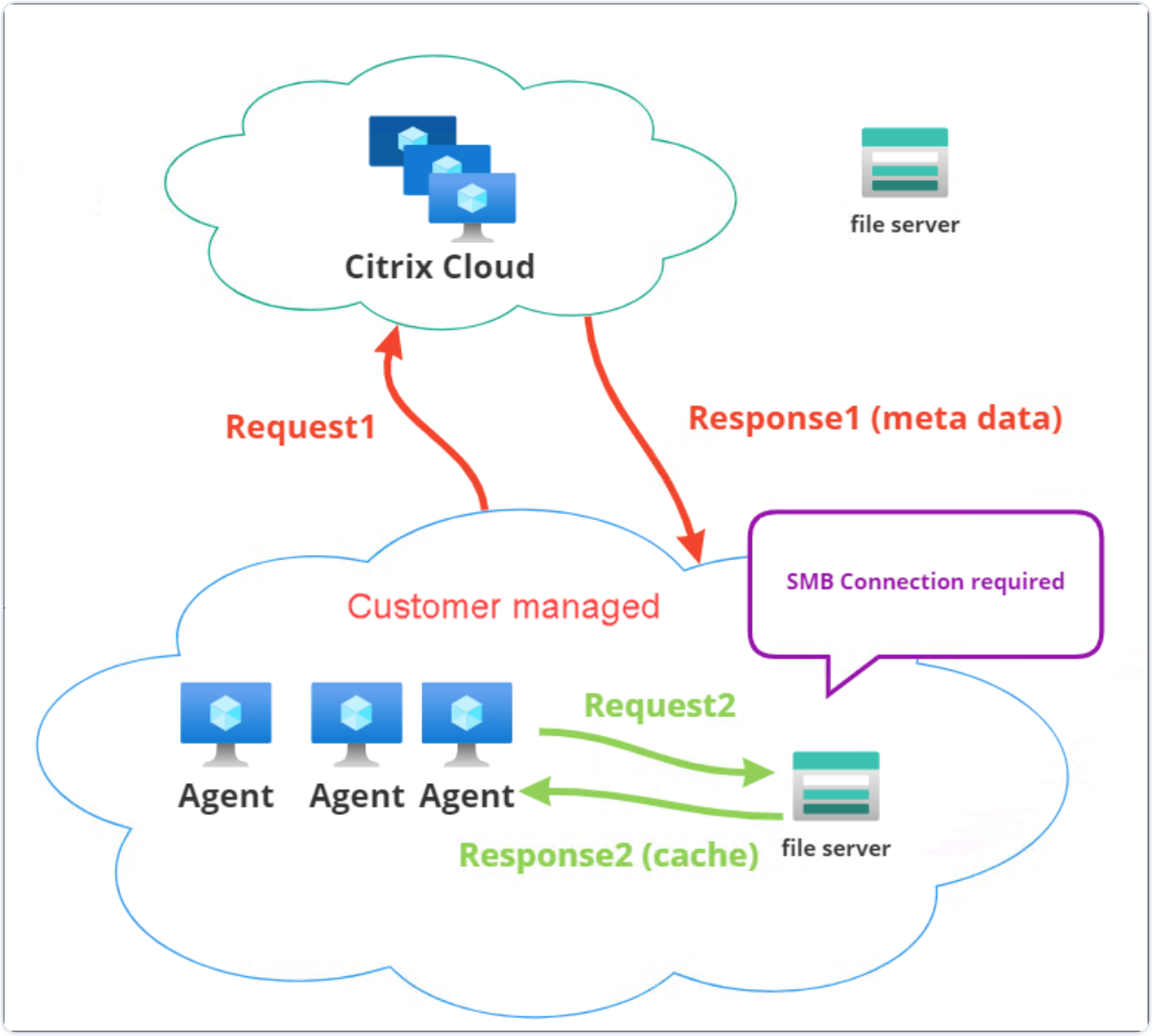
- 結果は4時間ごとにアップロードされます。エージェントから結果をすぐにアップロードするには、監視 > 管理 > エージェント の「**エージェントから統計を取得**」オプションを使用します。

- **VHD管理**。VHD管理に関連する操作の結果を収集し、レポートを生成します。VHDディスクの圧縮を選択すると、エージェントは関連するレポートを収集し、WEMサービスにアップロードします。詳細については、「レポート」を参照してください。

ファイル共有

このページでは、WEMが接続できるSMB共有を追加できます。その後、必要な機能のために共有を構成し、それらの機能が必要に応じて共有を使用できるようにします。SMB共有を使用すると、ネットワーク上のトラフィックが減少し、エージェントマシンへのファイルのダウンロード時間が短縮されます。

次の図は、ファイル共有の仕組みの概要を示しています。



ファイルのダウンロードは、特定のエージェントマシンから開始されます。この最初のダウンロードはCitrix Cloudを介して行われます。ダウンロードが完了すると、エージェントは他のエージェントが使用できるようにファイルをファイル共有にアップロードします。そのため、その後のダウンロードはCitrix Cloudを介するのではなく、ファイル共有を介して直接行われます。

ファイル共有が構成されている場合、ファイルのダウンロードが必要になると、エージェントはまずファイル共有でファイルが利用可能かどうかを確認します。利用可能な場合は、ファイル共有を介してダウンロードが行われます。利用できない場合は、エージェントはCitrix Cloudに接続して最初のダウンロードを行い、ダウンロードしたファイルをファイル共有にアップロードします。

SMB共有の追加

SMB共有と、その共有にアクセスする権限を持つ管理者の資格情報を入力します。次の手順を完了します。

1. **ファイル共有**ページで、**SMB共有の追加**をクリックします。

2. SMB共有の追加ウィザードで、次の情報を入力します。

   - **SMB共有**。`\\ServerName\ShareName`の形式でパスを入力します。ここで、`ServerName`はSMB共有をホストするサーバーのFQDNまたはIPアドレスであり、`ShareName`はSMB共有の名前です。
   - **ユーザー名**。`domain\username`の形式で名前を入力します。
   - **パスワード**。SMB共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。

3. **完了**をクリックして保存し、終了します。

機能で使用するSMB共有を選択する

リストからSMB共有を選択します。設定はデフォルトで**なし**です。機能の共有を選択する際は、次の点を考慮してください。

- 資格情報には、共有に対する完全な読み取り/書き込み権限が必要です。
- 共有に接続するには、エージェントはローカルシステムアカウントで実行されている必要があります。
- 構成されている場合、機能は必要に応じて共有を使用します。共有への接続は非永続的であり、必要な場合にのみ確立されます。
- 共有にアクセスできない場合、エージェントはCitrix Cloudを介してファイルをダウンロードするにフォールバックします。

アプリパッケージ配信機能のSMB共有を変更または削除することもできます。

関連サービスで使用するSMB共有を選択する

リストから1つ以上のSMB共有を選択します。選択すると、展開環境のローカルシステムアカウントで実行されているサービス（Citrix Profile Managementサービスなど）は、必要に応じて共有を使用できます。共有への接続は永続的です。この機能により、これらのサービスは接続を介して共有にアクセスできます。

SMB 構成例

SMB 共有を構成する方法の例については、以下を参照してください。

- Citrix Profile Management サービスで使用する SMB 共有を構成する を参照してください。

システムの最適化

Workspace Environment Management™ (WEM) のシステム最適化は、次の設定で構成されます。

- CPU管理

- メモリ管理
- I/O管理
- 高速ログオフ
- シトリックス オプティマイザー
- マルチセッション最適化

これらの設定は、エージェントマシンでのリソース使用量を削減するように設計されています。これにより、解放されたリソースが他のアプリケーションで利用できるようになります。その結果、サーバーあたりのユーザー数が増加し、ユーザー密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースであり、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。これは、プロセスがユーザーAのセッションでCPUスパイク保護をトリガーした場合、そのイベントはユーザーAのみに記録されることを意味します。ユーザーBが同じプロセスを開始した場合、プロセス最適化の動作はユーザーBのセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU管理

これらの設定により、CPU使用率を最適化できます。

プロセスはすべてのコアで実行でき、必要なだけCPUを使用できます。WEMのCPU管理機能を使用すると、個々のプロセスが使用できるCPU容量を制限できます。CPUスパイク保護は、CPU使用率全体を削減するようには設計されていません。CPU使用率の過剰な割合を消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPUスパイク保護が有効になっている場合、プロセスが指定されたしきい値に達すると、WEMは自動的にそのプロセスの優先度を一定時間低下させます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先度が低いプロセスよりも高い優先度で実行され、システムはスムーズに動作し続けます。

CPUスパイク保護は、各プロセスを迅速な「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が指定されたサンプル時間に対して指定された使用制限を超えると、その優先度は直ちに低下します。指定された時間が経過すると、プロセスのCPU優先度は以前の値に戻ります。プロセスは「スロットリング」されません。**CPUクランプ**とは異なり、優先度のみが低下します。

CPUスパイク保護は、個々のプロセスのインスタンスがしきい値を超えない限りトリガーされません。つまり、CPUの総消費量が指定されたしきい値を超えても、少なくとも1つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスがCPUスパイク保護をトリガーすると、**インテリジェントCPU最適化を有効**

にするオプションが有効になっている場合、同じプロセスの新しいインスタンスは（CPU）最適化されます。

特定のプロセスがCPUスパイク保護をトリガーするたびに、そのイベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。これは、user1の特定のプロセスに対するCPU最適化が、user2の同じプロセスの動作に影響を与えないことを意味します。

たとえば、Internet ExplorerがCPUの50～60%を消費することがある場合、CPUスパイク保護を使用して、VDAのパフォーマンスを脅かすiexplore.exeインスタンスのみをターゲットにすることができます。（対照的に、CPUクランプはすべてのプロセスに適用されます。）

同じVDAにログオンしている他のユーザーに影響を与えない、環境に最適な値を決定するために、サンプル時間を試すことをお勧めします。

CPUスパイク保護

注:

- 以下の設定における「CPU使用率」は、物理マシンまたは仮想マシン内の「論理プロセッサ」に基づいています。CPUの各コアは、Windowsと同様に論理プロセッサと見なされます。たとえば、6コアCPUを1つ搭載した物理マシンは、12個の論理プロセッサを持つと見なされます（Hyper-Threading Technologyはコアが2倍になることを意味します）。12コアのCPUを8個搭載した物理マシンは、96個の論理プロセッサを持ちます。4コアCPUを2個搭載するように構成されたVMは、8個の論理プロセッサを持ちます。
- 仮想マシンにも同じことが当てはまります。たとえば、12コアのCPUを8個搭載した物理マシン（96個の論理プロセッサ）があり、4つのマルチセッションOS VDA VMをサポートしているとします。各VMは、4コアCPUを2個搭載するように構成されています（8個の論理プロセッサ）。VM上でCPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、そのコアの半分を使用するように制限するには、**CPUコア使用率制限**を4（VMの論理プロセッサの半分）に設定し、48（物理マシンの論理プロセッサの半分）には設定しません。

有効にすると、CPU使用率が指定された期間（**サンプル時間制限**フィールドで指定）に指定された割合を超えた場合、プロセスのCPU優先度が一定期間（**アイドル優先度時間**フィールドで指定）低下します。

CPUスパイクを自動的に防止する。このオプションは、CPUに過負荷をかけるプロセスのCPU優先度を自動的に低下させます。このオプションは、論理プロセッサ（CPUコア）の数に基づいて、CPUスパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、4コアの場合、このオプションを有効にすると、全体のCPU使用率が23%を超えた場合、全体のCPUリソースの15%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。同様に、8コアの場合、全体のCPU使用率が11%を超えた場合、CPUリソースの8%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。

CPUスパイク保護をカスタマイズする。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。

- **CPU使用率制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達しなければならないCPU使用率の割合。この制限は、サーバー内のすべての論理プロセッサにわたってグローバルであり、インスタンスごとのプロセスに基づいて決定されます。CPUスパイク保護のトリガーを決定する際に、同じプロセスの複数のインスタンスのCPU使用率が加算されることはありません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、Server VDAで、複数の同時セッションにおいて、多くのiexplore.exeインスタンスがあるとします。各インスタンスは一定期間、CPU使用率が約35%に達するため、累積的にiexplore.exeは常に高いCPU使用率を消費しています。しかし、CPU使用率制限を35%以下に設定しない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。
- **サンプル時間制限**。プロセスのCPU優先度が低下するまでに、CPU使用率制限を超過し続けなければならない時間。
- **アイドル優先度時間**。プロセスのCPU優先度が低下する時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。
    - CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合のデフォルトレベル（**通常**）。
    - **インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されている場合の指定されたレベル。
    - プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

CPUコア使用制限を有効にする。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1からXまでの整数を入力します。Xはコアの総数です。Xより大きい整数を入力した場合、WEMはデフォルトで分離されたプロセスの最大消費量をXに制限します。

- **CPUコア使用制限**。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力した値は、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスを制限します。

インテリジェントCPU最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いCPU優先度が割り当てられます。WEMは、以下のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しません。

- タスクマネージャー
- システムアイドルプロセス
- システム
- サービスホスト
- LSASS
- ウィンイニット
- サービス
- シーエスアールエス
- オーディオディーG
- MsMpEng
- NisSrv
- エムエスコーアエスブイダブリュー
- ヴイエムウェアレゾリューションセット

インテリジェントI/O最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いI/O優先度が割り当てられます。

プロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsのコアサービスプロセスをすべて除外します。ただし、このオプションを使用して、実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でCPUスパイク保護の除外リストからプロセスを**追加**または**削除**できます。通常、ウイルス対策プロセスは除外されます。

> **ヒント:**

- セッションでウイルス対策スキャンがディスクI/Oを占有するのを防ぐため、ウイルス対策プロセスに静的なI/O優先度を「低」に設定することもできます。「I/O管理」を参照してください。
- プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスのCPU優先度が低下すると、WEMはプロセスのCPU優先度を低下させるたびに警告をログに記録します。イベントログの「アプリケーションとサービスログ」にある「Norskale Agent Service」で、「**Initializing process limitation thread for process**」を探してください。

子プロセスがCPU優先度を継承するのを防ぐ。子プロセスにCPU優先度を継承させたくないプロセスを指定します。

CPUスパイク保護オプション

CPUスパイク保護をどのように適用するかを選択します。

- **CPUスパイクを自動的に防止する**。システムのCPU使用率（単一CPUコアに対する相対値）が90%を超え、プロセスのCPU使用率（単一CPUコアに対する相対値）が80%を超えた場合に、エージェントにCPUスパイク保護を実行させるには、このオプションを使用します。
- **CPUスパイク保護をカスタマイズする**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達しなければならないCPU使用率の割合。この制限は、サーバー上のすべての論理プロセッサにわたってグローバルであり、インスタンスごと、プロセスごとに決定されます。単一のCPUコアを基準として制限を構成するには、「**単一CPUコアに対する相対的な制限を設定**」オプションを使用します。

注:

- 整数値と非整数値の両方がサポートされています。非整数値（例：37.5%）を入力することで、8コアプラットフォームで3コア以上を使用するプロセスを制限できます。
- **単一CPUコアに対する相対的な制限を設定**。単一のCPUコアを基準としてCPU使用率の制限を設定できます。値は100%を超えることもできます（例：200%または250%）。例：値が200%に設定されている場合、エージェントは2つ以上のCPUコアを使用するプロセスを最適化します。整数値と非整数値の両方がサポートされています。 **注:**

- **CPUスパイク保護のカスタマイズ**が構成されている場合、グローバルCPU使用率の制限または単一CPUコアに対する相対的なCPU使用率の制限のいずれかが最初に到達したときに、CPUスパイク保護がトリガーされます。

CPUスパイク保護をトリガーするプロセスに対して、エージェントは次のことができます。

- 「**CPUコア使用制限を有効にする**」オプションが選択されていない場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を下げます。
- 「**CPUコア使用制限を有効にする**」オプションが選択されている場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を下げ、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。

CPUスパイク保護を構成する際は、次の点に留意してください。

- CPUスパイク保護のトリガーを決定する際、同じプロセスの複数のインスタンスのCPU使用率が合計されることはありません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、複数の同時セッションを持つマルチセッションVDAの場合、複数のchrome.exeプロセスが存在します。CPU使用率を計算する際に、それらのCPU使用率が合計されることはありません。

CPUスパイク保護のサンプリング時間

サンプル時間制限。 CPUスパイク保護が適用されるまでに、プロセスがCPU使用率の制限を超過し続ける必要がある時間。

CPUスパイク保護の優先度低下時間

アイドル優先度時間。 プロセスのCPU優先度が低下する時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。

プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されておらず、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）に戻ります。 プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されている場合、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベルに戻ります。 プロセスの動作に応じて計算されたランダムなレベルに戻ります。このケースは、プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されておらず、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

その他のオプション

CPUコア使用制限を有効にする。このオプションを使用して、CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の特定の数の論理プロセッサに制限します。

CPU優先度

有効にすると、プロセスのCPU優先度を手動で設定できます。

これらの設定は、プロセスがリソースを競合している場合に有効になります。特定のプロセスのCPU優先度レベルを最適化できるため、CPUプロセッサ時間を競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすのを防ぎます。プロセスが互いに競合する場合、優先度の低いプロセスは、優先度の高い他のプロセスの後に処理されます。そのため、全体的なCPU消費量の大部分を占める可能性が低くなります。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、つまり「現在の」優先度は、ベースよりも高くなる場合があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。複数のプロセスがコンピューターで実行されている場合、プロセッサ時間はCPU優先度レベルに基づいてそれらの間で共有されます。プロセスのCPU優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。

> **注:**
>
> 特定のプロセスでCPU優先度レベルを低く設定しても、CPU全体の消費量が必ずしも減少するとは限りません。他のプロセス（より高いCPU優先度を持つ）がCPU使用率に影響を与え続けている可能性があります。

プロセスを追加するには、 をクリックします。次の情報を指定してから、 をクリックします。

- **プロセス名**。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名。たとえば、Windows Explorer (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。
- **優先度**。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が多く割り当てられます。、、、、、、 から選択します。

> **ヒント:**
>
> ここで設定したプロセスのCPU優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが再起動されたときに有効になります。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、 を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、 を選択します。

CPUアフィニティ

有効にすると、プロセスが使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDAで起動されたNotepadのすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

プロセスを追加するには、 をクリックします。次の情報を指定してから、 をクリックします。

- **プロセス名**。プロセスの実行可能ファイル名（例：notepad.exe）。
- **アフィニティ**。正の整数を入力します。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、 を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、 を選択します。

CPUクランプ

有効にすると、プロセスがCPU処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぐことができます。CPUクランプは、プロセスがCPU処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぎます。WEMは、設定した指定のCPU使用率に達すると、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量のCPUを消費するのを防ぐことができます。

> **注:**
>
> - CPUクランプは、計算コストが高いブルートフォースアプローチです。問題のあるプロセスのCPU使用率を人為的に低く保つには、そのようなプロセスに静的なCPU優先度とCPUアフィニティを割り当てると同時に、CPUスパイク保護を使用する方が適切です。CPUクランプは、リソース管理が非常に苦手でありながら、優先度を下げることができないプロセスを制御する場合に最適です。
> - プロセスのCPU処理能力の割合を適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定した場合は、変更を有効にするために**エージェントホスト設定の更新**を選択します。

> 設定するクランプの割合は、サーバー内の個々のCPUの総電力に適用され、そのCPUに含まれる個々のコアには適用されません。（つまり、クアッドコアCPUでの10%は、CPU全体の10%であり、1つのコアの10%ではありません）。

プロセスを追加するには、**プロセスの追加**をクリックします。次の情報を指定し、**プロセスの保存**をクリックします。

- **プロセス名**。プロセスの実行可能ファイル名（例：notepad.exe）。
- **割合**。正の整数を入力します。

ヒント:

- WEMがプロセスをクランプしている場合、WEMクライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示することで、プロセスがクランプされていることを確認できます。
- また、プロセスモニターを確認し、CPU消費量がクランプの割合を超えないことを確認することで、CPUクランプが機能していることを検証できます。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**削除**を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**編集**を選択します。

メモリ管理

これらの設定により、WEMを介してアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

これらの設定が有効になっている場合、WEMはプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEMはその差を余剰メモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEMはそのプロセスが消費する余剰メモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

アプリケーションがタスクバーから復元されると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEMはユーザーがデスクトップセッション中に使用しているすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションにわたって複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで利用可能になります。この動作により、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する

有効にすると、指定された時間アイドル状態のままになっているプロセスは、アイドル状態ではなくなるまで余分なメモリを解放するように強制されます。

アイドルサンプル時間。プロセスがアイドル状態と見なされ、その後余分なメモリを解放するように強制されるまでの時間を指定できます。この間、WEMはプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は120分です。

アイドル状態の制限。プロセスがアイドル状態と見なされるCPU使用率の割合を指定できます。デフォルトは1%です。5%を超える値を使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドル状態と誤解され、メモリが解放される可能性があります。

最適化を制限する。WEMがアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値制限を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名（例: notepad.exe）を指定します。

WEMは、以下のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`
- `wfshell`
- `rdpclip`
- `wmiprvse`
- `dllhost`
- `audiodg`
- `msdtc`
- `mscorsvw`
- `spoolsv`
- `smss`
- `winlogon`
- `svchost`
- `taskmgr`
- `System Idle Process`
- `System`
- `LSASS`
- `wininit`
- `msiexec`
- `services`
- `csrss`
- `MsMpEng`

- `NisSrv`
- `Memory Compression`

特定のプロセスのメモリ使用量制限

有効にすると、プロセスが消費できるメモリの上限を設定することで、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

> **警告:**

> 特定のプロセスにメモリ使用量制限を適用すると、システムの応答速度が低下するなど、意図しない影響が生じる可能性があります。

> プロセスを追加するには、**プロセスを追加**をクリックします。以下の情報を指定し、**プロセスを保存**をクリックします。

- **プロセス名**。追加するプロセスの名前を入力します（例: notepad.exe）。
- **メモリ制限**。メモリ使用量制限を入力します。
- **制限の種類**。リストから制限モードを選択します。
    - **動的制限**。指定されたプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定されたプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用すると、利用可能なメモリに応じてメモリ使用量制限が適用されます。そのため、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量を超える可能性があります。
    - **静的制限**。指定されたプロセスに静的制限を適用できます。この設定は、指定されたプロセスに割り当てられるメモリ量を常に制限します。適用すると、利用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定された量を超えるメモリを消費するのを制限します。結果として、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量に制限されます。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**削除**を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**編集**を選択します。

I/O管理

これらの設定により、特定のプロセスのI/O優先度を最適化し、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。たとえば、I/O管理設定を使用して、ディスク帯域幅を大量に消費するアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、つまり「現在の」優先度は、ベースよりも高くなる場合があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。一般的に、Windowsは優先度の低いスレッドよりも優先度の高いスレッドにアクセスを許可します。

プロセスI/O優先度

有効にすると、特定のプロセスのI/O優先度を最適化できるため、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすことはありません。

プロセスを追加するには、**プロセスを追加**をクリックします。次の情報を指定し、**プロセスを保存**をクリックします。

- **プロセス名**。拡張子なしでプロセスの実行可能ファイル名を入力します。たとえば、Windowsエクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。
- **I/O優先度**。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度を入力します。プロセスのI/O優先度が高いほど、そのスレッドはより早くI/Oアクセスを取得します。**高**、**標準**、**低**、**非常に低い**から選択します。

> **ヒント:**
>
> ここで設定したプロセスI/O優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

> プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**削除**を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**編集**を選択します。

高速ログオフ

これらの設定により、リモートセッションへの HDX™ 接続をすぐに終了できます。これにより、ユーザーにはセッションがすぐに閉じられたように見えます。ただし、セッション自体は VDA のバックグラウンドでセッションログオフフェーズを続行します。

> **注:**
>
> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps™ および RDS リソースのみをサポートします。

> 有効にすると、この構成セットのすべてのユーザーに対して高速ログオフが有効になります。ユーザーはすぐにログアウトされ、セッションログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外するには、次の手順を実行します。

1. **指定されたグループを除外**を選択し、次に**グループの追加**を選択します。**除外するグループの追加**ウィザードが表示されます。
2. ID タイプを選択します。
3. 追加するグループが存在するドメインを選択します。
4. 検索ボックスに、追加するグループの名前を入力します。（検索では大文字と小文字は区別されません。）
5. プラスアイコンをクリックしてグループを追加します。
6. 完了したら、**保存**をクリックしてグループを追加し、**除外するグループの追加**ウィザードを終了します。

Citrix オプティマイザー

これらの設定により、パフォーマンスを向上させるためにユーザー環境を最適化できます。Citrix Optimizer はユーザー環境をすばやくスキャンし、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。

ユーザー環境は次の2つの方法で最適化できます。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行します。これを行うには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、そのテンプレートを Workspace Environment Management (WEM) に追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンのCitrix Optimizerが提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンのCitrix Optimizerは`<https://support.citrix.com/article/CTX224676>`からダウンロードできます。テンプレートビルダー機能を使用すると、WEMにアップロードする独自のカスタムテンプレートを作成できます。
- エージェントホスト（WEMエージェントがインストールされているマシン）で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダーに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択し

て、便利なフォルダーにコピーします。テンプレートファイルをカスタマイズして固有の情報を反映させ、カスタムテンプレートをWEMにアップロードします。

有効にすると、次の設定を構成できます。

毎週実行。選択すると、WEMは毎週最適化を実行します。**毎週実行**が選択されていない場合、WEMは次のように動作します。

- テンプレートをWEMに初めて追加すると、WEMは対応する最適化を実行します。後でそのテンプレートに変更を加えない限り、WEMは最適化を1回だけ実行します。変更には、OSに別のテンプレートを適用することや、テンプレートを有効または無効にすることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEMは最適化を1回実行します。

カスタムテンプレートを追加するには：

1. **カスタムテンプレートの追加**をクリックします。
2. **カスタムテンプレートの追加**ウィザードで、次の手順を実行します。
   a. **テンプレート名**で、**参照**をクリックし、追加するテンプレートを選択します。
   b. **適用可能なオペレーティングシステム**で、テンプレートが適用されるオペレーティングシステムをリストから1つ以上選択します。

> **ヒント:**
>
> リストにはないがテンプレートが適用されるWindows 10オペレーティングシステムを追加できます。それらのOSはビルド番号を入力して追加します。OSはセミコロン（;）で区切ってください。例：2001;2004。

   c. 必要に応じてアクティブ化するグループを選択します。
   d. 「**保存**」をクリックします。

> **重要:**
>
> Citrix Optimizerはカスタムテンプレートのエクスポートをサポートしていません。カスタムテンプレートを追加した後も、ローカルコピーを保持してください。

> 「**状態**」列のトグルを使用して、テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えることができます。無効になっている場合、エージェントはテンプレートを処理せず、WEM はテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、「**削除**」を選択します。注：組み込みテンプレートは削除できません。

テンプレートを編集するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、「**編集**」を選択します。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、「**プレビュー**」を選択します。

> **注:**

> 非永続 VDI 環境の場合、WEM は同じ動作に従います。つまり、マシンが再起動すると、環境へのすべての変更が失われます。Citrix Optimizer の場合、WEM はマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

> **使用するテンプレートを自動的に選択します**。どのテンプレートを使用すればよいかわからない場合は、このオプションを使用して、WEM が各 OS に最適なテンプレートを選択するようにします。カスタムテンプレートを優先テンプレートとして使用する場合は、プレフィックスをコンマ区切りで入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います。

- `prefix_<os version>_<os build>`
- `prefix_Server_<os version>_<os build>`

Citrix Optimizer 設定への変更が有効になるまでには、レガシーコンソールの「**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**」タブで「**SQL 設定の更新遅延**」オプションに指定した値に応じて、時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、「**監視 > 管理 > エージェント**」に移動し、エージェントを見つけて、「**その他**」メニューから「**Citrix Optimizer の処理**」を選択します。

> **ヒント:**

> 新しい変更がすぐに有効にならない場合があります。「**Citrix Optimizer の処理**」を選択する前に、「**エージェントホスト設定の更新**」を選択することをお勧めします。

マルチセッションの最適化

これらの設定を使用すると、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化して、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

マルチセッション OS マシンは、単一のマシンから複数のセッションを実行して、ユーザーにアプリケーションとデスクトップを提供します。切断されたセッションはアクティブなままで、そのアプリケーションは実行され続けます。切断されたセッションは、同じマシンで実行されている接続されたデスクトップやアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定を使用すると、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化して、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッション OS マシンを最適化します。デフォルトでは、マルチセッションの最適化は無効になっています。この機能は、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続されたセッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが1分間切断されたままになると、WEM エージェントはセッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションの CPU および I/O 優先度を下げます。その後、エージェントはセッションが消費できるメモリリソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEM は優先度を復元し、制限を解除します。

グループの除外

マルチセッションの最適化から特定のグループを除外するには、次の手順を実行します。

1. 「**指定されたグループを除外**」を選択し、「**グループの追加**」をクリックします。「**除外するグループの追加**」ウィザードが表示されます。
2. 識別子の種類を選択します。
3. 追加するグループが存在するドメインを選択します。
4. 検索ボックスに、追加するグループの名前を入力します。グループの完全な名前を入力します。（検索では大文字と小文字は区別されません。）
5. プラスアイコンをクリックしてグループを追加します。
6. 完了したら、「**保存**」をクリックしてグループを追加し、「**除外するグループの追加**」ウィザードを終了します。

プロセスを除外する

特定のプロセスをマルチセッション最適化から除外するには、「**プロセスの追加**」をクリックし、追加するプロセスを参照して、「**プロセスの保存**」をクリックします。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、「**削除**」を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、「**編集**」を選択します。

ディレクトリ オブジェクト

このページでは、Workspace Environment Management™ (WEM) で管理するマシン、グループ、組織単位 (OU) などを追加できます。エージェントがそれらのオブジェクトを管理できるように、WEM に追加する必要があります。 オブジェクトを追加すると、追加されたマシンのリストが表示されます。ここにリストされているマシンのみがWEMによって管理されます。検索ボックスを使用して、目的のオブジェクトをすばやく検索できます。フィルターを使用して検索を絞り込むこともできます。

これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサービスに登録されると、インフラストラクチャサービスは構成セットに関連する必要なマシン依存設定をエージェントに送信します。ユーザーエクスペリエンスを向上させるために、インフラストラクチャサービスは構成セットに関連するデータをエージェント用にキャッシュします。データキャッシュにより、インフラストラクチャサービスはディレクトリからデータを取得する頻度を減らすことができます。キャッシュは1時間ごとに更新されます。エージェントを別の構成セットに変更した場合、反映されるまでに時間がかかることがあります。

> **ヒント:**

> これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサービスに正しく登録されているかを確認するには、**「監視」>「管理」>「エージェント」**に移動します。

> 次のオブジェクトを追加できます。

- マシンとグループ
- OU

「オブジェクトの追加」をクリックし、オブジェクトの種類を選択して、ディレクトリを移動して追加するオブジェクトを選択します。1種類のオブジェクトを追加した後、別の種類に切り替えて続行できます。完了したら、「追加」**をクリックします。

マシンまたはマシン グループを追加する

1. **「ディレクトリ オブジェクト」**ノードで、「オブジェクトの追加」**をクリックします。
2. オブジェクトの種類リストから**「コンピューターとグループ」**を選択します。
3. リストからドメインを選択し、追加するマシンまたはマシン グループを検索します。

> **注:**
>
> ドメインリストの有効期限が切れている場合は、更新オプションのいずれかを選択して、ドメインリストを強制的に更新できます。**「レコードの更新」**は選択したレコードまたはレコードのリストを更新し、**「ターゲット名の再クエリ」**はターゲット名を更新します。

1. プラス記号をクリックして追加します。追加したマシンは、検索ボックスの下のテーブルに表示されます。
2. 追加する構成セットを選択します。
3. 完了したら、**追加**をクリックします。

OUにマシンを追加する

1. **ディレクトリオブジェクト**ノードで、**オブジェクトの追加**をクリックします。
2. オブジェクトタイプリストから**組織単位**を選択します。
3. リストからドメインを選択し、追加したいOUを検索します。

> **注:**
>
> ドメインリストの有効期限が切れている場合は、更新ボタンをクリックしてドメインリストを強制的に更新できます。場所構成オプションは、目的のターゲットOUをすばやく見つけるために、OU検索スコープを特定の場所ノードに制限します。

1. プラス記号をクリックして追加します。追加したオブジェクトは、検索ボックスの下のテーブルに表示されます。
2. 追加したい構成セットを選択します。
3. 完了したら、**追加**をクリックします。

マシン、マシングループ、またはOUの詳細を編集する

1. **ディレクトリオブジェクト**ノードで、編集したいオブジェクトを選択し、アクションバーから**編集**を選択します。
2. **オブジェクトの編集**ウィザードで、以下のいずれかの詳細を編集し、**保存**をクリックします。

   - **名前**。マシン、マシングループ、またはOUの名前。
   - **識別名**。選択したマシンまたはマシングループの識別名 (DN)。この名前を使用すると、同じ名前の異なるOUを区別できます。このセクションは、マシンカタログタイプのオブジェクトでは利用できません。
   - **オブジェクトタイプ**。オブジェクトタイプ（マシン、グループ、またはOU）。
   - **説明**。マシン、マシン グループ、または OU に関する追加情報。
   - **構成セット**。オブジェクトを追加する構成セット。
   - **優先度**。異なるマシンまたはグループ間の優先度を構成できます。優先度は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。値が大きいほど優先度が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合など）、優先度の高いマシンまたはグループが優先されます。
   - オブジェクトの状態。オブジェクトを有効にするか（**はい**）、無効にするか（**いいえ**）を制御します。無効にすると、マシン、マシン グループ、または OU にアクションを割り当てることができなくなり、割り当てられたアクションは適用されなくなります。または、**Directory Objects**ページの**状態**列にあるトグルを使用して、状態をオンまたはオフに切り替えることもできます。

   * ディレクトリから報告された読み取り専用の詳細。

> **注:**
>
> マシンカタログタイプのオブジェクトの場合、構成セットのみを変更できます。

オブジェクトの削除

削除するオブジェクトを選択し、アクションバーから**削除**を選択します。

詳細設定

バインドされていないエージェント

どの構成セットにもバインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御します。以下の設定を有効にした後、「バインドされていないエージェント」構成セットに移動し、そこで設定を構成して、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

- **バインドされていないエージェントに設定を適用する**。「バインドされていないエージェント」構成セットの設定を、**Directory Objects**にまだ追加していないエージェントに適用できます。

> **注:**
>
> **バインドされていないエージェントに設定を適用する**が有効になっている場合、それらのバインドされていないエージェントを別の構成セットに追加すると、新しい設定が適用されるまでに最大1時間かかることがあります。

Active Directory接続セキュリティ

デフォルトでは、WEMはActive Directoryクエリに*LDAP*を使用します。*LDAPS*を介した安全な通信を強制するには、**Active Directory接続を暗号化するためにLDAPSを有効にする**を選択します。

監視

「**監視**」ノードは、Workspace Environment Management™ (WEM) の展開の監視およびトラブルシューティングに役立つ情報を提供し、管理タスクを実行できます。

「**監視**」ノードは、次の項目で構成されています。

- 管理。ユーザーおよびエージェントの統計情報と管理アクティビティを表示できます。
  - 「**ユーザー統計**」。展開に関するユーザー統計を表示します。
  - 「**エージェント**」。エージェント情報を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。
- インサイト。アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。構成セットのインサイトを有効にするには、その「**詳細設定 > インサイト**」ページに移動し、「**最適化お**

よび使用状況インサイトのデータ収集とアップロードを有効にする」を選択します。インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、「**適用**」をクリックします。

  - 「**最適化インサイト**」。指定された期間に、CPUスパイク保護とメモリ使用量最適化を最も頻繁にトリガーした上位10個のアプリケーションを表示します。
  - 「**使用状況インサイト**」。使用時間（時間）別の上位10個のアプリケーション、ユーザー数別の上位10個のアプリケーション、および指定された期間に最も多くのCPUおよびメモリリソースを消費した上位10個のアプリケーションを表示します。
  - 「**プロファイルコンテナインサイト**」。Profile ManagementおよびFSLogixコンテナのインサイトを表示します。

- レポート。展開を分析できるレポートを提供します。各レポートはテーブルレコードとして表示されます。

管理

ユーザーとエージェントの統計、および管理アクティビティを表示できます。

ユーザー統計

Workspace Environment Management™ (WEM) 展開に関するユーザー統計を表示します。ユーザーがエージェントマシンにログオンするたびに、関連情報が収集され、ここにテーブルレコードとして表示されます。

このページには、次の情報が含まれています。

- **ユーザーの概要**。すべての構成セットについて、エージェントマシンにログオンしたすべてのユーザーの数を表示します。
- **ユーザー履歴**。すべての構成セットに関連付けられているすべてのユーザーの接続情報を表示します。これには、最終接続時刻 (協定世界時、UTC)、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントの種類 (UI または CMD)、およびバージョンが含まれます。

> **ヒント:**

> **フィルター**を使用してリストをフィルターできます。たとえば、特定の構成セットのすべてのユーザー数と、指定された日付範囲内のユーザー数を表示します。

> 次の操作を実行できます。

- **更新**。ユーザー統計のリストを更新します。
- **更新**アイコン。ユーザーの表示名を更新します。このアイコンは、各レコードまたは任意のユーザー表示名にマウスを合わせると表示されます。
- **期限切れのレコードをクリア**。WEM サービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が 24 時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。期限切れのレコードがない場合は使用できません。

> **注:**
>
> このオプションは、**ユーザー ID** が **ローカルシステム** のレコードでは使用できません。

- **レコードの削除**。WEM サービスデータベースからレコードを削除します。エージェントを 1 つだけ選択し、その対応するレコードが期限切れになっている場合に利用できます。

> **注:**
>
> このオプションは、ユーザー ID がローカルシステム、ネットワークサービス、または NT Authority (ローカルサービス) のレコードでは使用できません。

- **エクスポート**。各レコードのデータを**CSV**または**JSON**形式でエクスポートできます。これらの形式は、**Microsoft Excel**などのプログラムで開くことができます。これを行うには、次の手順を実行します。

  a. **エクスポート**をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。

  b. エクスポート形式を選択します。利用可能なオプションは、**CSV**と**JSON**です。

  c. オプションで、**エクスポートのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。エクスポートは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

  d. **エクスポート**をクリックして、エクスポートプロセスを開始します。

> **重要:**

- 最大50,000件のレコードをエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位50,000件のみがエクスポートされます。レコード数を50,000件以下に減らすために、フィルターを使用することをお勧めします。
- エクスポートの実行中は、別のエクスポートを実行できません。
- エクスポートが30分以内に完了しない場合、それに関する通知は受信されなくなります。後でエクスポート結果を表示するには、**ファイル**に移動します。
- ユーザー統計をエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。制限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、**ファイル**に移動して不要なファイルを削除し、スペースを解放してください。ファイルを参照してください。

エージェント

このページでは、エージェント情報を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。

統計

リストビュー

エージェントはテーブル形式で一覧表示され、各行がエージェントの詳細情報に対応しています。

このタブには、WEM展開内のエージェントに関する統計が表示されます。WEM展開内のエージェントに関する次の統計を表示できます。

- すべての構成セットについて、ユーザーがログオンしたエージェントの総数。

> **ヒント:**
>
> フィルター条件で構成セットを指定すると、その構成セットに登録されているエージェントの総数と、過去24時間および過去30日間に登録されたエージェントの数が表示されます。

- 構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報。これには、最終接続時刻、最後に接続したマシンの名前、およびエージェントのバージョンが含まれます。
- **同期状態**列には、エージェントキャッシュとWEMサービスの最終同期の結果に関する情報が表示されます。

  - **成功**（チェックマークアイコン）。最終同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
  - **不明**（感嘆符アイコン）。同期が進行中であるか、まだ開始されていないか、または結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
  - **失敗**（エラーアイコン）。最終同期が失敗したことを示します。

- **最近接続**列には、次の情報が表示されます。
  - **オンライン**（チェックマークアイコン）。エージェントがオンラインであることを示します。エージェントは、一定の間隔でWEMサービスに統計情報をアップロードしています。
  - 列フィールドが空白の場合、エージェントがオフラインであることを示します。

- **Profile Managementの正常性**列には、環境におけるProfile Managementの正常性ステータスに関する情報が表示されます。

  Profile Managementの正常性ステータスは、Profile Managementが最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントマシンの出力ファイルから特定の問題を特定できます（`%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.json`）。この機能は、毎日、またはWEMエージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、エージェントを選択し、アクションバーから**Profile Managementの正常性チェックを実行**を選択します。各ステータスチェックはステータスを返します。最新のステータスを表示するには、**更新**をクリックします。**Profile Managementの正常性**列のアイコンは、Profile Managementの正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

  - **良好**（チェックマークアイコン）。Profile Managementが良好な状態であることを示します。
  - **通知**（右上に青い点が付いたチェックマークアイコン）。Profile Managementが許容可能な状態であることを示します。
  - **警告**（右上にオレンジ色の点が付いたチェックマークアイコン）。Profile Managementが最適ではない状態であることを通知します。最適ではない状態は、展開環境でのProfile Managementのユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側でのアクションを必要としません。詳細レポートを表示するには、**その他**の**Profile Managementの正常性チェックレポートを表示**オプションを使用します。
  - **エラー** (エラーアイコン)。Profile Management が正しく構成されていないため、正常に機能しないことを示します。

- **無効** (無効アイコン)。Profile Management が見つからないか、有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックがお客様の状況を反映していない場合、または発生している問題を検出しない場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

次の操作を実行できます。

- **タスク履歴**。過去24時間以内に開始されたエージェントタスクを一覧表示します。**エージェント**ページで**タスク履歴**をクリックすると、**タスク履歴**ページに移動し、開始されたタスクの進行状況と結果を確認できます。
- **表示する列**。表示する列を選択して、テーブルをカスタマイズできます。
- **更新**。エージェントのリストを更新します。
- **期限切れレコードのクリア**。WEMサービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。期限切れのレコードがない場合は利用できません。
- **詳細の表示**。エージェントに関する詳細情報を表示できます。
- **エクスポート**。各レコードのデータをCSVまたはJSON形式でエクスポートできます。これらの形式はMicrosoft Excelなどのプログラムで開くことができます。これを行うには、次の手順を実行します。

  a. **エクスポート**をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
  b. エクスポート形式を選択します。利用可能なオプション：CSVおよびJSON。
  c. オプションで、**エクスポートのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。エクスポートはブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
  d. **エクスポート**をクリックして、エクスポートプロセスを開始します。

> **重要:**
>
> - 最大50,000件のレコードをエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位50,000件のみがエクスポートされます。レコード数を50,000件以下に減らすために、フィルターを使用することをお勧めします。
> - エクスポートの実行中は、別のエクスポートを実行できません。
> - エクスポートが30分以内に完了しない場合、その通知は届かなくなります。後でエクスポート結果を表示するには、**ファイル**に移動してください。

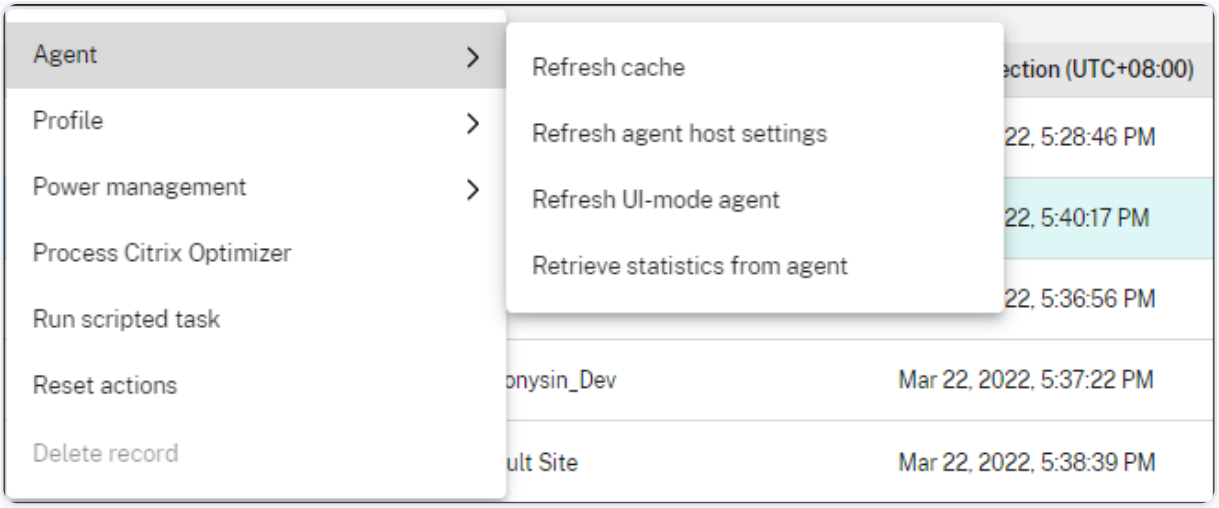
- エージェント統計をエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。制限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、**ファイル**に移動して不要なファイルを削除し、スペースを解放してください。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/files.html)を参照してください。

その他メニューでは、次のオプションを使用できます。これらのオプションをドメインに参加していない登録済みエージェントに適用する場合は、次の点を考慮してください。

- エージェントはバージョン2207.1.0.1以降である必要があります。
- ターゲットエージェントは、これらのタスクの実行についてすぐに通知されません。通知は、ターゲットエージェントまたは同じサブネット上の別のエージェントがCitrix Cloud™に接続して設定を更新するときに送信されます。そのため、エージェント側でタスクが実行されるまでに遅延が発生する可能性があります。同じサブネット上のエージェントが多いほど、遅延は短くなります。
- 最大遅延は、**SQL設定の更新遅延**値の1.5倍です。デフォルトでは、**SQL設定の更新遅延**値は15分です。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/advanced-settings.html#service-options)を参照してください。したがって、この場合、最大遅延は22.5（1.5 x 15）分です。

注:

その他メニューは、エージェントを50台以下選択した場合にのみ使用できます。



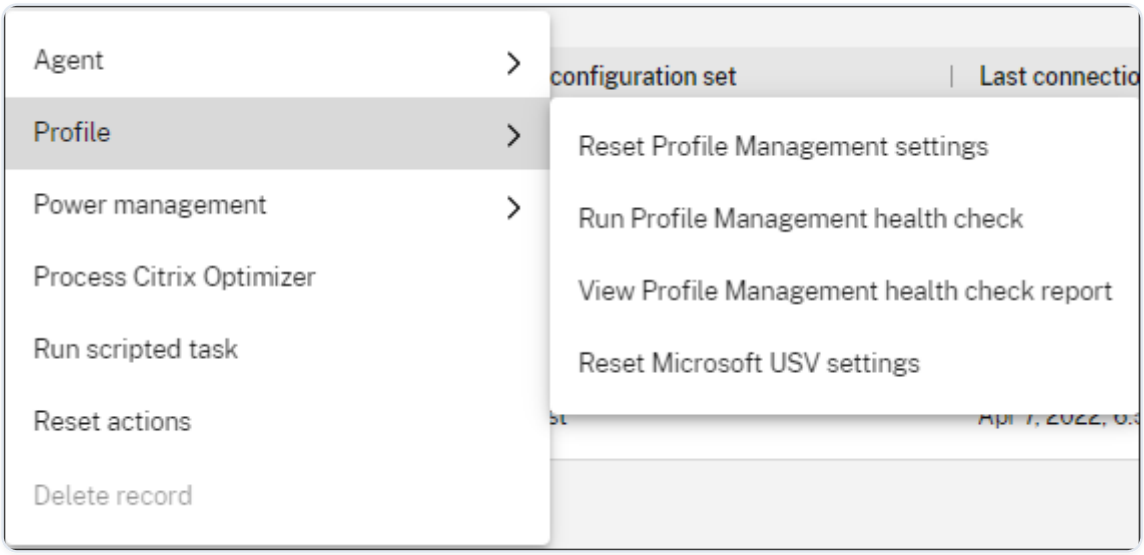
エージェント:

- **キャッシュの更新**。ローカルエージェントキャッシュ（WEM構成データベースのエージェント側レプリカ）の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、ローカルエージェントキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。
- **エージェントホスト設定の更新**。ユーザー環境のエージェントサービス設定の更新をトリガーします。これらの設定には、詳細設定、最適化、トランスフォーマー、およびユーザーに割り当てられていない設定が含まれます。
- **UIモードエージェントの更新**。ユーザーに割り当てられたアクションをWEMエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。エージェントを更新すると、エージェントはインフラストラクチャサービスと通信します。インフラストラクチャサービスは、WEMデータベースでエージェントホストのIDを検証します。

  > **重要:**
  >
  > - **UIモードエージェントの更新**オプションは、自動的に起動される（エンドユーザーまたはスクリプトによって起動されない）UIモードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMDモードのエージェントでは機能しません。
  > - すべての設定を更新できるわけではありません。一部の設定（環境設定やグループポリシー設定など）は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

- **エージェントから統計情報を取得**。エージェントが統計情報をインフラストラクチャサービスにアップロードできるようにします。

エージェント側で更新操作を実行することもできます。ただし、これらの操作は実際の状況によって動作が異なります。詳細については、「エージェント側の更新操作」を参照してください。



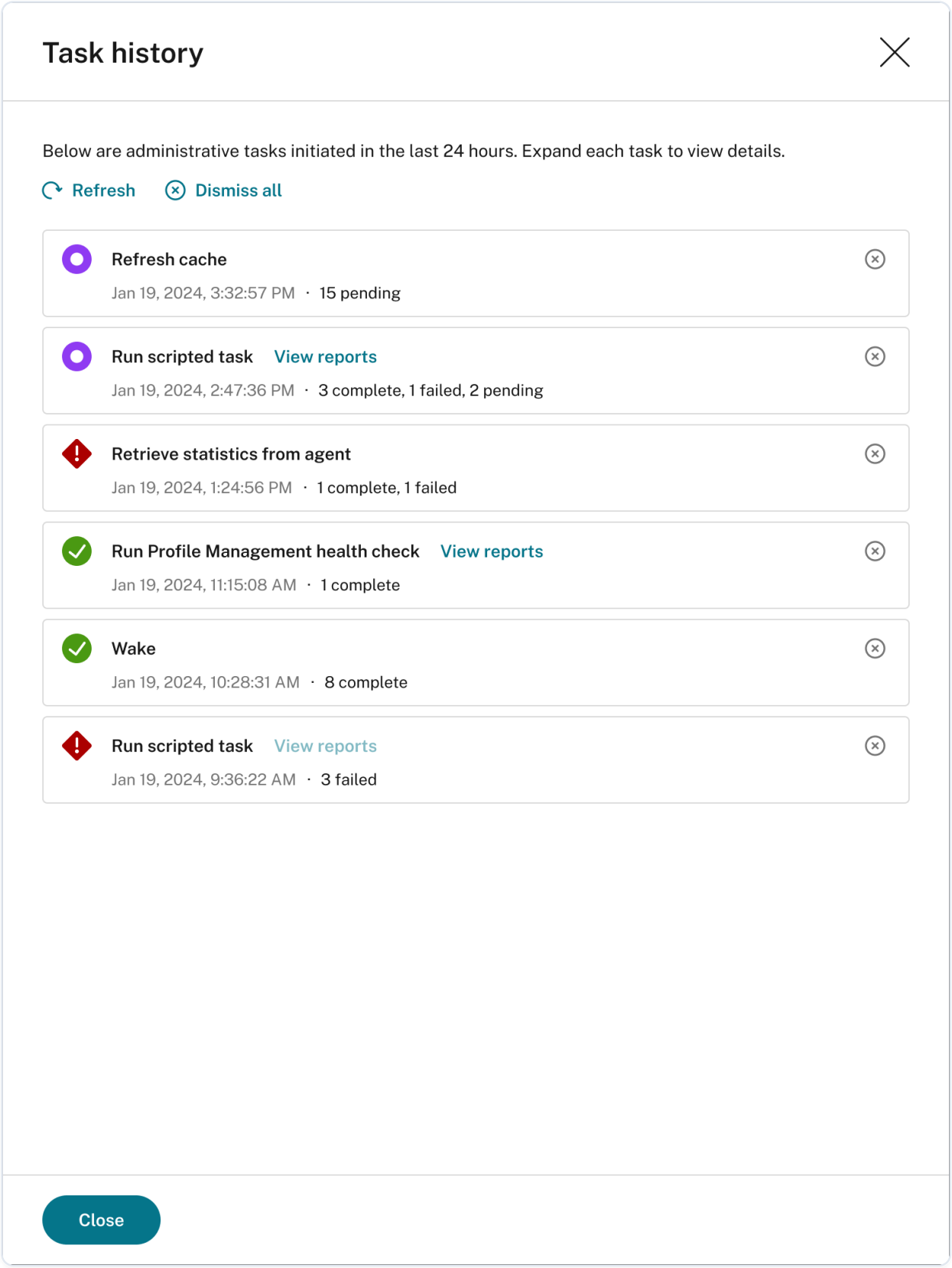
プロファイル:

- **Profile Management設定のリセット**。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Profile Management設定がエージェントに適用されていない場合は、**Profile Management設定のリセット**をクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

  > **注:**
  >
  > WEM管理コンソールから**Profile Management設定のリセット**を構成した後も設定がエージェントに適用されない場合は、回避策についてCTX219086を参照してください。

- **Profile Managementヘルスチェックの実行**。ターゲットエージェントマシンでステータスチェックを実行し、Profile Managementが最適に構成されているかどうかを判断します。このオプションを選択すると、**Profile Managementヘルスチェックの実行**ウィザードが表示されます。ヘルスチェックレポートに含めるProfile Management設定を選択し、**実行**をクリックします。次の点に注意してください。

  - デフォルトでは、ヘルスレポートはすべての設定を対象とします。2205.1.0.1より前のエージェントの場合、レポートに含める設定の範囲を変更しても、その変更は有効になりません。
  - ヘルスレポートが表示されるまでに時間がかかる場合があります。レポートで、必要に応じてビューを更新してください。
  - **レポートの表示**をクリックして、レポートに直接アクセスします。



- **Profile Managementヘルスチェックレポートの表示**。ターゲットエージェントマシンに関連するProfile Managementヘルスレポートにすばやくアクセスできます。Profile Managementヘルスレポートの詳細については、「レポート」を参照してください。
- **Microsoft USV設定のリセット**。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV設定がエージェントに適用されていない場合は、**Microsoft USV設定の**

リセットをクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

電源管理:

- **シャットダウン**。選択したエージェントをシャットダウンできます。
- **再起動**。選択したエージェントを再起動できます。
- **スリープ**。選択したエージェントをスリープモードにできます。このオプションは、ターゲットマシンがスリープモードをサポートしている場合にのみ機能します。
- **休止状態**。選択したエージェントを休止状態にできます。このオプションは、ターゲットマシンが休止状態をサポートしている場合にのみ機能します。
- **ウェイク**。選択したエージェントをウェイクアップできます。このオプションを機能させるには、「**レガシーコンソール > 詳細設定 > 構成 > Wake on LAN**」に移動し、「**エージェントのWake on LANを有効にする**」を選択します。また、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連するBIOS設定が構成されていることを確認してください。詳細については、「Wake on LAN」を参照してください。

> **ヒント:**
>
> - エージェントをシャットダウンまたは再起動するときに、シャットダウンまたは再起動が開始されるまでの遅延時間（秒単位）を指定できます。ユーザーには、指定した時間内にマシンがシャットダウンまたは再起動するというプロンプトが表示されます。シャットダウンプロンプトの例: `Your administrator has initiated the shutdown of your machine from the Workspace Environment Management console. The machine shuts down in 60 seconds.`。再起動プロンプトの例: `Your administrator has initiated the restart of your machine from the Workspace Environment Management console. The machine restarts in 60 seconds.`。
> - スリープと休止状態の違いを考慮してください。スリープモードでは、マシン上のすべてのアクションが停止され、開いているドキュメントやアプリケーションはメモリに保存されます。マシンは低電力状態になります。休止状態では、開いているドキュメントと実行中のアプリケーションがハードディスクに保存されます。マシンは完全に電源がオフになり、電力は消費されません。

- ターゲットマシンがスリープモードと休止状態モードをサポートしていることを確認するには、マシンに移動して次のPowerShellコマンドを実行します: `powercfg /a`
  。

Citrix Optimizerを処理。Citrix Optimizer設定の変更がすぐに有効になるように、エージェントに設定を適用します。

スクリプトタスクの実行。ターゲットエージェントマシンでスクリプトタスクを実行できます。このオプションを選択すると、「**スクリプトタスクの実行**」ウィザードが表示されます。次の設定を構成し、「**実行**」をクリックします。各設定の詳細については、「スクリプトタスクの設定」を参照してください。

> **注:**
>
> このオプションは、ドメインに参加していないエージェントには適用されません。

- **スクリプトの選択**。実行するスクリプトを選択します。これにより、前回このスクリプトをオンデマンドで実行したときの入力を使用して設定が事前入力されます。
- **スクリプトタスクにパラメータを渡す**。スクリプトタスクにパラメータを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクでパラメータ変数として入力を提供できます。
- **出力ファイル**。タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択した場合、タスク用に生成されたレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境内のファイルにアクセスすることなく、レポートで出力ファイルの内容を表示できます。
- **キーワードを強調表示**。レポートで強調表示するキーワードを指定します。複数のキーワードを入力できます。キーワードを入力した後、**Enter**キーを押して別のキーワードを追加します。指定した場合、生成されたレポートの「**出力ファイルの内容**」および「**コンソール出力**」セクションで、キーワードに一致するレポートコンテンツが強調表示されます。
- **正規表現の一致を強調表示**。強調表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。正規表現は、PCRE互換である.NET正規表現ライブラリの構文に準拠している必要があります。詳細については、「スクリプトタスクの設定」を参照してください。

配信タスクの実行。このオプションを有効にするには、同じ構成セットにバインドされているエージェントを選択します。配信タスクを迅速に実行するには、このページから配信タスクを実行することを選択できます。**配信タスクの実行**をクリックし、ドロップダウンリストから配信タ

スクを選択して、選択した配信タスクをエージェントで実行します。タスクで、どのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定するルールを構成した場合、オンデマンドタスクを実行するために特定のエージェントを選択すると、それらのルールは無視されます。

アクションのリセット。該当するエージェントマシン上のすべてのアクション関連レジストリエントリをパージすることにより、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

レコードの削除。WEMサービスデータベースからレコードを削除します。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションは利用できません。1つのエージェントのみを選択し、その対応するレコードの有効期限が切れている場合に利用できます。

概要ビュー

エージェント統計ページの概要ビューには、接続状態、プロファイル管理の正常性ステータス、エージェントバージョン、および最後の構成セットに基づいてエージェントの統計結果を提供する4つのグラフが表示されます。**概要**ビューには4つのグラフが表示されます。**更新**をクリックすると、4つのグラフすべてが最新の結果で再読み込みされます。

登録

このタブには、データベースに記録されているエージェントの登録ステータスが表示されます。

> **重要:**

> WEMエージェントは、設定を適用できるようにWEMサービスに登録する必要があります。エージェントは1つの構成セットにのみバインドできます。

> 次の情報を表示できます。

- **デバイス名**。エージェントが実行されているマシンの名前。
- **登録ステータス**。エージェントの登録ステータス: **登録済み**または**未登録**。
- **説明**。登録の成功または失敗に関する詳細情報を提供します。
    - **エージェント `<agent name>` が構成セット `<configuration set name>` にバインドされています**。WEMサービスが、構成セットに必要なマシン依存の設定をエージェントに送信していることを示します。
    - **エージェント `<agent name>` がどの構成セットにもバインドされていません**。WEMサービスがエージェントの構成セットを解決できないことを示します。**バインドされていないエージェントに設定を適用**が有効になっている場合、「バインドされていないエージェント」構成セットの設定がエージェントに適用されます。バインドされていないエージェン

トへの設定の適用に関する詳細については、「ディレクトリオブジェクト」を参照してください。

- **エージェント `<agent name>` が構成セット `<configuration set name>` に複数回バインドされています。**WEMサービスがエージェントに設定を適用することを妨げません。
- **エージェント `<agent name>` がCitrix Endpoint Management™による管理のためにWEMサービスに登録されています。**Endpoint Managementで管理されているエージェントにのみ表示されます。
- **エージェント `<agent name>` が複数の構成セットにバインドされています。**これは、エージェントが複数の構成セットにバインドされているため、WEMサービスがエージェントの構成セットを解決できないことを示します。

必要に応じて、**検索**を使用して結果を絞り込みます。検索はデバイス名と説明に対してのみ実行されます。デフォルトでは、検索は未登録のエージェントにのみ制限されます。制限を解除するには、**未登録のエージェントのみを表示**を有効にします。

登録エラーを解決するには、次のいずれかを実行します。

- エージェントが同じ構成セットに複数回バインドされないように、Active Directory階層（コンピューター、コンピューターグループ、OU間の関係）を編集します。
- エージェントが1つの構成セットにのみバインドされるように、Directory ObjectsでWEM階層を編集します。
- 未バインドのエージェントに設定を適用します（まだ行っていない場合）。これにより、「未バインドのエージェント」構成セットの設定が、未バインドのエージェント（**Directory Objects**にまだ追加していないエージェント）に適用されます。

これらの変更を行った後、**UIモードエージェントの更新**オプションを使用してエージェントを更新します。

Profile Managementのヘルスチェックを構成する

WEMは、Citrix Profile Managementがエージェントマシンで最適に構成されているかどうかを確認できます。詳細については、「Profile Managementのヘルスチェックを構成する」を参照してください。

インサイト

プロファイルコンテナとアプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。

最適化インサイト

このページには、2つの棒グラフが含まれています。

- **CPU最適化による上位20のアプリケーション**。指定された期間にCPUスパイク保護を最も頻繁にトリガーした上位10のアプリケーションを表示します。
- **メモリ最適化による上位20のアプリケーション**。指定された期間にメモリ使用量最適化を最も頻繁にトリガーした上位10のアプリケーションを表示します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。すると、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

> **重要:**
>
> - グラフに構成セットのデータを表示するには、その構成セットのインサイトを有効にする必要があります。構成セットのインサイトを有効にするには、その**詳細設定 > インサイト**ページに移動します。グラフは、以前に収集されたデータに基づいてインサイトを表示します。
> - 最適化インサイトデータは、CPUまたはメモリ管理を有効にするまで利用できません。

除外されたアプリケーション

最適化インサイト（棒グラフ）からアプリケーションを除外できます。除外するアプリケーションを指定するには、次の手順を完了します。

- 「**追加**」をクリックします。
- 棒グラフに記載されているアプリケーション名を入力します。
- **Enter**を押して保存するか、**Shift + Enter**を押して保存し、別のエントリを開始します。
- ウィザードの指示に従って、追加したアプリケーションを編集および削除することもできます。

使用状況インサイト

このページには、4つの棒グラフが含まれています。

- **使用時間（時間）別アプリケーション上位20**
- **ユーザー数別アプリケーション上位20**

- **CPU使用率（%）別アプリケーション上位20**。指定した期間に最も多くのCPUリソースを消費したアプリケーション上位10を表示します。
- **メモリ使用量（MB）別アプリケーション上位20**。指定した期間に最も多くのメモリリソースを消費したアプリケーション上位10を表示します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。すると、チャートが更新され、関連するインサイトが表示されます。

> **重要:**
>
> チャートに構成セットのデータを表示するには、その構成セットのインサイトを有効にする必要があります。構成セットのインサイトを有効にするには、その**詳細設定 > インサイト**ページに移動します。チャートには、以前に収集されたデータに基づいたインサイトが表示されます。

除外されたアプリケーション

使用状況インサイト（棒グラフ）からアプリケーションを除外できます。除外するアプリケーションを指定するには、次の手順を実行します。

- 「**追加**」をクリックします。
- 棒グラフに記載されているアプリケーション名を入力します。アプリケーション名を入力する際、拡張子は含めません。
- 保存するには**Enter**を押し、保存して別のエントリを開始するには**Shift + Enter**を押します。
- ウィザードの指示に従って、追加したアプリケーションを編集および削除することもできます。

プロファイルコンテナのインサイト

この機能は、Profile ManagementおよびFSLogixのプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などに関するインサイトを提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を常に把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

概要

このページには2つのドーナツチャートが含まれています。チャートの各セグメントをクリックすると、詳細情報をドリルダウンできます。

- **スペース使用量**。左側のグラフは、指定された期間におけるプロファイルコンテナのスペース使用量を示します。数値は、そのカテゴリのプロファイルコンテナの数を示します。
- **セッションステータス**。右側のグラフは、指定された期間に確立されたセッションに対するプロファイルコンテナのアタッチ結果を示します。数値は、そのカテゴリのセッション数を示します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。その後、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

次の設定を構成できます。

- **使用済みスペースが (GB) を超える場合、スペース使用量は高くなります**。プロファイルコンテナのスペース使用量を「高」と見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。
- **使用済みスペースが (GB) 未満の場合、スペース使用量は低くなります**。プロファイルコンテナのスペース使用量を「低」と見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

> **注:**
>
> - 高しきい値は、低しきい値よりも大きい必要があります。
> - 高しきい値と低しきい値を指定した後、**更新**をクリックして、**使用済みスペース**グラフの更新をトリガーします。
> - 高しきい値と低しきい値を指定した後、その間のスペース使用量はデフォルトで**中**になります。

プロファイルコンテナのステータス

このページには、指定された期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストが表示されます。レコードをフィルタリングするには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。必要に応じて、フィルターを使用して結果をさらに絞り込むことができます。

次のアクションを実行できます。

- **表示する列**。テーブルの表示をカスタマイズできます。列をカスタマイズするときは、少なくとも2つの列を選択する必要があります。カスタマイズが完了すると、テーブルが更新され、選択した列が表示されます。
- **更新**。ステータスレコードのリストを更新します。

- **最新のステータスを取得**。選択したレコードが関連するコンテナのデータ収集をトリガーします。このオプションを使用すると、ユーザーのコンテナステータスを最新の状態に保つことができます。

> **注:**
>
> コンテナが使用中の場合、エージェントは関連データの収集を試みます。成功した場合、最新のステータスはコンテナの最新レコードに更新されます。更新が完了するまでに時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、**更新**をクリックしてください。

「**アタッチステータス**」列には、ステータスとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、Microsoft の ドキュメント `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>` を参照してください。

大規模ファイルスキャン列には、大規模ファイルスキャンの結果に関する情報が表示されます。構成セットで大規模ファイルスキャンを有効にするには、その**詳細設定 > インサイト**ページに移動します。レコードの大規模ファイルスキャン結果の詳細を表示するには、関連する列フィールドの**結果**をクリックします。プロファイルコンテナで実行された大規模ファイルスキャンの結果を示す大規模ファイルスキャンウィザードが表示されます。100 MB 未満のファイルとフォルダは個別にリストされません。

レポート

デプロイメントを分析できるレポートを提供します。

はじめに

このページでは、デプロイメントを分析できるレポートを提供します。レポートはイベントごとに生成されます。ただし、すべてのイベントが対応するレポートを生成するわけではありません。現在、次の種類のイベントがレポートを生成します。

- **アプリケーションセキュリティログ**
  - **アプリケーションセキュリティログ**を有効にするたびに、対応するレコードが生成されます。これらのレコードは4時間ごとに1つのレポートに統合されます。各レポートの詳細内で、管理者はサブタイプ別にログを表示できます。このテーブルには、使用されたフィルター、**イベント時刻**、**イベントの種類**、**結果コード**、**結果の概要**、**重大度**、エージェント

とユーザーのリスト、および**構成セット**などの情報が含まれています。このテーブルには、次のサブタイプも含まれています。

- **エグゼとディーエルエル**
- **MSIとスクリプト**
- **パッケージ化されたアプリの展開**
- **パッケージ化されたアプリの実行**

アプリケーションセキュリティログを有効にすると、**EXEとDLL**、**MSIとスクリプト**、**パッケージ化されたアプリの展開**、**パッケージ化されたアプリの実行**の4つのサブタイプすべてのレポートをWebコンソールで表示できますが、各サブタイプに対応するレポートを個別に表示することはできません。このテーブルには、**時刻**、**ルール名**、**イベントID**、**ターゲット**、**結果**のフィールドのログが表示されます。この選択の結果は、**許可**、**監査済み**、または**ブロック済み**のいずれかになります。

- **特権昇格とプロセス階層制御ログ**
  - **特権昇格**と**プロセス階層制御**ログを有効にするたびに、対応するレコードが生成されます。これらのレコードは4時間ごとに1つのレポートに統合されます。各レポートの詳細内で、管理者はサブタイプ別にログを表示できます。このテーブルには、使用されたフィルター、**イベント時刻**、**イベントの種類**、**結果コード**、**結果の概要**、**重大度**、エージェントとユーザーのリスト、および**構成セット**などの情報が含まれています。詳細を表示するために、4つのセキュリティ側面から選択できます。
  - **EXE特権昇格**。**EXE特権昇格**サブタイプが選択されている場合、テーブルには**時刻**、**プロセス**、**コマンドライン**、**ルール名**、**結果**のフィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のいずれかになります。
  - **MSI特権昇格**。**MSI特権昇格**サブタイプが選択されている場合、テーブルには**時刻**、**パッケージ**、**コマンドライン**、**ルール名**、**結果**のフィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のいずれかになります。
  - **自己昇格**。**自己昇格**サブタイプが選択されている場合、テーブルには**時刻**、**プロセス**、**ルール名**、**理由**、**結果**のフィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のいずれかになります。

> **注:**
>
> **失敗のみ表示**トグルを有効にすると、結果が**失敗**のレコードのみが表示され、それ以外は非表示になります。

- **プロセス階層制御**。**プロセス階層制御**サブタイプを選択すると、テーブルには**時間**、**子プロセス**、**親プロセスID**、**ルール名**、**結果**の各フィールドのログが表示されます。この選択の結果、ブロックされたアクティビティまたは許可されたアクティビティのいずれかが表示されます。

> **注:**
>
> - 各サブタイプで少なくとも1つの障害が発生した場合、セキュリティ側面タブにエラーアイコンが表示されます。
> - **ブロック済みのみ表示**トグルを有効にすると、結果が**ブロック済み**のレコードのみが表示され、それ以外は非表示になります。

- **アクション処理結果**
  - アクションが割り当てられるたびに、対応するレコードが生成されます。これらのレコードは4時間ごとに1つのレポートに統合されます。このレポートには、エージェントマシンにログオンしているユーザーのすべてのアクション処理結果が含まれます。アクションの種類を選択すると、表形式で詳細を表示できます。このテーブルには、アクションの名前、アクションが割り当てられているユーザー、使用されたフィルター、処理結果（ステータス）などの情報が含まれます。ステータスは次の3つです。
    - **適用済み（処理済み）**。アクションがターゲットユーザーに正常に適用された（または正常に処理された）ことを意味します。
    - **期限切れ**。処理されたアクションが最新ではないことを意味します。これは、アクションが更新されたものの、まだ適用されていない場合に発生します。
    - **エラー**。アクションの適用中にエラーが発生しました。トラブルシューティングを行うには、デバッグモードを有効にしてエージェントのログを表示します。「ログファイルの表示」を参照してください。
  - 現在、グループポリシー設定とJSONファイルの処理結果のみを表示できます。結果の収集を有効にするには、「監視設定」を参照してください。
- **アクション処理イベント**

  この種類のレポートは、エージェント処理中に各アクションに対してオンデマンドで生成されます。たとえば、コンソール出力ログを生成するスクリプトベースの外部タスクから出力デー

タを収集するようにエージェントを構成できます。これらのレポートは詳細な処理結果を提供し、WEM Webコンソールでアクションの結果を直接表示できます。

- **スクリプト化されたタスク**
  - タスクが実行されるたびに、対応するレポートが生成されます。レポートには、タスクの実行時期、タスクの実行結果などの情報が含まれます。
  - 組み込みタスクとカスタムタスクの両方でレポートが生成されます。これらのレポートでは、事前定義されたレポートデータが提供されます。カスタムタスクを追加する際に、レポートするデータをカスタマイズできます。事前定義されたレポートデータがニーズに合わない場合は、詳細な分析のために拡張データを使用することを検討してください。
- **プロファイルコンテナのステータス**
  - プロファイルコンテナがアタッチされるたびに、対応するアタッチレコードが生成されます。これらのレコードは毎日1つのレポートに統合されます。このレポートには、プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用するセッションのステータス、検出された問題などの情報が含まれます。この情報を使用して、プロファイルコンテナのストレージ使用量を追跡し、プロファイルコンテナが機能しない原因となっている問題を特定できます。
- **最適化と使用状況**
  - 構成セットの**Advanced Settings > Insights**ページで**Enable data collection and upload for optimization and usage insights**が有効になっている場合、エージェントは最適化と使用状況のデータを毎日収集してアップロードします。収集されたデータに基づいてレポートが生成されます。
- **最適化と使用状況のインサイト**
  - 構成セットにインサイトを適用するたびに、最適化と使用状況に関する対応するレポートが生成されます。これらのレポートにより、アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。使用状況と最適化のインサイトは1つのレポートに集約されます。

> **注:**
>
> **Monitoring > Insights**ページの**Optimization Insights**または**Usage Insights**ページで、構成セットと日付範囲を選択してインサイトを適用します。同じ構成セットと日付範囲を使用して適用されたインサイトについては、1つのレポートのみを保持します。同じ構

> 成セットと日付範囲を使用してインサイトを適用すると、後でレポートが更新されます。

- **Profile Managementのヘルスチェック**
  - エージェントは24時間ごと、またはオンデマンドでProfile Managementのヘルスチェックを実行します。その後、対応するレポートが生成されます。レポートには次の要素が含まれます。
    - レポートが生成された日時
    - 関連するエージェントや構成セットなどの詳細情報
    - 検出された問題（エラーや警告など）と修正の推奨事項
  - エラー/警告を修正し、必要なプロファイル管理設定に到達するには、**Agents**ページの**Statistics**タブで**More** > **Profile** > **View Profile Management health check report**をクリックします。これにより、**Reports**ページに移動します。次に、**Results**の下にある**Profile Management Settings**を選択して、**Profile Management health check**ページの**Details**タブでプロファイル管理設定を変更/更新できます。これにより、プロファイル管理構成ページに移動します。フッターにある、対応する設定が強調表示されているすべてのエラー/警告を順に確認し、構成に必要な変更を加えることができます。
  - プロファイル管理設定を変更するには、Profile Management Settingsに移動します。レポートに含める設定の範囲をカスタマイズするには、その構成セットのAdvanced Settings > Monitoring Preferencesに移動します。
  - **Application delivery task results**イベントタイプを選択してフィルターを設定すると、エージェントは対応するレポートのみを表示します。ただし、**Application delivery task results**ページでは**Raw data**のみが提供されます。

各レポートはテーブルレコードとして表示されます。これらのレポートは、アクションを決定するのに役立つ診断情報を提供します。たとえば、イベントの重大度に基づいてレポートを確認できます。重大度レベルに基づいて、どのようなアクションを取るかを決定できます。

> **ヒント:**

> 特定のレポート、例えば組み込みのスクリプトタスクレポートには、事前に定義された重要度レベルがあります。

> スクリプトタスクの場合、**結果コード**列には次の情報が表示されます。

- **0**: タスクが正常に実行されたことを示します。
- **-4**: 提供された実行可能ファイルのチェックサムの検証が失敗した場合に表示されます。
- **-5**: 実行可能ファイルの署名検証が失敗した場合に表示されます。考えられる原因：実行可能ファイルの末尾に有効な署名がない、または証明書がないために署名検証が失敗した。
- **-8**: タイムアウトによりタスクがキャンセルされた場合に表示されます。

プロファイルコンテナのステータスの結果コード（ステータスコード）については、Microsoftのドキュメント`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>`を参照してください。注意：「-1」は、WEMがステータスコードを取得できない可能性があることを意味します。

- **VHDディスクの圧縮**: Citrix Profile Management VHDディスクの圧縮が完了するたびに、対応するレポートが生成されます。レポートには、コンテナ、トリガー条件、圧縮前のサイズ、圧縮後のサイズなどの情報が含まれます。取得した情報により、コンテナストレージ使用量の変化を効果的に追跡できます。VHDディスク圧縮のレポート収集を有効にするには、監視設定を参照してください。

表示する列とフィルター

テーブルの表示をカスタマイズできます。表示する列を選択するには、**表示する列**をクリックします。列をカスタマイズする際は、少なくとも2つの列を選択する必要があります。カスタマイズが完了すると、テーブルは選択した列を表示するように更新されます。

列ヘッダーをクリックして並べ替えることができます。フィルターを適用してレポートを絞り込むことができます。使用したフィルターをフィルターセットとして保存し、これらのフィルターセットを直接管理することもできます。

フィルターセットの適用をクリックしてフィルターセットを適用し、**管理フィルターセット**ページで**削除**を選択してフィルターセットを削除できます。

レポートの詳細を表示

詳細情報を表示するためにレポートを選択できます。そのためには、レポートを見つけて右側の省略記号をクリックします。レポートウィザードが表示されます。これには2つのタブが含まれています。

- **詳細**。詳細な結果の概要を提供します。
- **生データ**。レポートに関連する生データを提供します。拡張データはJSON形式です。必要に応じて、詳細な分析のために拡張データを使用してください。

正規表現の一致を強調表示が有効になっているスクリプトタスクの場合、そのレポートの**詳細**タブに次のオプションが表示されます。

- **正規表現の一致を表示**。正規表現の一致を詳細に表示できます。

レポートのエクスポート

各レポートのデータをCSVまたはJSON形式でエクスポートできます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. **エクスポート**をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
2. 次のオプションからエクスポート形式を選択します。
    - **CSV**。このオプションは、生データをCSV形式でエクスポートします。
    - **CSV (書式設定済み)**。この選択肢は、CSV形式の拡張データの可読性を向上させます。
    - **JSON**。このオプションは、生データをJSON形式でエクスポートします。
    - **JSON (書式設定済み)**。この選択肢は、JSON形式の拡張データの可読性を向上させます。

さらに、レポートの内容が`variable = value`または`variable: value`の形式に従っている場合、書式設定されたオプションはスクリプトタスクレポートを変数に解析できます。ただし、**CSV (書式設定済み)**オプションを選択した場合、エクスポートされたデータでは過剰な数の列の一部が省略される可能性があります。

1. オプションで、**エクスポートのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。エクスポートはブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
2. **エクスポート**をクリックして、エクスポートプロセスを開始します。

> **重要:**
>
> - 最大50,000件のレコード（レポート）をエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えた場合、上位50,000件のみがエクスポートされます。レコード数を50,000件以下に減らすために、フィルターを使用することをお勧めします。
> - エクスポートの進行中は、別のエクスポートを実行できません。
> - 30分以内にエクスポートが完了しない場合、それに関する通知は届かなくなります。後でエクスポート結果を表示するには、**ファイル**に移動します。
> - レポートをエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。制限に達すると、エクスポートを

> 続行できません。その場合は、**ファイル**に移動し、不要なファイルを削除してスペースを解放してください。ファイルを参照してください。

サードパーティプラットフォームへのエクスポート

レポートデータをサードパーティプラットフォームにエクスポートすることで、タスクの実行をシームレスに分析および監視できます。また、VDAホスト情報、CPU使用率、メモリ使用率など、サードパーティプラットフォームでカスタマイズされた特別な要件を完了することもできます。

レポートは、手動または自動でサードパーティプラットフォームにエクスポートできます。

サードパーティプラットフォームへの手動エクスポート

各レポートのデータをサードパーティプラットフォームに手動でエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. **エクスポート > サードパーティプラットフォームにエクスポート**をクリックします。
2. **サードパーティプラットフォームにエクスポート**ペインで、**宛先**ドロップダウンからサードパーティプラットフォーム名のいずれかを選択するか、**新規追加**を選択します。

   > **注:**
   >
   > 現在、GrafanaとSplunkがサポートされているサードパーティプラットフォームです。

   > **宛先の追加**ペインで**新規追加**を選択した場合は、必要なサードパーティプラットフォームの詳細を入力します。

3. **エクスポート**をクリックします。 エクスポートプロセスが完了したら、宛先（この場合はGrafana）に移動して、エクスポートされたレポートデータを確認できます。

自動 - 自動レポートの構成

各レポートのデータをサードパーティプラットフォームに自動的にエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. **エクスポート > 自動レポートの構成**をクリックします。
2. 「**自動エクスポートの構成**」ペインで、「**ルールを追加**」をクリックします。
3. 「**ルールを追加**」ペインで、必要なサードパーティプラットフォームの詳細を入力します。

4. 「**完了**」をクリックして、新しく追加したルールの構成変更を保存します。

スクリプト化されたタスクのスクリプト

はじめに

このページでは、WEMエージェントで自動化または実行できるスクリプトを管理できます。スクリプトは次のカテゴリに分類されます。

- 組み込みスクリプト

  一般的なVDA管理およびトラブルシューティングのニーズに対応する、すぐに使用できるスクリプト。

- カスタムスクリプト

  環境固有の自動化および運用要件のために管理者が作成したスクリプト。

> **注:**
>
> スクリプトから自動タスクを構成するには、構成セットのスクリプト化されたタスクに移動します。

カスタムスクリプトの追加

スクリプト化されたタスクページには、すべての組み込みスクリプトと、ユーザーまたは他の管理者が作成したカスタムスクリプトが一覧表示されます。必要に応じて、要件を満たすためにカスタムスクリプトを追加できます。

始める前に

WEM Webコンソールでカスタムスクリプトを作成する前に：

- スクリプトコンテンツの作成

  要件に基づいてPowerShellスクリプトを作成します。

- スクリプトコンテンツの検証とエクスポート

  Citrix Environment Tool Hub > Scripted Task Validatorツールを使用してスクリプトを実行し、実行結果を確認します。必要に応じて、後でWEM Webコンソールにインポートするためにスクリプトをエクスポートできます。

詳細については、「スクリプト化されたタスクの検証とエクスポート」を参照してください。

ワークフロー

カスタムスクリプトを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプトタスク**」ページで、「**スクリプトの追加**」をクリックします。
2. 「**スクリプトの追加**」ウィザードで、次の設定を構成し、「**保存**」をクリックします。

   - **スクリプト名**。スクリプトの名前を指定します。
   - **タグ**。既存のタグから選択するか、コンマで区切ってタグを入力します。タグは20文字以内である必要があります。タグはキーワードまたはラベルのようなものです。タグを使用すると、新しい方法でスクリプトを識別できます。また、フィルターとして機能し、重要な基準に応じてスクリプトの表示を再配置できます。好きなだけタグを使用できます。
   - **説明**。オプションで、スクリプトを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
   - **ファイルの種類**。スクリプトのファイルの種類を選択します。次の2種類のファイルがサポートされています。

     - **PowerShell**。個別のPowerShellスクリプトファイル。
     - **ZIP**。複数のファイルを1つのzipファイルにバンドルしたもの。10 MBを超えるzipファイルはサポートされていません。zipファイルをアップロードした後、スクリプトの開始時に実行するファイルを示すエントリポイントを指定します。エントリポイントファイルは、フォルダー構造内で3レベルより深くならないようにしてください。

   - **ファイルのアップロード**。「**参照**」をクリックし、ファイルに移動して選択し、「**開く**」をクリックします。「**スクリプトの追加**」ウィザードに戻ります。

     > **ヒント:**
     >
     > スクリプトをアップロードする方法は2つあります。
     >
     > - Webコンソールマシンにすでに配置した.zipファイルを選択します。
     > - Scripted Task Validatorツールでスクリプトをエクスポートすると、コンテンツは自動的にクリップボードにコピーされます。「**スクリプトの追加**」ページで、クリップボードから直接コンテンツを貼り付けます (<Ctrl+V>)。この方法により、Webコンソールマシンに.zipファイルを保存する必要がなくなります。

- **権限の付与**。スクリプトに付与するアクセスレベルを指定します。各オプションに関連付けられている権限を理解していることを確認してください。
  - **フルアクセス**。フルアクセスが割り当てられたスクリプトは、広範なローカルアクセスを持ちます。選択した場合、スクリプトはローカルシステムアカウントで実行されるかのように権限が付与されます。
  - **制限付きアクセス（ネットワークアクセスあり）**。制限付きアクセス（ネットワークアクセスあり）が割り当てられたスクリプトは、広範なローカルアクセス権を持ちませんが、ネットワークリソースにアクセスできます。選択した場合、スクリプトはネットワークサービスアカウントで実行されているかのように権限が付与されます。
  - **制限付きアクセス（ネットワークアクセスなし）**。制限付きアクセス（ネットワークアクセスなし）が割り当てられたスクリプトは、広範なローカルアクセス権を持たず、ネットワークリソースにアクセスできません。選択した場合、スクリプトはローカルサービスアカウントで実行されているかのように権限が付与されます。
  - **ログオンユーザーとして実行**。選択した場合、スクリプトはログオンしているユーザーのセッションのコンテキストで実行され、ユーザーセッションがアクティブであるか切断されているかに関わらず、同じ権限が付与されます。

  詳細については、Microsoftのドキュメント `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/security/identity-protection/access-control/security-identifiers#well-known-sids>` を参照してください。
- **作業フォルダー**。オプションで、エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルフォルダーの絶対パスを入力します。作業フォルダーは、ファイルが起動するときの現在のフォルダーです。環境変数（例: %ProgramFiles%）を使用してパスを構築できます。指定しない場合、`$PSScriptRoot` がデフォルトの作業フォルダーとして使用されます。`$PSScriptRoot` の詳細については、Microsoftのドキュメント `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/powershell/module/microsoft.powershell.core/about/about_automatic_variables?view=powershell-7.1>` を参照してください。
- **このタスクは出力ファイルを生成しますか**。追加するスクリプトが出力ファイルを生成するかどうかを選択します。
- **出力パス**。ファイルが存在するフォルダーに対する相対パスを入力します。パスにはファイル名とファイル名拡張子を含める必要があります。例: `output\report.txt`。

スクリプトの管理

必要に応じてスクリプトを管理できます。利用可能なアクションは次のとおりです。

- スクリプトの編集

- スクリプトの削除
- スクリプトの複製
- スクリプトからタスクを構成

スクリプトの編集

スクリプトを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプト化されたタスク**」ページで、スクリプトを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してすばやく見つけます。
2. スクリプトの省略記号をクリックし、「**スクリプトの編集**」を選択します。「**スクリプトの編集**」ウィザードが表示されます。
3. 「**タスク情報**」タブで、必要に応じて設定を構成します。
4. 「**スクリプトファイル**」タブで、スクリプトの内容を表示します。
5. 「**保存**」をクリックします。

> **注:**
>
> 組み込みスクリプトは編集できません。

スクリプトを削除する

スクリプトを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプト化されたタスク**」ページで、スクリプトを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してすばやく見つけます。
2. スクリプトの省略記号をクリックし、「**スクリプトの削除**」を選択します。

> **重要:**
>
> 組み込みスクリプトは削除できません。

スクリプトを複製する

スクリプトを複製するには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプト化されたタスク**」ページで、スクリプトを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してすばやく見つけます。
2. スクリプトの省略記号をクリックし、「**スクリプトの複製**」を選択します。

> **注:**
>
> スクリプトを複製する際、重複する名前を避けるために名前の変更を求められます。

スクリプトからタスクを構成する

スクリプトからタスクを構成および自動化するには、次の手順を実行します。

1. **スクリプト化されたタスク**ページで、スクリプトを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してすばやく見つけます。
2. スクリプトの省略記号をクリックし、**タスクの構成**を選択します。
3. **構成セットの選択**ウィザードで、タスクを作成する構成セットを選択します。
4. 構成を完了するには、スクリプト化されたタスクの作成の手順に従います。

組み込みスクリプト

現在、以下の組み込みスクリプトをご利用いただけます。

- クラウドヘルスチェック
- Windowsサービス管理
- サーバー再起動
- CDFトレース管理
- AOTログ収集
- DNS設定の確認
- RDSライセンスの確認
- VDA登録解除の診断
- プロファイル管理ヘルスチェックの実行
- プロファイルリセットトリガーの設定

クラウドヘルスチェック

Virtual Delivery Agent (VDA) の健全性を測定するチェックを実行できます。VDA ヘルスチェックは、一般的な VDA 登録およびセッション起動の問題の考えられる原因を特定します。クラウドヘルスチェックは、エージェントホスト上のローカルシステムアカウントで実行されます。

Windowsサービス管理

Windowsサービス管理は、1つ以上のWindowsサービスの開始、停止、再起動、構成など、Windowsサービスに関する頻繁に使用される機能を提供します。

Windowsサービスの再起動

このスクリプトは、Windowsサービスのステータスを確認します。サービスが現在実行されておらず、`ForceStart` パラメーターが指定されている場合、スクリプトはサービスを開始します。現在の状態にかかわらず、サービスが実行中で強制的な開始を必要としない場合、最新の構成で動作していることを確認するため、または停止状態から回復するために再起動されます。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`ServiceNames`	文字列	BrokerAgent	偽	管理するサービスの名前を指定します。指定しない場合、`BrokerAgent` がデフォルトになります。複数のサービスを入力する必要がある場合は、サービス名をコンマで区切ります。すべてのスペースはトリミングされます。例: ServiceA,ServiceB。
`ForceStart`	ブール値	真	偽	サービスが実行されていないことが検出された場合に、サービ

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				スを開始するかどうかを示します。実行中のサービスには影響しません。実行中のサービスは、メンテナンスまたは回復の目的で常に再起動されます。

Windowsサービスを停止

このスクリプトは、指定されたWindowsサービスのリストを停止します。スクリプトは、各サービスがインストールされているかを確認し、サービスを強制的に停止しようとします。その後、スクリプトはサービスが正常に停止したかどうかを確認し、ステータスを報告します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`ServiceNames`	文字列	BrokerAgent	偽	管理するサービスの名前を指定します。指定しない場合、`BrokerAgent`がデフォルトになります。複数のサービスを入力する必要がある場合は、サービス名をコンマで区切ります。すべてのスペースはトリミングされます。例: ServiceA, ServiceB。

Windowsサービスを構成

このスクリプトは、スタートアップの種類や回復アクションを含むWindowsサービスの設定を調整します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`ServiceNames`	文字列	ヌル	真	管理するサービスの名前を指定します。指定しない場合、`BrokerAgent` がデフォルトになります。複数のサービスを入力する必要がある場合は、サービス名をコンマで区切ります。すべてのスペースはトリミングされます。例: ServiceA,SerivceB。
`StartupType`	文字列	ヌル	偽	サービスのスタートアップの種類を設定します。有効なオプションは、Automatic、Manual、または Disabled です。
`FirstFailureAction`	文字列	ヌル	偽	最初の障害に対するアクションを定義します。例: restart/none。

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`SecondFailureAction`	文字列	ヌル	偽	2回連続の障害に対するアクションを定義します。
`SubsequentFailureAction`	文字列	ヌル	偽	2回目以降のすべての失敗に対するアクションを定義します。

サーバーの再起動

マシンの再起動

このスクリプトは、オプションの遅延と強制オプションを使用してローカルマシンを再起動します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`Force`	ブール値	真	偽	指定した場合、未保存のデータやアクティブなユーザーセッションを無視して、即座に再起動を強制します。
`Delay`	整数	10	偽	コンピューターが再起動されるまでの遅延時間（秒単位）を指定します。3秒から30秒の間である必要があります。デフォルトは10秒です。

CDFトレース管理

CDFトレースの開始

このスクリプトは、単一のCTLファイルまたは事前定義されたCTLファイルカテゴリを入力として使用して、CDFトレースプロセスを開始します。選択したCTLファイルで定義されたモジュールをトレースし、`RunMinutes` パラメータで指定された期間が経過すると、`cdfcontrol.exe` 自動的に停止します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`traceOutputPath`	文字列	`C:\ProgramData\Citrix\WEM\CDFLogs`	偽	CDFレポートの出力パスを指定します。
`category`	文字列	`all`	偽	トレースを開始するための事前定義されたカテゴリを指定します。サポートされている値は次のとおりです: • `all` • `always on tracing` • `desktop Server os vda`

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				• `delivery controller` • `federated authentication service` • `provisioning service` • `universal print server` • `citrix director` • `citrix studio` • `session recording administration`

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				• `session recording player` • `citrix workspace app for windows`
`ctlFilePath`	文字列	ヌル	偽	トレースを開始する`ctl`ファイルを指定します。
`RunMinutes`	整数	30	偽	`cdfcontrol.exe`が自動的に停止して終了するまでの実行時間を指定します。

CDFトレースの停止

このスクリプトはCDFツールのトレースを停止します。

CDFログのクリーンアップ

ストレージ消費を節約するために、CDFトレースログをクリーンアップすることは有用です。指定されたディレクトリ下のCDFファイルを削除する機能を提供する必要があります。

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`FileAgeDays`	整数	3	偽	日数での経過時間しきい値を指定します。この値より古いファイルとフォルダーは削除されます。デフォルト値は3日であり、このパラメーターはオプションです。`FileAgeDays`が1日未満の場合、すべてのファイルまたはディレクトリが削除されます。

AOTログ収集

このスクリプトは、Citrix AOTログの収集と処理のために設計された包括的な自動化ツールです。**Citrix CDFControl**と統合されており、トレース収集の設定、フィルタリングの適用（デフォルト: `Level=1, Class=Failure`）、およびETL（イベントトレースログ）ファイルを分析用の読み取り可能なCSV形式に変換する機能を提供します。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`StartTime`	`[DateTime]`	`EndTime - 30 minutes`	いいえ	ログフィルタリングの開始時刻を指定します
`EndTime`	`[DateTime]`	現在の日時	いいえ	ログフィルタリングの終了時刻を指定します

DNS設定の確認

このスクリプトは、Citrix VDA環境向けに設計された包括的なDNSヘルスチェックツールです。DNS構成を検証し、トラブルシューティングを実行して、Citrixサービスに影響を与える可能性のあるDNS関連の問題を特定します。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`DomainName`	`[string]`	該当なし	いいえ	DNS解決をテストするドメイン名を指定します（DNS名前解決テストを有効にします）
`FlushDNS`	`[switch]`	いいえ	いいえ	DNSキャッシュをスタンドアロンアクションとしてフラッシュするかどうかを指定します

RDSライセンスの確認

このスクリプトは、ローカルコンピューター上のRemote Desktop Services (RDS) ライセンス構成とステータスを確認するために設計された、包括的なRDSライセンス検証ツールです。特に、RDSライセンスのコンプライアンスが適切な運用に不可欠なCitrix VDA環境で役立ちます。このスクリプトを使用して、ライセンスのコンプライアンスを確保し、中断のないマルチセッションユーザーアクセスを維持してください。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`DomainName`	`[string]`	該当なし	偽	DNS解決をテストするドメイン名を指定します（DNS名前解決テストを有効にします）
`FlushDNS`	`[switch]`	偽	偽	DNSキャッシュをスタンドアロンアクションとしてフラッシュするかどうかを指定します

VDA登録解除の診断

このスクリプトは、Citrix Virtual Delivery Agent (VDA) の登録解除の問題をトラブルシューティングするために設計された、包括的な診断ツールです。Citrix環境におけるVDA登録解除問題の潜在的な原因を特定するために、複数のヘルスチェックと診断手順を実行します。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`StartTime`	`[DateTime]`	`EndTime - 30 minutes`	いいえ	ログフィルタリングの開始時刻を指定します
`EndTime`	`[DateTime]`	現在の日時	いいえ	ログフィルタリングの終了時刻を指定します

プロファイル管理のヘルスチェックを実行する

このスクリプトは、Citrix Profile Management展開の包括的なヘルスチェックを実行します。構成をスキャンして潜在的な問題を特定し、ログを分析して一時プロファイルエラーやログオン時の大幅な時間差などの重大な問題を検出します。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`CtxSessionKey`	[string]	ヌル	いいえ	特定のセッションログを検索するために使用される**Citrixセッション**キーを指定します。指定しない場合、スクリプトは過去24時間のセッションを分析します。
`LogonTime`	[string]	ヌル	フォールス	イベントログ検索をフィルタリングするログオン時間を指定します。さまざまな日付と時刻の形式を受け入れ

名前	種類	デフォルト	必須	注
				ます。指定しない場合、スクリプトは過去24時間分のイベントログをフィルタリングします。
`StructuredOutputOnly`	[switch]	はい	フォールス	コンソールログなしで構造化されたJSONデータを出力するかどうかを指定します。
`Parallel`	[switch]	はい	フォールス	パフォーマンスを向上させるために、ログ分析操作に並列処理を使用するかどうかを指定します。

プロファイルリセットトリガーを設定

このスクリプトは、ユーザーのプロファイルをリセットするトリガーを設定します。ユーザーが次回ログオンするときに、既存のプロファイルがバックアップされ、新しいクリーンなプロファイルフォルダーが作成されます。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`CtxSessionKey`	[string]	ヌル	はい	ユーザーの次回のログオン時にプロファイルのリセットをトリガーするために使用されるCitrixセッションキーを指定します。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`FoldersToRestore`	[string]	ヌル	偽	プロファイルのリセット後に復元するフォルダーを指定します。指定しない場合、**ダウンロード**、**デスクトップ**、**ピクチャ**などの既知のフォルダーがデフォルトで復元されます。
`BackupNameSuffix`	[string]	なし	偽	プロファイルのリセット中にバックアップフォルダー名に使用するサフィックスを指定します。指定しない場合、サフィックスはデフォルトで `upm_%CurrentTimeStamp%` になります。

詳細情報

スクリプト化されたタスクの使用例については、以下を参照してください。

- スクリプト化されたタスクを使用してログオン期間を分析する
- スクリプト化されたタスクを使用してWindowsアップデートを自動的に適用する

ファイル

このページでは、構成済みのデータフォルダーにあるすべてのファイルを管理できます。必要に応じて、ファイルを削除してスペースを解放してください。

次の種類のファイルがストレージスペースを占有します。

- 構成セットのバックアップ
- レポート
- スクリプト化されたタスク

現在、ストレージで利用可能なファイルをダウンロードおよび削除できます。

> **注:**
>
> - バックアップファイルと復元ファイルはここには表示されませんが、ストレージスペースを占有します。
> - スクリプト化されたタスクに関連付けられているファイルを削除することはできません。それらを削除するには、タスクを削除してください。

基本展開エージェントの管理

Workspace Environment Management™ (WEM) を使用して、基本展開エージェントを管理できます。この機能は、WEM を展開するための軽量な方法を提供します。この展開方法を使用すると、ブローカー、データベース、コンソールなどのバックエンドコンポーネントを展開することなく、WEM の基本機能を簡単に利用できます。

基本展開エージェント設定の構成

WEM エージェントが基本モードの場合、一部の最適化機能はデフォルトで有効になります。これらの設定は、事前定義されたエージェントキャッシュファイルに保存されます。

- VDA マシンでの CPU スパイク保護は自動的にオンになります。この設定は、CPU 使用率の高いプロセスの優先度を下げて、ユーザーエクスペリエンスへの影響を最小限に抑えます。
  - CPU スパイク保護
  - CPU スパイクを自動的に防止
  - インテリジェントな CPU 最適化を有効にする
- 基本展開エージェントの設定をカスタマイズします。詳細については、「グループポリシーの構成」を参照してください。基本モードで利用可能な設定は次のとおりです。

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
enableCpuSpikeProtection	ブール値	CPU スパイク保護を有効にする	真	真	CPU スパイク保護設定
enableCpuAutoProtection	ブール値	CPUスパイクを自動的に防止する	真	真	
cpuUsageLimitOfSpikeProtection	浮動小数点	CPU使用率の制限 (%)	70.0	70.0	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
enablePerCoreCpuUsageLimit	ブール値	単一CPUコアに対する制限を設定する	偽	偽	
perCoreCpuUsageLimitOfSpikeProtection	浮動小数点	単一CPUコアに対するCPU使用率の制限 (%)	80.0	80.0	
cpuUsageLimitSampleTimeOfSpikeProtection	整数	サンプル時間制限 (秒)	30	30	
idlePriorityTimeOfSpikeProtection	整数	アイドル優先時間 (秒)	180	180	
enableLimitCpuCoreUsage	ブール値	CPUコア使用制限を有効にする	偽	偽	
cpuCoreLimitOfSpikeProtection	整数	CPUコア使用率制限	1	1	
enableIntelligentCpuOptimization	ブール値	インテリジェントCPU最適化を有効にする	真	真	
enableIntelligentIoOptimization	ブール値	インテリジェントI/O最適化を有効にする	いいえ	いいえ	
excludeProcessesFrom	ブール値	CPUスパイク保護から	いいえ	いいえ	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
CpuSpikeProtection		プロセスを除外する			
processesExcludedFromCpuSpikeProtection	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	
disableProcessPriorityInheritance	ブール値	子プロセスがCPU優先度を継承するのを防ぐ	無効	無効	
parentProcessesToDisablePriorityInheritance	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	
enableMemoryWorkingSetOptimization	ブール値	アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する	真	真	メモリ最適化設定
idleSampleTimeOfMemoryWorkingSetOptimization	整数	アイドルサンプル時間(分)	30	30	
idleStateLimitOfMemoryWorkingSetOptimization	整数	アイドル状態の制限(%)	1	1	
enableMemoryOptimizationThreshold	ブール値	最適化を制限する	真	真	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
memoryOptimizationThreshold	整数	合計利用可能メモリが次未満の場合にのみ最適化する (MB)	200	200	
excludeProcessesFromMemoryWorkingSetOptimization	ブール値	メモリ使用量最適化からプロセスを除外する	偽	偽	
processesExcludedFromMemoryWorkingSetOptimization	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	
enableFastLogoff	ブール値	高速ログオフを有効にする	真	真	高速ログオフ設定
enableMultiSessionOptimization	ブール値	マルチセッション最適化を有効にする	真	真	マルチセッション最適化
excludeProcessesFromMultiSessionOptimization	ブール値	マルチセッション最適化からプロセスを除外する	いいえ	いいえ	
processesExcludedFromMultiSessionOptimization	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
agentServiceDebugModeEnabled	ブール値	エージェントサービスデバッグモードを有効にする	いいえ	いいえ	詳細設定 > エージェント設定 > エージェントサービスオプション
enableLogonDurationAnalysis	ブール値	ログオン期間分析を有効にする	真	真	ログオン期間分析
useAlternativeLocalReportLocation	ブール値	ローカルエージェントレポートを保存する代替の場所を使用する	いいえ	いいえ	
alternativeLocalReportLocation	文字列	ローカルエージェントレポートを保存する代替の場所	`%PROGRAMDATA%\Citrix\WEM\Local Agent Reports`	`D:\WEM Local Agent Reports`	
localReportMaxDays	整数	ローカルエージェントレポートの最大保持日数	7	7	
localReportMaxFilesPerEvent	整数	ローカルエージェントレポートの最大保持数	30	30	
saveLogonDurationAnalysisToLocal	ブール値	ログオン期間分析レポートを	真	真	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
		ローカルエージェントレポートとして保存する			
saveUpmHealthCheckToLocal	ブール値	UPMヘルスチェックレポートをローカルエージェントレポートとして保存する	真	真	
saveProfileContainerInsightsToLocal	ブール値	プロファイルコンテナインサイトレポートをローカルエージェントレポートとして保存する	真	真	
launchAgentOnLogon	ブール値	ユーザーがログオンしたときにエージェントを自動的に起動する	いいえ	真	
enableAgentInsightsManagement	ブール値	エージェントインサイト管理を有効にする	いいえ	真	エージェントインサイト設定
enableLargeFileScan	ブール値	プロファイルコンテナで大容量ファイルス	いいえ	真	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
		キャンを有効にする			

注:

カスタム設定が構成されていないか無効な場合、WEMエージェントはデフォルト設定を使用します。

基本展開エージェントの設定をカスタマイズするために、JSON形式の文字列を指定できます。例：

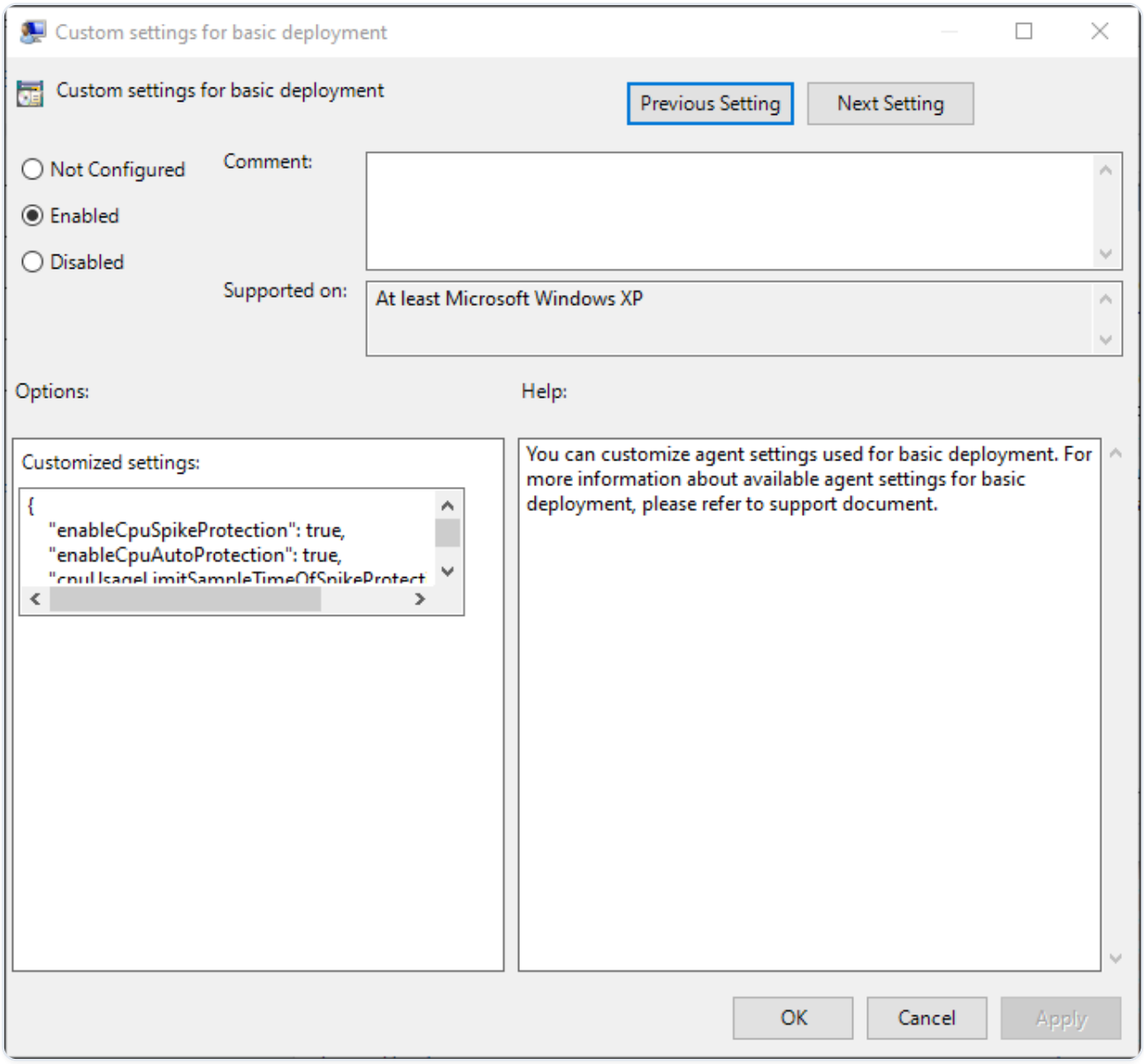
```
{

    "enableCpuSpikeProtection": true,

    "enableCpuAutoProtection": true,

    "enableIntelligentCpuOptimization": true,

}
```



エージェント展開タイプの切り替え

展開タイプを切り替えるには、次のいずれかの方法を選択します。

- エージェントグループポリシーを利用して、エージェントを別の展開タイプに切り替えます。詳細については、グループポリシーの構成を参照してください。
- WEMヘルスチェックツールを使用して、別の展開タイプに切り替えます。

WEMログオン期間機能の使用

WEMログオン期間機能を使用する利点は次のとおりです。

- WEMエージェントは、エージェントマシンにログオンすると、ログオン期間を分析し、レポートを自動的に生成します。

- エージェントが生成したレポートを確認するには、Citrix Environment Tool Hubを使用できます。

ユーザーエクスペリエンス

管理コンソールの起動

1. 「**スタート**」メニューから「**Citrix \> Workspace Environment Management \> WEM Administration Console**」を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。
2. 管理コンソールのリボンで「**接続**」をクリックします。
3. ウィンドウで、インフラストラクチャサーバーのアドレスを入力し、「**接続**」をクリックします。

インストールの構成

管理コンソールで:

1. 左下のペインでメニュー項目をクリックして、その上のペインにサブセクションを表示します。
2. サブセクション項目をクリックして、メインウィンドウ領域に適切なコンテンツを表示します。
3. 必要に応じて構成を変更します。使用できる設定の詳細については、ユーザーインターフェイスリファレンスを参照してください。

管理 (レガシーコンソール)

特定のタスクを実行するには、以下の記事を使用してください。

- リボン
- アクション
- フィルター
- 割り当て
- システム最適化
- ポリシーとプロファイル
- セキュリティ
- Active Directory オブジェクト
- Transformer 設定
- 詳細設定
- 管理
- 監視
- バックアップと復元

リボン

ホームタブ

「**ホーム**」タブには、次のコントロールが含まれています。

接続。管理コンソールを指定されたインフラストラクチャサーバーに接続します。「**新しいインフラストラクチャサーバー接続**」ダイアログで、以下を指定します。

- **インフラストラクチャサーバー名**。接続するインフラストラクチャサーバーの名前。
- **管理ポート**。インフラストラクチャサービスに接続するポート。デフォルト値の8284が事前に入力されています。

切断。管理コンソールを現在のインフラストラクチャサービスから切断します。これにより、管理者は1つのコンソールから複数のインフラストラクチャサービスを管理できます。あるサービスから切断し、別のサービスに接続することで管理します。

構成セット。あるWorkspace Environment Management™ (WEM) サイト（構成セット）から別のサイトに切り替えます。

作成。構成セットの作成ウィンドウを開きます。複数のWEMサイト（構成セット）を構成できます。

- **名前**。リボンの構成セットリストに表示されるサイト（構成セット）名。
- **説明**。サイト編集ウィンドウに表示されるサイト（構成セット）の説明。
- **サイトの状態**。サイト（構成セット）が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、WEMエージェントはサイト（構成セット）に接続できません。

編集。構成セットの編集ウィンドウを開きます。構成セットの作成ウィンドウと同様のオプションがあります。

削除。サイト（構成セット）を削除します。「Default site」はWEMの機能に必要であるため、削除できません。ただし、名前を変更することはできます。

更新。サイト（構成セット）リストを更新します。

> **注:**
>
> 異なる管理コンソールからサイトが作成された場合、リストは自動的に更新されません。

> **バックアップ**。**バックアップ**ウィザードを開き、現在の構成のバックアップコピーをWEM管理コンソールマシンに保存します。アクション、設定、セキュリティ設定、およびActive Directory (AD) オブジェクトをバックアップできます。

- **アクション**。選択したWEM アクションをバックアップします。各タイプのアクションは、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **設定**。選択したWEM設定をバックアップします。各タイプの設定は、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **セキュリティ設定**。セキュリティタブに存在するすべての設定をバックアップします。各タイプのルールは、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。

    - **AppLockerルール設定**
    - **特権昇格設定**

- **ADオブジェクト**。WEMが管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位をバックアップします。**バックアップ**ウィザードでは、バックアップするADオブジェクトのタイプを指定できます。ADオブジェクトには次の2種類があります。

    - ユーザー。単一ユーザーおよびユーザーグループ
    - マシン。単一マシン、マシングループ、およびOU

- **構成セット**。選択したWEM構成セットをバックアップします。各タイプの構成セットは、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。現在の構成セットのみをバックアップできます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。

    - アクション
    - AppLocker
    - 割り当て (アクションおよびアクショングループに関連)
    - フィルター
    - ユーザー
    - 設定 (WEM設定)

    以下はバックアップできません。

    - マシンに関連するADオブジェクト（単一のマシン、マシングループ、OU）
    - 監視データ（統計とレポート）
    - 構成セットに登録されているエージェント

復元。**復元**ウィザードを開き、以前にバックアップされたWEMサービス構成のバージョンに戻します。プロンプトが表示されたら、バックアップコピー（.XMLファイル）を含む該当するフォルダーを選択します。

- **セキュリティ設定**。セキュリティタブにあるすべての設定を復元します。バックアップファイル内の設定は、現在の構成セットの既存の設定を*置き換えます*。**セキュリティ**タブに切り替えるか、更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。これらのルールは自動的に削除されます。削除されたルールは、必要に応じてエクスポートできるレポートにリストされます。**復元**ウィザードでは、復元する項目を選択できます。

    - **AppLockerルール設定**
    - **特権昇格設定**

    - **既存の設定を上書きする**。競合がある場合に、既存の特権昇格設定を上書きするかどうかを制御します。

  アプリケーションセキュリティルール割り当ての確認ダイアログで、**はい**または**いいえ**を選択して、**復元**ウィザードがアプリケーションセキュリティルールの割り当てをどのように処理するかを示します。

    - **はい**を選択した場合、復元は現在のサイトのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元しようとします。再割り当ては、バックアップされたユーザーまたはグループが現在のサイトまたはADに存在する場合にのみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままであり、CSV形式でエクスポートできるレポートダイアログにリストされます。
    - **いいえ**を選択した場合、バックアップ内のすべてのルールは、サイト内のユーザーおよびユーザーグループに割り当てられることなく復元されます。

- **ADオブジェクト**。バックアップされたADオブジェクトを既存のサイトに復元します。**復元**ウィザードでは、インポートするADオブジェクトを詳細に制御できます。**復元するADオブジェクトを選択してください**ページで、復元するADオブジェクトと、既存のWEM ADオブジェクトを上書き（置換）するかどうかを指定できます。
- **構成セット**。バックアップされた構成セットをWEMに復元します。一度に1つの構成セットのみを復元できます。復元した構成セットがWEM管理コンソールに反映されるまでに時間がかかる場合があります。復元された構成セットを表示するには、リボンの「構成セット」メニューから選択します。構成セットを復元する際、同じ名前の構成セットが既に存在する場合、WEMは自動的に`<configuration set name>_1`に名前を変更します。

注:

- 復元されたアクションは、既存のサイトアクションに*追加されます*。
- 復元された設定は、既存のサイト設定を*置き換えます*。
- 復元されたADオブジェクトは、復元ウィザードのADオブジェクトページで**上書きモード**を選択したかどうかに応じて、既存のサイトADオブジェクトに*追加*されるか、*置き換え*られます。
- **上書きモード**を選択した場合、復元プロセスが開始される前に、既存のADオブジェクトはすべて削除されます。

移行。**移行**ウィザードを開き、グループポリシーオブジェクト（GPO）のzipバックアップをWEMに移行します。

重要:

- **移行**ウィザードは、WEMがサポートする設定（GPO）のみを移行します。
- 移行プロセスを開始する前に、既存の設定をバックアップすることをお勧めします。

GPOをバックアップするには、次の手順を実行することをお勧めします。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシーの管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、zipファイルに圧縮します。

注:

WEMは、複数のGPOバックアップフォルダを含むzipファイルの移行もサポートしています。

GPOのバックアップが正常に完了したら、**移行**をクリックしてGPOをWEMに移行します。**移行するファイル**ページで、**参照**をクリックし、該当するファイルに移動します。

- **上書き**。競合がある場合に、既存のWEM設定（GPO）を上書きします。
- **変換**。GPOをWEMへのインポートに適したXMLファイルに変換します。インポートする設定をきめ細かく制御したい場合は、このオプションを選択します。変換が正常に完了したら、**復元**ウィザードを使用してXMLファイルを手動でインポートします。

  注:

> 出力フォルダーに名前を付けることはできますが、保存するファイルの名前を指定することはできません。

タブ

タブには、次のコントロールが含まれています。

ライセンスサーバーの構成。Citrix License Serverのアドレスを指定できます。これを指定しないと、管理コンソールで設定を変更できません。または、インフラストラクチャサービス構成ユーティリティの****タブを使用して、これらの資格情報を指定することもできます。どちらの場合も、Citrix License Serverの情報はデータベース内の同じ場所に保存されます。

ヘルプの表示。WebブラウザーウィンドウでCitrix製品ドキュメントのWebサイトを開きます。

オプション。****ダイアログを開きます。これらのオプションは、管理コンソールのこのローカルインスタンスに固有のものです。

- **管理者の自動ログオン**。有効にすると、管理コンソールは起動時に最後に接続したインフラストラクチャサービスに自動的に接続します。
- **デバッグモードを有効にする**。管理コンソールの詳細ログを有効にします。ログは、現在のユーザーの「Users」フォルダーのルートに作成されます。
- **コンソールスキン**。管理コンソール専用のさまざまなスキンから選択できます。
- **ポート番号**。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートをカスタマイズできます。このポートは、インフラストラクチャサービス構成で構成されているポートと一致している必要があります。

バージョン情報。管理コンソールの現在のバージョン、ライセンス情報（ライセンスの種類、登録、数）、および法的情報が表示されます。

アクション

Workspace Environment Management™は、使いやすいアクションを提供することで、ワークスペース構成プロセスを効率化します。アクションには、アプリケーション、プリンター、ネットワークドライブ、外部タスクなどの管理が含まれます。割り当てを使用して、アクションをユーザーが利用できるようにすることができます。Workspace Environment Managementは、割り当てをコンテキスト化するためのフィルターも提供します。

- アクションには、以下の管理が含まれます。
    - アクショングループ

    - グループポリシー設定
    - アプリケーション
    - プリンター
    - ネットワークドライブ
    - 仮想ドライブ
    - レジストリエントリ
    - 環境変数
    - ポート
    - Iniファイル
    - 外部タスク
    - ファイルシステム操作
    - ユーザーDSN
    - ファイル関連付け
- フィルター
- 割り当て

アクション グループ

アクション グループ機能を使用すると、まずアクションのグループを定義し、次にアクション グループ内の定義済みアクションすべてを、単一の手順でユーザーまたはユーザー グループに割り当てることができます。この機能を使用すると、**アクション**ペインに表示される各アクションを1つずつ割り当てる必要がなくなります。その結果、複数のアクションを1つの手順で割り当てることができます。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アクション グループ リスト

アクション グループ

既存のアクション グループのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前、表示名、または説明でリストをフィルタリングします。

アクション

> **重要:**
>
> - アクション グループには、各アクション カテゴリ（アプリケーション、プリンター、ネットワーク ドライブなど）にすでに存在するアクションのみが含まれます。たとえば、**アプリケーション リスト**タブでアプリケーションを追加していない限り、**アクション グループ リスト**タブのアクション グループには、**アプリケーション**の下に割り当て可能なアプリケーションは表示されません。
> - 割り当てられたアクション グループ内のアクションのオプションを構成しても（**アクション グループ リスト > 名前 > 構成済み**）、構成されたオプションは、そのアクション グループが割り当てられているユーザーには影響しません。

アクションセクションには、利用可能なアクションが表示されます。次の操作を実行できます。

- **追加**。ユーザーまたはユーザー グループに割り当てるすべてのアクションを含むアクション グループを作成できます。
- **編集**。既存のアクション グループを編集できます。
- **コピー**。既存のアクション グループからアクション グループを複製できます。
- **削除**。既存のアクション グループを削除できます。

アクション グループを作成するには、以下の手順に従います。

1. **管理コンソール > アクション > アクション グループ > アクション グループ リスト**タブで、**追加**をクリックします。
2. 「**新しいアクション グループ**」ウィンドウで、必要な情報を入力し、ドロップダウンから該当するオプションを選択し、「**OK**」をクリックします。

アクション グループを編集するには、リストから該当するグループを選択し、「**編集**」をクリックします。

アクション グループを複製するには、複製したいグループを選択し、「**コピー**」をクリックします。「**コピー**」をクリックすると、複製が自動的に作成されることに注意してください。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。名前を変更するには、「**編集**」をクリックします。

> **注:**
>
> アクション グループを複製する場合、「**割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可する**」オプションが有効になっていない限り、ネットワークおよび仮想ドライブに関連付けられているアクション（存在する場合）は複製されません。このオプションを有効にするには、「**詳細設定 > 構成 > コンソール設定**」タブに移動します。

アクション グループを削除するには、リストから該当するグループを選択し、「**削除**」をクリックします。

> **注:**
>
> 既に割り当てられているアクション グループを削除または編集した場合、行った変更は、そのグループが割り当てられているすべてのユーザーに影響します。

フィールドとコントロール

名前。アクション グループ リストに表示されるアクション グループの表示名です。

説明。アクション グループに関する追加情報を指定できます。

アクション グループの状態。アクション グループを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、そのアクション グループをユーザーまたはユーザー グループに割り当てたとしても、エージェントはアクション グループに含まれるアクションを処理しません。

構成

割り当てたい、または構成済みの特定のアクションを検索できます。「検索」を使用して、名前、表示名、または説明でオプションをフィルタリングします。

利用可能。これらは、作成したアクション グループに追加できるアクションです。

プラス記号をクリックして、特定のアクション カテゴリの下のアクションを展開します。アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てるか割り当てを解除します。

注:

- 既にユーザーに割り当てられているアクション グループにアクションを追加すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーに割り当てられます。
- 既にユーザーに割り当てられているアクション グループからアクションを削除すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーから割り当て解除されます。

構成済み。これらは、作成したアクション グループにすでに割り当てられているアクションです。個々のアクションを展開して構成できます。また、各特定アクションのオプション（アプリケーション ショートカットの場所、既定のプリンター、ドライブ文字など）も構成できます。

割り当て

重要:

アクション割り当てタブの［割り当て済み］ペインで、割り当て済みアクション グループ内のアクションのオプションを構成すると、構成されたオプションは、そのアクション グループが割り当てられているユーザーに自動的に影響します。

アクション > アクション グループ > アクション グループ リストタブでアクション グループのアクションの構成が完了したら、構成済みのアクションを該当するユーザーまたはユーザー グループに割り当てることをお勧めします。これを行うには、**割り当て > アクション割り当て > アクション割り当て**タブに移動します。そのタブで、ユーザーまたはユーザー グループをダブルクリックすると、作成したアクション グループを含む**利用可能**ペインの［アクション グループ］ノードが表示されます。［アクション グループ］ノードの横にあるプラス記号をクリックすると、作成したアクション グループを表示できます。アクション グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てまたは割り当て解除を行います。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するために使用するルールを選択するよう求められます。

割り当ての仕組みについて詳しくは、「割り当て」を参照してください。

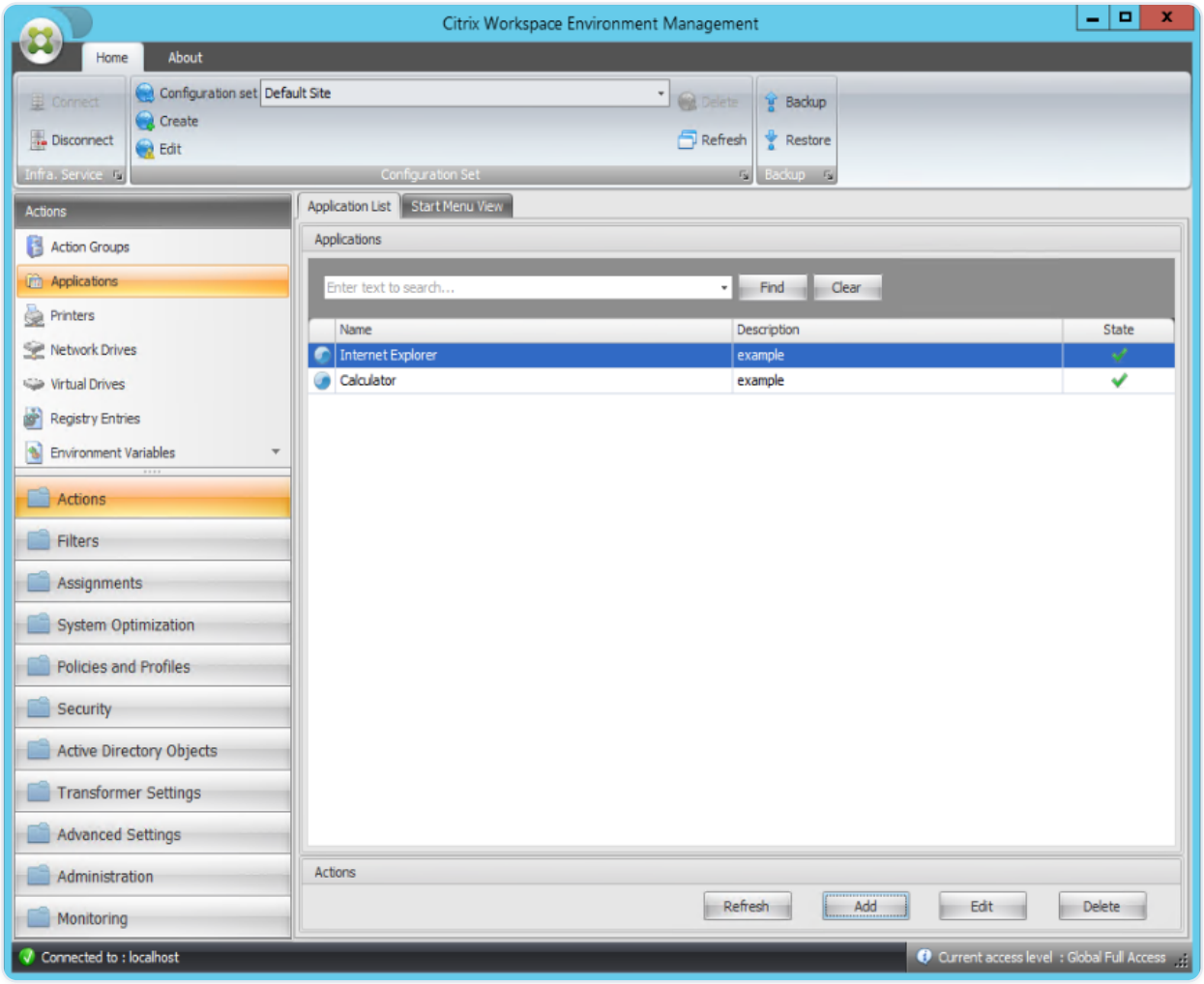
アクション グループを割り当てる際には、いくつかのシナリオに注意する必要があります。

- アクション グループを割り当てると、それに含まれるすべてのアクションが割り当てられます。
- 1つ以上のアクションが異なるアクション グループで重複する場合があります。重複するアクション グループの場合、最後に処理されたグループが、以前に処理されたグループを上書きします。
- アクション グループ内のアクションが処理された後、別のアクション グループ内のアクションと重複するアクションを割り当てることを検討してください。この場合、割り当て解除されたアクションは、以前に処理されたアクションを上書きし、その結果、後で処理されたアクションは割り当て解除されます。他のアクションは変更されません。

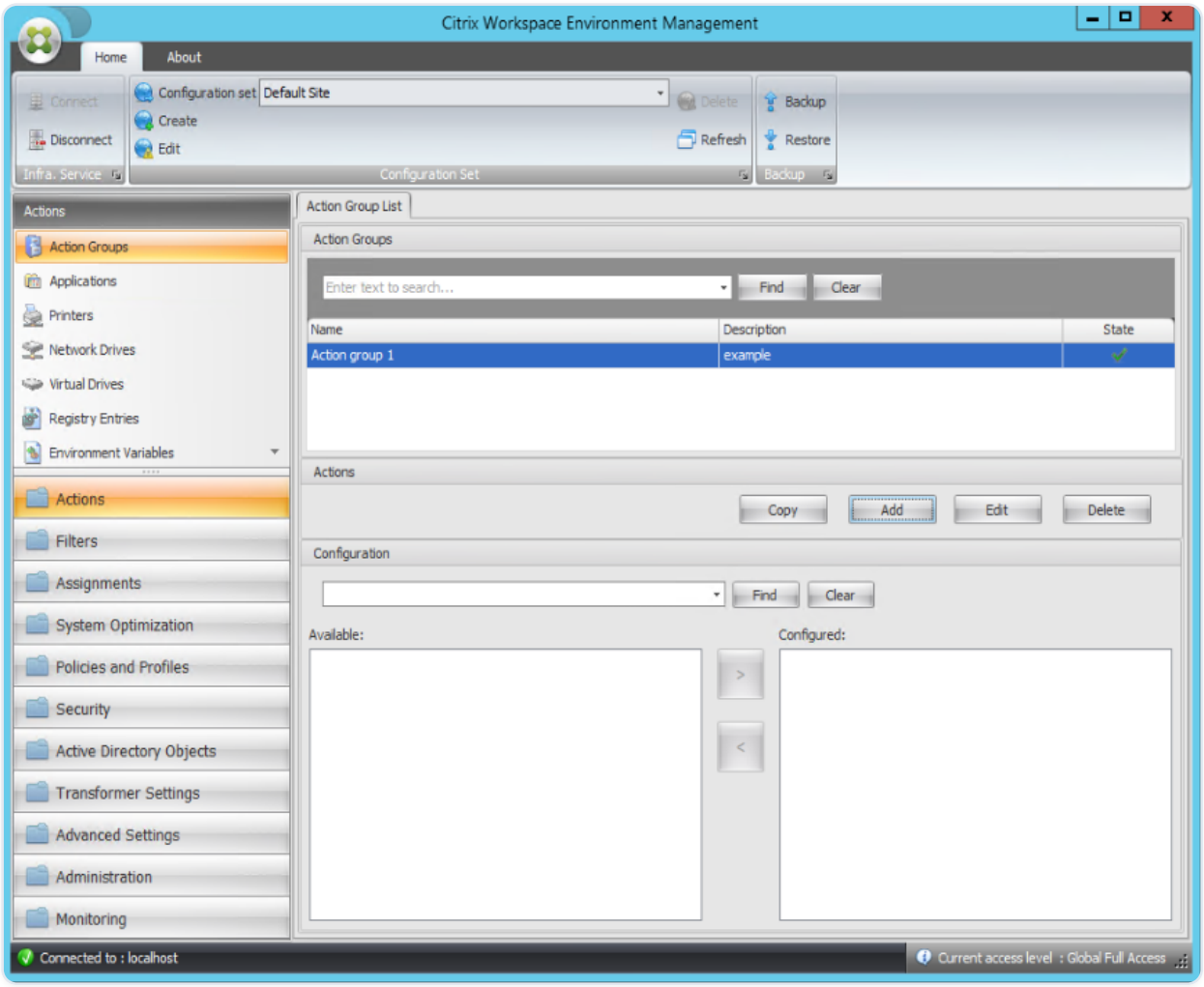
シナリオの例

たとえば、アクション グループ機能を使用して2つのアプリケーション（iexplore.exeとcalc.exe）を一度にユーザーに割り当てるには、以下の手順に従います。

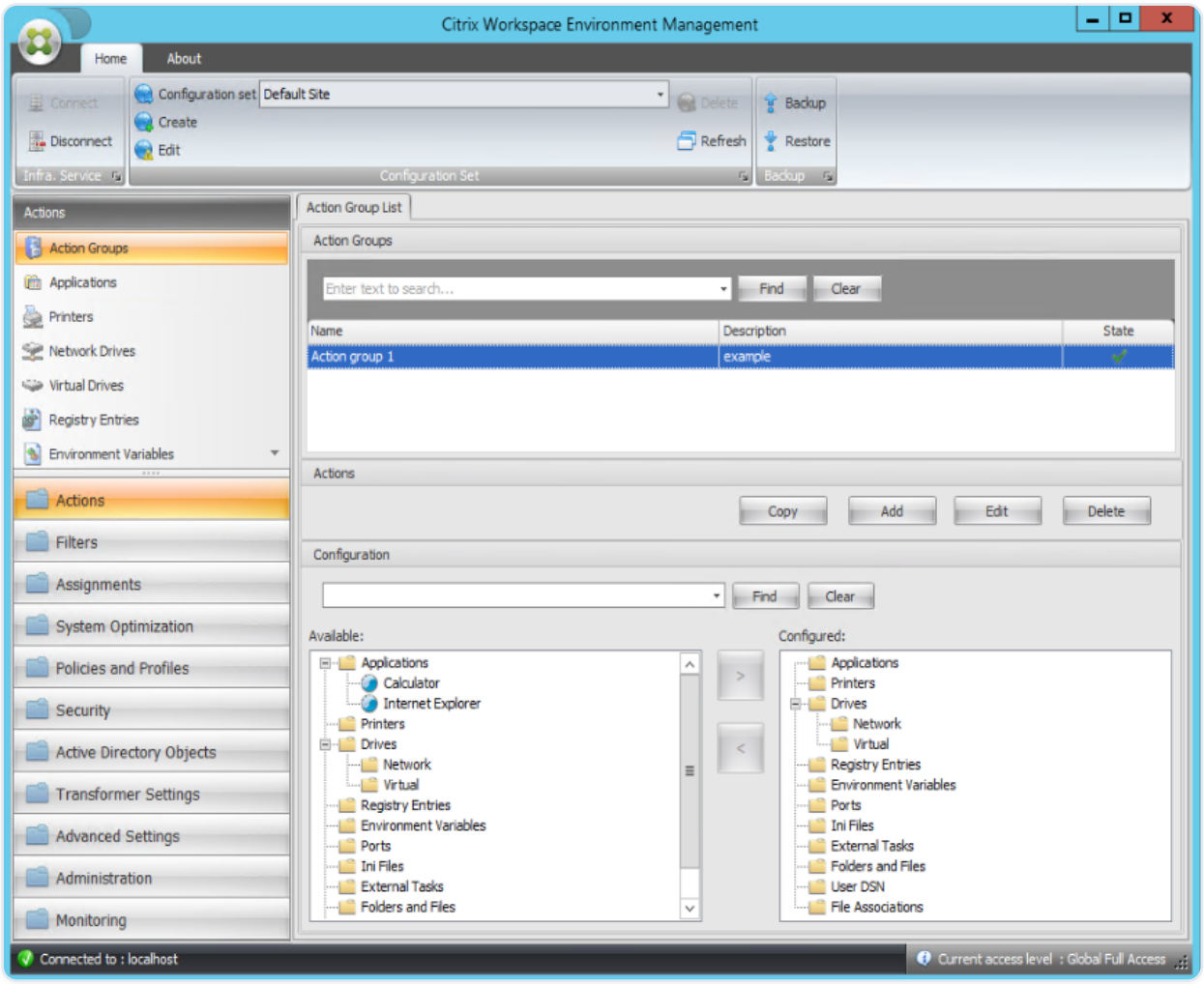
1. **管理コンソール > アクション > アプリケーション > アプリケーション リスト**タブに移動し、アプリケーション（iexplore.exeとcalc.exe）を追加します。



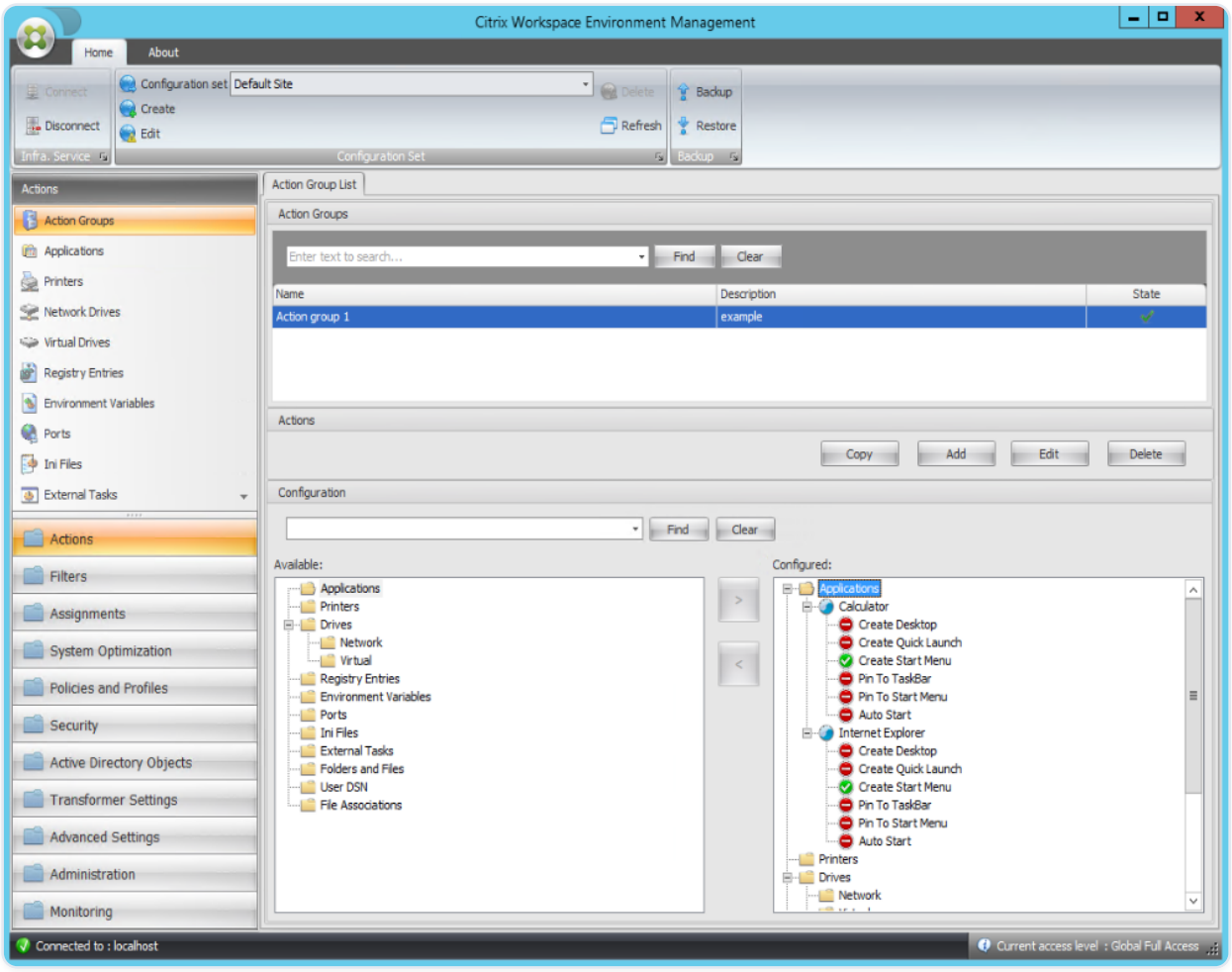
2. **管理コンソール > アクション > アクション グループ > アクション グループ リスト**タブに移動し、**追加**をクリックしてアクション グループを作成します。



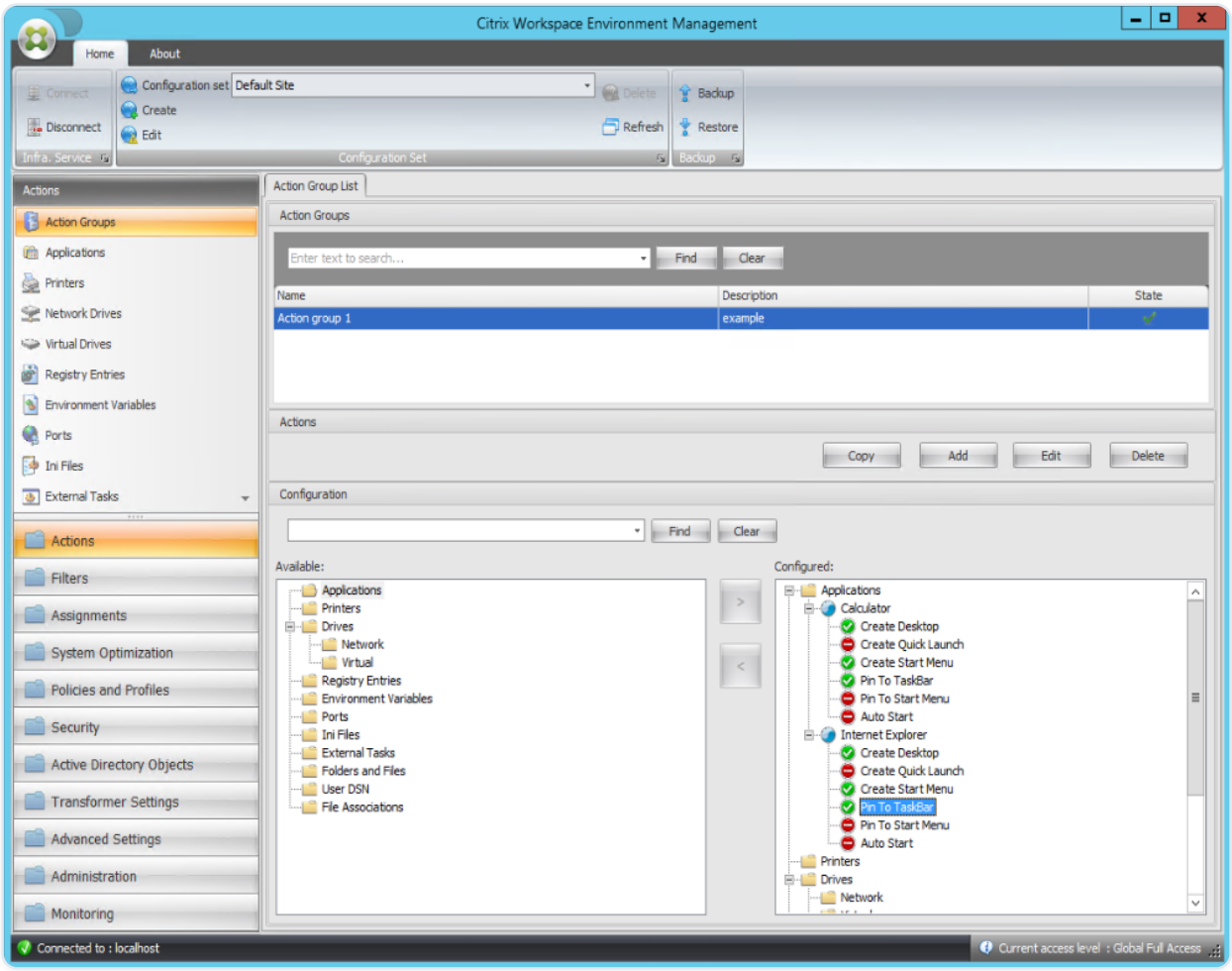
3. 「**アクション グループ リスト**」タブで、作成したアクション グループをダブルクリックして、「**利用可能**」ペインと「**構成済み**」ペインにアクション リストを表示します。



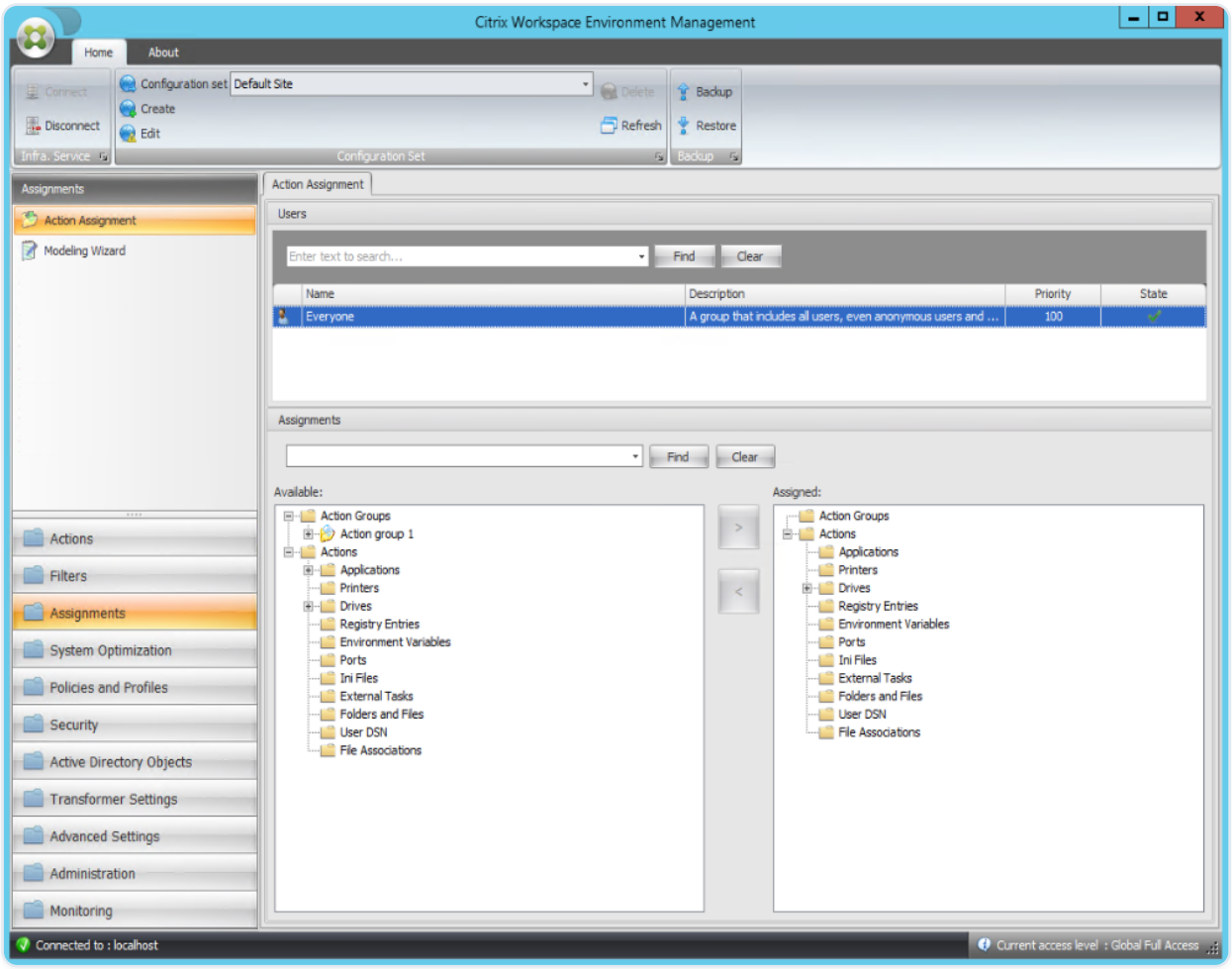
4. 「**利用可能**」ペインで、各アプリケーションをダブルクリックして「**構成済み**」ペインに移動します。アプリケーションを選択してから右矢印をクリックすることでも、この操作を実行できます。



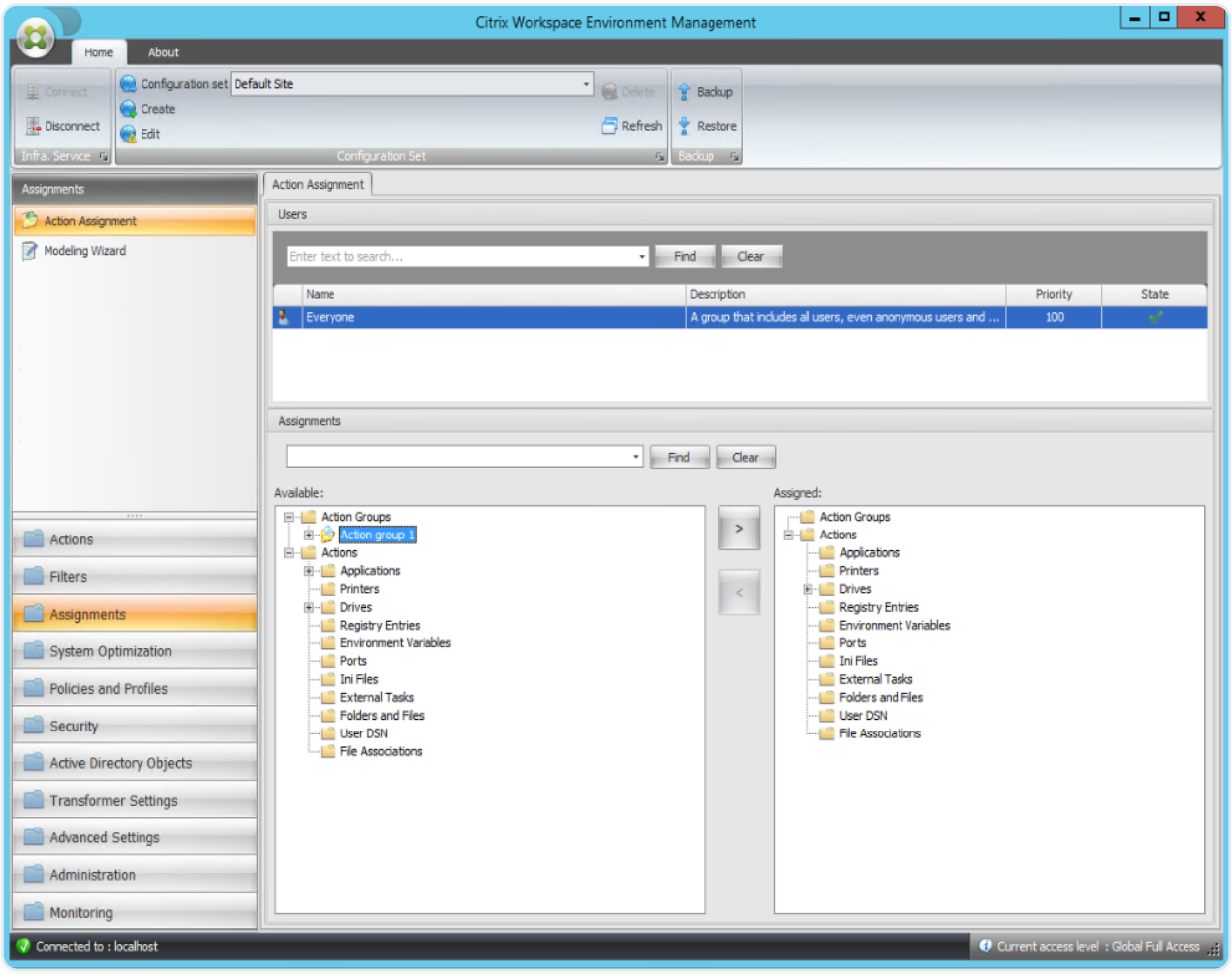
5. 「**構成済み**」ペインで、各アプリケーションのオプションを構成します。この例では、「**デスクトップの作成**」と「**タスクバーにピン留め**」を有効にします。



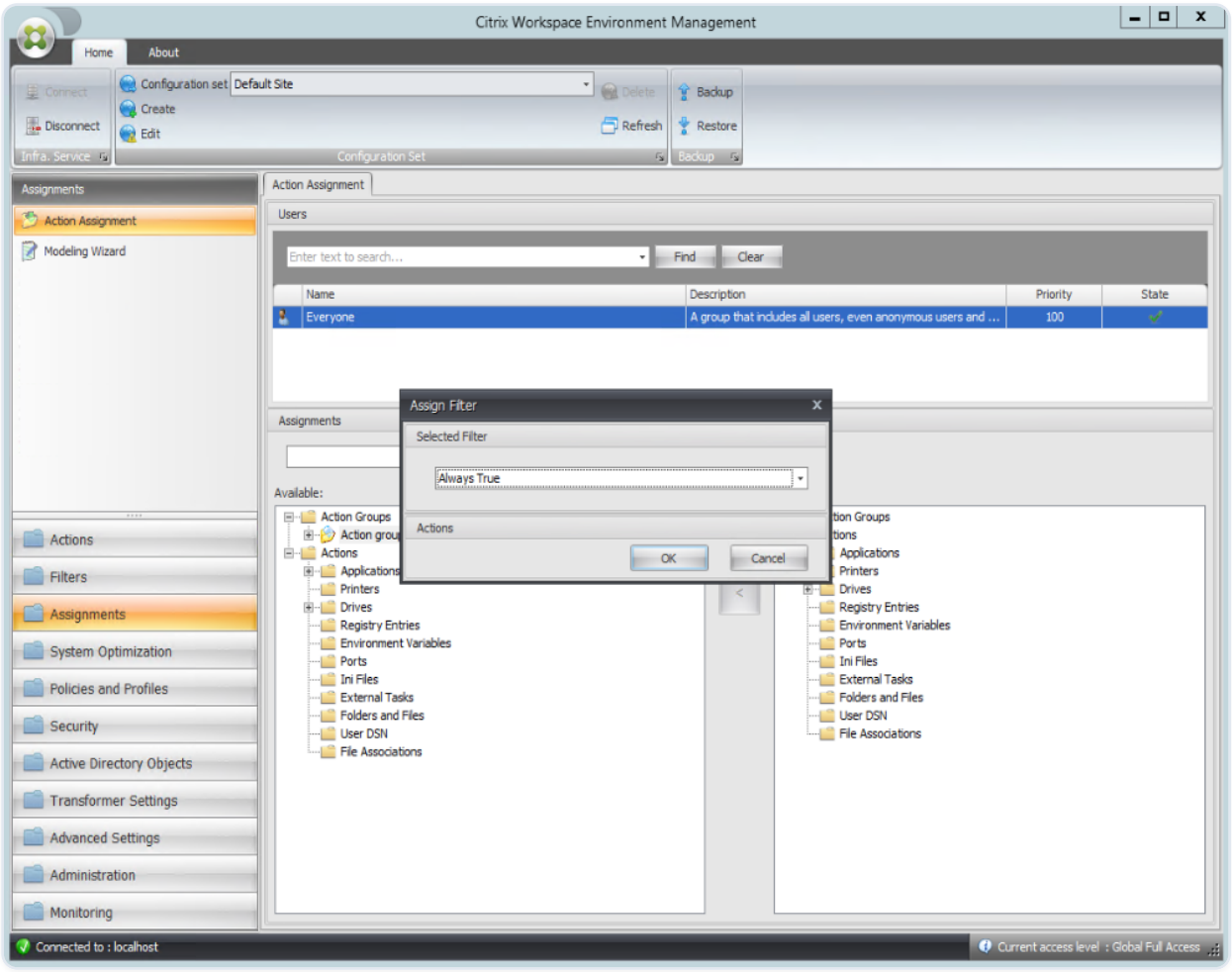
6. 「**管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**」タブに移動し、該当するユーザーをダブルクリックして、「**利用可能**」ペインと「**割り当て済み**」ペインにアクション グループを表示します。



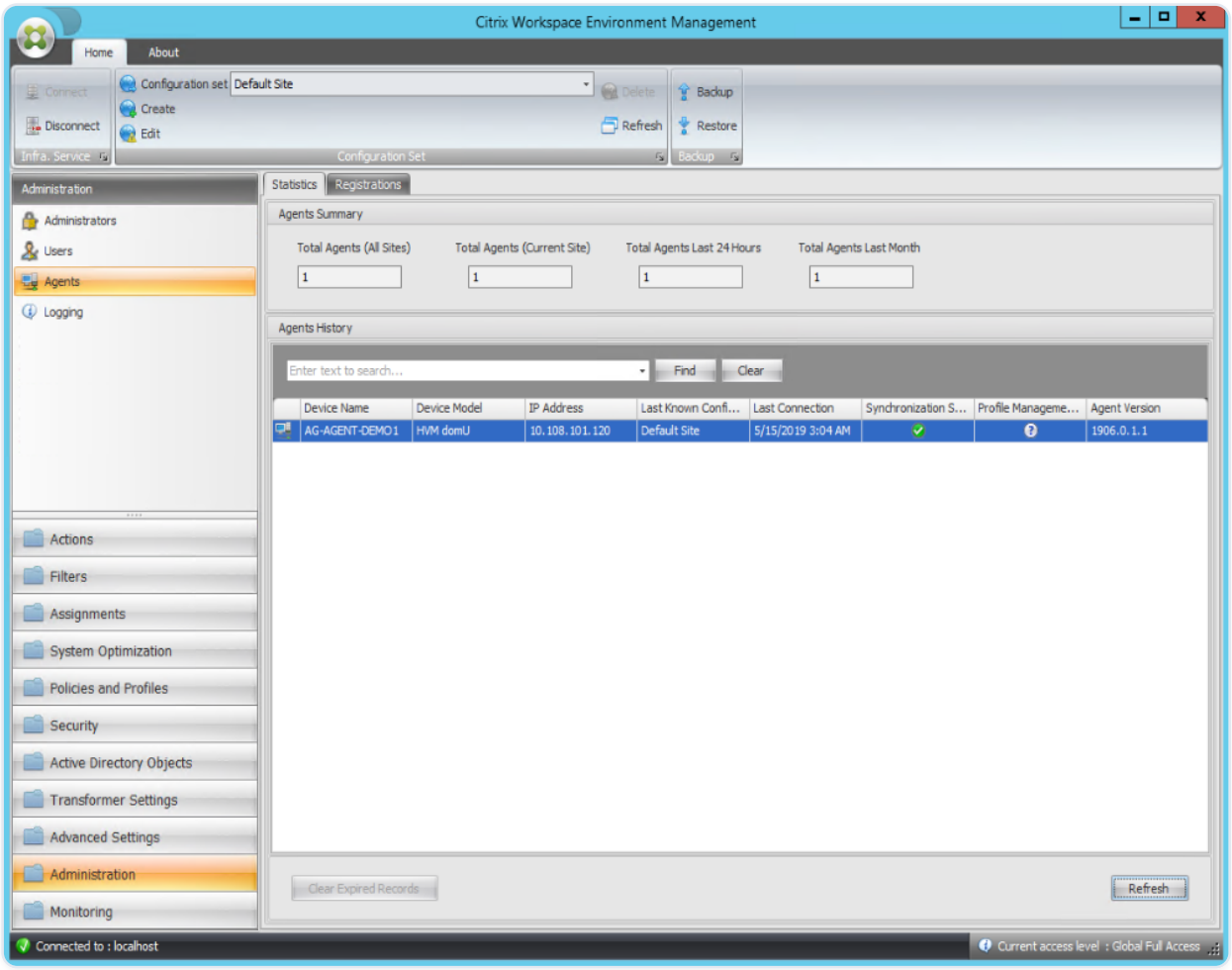
7. 「**利用可能**」ペインで、作成したアクション グループ (この例では「アクション グループ 1」) をダブルクリックして、「**割り当て済み**」ペインに移動します。アクション グループを選択してから右矢印をクリックすることでも、この操作を実行できます。



8. 「**フィルターの割り当て**」ウィンドウで、「**常に True**」を選択し、「**OK**」をクリックします。



9. 「**管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**」タブに移動し、「**更新**」をクリックします。



10. エージェントを右クリックし、コンテキスト メニューで「**ワークスペース エージェントの更新**」を選択します。
11. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）で、構成されたアクションが有効になっていることを確認します。

この例では、2つのアプリケーションがエージェントホストに正常に割り当てられ、そのショートカットがデスクトップに追加され、タスクバーにピン留めされます。

グループポリシー設定

> **重要:**
>
> WEMは現在、`HKEY_LOCAL_MACHINE`および`HKEY_CURRENT_USER`レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

> 以前のリリースでは、グループポリシー基本設定 (GPP) のみをWorkspace Environment Management (WEM) に移行できました。詳細については、リボンの**移行**ウィザードの説明

> を参照してください。グループポリシー設定 (レジストリベースの設定) もWEMにインポートできるようになりました。

設定をインポートした後、どのGPOを割り当てるかを決定する前に、各GPOに関連付けられた設定を項目別に表示できます。他のアクションを割り当てるのと同じように、GPOを異なるADグループに割り当てることができます。GPOを個々のユーザーに直接割り当てても、設定は有効になりません。グループにはユーザーとマシンを含めることができます。関連するマシンがグループに属している場合、マシンレベルの設定が有効になります。現在のユーザーがグループに属している場合、ユーザーレベルの設定が有効になります。

> **ヒント:**
>
> マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーはログオフしてから再度ログオンする必要があります。

グループポリシー設定

> **注:**
>
> WEMエージェントがグループポリシー設定を適切に処理するには、Citrix WEM User Logon Serviceが有効になっていることを確認してください。

> **グループポリシー設定処理を有効にする**。WEMがグループポリシー設定を処理できるようにするかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。無効の場合：

- グループポリシー設定を構成できません。
- WEMは、グループポリシー設定がユーザーまたはユーザーグループにすでに割り当てられている場合でも、それらを処理しません。

グループポリシーオブジェクトリスト

既存のGPOのリストを表示します。**検索**を使用して、名前または説明でリストをフィルタリングします。

- **更新**。GPOリストを更新します。

- **インポート**。**グループポリシー設定のインポート**ウィザードを開き、グループポリシー設定をWEMにインポートできます。
- **編集**。既存のGPOを編集できます。
- **削除**。選択したGPOを削除します。

グループポリシー設定のインポート

グループポリシー設定をインポートする前に、ドメインコントローラーでグループポリシー設定をバックアップしてください。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシーの管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

> **注:**
>
> WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルのインポートもサポートしています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. WEMサービスの**管理**タブのメニューにある**アップロード**を使用して、GPOのzipファイルをCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロードします。
2. **管理コンソール > アクション > グループポリシー設定**タブに移動し、**グループポリシー設定の処理を有効にする**を選択して、**インポート**をクリックし、インポートウィザードを開きます。
3. インポートウィザードの**インポートするファイル**ページで、**参照**をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力し、**検索**をクリックしてファイルを見つけることもできます。
   - **以前にインポートしたGPOを上書きします**。既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。
4. **インポートの開始**をクリックして、インポートプロセスを開始します。

5. インポートが完了したら、**完了**をクリックします。インポートされたGPOは、**グループポリシー設定**タブに表示されます。

レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする

Windowsレジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当てのためにGPOに変換できます。レジストリエントリで利用できるオプションをご存じであれば、この機能は次のとおりです。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE`と`HKEY_CURRENT_USER`の両方のレジストリ値をインポートできます。
- `REG_BINARY`および`REG_MULTI_SZ`タイプのレジストリ値をインポートできます。
- .regファイルで定義したレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.regファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>`を参照してください。

開始する前に、次の点に注意してください。

- zipファイルから設定をインポートする場合、そのファイルには1つ以上のレジストリファイルを含めることができます。解凍されたファイルのサイズが30 MBを超えないようにしてください。
- 各.regファイルはGPOに変換されます。変換された各GPOは、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。
- 変換された各GPOの名前は、対応する.regファイルの名前に基づいて生成されます。例: .regファイルの名前が`test1.reg`の場合、変換されたGPOの名前は`test1`です。
- 変換されたGPOの説明は空です。その状態はデフォルトで有効（チェックマークアイコン）になっています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソールで、**アクション > グループポリシー設定**に移動し、**グループポリシー設定処理を有効にする**を選択し、**インポート**の横にある下矢印をクリックして、**レジストリファイルのインポート**を選択します。
2. 表示されるウィザードで、レジストリファイルのzipバックアップを参照します。
    - **既存のGPOを上書きする**。競合が発生した場合に既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。

3. 「**インポートを開始**」をクリックします。
4. インポートが完了したら、「**完了**」をクリックします。レジストリファイルから変換されたGPOは、「**グループポリシー設定**」に表示されます。

グループポリシー設定の編集

リストからGPOをダブルクリックすると、その設定が項目別に表示され、必要に応じて設定を編集できます。

GPOを複製するには、GPOを右クリックし、メニューから「**コピー**」を選択します。「**コピー**」をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。名前を変更するには「**編集**」を使用できます。

「**編集**」をクリックすると、「**グループポリシーオブジェクトの編集**」ウィンドウが表示されます。

名前。GPOリストに表示されるGPOの名前です。

説明。GPOに関する追加情報を指定できます。この情報はGPOリストに表示されます。

レジストリ操作。GPOに含まれるレジストリ操作を表示します。

> **警告:**

> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、または削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならない可能性があります。

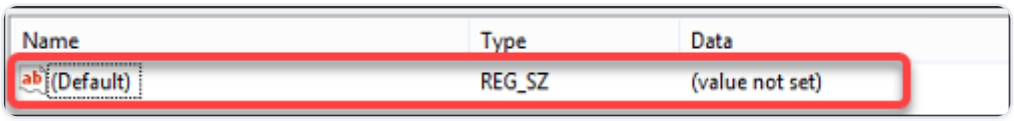
- **追加**。レジストリキーを追加できます。
- **編集**。レジストリキーを編集できます。
- **削除**。レジストリキーを削除できます。

レジストリキーを追加するには、右側の「**追加**」をクリックします。次の設定が利用可能になります。

- **順序**。レジストリキーの展開順序を指定できます。
- **アクション**。レジストリキーのアクションの種類を指定できます。
    - **値の設定**。レジストリキーの値を設定できます。
    - **値の削除**。レジストリキーの値を削除できます。

    - **キーの作成**。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定されたキーを作成できます。
    - **キーの削除**。レジストリキーの下のキーを削除できます。
    - **すべての値の削除**。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。

- **ルートキー**。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- **サブパス**。ルートキーを含まないレジストリキーの完全なパスです。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーの完全なパスである場合、`Software\Microsoft\Windows` がサブパスです。
- **値**。レジストリ値の名前を指定できます。次の図で強調表示されている項目全体がレジストリ値です。



- **種類**。値のデータ型を指定できます。
    - **REG_SZ**。この種類は、人間が判読できるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
    - **REG_EXPAND_SZ**。この種類は、アプリケーションによって呼び出されたときに置き換えられる変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」はオペレーティングシステム内のフォルダーの実際の場所に置き換えられます。
    - **REG_BINARY**。任意の形式のバイナリデータ。
    - **REG_DWORD**。32ビットの数値。この種類は、ブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効、「1」は有効を意味します。
    - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**. リトルエンディアン形式の32ビット数値。
    - **REG_QWORD**. 64ビット数値。
    - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**. リトルエンディアン形式の64ビット数値。
    - **REG_MULTI_SZ**. このタイプは、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用されるマルチストリングです。各エントリはヌル文字で区切られます。
- **Data**. レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力する必要がある場合があります。

変更が有効になるまでに時間がかかる場合があります。次の点に注意してください。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE` レジストリハイブに関連付けられた変更は、**Citrix WEM Agent Host Service** が開始されたとき、または指定された **SQL Settings Refresh Delay** がタイムアウトしたときに有効になります。
- `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられた変更は、ユーザーがログオンしたときに有効になります。

グループポリシー設定をコンテキスト化する

フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルターは、ルールと複数の条件で構成されます。WEMエージェントは、実行時にユーザー環境でルールのすべての条件が満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。それ以外の場合、エージェントはフィルターを適用するときにそれらの設定をスキップします。

グループポリシー設定を条件付きにする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソールで、**フィルター > 条件** に移動し、条件を定義します。条件 を参照してください。

   > **重要:**
   >
   > 利用可能なフィルター条件の完全なリストについては、フィルター条件 を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザー設定とマシン設定で構成されます。一部のフィルター条件はユーザー設定にのみ適用されます。これらのフィルター条件をマシン設定に適用すると、WEMエージェントはフィルター条件を無視し、マシン設定を適用します。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、マシン設定に適用されないフィルター条件 を参照してください。

2. **フィルター > ルール** に移動し、フィルタールールを定義します。ステップ1で定義した条件をそのルールに含めることができます。ルール を参照してください。
3. **アクション > グループポリシー設定** に移動し、グループポリシー設定を構成します。
4. 「**Administration Console > Assignments > Action Assignment**」に移動し、以下を完了します。

   a. 設定を割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

   b. アプリケーションを選択し、右矢印 (\>) をクリックして割り当てます。

c. 「**Assign Filter**」ウィンドウで、手順2で定義したルールを選択し、「**OK**」をクリックします。設定は「**Available**」ペインから「**Assigned**」ペインに移動します。

d. 「**Assigned**」ペインで、設定の優先度を構成します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど優先度が高くなります。優先度の高い設定は後で処理され、競合や依存関係がある場合にそれらが有効になるようにします。

マシン設定に適用できないフィルター条件

フィルター名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアントIPアドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCUで始まるレジストリ値を構成した場合、**Registry Value Match**フィルターはマシン設定に適用しても機能しません。
ユーザー国の一致	いいえ
ユーザーUI言語の一致	いいえ
ユーザーSBCリソースタイプ	いいえ
Active Directory パスの一致	いいえ
Active Directory 属性の一致	いいえ
クライアント名の不一致	いいえ
クライアント IP アドレスの不一致	いいえ
レジストリ値の不一致	いいえ
ユーザーの国の不一致	いいえ
ユーザー UI 言語の不一致	いいえ
Active Directory パスの不一致	いいえ
Active Directory 属性の不一致	いいえ
クライアントリモート OS の一致	いいえ

フィルター名	マシン設定に適用可能
クライアントリモート OS の不一致	いいえ
Active Directory グループの一致	いいえ
Active Directory グループの不一致	いいえ
公開リソース名	いいえ

テンプレートベースの設定

このタブを使用して、グループポリシー管理用テンプレートでWindowsの設定を構成します。GPOはマシンレベルとユーザーレベルで構成できます。

構成セットの**アクション > グループポリシー設定 > テンプレートベース**で、次の操作を実行できます。

- テンプレートを使用してGPOを作成します。
- テンプレートを管理します。
- テンプレートをインポートします。
- GPOリストを更新します。
- GPOを編集します。
- GPOの割り当てを管理します。
- GPOを複製します。
- GPOを削除します。

テンプレートを使用してGPOを作成する

テンプレートを使用してGPOを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**GPOの作成**をクリックします。
2. **基本情報**で：
    - GPOの名前を指定します。
    - 必要に応じて、GPOを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
3. **コンピューターの構成**で、マシンに適用するポリシー（誰がログオンしているかに関わらず）を設定します。

4. **ユーザーの構成**で、ユーザーに適用するポリシー（どのマシンにログオンしているかに関わらず）を設定します。
5. **概要**で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、**完了**をクリックします。

コンピューターの構成と**ユーザーの構成**で、設定を選択して構成します。ポリシーはツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順にソートされ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス（テキストまたは数値として入力）、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、MicrosoftからGPOリファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートの管理

テンプレートを管理するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**テンプレートの管理**をクリックします。
2. **テンプレートの管理**ウィザードで：

- **コンピューターの構成**を選択して、マシンに適用するポリシー（誰がログオンしているかに関わらず）を設定します。
- **ユーザーの構成**を選択して、ユーザーに適用するポリシー（どのマシンにログオンしているかに関わらず）を設定します。

1. 完了したら、「**完了**」をクリックします。

「**コンピューターの構成**」と「**ユーザーの構成**」で、設定を選択して構成します。ポリシーはツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順に並べ替えられ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス（テキストまたは数値として入力）、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、MicrosoftからGPOリファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートのインポート

> **重要:**
>
> ADMXファイルをテンプレートとして使用するためにWEMにインポートする際は、zipファイル内のすべての.admlファイルが同じ言語であることを確認してください。

ADMXファイルをテンプレートとして使用するためにWEMにインポートできます。その後、それらのテンプレートを使用してGPOを作成します。テンプレートをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、「**テンプレートの管理**」をクリックします。
2. 「**テンプレートの管理**」ウィザードで、「**インポート**」をクリックします。
3. ADMXファイルを含むzipファイルを参照し、既存のテンプレートと同じ名前のテンプレートがファイルに含まれている場合にどうするかを決定します。
   - 「**インポートしない**」。インポートをキャンセルします。
   - 「**テンプレートをスキップして残りをインポートする**」。
   - 「**既存のテンプレートを上書きする**」。上書きすると、既存のテンプレートに由来する関連設定が変更される可能性があります。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、これらのGPOを編集すると、関連設定は失われます。
4. 「**インポートの開始**」をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. 完了したら、「**完了**」をクリックして「**テンプレートの管理**」ウィザードに戻ります。
6. そこでテンプレートを管理するか、**完了**をクリックして終了します。

インポートしたテンプレートファイルを管理する方法については、ファイルを参照してください。そこで管理する際は、次の点を考慮してください。

- GPO管理テンプレートファイルを削除すると、現在のテンプレートから関連する設定が削除されます。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、それらのGPOを編集すると、関連する設定は失われます。

GPOを編集する

GPOを編集するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**編集**をクリックします。

2. **基本情報**で、名前と説明を編集します。
3. **コンピューターの構成**で、マシンポリシーを編集します。
4. **ユーザーの構成**で、ユーザーポリシーを編集します。
5. **概要**で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、**保存**をクリックします。

> **注:**
>
> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを編集するとそれらのユーザーに影響を与えます。

GPOの割り当てを管理する

テンプレートを使用して作成されたGPOの割り当ては、レジストリベースのGPOと同様に管理できます。詳細については、GPOの割り当てを管理するを参照してください。

GPOをクローンする

GPO をクローンするには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーで **クローン** をクリックします。
2. GPO をレジストリベースの GPO としてクローンするか、テンプレートベースの GPO としてクローンするかを決定します。

   > **注:**
   >
   > レジストリベースとしてクローンされると、GPO はレジストリ値に変換され、**レジストリベース** タブに表示されます。変換された各 GPO は、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。

3. 名前と説明を編集します。
4. GPO をクローンする構成セットを選択します。
5. **クローン** をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPO を削除する

GPO を削除するには、GPO を選択し、アクションバーで **削除** をクリックします。

> **注:**
>
> GPO がすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

スクリプトタスク設定

「**スクリプトタスク**」ページで利用可能なすべてのスクリプトタスクを一覧表示します。スクリプトタスクは構成セットレベルで実行されます。ここでは、現在の構成セットでどのスクリプトタスクを有効にするかを構成します。スクリプトタスクを編集するには、「スクリプトタスク」に移動します。

スクリプトタスクを構成する

1. 「**スクリプトタスク設定**」ページで、スクリプトタスクを見つけ、省略記号を選択し、「**構成**」を選択します。
2. 「**スクリプトタスクの構成**」ウィザードで、次の設定を構成し、「**保存**」をクリックします。

「**全般**」で:

- **このタスクを有効にする**。現在の構成セットでタスクを有効にする（**はい**）か無効にする（**いいえ**）かを選択します。無効になっている場合、エージェントはタスクを処理しません。
- **署名を検証する**。タスクを実行する前に署名を検証するかどうかを選択します。スクリプトタスクにフルアクセスが許可されている場合、署名検証は必須です。
- **タスクのタイムアウト**。タスクのタイムアウト（分単位）を設定するかどうかを選択します。タイムアウトが発生すると、タスクは強制的に終了します。サポートされる値: 1〜60。タスクにタイムアウトを設定することをお勧めします。そうしないと、タスクが実行されたままになり、他のタスクの実行が妨げられる可能性があります。
- **フィルター**。フィルターを選択してタスクをコンテキスト化するかどうかを選択します。フィルターが選択されている場合、このタスクはフィルター内のすべての条件が満たされた場合にのみ実行されます。フィルターを選択する際は、次の点を考慮してください。
    - フィルターにスクリプトタスクに適用されない条件が含まれている場合、エージェントはタスクを実行する前にフィルターを評価する際にそれらの条件をスキップします。スクリプトタスクに適用されない条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」を参照してください。

「**トリガー**」で:

- タスクのトリガーを構成します。次のことができます。
  - タスクに関連付けるトリガーを選択します。アクティブ化されると、これらのトリガーはユーザー環境でタスクを開始します。
  - このタスクに適用されるトリガーのみを表示するかどうかを選択します。
  - 新しいトリガーを作成します。「トリガーの作成」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/triggers.html#create-a-trigger)を参照してください。

> **注:**
>
> 既存のトリガーを編集するには、「トリガー」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/triggers.html)に移動します。

「**パラメーター**」で:

- **スクリプトタスクにパラメーターを渡す**。スクリプトタスクにパラメーターを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクでパラメーター変数として入力を提供できます。これにより、基になるコードを変更せずにスクリプトタスクの動作を制御できるという利点があります。次のパラメータータイプが利用可能です:
  - **整数**。例: `123`。
  - **文字列**。例: `hello world`。
  - **ブール値**。True または False。
  - **文字**。例: `c`。
  - **スイッチ**。True または False。
  - **倍精度浮動小数点数**。例: `1.023`。
  - **日付と時刻**。例: `YYYY-MM-DD HH:mm:ss`。
  - **ファイルパス**。`System.IO.FileInfo` クラスに渡すパスを入力します。環境変数がサポートされています。パスには次の文字を含めることはできません: `* ? < >`。

> **注:**
>
> - 最大20個のパラメーターを設定できます。

    - 名前フィールドは、「switch」タイプのパラメーターを除き、オプションです。
    - PowerShellは部分的なパラメーター名をサポートしています。部分的なパラメーター名を使用する場合は、その名前が一意であることを確認してください。既存のパラメーター名と区別してください。例: PowerShellでは、次のパラメーター名は同じです: `-t`、`-ti`、および`-title`。この場合、他のパラメーターと区別するために、パラメーター名の十分な文字を指定してください。

「**出力**」で:

- **出力ファイル。** タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択した場合、タスク用に生成されたレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境の出力ファイルにアクセスすることなく、レポートで出力ファイルの内容を表示できます。
- **出力のハイライト。** 出力ファイルの内容とコンソール出力で特定のコンテンツをハイライト表示するかどうかを選択します。
    - **キーワードのハイライト。** レポートでハイライト表示するキーワードを指定します。複数のキーワードをコンマで区切って入力できます。キーワードを入力したら、**Enter** キーを押して続行します。指定した場合、キーワードに一致するレポートの内容は、生成されたレポートの**出力ファイルの内容**および**コンソール出力**セクションでハイライト表示されます。
    - **正規表現の一致をハイライト。** ハイライト表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。正規表現は、PCRE互換の.NET正規表現ライブラリの構文に準拠している必要があります。詳細については、Microsoftのドキュメントを参照してください: `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference>`。
        - **正規表現。** ハイライト表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。
        - **大文字と小文字を区別しない。** コンテンツが大文字と小文字を正確に一致させる必要があるかどうかを選択します。
        - **複数行マッチングを使用する。** 複数行マッチングを使用するかどうかを選択します。複数行マッチングでは、\^ と \$ は出力コンテンツ全体の先頭と末尾ではなく、各行の先頭と末尾に一致します。
        - **名前付きグループのみをキャプチャする。** 名前付きグループのみをキャプチャするかどうかを選択します。キャプチャされたグループは、正規表現パターンで括弧を使用して定義されます。名前付きグループは、`(?<name> subexpression)` 構文によって明示的に名前または番号が割り当てられます。

    - **コンテキストの手がかりとして含める行数。** ハイライトにコンテキストの手がかりとして含める、一致の前後の行数を指定します。サポートされる値: 1〜10。
    - **レポートに正規表現の一致のみを含める。** レポートに出力コンテンツ全体を含めるか、正規表現に一致するコンテンツのみを含めるかを制御します。このオプションを有効にすると、Citrix Cloud に送信されるデータ量が削減されます。このオプションが有効な場合、指定されたキーワードに関係なく、キーワードのハイライト機能は表示するコンテンツがありません。

- **詳細オプション。**

    - **ランタイムエラーが発生した場合でも出力を収集する。** タスクの実行中にエラーが発生した場合でも、出力ファイルの内容とコンソール出力を収集するかどうかを制御します。

スクリプトタスクのレポートを表示する

スクリプトタスク設定ページで、スクリプトタスクを見つけて省略記号を選択し、**レポートの表示**を選択します。その結果、**監視 > レポート**ページに移動し、タスクに関連するレポート（存在する場合）が表示されます。省略記号をクリックすると、詳細情報が表示されます。詳細については、レポートを参照してください。

アプリケーション

アプリケーションショートカットの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> - Citrix Studioを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe**は、Citrix Virtual Apps and Desktops公開アプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Managementエージェントが環境の処理を完了するようにします。詳細については、「Citrix Studioを使用したアプリケーション設定の編集」を参照してください。
> - 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アプリケーションリスト

既存のアプリケーションリソースのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

アプリケーションを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいアプリケーション**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

一般

- **名前**。アプリケーションリストに表示される、アプリケーションショートカットの表示名です。
- **説明**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。
- **アプリケーションの種類**。ショートカットが起動するアプリケーションの種類で、**インストール済みアプリケーション**、**ファイル/フォルダー**、**URL**、または**StoreFrontストア**のいずれかです。選択に応じて、次の値が必要です。
  - **コマンドライン**。クライアントマシンから見たアプリケーション実行可能ファイルへのパスです。**参照**ボタンを使用すると、ローカルにインストールされている実行可能ファイルを参照できます。
  - **作業ディレクトリ**。ショートカットの作業ディレクトリです。実行可能ファイルを参照すると自動的に入力されます。
  - **パラメータ**。アプリケーションの起動パラメータです。
  - **ターゲット**。(ファイル/フォルダー) アプリケーションが開くターゲットファイルまたはフォルダーの名前。
  - **ショートカットURL**。(URL) 追加するアプリケーションショートカットのURL。
  - **ストアURL**。(StoreFront™ ストア) ショートカットから起動したいリソースを含むStoreFrontストアのURL。
  - **ストア リソース**。(StoreFrontストア) ショートカットから起動したいStoreFrontストア上のリソース。**参照**ボタンを使用すると、リソースを参照して選択できます。

> **ヒント:**

> StoreFrontストアに基づいたアプリケーションを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。ストアのリソースを表示するために**参照**を初めてクリックすると、ダイアログが表示されます。このダイアログでは、Citrix Workspace™ app for Windowsにログオンするために使用する資格情報を入力するよう求められます。その

> 後、ストアリソースウィンドウが表示され、WEM管理コンソールマシンで実行されているCitrix Workspace app for Windowsによって取得された公開アプリケーションのリストが表示されます。

- **スタートメニュー統合**。スタートメニューでアプリケーションショートカットを作成する場所を選択します。デフォルトでは、新しいショートカットはプログラムに作成されます。

オプション

- **アイコンの選択**。アイコンファイルを参照して、アプリケーションのアイコンを選択できます。デフォルトでは、この設定はアプリケーション実行可能ファイルのアイコンを使用しますが、任意の有効なアイコンを選択できます。アイコンはデータベースにテキストとして保存されます。
    - **高解像度アイコンのみ**。選択ボックスにHDアイコンのみを表示します。
- **アプリケーションの状態**。アプリケーションショートカットが有効になっているかどうかを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。
- **メンテナンスモード**。有効な場合、この設定はユーザーがアプリケーションショートカットを実行するのを防ぎます。ショートカットアイコンは、アイコンが利用できないことを示す警告サインを含むように変更され、ユーザーが起動しようとすると、アプリケーションが利用できないことを知らせる短いメッセージが表示されます。これにより、公開アプリケーションがメンテナンス中であるシナリオを、アプリケーションショートカットリソースを無効にしたり削除したりすることなく、プロアクティブに管理できます。
- **表示名**。ユーザーの環境に表示されるショートカットの名前。
- **ホットキー**。ユーザーがアプリケーションを起動するためのホットキーを指定できます。ホットキーは大文字と小文字を区別し、次の形式で入力します（例）：Ctrl + Alt + S。
- **アクションの種類**。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

詳細設定

- **自動自己修復を有効にする**。選択すると、ユーザーがアプリケーションショートカットを移動または削除した場合、エージェントは更新時に自動的にショートカットを再作成します。
- **アイコンの場所を強制する**。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットの正確な場所を指定できます。値はピクセル単位です。
- **ウィンドウスタイル**。アプリケーションがエンドポイントで最小化、通常、または最大化されたウィンドウで開くかどうかを制御します。

- **セルフサービスに表示しない**。セッションエージェントがUIモードで実行されているときに、エンドユーザーが利用できるステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスからアプリケーションを非表示にします。これには、コンテキストメニューの「マイアプリケーション」アイコンリストと「アプリケーションの管理」フォームでの非表示が含まれます。
- **ユーザーのお気に入りフォルダーにショートカットを作成する**。エンドユーザーのお気に入りフォルダーにアプリケーションショートカットを作成します。

StoreFrontストアに基づいたアプリケーションエントリを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。これにより、WEM管理コンソールマシンにインストールされているCitrix Workspace app for Windowsによって、公開されているアプリケーションのリストを取得できます。

スタートメニュービュー

スタートメニュー内のアプリケーションショートカットリソースの場所をツリービューで表示します。

更新。アプリケーションリストを更新します。

移動。アプリケーションショートカットの移動先を選択できるウィザードを開きます。

編集。アプリケーション編集ウィザードを開きます。

削除。選択したアプリケーションショートカットリソースを削除します。

Citrix Studioを使用したアプリケーション設定の編集

Workspace Environment Management (WEM) は、発生する問題のトラブルシューティングを行うためのクライアント側ツールを提供します。VUEMAppCMDツール (**VUEMAppCmd.exe**) は、Citrix Virtual Apps and Desktopsで公開されたアプリケーションが開始される前に、WEMエージェントが環境の処理を完了するようにします。これはエージェントのインストールフォルダーにあります: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。

> **注:**
>
> 64ビットOSの場合は、代わりに`%ProgramFiles(x86)%`を使用してください。

> Citrix Studioを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。これを行うには、次の手順を完了します。

1. Citrix Studioの**Application Settings > Location**ページに移動します。

   Citrix Studioのアプリケーション設定(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/citrix-studio-application-settings.png)

2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。

   - 次のように入力します: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。

3. 開くアプリケーションを指定するコマンドライン引数を入力します。

   - **VUEMAppCmd.exe**を介して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe**を介して**iexplore.exe**を起動したいとします。その場合は、次のように入力します: `"%ProgramFiles%\Internet Explorer\iexplore.exe"`。

プリンター

このタブでプリンターのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用すると、Workspace Environment Managementアクションを拡張して、より強力にすることができます。

ネットワークプリンターリスト

既存のプリンターリソースのリストで、一意のIDが付いています。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでプリンターリストをフィルター処理できます。リボンにある**ネットワーク印刷サーバーのインポート**を使用してプリンターをインポートできます。

プリンターを追加するには

1. **ネットワークプリンターリスト**タブで、**追加**をクリックするか、空白の領域を右クリックしてコンテキストメニューから**追加**を選択します。

2. **新しいネットワークプリンター**ウィンドウで、必要な情報を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。プリンターリストに表示されるプリンターの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるプリンターへのパスです。

プリンターの状態。プリンターが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。プリンターに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自己修復。エージェントが更新されたときに、プリンターがユーザーに対して自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。**デバイスマッピングプリンターファイルの使用**の場合、ターゲットパスをXMLプリンターリストファイルへの絶対パスとして指定します（XMLプリンターリストの構成を参照）。エージェントが更新されると、このXMLファイルが解析され、アクションキューに追加するプリンターが検出されます。

プリンターをインポートするには

1. リボンで、**ネットワーク印刷サーバーのインポート**をクリックします。
2. **ネットワーク印刷サーバーからインポート**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

印刷サーバー名。プリンターをインポートする印刷サーバーの名前。

代替資格情報を使用。既定では、インポートは管理コンソールが現在実行されているWindowsアカウントの資格情報を使用します。このオプションを選択して、印刷サーバーへの接続に異なる資格情報を指定します。

ネットワークドライブ

ネットワークドライブのマッピングを制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークドライブリスト

既存のネットワークドライブのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

ネットワークドライブを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいネットワークドライブ**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ネットワークドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるネットワークドライブへのパスです。

ネットワークドライブの状態。ネットワークドライブを有効または無効に切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。ネットワークドライブに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自動自己修復を有効にする。エージェントが更新されたときに、ネットワークドライブがユーザーのために自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

ホームドライブとして設定。

アクションタイプ。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。既定値はネットワークドライブのマップです。

仮想ドライブ

仮想ドライブのマッピングを制御します。仮想ドライブとは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。

> **ヒント:**

> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

仮想ドライブリスト

既存の仮想ドライブのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

仮想ディスクを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **Administration Console > Actions > Virtual Drives > Virtual Drives List**タブに移動し、**追加**をクリックします。または、空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで**追加**を選択します。**新しい仮想ドライブ**ウィンドウが表示されます。
    a. **全般**タブで、必要な情報を入力し、仮想ドライブをホームドライブとして設定するかどうかを選択します。
    b. **OK**をクリックして変更を保存し、**新しい仮想ドライブ**ウィンドウを終了します。
2. **管理コンソール > 割り当て > アクション割り当て**タブに移動します。
    a. 仮想ドライブを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
    b. 仮想ドライブを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。
    c. **フィルターとドライブ文字の割り当て**ウィンドウで、**常にTrue**を選択し、ドライブ文字を選択して、**OK**をクリックします。仮想ドライブが**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

割り当てが有効になるまでには、**Advanced Settings > Configuration > Service Options**タブで**SQL設定の更新遅延**に指定した値に応じて、時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Administration Console > Administration > Agents > Statistics**タブに移動し、**更新**をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。

フィールドとコントロール

全般タブ

名前。仮想ドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。仮想ドライブに関する追加情報を指定できます。この情報は、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決される仮想ドライブへのパスを入力します。

仮想ドライブの状態。仮想ドライブを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。

ホームドライブとして設定。ホームドライブとして設定するかどうかを選択できます。

オプションタブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリエントリ

レジストリエントリの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

レジストリ値リスト

既存のレジストリエントリのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

レジストリエントリを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいレジストリ値**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。レジストリエントリリストに表示されるレジストリエントリの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

レジストリ値の状態。レジストリエントリが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。レジストリエントリが作成されるレジストリの場所です。Workspace Environment Managementは現在のユーザーのレジストリエントリのみを作成できるため、値の前に%ComputerName%\HKEY_CURRENT_USERを付ける必要はありません。これは自動的に行われます。

ターゲット名。レジストリ値の名前です。レジストリに表示されます（例: NoNtSecurity）。

ターゲットの種類。作成されるレジストリエントリの種類です。

ターゲット値。作成されたレジストリエントリの値 (例: 0 または C:\Program Files)

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにレジストリエントリを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management は、更新ごとにではなく、最初の更新時にのみレジストリエントリを作成するようになります。これにより、特に多くのレジストリエントリがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリファイルをインポートする

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には、次の制限があります。

- `HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ値のみをサポートします。レジストリエントリ機能では、`HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- `REG_BINARY` および `REG_MULTI_SZ` の種類のレジストリ値はサポートしていません。

制限を回避するには、**グループポリシー設定**の**レジストリファイルのインポート**オプションを使用して、レジストリファイルをWEMにインポートすることをお勧めします。詳細については、「レジストリファイルからのグループポリシー設定のインポート」を参照してください。

レジストリファイルをインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソールで、**アクション > レジストリエントリ**に移動します。
2. リボンで、**レジストリファイルのインポート**をクリックします。
3. **レジストリファイルからインポート**ウィンドウで、レジストリファイルを参照します。
4. **スキャン**をクリックして、レジストリファイルのスキャンを開始します。スキャンが正常に完了すると、レジストリ設定のリストが表示されます。
5. インポートするレジストリ設定を選択し、**選択したものをインポート**をクリックしてインポートプロセスを開始します。

6. **OK**をクリックして終了します。

フィールドとコントロール

レジストリファイル名。.regファイルに移動して**開く**をクリックすると、自動的に入力されます。**.reg**ファイルには、WEMにインポートするレジストリ設定が含まれています。**.reg**ファイルは、インポートしたいレジストリ設定のみが適用されたクリーンな環境から生成されている必要があります。

スキャン。.regファイルをスキャンし、そのファイルに含まれるレジストリ設定のリストを表示します。

レジストリ値リスト。インポートする**.reg**ファイルに含まれるすべてのレジストリ値を一覧表示します。

インポートされたアイテムを有効にする。無効にすると、新しくインポートされたレジストリキーはデフォルトで無効になります。

インポートされたアイテム名にプレフィックスを付ける。選択すると、このウィザードを通じてインポートされたすべてのレジストリアイテムの名前にプレフィックスが追加されます（例：「XP ONLY」または「finance」）。これにより、レジストリエントリの識別と整理が容易になります。

> **注:**
>
> ウィザードは、同じ名前のレジストリエントリをインポートできません。**.reg**ファイルに同じ名前のレジストリエントリが複数含まれている場合（レジストリ値リストに表示されているとおり）、これらのエントリのいずれかを選択してインポートします。他のものをインポートしたい場合は、名前を変更してください。

環境変数

環境変数の作成を制御します。

> **ヒント**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

環境変数リスト

既存の環境変数の一覧です。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

環境変数を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい環境変数**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。環境変数リストに表示される変数の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

環境変数の状態。環境変数を有効または無効に切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

変数名。環境変数の機能名です。

変数値。環境変数の値です。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

実行順序。

ポート

ポート機能を使用すると、クライアントCOMポートとLPTポートのマッピングが可能になります。Citrix Studioポリシーを使用して、COMポートとLPTポートの自動接続を有効にすることもできます。詳細については、「ポートリダイレクトポリシー設定」を参照してください。

ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix StudioでクライアントcomポートリダイレクトまたはクライアントLPTポートリダイレクトポリシーを有効にすることを忘れないでください。デフォルトでは、COMポートリダイレクトとLPTポートリダイレクトは禁止されています。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用すると、Workspace Environment Managementアクションを拡張して、より強力にすることができます。

ポートリスト

既存のポートのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいポート**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名です。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名です。

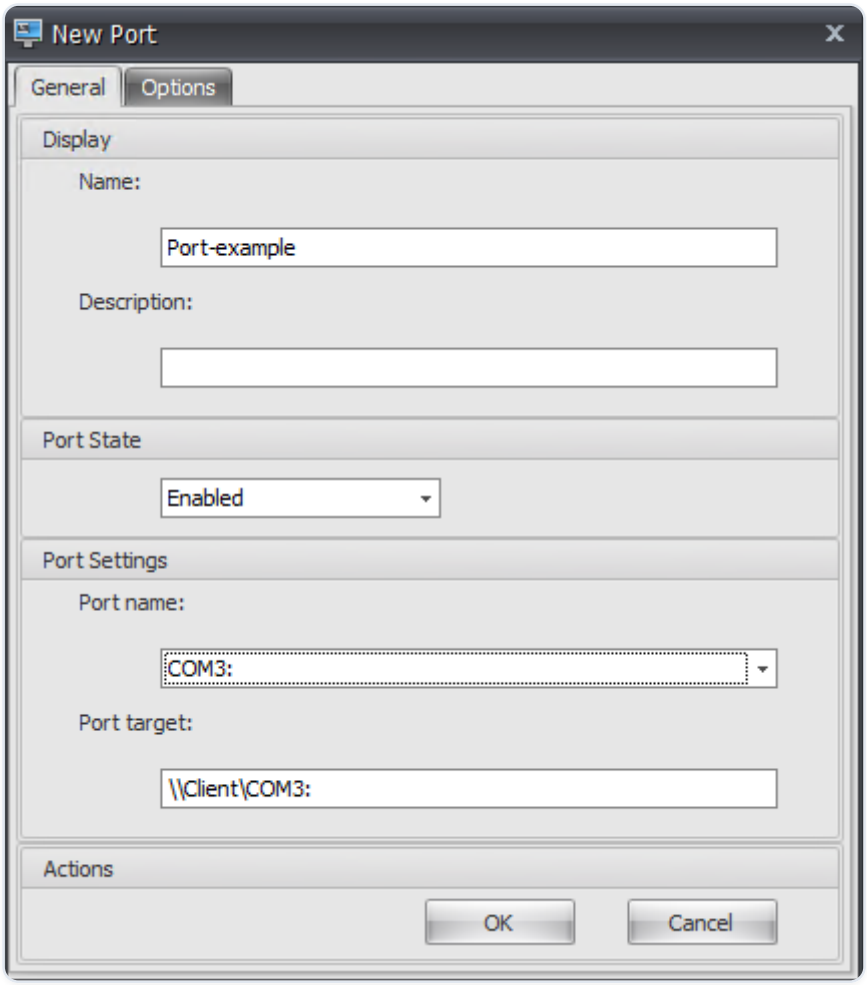
ポートターゲット。ターゲットポートです。

オプションタブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

たとえば、ポート設定は次のように構成できます。

- **ポート名**: 「COM3:」を選択します
- **ポートターゲット**: `\\Client\COM3:` と入力します:



INIファイル

INIファイルの操作の作成を制御し、**INI**ファイルを変更できるようにします。

> **ヒント:**
>
> より強力にするために、動的トークンを使用してWorkspace Environment Managementアクションを拡張できます。

INIファイル操作リスト

既存のINIファイル操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

INIファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいINIファイル操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。**INIファイル操作**リストに表示されるINIファイル操作の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

INIファイル操作の状態。INIファイル操作が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるINIファイルの場所を指定します。

ターゲットセクション。この操作のターゲットとなるINIファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定した場合、そのセクションが作成されます。

ターゲット値の名前。追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。これは値そのものを指定します。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびに .ini ファイル操作を実行します。このボックスをオンにすると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、操作を一度だけ実行するようになります。これにより、特に多くの .ini ファイル操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

外部タスク

外部タスクの実行を制御します。外部タスクには、エージェントホストがそれらを実行するための対応するプログラムを持っている限り、スクリプトやアプリケーションの実行が含まれます。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** および **.cmd** スクリプトがあります。

外部タスク機能を使用すると、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。これにより、ユーザー環境をより効果的に管理できます。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

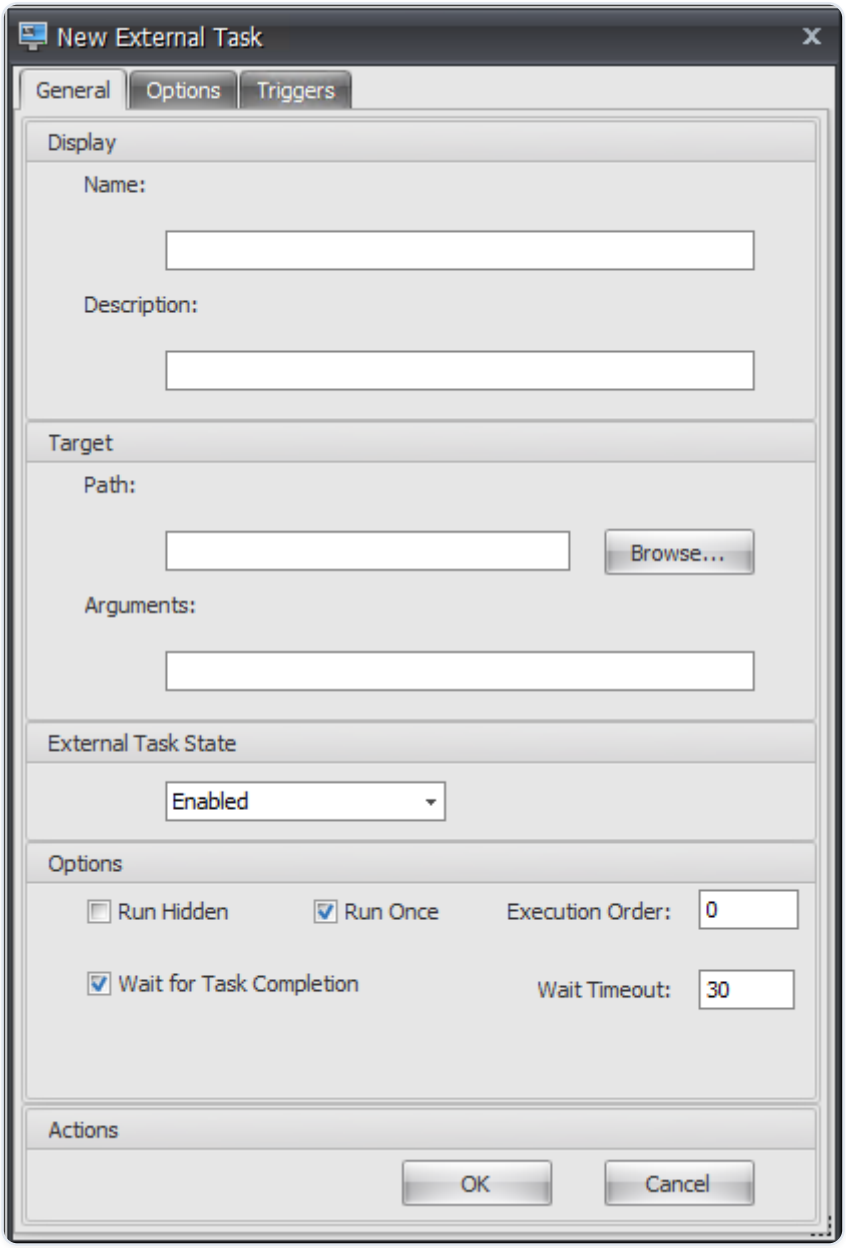
外部タスクリスト

既存の外部タスクのリストです。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。

外部タスクを追加するには

1. コンテキストメニューの **追加** コマンドを使用します。
2. **新しい外部タスク**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK** をクリックします。

フィールドとコントロール



名前。外部タスクの表示名を指定します。これは外部タスクリストに表示されます。

説明。外部タスクに関する追加情報を指定します。

パス。外部タスクへのパスを指定します。パスはユーザー環境で解決されます。以下を確認してください。

- ここで指定したパスがエージェントホストと一致していること。
- エージェントホストには、タスクを実行するための対応するプログラムがあります。

引数。起動パラメータまたは引数を指定できます。文字列を入力できます。この文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれます。**パス**フィールドと**引数**フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。

外部タスクの状態。外部タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられていても、エージェントはそのタスクを処理しません。

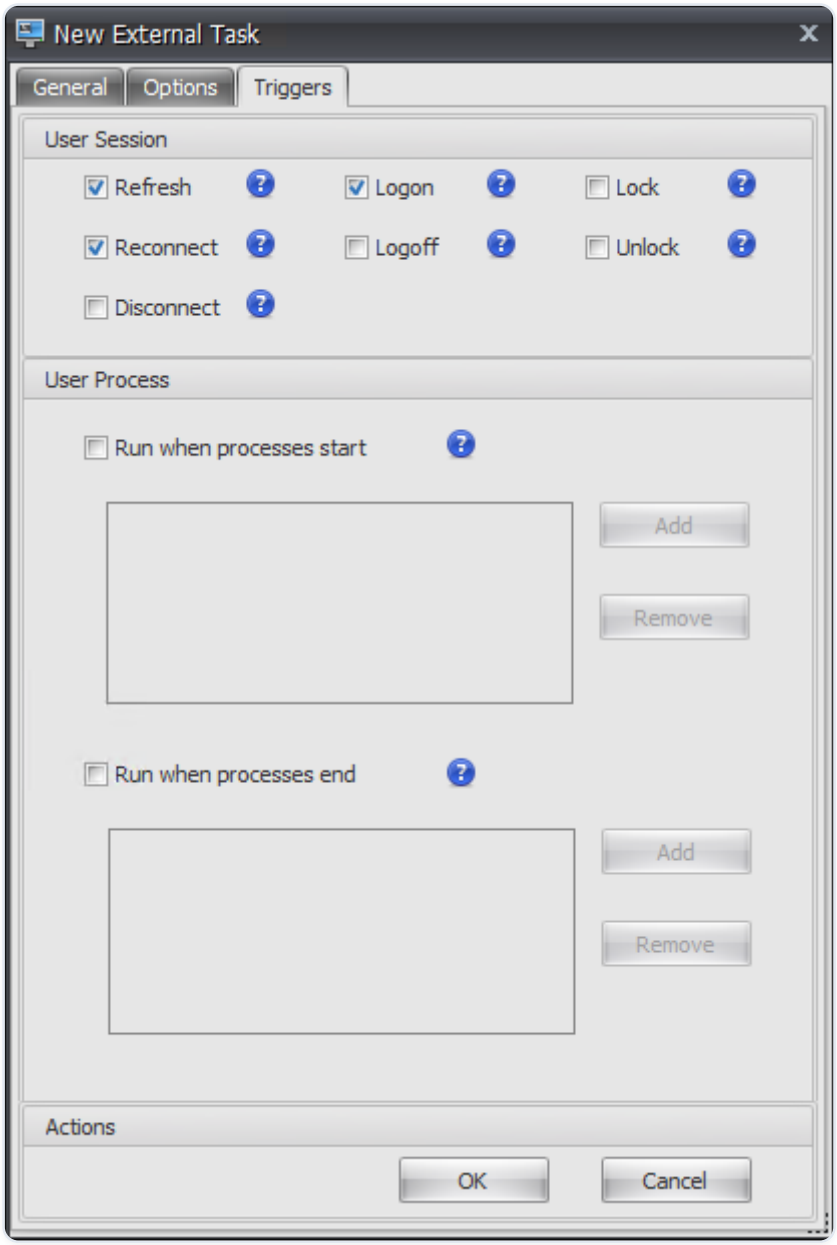
非表示で実行。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

1回実行。選択すると、**トリガー**タブでどのオプションを選択したか、およびエージェントが再起動したかどうかにかかわらず、WEMはタスクを1回だけ実行します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

実行順序。各タスクの実行順序を指定できます。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられており、それらのタスクの一部が他のタスクの正常な実行に依存している場合に役立ちます。デフォルトでは、値は0です。実行順序の値が0のタスクが最初に実行され、次に値が1のタスク、次に値が2のタスクというように実行されます。

タスク完了を待機。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定できます。デフォルトでは、**待機タイムアウト**の値は30秒です。

アクションの種類。外部タスクがどのような種類のアクションであるかを説明します。



ユーザーセッショントリガー。この機能を使用すると、以下のセッションアクティビティを外部タスクのトリガーとして構成できます。

- **更新**。ユーザーがエージェントを更新したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **再接続**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。WEMエージェントが物理Windowsデバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。
- **ログオン**。ユーザーがログオンしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- **ログオフ**。ユーザーがログオフしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。Citrix User Logon Serviceが実行されていない限り、このオプションは機能しません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **切断**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンから切断したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **ロック**。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロックしたときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **ロック解除**。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロック解除したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

切断、ロック、ロック解除のオプションを使用する場合は、次の制約を考慮してください。

- これらのオプションの実装は、Windowsイベントに基づいています。一部の環境では、これらのオプションが期待どおりに機能しない場合があります。たとえば、Windows 10またはWindows 11のシングルセッションVDAで実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに、ロックオプションを使用してください。(このシナリオでは、受信するアクションは「ロック」です。)
- これらのオプションはUIエージェントと組み合わせて使用することをお勧めします。理由は2つあります。
    - CMDエージェントでこれらのオプションを使用すると、対応するイベントが発生するたびに、外部タスクが実行されるかどうかを確認するために、エージェントがユーザー環境で起動します。
    - CMDエージェントは、同時タスクのシナリオで最適に機能しない可能性があります。

ユーザープロセスによるトリガー。この機能を使用すると、ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして構成できます。この機能を使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを供給し、プロセスが終了したときにそれらのリソースを取り消すように外部タスクを定義できます。プロセスを外部タスクのトリガーとして使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合と比較して、ユーザー環境をより正確に管理できます。

- この機能を使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。
    - WEMエージェントがUIモードで起動および実行されていること。
    - 指定されたプロセスが、ログオンしているユーザーと同じユーザーセッションで実行されていること。

    - 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、「**Advanced Settings > Configuration > Advanced Options**」タブで「**Enable Automatic Refresh**」を必ず選択してください。

- **プロセス開始時に実行**。指定されたプロセスが開始したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。
- **プロセス終了時に実行**。指定されたプロセスが終了したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。

トラブルシューティング

この機能を有効にすると、ユーザーが最初にログオフしたときに、WEMエージェントは`Citrix WEM Agent Logoff.log`という名前のログファイルを作成します。ログファイルはユーザーのプロファイルルートフォルダーにあります。ユーザーがログオフするたびに、WEMエージェントはログファイルに情報を書き込みます。この情報は、外部タスクに関連する問題を監視およびトラブルシューティングするのに役立ちます。

外部タスクの例

スクリプトの場合（例: PowerShellスクリプト）:

- フォルダーパスもスクリプト名も空白を含まない場合:
    - **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
    - **引数**フィールドに、次のように入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

  あるいは、**パス**フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。**引数**フィールドには、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開かれるかは、ユーザー環境で構成されているファイルの種類に関連付けによって異なります。ファイルの種類に関連付けの詳細については、「ファイルの種類に関連付け」を参照してください。
- フォルダーパスまたはスクリプト名に空白が含まれる場合:
    - **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
    - **引数**フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーションの場合（例: iexplore.exe）:

- **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- **引数**フィールドに、開くWebサイトのURLを入力します: `https://docs.citrix.com/`。

ファイルシステム操作

ユーザーの環境へのフォルダーとファイルのコピーを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルシステム操作リスト

既存のファイルおよびフォルダー操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

ファイルシステム操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイルシステム操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダー操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集または作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステム操作の状態。ファイルシステム操作が有効か無効かを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーへのパスです。

ターゲットパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーの宛先パスです。

既存の場合にターゲットを上書き。ファイルまたはフォルダー操作が、ターゲットの場所に同じ名前の既存のファイルまたはフォルダーを上書きするかどうかを制御します。このオプションがオフで、ターゲットの場所に同じ名前のファイルまたはフォルダーが既に存在する場合、影響を受けるファイルはコピーされません。

一度だけ実行。デフォルトでは、ワークスペース環境管理™ はエージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。このオプションを選択すると、ワークスペース環境管理 は更新ごとにではなく、操作を一度だけ実行します。これにより、特に多くのファイルシステム操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このファイルまたはフォルダーアクションがどのような種類のアクションであるかを説明します。**コピー**、**削除**、**移動**、**名前の変更**、または**シンボリックリンク**操作です。シンボリックリンクを作成するには、Windowsでシンボリックリンクの作成を許可するために、ユーザーに`SeCreateSymbolicLinkPrivilege`権限を付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作より先に実行できるようにします。実行順序の値が0の操作が最初に実行され、次に値が1の操作、次に値が2の操作、というように続きます。

ユーザーDSN

ユーザーDSNの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ユーザーDSNリスト

既存のユーザーDSNのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーDSNを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいユーザーDSN**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザーDSNリストに表示されるユーザーDSNの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザーDSNの状態。ユーザーDSNが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

DSN名。ユーザーDSNの機能名です。

ドライバー。DSNドライバー。現在、SQL Server DSNのみがサポートされています。

サーバー名。ユーザーDSNが接続するSQL Serverの名前です。

データベース名。ユーザーDSNが接続するSQLデータベースの名前。

特定の資格情報を使用して接続。サーバー/データベースに接続するための資格情報を指定できます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにユーザーDSNを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management はユーザーDSNを更新ごとにではなく、一度だけ作成するようになります。これにより、特に多くのDSNがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ファイル関連付け

> **重要:**

> 構成したファイルの種類関連付けは、自動的に既定の関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法を選んでください」というウィンドウが表示され、ファイルを開くアプリケーションを選択するよう求められる場合があります。ウィンドウを閉じるには、**OK**をクリックします。同様のウィンドウを再度表示したくない場合は、次の手順を実行します。グループポリシーエディターを開き、**「新しいアプリケーションがインストールされた」通知を表示しない**ポリシー（**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**）を有効にします。

> ユーザー環境でのファイルの種類関連付けの作成を制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイル関連付けリスト

既存のファイル関連付けのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルターできます。

ファイル関連付けを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイル関連付け**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ファイル関連付けリストに表示される、ファイル関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイル関連付けが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルの種類関連付けに使用される拡張子です。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID**フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルの種類が存在する場合）。拡張子を直接入力することもできます。ただし、ブラウザー関連付けの場合は、拡張子を直接入力する*必要があります*。詳細については、「ブラウザー関連付け」を参照してください。

ProgID。アプリケーション（COM）に関連付けられたプログラム識別子です。リストからファイル拡張子を選択すると、この値が自動的に入力されます。ProgIDを直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションのProgIDを検出するには、OLE/COM Object Viewer（oleview.exe）を使用し、「Object Classes/Ole 1.0 Objects」を参照してください。ProgIDの詳細については、「プログラム識別子 (ProgID)」を参照してください。

アクション。アクションの種類（開く、編集、印刷）を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用される実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。例: UltraEdit Text Editor の場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションの種類を指定できます。例:

- 開くアクションの場合、`“%1”` と入力します。
- 印刷アクションの場合、`/p"%1"` と入力します。

既定のアクションとして設定。そのファイル名拡張子の既定として関連付けを設定するかどうかを切り替えます。

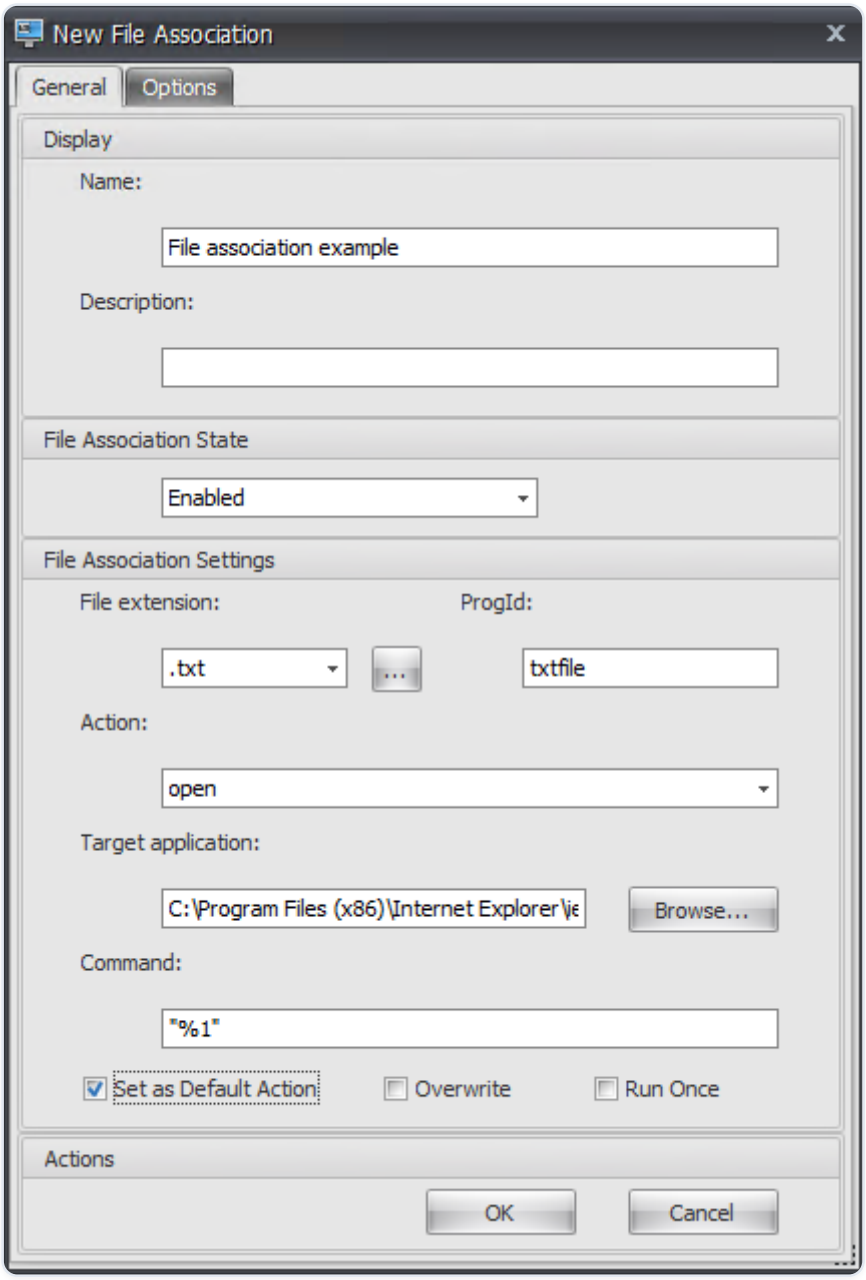
上書き。このファイル関連付けが、指定された拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

1回実行。既定では、Workspace Environment Management™ (WEM) はエージェントが更新されるたびにファイル関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新ごとにではなく、ファイル関連付けが1回作成されます。これにより、特に多くのファイル関連付けがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

たとえば、ユーザーが選択したプログラム (ここでは iexplore.exe) でテキストファイル (.txt) を自動的に開くように、新しいファイルタイプ関連付けを追加するには、次の手順を実行します。

1. **管理コンソール \> アクション \> ファイル関連付け \> ファイル関連付けリスト**タブで、**追加**をクリックします。
2. **新しいファイル関連付け**ウィンドウで、情報を入力し、**OK**をクリックします。



- **ファイル関連付けの状態**。**有効**を選択します。
- **ファイル拡張子**。ファイル名拡張子を入力します。この例では、「.txt」と入力します。
- **アクション**。**開く**を選択します。
- **ターゲットアプリケーション**。**参照**をクリックして、該当する実行可能ファイル（.exeファイル）に移動します。この例では、C:\Program Files (x86)\Internet Explorerフォルダーにあるiexplore.exeを参照します。
- **コマンド**。「%1」と入力し、%1を二重引用符で囲んでください。
- **既定のアクションとして設定**を選択します。

3. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**タブに移動します。
4. アクションを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

5. **管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。
6. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。
7. エージェントが実行されているマシン（ユーザー環境）に移動し、作成されたファイルタイプの関連付けが機能することを確認します。

この例では、エンドユーザー環境で.txt拡張子のファイルをダブルクリックすると、そのファイルは自動的にInternet Explorerで開きます。

知っておくと良いこと

ブラウザの関連付け

WEMは、以下のブラウザの関連付け作成をサポートしています。

- グーグル クローム
- ファイアーフォックス
- オペラ
- インターネット エクスプローラー (IE)
- マイクロソフト エッジ
- マイクロソフト エッジ クロミウム

ブラウザの関連付けを作成する際は、次の点に注意してください。

- **ファイル拡張子**フィールドに、`http` または `https` と入力します。
- **ProgID**フィールドに、選択内容に基づいて次のように入力します（大文字と小文字を区別します）。
  - Google Chrome の場合は `ChromeHTML`
  - Firefox の場合は `firefox`
  - Opera の場合は `OperaStable`
  - Internet Explorer (IE) の場合は `IE`
  - Microsoft Edge の場合は `edge`
  - Microsoft Edge Chromium の場合は `edge` または `MSEdgeHTM`

プログラム識別子 (ProgID)

アクション、**ターゲットアプリケーション**、**コマンド**の各フィールドに入力する必要はなくなりました。正しい**ProgID**を指定できる限り、これらのフィールドは空のままで構いません。一般的なアプリケーションのProgIDのリストを以下に示します。

- アクロバット リーダー DC： `AcroExch.Document.DC`
- Opera ブラウザ: `OperaStable`
- Google Chrome ブラウザ: `ChromeHTML`
- インターネット エクスプローラー： `htmlfile`
- ワードパッド: `textfile`
- メモ帳: `txtfile`
- マイクロソフト Word 2016: `Word.Document.12`
- マイクロソフト PowerPoint 2016: `PowerPoint.Show.12`
- マイクロソフト Excel 2016: `Excel.Sheet.12`
- マイクロソフト Visio 2016: `Visio.Drawing.15`
- マイクロソフト Publisher 2016: `Publisher.Document.16`

ただし、次の場合はフィールド (**アクション**、**ターゲットアプリケーション**、および**コマンド**) を入力する必要があります。

- 正しい **ProgID** を提供できない場合。
- ターゲットアプリケーション (例: UltraEdit Text Editor) がインストール中にレジストリに独自の ProgID を登録しない場合。

フィルター

フィルターには、ユーザーがアクションを利用できるようにする（アクションを割り当てる）ためのルールと条件が含まれています。ユーザーにアクションを割り当てる前に、ルールと条件を設定してください。

ルール

ルールは複数の条件で構成されます。ルールを使用して、アクションがユーザーに割り当てられるタイミングを定義します。

フィルター規則リスト

既存のルールの一覧です。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター規則を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター規則**ダイアログに詳細を入力します。
3. このルールで構成したい条件を、**利用可能**リストから**構成済み**リストに移動します。
4. **OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ルールリストに表示されるルールの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、ルールに関する追加情報を指定できます。

フィルター規則の状態。ルールが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、エージェントは、割り当てられていてもこのルールを使用するアクションを処理しません。

利用可能な条件。これらは、ルールに追加できるフィルター条件です。注：**DateTime**フィルターは、`YYYY/MM/DD HH:mm`の形式で結果を期待します。

複数の値はセミコロン (;) で区切ることができ、範囲はハイフンで区切ることができます。同じ日付の2つの時刻間の範囲を指定する場合、日付は範囲の両端に含める必要があります。例: 1969/12/31 09:00-1969/12/31 17:00

構成済み条件。これらは、すでにルールに追加されている条件です。

> **注:**
>
> これらの条件は**AND**ステートメントであり、**OR**ステートメントではありません。複数の条件を追加する場合、フィルターがトリガーされたと見なされるには、すべての条件がトリガーされる必要があります。**OR**条件はWEM Webconsoleにのみ適用され、エージェントのバージョンは2210.2.0.1以上である必要があります。詳細については、「フィルターの追加」を参照してください。

条件

条件とは、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を設定できる特定のトリガーです。

フィルター条件リスト

既存の条件のリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルターできます。

フィルター条件を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター条件**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。条件リストおよびルール作成/編集ウィザードに表示される条件の表示名です。

説明。このフィールドは編集/作成ウィザードにのみ表示され、条件に関する追加情報を指定できます。

フィルター条件の状態。フィルターを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ルール作成/編集ウィザードには表示されません。

フィルター条件の種類。使用するフィルター条件の種類です。「フィルター条件」を参照してください。注: 「常にTrue」条件を使用するルールは常にトリガーされます。

設定。これらは個々の条件の特定の設定です。「フィルター条件」を参照してください。

> **注:**

> IPアドレスを入力する際、個々のアドレスまたは範囲を指定できます。

> If you specify a range, both bounds must be specified in full. Use the dash character (**-**) to separate IP range bounds (for example **192.168.10.1-192.168.10.5**). Separate multiple ranges or addresses using the semicolon character (**;**) . For example, **192.168.10.1-192.168.10.5;192.168.10.8-192.168.10;192.168.10.17** is a valid value which includes the ranges **.1-.5** and **.8-.10**, plus the individual address **.17**.

割り当て

> **ヒント:**

ユーザーにアクションを割り当てる前に、以下の手順を記載されている順序で実行してください。

- ユーザーを構成します。Active Directoryオブジェクトのユーザーを参照してください。
- 条件を定義します。条件を参照してください。
- フィルター規則を定義します。規則を参照してください。
- アクションを構成します。詳細はこちらに記載されています。

割り当てを使用して、ユーザーがアクションを利用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

アクションの割り当て

ユーザー

これは、構成済みのユーザーとグループのリストです (Active Directoryオブジェクトのユーザーを参照)。ユーザーまたはグループをダブルクリックして、割り当てメニューを表示します。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

> **ヒント:**

Active Directoryのすべてのユーザーにアクションを簡単に割り当てるには、「Everyone」デフォルトグループを使用してアクションを割り当てます。「Everyone」デフォルトグループに割り当てたアクションは、個々のユーザーの**アクションモデリングウィザード**の**結果のアクション**タブには表示されません。たとえば、「Everyone」デフォルトグループにaction1を割り当てた後、action1が**結果のアクション**タブに表示されない場合があります。

割り当て

選択したユーザーまたはグループにアクションを割り当てることができます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

利用可能。このユーザーまたはグループに割り当て可能なアクションを表示します。

アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てるか割り当てを解除します。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するための規則を選択するよう求められます。

割り当て済み。このユーザーまたはグループにすでに割り当てられているアクションを表示します。個々のアクションを展開して構成できます (アプリケーションショートカットの場所、デフォルトプリンター、ドライブ文字など)。

ユーザー/グループにアクションを割り当てるには

1. **ユーザー**リストで、ユーザーまたはグループをダブルクリックします。これにより、割り当てリストが入力されます。
2. **利用可能**リストで、アクションを選択し、右矢印 (**>**) ボタンをクリックします。
3. **フィルターの割り当て**ダイアログで、**フィルター ルール**を選択し、**OK**をクリックします。
4. **割り当て済み リスト**では、**有効化**および**無効化**のコンテキストアクションを使用して、割り当ての動作を微調整できます。

> **注:**
>
> **スタートメニューにピン留め**オプションを機能させるには、アプリケーションのショートカットがスタートメニューフォルダーに存在することを確認してください。不明な場合は、**スタートメニューの作成**オプションも有効にしてください。

> たとえば、メモ帳を起動するアクションを割り当てるとします。割り当て済みリストでは、「自動起動」オプションが提供され、デフォルトで「無効」に設定されています。**有効化**オプションを使用して自動起動を有効にすると、ユーザーが公開デスクトップセッションを起動したときにメモ帳（VDA上のローカルメモ帳）が自動的に起動します（デスクトップの読み込みが完了すると、ローカルメモ帳が自動的に起動します）。

モデリングウィザード

アクションモデリングウィザードは、特定のユーザーの結果アクションのみを表示します（グループには機能しません）。

フィールドとコントロール

アクションモデリングターゲットユーザー。モデル化するユーザーのアカウント名。

結果アクション。ユーザーまたはユーザーが属するグループに割り当てられたアクション。

ユーザーグループ。ユーザーが属するグループ。

システム最適化

Workspace Environment Management™ のシステム最適化は、次の要素で構成されます。

- CPU管理
- メモリ管理
- I/O管理
- 高速ログオフ
- シトリックス オプティマイザー

これらの設定は、エージェントホストでのリソース使用量を削減するように設計されています。これにより、解放されたリソースが他のアプリケーションで利用可能になることが保証されます。同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースであり、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。これは、プロセスがユーザーAのセッションでCPUスパイク保護をトリガーした場合、そのイベントはユーザーAのみに記録されることを意味します。ユーザーBが同じプロセスを開始した場合、プロセス最適化の動作はユーザーBのセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU管理

次の設定により、CPU使用率を最適化できます。

CPU管理設定

プロセスはすべてのコアで実行でき、必要なだけCPUを使用できます。Workspace Environment Management™ (WEM) の **CPU管理設定** を使用すると、個々のプロセスが使用できるCPU容量を制限できます。CPUスパイク保護は、CPU使用率全体を削減するようには設計されていません。これは、過剰な割合のCPU使用率を消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPUスパイク保護が有効になっている場合、プロセスが指定されたしきい値に達すると、WEMは一定期間、そのプロセスの優先度を自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先度の低いプロセスよりも高い優先度を持ち、システムはスムーズに動作し続けます。

CPUスパイク保護は、各プロセスを迅速な「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が指定されたサンプル時間の指定された使用制限を超えると、その優先度は直ちに低下します。指定された時間が経過すると、プロセスのCPU優先度は以前の値に戻ります。プロセスは「スロットリング」されません。**CPUクランプ** とは異なり、優先度のみが低下します。

個々のプロセスの少なくとも1つのインスタンスがしきい値を超えるまで、CPUスパイク保護はトリガーされません。つまり、CPU消費量全体が指定されたしきい値を超えても、少なくとも1つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスがCPUスパイク保護をトリガーすると、「インテリジェントCPU最適化を有効にする」オプションが有効になっている場合、同じプロセスの新しいインスタンスは（CPU）最適化されます。

特定のプロセスがCPUスパイク保護をトリガーするたびに、そのイベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。これは、user1の特定のプロセスのCPU最適化が、user2の同じプロセスの動作に影響を与えないことを意味します。

たとえば、Internet ExplorerがCPUの50～60%を消費している場合、CPUスパイク保護を使用して、VDAのパフォーマンスを脅かすiexplore.exeインスタンスのみをターゲットにすることができます。（対照的に、CPUクランプはすべてのプロセスに適用されます。）

同じVDAにログオンしている他のユーザーに影響を与えない、環境に最適な値を決定するために、サンプル時間を試すことをお勧めします。

CPUスパイク保護

> **注:**
>
> - 以下の設定における *CPU使用率* は、物理マシンまたは仮想マシンの *論理プロセッサ* に基づいています。論理プロセッサの総数は、物理マシンまたは仮想マシンのシステム情報から取得できます。物理マシンまたはVMに合計48個の論理プロセッサがある場合、物理マシンまたはVMでCPUスパイク保護をトリガーするプロセスがそのコアの半分を使用するように制限するには、CPUコア使用率の制限を24に設定します。

CPUスパイク保護を有効にする。プロセスが指定された期間（**制限サンプル時間** フィールドで指定）に指定されたCPU使用率を超えた場合、一定期間（**アイドル優先時間** フィールドで指定）プロセスのCPU優先度を下げます。

- **CPUスパイクを自動的に防止**。このオプションを使用して、CPUに過負荷をかけるプロセスのCPU優先度を自動的に下げます。このオプションは、論理プロセッサ（CPUコア）の数に基づいて、CPUスパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、4つのコアがあるとします。このオプションを有効にすると、全体のCPU使用率が23%を超えた場合、全体のCPUリソースの15%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。同様に、8コアの場合、全体のCPU使用率が11%を超えた場合、CPUリソースの8%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。
- **CPUスパイク保護をカスタマイズ**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
    - **CPU使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達する必要があるCPU使用率の割合。この制限は、サーバー内のすべての論理プロセッサでグローバルであり、プロセスごとのインスタンスに基づいて決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスの場合、CPUスパイク保護のトリガーを決定する際に、CPU使用率の割合は加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、Server VDAで、複数の同時セッションにおいて、多数のiexplore.exeインスタンスがあるとします。各インスタンスは一時的にCPU使用率が約35%に達するため、累積的にiexplore.exeは常に高いCPU使用率を消費しています。ただし、CPU使用率の制限を35%以下に設定しない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。
    - **制限サンプル時間**。プロセスのCPU優先度が低下するまでに、そのプロセスがCPU使用率の制限を超過し続ける必要がある時間。
    - **アイドル優先度時間**。プロセスのCPU優先度が低下する時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。
        - プロセス優先度が**CPU優先度**タブで指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）になります。
        - **インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、プロセス優先度が**CPU優先度**タブで指定されている場合、指定されたレベルになります。
        - プロセスの動作に応じてランダムなレベルになります。このケースは、プロセス優先度が**CPU優先度**タブで指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

CPUコア使用率の制限を有効にする。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1からXまでの整数を入力します。Xはコアの総数で

す。Xより大きい整数を入力した場合、WEMはデフォルトで、分離されたプロセスの最大消費量をXに制限します。

- **CPUコア使用率を制限する**。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力した値は、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスを制限します。

インテリジェントCPU最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いCPU優先度が割り当てられます。WEMは、次のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しないことに注意してください。

- タスクマネージャー
- システムアイドルプロセス
- システム
- エスブイシーホスト
- LSASS
- ウィンイニット
- サービス
- シーエスアールエスエス
- オーディオディーグ
- MsMpEng
- NisSrv
- エムエスコースブイダブリュー
- ブイエムウェアレゾリューションセット

インテリジェントI/O最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いI/O優先度が割り当てられます。

指定されたプロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsのコアサービスプロセスをすべて除外します。ただし、このオプションを使用して、実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でCPUスパイク保護の除外リストからプロセスを**追加**または**削除**できます。通常、ウイルス対策プロセスは除外されます。

ヒント:

- セッションでウイルス対策スキャンがディスクI/Oを占有するのを防ぐために、ウイルス対策プロセスの静的I/O優先度を「低」に設定することもできます。「I/O管理」を参照してください。
- プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスのCPU優先度が下げられると、WEMはプロセスのCPU優先度を下げるたびに警告をログに記録します。イベントログの「アプリケーションとサービスログ」にある「WEM Agent Service」で、「**Initializing process limitation thread for process**」を探してください。

CPUスパイク保護オプション

CPUスパイク保護をどのように適用するかを選択します。

- **CPUスパイクを自動的に防止する**。このオプションを使用すると、システムCPU使用率（単一CPUコアに対する相対値）が90%を超え、プロセスCPU使用率（単一CPUコアに対する相対値）が80%を超えた場合に、エージェントがCPUスパイク保護を実行します。
- **CPUスパイク保護をカスタマイズする**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達しなければならないCPU使用率の割合。この制限は、サーバー上のすべての論理プロセッサにわたってグローバルであり、インスタンスごとのプロセスに基づいて決定されます。単一CPUコアを基準として制限を構成するには、「**単一CPUコアに対する相対制限を設定する**」オプションを使用します。

注:

  - 整数値と非整数値の両方がサポートされています。非整数値（例: 37.5%）を入力すると、8コアプラットフォームで3コア以上を使用するプロセスが制限されます。
  - **単一CPUコアに対する制限を設定**。単一のCPUコアを基準としてCPU使用率の制限を設定できます。値は100%を超えることもできます（例: 200%または250%）。例: 値が200%に設定されている場合、エージェントは2つ以上のCPUコアを使用するプロセスを最適化します。整数値と非整数値の両方がサポートされています。「**単一CPUコアに対する制限を設定**」設定は、WEM Webコンソールでのみ構成できます。

- **CPUスパイク保護のカスタマイズ**が構成されている場合、グローバルCPU使用率制限または単一CPUコアに対するCPU使用率制限のいずれか早い方が到達したときに、CPUスパイク保護がトリガーされます。

CPUスパイク保護をトリガーするプロセスの場合、エージェントは次のことができます。

- 「**CPUコア使用率制限を有効にする**」オプションが選択されていない場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を下げます。
- 「**CPUコア使用率制限を有効にする**」オプションが選択されている場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を下げ、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。

CPUスパイク保護を構成する際は、次の点に注意してください。

- 同じプロセスの複数のインスタンスは、CPUスパイク保護のトリガーを決定する際にCPU使用率が加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、複数の同時セッションを持つマルチセッションVDAの場合、複数のchrome.exeプロセスが存在します。CPU使用率を計算する際に、それらのCPU使用率が合計されることはありません。

CPUスパイク保護のサンプリング時間

サンプル時間制限。CPUスパイク保護が適用される前に、プロセスがCPU使用率制限を超過し続ける必要がある時間。

CPUスパイク保護の優先度低下時間

アイドル優先度時間。プロセスのCPU優先度が低下する時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。

プロセス優先度が「**CPU優先度**」タイルで指定されておらず、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）。 プロセス優先度が「**CPU優先度**」タイルで指定されている場合、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベル。 プロセスの動作に応じて計算されたランダムなレベル。これは、プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されておらず、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

その他のオプション

CPUコア使用率制限を有効にする。このオプションを使用して、CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の特定の数の論理プロセッサに制限します。

CPU優先度

これらの設定は、プロセスがリソースを競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスのCPU優先度レベルを最適化できるため、CPUプロセッサ時間を競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすことはありません。プロセスが互いに競合する場合、優先度の低いプロセスは、優先度の高い他のプロセスの後に処理されます。したがって、全体のCPU消費量の大部分を消費する可能性は低くなります。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセスのすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、つまり「現在の」優先度は高くなる可能性があります（ただし、ベースより低くなることはありません）。多数のプロセスがコンピューターで実行されている場合、プロセッサ時間はCPU優先度レベルに基づいてそれらの間で共有されます。プロセスのCPU優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。

> **注:**
>
> 特定のプロセスのCPU優先度レベルを低く設定しても、全体のCPU消費量が必ずしも減少するとは限りません。他のプロセス（CPU優先度が高い）がCPU使用率に影響を与え続けている可能性があります。

> **プロセス優先度を有効にする**。選択すると、プロセスのCPU優先度を手動で設定できます。

プロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセスCPU優先度の追加**ダイアログボックスに詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスCPU優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが再起動されたときに有効になります。

   プロセス名。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名。たとえば、Windows Explorer (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

   CPU優先度。プロセスのすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。リアルタイム、高、通常以上、通常、通常以下、低から選択します。

プロセスを編集するには

プロセスを選択し、**編集**をクリックします。

プロセスを削除するには

プロセスを選択し、**削除**をクリックします。

CPUアフィニティ

プロセスアフィニティを有効にする。有効にすると、プロセスが使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDAで起動されたNotepadのすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

CPUクランプ

CPUクランプは、プロセスがCPU処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぎます。WEMは、設定した指定のCPU使用率に達すると、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量のCPUを消費するのを防ぐことができます。

> **注:**
>
> - CPUクランプは、計算コストが高いブルートフォースアプローチです。問題のあるプロセスのCPU使用率を人為的に低く保つには、CPUスパイク保護を使用するとともに、そのようなプロセスに静的CPU優先度とCPUアフィニティを割り当てる方が適切です。CPUクランプは、リソース管理が著しく苦手でありながら、優先度を下げることができないプロセスを制御する場合に最適です。
> - プロセスにCPU処理能力の割合を適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定した後、変更を有効にするには、**エージェントホスト設定の更新**を選択します。

> 設定するクランプの割合は、サーバー内の個々のCPUの総電力に適用され、そのCPUに含まれる個々のコアには適用されません。（つまり、クアッドコアCPUでの10%は、CPU全体の10%であり、1つのコアの10%ではありません）。

プロセスクランプを有効にする。プロセスクランプを有効にします。

追加。実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でプロセスを追加します。

削除。強調表示されたプロセスをクランプリストから削除します。

編集。特定のプロセスに入力された値を編集します。

> **ヒント:**

- WEMがプロセスをクランプしている場合、WEMクライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示することで、プロセスがクランプされていることを確認できます。
- また、プロセスモニターを確認し、CPU消費量がクランプの割合を超えないことを確認することで、CPUクランプが機能していることを検証できます。

メモリ管理

これらの設定により、Workspace Environment Management™ (WEM) を通じてアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

メモリ管理

これらの設定が有効になっている場合、WEMはプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEMはその差を余剰メモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEMはプロセスが消費する余剰メモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

アプリケーションがタスクバーから復元されると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEMはユーザーがデスクトップセッション中に使用しているすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションにわたって複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで利用可能になります。この動作により、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する。指定された時間アイドル状態のままになっているプロセスに、アイドル状態ではなくなるまで余剰メモリを解放させます。

アイドルサンプル時間 (分)。プロセスがアイドル状態と見なされ、その後余剰メモリの解放を強制される時間の長さを指定できます。この間、WEMはプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は120分です。

アイドル状態の制限 (パーセント)。プロセスがアイドル状態と見なされるCPU使用率のしきい値を指定できます。デフォルトは1%です。5%を超える値を使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドル状態と誤解され、メモリが解放される可能性があります。

利用可能な合計メモリが超過した場合に最適化しない (MB)。WEMがアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名を指定します（例: notepad.exe）。

WEMは、以下のシステムプロセスに対してアプリケーションのメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`
- `wfshell`
- `rdpclip`
- `wmiprvse`
- `dllhost`
- `audiodg`
- `msdtc`
- `mscorsvw`
- `spoolsv`
- `smss`
- `winlogon`
- `svchost`
- `taskmgr`
- `System Idle Process`
- `System`
- `LSASS`
- `wininit`
- `msiexec`
- `services`
- `csrss`
- `MsMpEng`
- `NisSrv`
- `Memory Compression`

メモリ使用量制限

特定のプロセスのメモリ使用量制限を有効にする。プロセスが消費できるメモリの上限を設定することで、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

> **警告:**
>
> 特定のプロセスにメモリ使用量制限を適用すると、システム応答の遅延など、意図しない影響が生じる可能性があります。

- **追加。**メモリ使用量制限を適用するプロセスを追加できます。
- **削除。**項目を削除できます。
- **編集。**項目を編集できます。
- **動的制限。**指定したプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用すると、利用可能なメモリに応じてメモリ使用量制限が適用されます。そのため、指定したプロセスが消費するメモリが指定量を超える場合があります。
- **静的制限。**指定したプロセスに静的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を常に制限します。適用すると、利用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定されたメモリ量を超えて消費することを制限します。結果として、指定したプロセスが消費するメモリは指定された量に制限されます。

プロセスを追加するには：

1. 「**管理コンソール > システム最適化 > メモリ管理 > メモリ使用量制限**」タブで、**追加**をクリックします。
2. 「**プロセスの追加**」ウィンドウで、追加するプロセスの名前（例：notepad.exe）を入力し、メモリ使用量制限を構成し、ドロップダウンメニューから制限モードを選択して、**OK**をクリックします。

項目を編集するには、項目を選択して**編集**をクリックします。

項目を削除するには、項目を選択して**削除**をクリックします。

項目に動的制限を適用するには、項目を選択して**動的制限**をクリックします。

項目に静的制限を適用するには、項目を選択して**静的制限**をクリックします。

I/O 管理

これらの設定を使用すると、特定のプロセスの I/O 優先度を最適化できるため、ディスクおよびネットワーク I/O アクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすことはありません。たとえば、I/O 管理設定を使用して、ディスク帯域幅を大量に消費するアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、より高くなる可能性があります（ただし、ベースより低くなることはありません）。一般に、Windows は、優先度の低いスレッドよりも優先度の高いスレッドにアクセスを許可します。

I/O 優先度

プロセス I/O 優先度を有効にする。プロセス I/O 優先度の手動設定を有効にします。

I/O 優先度リストにプロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセス I/O 優先度の追加**ダイアログに詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセス I/O 優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子を含まないプロセス実行可能ファイル名。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

I/O 優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの I/O 優先度が高いほど、そのスレッドはより早く I/O アクセスを取得します。高、標準、低、非常に低から選択します。

プロセス I/O 優先度項目を編集するには

プロセス名を選択し、**編集**をクリックします。

I/O 優先度リストからプロセスを削除するには

プロセス名を選択し、**削除**をクリックします。

高速ログオフ

高速ログオフは、リモートセッションへのHDX™接続を即座に終了させ、ユーザーにセッションがすぐに閉じられたという印象を与えます。しかし、セッション自体はVDA上でバックグラウンドでセッションログオフフェーズを続行します。

> **注:**
>
> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps™およびRDSリソースのみをサポートします。

設定

高速ログオフを有効にする。この構成セット内のすべてのユーザーに対して高速ログオフを有効にします。ユーザーは即座にログアウトされ、セッションログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外する。高速ログオフから特定のユーザーグループを除外できます。

Citrix オプティマイザー

Citrix Optimizer は、パフォーマンス向上のためにユーザー環境を最適化します。ユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の2つの方法があります。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行します。これを行うには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、そのテンプレートをWorkspace Environment Management™ (WEM) に追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンのCitrix Optimizerが提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンのCitrix Optimizerは`<https://support.citrix.com/article/CTX224676>`からダウンロードできます。テンプレートビルダー機能を使用すると、WEMにアップロードする独自のカスタムテンプレートを作成できます。
- エージェントホスト (WEMエージェントがインストールされているマシン) で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダーに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、便利なフォルダーにコピーします。テンプレートファイルをカスタマイズして特定の要件を反映させ、カスタムテンプレートをWEMにアップロードします。

設定

Citrix Optimizerを有効にする。Citrix Optimizerを有効にするか無効にするかを制御します。

毎週実行。選択した場合、WEMは毎週最適化を実行します。**毎週実行**が選択されていない場合、WEMは次のように動作します。

- テンプレートをWEMに初めて追加すると、WEMは対応する最適化を実行します。WEMは、後でそのテンプレートに変更を加えない限り、最適化を1回だけ実行します。変更には、OSに別のテンプレートを適用することや、**利用可能**ペインと**構成済み**ペインの間で最適化エントリを移動することが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEMは最適化を1回実行します。

> **注:**
>
> 非永続VDI環境の場合、WEMは同じ動作に従います。つまり、マシンが再起動すると、環境へのすべての変更が失われます。Citrix Optimizerの場合、WEMはマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

> **使用するテンプレートを自動的に選択**。どのテンプレートを使用すべきか不明な場合は、このオプションを使用して、WEMに各OSに最適なものを選択させます。

- **プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にする**。異なる名前形式のカスタムテンプレートが利用可能な場合は、このオプションを使用します。コンマ区切りのプレフィックスのリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います。
  - `prefix_<os version>_<os build>`
  - `prefix_Server_<os version>_<os build>`

Citrix Optimizerタブには、システム最適化を実行するために使用できるテンプレートのリストが表示されます。**アクション**セクションには、利用可能なアクションが表示されます。

- **追加**。カスタムテンプレートを追加できます。
- **削除**。既存のカスタムテンプレートを削除できます。組み込みテンプレートは削除できません。
- **編集**。既存のテンプレートを編集できます。
- **プレビュー**。選択したテンプレートに含まれる最適化エントリを項目別に表示できます。

カスタムテンプレートを追加するには：

1. **管理コンソール > システム最適化 > Citrix Optimizer > Citrix Optimizer**タブで、**追加**をクリックします。

2. **新しいカスタムテンプレート**ウィンドウで、**参照**をクリックして該当するテンプレートを選択し、リストから該当するOSを選択し、テンプレートに含まれるグループを構成してから、**OK**をクリックします。

> **重要:**
>
> - Citrix Optimizerはカスタムテンプレートのエクスポートをサポートしていません。追加後もカスタムテンプレートのローカルコピーを保持してください。

> テンプレートを編集するには、該当するテンプレートを選択し、**編集**をクリックします。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートを選択し、**削除**をクリックします。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートを選択し、**プレビュー**をクリックします。

フィールドとコントロール

テンプレート名。選択したテンプレートの表示名。

適用可能なOS。オペレーティングシステムのリスト。テンプレートを適用するオペレーティングシステムを1つ以上選択します。リストにないWindows 10 OSに適用可能なカスタムテンプレートを追加できます。それらのOSはビルド番号を入力して追加します。OSはセミコロン（;）で区切ってください。例：2001;2004。

> **重要:**
>
> 同じOSには1つのテンプレートのみを適用できます。

> **グループ**。**利用可能**ペインには、グループ化された最適化エントリのリストが表示されます。エントリはカテゴリ別にグループ化されています。グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックしてグループを移動します。

状態。テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、エージェントはテンプレートを処理せず、WEM はテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

Citrix Optimizer の設定への変更が有効になるまでには、**Advanced Settings > Configuration > Service Options** タブの **SQL Settings Refresh Delay** オプションで指定した値に応じて、時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、**Administration > Agents > Statistics** タブのコンテキストメニューに移動し、**Process Citrix Optimizer** を選択します。

> **ヒント:**
>
> - 新しい変更がすぐに有効にならない場合があります。**Process Citrix Optimizer** を選択する前に、**Refresh Agent Host Settings** を選択することをお勧めします。

マルチセッション最適化

マルチセッションOSマシンは、1台のマシンから複数のセッションを実行し、ユーザーにアプリケーションとデスクトップを提供します。切断されたセッションはアクティブなままになり、そのアプリケーションは実行され続けます。切断されたセッションは、同じマシンで実行されている接続されたデスクトップやアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッションOSマシンを最適化し、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

設定

マルチセッション最適化を有効にする。有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッションOSマシンが最適化されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。このオプションは、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することによって、接続されたセッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが1分間切断されたままになると、WEMエージェントは、そのセッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションのCPUおよびI/O優先度を下げます。その後、エージェントはセッションが消費できるメモリリソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEMは優先度を復元し、制限を解除します。

指定されたグループを除外する。マルチセッション最適化から除外するグループを指定できます。少なくとも1つのグループを指定してください。

指定されたプロセスを除外する。マルチセッション最適化から除外するプロセスを指定できます。除外するプロセスの名前を入力してください。少なくとも1つのプロセスを指定してください。

ポリシーとプロファイル

これらの設定を使用すると、ユーザーGPOを置き換え、ユーザープロファイルを構成できます。

- 環境設定
- Microsoft USV 設定
- Citrix プロファイル管理 設定

環境設定

これらのオプションは、ユーザーの環境設定を変更します。一部のオプションはログオン時に処理され、その他はエージェントの更新機能を使用してセッション中に更新できます。

スタートメニュー

これらのオプションは、ユーザーのスタートメニューを変更します。

環境設定の処理。このチェックボックスは、エージェントが環境設定を処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、環境設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、エージェントが起動されていても、管理者に対して環境設定は処理されません。

ユーザーインターフェイス: スタートメニュー。これらの設定は、エージェントによってどのスタートメニュー機能が無効になるかを制御します。

> **重要:**
>
> Windows 7以外のオペレーティングシステムでは、**ユーザーインターフェイス: スタートメニュー**の下のオプションは、**システムクロックを非表示**と**コンピューターの電源を切るを非表示**を除いて機能しない場合があります。

> **ユーザーインターフェイス: 外観**。これらの設定により、ユーザーのWindowsテーマとデスクトップをカスタマイズできます。リソースへのパスは、ユーザーの環境からアクセスされるとおりに入力する必要があります。

デスクトップ

ユーザーインターフェイス: デスクトップ。これらの設定は、エージェントによってどのデスクトップ要素が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: Edge UI。これらの設定により、Windows 8.x Edgeユーザーインターフェイスの側面を無効にできます。

Windowsエクスプローラー

これらの設定は、エージェントによってどのWindowsエクスプローラー機能が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: エクスプローラー。これらのオプションを使用すると、**regedit**または**cmd**へのアクセスを無効にし、Windowsエクスプローラーの特定の要素を非表示にできます。

エクスプローラーから指定されたドライブを非表示。有効にすると、リストされたドライブはユーザーのマイコンピューターメニューから非表示になります。直接参照すれば、引き続きアクセスできます。

エクスプローラーからの指定ドライブの制限。有効にすると、リストされたドライブはブロックされます。ユーザーもそのアプリケーションもアクセスできません。

コントロールパネル

コントロールパネルを非表示にする。このオプションは、ユーザー環境を保護するためにデフォルトで有効になっています。無効にすると、ユーザーはWindowsコントロールパネルにアクセスできます。

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示する。有効にすると、ここにリストされているもの以外のすべてのコントロールパネルアプレットはユーザーから非表示になります。追加のアプレットは、その正規名を使用して追加されます。

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする。有効にすると、リストされたコントロールパネルアプレットのみが非表示になります。追加のアプレットは、その正規名を使用して追加されます。

一般的なコントロールパネルアプレットとその正規名を参照してください。

既知のフォルダー管理

指定された既知のフォルダーを無効にする。プロファイル作成時に、指定されたユーザープロファイルの既知のフォルダーが作成されるのを防ぎます。

SBC/HVDチューニング

SBC/HVD (Session-Based Computing/Hosted Virtual Desktop) チューニングを使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktops で実行されているセッションのパフォーマンスを最適化できます。パ

フォーマンスを向上させるように設計されていますが、一部のオプションはユーザーエクスペリエンスをわずかに低下させる可能性があります。

ユーザー環境: 高度なチューニング。これらのオプションを使用すると、SBC/HVD環境でのパフォーマンスを最適化できます。

フルウィンドウのドラッグを無効にする。最大化されたウィンドウのドラッグを無効にします。

スムーズスクロールを無効にする。ページ閲覧時のスムーズスクロール効果を無効にします。

カーソル点滅を無効にする。カーソルの点滅効果を無効にします。

MinAnimateを無効にする。ウィンドウの最小化または最大化時のアニメーション効果を無効にします。

AutoEndTasks を有効にする。タスクがタイムアウトした後に自動的に終了します。

WaitToKillApp タイムアウト。アプリケーションを終了するためのタイムアウト値 (ミリ秒単位) です。デフォルト値は 20,000 ミリ秒です。

カーソル点滅速度を設定。カーソルの点滅速度を変更します。

メニュー表示遅延を設定。ログオン後にメニューが表示されるまでの遅延 (ミリ秒単位) を指定します。

インタラクティブ遅延を設定。サブメニューが表示されるまでの遅延 (ミリ秒単位) を指定します。

Microsoft USV 設定

これらの設定により、Microsoft ユーザー状態仮想化 (USV) を最適化できます。

ローミングプロファイルの構成

これらの設定により、Workspace Environment Management と Microsoft ローミングプロファイルの統合を構成できます。

ユーザー状態仮想化構成の処理。エージェントが USV 設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV 設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、構成した USV 設定は管理者に適用されません。このオプションを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- **ローミングプロファイルの構成**タブと**ローミングプロファイルの高度な構成**タブの設定はマシンレベルであり、このオプションが有効になっているかどうかにかかわらず適用されます。

- **フォルダーリダイレクト**タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定が管理者に適用されるかどうかを制御します。

Windows ローミングプロファイルパスの設定。Windows プロファイルへのパスを指定できます。

RDS ローミングプロファイルパスの設定。RDS ローミングプロファイルへのパスを指定できます。

RDS ホームドライブパスの設定。RDS ホームドライブへのパスと、ユーザー環境で表示されるドライブ文字を指定できます。

ローミングプロファイルの高度な構成

以下は、高度なローミングプロファイル最適化オプションです。

フォルダーの除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーのローミングプロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがローミングプロファイルの一部として必要としない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトの Windows 7 除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトの Windows XP 除外を事前に入力することもできます。

ローミングプロファイルのキャッシュされたコピーを削除。有効にすると、エージェントはローミングプロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループを移動ユーザープロファイルに追加する。有効にすると、管理者グループが移動ユーザープロファイルの所有者として追加されます。

移動プロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しない。有効にすると、エージェントは操作を実行する前に、ユーザーが移動プロファイルフォルダーを所有しているかどうかを確認しません。

低速ネットワーク接続を検出しない。有効にすると、接続速度の検出はスキップされます。

リモートユーザープロファイルを待機する。有効にすると、エージェントはリモートユーザープロファイルが完全にダウンロードされるまで待機してから、その設定を処理します。

プロファイルのクリーンアップ。「**プロファイルクリーナー**」ウィザードを開き、既存のプロファイルを削除できます。

既存のプロファイルを削除するには、「**参照**」をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、「**プロファイルフォルダーをスキャン**」をクリックしてから、プロ

ファイルクリーナーウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、「**プロファイルをクリーンアップ**」をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクリーンアップ。このボタンは、フォルダー除外設定に従って選択されたプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーをスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰レベルの数を制御します。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクト構成を処理する。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、フォルダーリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびどこにリダイレクトするかを制御するオプションを選択します。

ローカルリダイレクトフォルダーを削除する。有効にすると、エージェントはリダイレクト用に選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

シトリックス プロファイル管理の設定

> **注:**
>
> 一部のオプションは、特定のバージョンの Profile Management でのみ機能します。詳細については、Profile Management のドキュメントを参照してください。

> Workspace Environment Management™ (WEM) は、現在のバージョンの Citrix Profile Management の機能と操作をサポートしています。WEM 管理コンソールの **Citrix Profile Management Settings** (ポリシーとプロファイル内) は、現在のバージョンの Citrix Profile Management のすべての設定の構成をサポートしています。

WEM を使用して Citrix Profile Management の機能を構成するだけでなく、Active Directory GPO、Citrix Studio ポリシー、または VDA 上の .ini ファイルを使用することもできます。同じ方法を一貫して使用することをお勧めします。

主な Citrix Profile Management の設定

基本的な設定を適用して、Profile Management の使用を開始します。基本的な設定には、処理されるグループ、除外されるグループ、ユーザー ストアなどが含まれます。

Profile Management の構成を有効にする。有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境に Profile Management 関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成した Profile Management の設定を WEM がエージェントに展開するかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management の設定はエージェントに展開されません。

Profile Management を有効にする。エージェントマシンで Profile Management サービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management サービスは機能しません。

エージェントにすでに展開されている設定が処理されなくなるように、Profile Management を完全に無効にしたい場合があります。その目的を達成するには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management を有効にする** チェックボックスをオフにし、変更が自動的に適用されるのを待つか、すぐに適用するために手動で変更を適用します。

   > **注:**
   >
   > 変更が有効になるまでにかかる時間は、詳細設定 で **SQL 設定の更新遅延** に指定した値によって異なります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新し、関連するすべてのエージェントの Profile Management 設定をリセットします。管理 を参照してください。

2. 変更が有効になったら、**Profile Management の構成を有効にする** チェックボックスをオフにします。

処理されるグループを設定する。Profile Management によって処理されるグループを指定できます。指定されたグループのみが Profile Management の設定を処理されます。空のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外されるグループを設定する。Profile Management から除外されるグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理する。有効にすると、ローカル管理者のログオンは、Profile Management の非管理者ログオンと同じように扱われます。

ユーザー ストアへのパスを設定。ユーザー ストア フォルダーへのパスを指定できます。

ユーザー ストアを移行。ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されていたフォルダーへのパスを指定できます。以前使用していたユーザー ストアのパスを入力します。このオプションは、「**ユーザー ストアへのパスを設定**」オプションと組み合わせて使用します。

アクティブなライトバックを有効にする。有効にすると、ユーザーのセッション中にプロファイルがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

- **アクティブなライトバック レジストリを有効にする**。有効にすると、ユーザーのセッション中にレジストリ エントリがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。
- **セッションロック時および切断時のアクティブなライトバックを有効にする**。有効にすると、プロファイルファイルとフォルダーはセッションがロックまたは切断された場合にのみ書き戻されます。このオプションと「**アクティブなライトバック レジストリを有効にする**」オプションの両方が有効になっている場合、レジストリ エントリはセッションがロックまたは切断された場合にのみ書き戻されます。

オフライン プロファイル サポートを有効にする。有効にすると、接続されていないときに使用するためにプロファイルがローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ設定

これらのオプションは、Profile Managementのプロファイルコンテナ設定を制御します。

プロファイルコンテナを有効にする。有効にすると、Profile Managementはリストされたフォルダーをネットワークに保存されているプロファイルディスクにマッピングし、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定してください。

フォルダーの除外を有効にする。有効にすると、Profile Managementはリストされたフォルダーをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダーを少なくとも1つ指定してください。

フォルダーの包含を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたフォルダーをプロファイルコンテナ内に保持します。このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。これは、このオプションを「**プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にする**」オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定してください。

プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする。有効にすると、プロファイルコンテナは一度に1つのアクセスのみを許可します。

プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする。有効にすると、プロファイルコンテナが使用率90%に達したときに、自動的に10 GB拡張され、最大容量は80 GBになります。必要に応じて、以下のオプションを使用してデフォルトの自動拡張設定を調整できます。

- **自動拡張トリガーしきい値 (%)。**プロファイルコンテナが自動拡張をトリガーするストレージ容量の使用率を指定できます。
- **自動拡張増分 (GB)。**自動拡張がトリガーされたときに、プロファイルコンテナが自動的に拡張するストレージ容量（GB単位）を指定できます。
- **自動拡張制限 (GB)。** 自動拡張がトリガーされたときに、プロファイルコンテナが自動的に拡張できる最大ストレージ容量 (GB) を指定できます。

プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループを設定します。 プロファイルコンテナに対して読み取りおよび実行権限を持つADドメインユーザーとグループを指定できます。デフォルトでは、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。

プロファイルの処理

これらの設定は、Profile Managementのプロファイル処理を制御します。

ログオフ時にローカルキャッシュプロファイルを削除します。 有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されます。

キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延を設定します。 ログオフ時にキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延 (秒単位) を指定できます。

既存のプロファイルの移行を有効にします。 有効にすると、既存のWindowsプロファイルはログオン時にProfile Managementに移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。 有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルが自動的に移行されます。Profile Managementは、ユーザーがログオンし、ユーザーストアにユーザープロファイルがない場合に移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にします。 Profile ManagementとWindowsプロファイルが競合する場合に、Citrix Workspace™ Environment Managementがどのように処理するかを設定します。

テンプレートプロファイルを有効にします。 有効にすると、指定された場所にあるテンプレートプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きします。 有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きします。

テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書きします。 有効にすると、テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書きします。

すべてのログオンでCitrix必須プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル。 有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルを上書きします。

詳細設定

これらのオプションは、Profile Managementの詳細設定を制御します。

アプリケーション

Microsoft Outlook ユーザーの検索インデックスローミングを有効にする。有効にすると、ユーザー固有の Microsoft Outlook オフラインフォルダーファイル (*.ost) と Microsoft 検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。この機能により、Microsoft Outlook でメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook 検索インデックスデータベース - バックアップと復元**。有効にすると、Profile Management は、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損が発生した場合、Profile Management はそのコピーに戻します。その結果、検索インデックスデータベースが破損した場合でも、手動でデータベースを再インデックス化する必要がなくなります。
- **同時セッションのサポートを有効にする**。同時セッションでネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションは個別の Outlook OST ファイルを使用します。
    - **Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数**。Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数を指定できます。指定しない場合、Outlook OST ファイルの保存には VHDX ディスクを 2 つしか使用できません (ディスクごとに 1 ファイル)。さらにセッションが開始されると、その Outlook OST ファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。サポートされる値: 1〜10。

OneDrive コンテナを有効にする。有効にすると、Profile Management は OneDrive フォルダーを VHDX ディスクに保存することで、ユーザーとともにローミングします。ディスクはログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

UWP アプリのローミングを有効にする。有効にすると、UWP (Universal Windows Platform) アプリがユーザーとともにローミングされます。その結果、ユーザーは異なるデバイスから同じ UWP アプリにアクセスできます。

UWP アプリの読み込みアクセラレーションを有効にする。UWP アプリの読み込みを高速化し、非永続環境での一貫性を向上させることができます。デフォルトでは、Windows は UWP アプリの登録情報を各マシンにローカルに保存します。これは、非永続環境での再起動時に失われる可能性があります。このポリシーを有効にすると、Profile Management は各マシン用に VHDX コンテナを作成して UWP アプリの登録データを保存し、ユーザーログオンを高速化し、再起動時のデータ損失を防ぎます。

アプリケーション定義ファイルの使用を有効にする。定義ファイルへのパスを入力できます。有効にすると、定義ファイルに含まれる設定のみが同期されます。Citrix Virtual Apps の最適化定義ファイルが格納されているフォルダーを指定します。定義ファイルの作成について詳しくは、「定義ファイルの作成」を参照してください。

VHD 設定

VHD コンテナのデフォルト容量 (GB)。各 VHD コンテナのデフォルトのストレージ容量 (GB) を指定できます。

VHDX ファイルのストレージパスをカスタマイズする。VHDX ファイルを保存する別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDX ファイルはユーザーストアに保存されます。VHDX ファイルを使用するポリシーには、プロファイルコンテナ、Outlook の検索インデックスローミング、フォルダーミラーリングの高速化などがあります。有効にすると、異なるポリシーの VHDX ファイルは、ストレージパスの下の異なるフォルダーに保存されます。

VHD ディスクの圧縮を有効にする。有効にすると、特定の条件が満たされた場合に、ユーザーログオフ時に VHD ディスクが自動的に圧縮されます。このポリシーにより、プロファイルコンテナ、OneDrive コンテナ、ミラーフォルダーコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。ニーズと利用可能なリソースに応じて、詳細設定 の **VHD ディスク圧縮のデフラグを無効にする**、**VHD ディスク圧縮をトリガーする空き領域比率を設定する**、**VHD ディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する** オプションを使用して、デフォルトの VHD 圧縮設定と動作を調整できます。

- **VHD ディスク圧縮をトリガーする解放可能領域比率を設定する**。VHD ディスク圧縮を有効にする が有効な場合に適用されます。VHD ディスク圧縮をトリガーする解放可能領域比率を指定できます。ユーザーログオフ時に解放可能領域比率が指定された値を超えると、ディスク圧縮がトリガーされます。
    - 解放可能領域比率 = (現在の VHD ファイルサイズ – 必要な最小 VHD ファイルサイズ*) ÷ 現在の VHD ファイルサイズ

      Microsoft Windows オペレーティングシステムの `MSFT_Partition` クラスの `GetSupportedSize` メソッドを使用して取得されます。

- **VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする**。VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮のファイルデフラグを無効にするかどうかを指定できます。
- **VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する**。VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮をトリガーするユーザーログオフ回数を指定できます。前回の圧縮以降のログオフ回数が指定された値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする。有効にすると、プロファイルコンテナは一度に1つのアクセスを許可します。

OneDriveコンテナへの排他的アクセスを有効にする。有効にすると、OneDriveコンテナは一度に1つのアクセスを許可します。

ユーザー ストア

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を設定する。WEMエージェントがロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を構成します。サポートされる値: 0〜100。

ユーザーストアをレプリケートする。有効にすると、Profile Managementは、**ユーザーストアへのパスを設定**オプションで指定されたパスに加えて、ログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートします。セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアに同期するには、アクティブなライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

デフォルトでは、複数のユーザーストアが利用可能な場合、Profile Managementは最新のプロファイルデータを持つストアを選択します。複数のストアが最新のプロファイルを持っている場合、Profile Managementは最も早く構成されたストアを選択します。**ユーザーストア選択方法**オプションを使用すると、Profile Managementが最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択するように設定できます。

コンテナベースのプロファイルソリューションで**ユーザーストアをレプリケートする**ポリシーを有効にすると、セッション全体のプロファイル冗長性を確保するために、**ユーザーストア間のセッション内ポリシーコンテナフェールオーバーを有効にする**ポリシーが自動的に有効になります。このポリシーが有効になっている場合、Profile Managementがセッション中にアクティブなプロファイルコンテナへの接続を失うと、自動的に別の利用可能なコンテナに切り替わります。このポリシーを無効にすると、プロファイルコンテナのフェールオーバーはユーザーログオン時にのみ発生します。

> **注:**

このポリシーを有効にするには、展開でプロファイルコンテナのみが有効になっている必要があります。**OneDrive**、**UWP**、**Outlook**、**フォルダーミラーリング**、**保留領域のプロファイルストリーミング**などの他のコンテナが有効になっている場合、このポリシーは適用されません。

ログオフ時に同期されるユーザーストアの数を制限する デフォルトでは、ユーザーログオフ時にプロファイルがすべてのユーザーストアに同期されるため、ログオフプロセスが長くなり、その後のログオンが遅れる可能性があります。このオプションを有効にすると、ログオフ中に同期されるユーザーストアの数を指定できます。指定された数にはメインのユーザーストアが含まれ、残りのユーザーストア（存在する場合）はログオフ完了後に同期されます。サポートされる値: 1〜8。

ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする。無効にすると、Profile Managementは現在のユーザーを偽装してユーザーストアにアクセスします。したがって、現在のユーザーがユーザーストアに直接アクセスできることを確認してください。有効にすると、Profile Managementは詳細設定 > ファイル共有 > SMB共有で関連サービス用に構成された接続を介して、ユーザーに代わってユーザーストアにアクセスします。（必要に応じて、Profile Managementはユーザーストアをホストする選択されたSMB共有にアクセスします。）この設定を有効にすると、現在のユーザーがアクセス権を持たないファイル共有（Azure Filesなど）にユーザーストアを配置できます。このオプションを使用する場合は、以下を考慮してください。

- ユーザーストアをホストするSMB共有を追加するには、**詳細設定 > ファイル共有 > SMB共有**に移動します。
- **ファイル共有**で関連サービス用に選択したSMB共有がここに表示されます。Profile Managementは、必要に応じて選択されたSMB共有にアクセスします。

重要:

この設定を無効にすると、WEMエージェントが以前に確立したすべてのユーザーストア接続が削除されます。

- 資格情報を追加または編集するときは、次のフィールドに入力します。
  - **サーバー共有**。サーバー共有を指定するUNCパスを入力します。
  - **ユーザー名**。`domain\username`の形式で名前を入力します。
  - **パスワード**。サーバー共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。

- **パスワードを表示**。パスワードを表示するか非表示にするかを制御します。

その他のオプション

自動構成を無効にする。有効にすると、動的構成が無効になります。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、次回のユーザーログオン時の処理モード（同期処理モードまたは非同期処理モード）を決定するためにWindowsが使用するレジストリ値をユーザーと共にローミングします。レジストリ値が存在しない場合、同期モードが適用されます。このオプションを有効にすると、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。無効にすると、ユーザーが次の場合、非同期モードは期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するオプションが有効になっている同じマシンにログオンする。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する。有効にすると、古いCookieはログオフ時に削除されます。

プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに警告する。有効にすると、プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーは通知メッセージを受け取ります。この機能を使用すると、デフォルト設定に基づいてクォータ制限と通知内容をカスタマイズできます。サポートされるクォータ範囲は0〜100,000 MBです。

プロファイル読み込みタイムアウトを設定する。Citrix Profile Managementがユーザープロファイルの読み込みを待機してから一時プロファイルに切り替えるまでの時間を構成できます。これにより、ニーズに合わせてよりスムーズで効率的なログオンエクスペリエンスが保証されます。有効なタイムアウト範囲は0〜1,800です。

一般的な使用例：

- **Citrix Appsを実行している非永続的なマルチセッションVDA**。このような環境では、ユーザー固有のデータを読み込む必要がない場合があります。タイムアウトを0秒に設定することで、プロファイルの読み込みをバイパスし、一時プロファイルを使用できます。
- **ネットワーク障害の処理**。このポリシーは、プロファイルの読み込みがタイムアウト設定を超過した場合に自動的に一時プロファイルに切り替えることで、ネットワーク障害を軽減します。

> **注:**

- この設定は、*プロファイルの移行*および*プロファイルのリセット*プロセスには適用されません。
- やむを得ない場合を除き、タイムアウトを10秒より長く設定することをお勧めします。タイムアウトが短いと、通常の状態でもユーザーが一時プロファイルに予期せずログオンする可能性があります。

問題発生時にユーザーをログオフする。有効にすると、問題が発生した場合にユーザーは一時プロファイルに切り替わるのではなく、ログオフされます。

Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラムに参加する。有効にすると、Profile Managementはカスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）を使用して、匿名の統計情報と使用状況情報を収集することで、Citrix製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てます。CEIPの詳細については、「Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）について」を参照してください。

ログ設定

これらのオプションは、Profile Managementのログ記録を制御します。

ログ記録を有効にする。Profile Management操作のログ記録を有効/無効にします。

ログ設定を構成する。ログに含めるイベントの種類を指定できます。

ログファイルの最大サイズを設定する。ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

ログファイルへのパスを設定する。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

これらのオプションは、Profile Managementのレジストリ設定を制御します。

NTUSER.DATのバックアップ。選択すると、Profile ManagementはNTUSER.DATファイルの最後に正常に動作したバックアップを保持します。Profile Managementが破損を検出した場合、最後に正常に動作したバックアップコピーを使用してプロファイルを回復します。

デフォルトの除外リストを有効にする。HKCUハイブ内のレジストリキーのデフォルトリストで、ユーザープロファイルに同期されません。選択すると、このリストで選択されたレジストリ設定はProfile Managementプロファイルから強制的に除外されます。

レジストリの除外を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルから強制的に除外されます。

レジストリの包含を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルに強制的に含まれます。

ファイルシステム

これらのオプションは、Profile Management のファイルシステム除外を制御します。

ログオン除外チェックを有効にする。有効にすると、ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Management が何を行うかを構成します。（無効になっている場合、デフォルトの動作は**除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**です）。リストから次のいずれかの動作を選択できます。

除外されたファイルまたはフォルダーを同期する（デフォルト）。ユーザーがログオンすると、Profile Management はこれらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザー ストアからローカル プロファイルに同期します。

除外されたファイルまたはフォルダーを無視する。ユーザーがログオンすると、Profile Management はユーザー ストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

除外されたファイルまたはフォルダーを削除する。ユーザーがログオンすると、Profile Management はユーザー ストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

デフォルトの除外リスト - ディレクトリを有効にする。同期中に無視されるディレクトリのデフォルトリスト。選択すると、このリストで選択されたフォルダーは Profile Management の同期から除外されます。

ファイル除外を有効にする。有効にすると、リストされたファイルはユーザーの Profile Management プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが Profile Management プロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトの Windows 7 除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトの Windows XP 除外を事前に入力することもできます。

フォルダー除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーの Profile Management プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが Profile Management プロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトの Windows 7 除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトの Windows XP 除外を事前に入力することもできます。

プロファイルのクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイル クリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーをスキャン**をクリックしてから、**プロファイル クリーナー**ウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルをクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクリーンアップ。フォルダー除外設定に従って、選択したプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーをスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰のレベル数を制御します。

同期

これらのオプションは、プロファイル管理の同期設定を制御します。

ディレクトリ同期を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザー ストアに同期されます。

ファイル同期を有効にする。有効にすると、リストされたファイルはユーザー ストアに同期され、ユーザーは常に最新バージョンのファイルを取得できます。複数のセッションでファイルが変更された場合、最新のファイルはユーザー ストアに保持されます。

フォルダーミラーリングを有効にする。有効にすると、ログオフ時にリストされたフォルダーがユーザー ストアにミラーリングされ、ユーザー ストアに保存されているミラーリングされたフォルダー内のファイルとサブフォルダーがローカルバージョンと同じであることを保証します。フォルダーミラーリングの仕組みの詳細については、以下を参照してください。

- ミラーリングされたフォルダー内のファイルは、変更されたかどうかに関わらず、セッションログオフ時に常にユーザー ストアに保存されているファイルを上書きします。
- ミラーリングされたフォルダー内のローカルバージョンと比較して、ユーザー ストアに余分なファイルまたはサブフォルダーが存在する場合、それらの余分なファイルとサブフォルダーはセッションログオフ時にユーザー ストアから削除されます。

大容量ファイル処理を有効にする。有効にすると、大容量ファイルはユーザー ストアにリダイレクトされ、ネットワーク経由でそれらのファイルを同期する必要がなくなります。

> **注:**
>
> 一部のアプリケーションでは、同時ファイルアクセスが許可されていません。Citrixでは、大容量ファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮に入れることをお勧めします。

ストリーミングユーザープロファイル

これらのオプションは、ストリーミングユーザープロファイルの設定を制御します。

プロファイルストリーミングを有効にする。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする。有効にすると、フォルダーはアクセスされたときにのみフェッチされます。この設定により、ユーザーログオン時にすべてのフォルダーを走査する必要がなくなり、帯域幅を節約し、ファイルの同期時間を短縮できます。

保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする。有効にすると、保留領域のファイルは要求されたときにのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオで最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。保留領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間、プロファイルの整合性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。保留領域内のすべてのファイルとフォルダーは、ログオン時にローカルプロファイルにフェッチされます。

常にキャッシュする。有効にすると、指定されたサイズ（MB単位）以上のファイルは常にキャッシュされます。

保留領域ロックファイルのタイムアウトを設定する：サーバーが応答しなくなったときにユーザー ストアがロックされたままの場合、指定された時間後に保留領域からユーザー ストアにファイルが書き戻されるように、ファイルを解放します。

ストリーミングユーザープロファイルグループを設定する。このリストは、ストリーミングプロファイルが使用されるユーザーグループを決定します。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリを有効にする。選択した場合、Profile Managementはこのリスト内のフォルダーをストリーミングせず、ユーザーがログオンするとすべてのフォルダーがユーザー ストアからローカルコンピューターにすぐにフェッチされます。

ファイルの重複排除

これらのオプションは、Profile Managementのファイルの重複排除設定を制御します。

さまざまなユーザープロファイル間で同一のファイルが存在する可能性があります。これらのファイルをユーザー ストアから分離し、一元的な場所に保存することで、重複を回避し、ストレージスペースを節約できます。ユーザー ストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ユーザープロファイルに対する相対パスでファイル名を指定します。

ファイルの包含を有効にする。有効にすると、Profile Managementは共有ストアを自動的に生成します。その後、指定されたファイルをユーザー ストア内の各ユーザープロファイルではなく、共有ストアに一元的に保存します。これにより、ファイルの重複を回避してユーザー ストアへの負荷を軽減し、ストレージコストを削減できます。

ファイルの除外を有効にする。有効にすると、Profile Managementは指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、**ファイルの包含を有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があります。共有ストアから除外するファイルを少なくとも1つ指定してください。

クロスプラットフォーム設定

これらのオプションは、クロスプラットフォーム設定を制御します。

クロスプラットフォーム設定を有効にする。無効にすると、このセクションの設定はどれも処理されません。

クロスプラットフォーム設定グループを設定する。クロスプラットフォームプロファイルが使用されるユーザーグループを指定できます。

クロスプラットフォーム定義へのパスを設定する。クロスプラットフォーム定義ファイルへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定する。クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースを有効にする。クロスプラットフォーム設定のソースプラットフォームを有効にします。

アプリのアクセス制御

この機能を使用すると、エンドユーザーのアプリケーションへのアクセスを制御したり、ファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーに対してマシンレベルのリダイレクトを適用したりするためのルールを追加できます。

ルールを作成する方法は2つあります。

- GUIベースのツール - Citrix環境ツールハブ > アプリアクセス制御用ルールジェネレーター
- PowerShellツール – Profile Managementインストールパッケージに含まれています

フォルダーのリダイレクト

この機能を使用すると、ルールセットを構成して、ローカルフォルダーのパスを新しい場所にリダイレクトできます。各ルールセットは、アクセスするユーザーに基づいてフォルダーをリダイレクトする場所を指定します。ルールセットには主に以下が含まれます。

- **リダイレクトルール。** リダイレクトするローカルフォルダーと、リダイレクト先（ネットワークの場所など）を指定します。
- **割り当て。** リダイレクトルールを割り当てるユーザーを指定します。

構成セットにルールセットを追加するには、次の手順に従います。

1. ターゲット構成セットの**Profile Management Settings**ページに移動します。
2. 検索ボックスの上にある**Folder redirection**リンクをクリックします。
3. 表示される**Folder redirection**ページで、**Add rule set**をクリックします。
4. 表示される**Add rule set**ページで、次の手順に従って設定を完了します。

    a. **Redirection rules**ページで、リダイレクトするフォルダーを選択し、リダイレクト先を指定してから、**Next**をクリックします。

        - フォルダーをネットワークの場所、ユーザーのホームディレクトリ（特定のフォルダーのみ）、またはローカルユーザープロファイルの場所にリダイレクトできます。
        - デフォルトでは、**コンテンツを新しい場所に移動**オプションが選択されており、リダイレクトターゲットパスを設定または変更すると、以前のパスのコンテンツが自動的に新しいパスに移動されることを示します。この動作を防ぐには、このオプションをオフにします。

    b. **割り当て**ページで、リダイレクトルールを割り当てるユーザー、グループ、またはOUを選択し、**次へ**をクリックします。デフォルトのグループには、**Everyone**と**Administrators**が含まれます。グループを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。

c. **追加設定**ページで、ルールセットの以下の設定を指定し、**次へ**をクリックします。

- **管理者へのアクセスを許可する: ローカルAdministrators**グループにリダイレクトターゲットパスへのアクセスを許可するかどうか。デフォルトでは、これらのパスはプロファイル所有者のみがアクセスできます。
- **特定のユーザーとグループへのアクセスを許可する:** 特定のユーザーとグループにリダイレクトターゲットパスへのアクセスを許可するかどうか。このオプションを選択した後、必要に応じてユーザーとグループを指定するには、をクリックします。
- **ドメイン名を含める:** %userdomain% 環境変数をUNCパスの一部として含めるかどうか。
- 数値入力でこのルールセットの優先度を設定します。数値が大きいほど優先度が高くなります。複数のルールセットが同じターゲットに適用される場合、優先度の高い方が適用されます。

d. このルールセットのわかりやすい名前を入力し、設定を確認します。調整するには、左ペインの対応するステップをクリックします。

e. 「**完了**」をクリックします。

> **注:**
>
> 現在、新しく展開されたルールセットが有効になるには、エンドユーザーが2回ログオンする必要があります。

セキュリティ

これらの設定により、Workspace Environment Management 内でのユーザーアクティビティを制御できます。

アプリケーションセキュリティ

> **重要:**
>
> ユーザーが実行できるアプリケーションを制御するには、Windows AppLocker インターフェイスまたは Workspace Environment Management を使用します。これらのアプローチはいつでも切り替えることができますが、両方を同時に使用することはお勧めしません。

> これらの設定により、ルールを定義することで、ユーザーが実行を許可されているアプリケーションを制御できます。この機能は Windows AppLocker に似ています。

Workspace Environment Management を使用して Windows AppLocker ルールを管理する場合、エージェントは タブのルールをエージェントホスト上の Windows AppLocker ルールに処理 (変換) します。エージェントによるルール処理を停止しても、ルールは構成セットに保持され、AppLocker はエージェントによって処理された最後の命令セットを使用して実行を継続します。

アプリケーションセキュリティ

このタブには、現在の Workspace Environment Management 構成セットのアプリケーションセキュリティルールが一覧表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいてリストをフィルタリングできます。

セキュリティタブでトップレベル項目「アプリケーションセキュリティ」を選択すると、ルール処理を有効または無効にするための次のオプションが利用可能になります。

- **アプリケーションセキュリティルールを処理する**。選択すると、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セットのルールを処理し、それらをエージェントホスト上の AppLocker ルールに変換します。選択しない場合、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールは無効になり、エージェントはルールを AppLocker ルールに処理しません。(この場合、AppLocker ルールは更新されません。)

  > **注:**
  >
  > このオプションは、Workspace Environment Management 管理コンソールが Windows 7 SP1 または Windows Server 2008 R2 SP1 (またはそれ以前のバージョン) にインストールされている場合は使用できません。

- **DLL ルールを処理する**。選択すると、エージェントは現在の構成セットの DLL ルールをエージェントホスト上の AppLocker DLL ルールに処理します。このオプションは、**アプリケーションセキュリティルールを処理する**を選択した場合にのみ使用できます。

  > **重要:**
  >
  > DLL ルールを使用する場合は、許可されているすべてのアプリで使用される各 DLL に対して、「許可」権限を持つ DLL ルールを作成する必要があります。

> **注意:**
>
> DLL ルールを使用すると、ユーザーはパフォーマンスの低下を経験する可能性があります。これは、AppLocker がアプリがロードする各 DLL を実行が許可される前にチェックするためです。

- **上書き**および**マージ**設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールを処理する方法を決定できます。
  - **上書き**。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
  - **マージ**。ルールを既存のルールとマージできます。競合が発生した場合、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、マージモードでは値が異なる場合に古い値が保持されるため、上書きモードを使用してください。

ルールコレクション

ルールはAppLockerルールコレクションに属します。各コレクション名には、含まれるルールの数が示されます（例：(12)）。コレクション名をクリックすると、ルールリストを以下のいずれかのコレクションにフィルタリングできます。

- **実行可能ルール**。アプリケーションに関連付けられている.exeおよび.com拡張子のファイルを含むルール。
- **Windowsルール**。クライアントコンピューターおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラーファイル形式（.msi、.msp、.mst）を含むルール。
- **スクリプトルール**。次の形式のファイルを含むルール：.ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js。
- **パッケージルール**。ユニバーサルWindowsアプリとも呼ばれるパッケージアプリを含むルール。パッケージアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じIDを共有します。したがって、1つのルールでアプリ全体を制御できます。Workspace Environment Managementは、パッケージアプリのパブリッシャールールのみをサポートしています。
- **DLLルール**。次の形式のファイルを含むルール：.dll、.ocx。

ルールリストをコレクションにフィルタリングすると、**ルール適用**オプションを使用して、AppLockerがそのコレクション内のすべてのルールをエージェントホストにどのように適用するかを制御できます。次のルール適用値が可能です。

オフ（デフォルト）。ルールが作成され、「オフ」に設定されます。これは、ルールが適用されないことを意味します。

オン。ルールが作成され、「適用」に設定されます。これは、ルールがエージェントホストでアクティブであることを意味します。

監査。ルールが作成され、「監査」に設定されます。これは、ルールがエージェントホスト上で非アクティブな状態であることを意味します。ユーザーがAppLockerルールに違反するアプリを実行すると、そのアプリは実行が許可され、アプリに関する情報がAppLockerイベントログに追加されます。

AppLockerルールをインポートするには

AppLockerからエクスポートされたルールをWorkspace Environment Managementにインポートできます。インポートされたWindows AppLocker設定は、**セキュリティ**タブの既存のルールに追加されます。無効なアプリケーションセキュリティルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンで、**AppLockerルールをインポート**をクリックします。
2. AppLockerからエクスポートされた、AppLockerルールを含むXMLファイルを参照します。
3. **インポート** をクリックします。

ルールがアプリケーションセキュリティルールリストに追加されます。

ルールを追加するには

1. サイドバーでルールコレクション名を選択します。たとえば、実行可能ルールを追加するには、「Executable Rules」コレクションを選択します。
2. **「ルールを追加」** をクリックします。
3. **「表示」** セクションで、次の詳細を入力します。
   - **名前**。ルールリストに表示されるルールの表示名。
   - **説明**。リソースに関する追加情報（オプション）。
4. **「種類」** セクションで、オプションをクリックします。
   - **パス**。ルールはファイルパスまたはフォルダパスに一致します。
   - **発行元**。ルールは選択した発行元に一致します。
   - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードに一致します。

5. **「権限」** セクションで、このルールがアプリケーションの実行を**許可**するか**拒否**するかをクリックします。
6. このルールをユーザーまたはユーザーグループに割り当てるには、**「割り当て」** ペインで、このルールを割り当てるユーザーまたはグループを選択します。「割り当て済み」列には、割り当てられたユーザーまたはグループの「チェック」アイコンが表示されます。

> **ヒント:**
>
> - 通常のWindows選択修飾キーを使用して複数の選択を行うか、**「すべて選択」** を使用してすべての行を選択できます。
> - ユーザーは、Workspace Environment Managementユーザーリストにすでに存在している必要があります。
> - ルールは作成後に割り当てることができます。

7. **次へ**をクリックします。
8. 選択したルールタイプに応じて、ルールが一致する条件を指定します。
   - **パス**。ルールに一致させたいファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーを選択すると、そのフォルダー内およびその下のすべてのファイルにルールが一致します。
   - **発行元**。ルール参照として使用する署名済み参照ファイルを指定し、発行元情報スライダーを使用してプロパティの一致レベルを調整します。
   - **ハッシュ**。ハッシュを作成するファイルまたはフォルダーを指定します。ルールはファイルのハッシュコードに一致します。
9. **次へ**をクリックします。
10. 必要な例外を追加します（オプション）。 で例外タイプを選択し、 をクリックします。（必要に応じて例外を**編集**および**削除**できます。）
11. ルールを保存するには、 をクリックします。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで をクリックします。エディターで、ルールを割り当てるユーザーおよびユーザーグループを含む行を選択し、 を

クリックします。 を使用してすべての選択を解除することで、選択したルールを全員から割り当て解除することもできます。

注: 複数のルールを選択して をクリックすると、それらのルールに対するルール割り当ての変更は、選択したすべてのユーザーおよびユーザーグループに適用されます。つまり、既存のルール割り当てはそれらのルール間でマージされます。

デフォルトのルールを追加するには

をクリックします。AppLocker のデフォルトのルールセットがリストに追加されます。

ルールを編集するには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで をクリックします。エディターが表示され、選択内容に適用される設定を調整できます。

ルールを削除するには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで をクリックします。

アプリケーションセキュリティルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべてのアプリケーションセキュリティルールをバックアップできます。ルールはすべて単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。 リボンで、**バックアップ**をクリックし、**セキュリティ設定**を選択します。

アプリケーションセキュリティルールを復元するには

Workspace Environment Managementのバックアップコマンドによって作成されたXMLファイルから、アプリケーションセキュリティルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートダイアログに一覧表示されます。

復元プロセス中に、現在の構成セット内のユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元するかどうかを選択できます。再割り当ては、バックアップされたユーザー/グループが現在の構成セット/Active Directoryに存在する場合にのみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままになります。復元後、それらはCSV形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。

1\. リボンで、**復元**をクリックして復元ウィザードを開始します。

2\. セキュリティ設定を選択し、**次へ**を2回クリックします。

3\. **フォルダーから復元**で、バックアップファイルを含むフォルダーを参照します。

4\. **AppLockerルール設定**を選択し、**次へ**をクリックします。

5\. ルール割り当てを復元するかどうかを確認します。

はい。ルールを復元し、現在の構成セット内の同じユーザーおよびユーザーグループに再割り当てします。

いいえ。ルールを復元し、割り当てられていないままにします。

6\. 復元を開始するには、**設定の復元**をクリックします。

プロセス管理

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストまたはブロックリストに追加できます。

プロセス管理

プロセス管理を有効にする。許可リストまたはブロックリスト上のプロセスが有効かどうかを切り替えます。無効にすると、「**プロセスブラックリスト**」タブと「**プロセスホワイトリスト**」タブの設定は考慮されません。

> **注:**
>
> このオプションは、セッションエージェントがユーザーセッションで実行されている場合にのみ機能します。これを行うには、「**メイン構成**」エージェント設定を使用して、「**エージェントの起動**」オプション（「**ログオン時**」/「**再接続時**」/「**管理者向け**」）をユーザー/セッションタイプに応じて起動するように設定し、「**エージェントタイプ**」を「UI」に設定します。これらのオプションについては、「詳細設定」で説明されています。

プロセスブロックリスト

これらの設定により、特定のプロセスをブロックリストに追加できます。

プロセスブラックリストを有効にする。ブロックリスト上のプロセスの処理を有効にします。実行可能ファイル名（例: cmd.exe）を使用してプロセスを追加する必要があります。

ローカル管理者を対象外にする。ローカル管理者アカウントを除外します。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます。

プロセス許可リスト

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストに追加できます。プロセスブロックリストとプロセス許可リストは相互に排他的です。

プロセスホワイトリストを有効にする。許可リスト上のプロセスの処理を有効にします。実行可能ファイル名（例: cmd.exe）を使用してプロセスを追加する必要があります。**注**: 有効にすると、「**プロセスホワイトリストを有効にする**」は、許可リストにないすべてのプロセスを自動的にブロックリストに追加します。

ローカル管理者を対象外にする。ローカル管理者アカウントを除外します（すべてのプロセスを実行できます）。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます（すべてのプロセスを実行できます）。

特権昇格

> **注:**

> この機能はCitrix仮想アプリには適用されません。

> 「特権昇格」機能を使用すると、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに、非管理者ユーザーの特権を昇格させることができます。その結果、ユーザーは管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

特権昇格

セキュリティで**特権昇格**ペインを選択すると、次のオプションが表示されます。

- **プロセス特権昇格設定**。特権昇格機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントが特権昇格設定を処理できるようになり、**特権昇格**タブの他のオプションが利用可能になります。
- **Windows Server OSに適用しない**。特権昇格設定をWindows Serverオペレーティングシステムに適用するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーに割り当てられたルールはWindows Serverマシンでは機能しません。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- **RunAsInvokerを強制する**。すべての実行可能ファイルを現在のWindowsアカウントで実行するように強制するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーは実行可能ファイルを管理者として実行するように求められません。

このタブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。特定のルールタイプにルールリストをフィルタリングするには、**実行可能ファイルルール**または**Windowsインストーラールール**をクリックします。リストをフィルタリングするには、**検索**を使用できます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

特権昇格は、実行可能ファイルルールとWindowsインストーラールールの2種類のルールを使用して適用できます。

- **実行可能ファイルルール**。アプリケーションに関連付けられた.exeおよび.com拡張子を持つファイルを含むルール。
- **Windowsインストーラールール**。アプリケーションに関連付けられた.msiおよび.msp拡張子を持つインストーラーファイルを含むルール。Windowsインストーラールールを追加する際は、次のシナリオを考慮してください。
  - 特権昇格はMicrosoftのmsiexec.exeにのみ適用されます。`.msi`および`.msp`のWindowsインストーラーファイルを展開するために使用するツールがmsiexec.exeであることを確認してください。
  - あるプロセスが指定されたWindowsインストーラールールに一致し、その親プロセスが指定された実行可能ファイルルールに一致するとします。指定された実行可能ファイルルールで**子プロセスに適用**設定が有効になっていない限り、そのプロセスは昇格された特権を取得できません。

実行可能ファイルルールまたは**Windowsインストーラールール**タブをクリックすると、**アクション**セクションに次の利用可能なアクションが表示されます。

- **編集**。既存の実行可能ファイルルールを編集できます。
- 「**削除**」。既存の実行可能ルールを削除できます。
- 「**ルールの追加**」。実行可能ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. 「**実行可能ルール**」または「**Windows インストーラー ルール**」に移動し、「**ルールの追加**」をクリックします。「**ルールの追加**」ウィンドウが表示されます。
2. 「**表示**」セクションで、次の情報を入力します。

- 「**名前**」。ルールの表示名を入力します。この名前はルールリストに表示されます。
- 「**説明**」。ルールに関する追加情報を入力します。

3. 「**種類**」セクションで、オプションを選択します。

- 「**パス**」。ルールはファイルパスと一致します。
- 「**発行元**」。ルールは選択した発行元と一致します。
- 「**ハッシュ**」。ルールは特定のハッシュコードと一致します。

4. 「**設定**」セクションで、必要に応じて次の項目を構成します。

- 「**子プロセスに適用**」。選択すると、実行可能ファイルが開始するすべての子プロセスにルールが適用されます。より詳細なレベルで特権昇格を管理するには、次のオプションを使用します。
  - 「**同じフォルダー内の実行可能ファイルにのみ適用**」。選択すると、同じフォルダーを共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
  - 「**署名された実行可能ファイルにのみ適用**」。選択すると、署名された実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
  - **同じ発行元の実行可能ファイルにのみ適用**。選択すると、同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。この設定は、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリでは機能しません。

> **注:**
>
> Windows インストールルールを追加すると、**子プロセスに適用**設定がデフォルトで有効になり、編集できません。

- **開始時刻**。エージェントがルールを適用し始める時刻を指定できます。時刻形式は HH:MM です。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
- **終了時刻**。エージェントがルールの適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式は HH:MM です。指定された時刻以降、エージェントはルールを適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
- **パラメータの追加**。指定されたパラメータに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。指定するパラメータが正しいことを確認してください。この機能の使用例については、「パラメータで実行される実行可能ファイル」を参照してください。このフィールドが空であるか、空白のみが含まれている

場合、エージェントは、パラメータの有無にかかわらず、関連する実行可能ファイルに特権昇格を適用します。

- **正規表現を有効にする**。正規表現を使用して基準をさらに拡張するかどうかを制御できます。

5. **割り当て**セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーとユーザーグループにルールを割り当てる場合は、**すべて選択**を選択します。

> **ヒント:**
>
> - 通常の Windows 選択修飾キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
> - ユーザーまたはユーザーグループは、すでに**管理 > ユーザー**タブに表示されているリストに存在している必要があります。
> - ルールは後で割り当てることもできます (ルール作成後)。

6. **次へ**をクリックします。
7. 以下のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプに応じて、異なるアクションが必要です。

> **重要:**
>
> WEM には、実行可能ファイルから発行元、パス、ハッシュなどの情報を取得するための **AppInfoViewer** というツールが用意されています。このツールは、管理コンソールで構成するアプリケーションの関連情報を提供する場合に役立ちます。たとえば、アプリケーションセキュリティ機能を使用する際に、アプリケーションから関連情報を抽出するためにこのツールを使用できます。このツールはエージェントのインストールフォルダにあります。

- **パス**。ルールを適用するファイルまたはフォルダーへのパスを入力します。WEM エージェントは、実行可能ファイルのパスに従って、 実行可能ファイルにルールを適用します。
- **発行元**。次のフィールドに入力します: **発行元**、**製品名**、**ファイル名**、**ファイルバージョン**。いずれのフィールドも空にすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力で

きます。WEM エージェントは、発行元情報に従ってルールを適用します。適用すると、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。

- **ハッシュ**。**追加**をクリックしてハッシュを追加します。**ハッシュの追加**ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。**AppInfoViewer** ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダからハッシュを作成できます。WEM エージェントは、指定されたとおりに同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

8. 「**作成**」をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

パラメータ付きで実行される実行可能ファイル

指定されたパラメータに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。実行可能ファイルで利用可能なパラメータを確認するには、Process Explorer や Process Monitor などのツールを使用します。それらのツールに表示されるパラメータを適用します。

実行可能ファイルのパスに基づいて、実行可能ファイル（例：cmd.exe）にルールを適用したいとします。特権昇格を `test.bat` にのみ適用したい場合、Process Explorer を使用してパラメータを取得できます。

パラメータ付きで実行中のCMD(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/cmd-running-with-parameters.png)

「**パラメータの追加**」フィールドに、次のように入力できます。

- `/c ""C:\test.bat""`

次に、「**パス**」フィールドに次のように入力します。

- `C:\Windows\System32\cmd.exe`

この場合、指定されたユーザーの特権は、`test.bat` の場合にのみ管理者レベルに昇格されます。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つ以上のルールを選択し、「**アクション**」セクションで「**編集**」をクリックします。「**ルールの編集**」ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択し、「**OK**」をクリックします。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、「**アクション**」セクションで「**削除**」をクリックします。

特権昇格ルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべての特権昇格ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。「**復元**」を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで使用できる「**バックアップ**」ウィザードを使用します。「**バックアップ**」ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

特権昇格ルールを復元するには

Workspace Environment Management バックアップウィザードを介してエクスポートされた XML ファイルから、特権昇格ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ > 特権昇格**ペインに切り替えるか更新すると、無効な特権昇格ルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

自己昇格

自己昇格を使用すると、特定のユーザーに対して、事前に正確な実行可能ファイルを提供することなく、特権昇格を自動化できます。これらのユーザーは、ファイルを右クリックし、コンテキストメニューで を選択するだけで、該当する任意のファイルの自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を提供するよう求めるプロンプトが表示されます。WEM エージェントは理由を検証しません。昇格の理由は、監査目的でデータベースに保存されます。条件が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。

この機能により、ニーズに最適なソリューションを柔軟に選択できます。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成したりできます。

自己昇格は、次の形式のファイルに適用されます: `.exe`、`.msi`、`.bat`、`.cmd`、`.ps1`、および `.vbs`。

> **注:**
>
> デフォルトでは、特定のアプリケーションが一部のファイルの実行に使用されます。たとえば、cmd.exe は .cmd ファイルの実行に使用され、powershell.exe は .ps1 ファイルの実行に使用されます。これらのシナリオでは、デフォルトの動作を変更することはできません。

> **セキュリティ > 自己昇格**を選択すると、次のオプションが表示されます。

- **自己昇格を有効にする**。自己昇格機能を有効にするかどうかを制御します。このオプションを選択すると、次のことができます。
  - エージェントが自己昇格設定を処理できるようにします。
  - **自己昇格**タブの他のオプションを使用できるようにします。
  - ユーザーがファイルを右クリックしたときに、コンテキストメニューで オプションを使用できるようにします。その結果、ユーザーは**自己昇格**タブで指定した条件に一致するファイルの自己昇格を要求できます。
- **権限**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成したりできます。
  - **許可**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成します。
  - **拒否**。ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成します。
- 以下の操作を実行できます。
  - **編集**。既存の条件を編集できます。
  - **削除**。既存の条件を削除できます。
  - **追加**。条件を追加できます。パス、選択した発行元、または特定のハッシュコードに基づいて条件を作成できます。
- **設定**。エージェントが自己昇格を適用する方法を制御する追加設定を構成できます。
  - **子プロセスに適用**。選択すると、ファイルが開始するすべての子プロセスに自己昇格条件が適用されます。
  - **開始時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を開始する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
  - **終了時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。指定された時刻以降、エージェントは条件を適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
- **割り当て**。自己昇格条件を該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。すべてのユーザーとユーザーグループに条件を割り当てるには、**すべて選択**をクリックするか、**全員**を選択します。**すべて選択**チェックボックスは、選択をクリアしてユーザーとユーザーグループを再選択したいシナリオで役立ちます。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、親子シナリオにおいて、特定の子プロセスが親プロセスから開始できるかどうかを制御します。親プロセスを定義し、その子プロセスに対して許可リストまたはブロックリストを指定することで、ルールを作成します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

> **注:**
>
> - この機能はCitrix仮想アプリにのみ適用されます。

> ルールがどのように機能するかを理解するために、次の点に留意してください。

- プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、最も優先度の高いルールのみが適用されます。
- 定義したルールは、元の親子階層に限定されるだけでなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用されるルールは、ルールの優先度に関係なく、その子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の2つのルールを定義します。
  - ルール 1: Word は CMD を開くことができません。
  - ルール 2: メモ帳は CMD を開くことができます。

  この2つのルールがある場合、ルールの優先順位に関係なく、Word を最初に開き、次に Word からメモ帳を開くという方法で、メモ帳から CMD を開くことはできません。

この機能は、特定のプロセスベースの親子関係に依存して動作します。シナリオにおける親子関係を視覚化するには、Process Explorer ツールのプロセスツリー機能を使用します。Process Explorer の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>` を参照してください。

潜在的な問題を回避するため、Citrix Studio で **VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe** は、公開アプリケーションが開始する前に WEM エージェントが設定の処理を完了するようにします。Citrix Studio で、次の手順を実行します。

1. **アプリケーション**で、アプリケーションを選択し、アクションペインで**プロパティ**をクリックし、次に**場所**ページに移動します。

2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。

   - **実行可能ファイルへのパス**フィールドで、次のように入力します: <%ProgramFiles%>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe。

3. 開くアプリケーションを指定するコマンドライン引数を入力します。

   - **コマンドライン引数**フィールドで、**VUEMAppCmd.exe** を介して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe** を介して iexplore.exe を起動したいとします。その場合は、次のように入力します: `%ProgramFiles(x86)%\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。

考慮事項

この機能が動作するには、各エージェントマシンで **AppInfoViewer** ツールを使用して機能を有効にする必要があります。(このツールはエージェントのインストールフォルダーにあります。) このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。機能が有効になっている場合、エージェントのアップグレードまたはアンインストール後にエージェントマシンを再起動する必要があります。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンで**レジストリエディター**を開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、機能は有効になっています。

- 32ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
- 64ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`

前提条件

この機能を使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix Virtual Appsの展開。

- エージェントがWindows 10またはWindows Serverで実行されていること。
- インプレースアップグレードまたは新規インストール後にエージェントホストが再起動されていること。

プロセス階層制御

セキュリティで**プロセス階層制御**を選択すると、次のオプションが表示されます。

- **プロセス階層制御を有効にする**。プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、**プロセス階層制御**タブの他のオプションが使用可能になり、そこで構成された設定が有効になります。この機能は、Citrix Virtual Appsの展開で*のみ*使用できます。
- **コンテキストメニューからを非表示にする**。Windowsの右クリックコンテキストメニューから**プログラムから開く**オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスから非表示になります。無効にすると、オプションが表示され、ユーザーはそれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、**プログラムから開く**オプションを介して開始されたプロセスには適用されません。現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを介してアプリケーションがプロセスを開始するのを防ぐために、この設定を有効にすることをお勧めします。

プロセス階層制御タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

アクションセクションには、次のアクションが表示されます。

- **編集**。ルールを編集できます。
- **削除**。ルールを削除できます。
- **ルールの追加**。ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. **プロセス階層制御**に移動し、**ルールの追加**をクリックします。**ルールの追加**ウィンドウが表示されます。
2. 「**表示**」セクションで、次のように入力します。
    - **名前**。ルールの表示名を入力します。この名前はルールリストに表示されます。
    - **説明**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. 「**種類**」セクションで、オプションを選択します。
    - **パス**。ルールはファイルパスと一致します。

- **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。
- **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。

4. 「**モード**」セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。

   - **子プロセスをブロックリストに追加**。選択すると、親プロセスに対してルールを設定した後、該当する子プロセスに対してブロックリストを定義できます。ブロックリストは、指定したプロセスのみの実行を禁止し、その他のプロセスは実行を許可します。
   - **子プロセスを許可リストに追加**。選択すると、親プロセスに対してルールを設定した後、該当する子プロセスに対して許可リストを定義できます。許可リストは、指定したプロセスのみの実行を許可し、その他のプロセスは実行を禁止します。

   > **注:**
   >
   > プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、ルールは優先順位に従って適用されます。

5. 「**優先度**」セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を設定する際は、次の点を考慮してください。優先度は、設定したルールが処理される順序を決定します。値が大きいほど優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合、優先度の高いルールが優先されます。
6. 「**割り当て**」セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーとユーザーグループにルールを割り当てる場合は、「**すべて選択**」を選択します。

   > **注:**
   >
   > - 通常のWindows選択キーを使用して、複数の項目を選択できます。
   > - ユーザーまたはユーザーグループは、「**管理 > ユーザー**」タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
   > - ルールは後で（作成後に）割り当てることもできます。

7. **次へ**をクリックします。

8. 親プロセスにルールを構成するには、次のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプによって、必要なアクションが異なります。

   - **パス**。ルールに一致させたいファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーパスを指定した場合、ルールはそのフォルダー内のすべてのファイルとサブフォルダーに適用されます。WEMエージェントは、実行可能ファイルのパスに従って、実行可能ファイルにルールを適用します。パスの一致を示すためにアスタリスク（*）のみを入力することはお勧めしません。そうすると、意図しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。
   - **発行元**。ルール参照として使用する署名済み参照ファイルを指定します。発行元情報スライダーを使用して、プロパティの一致レベルを調整します。スライダーを上下に動かして、ルールの詳細度を低くしたり高くしたりします。スライダーを「任意の発行元」の位置に移動すると、ルールはすべての署名済みファイルに適用されます。WEMエージェントは、発行元情報に従って親プロセスにルールを適用します。適用された場合、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。必要に応じて、**カスタム値を使用**を選択して情報をカスタマイズできます。
   - **ハッシュ**。ハッシュを作成するファイルまたはフォルダーを指定します。ルールはファイルのハッシュコードと一致します。WEMエージェントは、指定されたものと同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

9. **次へ**をクリックして、子プロセスの設定を構成します。
10. 該当する子プロセスの許可リストまたはブロックリストを定義するには、次のいずれかを実行します。

    a. メニューからルールタイプを選択し、**追加**をクリックします。**子プロセス**ウィンドウが表示されます。

    b. **子プロセス**ウィンドウで、必要に応じて設定を構成します。**子プロセス**ウィンドウのユーザーインターフェイスは、選択したルールタイプによって異なります。子プロセスの場合、次のルールタイプが利用可能です: **パス**、**発行元**、および**ハッシュ**。

    c. **OK**をクリックして、**ルールの追加**ウィンドウに戻ります。さらに子プロセスを追加するか、**作成**をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つのルールを選択し、**アクション**セクションで**編集**をクリックします。**ルールの編集**ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択し、**OK**をクリックします。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、**アクション**セクションで**削除**をクリックします。

ルールをバックアップするには

現在の構成セットにあるすべてのプロセス階層制御ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで使用できる**バックアップ**ウィザードを使用します。**バックアップ**ウィザードの使用方法の詳細については、リボンを参照してください。

ルールを復元するには

Workspace Environment Managementバックアップウィザードを通じてエクスポートされたXMLファイルから、プロセス階層制御ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ > プロセス階層制御**ペインに切り替えるか更新すると、無効なルールは削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードの使用方法の詳細については、リボンを参照してください。

Active Directory オブジェクト

これらのページを使用して、Workspace Environment Management™ (WEM) で管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位を指定します。

> **注:**
>
> エージェントが管理できるように、ユーザー、コンピューター、グループ、およびOUをWEMに追加します。

ユーザー

既存のユーザーとグループのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルターできます。

ユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. Windowsのユーザーの選択ダイアログでユーザー名またはグループ名を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ユーザーまたはグループの名前です。

説明。**アイテムの編集**ダイアログにのみ表示されます。ユーザーまたはグループに関する追加情報を指定できます。

アイテムの優先度。異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を構成できます。優先度は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど優先度が高くなります。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

> **重要:**
>
> グループポリシー設定を割り当てる場合、ここで構成した優先度は機能しません。それらの優先度を設定するには、**管理コンソール > 割り当て**を使用します。詳細については、「グループポリシー設定のコンテキスト化」を参照してください。

> **アイテムの状態**。ユーザーまたはグループを有効にするか無効にするかを選択できます。無効になっている場合、アクションを割り当てることはできません。

複数のユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. テキストボックスに複数のユーザー名またはグループ名を追加し、セミコロンで区切ってから**OK**をクリックします。

マシン

現在のサイト（構成セット）に追加されたコンピューターのリストです。ここにリストされているコンピューターのみがWorkspace Environment Managementによって管理されます。これらのコンピューター上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに登録すると、構成セットに必要なマシン固有の設定が送信されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

> **ヒント:**
>
> これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに正しく登録されているかを確認するには、管理セクションの「エージェント」を参照してください。

現在の構成セットにコンピューターまたはコンピューターグループを追加するには

1. **オブジェクトの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. コンピューターまたはグループの選択ダイアログで、コンピューターまたはコンピューターグループを選択し、**OK**をクリックします。

組織単位内のコンピューターを構成セットに追加するには

1. **OUの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. 組織単位ダイアログで、組織単位を選択し、**OK**をクリックします。

コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの詳細を編集するには

1. リストから項目を選択します。
2. **編集**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
3. 項目の編集ダイアログで、以下の詳細（読み取り専用ではないもの）を編集し、**OK**をクリックします。

名前*。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの名前。

識別名*。選択したコンピューターまたはコンピューターグループの識別名（DN）。このフィールドを使用すると、同じ名前を持つ異なるOUを区別できます。

説明。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUに関する追加情報。

種類*。選択された種類 (コンピューター、グループ、または組織単位)

アイテムの状態。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの状態 (有効または無効)。無効になっている場合、コンピューター、コンピューターグループ、またはOUにはアクションを割り当てることができません。

アイテムの優先度。これにより、異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を構成できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先度が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合 (たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合など)、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

* Active Directoryから報告された読み取り専用の詳細。

詳細設定

Active Directory検索のタイムアウト

Active Directoryの動作を構成します。

- **Active Directory検索のタイムアウト**。Active Directory検索が終了するまでのタイムアウトをミリ秒単位で指定します。デフォルト値は1000です。検索が完了する前にタイムアウトするのを避けるため、500以上の値を使用することをお勧めします。

バインドされていないエージェントのサイト設定

バインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御します。バインドされていないエージェントとは、どの構成セットにもバインドされていないエージェントのことです。

次の設定は、WEM展開全体に適用されます。どの構成セット (サイト) にも関連付けられていません。設定を有効にした後、「バインドされていないエージェント」構成セットに移動し、そこで設定を構成して、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

- **バインドされていないエージェントに設定を適用**。「バインドされていないエージェント」構成セットの設定を、**Active Directoryオブジェクト**にまだ追加していないエージェントに適用できます。

LDAPSを強制してActive Directory接続を暗号化する

デフォルトでは、WEMはActive Directoryクエリに*LDAP*を使用します。*LDAPS*を介したセキュアな通信を強制するには、**LDAPSを有効にしてActive Directory接続を暗号化する**を選択します。

Transformer の設定

これらのオプションを使用すると、Transformer 機能を構成できます。Transformer を使用すると、エージェントは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトするWebまたはアプリケーションランチャーとして接続できます。Transformer を使用して、任意のWindows PCを、完全に元に戻せる「キオスク」モードを使用して高性能シンクライアントに変換します。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformer の外観と基本設定を制御します。

Transformer を有効にする。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストは自動的に*キオスクモード*になります。キオスクモードでは、エージェントホストは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトするWebまたはアプリケーションランチャーになります。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとのみ対話できます。このオプションを無効にすると、**一般**ページまたは**詳細**ページのどちらの設定も処理されません。

WebインターフェイスURL。このURLは、ユーザーの仮想デスクトップのWebフロントエンドとして使用されます。これは、Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops™ 環境へのアクセスURLです。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management™ Agent キオスクウィンドウにカスタムタイトルバーが与えられます。

ウィンドウモードを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management Agent キオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーは引き続きWindows環境からロックアウトされます。

言語選択を許可する。有効にすると、ユーザーはTransformerインターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、「進む」、「戻る」、「ホーム」のWebナビゲーションボタンがエージェントキオスクウィンドウに表示されます。「ホーム」は、ユーザーを上記で定義されたWebインターフェイスURLに戻します。

時計を表示する。有効にすると、Transformer UIに時計が表示されます。

12時間表示の時計を表示する。有効にすると、12時間表示の時計（午前/午後）が表示されます。デフォルトでは、Transformer の時計は24時間表示です。

アプリケーションパネルを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management で割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

アプリケーションパネルを自動的に非表示にする。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワードを変更する。**Ctrl+Alt+U** を押してユーザーの環境をロック解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者がユーザー環境を制限なくトラブルシューティングできるようにし、エージェントをサポートするように設計されています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにURLのリストが追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにツールのリストが追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management Agentのキオスクモードを、Webインターフェイスを表示するのではなく、プロセスランチャーとして機能させることができます。

プロセスランチャーを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Managementエージェントがプロセスランチャーモードになります。プロセスランチャーモードでは、Workspace Environment Managementエージェントは**プロセスコマンドライン**で指定されたプロセスを起動します。プロセスが終了すると、再起動されます。

プロセスコマンドライン。特定のプロセスのコマンドラインを入力できます（例：RDP接続を起動するためのmstsc.exeへのパス）。

プロセス引数。上記のコマンドラインに引数を指定できます（例：mstsc.exeの場合、接続するマシンのIPアドレス）。

VMware Viewの最終ユーザー名をクリア。有効にすると、VMwareデスクトップセッションを起動したときに、ログオン画面で前回のユーザーのユーザー名がクリアされます。

VMware Viewモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーは、VMware Viewモードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

Microsoft RDSモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーは、Microsoft Remote Desktop Services (RDS) モードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

Citrixモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーは、Citrixモードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

詳細設定と管理設定

ブラウザレンダリングを修正。有効にすると、キオスクウィンドウは、エージェントホストマシンに現在インストールされているInternet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザモードで実行されるように強制されます。デフォルトでは、これによりキオスクウィンドウはIE7互換モードで実行されます。

ログオフ画面のリダイレクト。有効にすると、ユーザーがログオフページにアクセスしたときに、自動的にログオンページにリダイレクトします。

スクリプトエラーの抑制。有効にすると、発生したスクリプトエラーを抑制します。

SSLサイトの修正。有効にすると、SSL警告を完全に非表示にします。

Citrixセッション中のキオスクの非表示。有効にすると、ユーザーがCitrixセッションに接続している間、Citrix Workspace™ Environment Management Agent キオスクを非表示にします。

常に管理者メニューを表示。有効にすると、常にキオスク管理者メニューが表示されます。これにより、すべてのユーザーがキオスク管理者メニューにアクセスできるようになります。

タスクバーとスタートボタンの非表示。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューを非表示にします。そうでない場合でも、ユーザーはデスクトップにアクセスできます。

Alt+Tabのロック。有効にすると、Alt+Tabコマンドを無視し、ユーザーがエージェントから切り替えるのを防ぎます。

Zオーダーの修正。有効にすると、キオスクインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、ユーザーはキオスクをバックグラウンドに移動できるようになります。

Citrix Desktop Viewerのロック。有効にすると、デスクトップビューアをロックダウンモードに切り替えます。これは、Citrix Workspace app for Windows Desktop Lock がインストールされている場合に発生するロックダウンと同等です。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、以下のすべての条件が満たされた場合にのみ機能します。

- エージェントホストにログオンしているユーザーが管理者グループのメンバーではないこと。
- タブの オプションが有効になっていること。
- タブの オプションが有効になっていること。

表示設定の非表示。有効にすると、Transformer UI の の下にある を非表示にします。

キーボード設定の非表示。有効にすると、Transformer UI の の下にある を非表示にします。

マウス設定の非表示。有効にすると、Transformer UI の の下にある を非表示にします。

音量設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の**設定**の下にある**音量**が非表示になります。

クライアントの詳細を非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**クライアントの詳細**が非表示になります。**クライアントの詳細**から、バージョン番号などの情報を確認できます。

プログレスバーを無効にする。有効にすると、埋め込み Web ブラウザのプログレスバーが非表示になります。

Windows バージョンを非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**Windows バージョン**が非表示になります。

ホームボタンを非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるホームアイコンが非表示になります。

プリンター設定を非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるプリンターアイコンが非表示になります。ユーザーは Transformer UI でプリンターを管理できません。

Receiver をプレ起動。有効にすると、Citrix Workspace アプリを起動し、キオスクモードウィンドウを表示する前にロードが完了するまで待機します。

ロック解除を無効にする。有効にすると、**Ctrl+Alt+U** のロック解除ショートカットを使用してエージェントのロックを解除できなくなります。

ログオフオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**ログオフ**が非表示になります。

再起動オプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**再起動**が非表示になります。

シャットダウンオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**シャットダウン**が非表示になります。

前回の言語を無視。Transformer UI は複数の言語をサポートしています。**全般ペイン**で**言語選択を許可**オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。このオプションが有効になるまで、エージェントは選択された言語を記憶します。

ログオン/ログオフと電源設定

自動ログオンモードを有効にする。有効にすると、ユーザーは Windows ログオン画面をバイパスして、エージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンします。

セッション起動時に Web ポータルからログオフ。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが起動したときに、全般設定ページで指定された Web フロントエンドからログオフされます。

セッション終了オプション。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行中の環境に対してどのようなアクションを実行するかを指定できます。

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された現地時刻に、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）が続いた後、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリーの状態を確認しない。Transformer のユースケースでは、エージェントはバッテリーの状態を確認し、バッテリー残量が少なくなるとユーザーに警告します。有効にすると、エージェントはこのチェックを実行しません。

詳細設定

これらの設定は、エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを変更します。

構成

これらのオプションは、基本的なエージェントの動作を制御します。

メイン構成

エージェントアクション。これらの設定は、エージェントがアクションタブで構成されたアクションを処理するかどうかを決定します。これらの設定は、ログオン時、および更新時（自動または手動更新（ユーザーまたは管理者によってトリガーされる））に適用されます。

アプリケーションの処理。選択すると、エージェントはアプリケーションアクションを処理します。

プリンターの処理。選択すると、エージェントはプリンターアクションを処理します。

ネットワークドライブの処理。選択すると、エージェントはネットワークドライブアクションを処理します。

仮想ドライブの処理。選択すると、エージェントは仮想ドライブアクションを処理します。（仮想ドライブとは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。）

レジストリ値の処理。選択すると、エージェントはレジストリエントリアクションを処理します。

環境変数の処理。選択すると、エージェントは環境変数アクションを処理します。

ポートの処理。選択すると、エージェントはポートアクションを処理します。

Iniファイル操作の処理。選択すると、エージェントは.iniファイルアクションを処理します。

外部タスクの処理。選択すると、エージェントは外部タスクアクションを処理します。

ファイルシステム操作の処理。選択すると、エージェントはファイルシステム操作アクションを処理します。

ファイル関連付けの処理。選択すると、エージェントはファイル関連付けアクションを処理します。

ユーザーDSNの処理。選択すると、エージェントはユーザーDSNアクションを処理します。

エージェントサービスアクション。これらの設定は、エージェントサービスがエンドポイントでどのように動作するかを制御します。

ログオン時にエージェントを起動。エージェントがログオン時に実行されるかどうかを制御します。

再接続時にエージェントを起動。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに、エージェントが実行されるかどうかを制御します。

管理者向けにエージェントを起動。ユーザーが管理者である場合にエージェントが実行されるかどうかを制御します。

エージェントの種類。ユーザーがエージェントと対話する際に、ユーザーインターフェイス (UI) またはコマンドラインプロンプト (CMD) のどちらが表示されるかを制御します。

（仮想）デスクトップ互換性を有効にする。エージェントが実行されているデスクトップとの互換性を確保します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントが起動するために必要です。物理デスクトップまたはVDIデスクトップのユーザーがいる場合は、このオプションを選択してください。

公開アプリケーションでCMDエージェントのみを実行。有効にすると、公開アプリケーションでは、エージェントはUIモードではなくCMDモードで起動します。CMDモードでは、エージェントのスプラッシュ画面の代わりにコマンドプロンプトが表示されます。

クリーンアップアクション

このタブにあるオプションは、エージェントが更新されたときに、エージェントがショートカットやその他の項目（ネットワークドライブやプリンター）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てる場合、ショートカットや項目の作成も制御できることがわかります。これを行うには、**Assignments > Action Assignment > Action Assignment**タブの**Assigned**ペインでアクションのオプションを構成します。Workspace Environment Management™ は、これらのオプションを特定の優先順位に従って処理します。

1. **Cleanup Actions**タブにあるオプション
2. **Assigned**ペインで割り当てられたアクションに対して構成されたオプション

たとえば、**Assigned**ペインで割り当てられたアプリケーションに対して**Create Desktop**オプションを有効にしており、アプリケーションのショートカットがすでにデスクトップに作成されているとします。**Cleanup Actions**タブで**Delete Desktop Shortcuts**オプションを有効にしているにもかかわらず、エージェントが更新されてもショートカットはデスクトップに残ります。

起動時のショートカット削除。エージェントは、更新時に選択された種類のすべてのショートカットを削除します。

起動時にネットワークドライブを削除する。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークドライブを削除します。

起動時にネットワークプリンターを削除する。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークプリンターを削除します。

自動作成されたプリンターを保持する。有効にすると、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。

特定のプリンターを保持する。有効にすると、エージェントはこのリスト内のプリンターを削除しません。

エージェントオプション

これらのオプションは、エージェントの設定を制御します。

エージェントログを有効にする。エージェントログファイルを有効にします。

ログファイル。ログファイルの場所。デフォルトでは、これはログインユーザーのプロファイルルートです。

デバッグモード。これにより、エージェントの詳細ログが有効になります。

オフラインモードを有効にする。無効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合にキャッシュにフォールバックしません。

オンライン時でもキャッシュを使用する。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（キャッシュはエージェントサービスがサイクルするたびに構築されます）。

キャッシュを使用してアクション処理を高速化する。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから関連する設定を取得してアクションを処理します。これにより、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻したい場合は、このオプションを無効にしてください。

> **重要:**
>
> - エージェントのローカルキャッシュは、定期的にインフラストラクチャサービスと同期されます。そのため、アクション設定の変更が有効になるまでには、**Agent Cache Refresh Delay** オプション（**Advanced Settings > Configuration > Service Options** タブ）で指定した値に応じて時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、より小さい値を指定します。変更をすぐに有効にするには、**Administration > Agents > Statistics** タブに移動し、該当するエージェントを右クリックして、コンテキストメニューから **Refresh Cache** を選択します。

> **環境設定を更新する**。有効にすると、エージェントの更新時にユーザー環境設定の更新がトリガーされます。環境設定の詳細については、「環境設定」を参照してください。

システム設定の更新。有効にすると、エージェントの更新が発生したときに、エージェントはWindowsシステム設定（例: Windowsエクスプローラーとコントロールパネル）の更新をトリガーします。

環境設定の変更時に更新。有効にすると、環境設定が変更されたときに、エージェントはエンドポイントでWindowsの更新をトリガーします。

デスクトップの更新。有効にすると、エージェントの更新が発生したときに、エージェントはデスクトップ設定の更新をトリガーします。デスクトップ設定の詳細については、デスクトップを参照してください。

外観の更新。有効にすると、エージェントの更新が発生したときに、エージェントはWindowsテーマとデスクトップの壁紙の更新をトリガーします。

非同期プリンター処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します。

非同期ネットワークドライブ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

初期環境クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- ユーザーネットワークプリンター。
  - **クリーンアップアクション**タブで**自動作成されたプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。
  - **クリーンアップアクション**タブで**特定のプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントはリストで指定されたプリンターを削除しません。
- ホームドライブであるネットワークドライブを除く、すべてのネットワークドライブ。
- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューのピン留めされたショートカット。

初期デスクトップUIクリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

アプリケーションの存在を確認。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

アプリ変数を展開。有効にすると、変数はデフォルトで展開されます（エージェントが変数を検出したときの通常の動作については、環境変数を参照してください）。

クロスドメインユーザーグループ検索を有効にする。有効にすると、エージェントはすべてのActive Directoryドメインでユーザーグループを照会します。**注**: これは非常に時間のかかるプロセスであり、必要な場合にのみ選択してください。

ブローカーサービスタイムアウト。インフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合に、エージェントが自身のキャッシュに切り替えるまでのタイムアウト値。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ディレクトリサービスタイムアウト。エージェントホストマシン上のディレクトリサービスのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはユーザーグループ関連付けの自身の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ネットワークリソースタイムアウト。ネットワークリソース（ネットワークドライブまたはネットワーク上にあるファイル/フォルダリソース）を解決するためのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはアクションが失敗したと見なします。デフォルト値は500ミリ秒です。

エージェントの最大並列度。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は0（プロセッサが物理的に許容する最大数のスレッド）、1はシングルスレッド、2はデュアルスレッドなどです。通常、この値を変更する必要はありません。

通知を有効にする。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりしたときに、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。Citrix®は、品質の低いネットワーク接続ではこのオプションを有効にしないことを推奨します。そうしないと、接続状態の変更通知がエンドポイント（エージェントホスト）に頻繁に表示される可能性があります。

詳細オプション

エージェントアクションの実行を強制。これらの設定が有効になっている場合、変更が行われていなくても、エージェントホストは常にそれらのアクションを更新します。

未割り当てアクションを元に戻す。これらの設定が有効になっている場合、エージェントホストは次回の更新時に未割り当てのアクションをすべて削除します。

自動更新。有効にすると、エージェントホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新遅延は30分です。

再接続アクション

再接続時のアクション処理。これらの設定は、ユーザー環境への再接続時にエージェントホストが処理するアクションを制御します。

高度な処理

フィルター処理の強制。有効にすると、これらのオプションにより、エージェントホストは更新ごとにフィルターを再処理するよう強制されます。

サービスオプション

これらの設定は、エージェントホストサービスを構成します。

エージェントキャッシュの更新遅延。この設定は、Citrix WEM Agent Host Service がキャッシュを更新するまで待機する時間を制御します。更新により、キャッシュはWEMサービスデータベースと同期されます。デフォルトは30分です。

SQL設定の更新遅延。この設定は、Citrix WEM Agent Host Service がSQL接続設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは15分です。

エージェントの追加起動遅延。この設定は、Citrix WEM Agent Host Service がエージェントホスト実行可能ファイルを起動するまで待機する時間を制御します。

> **ヒント:**
>
> エージェントホストにまず必要な作業を完了させたいシナリオでは、エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が待機する時間を指定できます。VUEMAppCmd.exe は、Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが起動される前に、エージェントホストが環境の処理を完了するようにします。待機時間を指定するには、エージェントホスト構成グループポリシーで利用可能な VUEMAppCmd の追加同期遅延設定を構成します。詳細については、「WEMエージェントのインストールと構成」を参照してください。

> **デバッグモードを有効にする**。これにより、このサイトに接続するすべてのエージェントホストに対して詳細なログが有効になります。

ie4uinitチェックをバイパス。デフォルトでは、Citrix WEM Agent Host Service は、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前に ie4uinit が実行されるのを待機します。この設定により、エージェントホストサービスは ie4uinit を待機しないよう強制されます。

エージェント起動の除外。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対しては、Citrix WEM Agent Host は起動されません。

コンソール設定

禁止ドライブ。このリストに追加されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字選択から除外されます。

割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可。有効にすると、割り当てで使用されたドライブ文字は、他の割り当てでも引き続き使用できます。

StoreFront™

このタブを使用して、StoreFrontストアをWorkspace Environment Managementに追加します。その後、**アクション > アプリケーション > アプリケーションリスト**タブに移動して、それらのストアで利用可能なアプリケーションを追加できます。これにより、公開されたアプリケーションをアプリケーションショートカットとしてエンドポイントに割り当てることができます。詳細については、「アプリケーション」を参照してください。Transformer (キオスク) モードでは、割り当てられたStoreFrontアプリケーションアクションが**アプリケーション**タブに表示されます。StoreFrontストアの詳細については、「StoreFrontドキュメント」を参照してください。

ストアを追加するには

1. 「**追加**」をクリックします。
2. **ストアの追加**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。ストアは構成セットに保存されます。

ストアURL。Workspace Environment Managementを使用してリソースにアクセスするストアのURL。URLは、http://hostnameの形式で指定する必要があります。ここで、hostnameはストアの完全修飾ドメイン名であり、portはプロトコルのデフォルトポートが利用できない場合にストアとの通信に使用されるポートです。

> **重要:**
>
> - 使用するストアURLは、外部ネットワークから直接アクセスできる必要があり、Citrix ADCなどのソリューションの背後にあってはなりません。
> - この機能は、多要素認証を使用するStoreFrontでは動作しません。

> **説明**。ストアを説明するオプションのテキスト。

ストアを編集するには

リストからストアを選択し、**編集**をクリックしてストアのURLまたは説明を変更します。

ストアを削除するには

リストからストアを選択し、**削除**をクリックして構成セットからストアを削除します。

変更を適用するには

適用をクリックして、ストア設定をエージェントにすぐに適用します。

エージェントの切り替え

このタブにあるオプションを使用すると、オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えることができます。

> **重要:**
>
> エージェントの切り替えは、構成セットレベルで機能します。実行する切り替え操作は、構成セット内のエージェントのみに影響します。
>
> **サービスエージェントに切り替える**。有効にすると、エージェントはオンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替わります。その後、エージェントが接続するCitrix Cloud™ Connectorsを指定できます。これは、既存のオンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合に役立ちます。

> **警告:**
>
> オンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合にのみ、このオプションを有効にしてください。この移行は、WEM管理コンソールから元に戻すことはできません。
>
> **Citrix Cloud Connectorを構成する**。Cloud ConnectorのFQDNまたはIPアドレスを入力して、Citrix Cloud Connectorを構成できます。「**追加**」をクリックして、Cloud Connectorを一度に1つずつ追加します。高いサービス可用性を確保するために、Citrixは各リソースの場所に少なくとも2つのCloud Connectorをインストールすることを推奨しています。したがって、少なくとも2つのCitrix Cloud Connectorを構成する必要があります。

Citrix Cloud Connector™の構成をスキップする。グループポリシーを使用してCitrix Cloud Connectorを構成する場合は、このオプションを選択します。

> **重要:**

> エージェントの切り替え設定が有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで構成した「**SQL設定の更新遅延**」設定に応じて時間がかかる場合があります。

> オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えた後、エージェントがWEMサービスに接続できない場合があり、ロールバックが必要になることがあります。その場合は、AgentConfigurationUtility.exeコマンドラインを使用します。例：

- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name> --agentport <port number> --syncport <port number>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch --usegpo -o`

Wake on LAN (ウェイク・オン・ラン)

このタブを使用して、エージェントホストをリモートで起動します。WEMは、ターゲットエージェントと同じサブネットにあるエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントをWake on LANメッセンジャーとして使用します。この機能には、Wake on LANと互換性のあるハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連するBIOS設定が構成されていることを確認してください。

エージェントのWake on LANを有効にする。エージェントホストのWake on LANを有効にするために、Windowsオペレーティングシステムの設定を構成するかどうかを制御します。選択すると、エージェントは次のシステム設定を構成します。

- ネットワークアダプターの「**Energy Efficient Ethernet**」を無効にする
- ネットワークアダプターの「**Wake on Magic Packet**」を有効にする
- ネットワークアダプターの「**このデバイスでコンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする**」を有効にする
- ネットワークアダプターの「**Magic Packetでのみコンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする**」を有効にする
- 「**高速スタートアップを有効にする**」を無効にする

このオプションを有効にした後、「**管理 > エージェント > 統計**」タブに移動し、リストから1つ以上のエージェントを選択して、「**エージェントを起動**」をクリックして選択したエージェントを起動します。

UIエージェントのパーソナライズ

これらのオプションを使用すると、UIモードのエージェントの外観をパーソナライズできます。これらのオプションは、UIエージェントがユーザー環境でどのように表示されるかを決定します。

> **注:**
>
> これらのオプションは、UIモードのエージェントにのみ適用されます。CMDモードのエージェントには適用されません。

UIエージェントオプション

これらの設定により、ユーザー環境でのセッションエージェント（UIモードのみ）の外観をカスタマイズできます。

カスタム背景画像パス。指定した場合、エージェントの起動時または更新時に、Citrix Workspace Environment Managementのロゴの代わりにカスタムスプラッシュスクリーンが表示されます。画像はユーザー環境からアクセスできる必要があります。400*200 px の .bmp ファイルを使用することをお勧めします。

読み込み円の色。読み込み円の色をカスタム背景に合わせて変更できます。

テキストラベルの色。読み込みテキストの色をカスタム背景に合わせて変更できます。

UIエージェントスキン。UIエージェントから開くダイアログに使用する事前設定されたスキンを選択できます。たとえば、**アプリケーションの管理**ダイアログや**プリンターの管理**ダイアログなどです。**注**: この設定はスプラッシュスクリーンを変更しません。

エージェントスプラッシュスクリーンを非表示にする。有効にすると、エージェントの読み込み時または更新時にスプラッシュスクリーンが非表示になります。この設定は、エージェントが最初に更新されるときには適用されません。

公開アプリケーションでエージェントアイコンを非表示にする。有効にすると、公開アプリケーションにエージェントアイコンが表示されません。

公開アプリケーションでエージェントスプラッシュスクリーンを非表示にする。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのエージェントスプラッシュスクリーンが非表示になります。

管理者のみがエージェントを終了できる。有効にすると、管理者のみがエージェントを終了できます。その結果、非管理者ユーザーのエンドポイントでは、エージェントメニューの**終了**オプションが無効になります。

ユーザーがプリンターを管理できるようにする。有効にすると、エンドポイントのユーザーはエージェントメニューの**プリンターの管理**オプションを利用できます。ユーザーはこのオプションをクリックして**プリンターの管理**ダイアログを開き、デフォルトプリンターを設定したり、印刷設定を変更したりできます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

ユーザーがアプリケーションを管理できるようにする。有効にすると、エンドポイントのユーザーはエージェントメニューの**アプリケーションの管理**オプションを利用できます。ユーザーはこのオプションをクリックして**アプリケーションの管理**ダイアログを開き、以下のオプションを設定できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- **デスクトップ**。アプリケーションのショートカットをデスクトップに追加します。
- **スタートメニュー**。スタートメニューフォルダにアプリケーションのショートカットを作成します。
- **クイック起動**。アプリケーションをクイック起動ツールバーに追加します。
- **タスクバー (P)**。タスクバーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- **スタートメニュー (P)**。アプリケーションをスタートメニューにピン留めします。

> **注:**
>
> 自己修復モードで作成されたショートカットは、このメニューを使用して削除できません。 クイック起動オプションは、Windows XP および Windows Vista でのみ利用可能です。

管理者がエージェントを終了できないようにする。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。

アプリケーションショートカットを有効にする。有効にすると、エージェントメニューに「**マイアプリケーション**」オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは「**マイアプリケーション**」メニューからアプリケーションを実行できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

管理リフレッシュフィードバックを無効にする。有効にすると、管理者が管理コンソールを通じてエージェントのリフレッシュを強制した場合でも、このオプションはユーザー環境に通知を表示しません。

ユーザーによるアクションのリセットを許可する。エージェントメニューに「**アクションのリセット**」オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。「**アクションのリセット**」オプションを使用すると、現在のユーザーは自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが「**アクションのリセット**」を選択すると、「**アクションのリセット**」ダイアログが表示されます。このダイアログで、ユーザーはリセットする内容を詳細に制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、「**リセット**」をクリックできます。これにより、対応するアクション関連のレジストリエントリが消去されます。

注:

- エージェントメニューには、常に次の2つのオプションが利用可能です。「**更新**」と「**バージョン情報**」。「**更新**」オプションは、WEMエージェント設定の即時更新をトリガーします。その結果、管理コンソールで構成された設定がすぐに有効になります。「**バージョン情報**」オプションは、使用中のエージェントのバージョン詳細を表示するダイアログを開きます。

ヘルプデスクオプション

これらのオプションは、エンドポイントのユーザーが利用できるヘルプデスク機能を制御します。

ヘルプリンクアクション。エンドポイントのユーザーが「**ヘルプ**」オプションを利用できるかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがヘルプを求めることができるウェブサイトのリンクを入力します。

カスタムリンクアクション。エージェントメニューに「**サポート**」オプションを表示するかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできるウェブサイトのリンクを入力します。

スクリーンキャプチャを有効にする。エージェントメニューに「**キャプチャ**」オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーはこのオプションを使用してスクリーンキャプチャツールを開くことができます。このツールには次のオプションがあります。

- 「**新規キャプチャ**」。ユーザー環境のエラーのスクリーンショットを撮ります。
- 「**保存**」。スクリーンショットを保存します。
- 「**サポートに送信**」。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

「**サポートに送信オプションを有効にする**」。スクリーンキャプチャツールで「**サポートに送信**」オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーは指定されたサポートメールアドレスに、指定された形式でスクリーンショットとログファイルを直接送信できます。この設定には、動作する構成済みのメールクライアントが必要です。

「**カスタム件名**」。有効にすると、スクリーンキャプチャツールがサポートメールを送信する際に使用するメール件名テンプレートを指定できます。

「**メールテンプレート**」。スクリーンキャプチャツールがサポートメールを送信する際に使用するメールコンテンツテンプレートを指定できます。このフィールドは空にできません。

> **注:**
>
> メールテンプレートで使用できるハッシュタグのリストについては、「動的トークン」を参照してください。 ユーザーは、**##UserScreenCaptureComment## ハッシュタグ**がメールテンプレートに含まれている場合にのみ、コメントを入力するオプションが表示されます。

> 「**SMTPを使用してメールを送信**」。有効にすると、MAPIではなくSMTPを使用してサポートメールを送信します。

「**SMTPをテスト**」。上記で入力したSMTP設定をテストし、それらが正しいことを確認します。

省電力

「**指定した時刻にシャットダウン**」。有効にすると、エージェントは実行中のマシンを指定した時刻に自動的にシャットダウンします。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。

「**アイドル時にシャットダウン**」。有効にすると、エージェントは、マシンが指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）になった後、実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。

管理

「**管理**」ペインは、次の要素で構成されています。

- **管理者**。Workspace Environment Management™ の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを介して構成セットにアクセスする権限を付与できます。
- **ユーザー**。ユーザー統計を表示できます。

- **エージェント**。エージェントの統計情報を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、統計情報のアップロードなどの管理タスクを実行できます。
- **ログ**。Workspace Environment Management での管理アクティビティを表示できます。ログを使用して、次のことができます。
  - 構成変更後の問題を診断およびトラブルシューティングします。
  - 変更管理を支援し、構成を追跡する。
  - 管理アクティビティを報告します。

管理者

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを介して構成セットにアクセスする権限を付与できます。

構成済み管理者リスト

構成済み管理者のリストで、その権限レベル（**フルアクセス**、**読み取り専用**、または**詳細アクセス**。詳細は以下を参照）が表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

管理者を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. 「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。現在編集中のユーザーまたはグループの名前。

説明。ユーザーまたはグループに関する追加情報です。

グローバル管理者。選択したユーザー/グループをグローバル管理者として指定するには、このオプションを選択します。選択したユーザー/グループをサイト管理者として指定するには、このオプションをクリアします。グローバル管理者の権限は、すべてのサイト（構成セット）に適用されます。サイト管理者の権限は、サイトごとに構成されます。

権限。これにより、選択したユーザー/グループに対して、次のいずれかのアクセスレベルを指定できます。**注**：管理者は、アクセス権のある設定のみを表示できます。

フルアクセス管理者は、指定されたサイト（構成セット）のあらゆる側面を完全に制御できます。フルアクセス権を持つグローバル管理者のみが、Workspace Environment Management 管理

者を追加/削除できます。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

読み取り専用管理者は、コンソール全体を表示できますが、設定を一切変更することはできません。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

詳細なアクセスは、管理者が次のいずれかまたは複数の権限セットを持っていることを示します。

アクション作成者は、アクションを作成および管理できます。

アクションマネージャーは、アクションを作成、管理、および割り当てることができます。アクションを編集または削除することはできません。

フィルターマネージャーは、条件とルールを作成および管理できます。割り当てられたアプリケーションで使用中のルールは、フィルターマネージャーが編集または削除することはできません。

割り当てマネージャーは、ユーザーまたはグループにリソースを割り当てることができます。

システムユーティリティマネージャーは、システムユーティリティ設定（CPU、RAM、プロセス管理）を管理できます。

ポリシーとプロファイルマネージャーは、ポリシーとプロファイルの設定を管理できます。

構成済みユーザーマネージャーは、構成済みユーザーリストからユーザーまたはグループを追加、編集、削除できます。割り当てられたアクションを持つユーザーまたはグループは、構成済みユーザーマネージャーが編集または削除することはできません。

トランスフォーマーマネージャーは、トランスフォーマー設定を管理できます。

詳細設定マネージャーは、詳細設定（アクション処理の有効化または無効化、クリーンアップアクションなど）を管理できます。

セキュリティ管理者は、セキュリティタブのすべてのコントロールにアクセスできます。

状態。これは、選択したユーザー/グループが有効か無効かを制御します。無効になっている場合、そのユーザー/グループはWorkspace Environment Management管理者とは見なされず、管理コンソールを使用できません。

種類。このフィールドは読み取り専用で、選択したエンティティがユーザーかグループかを示します。

グローバル管理者がクリアされている場合、次のコントロールが有効になります。

サイト名。このインフラストラクチャサービスが接続されているデータベースに属するすべてのWorkspace Environment Managementサイト（構成セット）。

有効。指定されたWorkspace Environment Managementサイト（構成セット）に対してこの管理者を有効にするには、選択します。無効になっている場合、そのユーザー/グループはそのサイトの管理者とは見なされず、アクセスできません。

権限。このインフラストラクチャサービスに接続されている各Workspace Environment Managementサイト（構成セット）に対して、選択したユーザー/グループの権限レベルを選択します。

ユーザー

このページには、Workspace Environment Management展開に関する統計が表示されます。

統計

このページには、エージェントホストがデータベースに接続しているユーザーの概要が表示されます。

ユーザーの概要。現在のサイト（構成セット）とすべてのサイト（構成セット）の両方について、Workspace Environment Managementライセンスを予約している合計ユーザー数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月間の新規ユーザー数も表示されます。

ユーザー履歴。これには、現在のサイト（構成セット）に関連付けられているすべてのユーザーの接続情報が表示されます。最終接続時刻、最終接続元のマシンの名前、セッションエージェントの種類（UIまたはCMD）、およびバージョンが含まれます。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

エージェント

このページには、Workspace Environment Management展開内のエージェントに関する統計が表示されます。

統計

このページには、Workspace Environment Managementデータベースに記録されているWorkspace Environment Managementエージェントの概要が表示されます。

エージェントの概要。現在の構成セットとすべての構成セットの両方について、Workspace Environment Managementライセンスを予約しているエージェントの合計数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月間に追加されたエージェントも報告されます。

エージェント履歴。構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報（最終接続時刻、最後に接続したデバイスの名前、エージェントのバージョンなど）が表示されます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

同期状態列では、エージェントキャッシュとWorkspace Environment Managementデータベースの最終同期の結果が次のアイコンで示されます。

- 成功（チェックマークアイコン）。最終同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
- 不明（疑問符アイコン）。同期が進行中であるか、まだ開始されていないか、または同期結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
- 失敗（Xアイコン）。最終同期が失敗したことを示します。

Profile Managementの正常性ステータス列では、展開環境におけるProfile Managementの正常性ステータスを表示できます。

Profile Managementの正常性ステータスは、Profile Managementが最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントホストの出力ファイルから特定の問題を特定できます (`%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.xml`)。この機能は、毎日、またはWEMエージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、管理コンソールで選択したエージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**Profile Management構成チェックの更新**を選択します。各ステータスチェックはステータスを返します。最新のステータスを表示するには、**更新**をクリックします。**Profile Managementの正常性ステータス**列のアイコンは、Profile Managementの正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

- 良好（チェックマークアイコン）。Profile Managementが良好な状態であることを示します。
- 警告（三角形の感嘆符アイコン）。Profile Managementが最適ではない状態であることを通知します。最適ではない設定は、展開環境におけるProfile Managementのユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側でのアクションを必要としません。
- エラー（Xアイコン）。Profile Managementが正しく構成されておらず、Profile Managementが正常に機能しないことを示します。
- 利用不可（疑問符アイコン）。Profile Managementが見つからないか、有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックがお客様の経験を反映していない場合、または発生している問題を検出しない場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

最近接続済み列の次のアイコンは、エージェントが特定の期間内にWorkspace Environment Managementデータベースに統計情報をアップロードしたことを示します。エージェントはオンラインです。列が空白の場合は、エージェントがオフラインであることを示します。

- オンライン (チェックマークアイコン)

期限切れレコードのクリア。Workspace Environment Managementデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。

エージェントの起動。選択したエージェントを起動できます。

エージェントを更新するには

エージェントを更新すると、インフラストラクチャサーバーと通信します。インフラストラクチャサーバーは、Workspace Environment Managementデータベースでエージェントホストの**ID**を検証します。

1. エージェントのリストを更新するには、**更新**をクリックします。
2. コンテキストメニューで、**Workspace Agent(s) の更新**を選択します。

コンテキストメニューのオプション

コンテキストメニューの更新オプション(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/refresh-options-in-context-menu.png)

キャッシュの更新。エージェントのローカルキャッシュ（WEM構成データベースのエージェント側レプリカ）の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、エージェントのローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。

エージェントホスト設定の更新。エージェントサービスの設定を適用します。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびその他のユーザーに割り当てられていない設定が含まれます。

Workspace Agent の更新。ユーザーに割り当てられたアクションをWEMエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。

> **重要:**

- **Workspace Agent の更新**オプションは、UIモードで自動的に起動されるエージェント（エンドユーザーまたはスクリプトによって起動されるものではない）でのみ機能します。このオプションは、CMDモードのエージェントでは機能しません。
- すべての設定を更新できるわけではありません。一部の設定（環境設定やグループポリシー設定など）は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

統計のアップロード。統計をインフラストラクチャサービスにアップロードします。

プロファイル管理設定のリセット。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。プロファイル管理設定がエージェントに適用されていない場合は、**プロファイル管理設定のリセット**をクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

注:

WEM管理コンソールから**プロファイル管理設定のリセット**を構成した後も設定がエージェントに適用されない場合は、回避策としてCTX219086を参照してください。

Microsoft USV設定のリセット。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV設定がエージェントに適用されていない場合は、**Microsoft USV設定のリセット**をクリックし、**更新**をクリックします。

プロファイル管理構成チェックの更新。エージェントホストでステータスチェックを実行し、プロファイル管理が最適に構成されているかどうかを判断します。

レコードの削除。データベースからエージェントレコードを削除できます。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションはグレー表示されます。

アクションのリセット。該当するマシン上のすべてのアクション関連レジストリエントリをパージすることで、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

Citrix Optimizerの処理。Citrix Optimizer設定の変更がすぐに有効になるように、設定をエージェントに適用します。

デリバリータスクの実行。このオプションを有効にするには、同じ構成セットにバインドされているエージェントを選択します。デリバリータスクを迅速に実行するには、このページからデリバリータスクを実行することを選択できます。**デリバリータスクの実行**をクリックし、ドロップダウンリストからデリバリータスクを選択して、選択したデリバリータスクをエージェントで実

行します。タスクで、どのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定するルールを構成した場合、オンデマンドタスクを実行するために特定のエージェントを選択すると、それらのルールは無視されます。

登録

このページには、データベースに記録されているWorkspace Environment Managementエージェントの登録ステータスが表示されます。

> **重要:**
>
> エージェントは1つの構成セットにのみ登録する必要があります。

> 次の情報が報告されます。

マシン名。エージェントが実行されているコンピューターの名前。

状態。エージェントホストコンピューター上のエージェントの登録ステータス。アイコンと、登録の成功または失敗に関する詳細情報を提供する次の説明で示されます。

エージェントがどのサイトにもバインドされていません。エージェントがどのサイト（構成セット）にもバインドされていないため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

エージェントが1つのサイトにバインドされている。インフラストラクチャサーバーは、そのサイト（構成セット）のエージェントに必要なマシン依存の設定を送信しています。

エージェントが複数のサイトにバインドされている。エージェントが複数のサイト（構成セット）にバインドされているため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

登録エラーを解決するには

次のいずれかを実行します。

- Active Directory階層（コンピューター、コンピューターグループ、OU間の関係）を編集する

または

- コンピューターが1つのサイト（構成セット）のみにバインドされるように、Workspace Environment Management階層（管理コンソールのActive Directoryオブジェクトセクション）を編集する。

これらの変更を行った後、インフラストラクチャサーバーでエージェントを更新します。

ログ

管理

このタブには、データベース内のWorkspace Environment Management設定に加えられたすべての変更のリストが表示されます。デフォルトでは、ログは手動で更新されるまで空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***この操作は元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにこの操作が実行されたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

エージェント

このタブには、Workspace Environment Management エージェントに加えられたすべての変更が一覧表示されます。**更新**をクリックするまで、ログは空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***これは元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにその操作が行われたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが使用できます。

監視

これらのページには、ユーザーログインとマシンの起動に関する詳細なレポートが含まれています。すべてのレポートをさまざまな形式で**エクスポート**できます。

日次レポート

日次ログインレポート。このサイトに接続しているすべてのユーザーのログイン時間の毎日の概要です。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの各ユーザーの個別のログオン時間を示す詳細ビューが表示されます。

日次起動レポート。このサイトに接続しているすべてのデバイスの起動時間の毎日の概要です。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの個別の起動時間を示す詳細ビューが表示されます。

ユーザーの傾向

ログイン傾向レポート。このレポートは、選択した期間の各日の全体的なログイン傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

起動傾向レポート。このレポートは、選択した期間の各日の全体的な起動傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスの種類。このレポートは、このサイトに接続しているリストされている各オペレーティングシステムのデバイスの数を毎日表示します。各デバイスの種類をダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

ユーザーおよびデバイスレポート

ユーザーレポート。このレポートでは、選択した期間の単一ユーザーのログイン傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスレポート。このレポートでは、選択した期間の単一デバイスの起動傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

プロファイルコンテナのインサイト

この機能は、Profile Management および FSLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などに関するインサイトを提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を常に把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

概要

2つのドーナツグラフが含まれます。

- **使用済みスペース**。左側のグラフは、指定された期間におけるプロファイルコンテナのスペース使用量を示します。

- **セッションステータス**。右側のグラフは、指定された期間に確立されたセッションに対するプロファイルコンテナのアタッチ結果を示します。

期間（例: 過去6日間）を指定した後、**更新**をクリックしてグラフを更新します。

使用済みスペースが次より多い場合、高 (GB)。プロファイルコンテナのスペース使用量が高いと見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

使用済みスペースが次より少ない場合、低 (GB)。プロファイルコンテナのスペース使用量が低いと見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

> **注:**
>
> - 高しきい値は、低しきい値よりも大きくする必要があります。
> - 高しきい値と低しきい値を指定した後、**更新**をクリックして**使用済みスペース**グラフを更新します。
> - 高しきい値と低しきい値を指定した後、その間のスペース使用量はデフォルトで**中**になります。

プロファイルコンテナのステータス

指定された期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストを表示します。期間（例: 過去6日間）を指定した後、**更新**ボタンをクリックしてレコードをフィルタリングします。

選択したレコードが関連するコンテナのデータ収集をトリガーできます。これにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。これを行うには、ステータスレコードを右クリックし、**更新**を選択します。更新操作により、一連のタスクが実行されます。まず、関連するエージェントホストにタスクがすぐに送信されます。エージェントはタスクを受信し、コンテナがエージェントホストで使用中の場合はステータス関連データを収集します。次に、最新のアタッチレコードが収集されたデータで更新されます。ステータスが更新されるまで時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、**更新**ボタンをクリックします。

ステータス列には、ステータスとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>` のMicrosoftドキュメントを参照してください。

構成

レポートオプション

これらのオプションを使用すると、レポート期間と稼働日を制御できます。また、最小**起動時間**と**ログイン時間**（秒単位）を指定して、それ以下の値がレポートされないようにすることもできます。

バックアップと復元

バックアップと復元ページには、既存のバックアップのリストが表示されます。バックアップには、自動バックアップと手動バックアップ（構成セットと設定）の2種類があります。自動バックアップと手動バックアップは、**コンテンツタイプ**列で区別できます。

各バックアップに対して、次の操作を実行できます。

- **復元**。バックアップから構成を復元できます。バックアップから構成を復元すると、選択した構成セットに関連するすべての設定が、バックアップからの設定に置き換えられます。

  > **注:**
  >
  > - 構成セットにProfile Management設定を復元するには、その構成セットの**プロファイル > Profile Management設定**ページにあるクイックセットアップ機能を使用することもできます。
  > - バックアップからProfile Management設定を復元すると、関連サービスで使用するために選択されたSMB共有も復元されます。

- **ダウンロード**。バックアップのコピーをローカルマシンに保存できます。バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。バックアップファイルはJSON形式です。
- **削除**。既存のバックアップを削除できます。

次の操作も実行できます。

- **アップロード**ボタンの横にある更新アイコンをクリックして、現在のページを更新します
- 構成ファイルをアップロードする
- 自動バックアップを管理する
- 構成セットをバックアップする

- Profile Management設定をバックアップする

構成ファイルをアップロードする

以前のバックアップに戻すために使用するJSONファイルをアップロードできます。JSONファイルには、構成セットまたはプロファイル管理設定を含めることができます。ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. **アップロード**をクリックします。**バックアップファイルのアップロード**ウィザードが表示されます。
2. **参照**をクリックし、アップロードするファイルを参照して選択し、**開く**をクリックします。**バックアップファイルのアップロード**ウィザードに戻ります。
3. ファイルの名前を指定します。
4. **アップロード**をクリックして、アップロードを開始します。

> **注:**
>
> - JSONファイルのみをアップロードできます。
> - サイズが5 MB未満のファイルのみをアップロードできます。

自動バックアップの管理

構成セットのバックアップを自動的に保存できます。この機能は、最も古い既存のファイルを上書きし始める前に、各構成セットに対して最大5つのバックアップファイルを保存することをサポートしています。構成セットに関連する以下の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

自動バックアップを構成するには、次の手順を実行します。

1. **自動バックアップの管理**をクリックします。**自動バックアップの管理**ウィザードが表示されます。
2. 自動的にバックアップしたい構成セットを見つけます。
3. その構成セットに対して、次の3つのオプションのいずれかを選択します。

- **未構成**。選択した場合、WEMは自動的にバックアップしません。
- **毎日**。選択した場合、WEMは毎日バックアップを実行します。
- **毎週**。選択した場合、WEMは毎週月曜日にバックアップを実行します。

4. 必要に応じて、他の構成セットについても手順2と3を繰り返します。
5. **保存**をクリックして変更を保存し、ウィザードを終了します。

構成セットをバックアップする

> **重要:**
>
> 手動バックアップの数はアカウントごとに10個に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

> 構成セットのバックアップコピーを保存し、そのバックアップを復元目的で使用できます。構成セットに関連する次の項目をバックアップできます。

- アクション
- アプリケーションセキュリティ、特権昇格、およびプロセス階層制御
- 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
- フィルター
- スクリプトタスク設定
- ユーザー
- WEM設定

構成セットに関連する以下の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

構成セットをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. **バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ウィザードが表示されます。
2. ターゲットの構成セットを選択します。

3. リストからバックアップする構成セットを選択します。
4. バックアップの名前を指定します。
5. 必要に応じて、**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**を選択して、バックアップをローカルに保存します。

> **注:**
>
> バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

6. **バックアップ**をクリックして、バックアップを開始します。

プロファイル管理設定のバックアップ

> **重要:**
>
> 手動バックアップの数はアカウントごとに10個に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

Profile Management 設定をバックアップするには、次の手順を実行します。

1. **バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ウィザードが表示されます。
2. ターゲットの構成セットを選択します。
3. **バックアップする内容**リストから**設定**を選択します。
4. **Profile Management 設定**を選択します。
5. バックアップの名前を指定します。
6. 必要に応じて、バックアップをローカルに保存するには、**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。

> **注:**
>
> バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

7. **バックアップ**をクリックして、バックアップを開始します。

参照

特定のタスクを実行するには、以下の記事を使用してください。

- エージェントイベントログ
- エージェントインサイト
- CMDおよびUIモードのエージェント
- Citrix 環境ツールハブ
- 一般的なコントロールパネルアプレット
- 動的トークン
- 環境設定レジストリ値
- フィルター条件
- FIPSのサポート
- Citrix ADCによる負荷分散
- ログパーサー
- ポート情報
- ログファイルの表示
- WEM LASの問題のトラブルシューティング
- WEM ヘルスチェックツール
- WEM 整合性条件リストマネージャー
- XML プリンターリスト構成

エージェントイベントログ

この記事では、WEMイベントログとその対応する固有のイベントIDのリストを提供します。

WEM構成セット

イベントID	レベル	メッセージ
1001	情報	エージェントは構成セットに正常に登録されました: 名前: `configuration set name` (ID: `configuration set ID`)。
1002	警告	エージェントはどの構成セットにも登録されていません

インフラストラクチャサービスへのWEMエージェント接続

イベントID	レベル	メッセージ
2001	情報	インフラストラクチャサービスに接続中: アドレス: `service address`
2002	エラー	無効なインフラストラクチャサービスアドレス
2003	エラー	WEMサービスに接続できません
2020	情報	WEMサービスに接続中: アドレス: `service address`
2021	情報	WEM用に構成されたCloud Connectorを取得中: `Cloud Connector list`
2022	情報	Citrix DaaS™からCloud Connectorを検出中: `Cloud Connector list`
2023	エラー	すべてのCloud Connectorに到達できません
2024	情報	Cloud Connector 稼働中: `Cloud Connector address`

イベントID	レベル	メッセージ
2025	警告	Cloud Connector 到達不能: `Cloud Connector address`
2026	エラー	Cloud Connector 経由で WEM サービスに接続できません

エージェント構成更新イベント

イベントID	レベル	メッセージ
3001	情報	エージェント構成設定の更新を開始中
3002	エラー	エージェント構成設定の更新が例外により失敗しました: `exception code`
3003	情報	エージェント構成設定が正常に更新されました

ディレクトリサービスイベント

イベントID	レベル	メッセージ
4001	警告	ユーザーのトークングループリストを取得できません
4002	警告	ユーザーのディレクトリサービスグループを取得できません
4003	警告	ユーザーが所属するすべてのグループを取得できません
4004	警告	ユーザーが所属するすべてのOUを取得できません

イベントID	レベル	メッセージ
4005	警告	ローカルコンピューターのグループリストを取得できません
4006	警告	ローカルコンピューターのOUリストを取得できません

マシンポリシーイベント

イベントID	レベル	メッセージ
5001	情報	コンピューターグループポリシーの処理を開始しています
5002	情報	前提条件が満たされていないため、マシンポリシーの処理をスキップしています
5003	情報	マシンポリシーの処理をスキップしています: グループポリシー設定の処理が有効になっていません
5004	警告	コンピューターが属するグループまたはOUを取得できません。グループポリシーの処理は終了しました
5005	情報	コンピューターグループポリシーが正常に適用されました
5006	警告	コンピューターグループポリシーを適用できません。失敗したGPOのリスト: `GPO list`

ユーザーポリシーイベント

イベントID	レベル	メッセージ
5501	情報	`user name` のユーザーグループポリシーの処理を開始しています
5502	情報	前提条件が満たされていないため、ユーザーポリシーの処理をスキップしています
5503	情報	ユーザーポリシーの処理をスキップしています: グループポリシー設定の処理が有効になっていません
5504	情報	マッピングされたアカウントが見つからないため、ローカルユーザー `user identity name` のポリシー処理をスキップしました
5505	警告	ユーザーが属するグループまたはOUを取得できません。グループポリシーの処理は終了しました
5506	情報	ユーザーグループポリシーが正常に適用されました
5507	警告	ユーザーグループポリシーを適用できません。失敗したGPOのリスト: `GPO list`

キャッシュ同期イベント

イベントID	レベル	メッセージ
6001	情報	自動エージェントキャッシュ同期を開始しています

イベントID	レベル	メッセージ
6002	情報	オンデマンドエージェントキャッシュ同期を開始しています
6003	警告	ネットワークが利用できません。エージェントキャッシュの同期はスキップされました
6004	警告	エージェントキャッシュの同期はスキップされました: 無効なクラウドサービス設定
6005	警告	エージェントキャッシュの同期はスキップされました: 無効なインフラストラクチャサービスアドレス
6006	エラー	エージェントキャッシュの同期が予期しないエラーで失敗しました
6007	情報	エージェントキャッシュの同期が正常に完了しました
6008	情報	ファイルベースのキャッシュ同期を開始しています。
6009	警告	キャッシュファイルが大きすぎて永続データ場所に保存できません。ファイルサイズ: `{size}`。
6010	情報	ファイルベースのキャッシュ同期が完了しました。
6011	情報	ファイルベースのキャッシュ情報: 同期モード: `{sync mode}`、キャッシュの場所: `{location}`

イベントID	レベル	メッセージ
6012	エラー	ファイルベースのキャッシュ同期に失敗しました。エラー: `{error message}`
6013	エラー	キャッシュを永続データ場所に保存できません。エラー: `{error message}`
6014	情報	永続キャッシュファイルが見つかりません。キャッシュは永続データ場所から復元されません。
6015	エラー	永続データロケーションからキャッシュを復元できません。エラー: `{error message}`
6016	情報	無効な永続キャッシュファイルを削除しています。
6017	エラー	基本展開モードの基本設定キャッシュを作成できません。エラー: `{error message}`
6018	情報	ファイルベースのキャッシュ同期に成功しました。キャッシュの場所: `{location}`

最適化イベント

CPU最適化

イベントIDが7003から7008までのメッセージを書き込むには、次のレジストリを追加します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

名前: EnableExtraLoggingForOptimization

種類: REG_DWORD

値: 1

注意:

レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる深刻な問題が発生する可能性があります。Citrix®は、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

イベントID	レベル	メッセージ
7001	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のCPUスパイク保護を初期化しています。 `percentage value` で検出された各コアの平均CPU使用率の合計は、システム全体のCPU使用率 `percentage value` となっています。
7002	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のCPUスパイク保護を初期化しています。平均CPU使用率は `percentage value` で検出され、各コアの平均CPU使用率の合計は `percentage value` で検出されました。
7003	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の優先

イベントID	レベル	メッセージ
		度を `priority value` に変更しました。
7004	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の優先度を `priority value` に変更できませんでした。エラーコード: `error code` 。
7005	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のアフィニティ (`affinity value`) が正常に処理されました。
7006	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のアフィニティ (`affinity value`) を構成できません。
7007	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のI/O優先度を `priority value` に変更しました。
7008	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のI/O優

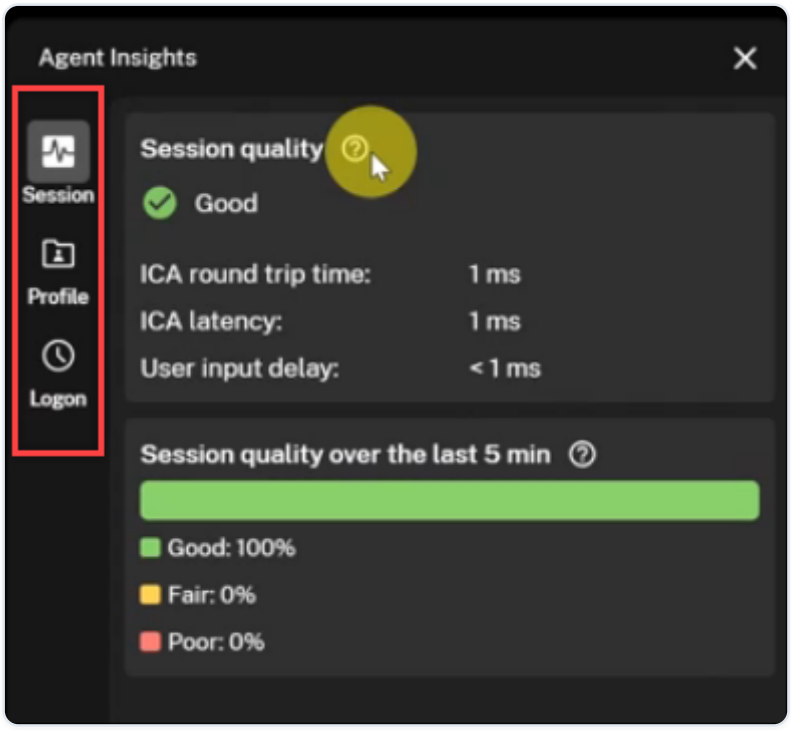
イベントID	レベル	メッセージ
		先度を `priority value` に変更できません。

メモリ最適化

イベントID	レベル	メッセージ
8001	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のメモリ最適化を初期化しています。
8002	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のメモリ最適化が成功しました。
8003	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のメモリを最適化できません。

エージェントインサイト

Agent Insightsは、WEMエージェントに付属するツールで、セッションパフォーマンス、プロファイルコンテナの使用状況、ログオンアクティビティをリアルタイムで監視およびトラブルシューティングするのに役立ちます。



Agent Insightsを使用すると、マシン上で次の詳細を確認できます。

- **セッション**: 現在のセッションステータスと、過去5分間のセッション品質。
- **プロファイル**: プロファイルの種類、ストレージパス、容量、および大きなファイルのリストを含むプロファイルコンテナの詳細。
- **ログオン**: ログオン期間、開始時刻と終了時刻、および主要なログオンメトリック。

WEM管理者：WEMコンソールでAgent Insightsを有効にして構成する

エージェントが**基本モード**以外のモードで実行されている場合は、WEM Webコンソールを使用してマシンに対してAgent Insightsを有効にして構成します。そのためには、次の手順を実行します。

1. WEM Webコンソールで、「**構成セット**」にある構成セットを開きます。
2. 「**詳細設定 > UIエージェントのパーソナライゼーション > ユーザーインタラクション**」に移動し、「**エージェントメニューにAgent Insightsを表示**」を選択します。

   詳細については、「詳細設定」(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/manage/configuration-sets/advanced-settings.html#ui-agent-personalization)を参照してください。
3. プロファイルコンテナデータとログオンデータが正しく表示されるようにするには、「**詳細設定 > 監視設定 > 追加設定**」に移動し、「**Agent Insightsに表示するためにレポートをローカルに保存**」を選択します。

   詳細については、「追加設定」(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/manage/configuration-sets/advanced-settings.html#monitoring-preferences)を参照してください。

4. 「**プロファイル**」タブに大きなファイルのリストを表示するには、「**詳細設定 > 監視設定**」に移動し、「**大きなファイルのスキャンを有効にする**」が選択されていることを確認します。

   詳細については、「監視設定」(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/manage/configuration-sets/advanced-settings.html#monitoring-preferences)を参照してください。

エージェントが**基本モード**で実行されている場合は、グループポリシーを使用して次のAgent Insights設定を有効にします。

- `enableAgentInsightsManagement`
- `enableLargeFileScan`

詳細については、「基本展開エージェントの管理」(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/manage-basic-deployment-agents.html)を参照してください。

ユーザー：マシンでAgent Insightsを有効にして開く

WEM管理者がWEM WebコンソールでAgent Insightsを有効にして構成した後、エンドユーザーとして、ご使用のマシンからこの機能にアクセスできます。

Agent Insightsパネルを有効にして開き、詳細なセッションパフォーマンス、プロファイルコンテナの使用状況、およびログオンアクティビティを表示します。これを行うには：

1. エージェントを**UIモード**で実行します。

   詳細については、「CMDモードとUIモードのエージェント」(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/reference/agent-ui-cmd-mode.html)を参照してください。
2. 通知領域のエージェントアイコンを右クリックし、**Agent Insightsを有効にする**を選択します。

   Agent Insightsを無効にするには、アイコンをもう一度右クリックし、**Agent Insightsを無効にする**を選択します。
3. 通知領域のエージェントアイコンをクリックします。Agent Insightsパネルが開きます。
4. パネルの左側にあるタブを使用して、次のインサイトを表示します。

   - セッション
   - プロファイル
   - ログオン

参照

Agent Insightsパネルの次のタブは、セッションパフォーマンス、プロファイルコンテナの使用状況、およびログオンアクティビティのトラブルシューティングに役立つ詳細なメトリックを提供します。

- セッション
- プロファイル
- ログオン

セッションタブ

セッションタブは、過去5分間の現在のセッションステータスおよびセッション品質に関するインサイトを提供します。

> **注:**
>
> このタブは、Citrix仮想デスクトップのデータのみを表示します。物理マシンには適用されません。

現在のセッションステータス

メトリック	説明
ICA® ラウンドトリップ時間	ユーザーアクションとグラフィカルな応答の間の時間。ICA待機時間、エンドポイント遅延、ホスト遅延が含まれます。
ICA待機時間	ネットワーク待機時間を測定します。
ユーザー入力遅延	ユーザー入力（マウスクリックやキーストロークなど）が処理されるまでに待機する時間。値が高い場合、リソース競合またはパフォーマンスの問題を示している可能性があります。

セッション品質

セッション品質セクションは、過去5分間のユーザーエクスペリエンスを要約します。

品質	説明
良好	セッションは応答性があります。
普通	パフォーマンスの低下が見られます。
不良	高い遅延または遅延があり、ネットワークまたはシステムの問題が原因である可能性があります。

プロファイルタブ

> **注:**
>
> このタブは、Citrix Profile Management または Microsoft FSLogix を使用するプロファイルコンテナ展開にのみ適用されます。

プロファイルタブには、以下が表示されます。

- プロファイルの種類
- プロファイルサイズ
- 容量
- 大きいファイルの一覧（利用可能な場合）

> **注:**
>
> 大きいファイルのデータは、Agent Insights の読み込み時にのみ更新されます。データを更新するには、**更新**を選択します。

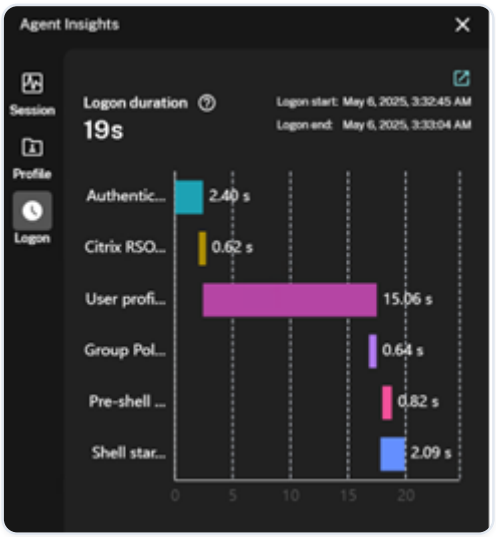
ログオンタブ

ログオンタブには、次のメトリックが表示されます。

メトリック	説明
ログオン時間	ログオンプロセスにかかる合計時間。

メトリック	説明
開始時刻と終了時刻	ログオンの開始と終了のタイムスタンプ。
基本メトリック	ログオンパフォーマンスの主要な指標。

ログオンデータが読み込まれる前に待機ページが表示されます。ユーザーがログオンすると、概要が表示されます。



ヒント:

Citrix Environment Tool Hubがインストールされている場合は、データ領域またはパネルの右上隅にあるアイコンを選択して、詳細を表示します。インストールされていない場合は、同じ場所にダウンロードリンクが表示されます。拡張診断および監視機能にアクセスするには、**Citrix Environment Tool Hub**をインストールしてください。

CMDモードとUIモードのエージェント

Workspace Environment Management™ エージェントは、CMDモードとUIモードで実行できます。

エージェントをログオン時に実行するように構成する場合、CMDモードで開始するかUIモードで開始するかを制御できます。これを行うには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > メイン構成**タブにある**エージェントの種類**設定を使用します。詳細については、「詳細設定」を参照してください。

エージェントをログオン時に自動的に実行するように構成しない場合、管理者またはエンドユーザーは、エージェントマシンでエージェントをCMDモードまたはUIモードで開始できます。これを行うには、エージェントのインストールフォルダーに移動し、次の2つの.exeファイルを特定します。

- **VUEMCmdAgent.exe**。エージェントをCMDモードで実行できます。
- **VUEMUIAgent.exe**。エージェントをUIモードで実行できます。

CMDモードとUIモードの違い

CMDモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、CMDモードではコマンドプロンプトが表示されます。CMDモードは起動後に自動的に終了します。
- 起動時、CMDモードはユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- 現在、CMDモードはコマンドライン操作をサポートしていません。

UIモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、UIモードではエージェントのスプラッシュ画面が表示されます。
- UIモードでは、次のオプションが表示されます。
    - **マイアプリケーション**。自分に割り当てられているアプリケーションを表示できます。
    - **画面キャプチャ**。画面キャプチャツールを開くことができます。このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**タブで**画面キャプチャを有効にする**を有効にする必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション」(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/user-interface-description/advanced-settings.html#helpdesk-options)を参照してください。
    - **アクションのリセット**。環境でリセットするアクションを指定するための**アクションのリセット**ツールを開くことができます。

    このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるアクションのリセットを許可**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/user-interface-description/advanced-settings.html#ui-agent-options)を参照してください。

- **アプリケーションの管理**。アプリケーションを管理するための**アプリケーションの管理**ツールを開くことができます。

このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるアプリケーションの管理を許可**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/user-interface-description/advanced-settings.html#ui-agent-options)を参照してください。

- **プリンターの管理**。デフォルトのプリンターを構成し、印刷設定を変更するための**プリンターの管理**ツールを開くことができます。

このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるプリンターの管理を許可**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/user-interface-description/advanced-settings.html#ui-agent-options)を参照してください。

- **更新**。エージェントを更新し、ユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- **ヘルプ**。ヘルプを求めることができるWebサイトを開くことができます。

このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**タブで**ヘルプリンクアクション**を指定する必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション」(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/user-interface-description/advanced-settings.html#helpdesk-options)を参照してください。

- **バージョン情報**。エージェントのバージョンに関する情報を表示します。
- **終了**。エージェントを閉じることができます。

アクションをリセットし、アプリケーションとプリンターを管理するには、UIモードでエージェントを使用する必要なく、次のツール（エージェントのインストールフォルダーで利用可能）を直接使用できます。

- **ResetActionsUtil.exe**。**アクションのリセット**ツールを開くことができます。
- **AppsMgmtUtil.exe**。**アプリケーションの管理**ツールを開くことができます。
- **PrnsMgmtUtil.exe**。「**プリンターの管理**」ツールを開くことができます。

CMDモードとUIモードの主な違い：

- CMDエージェントは設定を適用してから終了します。WEMエージェントサービス（Citrix WEM Agent Host ServiceまたはCitrix WEM User Logon Service）を構成して、特定の時点（ログオンや再接続など）でCMDエージェントを起動できます。必要に応じて、管理者はCMDエージェントを手動で呼び出すことができます。
- UIエージェントは実行を継続します。Citrix WEM Agent Host ServiceはUIエージェントを起動または停止します。UIエージェントはエンドユーザーにセルフサービスオプションを提供します。管理者がUIエージェントを手動で起動しないことをお勧めします。

> **注:**
>
> セッション内でCMDエージェントとUIエージェントを同時に実行することはできません。

Citrix 環境ツールハブ

Citrix Environment Tool Hub は、Workspace Environment Management™ (WEM) 管理者の構成エクスペリエンスを簡素化することを目的としたツール群です。このツールは、オンプレミスのWebコンソールから、またはツールとユーティリティ > Citrix Environment Tool Hubを使用してダウンロードできます。

Citrix Environment Tool Hub を実行するための前提条件は次のとおりです。

- .NET Framework 4.7.1 以降
- Microsoft Edge WebView2 Runtime バージョン 98 以降
- ローカル管理者権限

この記事では、Citrix Environment Tool Hub で利用できるツールとその使用方法について説明します。

> **注:**
>
> - Citrix Environment Tool Hub はデータを保存しません。ツールを終了するとデータはクリアされます。データの損失を防ぐため、作業内容を保存してください。
> - Citrix Environment Tool Hub からコピーしたデータをWebコンソールに貼り付けるには、ブラウザがデータのコピーを許可していることを確認してください。例: Microsoft

> Edge の場合、**サイトのアクセス許可 > クリップボード > サイトがクリップボードにコピーされたテキストと画像を表示しようとしたときに確認する** オプションが有効になっていることを確認してください。

ツールハブのダウンロードと起動

1. 以下のいずれかのURLからツールハブの `.zip` ファイルをダウンロードします。
   - `<https://wem-production-ui.wem.cloud.com/utilities>`
   - `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-tools/citrixtoolspage/CitrixEnvironmentToolHub.html>`
2. `.zip` ファイルを抽出します。
3. `Citrix.WEM.Admin.ToolHub.exe` をダブルクリックしてツールハブを起動します。

アプリケーションアシスタント

このツールを使用して、管理コンソールでアプリケーションを追加する際に使用するアイコンとCitrix Workspace™ リソースの構成情報を準備します。

ワークスペースリソース

> **注:**
>
> このツールを使用するには、Citrix Workspaceアプリがマシンにインストールされている必要があります。

> Webコンソールに「Citrix Workspaceリソース」タイプのアプリケーションを追加する場合、リソースを指定する必要があります。リソースの情報を取得するには、次の手順を実行します。

1. ストアURLまたはワークスペースURLを入力します。
2. **リソースの参照**をクリックして、リソースを参照します。リソースがカウントされ、一覧表示されます。
3. リストからターゲットアプリケーションを選択し、その情報をコピーします。

Webコンソールで、**リソース情報の貼り付け**をクリックして、コピーした情報を貼り付けます。(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/manage/configuration-sets/actions.html#add-an-application)を参照してください。

アイコン

Webコンソールでアプリケーションのアイコンを設定するときに、新しいアイコンを追加できます。アイコンのデータを取得するには、次の手順を実行します。

1. **参照**をクリックして、アイコンを含むファイルを参照します。ファイル内のアイコンが読み込まれます。サポートされているファイルの種類: `.exe`、`.dll`、`.ico`。
2. アイコンを選択し、アイコンデータをコピーします。

Webコンソールで、**アイコンデータの貼り付け**をクリックして、コピーしたアイコンデータを貼り付けます。(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/manage/configuration-sets/actions.html#add-an-application)を参照してください。

Windows 11用スタートメニューコンフィギュレーター

このツールを使用して、Windows 11のスタートメニューレイアウトを構成し、管理コンソールでアクションとして割り当てることができるJSON形式の構成を生成します。

Windows 11のスタートメニューレイアウトをカスタマイズするには、次の手順を実行します。

1. Citrix Environment Tool Hubで**Windows 11用スタートメニューコンフィギュレーター**をクリックします。**スタート**メニューの**ピン留め済み**セクションに追加するアプリケーションを選択し、必要に応じてレイアウトを配置します。
2. 「**構成を生成**」をクリックし、結果をコピーします。
3. Webコンソールで、「**新しいJSONオブジェクトを追加**」をクリックし、「**Windows 11のスタートメニュー構成**」を選択します。「**JSONオブジェクトの追加**」ページに構成を貼り付け、「**完了**」をクリックします。
4. 「**割り当ての管理**」ページで必要な割り当てターゲットを選択して、JSONファイル構成をユーザーに割り当て、「**保存**」をクリックします。

アプリケーションの追加

Citrix Environment Tool Hubを使用してアプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「**Windows 11のスタートメニュー構成ツール**」ページで「**アプリケーションの追加**」をクリックします。

2. 「**アプリケーションの追加**」ページで、スタートメニューに追加する必要なアプリケーションを選択し、「**追加**」をクリックします。
3. 「**ピン留め済み**」レイアウトセクションで、必要に応じてアプリケーションをドラッグして、アプリケーションの順序を変更できます。
4. 「**構成を生成**」をクリックし、構成が生成されたら「**コピー**」をクリックします。構成の生成中に、選択したレイアウトがスタートメニューに適用されます。

Windowsログオン分析

このツールを使用して、ログオン期間レポートを表示し、ログオン期間の最適化とトラブルシューティングのヒントを得ることができます。

完全なレポートを受信するには、マシン上の関連するWindowsイベントログの**ログ収集を有効にします**。

- 「**Windowsログオン分析 > レポートの取得**」をクリックして、「**最新レポートの取得**」ウィザードにアクセスします。
- ドロップダウンリストからオプションの1つを選択して時間範囲を選択し、「**レポートの取得**」をクリックします。デフォルトの範囲は「**過去24時間**」です。
- フェーズと説明は、次の表に基づいてグラフ形式で表示されます。

次の表に、すべてのメトリック、サブメトリック、およびヒントを詳細に示します。

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
ログオン前	Windowsログオン前にかかった時間。	-	Citrixログオン前	Windows前期間	-
			HDX接続	-	-
認証	セッションへの認証を完了するのにかかった時間。	• **Windows Helloを使用する:**	セッション調停	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		Windows Helloは、顔や指紋を使用してPCにログインできる生体認証機能です。 • **ネットワーク/Active Directoryの速度:** 現在のマシンとActive	ネットワークプロバイダー	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		Directory間のネットワーク通信が良好であることを確認してください。(https://learn.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-serve	Windows認証	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		r-2008-R2-and-2008/cc731968(v=ws.10))などのツールを使用して確認できます。 • **ユーザー名とパスワードの効率的な入力:** ユーザー名とパスワードの入力	VDA 認証	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		が間違っていたり遅れたりすると、認証時間が全体的に延長される可能性があります。			
シトリックス RSOP	Citrix RSOP (Resultant Set of Policy) の完了にかかった時間。	-	-	-	-
ユーザープロファイルの読み込み	ログオンするユーザーのプロファイル設定の読み込み	• **ディスク容量の不**	一時ファイルの走査	-	このメトリックは、PML が存在する場合にのみ利用

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
	にかかった時間。	**足を確認し、空き容量を確保する:** ハードドライブがほぼ満杯の場合、PC のログオンプロセスが遅くなる可能性があります。ハードドライブに十分な空			可能です。

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		き容量があることを確認してください。 • **Proc Mon ツールを使用する:** 詳細を分析するには、Proc Mon ツール を使用して、ユーザーログオン中のユー	ユーザープロファイル	Windows ユーザープロファイルファイルと設定の読み込みにかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		ザープロファイル内のファイル IO をキャプチャします。 • **Citrix Profile Management:** Citrix Profile Management を使用している場合、コンテナベー	SMB クライアント	リモート接続用の SMB クライアントの初期化にかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		スのソリューションを使用するか、またはフォルダーのプロファイルストリーミングとフォルダーミラーリングの高速化を有効にした	Citrix プロファイル管理	プロファイル管理設定の処理にかかる時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		ファイルベースのソリューションを使用することで、ログオンプロセスを最適化できます。詳細はこちら • **Citrix WEM を使用してプロファイル**	Citrix レイヤリング サービス	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		管理のヘルスチェックを構成する: Workspace Environment Management (WEM) は、Citrix Profile Managementがエージェントマシンで最適に構成されて	デフォルトプロファイルのレプリケーション	ユーザーの初回ログオン時にデフォルトユーザープロファイルをコピーするのにかかる時間。	このメトリックは初回ログオン時のみ利用可能です。

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		いるかを確認できます。詳細はこちら	FSLogix プロファイルのロード	FSLogix プロファイルコンテナのロードにかかる時間。	-
グループポリシー処理	グループポリシー設定の処理にかかる時間。	• **GPO キャッシュを無効にする:** gpedit.msc を実行し、「Computer Configuration > Administrative Templates	フォルダーリダイレクト	フォルダーリダイレクトポリシーを適用し、ユーザーフォルダーをネットワークの場所にリンクするのにかかる時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		> System > Group Policy」のパスに移動して、GPOキャッシュを無効にします。 • **GPOの数を減らす:** 一度に処理されるGPOの数を減らします。	WMIフィルター	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		グループポリシーの処理は並行して行われますが、同時に処理できるGPOの数には制限があります。一度に処理されるGPOの数を減らすことで、	Winlogon通知パッケージ	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		グループポリシーの処理を高速化できます。 • **Citrix WEMを使用してグループポリシーを非同期で処理する:** Citrix WEMを使用してグループポリ	ログオンスケジュール済みタスク	グループポリシーのスケジュール済みタスクを実行するのにかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		シーを非同期で処理すると、ユーザーログオン前にグループポリシーを処理し、グループポリシーの処理を高速化できます。詳細はこちら	単一ログオン スケジュール済みタスク	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		° Windows グループポリシーの現在の処理ステータスは同期です。	グループポリシースクリプト	-	-
			グループポリシースクリプト (非同期)	-	-
			グループポリシー Cse	グループポリシークライアント側拡張機能を処理するのにかかった時間。	-
			グループポリシー	-	-
			グループポリシーキャッシュ書き込み	グループポリシーをローカルに書き込むのにかかった時間。	-
			Citrix WEM 合計時間	-	-
			Citrix WEM ユーザー	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
			グループポリシー		
			Citrix WEM マシングループポリシー	-	-
			Citrix WEM 構成の読み取り	-	-
			Citrix WEM 起動スクリプトタスク	-	-
			Citrix WEM キャッシュ (同期)	-	-
			Citrix WEM ホストサービスステータスの確認	-	-
			Citrix WEM JSON ファイル	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
			シトリックス RSOP	-	-
			グループポリシーオブジェクト	グループポリシーオブジェクトの読み込みにかかった時間。	-
プリシェル (Userinit)	「userinit.exe」から「explorer.exe」の起動までの時間。	-	-	-	-
ログオンスクリプトの処理	ログオンスクリプトの実行にかかった時間。	• **ログオンスクリプトを最適化する:** 不要なコマンドを削除し、スク	ユーザーログオンスクリプト	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		リプトのサイズを小さくすることで、ログオンスクリプトを最適化できます。 • **グループポリシー基本設定を使用する:** グループポリシー基本			

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細	
		設定は、ログオンスクリプトの代わりに使用できます。これらは管理が容易で、ログオンスクリプトよりも高速に処理できます。 • **Citrix WEM 外部**				

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細	
		タスクを使用する: 外部タスクを使用してログオンスクリプトを設定します。タスクの完了を待機するかどうか、および待機タイムアウトの長さを指定で				

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		きます。待機時間を制限することで、ユーザーログオンを高速化できます。外部タスクの詳細については、製品ドキュメントを参照してくだ			

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細	
		さい。				
シェル起動	シェル起動の実行にかかった時間。	• **起動プログラムを無効にする:** PCの電源を入れたときに自動的に起動するプログラムを無効にできます。Win11/Win10/WinServer	シェル開始	Windowsユーザープロファイルの読み込み後にシェルを実行するのにかかった時間	-	

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		2022で起動プログラムを無効にするには、次の手順を使用します。 1. **Windows + I** ショートカットを押して**設定**を開き、**アプリ > スタート**	FSLogixシェル開始	FSLogixプロファイルコンテナーの読み込み後にシェルを実行するのにかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		アップを選択します。 2. 自動的に起動したくないアプリやプログラムをオフにします。 3. グローバルスタートアップフォルダーから不要なプ	アクティブセットアップ	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		ログラムを削除します: `%allusersprofile%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\StartUp`。4. ユーザーのスタートアップフォルダーから不要なプ	Appx関連付け	-	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		ログラムを削除します: `%userprofile%\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup`。 • **起動プログラムを無効にする:** 高速スタートアップ	Appxパッケージの読み込み	AppXパッケージの読み込みにかかった時間。	-

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		は、シャットダウン後にコンピューターをより速く起動できるようにする機能です。Windows 10で高速スタートアップを有効にするには、次の			

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		手順を使用します。 1. **アイコン表示**で**コントロールパネル**を開き、**電源オプション**を選択します。 2. サイドバーで**電源ボタンの動作を選択する**をク			

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		リックします。 3. **シャットダウン設定**の下で、**高速スタートアップを有効にする**チェックボックスを選択します。 • **起動プログラムを**			

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		無効にする: Windowsの視覚効果とパフォーマンスを調整します。これを行うには、1. **マイコンピューター**を右クリックし、**プロパティ**			

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		を選択します。 2. **システム詳細設定**を選択します。 3. **パフォーマンス**の下で、**設定**を選択します。 4. 視覚効果とパフォーマンスを向上させるため			

ベースメトリック	ベースメトリックの説明	ヒント	サブメトリック	サブメトリックの説明	詳細
		にオプションを調整します。			

プロセスアクティビティと詳細

ユーザーログオン中にProcess Monitorで取得されたプロセスアクティビティデータは、追加情報を提供し、管理者がログオンの遅延を引き起こす問題を特定するのに役立ちます。この機能は、プロセスデータをログオンレポートに組み込み、管理者がユーザーログオンのコンテキストでプロセスアクティビティを調査できるようにします。**Citrix Environment Tool Hub** は、**Windows Logon Analysis** ツールで **Process Monitor** 設定を構成した後、**Windows Process Monitor** アプリケーションを自動的にトリガーして停止します。

ユーザーログオン中にプロセスデータを収集するには、次の手順を完了します。

- メインセッションを使用して、**Windows Logon Analysis** ツールで **Process Monitor** 設定を構成します。このセッションは、特別な設定で **Process Monitor** アプリケーションを自動的に起動し、Process Monitor アプリケーションを自動的に停止することもできます。
- サブセッションでターゲットユーザーのログオンをトリガーします。
- 関連するプロセスアクティビティを含むログオンレポートをメインセッションで生成および分析します。

ユーザー ストア作成ツール

このツールを使用して、現在のマシンまたは別のマシンで Citrix Profile Management を使用してユーザー ストアを作成します。ユーザー ストアのフォルダーパスと共有名を指定できます。ユーザー ストアが作成されると、ユーザー ストアへのパスの推奨構成が提供され、**Profile Management** 設定で直接使用できます。

現在のマシンまたは別のマシンにユーザー ストアを作成するには、次の手順に従います。

1. ユーザー ストアをインストールするマシンを指定します。

- 別のマシンにユーザー ストアを作成するには、マシン名を指定し、そのマシンでローカル管理者権限を持つドメインユーザーの資格情報を入力します。そのマシンで PowerShell リモート処理が有効になっていることを確認してください。
- 現在のマシンにユーザー ストアを作成する場合は、この手順をスキップします。

2. ユーザー ストアの場所として設定する **フォルダーパス** を指定します。
3. フォルダーが存在する場合は、**停止して通知する** または **既存のフォルダーを使用する** を選択します。
4. オプションで、ファイル共有の名前を指定します。デフォルトでは、フォルダー名が共有名として使用されます。
5. 同じ名前の共有が存在する場合は、**停止して通知する** または **既存のアイテムの共有を停止して名前を使用する** を選択します。
6. (オプション) デフォルトでは、**Administrator** グループにはこのユーザー ストアへのフルコントロールアクセス権が付与されています。より多くのユーザーまたはグループにフルコントロールを付与するには、次の手順に従います。
   a. **User store administrators (optional)** セクションで、**Add** をクリックします。ネイティブ AD セレクターが表示されます。
   b. オブジェクトの種類として **Users or Groups** を選択します。
   c. **Enter the object names to select** フィールドに、ユーザーまたはグループの名前を指定します。
   d. **OK**をクリックします。
7. **Create user store** をクリックします。

エラー

関連セクションに次のエラーメッセージが表示されます。

- ユーザー資格情報が正しくありません
- ユーザー権限が不十分です
- フォルダーはすでに存在します
- 共有名が使用中です

上記以外のエラーメッセージが表示された場合は、ページの下部にある **An error occurred. View details below** というタイトルのエラー詳細を表示できます。

別のユーザー ストアを作成するには、**Create another** をクリックします。この選択により、すべての入力がクリアされリセットされた開始ページにリダイレクトされます。

ファイル情報ビューアー

Citrix Environment Tool Hub を使用して、パス、発行元、ハッシュ値などのデータをすばやく取得し、Web コンソールで実行可能ルールを構成できるようになりました。このプロセスには次の手順が含まれます。

- **シトリックス エンバイロメント ツール ハブ** > **すべてのツール** > **ファイル情報ビューアー** を選択します。
- ファイルまたはフォルダーを選択して、その関連情報を取得します。
- パス情報、発行元情報、ファイルハッシュなど、いずれかの基準からデータをコピーします。
- 「**Windows インストーラーの作成**」ルールページにデータを貼り付けます。

ファイルの種類関連付けアシスタント

このツールを使用して、管理コンソールで割り当て可能なアクションとして追加するために、FTA を構成するために必要な情報を取得します。

「**ファイルの種類関連付けアシスタント**」を選択すると、Citrix Environment Tool Hub の「**ファイルの種類関連付けアシスタント**」ページに移動します。以下の手順を完了することで、FTA を構成できます。

- ファイル名拡張子を入力すると、入力した文字で始まる一致するファイル名拡張子オプションから選択できます。
- 入力した拡張子に関連付けられた **ProgID** があるかどうか、およびその **ProgID** にレジストリに関連付けられたアクションがあるかどうかを確認します。
- 「**参照**」をクリックして、入力した **ProgID** が登録されているすべてのアプリケーションを一覧表示します。
- 関連付けたいアプリケーションを構成します。
- 「**アクションのカスタマイズ**」を選択して、「**開く**」、「**編集**」、「**印刷**」のアクションを実行することもできます。
- 「**コピー**」ボタンをクリックして、構成された FTA データをコピーできます。

詳細については、ファイルの種類関連付けを参照してください。

プリンターアシスタント

このツールを使用して、印刷サーバーからプリンターのリストを取得し、管理コンソールで割り当て可能なアクションとして追加できるようにします。

ネットワークプリントサーバーからプリンターを追加する場合、プリンターを追加するにはプリンター情報が必要です。プリンター情報を取得するには、次の手順を実行します。

1. プリントサーバーの完全な名前を入力します。
2. 特定の資格情報を使用してプリントサーバーに接続するかどうかを指定します。
3. プリンターリストを表示するには、**Connect** をクリックします。
4. リストから1つ以上のプリンターを選択し、プリンター情報をコピーします。

Webコンソールで、**Paste printer info** をクリックしてコピーした情報を貼り付けます。「プリントサーバーからプリンターを追加する」を参照してください。

プロファイル移行ツール

このツールを使用して、他のプロファイルをCitrixコンテナベースのプロファイルソリューションに移行します。 プロセスには次の手順が含まれます。

1. 次のいずれかのソースプロファイルを選択します。
    - **FSLogix プロファイルコンテナ**
    - **Citrix ファイルベースソリューション**
    - **Windows ローミングプロファイル**
    - **ローカルマシン**
2. ソースプロファイルの場所を構成します。
    a. 手順1で **FSLogix profile container** を選択した場合は、このフィールドを構成します。
        - **VHD location**: FSLogixプロファイルが保存されているファイル共有の場所を入力します。（*例*: `\\<storage-account-name>.file.core.windows.net\<share-name>`）。または、**参照**をクリックしてファイル共有を選択します。
    b. 手順1で**Citrixファイルベースのソリューション**または**Windowsローミングプロファイル**を選択した場合は、これらのフィールドを設定します。
        - **ファイル共有**: **参照**をクリックして必要なソースファイル共有の場所を選択するか、直接場所を入力します。

- **サブパス**: デフォルトのコンテナフォルダを使用しない場合は、サブパスを入力します。

> **注:**
>
> 手順1で**ローカルマシン**を選択した場合は、Profile Migration Toolがローカルマシンプロファイルのデフォルト設定を自動的に取得するため、この手順はスキップしてください。

3. ターゲットのCitrixユーザーストアの場所を設定します。
   - **ファイル共有**: **参照**をクリックして必要なターゲットファイル共有の場所を選択するか、直接場所を入力します。
   - **サブパス**: 必要なターゲットサブパスを入力します。
4. **アクセス確認**をクリックして、必要な権限を確認します。このアクションは、次のチェックを実行します。
   - 現在の、または代替のアカウントが、ソースへの読み取りアクセス権とターゲットファイル共有へのフルコントロール権を持っているかを確認します。
   - ターゲットファイル共有がCitrix Profile Managementの権限要件を満たしていることを確認します。詳しくは、こちらのMicrosoftの記事を参照してください。

   現在のCitrixアカウントに十分なアクセス権がない場合は、**代替資格情報を使用**チェックボックスをオンにして、代替のユーザー名とパスワードを入力します。ターゲットのCitrixユーザーストアがセキュリティ要件を満たしていない場合は、**権限の追加**をクリックして必要な権限を付与します。
5. プロファイルを移行するユーザーとグループを指定します。ユーザーまたはグループが指定されていない場合、ソースの場所にあるすべてのプロファイルが移行されます。
6. ソースプロファイルの**OSバージョン**を選択します。
7. **移行の開始**をクリックします。

   プロファイル移行ツールは、一度に1つのプロファイルを移行します。移行を停止する場合は、**停止**をクリックします。この操作により、現在のプロファイルの移行が完了し、残りのプロファイルの移行が停止します。**選択したものを再試行**をクリックして、移行を再試行できます。それ以外の場合は、別の移行を実行するには、**別の移行を実行**をクリックします。

失敗した場合は、**ログを表示**をクリックしてエラーログを確認できます。**選択したものを再試行**をクリックして、失敗したプロファイルの移行を再試行するオプションがあります。

アプリケーションアクセス制御用ルールジェネレーター

このツールを使用して、アプリケーションアクセス制御またはリダイレクトのルールを生成します。一般的なワークフローは次のとおりです。

1. ルールを作成
2. FSLogixの既存の構成を再利用するには、FSLogixルールセットをインポートして編集し、同等のアプリケーションアクセス制御ルールをすばやく作成します。
3. ルールの生データを生成
4. ルールを検証

> **注:**
>
> これらのルールを適用するには、Citrix Profile Managementのアプリケーションアクセス制御ポリシーを使用する必要があります。詳細については、アプリケーションアクセス制御を参照してください。

ルールについて

このツールを使用して、次のルールを作成できます。

- **非表示ルール**。ファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーへのユーザーアクセスを制御します。
- **リダイレクトルール**。ユーザーのファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーをリダイレクトします。

ルールはCitrix Profile Managementを通じて実装されます。一般的なユースケースは次のとおりです。

- マシンにインストールされているアプリへのユーザーアクセスを制御する — 関連するユーザーに対してアプリを非表示にするかどうか。
- データローミングを実装します。ユーザープロファイル以外のデータをファイル共有にリダイレクトし、ユーザーがどのマシンにサインインしても同じデータにアクセスできるようにします。

- データ保護を強化します。重要なデータを代替の場所または値にリダイレクトし、不正アクセスから保護します。
- ユーザーエクスペリエンスをカスタマイズします。特定の要件に基づいてアプリのエクスペリエンスを調整します。

ルールの作成

アプリのアクセス制御またはリダイレクトのルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで をクリックし、 または を選択します。
2. ページで、次の設定を構成します。
   - **アプリのルール名**。ルールを識別しやすい名前を指定します。
   - **非表示にするオブジェクト**。ターゲットオブジェクトを追加します。ターゲットオブジェクトには、非表示にするアプリに関連するファイル、フォルダー、レジストリキー、および値を含めることができます。現在のマシンにインストールされているアプリと、各アプリに関連付けられているオブジェクトをスキャンするには、 をクリックします。
   - **リダイレクト**。ファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーをリダイレクトできます。各リダイレクトについて、ソースパスと宛先パスを指定します。

     注:

     - 特定のCitrixサービスおよびWindowsサービスが依存するアイテムのパスを追加することはできません。追加すると、それらのサービスが正常に動作しなくなる可能性があります。これらのパスの完全なリストについては、「追加できないパス」を参照してください。
3. ページで、ルールを割り当てるユーザー、コンピューター（組織単位）、およびプロセスを追加します。
   a. ユーザー、マシン、またはプロセスから割り当てタイプを選択します。
   b. セクションで、割り当てオブジェクトを指定します。オブジェクトが選択されていない場合、ルールはその割り当てタイプのすべてのオブジェクトに適用されます。
   c. 除外を指定するには、 セクションに移動し、必要な割り当てオブジェクトを追加します。
   d. 必要に応じて、別の割り当てタイプに対して手順 a から c を繰り返します。

注:

- 割り当てが指定されていない場合、このルールは常にターゲットオブジェクトに適用されます。
- 割り当てには、ユーザー、コンピューター、プロセスの3つのカテゴリがあります。カテゴリ内の項目間には `OR` 演算子が使用され、カテゴリ間には `AND` 演算子が使用されます。
- ドメインに参加していない、またはAzure Active Directoryに参加しているマシンでツールを実行している場合、ユーザーとコンピューターを追加することはできません。
- プロセスを一括で追加できます。プロセス名（.exe拡張子を含む）を改行で区切って入力します。
- AADユーザーまたはグループおよびNDJマシンにルールを割り当てるには、WEM Webコンソールの **AAD/NDJオブジェクトセレクター** を使用してターゲットオブジェクトを選択します。詳細については、「AADユーザー/グループおよびNDJマシンにアプリアクセスルールを割り当てる」を参照してください。

4. 完了したら、**完了** をクリックします。

追加できないパス

特定のCitrixおよびWindowsサービスが依存する項目について、以下のパスとその親パスを追加することはできません。

Profile Management関連のレジストリ:

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager`
- `HKLM:\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager`
- `HKLM:\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager`

WEM関連のレジストリ:

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Norskale`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale`

- `HKLM:\SOFTWARE\Policies\Norskale`
- `HKLM:\SOFTWARE\Citrix\WEM`
- `HKLM:\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale`

Virtual Delivery Agent (VDA)関連のレジストリ:

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\VirtualDesktopAgent`
- `HKLM:\SOFTWARE\Citrix\VirtualDesktopAgent`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Citrix Virtual Desktop Agent`
- `HKLM:\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Citrix Virtual Desktop Agent`

Windows関連のレジストリ:

- `HKCU:`:
- `HKEY_CURRENT_USER`
- `HKU:`:
- `HKEY_USERS`

WindowsおよびCitrixサービス関連のフォルダー:

- `c:\windows\system32`
- `\Citrix\User Profile Manager\`
- `\Citrix\Workspace Environment Management Agent\`
- `\Citrix\XenDesktopVdaSetup\`
- `\%windir\%\system32`

ルールの生データを生成する

Citrix Profile Managementが設定されたルールを適用するようにするには、まずそれらの生データを生成し、GPOまたはWEMを使用してProfile Managementの**App access control**ポリシー設定に入力する必要があります。

ルールの生データを生成するには、次の手順に従います。

1. 目的のルールを選択するか、**Select all**をクリックしてすべてのルールを選択します。

2. アクションバーで**Generate raw data**をクリックします。選択したルールの生データが生成されます。
3. **Generate raw data**ウィンドウで、生データをファイルに保存して後で復元するか、生データをクリップボードにコピーします。

> **注:**
>
> - WEM管理コンソールでルールを追加する場合、またはProfile Managementポリシーの**App access control**を設定する場合に、ルールの展開方法に応じて生データを使用します。
> - 生データをファイルに保存した後、そのファイルからルールを復元できます。そのためには、アクションバーの**Import**を使用します。

4. 完了したら、**Done**をクリックします。

ルールの検証

テスト環境または本番環境に展開する前に、ローカルマシンでアプリのアクセス制御ルールを検証できます。

アプリのアクセスルールをテストするには、次の手順を完了します。

1. 目的のルールを選択するか、**Select all**をクリックしてすべてのルールを選択します。
2. アクションバーで**Test**をクリックします。

   a. **Deploy to local machine**をクリックして、選択したルールをローカルマシンに展開し、ルールが期待どおりに機能しているかを確認します。ポップアップウィンドウで**Deploy**をクリックしてアクションを確定します。

   > **注:**
   >
   > アプリルールをテストしている間、ルールは現在のユーザーにのみ影響します。

   b. 「**ローカルマシンから展開されたルールをクリア**」をクリックして、ローカルマシンから展開されたアプリアクセス制御ルールをクリアします。

FSLogixルールセットのインポート

既存の構成を再利用し、同等のアプリアクセス制御ルールを迅速に作成するために、FSLogixルールセットをインポートします。

> **注:**
>
> FSLogixで使用される一部のルールタイプと割り当てタイプは、アプリアクセス制御ではサポートされていません。環境を確認し、必要に応じて代替構成を検討してください。
> FSLogixルールセットをインポートするには：

1. 「**インポート > FSLogix Apps Rule Set**」をクリックしてインポートを開始します。
2. 「**参照**」をクリックし、FSLogix Rule Editorを使用して保存されたFSLogixルール定義ファイルを見つけて、「**開く**」をクリックします。

   > **注:**
   >
   > ルール定義ファイルとそれに関連付けられた割り当てファイルが同じフォルダーに保存されていることを確認してください。このツールは、サポートされているルールセットをその割り当てとともに移行します。

3. 移行が完了したら、詳細を確認します。

   サポートされていないルールやデータがないか確認し、結果を検証します。移行後にルールを編集または追加できます。
4. 「**インポート**」をクリックしてプロセスを完了します。

インポートされたルールはテスト可能になり、既存のルールとともに保存できます。

アプリアクセスルールをAADユーザー/グループおよびNDJマシンに割り当てる

アプリアクセスルールをAADユーザーまたはグループおよびNDJマシンに割り当てるには、次の手順を完了します。

1. WEM Webコンソールで、「**構成セット**」>「サイト名」>「**プロファイル**」>「**プロファイル管理設定**」>「**アプリアクセス制御**」を選択します。
2. 「**アプリアクセス制御を有効にする**」チェックボックスを選択し、「**ルールを追加**」をクリックします。

3. 「**ルール**」ページで、「**AAD/NDJ オブジェクトセレクター**」をクリックして、目的の AAD ユーザーと NDJ マシンを追加します。
4. ユーザーまたはマシンデータをコピーします。
5. 「**Citrix Environment Tool Hub**」>「**App Access Control のルールジェネレーター**」に移動し、アプリケーションルールを作成します。
6. 「**割り当て**」ページに移動し、データを貼り付けます。
7. 「**完了**」をクリックして、アプリケーションアクセス制御ルールを作成します。
8. アプリケーションアクセス制御ルールをコピーします。
9. WEM Webコンソールに移動します。「**構成セット**」>「サイト名」>「**プロファイル管理設定**」>「**アプリアクセス制御**」を選択し、そこにデータを貼り付けます。

プロファイルクリーンアップツール

このツールを使用して、ユーザーストア内の非アクティブなユーザープロファイルを削除またはアーカイブします。このツールは、ディスク領域の再利用、セキュリティの向上、データ保持ポリシーへの準拠に役立ちます。

一般的な使用例は次のとおりです。

- 従業員の退職: 組織を退職した従業員のプロファイルを削除します。
- 非アクティブなアカウントの管理: 指定された期間ログオンしていないユーザーのプロファイルを削除またはアーカイブします。
- ストレージ制限への対処: 不要なプロファイルを特定して削除することで、ディスク領域を解放します。
- セキュリティの強化: 非アクティブなアカウントまたは侵害されたアカウントから機密データを削除します。

ユーザープロファイルをクリーンアップするには、次の手順に従います。

1. ツールを実行します。

   Citrix Environment Tool Hub がインストールされているマシンにサインインします。ツールハブを管理者として実行し、**Profile Cleanup Tool** をクリックしてUIを開きます。
2. ユーザーストアの場所を指定します。

   ユーザープロファイルをクリーンアップするユーザーストアへのパスを入力します。

> **ヒント:**

マシンがCitrix Profile Managementの設定で構成されている場合は、**Load from local registry** リンクをクリックして、プロファイルの場所フィールドを自動入力します。

フィールド	説明
ユーザーストアへのパス	ユーザーストアへのフルパスを入力します。詳細については、「ユーザーストアへのパスを指定する」を参照してください。
レプリケートされたユーザーストアへのパス（オプション）	レプリケートされたユーザーストアが展開されている場合は、それらのパスを改行で区切って入力します（各パスの後に**Enter**キーを押します）。詳細については、「ユーザーストアをレプリケートする」を参照してください。
VHDXファイルのカスタマイズされたストレージパス（オプション）	VHDXファイルがユーザーストア以外のパスに保存されている場合は、そのパスを入力します。詳細については、「VHDコンテナのストレージ容量とパスを指定する」を参照してください。

3. 指定されたユーザーストアへのアクセスを確認します。

   Check access をクリックして、ユーザーアカウントが指定された場所に*読み取りおよび書き込み*権限を持っていることを確認します。アカウントにアクセス権がない場合は、**Use a different account** を選択し、有効なユーザー名とパスワードを入力して、もう一度 **Check access** をクリックします。

4. プロファイルを検索します。

   a. **Find profiles** をクリックします。**Find profiles** ページが開きます。

   b. 部分的なユーザー名、最終ログオン時刻、最終書き込み時刻、ADユーザーの状態などの検索条件を入力します。

   c. 「**プロファイルの検索**」をクリックします。ユーザー ストアに多数のプロファイルが含まれている場合、検索が開始され、時間がかかることがあります。

> **注:**
>
> 200を超えるプロファイルが見つかった場合、検索結果には最初の200件のみが表示されます。より多くのプロファイルがある場合は、バッチで操作することをお勧めします。

5. プロファイルを削除またはアーカイブします。

   a. 検索結果から1つ以上のユーザープロファイルを選択します。

   b. 適切なアクションボタンをクリックし、画面の指示に従ってアクションを完了します。

      - 「**削除**」: 選択したユーザープロファイルを削除します。
      - 「**アーカイブ**」: 選択したユーザープロファイルをユーザー ストアから指定した場所に移動します。

      > **注:**
      >
      > ユーザープロファイルをアーカイブするには、使用しているアカウントがターゲットの場所に*書き込み*権限を持っている必要があります。

   操作が完了したら、次のことができます。

   - 「**完了**」をクリックして「**プロファイルの検索**」の結果をクリアし、「**アクセス確認**」の状態に戻ります。
   - 「**検索結果に戻る**」をクリックして「**プロファイルの検索**」の結果に戻ります。正常に処理されたユーザーは削除されます。
   - 失敗した結果がある場合:
     - 失敗した結果の横にある「**詳細**」をクリックして、操作中に発生したエラーを表示します。
     - 「**失敗を再試行**」をクリックして、失敗した結果に対して操作を再試行します。

スクリプトタスクバリデーター

Scripted Task Validator ツールを使用すると、次のことができます。

- WEM エージェントマシンでスクリプトタスクを実行し、結果を確認して、スクリプトタスクを検証します。
- 後で WEM Web コンソールにインポートするために、スクリプトタスクをエクスポートします。

スクリプトタスクの検証とエクスポート

Scripted Task Validator ツールを使用して、スクリプトタスクを実行し、実行結果を確認します。必要に応じて、後で WEM Web コンソールにインポートするためにタスクをエクスポートします。

1. **Open Script** をクリックして、ローカルで準備された PowerShell スクリプトをロードします。または、**Recent** リストから最近開いたスクリプトを選択します。
2. 必要に応じて、コードエディター内でスクリプトを更新します。スクリプトタスクの編集を参照してください。
3. **Configuration** タブに移動し、次の設定を構成します。スクリプトタスクの構成を参照してください。
    - 権限
    - スクリプトを実行する前に署名を検証する
    - 作業フォルダー
    - 出力ファイル
    - 入力パラメーター
    - タイムアウト値
4. **Run** をクリックしてスクリプトの内容を確認します。
5. **Output** コンソールを表示します。
6. 「**エクスポート**」をクリックします。
7. 「**スクリプトのエクスポート**」ウィザードで、次の設定を構成し、「**保存**」をクリックします。
    - 「**同じフォルダー内の他のすべてのファイルを含める**」。オプションで、エクスポート時に同じディレクトリ内のすべてのファイルを含めるかどうかを選択します。
    - 「**署名を追加**」。オプションで、エクスポート時にファイルに署名するかどうかを選択します。

    > **注:**

> ローカル証明書ストアにインストールされている証明書を選択します。証明書には秘密キーが含まれており、コード署名をサポートしている必要があります。

8. 「**エクスポート**」をクリックします。

制限事項

一部のIvanti Workspace Control構成は変換できません。これらの項目は、レビュー中に「**サポートされていない**」タブに表示されます。

OUの割り当て

Ivantiの組織単位（OU）に基づくアクセス制御は、WEMにマッピングできません。これらのアクセス制御ルールは、WEMで手動で再作成することをお勧めします。

空または無効な構成

このツールは、必要な情報が不足している構成項目を除外します。例：

- パスがないネットワークドライブ
- コマンドラインがないアプリケーション

VHD拡張ツール

このツールを使用して、ユーザープロファイルデータや、OutlookまたはOneDriveコンテンツなどの他のデータを格納するVHDXファイルの容量を増やします。

VHDXファイルを拡張するには、次の手順に従います。

1. ツールハブからツールを開きます。
2. VHDXファイルへのフルパスを指定します。ファイルパスを直接貼り付けるか、**参照**をクリックしてファイルエクスプローラーを使用してファイルを見つけることができます。
3. **ディスクステータスの確認**をクリックします。このアクションにより、VHDXメタデータが取得され、ファイルがアクセス可能であることが確認され、現在の容量が表示されます。
4. VHDXファイルの新しい容量を入力します。
5. **拡張**をクリックして変更を適用します。ツールはVHDXファイルを更新し、新しい容量を反映させます。

ローカルアプリケーションをすばやくアクセスできるように追加する

ローカルアプリケーションをCitrix Environment Tool Hubに追加して、すばやくアクセスできるようにします。追加されたアプリケーションは個人データの一部として扱われ、Profile Management環境でマシンを切り替えても保持されます。

ローカルアプリケーションを追加するには：

1. **ローカルアプリ**タブで、**ローカルアプリの追加**をクリックします。
2. 1つ以上のアプリケーションに移動して選択します。

Citrix Virtual Desktop Agent、Citrix Workspace、Citrix Workspace Environment Management ConsoleなどのローカルCitrixアプリケーションを追加するには：

1. **ローカルアプリ**タブで、**Citrixコンポーネントのスキャン**をクリックします。
2. スキャンによって検出されたアプリケーションの名前とパスを確認します。
3. 追加したいアプリケーションを選択します。

> **注:**
>
> 追加したアプリケーションを削除するには、ゴミ箱アイコンをクリックします。

一般的なコントロールパネルアプレット

以下のコントロールパネルアプレットはWindowsで一般的です。

アプレット名	**正規名**
アクションセンター	Microsoft.ActionCenter
管理ツール	Microsoft.AdministrativeTools
自動再生	Microsoft.AutoPlay
生体認証デバイス	Microsoft.BiometricDevices
BitLocker ドライブ暗号化	Microsoft.BitLockerDriveEncryption
色の管理	Microsoft.ColorManagement

資格情報マネージャー	Microsoft.CredentialManager
日付と時刻	Microsoft.DateAndTime
既定のプログラム	Microsoft.DefaultPrograms
デバイスマネージャー	Microsoft.DeviceManager
デバイスとプリンター	Microsoft.DevicesAndPrinters
表示	Microsoft.Display
コンピューターの簡単操作センター	Microsoft.EaseOfAccessCenter
ファミリーセーフティ	Microsoft.ParentalControls
ファイル履歴	Microsoft.FileHistory
フォルダーオプション	Microsoft.FolderOptions
フォント	Microsoft.Fonts
ホームグループ	Microsoft.HomeGroup
インデックスのオプション	Microsoft.IndexingOptions
赤外線	Microsoft.Infrared
インターネットオプション	Microsoft.InternetOptions
iSCSI イニシエーター	Microsoft.iSCSIInitiator
iSNS サーバー	Microsoft.iSNSServer
キーボード	Microsoft.Keyboard
言語	Microsoft.Language
位置情報の設定	Microsoft.LocationSettings
マウス	Microsoft.Mouse
MPIO構成	Microsoft.MPIOConfiguration

ネットワークと共有センター	Microsoft.NetworkAndSharingCenter
通知領域のアイコン	Microsoft.NotificationAreaIcons
ペンとタッチ	Microsoft.PenAndTouch
個人設定	Microsoft.Personalization
電話とモデム	Microsoft.PhoneAndModem
電源オプション	Microsoft.PowerOptions
プログラムと機能	Microsoft.ProgramsAndFeatures
回復	Microsoft.Recovery
リージョン	Microsoft.RegionAndLanguage
RemoteApp とデスクトップ接続	Microsoft.RemoteAppAndDesktopConnections
サウンド	Microsoft.Sound
音声認識	Microsoft.SpeechRecognition
記憶域スペース	Microsoft.StorageSpaces
同期センター	Microsoft.SyncCenter
システム	Microsoft.System
タブレットPC設定	Microsoft.TabletPCSettings
タスクバーとナビゲーション	Microsoft.Taskbar
トラブルシューティング	Microsoft.Troubleshooting
TSAppInstall	Microsoft.TSAppInstall
ユーザー アカウント	Microsoft.UserAccounts
ウィンドウズ エニータイム アップグレード	Microsoft.WindowsAnytimeUpgrade
ウィンドウズ ディフェンダー	Microsoft.WindowsDefender

Windows ファイアウォール	Microsoft.WindowsFirewall
Windows モビリティ センター	Microsoft.MobilityCenter
ウィンドウズ トゥー ゴー	Microsoft.PortableWorkspaceCreator
ウィンドウズ アップデート	Microsoft.WindowsUpdate
ワークフォルダー	Microsoft.WorkFolders

動的トークン

Workspace Environment Management アクションで動的トークンを使用すると、それらをより強力にできます。

動的トークンは次のフィールドで使用できます。

- グループポリシー設定
  - **アクション**が**削除**に設定されている場合: **値**
  - **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_SZ: 値、データ**に設定されている場合
  - **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_EXPAND_SZ: 値、データ**に設定されている場合
  - **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_MULTI_SZ: 値、データ**に設定されている場合

> **注:**
>
> グループポリシー設定には、マシン設定とユーザー設定の2種類があります。マシン設定の場合、一部の動的トークンはサポートされていません。詳細については、「グループポリシー設定の動的トークンサポート」を参照してください。

グループポリシー設定の動的トークンサポート

グループポリシー設定で動的トークンを使用すると、さまざまな環境でより適応性の高いポリシー構成が可能になり、手動構成が削減され、ポリシー管理が簡素化されます。

グループポリシー設定には、次の2種類があります。

- **マシン設定**。これらの設定は、誰がログオンしても関係なく、マシンにのみ適用されます。
- **ユーザー設定**。これらの設定は、どのマシンにログオンしても関係なく、ユーザーにのみ適用されます。

すべての動的トークンはグループポリシー設定でサポートされています。ただし、次のものはマシン設定ではサポートされていません。

- ハッシュタグ
  - ##FullUserName##
  - ##UserInitials##
  - ##ClientName##
  - ##ClientIPAddress##
  - ##UserLDAPPath##
  - ##ClientRemoteOS##
- AD属性
  -
- HKCU下のレジストリ

アプリケーション

- アプリケーションの種類が**インストールアプリケーション**の場合: **コマンドライン**、**作業ディレクトリ**、および**パラメータ**
- アプリケーションの種類が**ファイル/フォルダ**の場合: **ターゲット**
- アプリケーションの種類が**URL**の場合: **ショートカットURL**
- **アイコンファイル**

プリンター

- **ターゲットパス**

ネットワークドライブ

- 「**ターゲットパス**」と「**表示名**」

仮想ドライブ

- 「**ターゲットパス**」

レジストリ

- 「**ターゲットパス**」、「**ターゲット名**」、および「**ターゲット値**」

> **注:**
>
> 「**ターゲット値**」フィールドは環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用しても、期待どおりに動作しません。

環境変数

- 「**変数値**」

ポート

- 「**ポートターゲット**」

INIファイル

- 「**ターゲットパス**」、「**ターゲットセクション**」、「**ターゲット値名**」、および「**ターゲット値**」

> **注:**
>
> 「**ターゲットセクション**」、「**ターゲット値名**」、および「**ターゲット値**」フィールドは環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用しても、期待どおりに動作しません。

外部タスク

- 「**パス**」と「**引数**」

ファイルシステム操作

- ソースパスとターゲットパス

特定のフィルター条件

- 例: 条件タイプが**Active Directory 属性の一致*の場合: テスト対象のActive Directory属性と一致結果****

注:

フィルター条件でサポートされているフィールドの完全なリストについては、「フィルター条件のサポートマトリックス」を参照してください。

文字列操作

スクリプト内で文字列を操作して、ドライブをマップしたりアプリケーションを起動したりする必要がある場合があります。Workspace Environment Management™エージェントでは、次の文字列操作がサポートされています。

構文	説明	例
#左(文字列,長さ)#	左から指定された数の文字を返します。	`#Left(abcdef,2)#` は `ab` を返します
#Right(文字列,長さ)#	右から指定された数の文字を返します。	`#Right(abcdef,2)#` は `ef` を返します
#切り詰め(string,length)#	文字列の長さが指定された長さ以下の場合、文字列全体を返します。文字列の長さが指定された長さより大きい場合、左から指定された数の文字を返します。	`#Truncate(abcdef,3)#` は `abc` を返します
&Trim(文字列)&	文字列の先頭と末尾にあるすべての空白文字を削除します。	`&Trim( a b c )&` は `a b c` を返します
&RemoveSpaces(string)&	文字列内のすべての空白文字を削除します。	`&RemoveSpaces( a b c )&` は `abc` を返します
&Expand(文字列)&	文字列に\%で囲まれた環境変数が含まれている場合、その変数を展開します。	`&Expand(%userprofile%\destop)&` は `C:\Users\Jill\desktop` を返します
\$Split(string, splitter],index)\$	[] で囲まれた区切り文字に基づいて文字列を部分文字列に分割し、インデックスで指定	`$Split(abc-def-hij,[-],2)$` は `hij` を返します

構文	説明	例
	された部分文字列を返します。	
#Mid(文字列,開始インデックス)#	文字列内の指定されたインデックスから開始し、それ以降のすべての文字を返します。	`#Mid(abcdef,2)#` は `cdef` を返します
!Mid(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された数の文字を返します。	`!Mid(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
!Substring(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された数の文字を返します。	`!Substring(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
#Mod(文字列,長さ)#	文字列を長さで除算し、剰余を返します。文字列は整数に変換できる必要があります。	`#Mod(7,3)#` は `1` を返します

注:

- 文字列操作は、ハッシュタグとActive Directory属性でもサポートされています。例えば、現在のドメインユーザーの名前属性が `Administrator` の場合、`#Left([ADAttribute:NAME],2)#` は `Ad` を返し、`$Split(##ClientIPAddress##,[\.],2)$` は `157` を返します。
- `!Mid(string,startindex,length)!` と `!Substring(string,startindex,length)!` の操作は常に最後に実行されます。

ハッシュタグ

ハッシュタグは、Workspace Environment Managementアイテムの処理で広く使用されている置換機能です。次の例は、ハッシュタグの使用方法を示しています。

.ini ファイルに書き込むには、**.ini** ファイルのパスに **%UserName%** を使用できます。Workspace Environment Management はそれを処理し、最終ディレクトリを展開します。ただし、Workspace

Environment Management が **.ini** 自体に書き込む値を評価するのはより複雑です。つまり、**%UserName%** をリテラルで書き込むか、展開された値を書き込むかを選択できます。

柔軟性を高めるために、ハッシュタグとして **##UserName##** が存在します。これにより、値に **%UserName%** を使用するとリテラルで書き込まれ、**##UserName##** を使用すると展開された値が書き込まれます。

例については、次の表を参照してください。

例	説明	例
##UserName##	展開された環境変数「%username%」を返します	ジル
##UserProfile##	展開された環境変数「%userprofile%」を返します	C:\Users\Jill
##FullUserName##	Active Directory のユーザーのフルネームを返します	ジル・チョウ
##UserInitials##	Active Directory のユーザー名のイニシャルを返します	JC
##UserAppData##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - RoamingAppData	C:\Users\Jill\AppData\Roaming
##UserPersonal##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Documents	C:\Users\Jill\Documents
##UserDocuments##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Documents	C:\Users\Jill\Documents
##UserDesktop##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Desktop	C:\Users\Jill\Desktop
##UserFavorites##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Favorites	C:\Users\Jill\Favorites
##UserTemplates##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - テンプレート	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Templates

例	説明	例
##UserStartMenu##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - スタートメニュー	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\スタートメニュー
##UserStartMenuPrograms##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - プログラム	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##UserLocalAppData##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - ローカル AppData	C:\Users\Jill\AppData\Local
##UserMusic##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - ミュージック	C:\Users\Jill\Music
##UserPictures##	特殊フォルダー - ピクチャ の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Pictures
##UserVideos##	特殊フォルダー - ビデオ の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Videos
##UserDownloads##	特殊フォルダー - ダウンロード の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Downloads
##UserLinks##	特殊フォルダー - リンク の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Links
##UserContacts##	特殊フォルダー - 連絡先 の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Contacts
##UserSearches##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - SavedSearches	C:\Users\Jill\Searches
##共通プログラム##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - CommonPrograms	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##ComputerName##	マシンの名前を返します	WIN10EN-LR3B66L

例	説明	例
##ClientName##	クライアントマシンの名前を返します	W2K16ST-5IS28JP
##ClientIPAddress##	クライアントマシンのIPアドレスを返します	10.150.153.138
##IpAddress##	マシンのIPアドレスを返します	10.150.153.213
##ADSite##	マシンがメンバーであるActive Directoryサイトを返します	NKG
##DefaultRegValue##	-	常にstring.Empty
##UserLDAPPath##	現在のユーザーの識別名を返します	CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=net
##VUEMAgentFolder##	エージェントフォルダーを返します	C:\プログラムファイル(x86)\シトリックス\ワークスペース環境管理エージェント
##RDSSessionID##	リモートデスクトップセッションIDを返します	2
##RDSSessionName##	リモートデスクトップセッション名を返します	RDP-Tcp#72
##ClientRemoteOS##	仮想デスクトップへの接続に使用されるマシンのオペレーティングシステムを返します	ウィンドウズ
##ClientOSInfos##	マシンのOS情報を返します	Windows 10 Enterprise 64 ビット

ハッシュタグ **##UserScreenCaptureComment##** は、製品の特定の箇所で使用するために実装されています。このタグは、**詳細設定** > **UIエージェントのパーソナライズ** > **ヘルプデスクオプション** の下にあるメールテンプレートに含めることができます。これを含めると、エージェントの画面キャプチャユーティリティで、画面キャプチャの下にコメントフィールドが表示されます。コメントは、メールテンプレートでタグを配置した場所にサポートメールに含まれます。

アクティブディレクトリ属性

Active Directory属性を操作するために、WEMは****の値を関連するActive Directory属性に置き換えます。 は、任意のActive Directory属性の動的トークンです。指定された属性の値をチェックする関連フィルターがあります。

ユーザー組織単位 (OU) 構造の場合、WEMは****の値を関連するActive Directory OU名に置き換えます。Active Directoryパスは、Active Directory内の完全なユーザーパス (LDAP) であり、はそのサブセットです。

たとえば、ユーザーが所属するOUのネットワークドライブを構築したいとします。ネットワークドライブパスで動的トークンを使用して、ユーザーのOUを動的に解決できます。動的トークンを使用する方法は2つあります。

- ネットワークドライブのパスで動的トークンを直接使用します。たとえば、次のパスを使用できます: `\\Server\Share\[UserParentOU:0]\`。
- OUという環境変数を設定し、その値をに設定します。その後、ドライブを`\\Server\Share\%OU%\`としてマップできます。

> **注:**
>
> - 数字の「0」を、OU構造で到達したいレベルに対応する数値に置き換えることができます。
> - パスに変数を追加できます。これを行うには、OUレイアウトと一致する正確なフォルダー構造があることを確認してください。

> フィルタリング目的でActive Directory属性を使用することもできます。**管理 > フィルタ > 条件 > フィルタ条件リスト**タブで、**追加**をクリックすると、新規フィルタ条件ウィンドウを開くことができます。新規フィルタ条件ウィンドウには、Active Directory属性に関連付けられた次の4つのフィルタ条件タイプが表示されます。

- Active Directory属性の一致
- Active Directoryグループの一致
- Active Directoryパスの一致
- Active Directoryサイトの一致

Active Directory属性の一致の場合、動的トークンはです。 Active Directoryグループの一致には動的トークンはありません。この条件タイプはグループメンバーシップの確認に使用されるためです。 Active Directoryパスの一致の場合、完全なLDAPパスの動的トークンは##UserLDAPPath##です。 Active Directoryサイトの一致の場合、動的トークンは##ADSite##です。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
[ADAttribute:attrName]	ドメインユーザーの指定された属性を返します	`[ADAttribute:name]` は `Administrator` を返します
[PrinterAttribute:printername|attrName]	指定されたドメインプリンターの指定された属性を返します	[PrinterAttribute:printer1|name] は printer1 を返します
[UserParentOU: level]	現在のユーザーの親OUの指定されたレベルを返します	`CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=net` で `[UserParentOU:1]` は `APAC` を返します

レジストリ

レジストリを操作するには、WEMは、`[RegistryValue:<Registry path>]` の値を関連するレジストリ値に置き換えます。たとえば、次の値を指定できます。

-

XMLファイル

XMLファイルを操作するには、WEMは、`[GetXmlValue:<XML path>|<tag name>]` の値をXMLファイル内の特定のタグ値に置き換えます。XMLパスは、実際のパスでも、パスに解決される環境変数でもかまいません。環境変数は%で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetXmlValue:C:\citrix\test.xml\|summary\] または
- \[GetXmlValue:%xmlpath%\|summary\]

INIファイル

.iniファイルを操作するには、WEMは、`[GetIniValue:<INI path>|<section name in the .ini file>|<key name in the .ini.file>]` をキー値に置き換えます。INIパスは、実際

のパスでも、パスに解決される環境変数でもかまいません。環境変数は%で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetIniValue:C:\citrix\test.ini\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\] または
- \[GetIniValue:%inipath%\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\]

詳細情報

フィルター条件のサポートマトリックス

次の表に、テスト値または一致する結果が動的トークンをサポートするすべての条件タイプを一覧表示します。

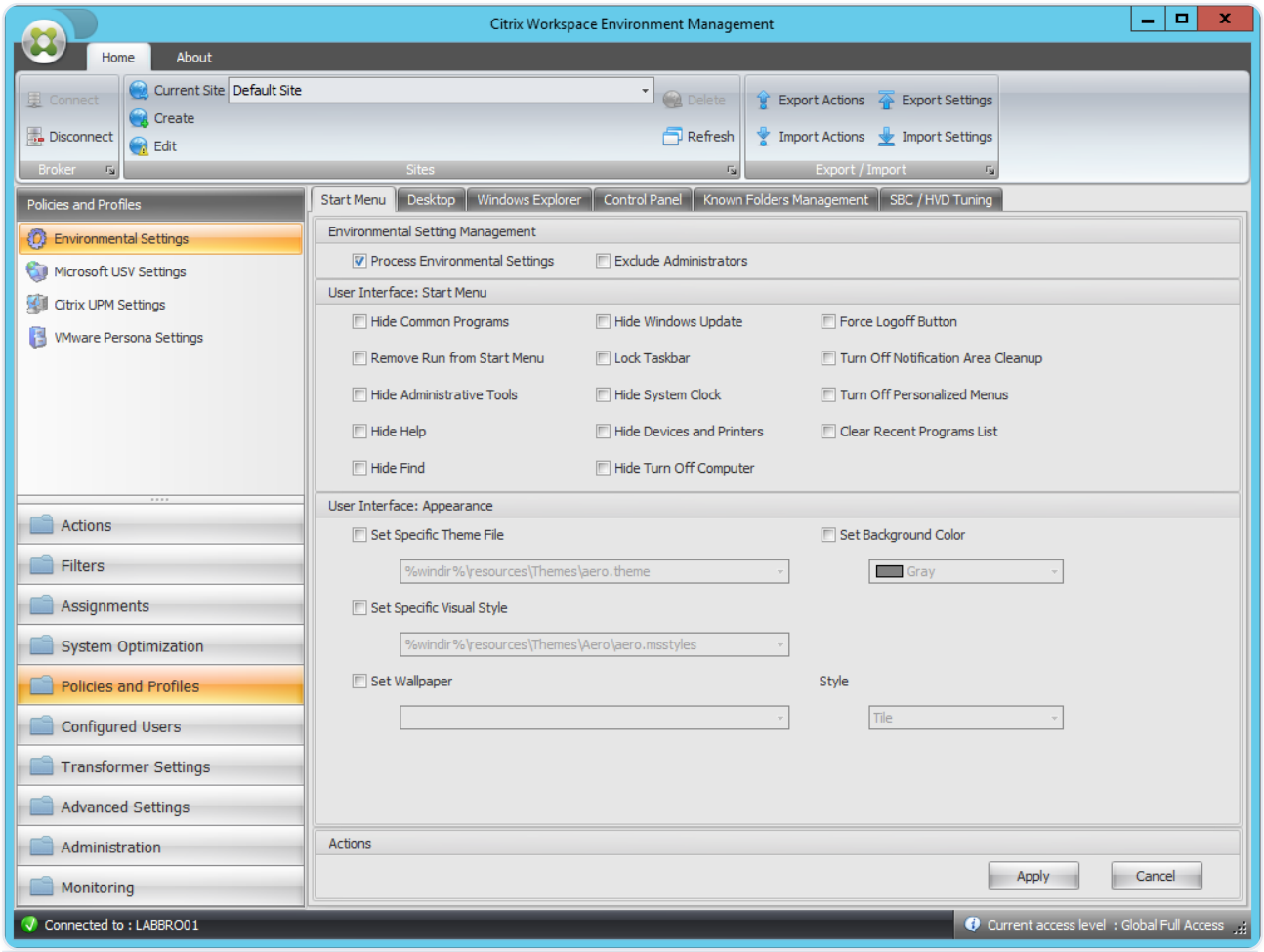
条件の種類	テスト値	一致結果
コンピューター名の一致	-	はい
クライアント名の一致	-	はい
環境変数の一致	いいえ	はい
レジストリ値の一致	はい	はい
WMIクエリ結果の一致	-	はい
XenApp® ファーム名の一致	-	はい
XenApp ゾーン名の一致	-	はい
XenDesktop® ファーム名の一致	-	はい
XenDesktop デスクトップグループ名の一致	-	はい
Active Directory属性の一致	はい	はい
名前または値がリスト内にある	はい	はい
コンピューター名が一致しない	-	はい

条件の種類	テスト値	一致結果
ClientName が一致しない	-	はい
環境変数が一致しない	いいえ	はい
レジストリ値が一致しない	はい	はい
WMIクエリ結果が一致しない	-	はい
XenAppファーム名が一致しない	-	はい
XenAppゾーン名が一致しない	-	はい
XenDesktopファーム名が一致しない	-	はい
XenDesktopデスクトップグループ名が一致しない	-	はい
Active Directory属性が一致しない	はい	はい
名前または値がリストにない	はい	はい
動的値が一致する	はい	はい
動的値が一致しない	はい	はい
ファイルバージョンが一致する	はい	はい
ファイルバージョンが一致しない	はい	はい
公開リソース名	-	はい
名前がリストにある	はい	はい
名前がリストにない	はい	はい

条件の種類	テスト値	一致結果
ファイル/フォルダーが存在する	-	はい
ファイル/フォルダーが存在しない	-	はい

環境設定のレジストリ値

この記事では、Workspace Environment Management の環境設定に関連するレジストリ値について説明します。



共通プログラムを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoCommonGroups

共通プログラムを非表示にする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoRun
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

管理ツールを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_AdminToolsRoot
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ヘルプを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoSMHelp
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

検索を非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoFind
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWS UPDATEを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoWindowsUpdate
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

WINDOWS UPDATEを非表示にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーをロック	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	LockTaskbar
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

システムクロックを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	HideClock
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

デバイスとプリンターを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_ShowPrinters

デバイスとプリンターを非表示にする	
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンピューターの電源を切るを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoClose
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

強制ログオフボタン	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ForceStartMenuLogoff
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

通知領域のクリーンアップをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoAutoTrayNotify
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

パーソナライズされたメニューをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	インテリメニュー
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

最近使用したプログラムリストをクリアする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ClearRecentProgForNewUserInStartMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

最近使用したプログラムリストをクリアする	
処理	ログオン時のサービス

特定のテーマファイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	ThemeFile
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

背景色の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Colors`
値の名前	背景
値の型	REG_SZ
有効な値	設定された色 (R G B)
無効な値	値が存在しないか、以前に設定された値の場合は0 0 0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

特定のビジュアルスタイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	SetVisualStyle
値の型	REG_SZ

特定のビジュアルスタイルを設定	
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

壁紙を設定	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	壁紙
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	WallpaperStyle
値の型	REG_SZ
有効値	スタイル値に依存
無効値	値なし
処理	ログオン時のサービス
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	TileWallpaper
値の型	REG_SZ

壁紙を設定	
有効値	スタイル値に依存
無効値	値が存在しません
処理	ログオン時のサービス

環境設定デスクトップ(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-admin-console-environmental-settings-02.png)

マイコンピューターアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{20D04FE0-3AEA-1069-A2D8-08002B30309D}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ごみ箱アイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

マイ ドキュメント アイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{450D8FBA-AD25-11D0-98A8-0800361B1103}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

スタートではなくデスクトップに移動	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\StartPage`
値の名前	OpenAtLogon
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

システムプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyComputer
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

システムプロパティを無効にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ごみ箱のプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesRecycleBin
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyDocuments
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}

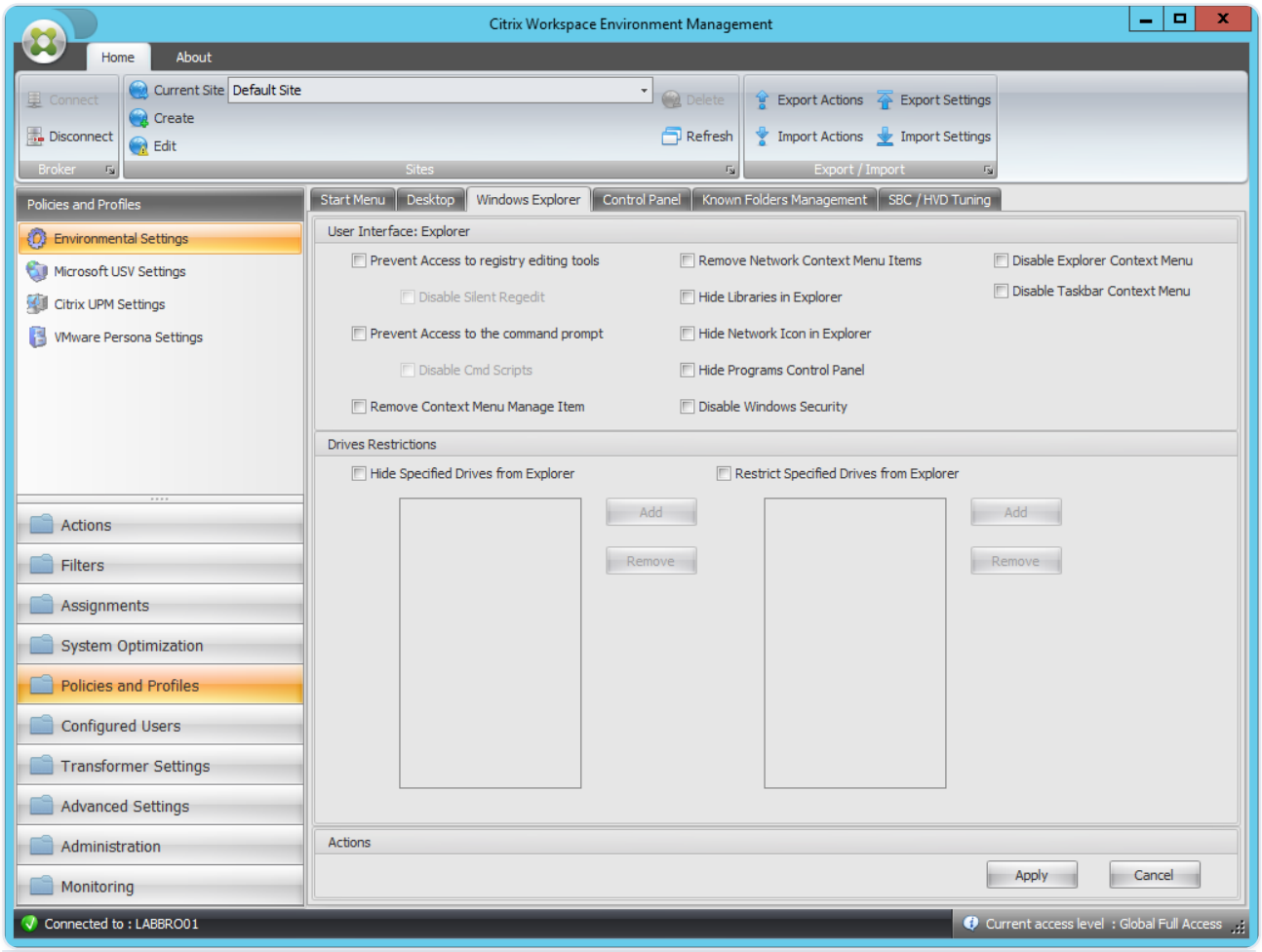
ネットワークアイコンを非表示にする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ネットワーク接続を非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクマネージャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableTaskMgr
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スイッチャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値の名前	DisableTLcorner
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

チャームヒントを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値の名前	DisableCharmsHint
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス



レジストリ編集ツールへのアクセスを防止	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableRegistryTools
値の型	DWORD
有効な値	サイレント Regedit を無効にする？2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コマンドプロンプトへのアクセスを防止する	
親キー	`HKCU\Software\Policies\System`
値の名前	DisableCMD

コマンドプロンプトへのアクセスを防止する	
値の型	DWORD
有効な値	サイレントCmdスクリプトを無効にする？2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンテキストメニューの管理項目を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoManageMyComputerVerb
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークコンテキストメニュー項目を削除	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーでライブラリを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{031E4825-7B94-4dc3-B131-E946B44C8DD5}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

エクスプローラーでネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

プログラムのコントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Programs`
値の名前	NoProgramsCPL
値の型	DWORD
有効な値	1

プログラムのコントロールパネルを非表示にする	
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWSセキュリティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNtSecurity
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

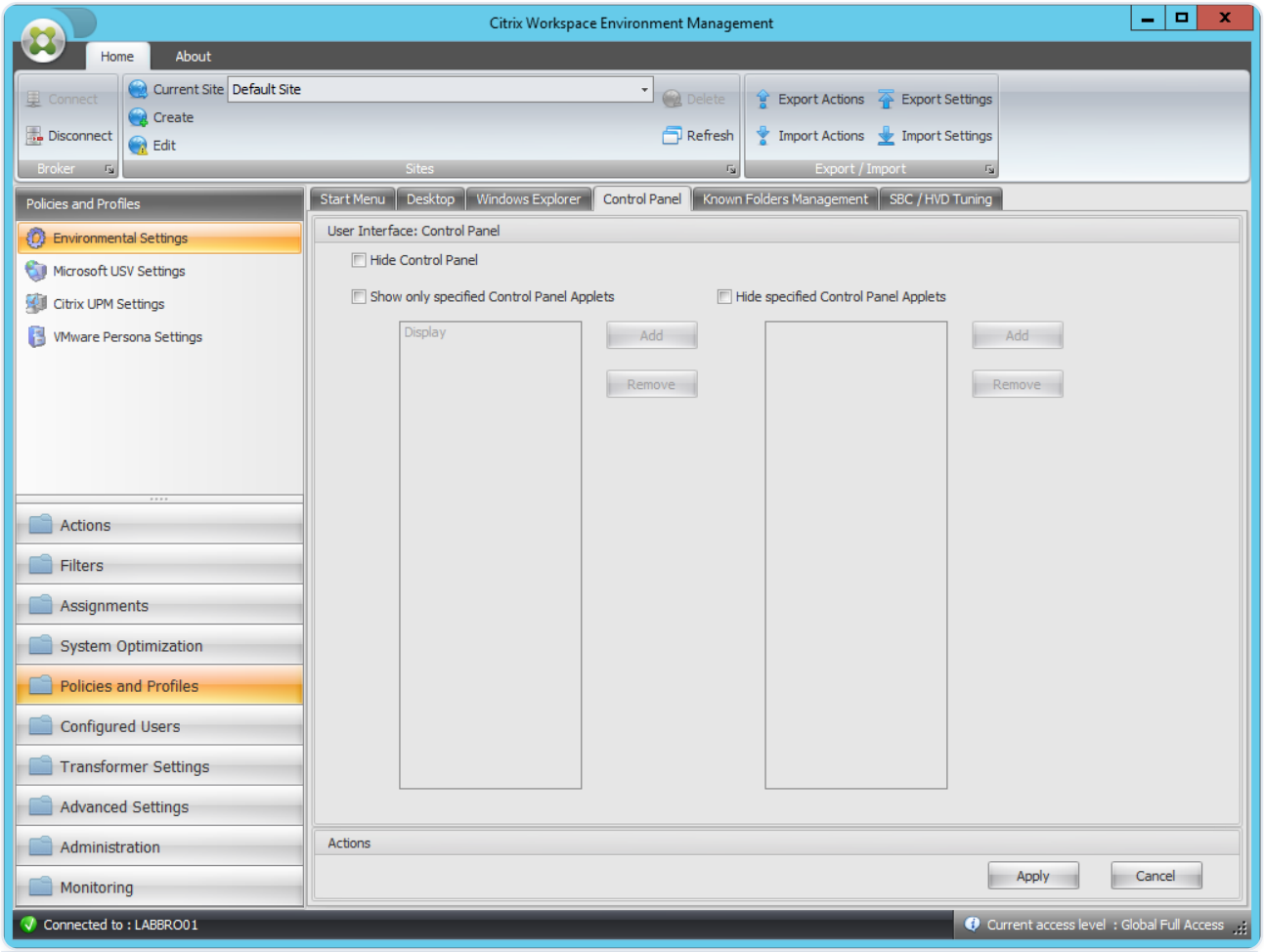
タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
値の名前	NoTrayContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoDrives
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから制限する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewOnDrive
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります

指定されたドライブをエクスプローラーから制限する	
無効な値	Null (値を削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス



コントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoControlPanel
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	RestrictCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可された各アプレットについて	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\RestrictCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	DisallowCpl
値の型	DWORD

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする	
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可されていないアプレットごとに	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\DisallowCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理中	エージェントによって呼び出されるサービス

環境設定の既知のフォルダー管理(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-admin-console-environmental-settings-05.png)

指定された既知のフォルダーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer`
値の名前	DisableKnownFolders
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値を削除する必要があります)

指定された既知のフォルダーを無効にする	
処理	ログオン時のサービス

無効な各フォルダーについて	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer\ DisableKnownFolders`
値の名前	無効なフォルダー名
値の型	REG_SZ
有効な値	無効なフォルダー名
無効な値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス

環境設定 SBC/HVD チューニング(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-admin-console-environmental-settings-06.png)

ドラッグフルウィンドウを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	DragFullWindows
値の型	REG_SZ
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅を無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	DisableCursorBlink

カーソル点滅を無効にする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

AUTOENDTASKS を有効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	AutoEndTasks
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

WAITTOKILLAPP タイムアウト	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	WaitToKillAppTimeout
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	20000 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅速度の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`

カーソル点滅速度の設定	
値の名前	CursorBlinkRate
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	500 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

メニュー表示遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MenuShowDelay
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	400 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

対話型遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	InteractiveDelay
値の型	DWORD
有効な値	設定値
無効値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス

SMOOTHSCROLLを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	SmoothScroll
値の型	DWORD
有効値	0
無効値	1
処理	ログオン時のサービス

MINANIMATE の無効化	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MinAnimate
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

フィルター条件

Workspace Environment Management には、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成するために使用する次のフィルター条件が含まれています。管理コンソールでのこれらの条件の使用方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

次のフィルター条件を使用する場合は、次の2つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合：
  - 「Client」は、エージェントホストに接続するクライアントデバイスを指します。
  - 「Computer」と「Client Remote」は、エージェントホストを指します。

- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「client」が含まれる条件は適用されません。

条件名	常にTRUE
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	該当なし
予期される構文	該当なし
戻り値	真。

条件名	コンピューター名の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。
期待される構文	単一の名前テスト: Computername 複数のテスト (OR): Computername1;Computername2 ワイルドカード (複数にも適用可能): ComputerName*
戻り値	現在のコンピューター名がテストされた値と一致する場合にTrueを返し、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアント名の一致
期待される値の型	該当なし
期待される値の型	文字列。
期待される構文	単一の名前テスト: Clientname 複数のテスト (OR): Clientname1;Clientname2 ワイルドカード (複数にも適用可能): ClientName*
戻り値	現在のクライアント名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	IPアドレスの一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: IpAddress 複数テスト (OR): IpAddress1;IpAddress2 ワイルドカード (複数でも機能): IpAddress* 範囲 (複数でも機能): IpAddress1-IpAddress2
戻り値	現在のコンピューターのIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントIPアドレスの一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: ClientIpAddress 複数のテスト (OR): ClientIpAddress1;ClientIpAddress2 ワイルドカード (複数にも対応): ClientIpAddress* 範囲 (複数にも対応): IpAddress1-IpAddress2
戻り値	現在のクライアントIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	テストするActive Directoryサイトの正確な名前。
予期される構文	Active Directoryサイト名。
戻り値	指定されたサイトが現在のサイトと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	スケジューリング
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	曜日 (例: 月曜日)。
予期される構文	単一の名前テスト: DayOfWeek 複数のテスト (OR): DayOfWeek1; DayOfWeek2
戻り値	今日がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	環境変数の一致
予期される値のタイプ	文字列。テストされる変数の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テストされる変数の予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	環境変数が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	レジストリ値の一致
予期される値のタイプ	文字列。テストするレジストリ値の完全なパスと名前。例: レジストリキー **HKCU\Software\Citrix\TestValueName**
予期される結果のタイプ	文字列。テストされたレジストリエントリの予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	WMI クエリ結果の一致
予期される値の型	該当なし

条件名	WMI クエリ結果の一致
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	有効なWMIクエリ。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql>`を参照してください。
戻り値	クエリが成功し、結果がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーの国の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	2文字のISO言語名。
戻り値	ユーザーのISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、そうでない場合はFalse。

条件名	ユーザーUI言語の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。2文字のISO言語名。例: FR。
予期される構文	2文字のISO言語名。例: FR。
戻り値	ユーザーのUI ISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、そうでない場合はFalse。

条件名	ユーザーSBCリソースタイプ
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	リストから選択。
予期される構文	該当なし

条件名	ユーザーSBCリソースタイプ
戻り値	ユーザーコンテキスト (公開デスクトップまたはアプリケーション) が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False を返します。

条件名	OSプラットフォームの種類
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	マシンのプラットフォームの種類 (x64 または x86) が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False を返します。

条件名	接続状態
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	ドロップボックスから選択。
予期される構文	該当なし
戻り値	接続状態 (オンラインまたはオフライン) が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS™ バージョン一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。Citrix Virtual Apps バージョン。例: 6.5
予期される構文	該当なし

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS™ バージョン一致
戻り値	バージョンが選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ファーム名一致
予期される値の型	該当なし
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ファーム名 (バージョン 6.5 まで)。例: Farm。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ゾーン名の一致
期待される値のタイプ	該当なし
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ゾーン名 (バージョン 6.5 まで)。例: Zone。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS™ ファーム名の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Desktops ファーム名 (バージョン 5 まで)。例: Farm。
予期される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デリバリーグループ名の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Desktops デリバリーグループ。例: Group。
予期される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX PROVISIONING™ イメージモード
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のCitrix Provisioningイメージモードが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントOS
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの照合
予期される値のタイプ	該当なし

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの照合
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directoryパスの名前。
予期される構文	単一の名前テスト: 厳密なLDAPパス照合 ワイルドカードテスト: OU=Users* 複数のエントリ: セミコロン (;) でエントリを区切る
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の照合
予期される値のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory属性の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory属性の予期される値。
予期される構文	単一値テスト: 値 複数値エントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る Null ではないことのテスト: ?
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	名前または値がリストにある
予期される値の型	文字列。Integrity List manager ユーティリティによって生成された XML リストの完全なファイルパス。
予期される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前/値の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに入力値が見つかった場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	COMPUTERNAME が一致しない
否定条件の動作	**ComputerName Match** を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ComputerName Match** を参照してください。

条件名	CLIENTNAME が一致しない
否定条件の動作	ClientName Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ClientName Match** を参照してください。

条件名	IPアドレスが一致しない
否定条件の動作	IP Address Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **IP Address Match** を参照してください。

条件名	クライアントIPアドレスが一致しない
否定条件の動作	Client IP Address Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Client IP Address Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY サイトの不一致
否定条件の動作	Active Directory サイトの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「**Active Directory サイトの一致**」を参照してください。

条件名	環境変数の不一致
否定条件の動作	環境変数の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「**環境変数の一致**」を参照してください。

条件名	レジストリ値の不一致
否定条件の動作	レジストリ値の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「**レジストリ値の一致**」を参照してください。

条件名	WMI クエリ結果の不一致
否定条件の動作	WMI クエリ結果の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「**WMI クエリ結果の一致**」を参照してください。

条件名	ユーザー国一致なし
否定条件の動作	ユーザー国一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ユーザー国一致** を参照してください。

条件名	ユーザーUI言語一致なし
否定条件の動作	ユーザーUI言語一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ユーザーUI言語一致** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSバージョン一致なし
否定条件の動作	Citrix Virtual Appsバージョン一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix**

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSバージョン一致なし
	Virtual Appsバージョン一致 を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSファーム名一致なし
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ZONE 名が一致しません
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Zone Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Zone Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS FARM 名が一致しません
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS DELIVERY GROUP 名が一致しません
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Delivery Group Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Delivery Group Name Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスが一致しません
否定条件の動作	Active Directory パスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory パスマッチ**を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性不一致
否定条件の動作	Active Attribute パスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Attribute パスマッチ**を参照してください。

条件名	名前または値がリストにない
否定条件の動作	名前または値がリストにあるを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **名前または値がリストにある**を参照してください。

条件名	クライアントリモートOS一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のリモートクライアントのオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントリモートOS不一致
否定条件の動作	クライアントリモートOS一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**クライアントリモートOS一致**を参照してください。

条件名	動的値の一致
予期される値の型	文字列。環境変数または動的トークンを使用する任意の動的式。
予期される結果の型	文字列。テストされた式の予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	動的式の評価結果が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	動的な値が一致しない
否定条件の動作	動的な値の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**動的な値の一致**を参照してください。

条件名	トランスフォーマーモードの状態
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のトランスフォーマーの状態が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントOS不一致
否定条件の動作	クライアントOSの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**クライアントOSの一致**」を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト：グループNetBIOS名 (DOMAIN\Groupname) 複数のテスト (OR)：Groupname1;Groupname2
戻り値	現在のユーザーグループのいずれかがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ不一致
否定条件の動作	Active Directory Group Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory Group Match** を参照してください。

条件名	ファイルバージョンの一致
予期される値の型	文字列。テストするファイルの完全パスと名前。
	例: **C:\Test\TestFile.dll**
予期される結果の型	文字列。テスト対象ファイルの予期されるファイルバージョン値。
予期される構文	単一の名前テスト: value Null ではないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	ファイルバージョン不一致
否定条件の動作	「ファイルバージョン一致」を実行し、その逆の結果 (false の場合は true、true の場合は false) を返します。詳細については、条件「**ファイルバージョン一致**」を参照してください。

条件名	ネットワーク接続状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のネットワーク接続状態が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

重要:

フィルター条件タイプとして「公開リソース名」を使用する前に、次の点に注意してください。公開リソースが公開アプリケーションである場合は、「**一致する結果**」フィールドにアプリケーションのブラウザ名を入力します。公開リソースが公開デスクトップである場合は、「**一致する結果**」フィールドにデスクトップの公開名を入力します。

条件名	公開リソース名
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。公開リソースの名前 (Citrix Virtual Apps/Citrix Virtual Desktops/RDS)。
予期される構文	単一の名前テスト: 公開リソース名 複数テスト (OR): Name1;Name2 ワイルドカードテスト: Name*

条件名	公開リソース名
戻り値	現在の公開リソース名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにある
予期される値の型	文字列。Integrity List managerユーティリティによって生成されたXMLリストの完全なファイルパス。
予期される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに名前の一致がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにない
否定条件の動作	「名前がリストにある」を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**名前がリストにある**」を参照してください。

条件名	ファイル/フォルダーが存在する
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	テストするファイルシステムエントリ（ファイルまたはフォルダー）のフルパス。
戻り値	指定されたファイルシステムエントリが存在する場合はtrue、それ以外の場合はfalse。

条件名	ファイル/フォルダーが存在しない
否定条件の動作	「ファイル/フォルダーが存在する」を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**「ファイル/フォルダーが存在する」**を参照してください。

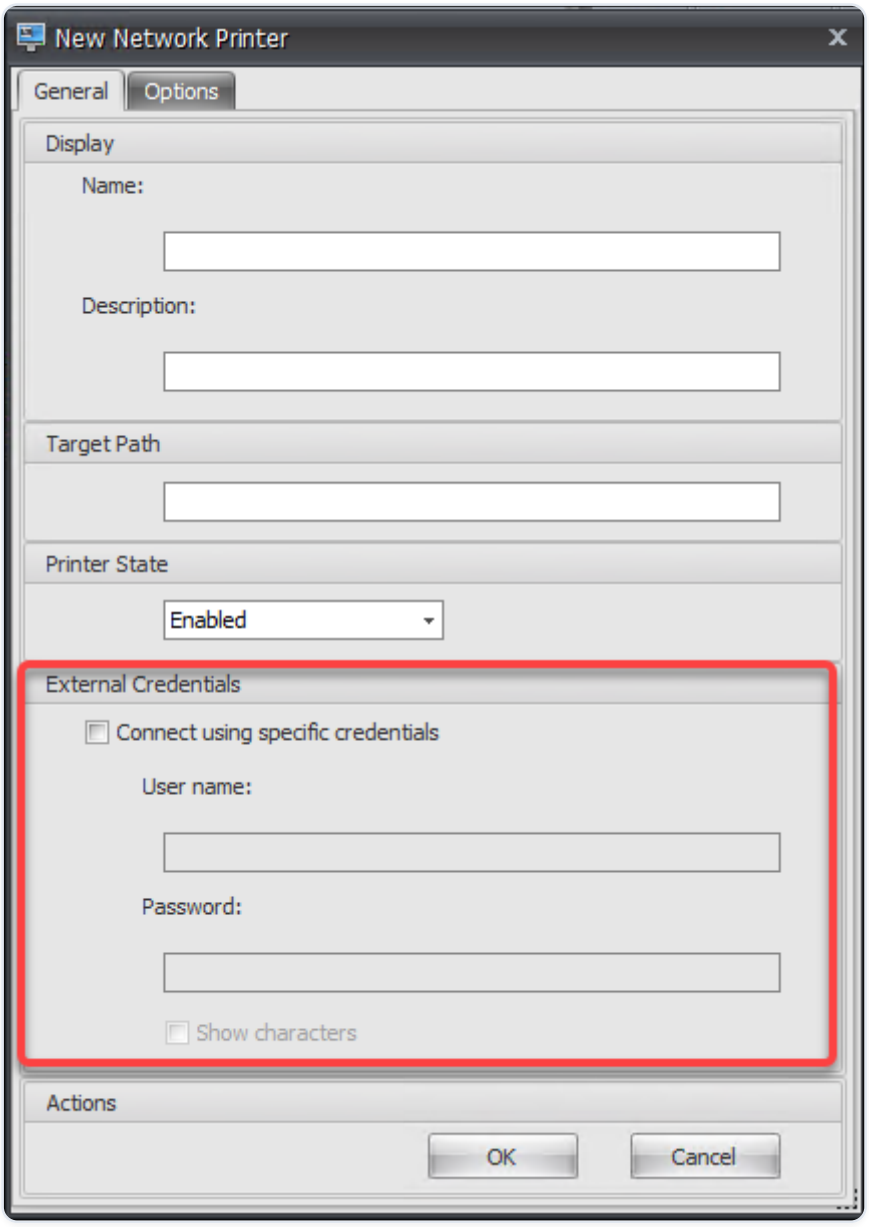
条件名	DATETIMEの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列としてのDateTime。テストする日付/時刻。
予期される構文	単一の日付: 06/01/2016 日付範囲: 06/01/2016-08/01/2016 複数のエントリ: entry1;entry2 範囲と単一の日付は混在可能
戻り値	実行日時が指定されたいずれかのエントリと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	DATETIMEの不一致
否定条件の動作	DateTimeの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件 **DateTimeの一致** を参照してください。

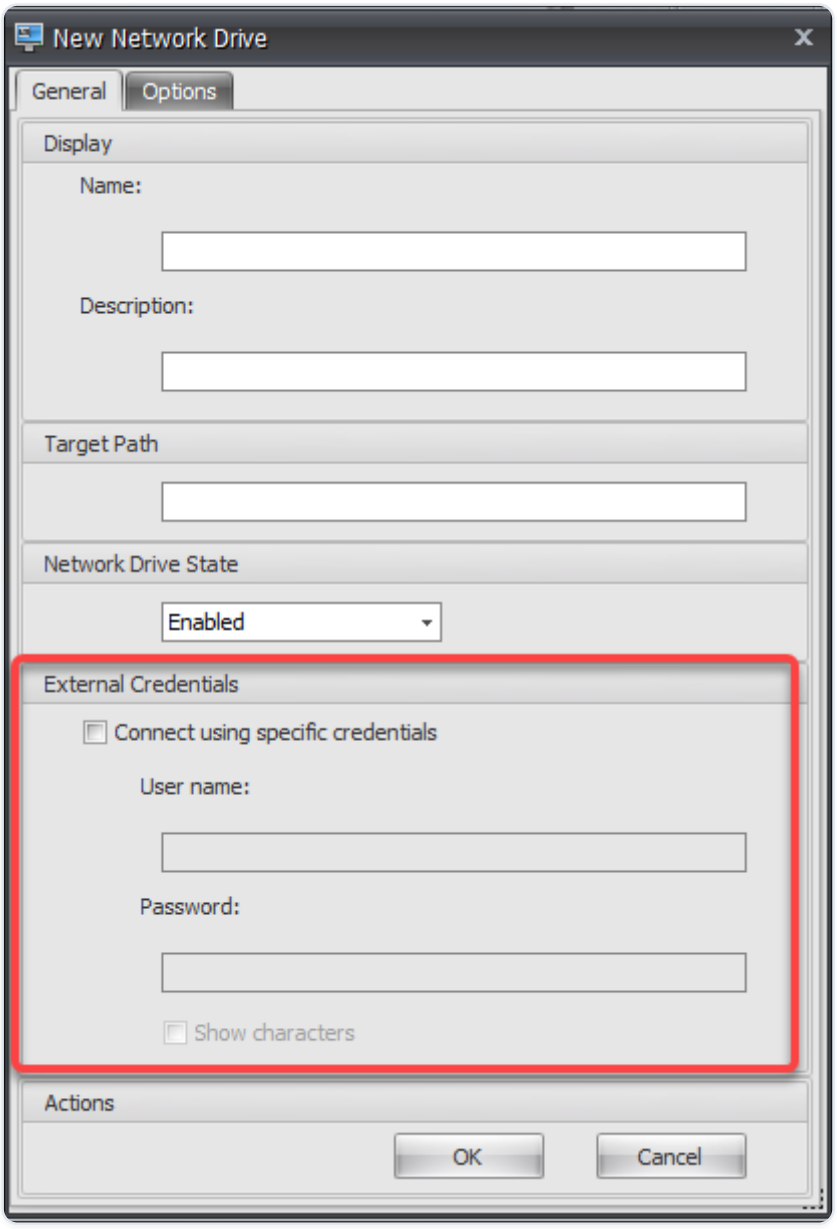
FIPS対応

FIPS環境でWorkspace Environment Management™ (WEM)を実行できます。WEMの以下の構成はFIPSに関連しています。

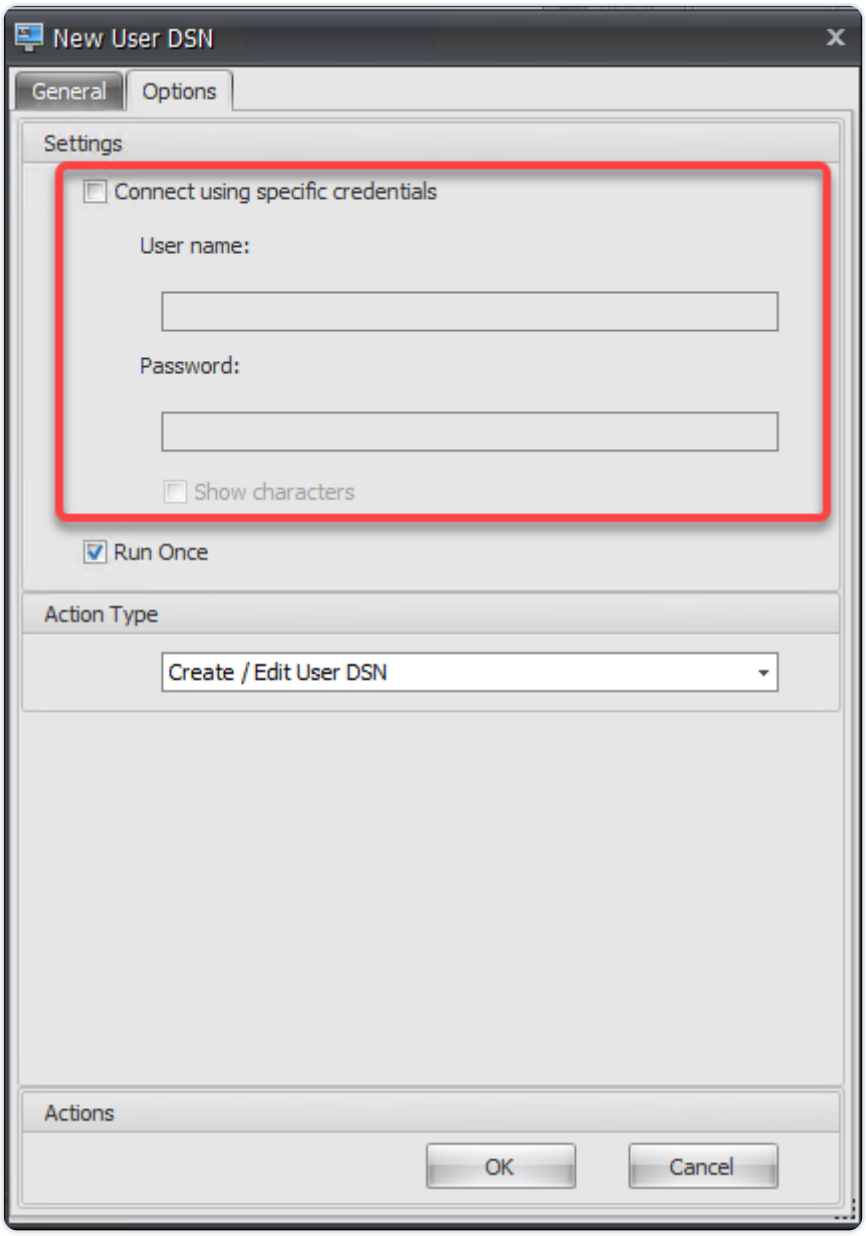
- **Administration console > Actions > Printers**にあるプリンターの資格情報:



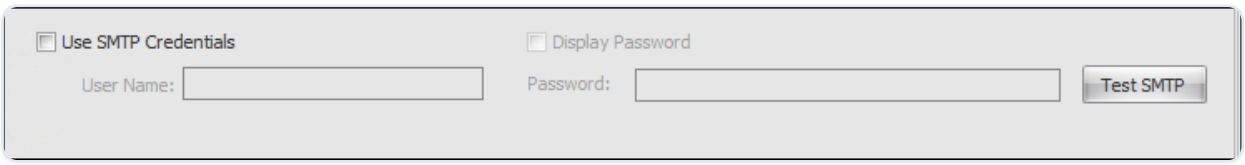
- **Administration console > Actions > Network Drives**にあるネットワークドライブの資格情報:



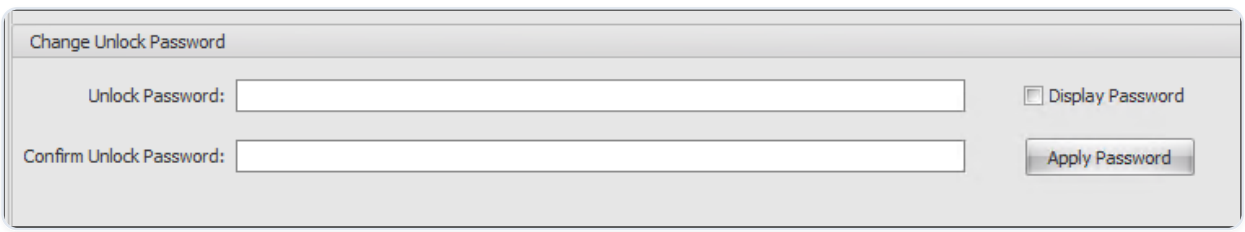
- **Administration console > Actions > User DSN**にあるユーザーDSNの資格情報:



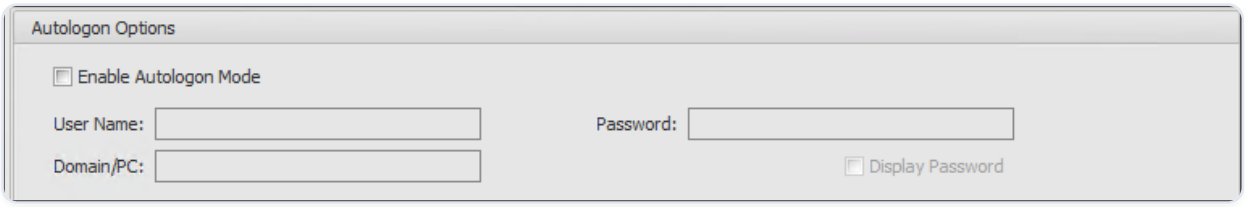
- **管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントパーソナライゼーション > ヘルプデスクオプション**にあるSMTPの資格情報：



- **Administration console > Transformer Settings > General > General Settings**にあるロック解除パスワード設定:



- **Administration console > Transformer Settings > Advanced > Logon/Logoff & Power Settings**にある自動ログオン資格情報:



FIPS環境でWEMを実行する際は、以下の考慮事項に注意してください。

- WEM 2003以前の環境からエクスポートされた以下の項目は、WEM環境に復元できません。
  - アクション（プリンター、ネットワークドライブ、ユーザーDSN）およびそれらのアクションを含むアクショングループ
  - 設定（エージェント構成設定およびトランスフォーマー設定）
  - 構成セット

アップグレードに関する考慮事項

WEMをFIPSモードで実行する場合は、WEMインフラストラクチャサービスと管理コンソールをアップグレードする前に、以下の考慮事項に注意してください。

- 環境で*WEM 2006以降*が実行されている場合は、まず2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替えるか、*その逆*を行うことができます。
- 環境で*WEM 2003以前*が実行されている場合は、まず2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替える必要があります。

エージェントに関する考慮事項

FIPS環境でWEMエージェントを実行するには、エージェントのバージョンが*2006以降*であることを確認してください。

Citrix ADC を使用したロードバランシング

この記事では、すべてのアクティブな負荷分散構成で、2つ以上のインフラストラクチャサーバーを含む Workspace Environment Management™ (WEM) サーバーグループを展開する方法について説明します。この記事では、WEM 管理コンソールと WEM エージェントからの受信リクエストを負荷分散するために Citrix ADC アプライアンスを構成する方法の詳細を説明します。

Citrix ADC を使用して、以下の WEM ポートでリッスンできます。

- 管理ポート (デフォルトでは 8284)
- エージェントサービスポート (デフォルトでは 8286)
- キャッシュデータ同期ポート (デフォルトでは 8288)

2つのインフラストラクチャサーバー（インフラストラクチャサーバー1とインフラストラクチャサーバー2）を含む WEM サーバーグループを展開するとします。次の手順を実行します。

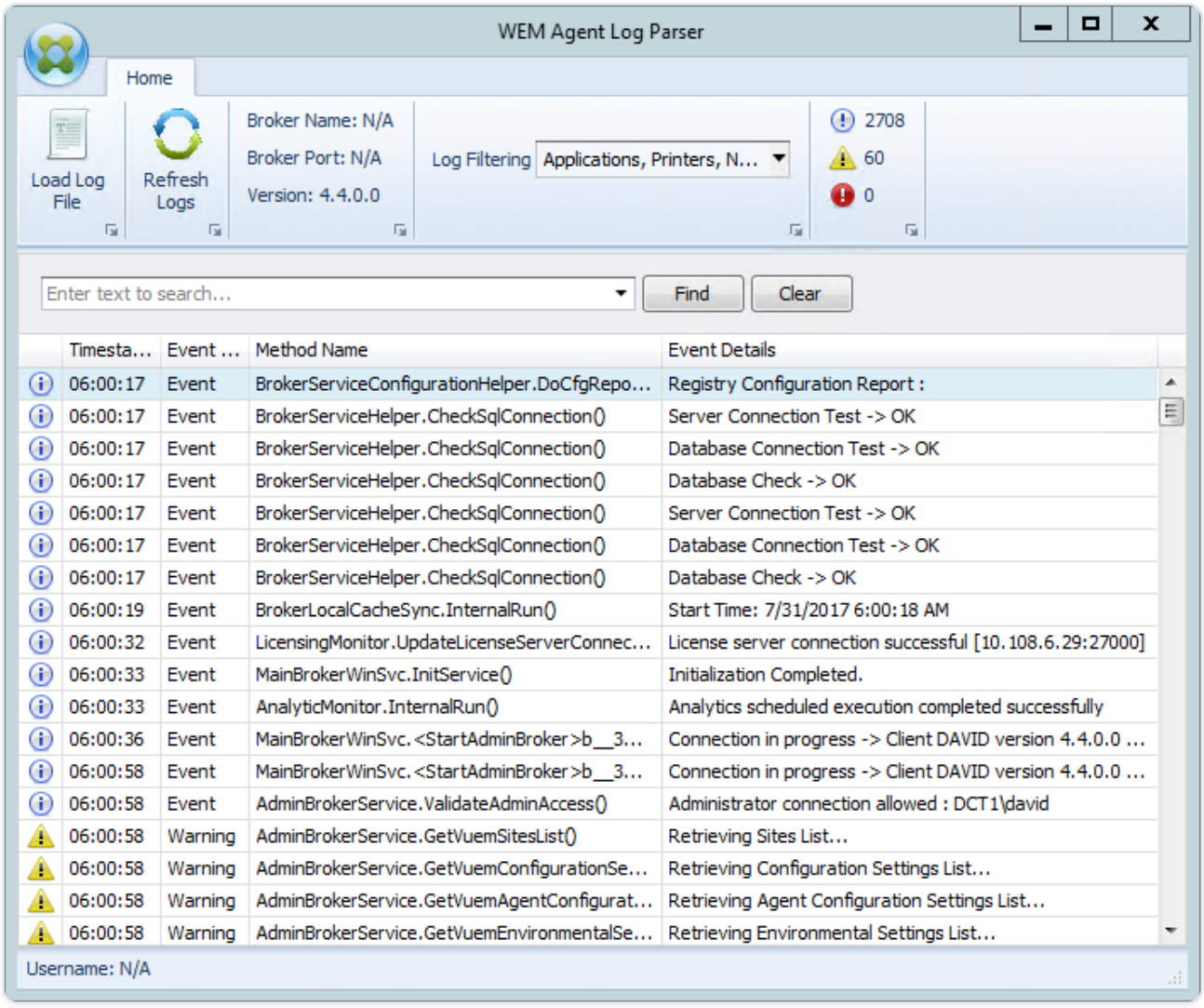
1. Citrix ADC 管理 GUI にログオンし、次に **Configuration** をクリックします。
2. **Traffic Management > Load Balancing > Servers > Add** に移動し、次に **Add** をクリックしてインフラストラクチャサーバー1を追加します。インフラストラクチャサーバー2を追加するために繰り返します。
3. **Traffic Management > Load Balancing > Service Groups** に移動し、次に **Add** をクリックして、*管理コンソールサービス* 用のサービスグループを作成します。
   - **プロトコル**。**TCP** を選択します。
   - **キャッシュタイプ**。**SERVER** を選択します。
4. 負荷分散サービスグループページで、**No Service Group Member** をクリックします。
5. サービスグループメンバーの作成ページで、**Server Based** を選択し、右矢印をクリックし、次にインフラストラクチャサーバー1を選択します。インフラストラクチャサーバー2に対して手順3から5を繰り返します。
   - **ポート**。たとえば、管理コンソールには 8284 と入力します。
6. 手順3から5に従って、*エージェントサービス*と*キャッシュ同期サービス*のサービスグループを作成します。
   - **ポート**。エージェントサービスポートには「8286」と入力します。キャッシュデータ同期ポートには「8288」と入力します。
7. **Traffic Management > Load Balancing > Virtual Servers**に移動し、**Add**をクリックして*管理コンソールサービス*の仮想サーバーを追加します。
   - **プロトコル**。**TCP**を選択します。
   - **IPアドレスタイプ**。**IP Address**を選択します。
   - **IPアドレス**。仮想IPを入力します。詳細については、「Citrix ADCが所有するIPアドレスの構成」を参照してください。
   - **ポート**。たとえば、管理コンソールには「8284」と入力します。

8. 「**ロードバランシング仮想サーバーサービスグループバインディングなし**」をクリックします。
9. サービスグループバインディングページで、右矢印をクリックし、対応するサービスグループを選択し、**Bind**をクリックします。
10. 手順7から9に従って、エージェントサービスポートとキャッシュデータ同期ポートでリッスンする仮想サーバーを作成します。

    - **ポート**。エージェントサービスポートには「8286」と入力します。キャッシュデータ同期ポートには「8288」と入力します。

ログパーサー

Workspace Environment Managementには、エージェントのインストールディレクトリにあるログパーサーアプリケーションが含まれています。デフォルトの場所は - `c:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Agent Log Parser.exe` です。



WEMエージェントログパーサーを使用すると、任意のWorkspace Environment Management™ エージェントログファイルを開き、検索およびフィルタリング可能にすることができます。このパーサーは、イベント、警告、例外の総数（リボンの右上）を要約します。また、ログファイルに関する詳細（最初に接続したインフラストラクチャサービスの名前とポート、エージェントのバージョン、ユーザー名）も含まれています。

ポート情報

Workspace Environment Management™ は、以下のポートを使用します。

ソース	宛先	タイプ	ポート	詳細
インフラストラクチャサービス	エージェントホスト	TCP	49752	「エージェントポート」。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。
管理コンソール	インフラストラクチャサービス	TCP	8284	「管理ポート」。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。
エージェント	インフラストラクチャサービス	TCP	8286	「エージェントサービスポート」。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。
エージェントキャッシュ同期プロセス	インフラストラクチャサービス	TCP	8288	「キャッシュデータ同期ポート」。Workspace Environment Management

ソース	宛先	タイプ	ポート	詳細
				1912以降に適用されます。Workspace Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するためのポート。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	27000	「Citrixライセンスサーバーポート」。Citrixライセンスサーバーがリッスンし、インフラストラクチャサービスがライセンスを検証するために接続するポート。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	7279	Citrixライセンスサーバー内の専用Citrixコンポーネント（デーモン）がライセンスを検証するために使用するポート。

ソース	宛先	タイプ	ポート	詳細
監視サービス	インフラストラクチャサービス	TCP	8287	「WEM監視ポート」。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリッスンポート。

ログファイルを表示

Workspace Environment Management™ (WEM) に関連するログを収集および表示できます。これらのログは、自分で問題をトラブルシューティングしたり、Citrix テクニカルサポートに問い合わせる際に提供したりするために使用します。次のログを収集できます。

- WEM エージェント
- WEM インフラストラクチャサービス
- WEM 管理コンソール
- WEM データベース
- WEM Web コンソール

エージェント関連のログ

WEM エージェントに関連するログを収集できます。WEM エージェントがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **WEM エージェントログ**
  - **Citrix WEM Agent Init.log**。CMD または UI モードでエージェントの問題をトラブルシューティングできる初期化ログです。このログは、ログオン時または更新時に作成されます。エージェントが起動に失敗した場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは *例外* として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。
  - **Citrix WEM Agent.log**。CMD または UI モードでエージェントの問題をトラブルシューティングできる主要なログです。このログには、エージェントが処理した命令が一覧表示されます。アクションが現在のユーザーに割り当てられなかった場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは *例外* として表示されます。デフォルトで

は、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。デフォルトを変更するには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > エージェントオプション** に移動し、**エージェントログの有効化** 設定を構成します。詳細を表示するには、**エージェントオプション** タブで **デバッグモード** を有効にします。または、次のレジストリキーを構成してログを有効にすることもできます。

コンピューター \HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェント ホスト

名前: AgentDebugModeLocalOverride

種類: DWORD

値: 0

ログファイルを有効にするには値を1に設定し、無効にするには0に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動してください。デフォルトでは、ログ記録は無効になっています。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Citrix WEM Agent Host Service Debug.log**。Citrix WEM Agent Host Serviceに関する問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルは `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にあります。ログ記録を有効にするには、**Administration Console > Advanced Settings > Configuration > Service Options**タブで、関連する構成セットの**Debug Mode**を必ず有効にしてください。または、次のレジストリキーを構成してログ記録を有効にすることもできます。

  コンピューター \HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェント ホスト

名前: AgentServiceDebugModeLocalOverride

種類: DWORD

値: 0

ログファイルを有効にするには値を1に設定し、無効にするには0に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動してください。デフォルトでは、ログ記録は無効になっています。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Windowsイベントログ**。Windowsイベントログに書き込まれる情報です。ログは、**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > WEM Agent Service**ペインで表示します。
- **Windows Communication Foundation (WCF) トレース**。WEMエージェントとWEMインフラストラクチャサービス間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログ記録を有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳細については、Windows Communication Foundation tracesを参照してください。

インフラストラクチャサービスに関連するログ

WEMインフラストラクチャサービスに関連するログを収集できます。WEMインフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **Windowsイベントログ**。Windowsイベントログに書き込まれる情報です。ログは、**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > WEM Infrastructure Service**ペインで表示します。
- **Citrix WEM Infrastructure Service Debug.log**。Citrix WEMインフラストラクチャサービス (Norskale Broker Service.exe) に関する問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルは `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services\Logs` にあります。このログファイルを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にしてください。

a. スタートメニューから**WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を開きます。
b. **Advanced Settings**タブで、**Enable debug mode**を選択します。
c. **Save Configuration**をクリックし、**Yes**をクリックしてサービスを開始し、変更を適用します。
d. 「**WEM インフラストラクチャサービス構成ユーティリティ**」ウィンドウを閉じます。

- **WCF トレース**。WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳しくは、「Windows Communication Foundation トレース」を参照してください。

管理コンソールに関連するログ

WEM 管理コンソールに関連するログを収集できます。管理コンソールがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **Citrix WEM Console Trace.log**。WEM 管理コンソールの問題をトラブルシューティングできるログです。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。ログを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

  a. スタートメニューから**WEM 管理コンソール**を開き、**接続**をクリックします。
  b. **新しいインフラストラクチャサーバー接続**ウィンドウで、情報を確認してから**接続**をクリックします。
  c. **バージョン情報**タブで、**オプション**をクリックし、**デバッグモードを有効にする**を選択します。
  d. **適用**をクリックして変更を適用します。

- **WCF トレース**。WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳しくは、「Windows Communication Foundation トレース」を参照してください。

WEM データベースに関連するログ

WEM データベースに関連するログを収集できます。ログは、WEM データベース管理ユーティリティを使用してデータベースを作成またはアップグレードするときに作成されます。詳細については、次のログファイルを参照してください。

- **Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log**。WEM データベースの問題をトラブルシューティングできるログです。このログファイルはデフォルトで作成され、`C:`

`\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services\Logs` にあります。

WEM Web コンソールに関連するログ

WEM Web コンソールに関連するログを収集できます。ログは、WEM Web コンソール構成ユーティリティを使用して Web コンソールを構成するときに作成されます。さらに、Web コンソールサービスが実行されているときにもログが作成されます。詳細については、次のログファイルを参照してください。

- **Web Console Configuration Utility.log**。WEM Web コンソール構成ユーティリティに関する問題のトラブルシューティングに役立つログです。このログファイルはデフォルトで作成され、`C:\ProgramData` にあります。
- **Citrix WEM Public API.log**。WEM Web コンソールサービスに関する問題のトラブルシューティングに役立つログです。**Web コンソール構成**ユーティリティを使用して Web コンソールサービスを構成し、ログ記録を有効にする場合は、**コンソールログ記録を有効にする**オプションを有効にしてください。このログファイルは `C:\ProgramData` にあります。

ウィンドウズ コミュニケーション ファンデーション トレース

Windows Communication Foundation (WCF) トレースを表示して、次の問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

- エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/reference/view-log-files.html#troubleshoot-communications-between-the-agent-and-the-infrastructure-service)
- WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/reference/view-log-files.html#troubleshoot-communications-related-to-the-wem-infrastructure-service)
- WEM 管理コンソールに関連する通信(/ja-jp/workspace-environment-management/2607/reference/view-log-files.html#troubleshoot-communications-between-the-wem-administration-console-and-the-wem-database)

エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信のトラブルシューティング

WEM エージェントが WEM インフラストラクチャサービスと適切に通信しない場合は、VUEMUIAgent.exe サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEM エージェントマシンにログオンします。

2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了**を選択してエージェントを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にある VUEMUIAgent.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`<configuration>` と `</configSections>` マーカーの間のセクションに次のスニペットを挿入します。
5. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\vuemUIAgent-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

6. エージェントマシンで、C ドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダを作成します。フォルダが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. 発生した問題を再現し、VUEMUIAgent.exeプロセスを終了します。
8. `C:\Trace` にある `vuemUIAgent-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

Citrix.Wem.Agent.Service.exeサービスのWCFトレースを表示することもできます。次の手順に従います。

1. WEMエージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了**を選択してエージェントを閉じます。
3. Citrix WEM Agent Host Serviceを終了します。
4. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent`にあるCitrix.Wem.Agent.Service.exe.configファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
5. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`</configSections>`マーカーの直後の4行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。
6. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\NorskaleAgentHostService-
Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>
```

```
</system.diagnostics>
```

7. エージェントマシンで、Cドライブに「Trace」というルートフォルダー（C:\Trace）を作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
8. Citrix WEM Agent Host ServiceというWindowsサービスを開始し、発生した問題を再現します。
9. `C:\Trace` にある `NorskaleAgentHostService-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信のトラブルシューティング

WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合は、Norskale Broker ServiceのWCFトレースを表示できます。WCFトレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEMインフラストラクチャサービスがインストールされているマシンにログオンします。
2. Citrix WEM インフラストラクチャサービスを停止します。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services` にある Norskale Broker Service.exe.config ファイルを見つけ、そのファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`<configuration>` マーカーの直後の3行目から開始して、次のスニペットをファイルに挿入します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:
```

```
\trace\NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. WEM インフラストラクチャサービスマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップしてください。
7. Citrix WEM インフラストラクチャサービスを開始し、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace` にある `NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信のトラブルシューティング

WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信に関連する問題が発生した場合、Norskale Administration Console.exe サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順に従います:

1. WEM 管理コンソールマシンにログオンします。
2. WEM 管理コンソールを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Administration Console` にある Norskale Administration Console.exe.config ファイルを見つけ、そのファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`<configuration>` マーカーの直後の3行目から開始して、次のスニペットをファイルに追加します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"
```

```
                    propagateActivity="true">
            <listeners>
            <add name="traceListener"
                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
                initializeData= "c:\trace\WEMConsole-Traces.svclog" />
            </listeners>
        </source>
    </sources>
</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. 管理コンソールマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップしてください。
7. WEM管理コンソールを開き、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace` にある `WEMConsole-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

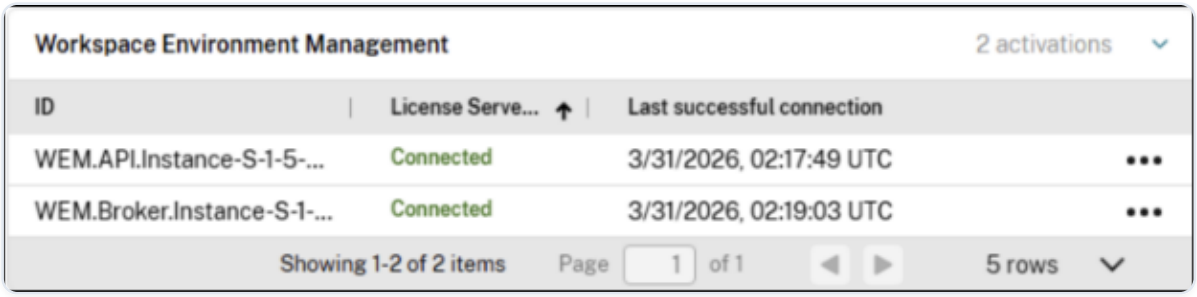
WEM LAS の問題のトラブルシューティング

この記事では、Workspace Environment Management™ (WEM) における Citrix® Licensing Activation Service (LAS) の問題の診断と解決に役立ちます。ライセンス設定の詳細については、ライセンスの設定を参照してください。

LAS ライセンスの問題が発生した場合は、まず Citrix Cloud™ でライセンスサーバーのステータスを確認してください。ステータスが緑色でない場合は、アクティベーションの詳細を確認して原因を特定してください。

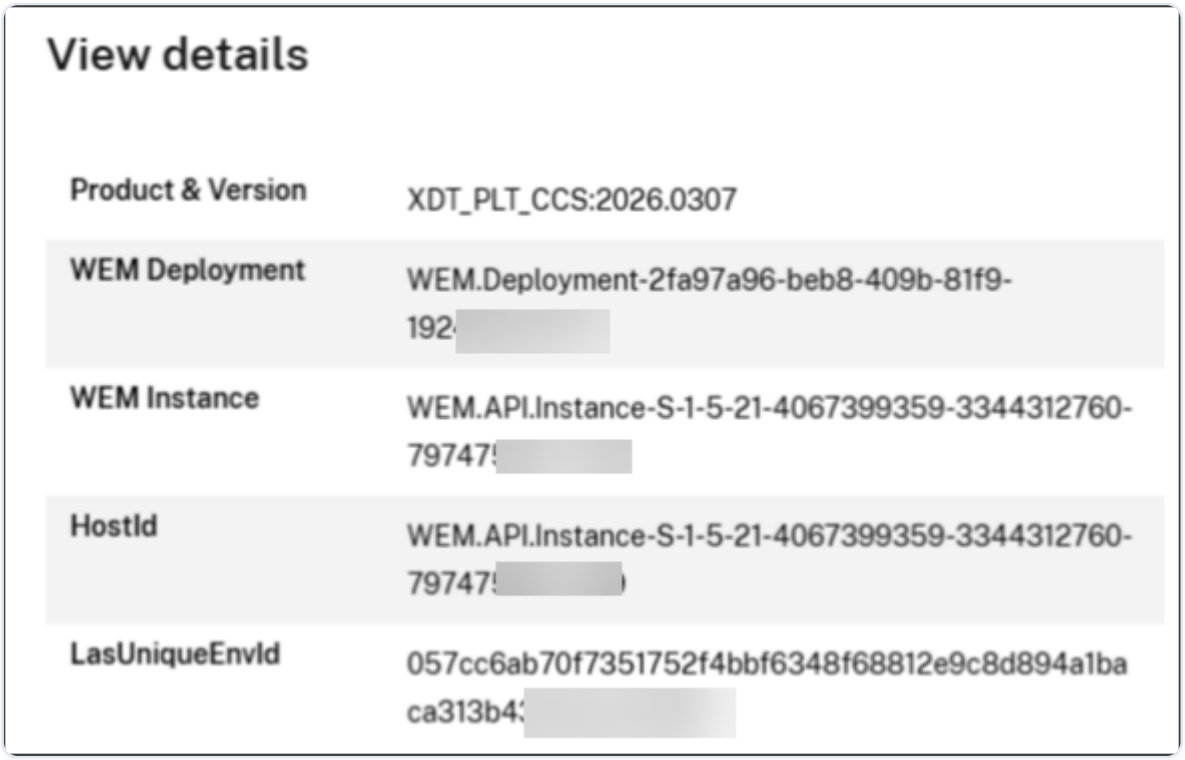
1. アカウントで Citrix Cloud にサインインします。
2. **ライセンス > ライセンス済み展開 > ライセンスサーバー** に移動します。
3. **Workspace Environment Management** を展開して、アクティベーションのリストを表示します。

- **ID**: マシン SID
- **ライセンスサーバー接続**: **接続済み** または **接続が失われました**
- **最終成功接続**: 最新の成功した接続時刻



4. アクティベーションの **... > 詳細の表示** をクリックして、詳細情報を確認します。

- **製品とバージョン**: LAS でアクティベートする際に使用される **Product_Edition_Model** と **BurnInDate**。**BurnInDate** は通常、製品のリリース日です。
- **WEM 展開**: 展開 ID
- **WEM インスタンス**: マシン SID
- **HostID**: マシン SID
- **LasUniqueEnvID**: LASがアクティベーションを提供するインスタンスの一意のID



ライセンスサーバーへの接続を確認する

WEMがLAS SDKを呼び出す前に、WEMインフラストラクチャサービスは以下のエンドポイントに**POST**リクエストを送信します。

```
https://{licenseServerAddress}:{lasLicenseServerPort}/lic_admin/
lasentitlements

https://{licenseServerAddress}:{lasLicenseServerPort}/ls_server/serverinfo
```

ここで：

- **licenseServerAddress**はCitrix License Serverのアドレスです。
- **lasLicenseServerPort**はLASサービスが使用するポートです（デフォルト: **8083**）。

いずれかのURLがブロックされているか到達不能な場合、**Citrix WEM Infrastructure Service Debug.log**に以下のエラーが表示されます。

```
<CheckLasEnabled>d__27.MoveNext() : Error sending POST request: A task was
canceled.
```

WEMインフラストラクチャサーバーがネットワークまたはファイアウォールの制限なしに両方のURLに到達できることを確認してください。

接続をテストする

WEMインフラストラクチャサーバーから以下のコマンドを実行して、ライセンスサーバーに到達できることを確認します。`<licenseServer>`をライセンスサーバーのアドレスに置き換えてください。

1. LASポートに到達可能であることを確認します。

   ```
   Test-NetConnection <licenseServer> -Port 8083
   ```

   `TcpTestSucceeded : True`はポートが開いていることを確認します。

2. LASエンドポイントが応答することを確認します。

   ```
   curl.exe -k -X POST "https://<licenseServer>:8083/lic_admin/
   lasentitlements" -H "Content-Type: application/json" -d "{\"ver\":
   \"1.0\"}"
   ```

```
curl.exe -k -X POST "https://<licenseServer>:8083/ls_server/serverinfo"
-H "Content-Type: application/json" -d "{\"ver\":\"1.0\"}"
```

注:

`-k` オプションはTLS証明書の検証をバイパスし、接続診断のみを目的としています。本番環境の構成では使用しないでください。

コマンドが失敗するかタイムアウトする場合、WEMインフラストラクチャサーバーはエンドポイントに到達できません。ネットワークパス、ファイアウォールルール、およびライセンスサーバーのアドレスを確認してください。

ライセンスサーバー証明書の問題のトラブルシューティング

証明書の有効期限が切れている、まだ有効でない、またはライセンスサーバー名と一致しない場合、証明書の検証は失敗する可能性があります。

証明書の有効期限切れまたは未有効

ライセンスサーバー証明書の有効期限が切れているか、まだ有効でない場合、**Citrix WEM Infrastructure Service Debug.log** に次のいずれかのエラーが表示されます。

```
LICENSING: license server certificate NOT valid, is expired, subject
'{subject}', issuer '{issuer}'
```

```
LICENSING: license server certificate NOT valid, used too soon, subject
'{subject}', issuer '{issuer}'
```

解決策:

- 証明書の有効期限が切れている場合は、更新してください。
- 証明書が新しく発行されたばかりでまだ有効でない場合は、有効期間が開始されるまで待ってから再試行してください。

ライセンスサーバーのホスト名の不一致

ライセンスサーバーのホスト名が証明書と一致しない場合、**Citrix WEM Infrastructure Service Debug.log** に次のエラーが表示されます。

```
LICENSING: license server certificate NOT valid, hostname mismatch,
subject '{subject}', issuer '{issuer}'
```

解決策:

指定した **Citrix License Server名** が、証明書で定義されている名前のいずれかと一致することを確認してください。ホスト名は、次の **いずれか** に一致する必要があります。

- 証明書の **Subject** フィールド。
- 証明書の **Subject Alternative Name (SAN)** 拡張機能に記載されている **DNS名**。

ホスト名がこれらのエントリのいずれとも一致しない場合は、ライセンスサーバー名を更新するか、正しいDNS名で証明書を再発行してください。

構成ユーティリティのライセンスサーバー名(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/las-cert-hostname-config.png)

証明書のSubjectフィールド(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/las-cert-subject.png)

証明書のSubject Alternative Name拡張機能(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/las-cert-san.png)

証明書承認ダイアログボックスが表示されない

ライセンスサーバー証明書が信頼されていない場合、**セキュリティ証明書の承認**ダイアログボックスが表示されるはずです。続行するには、証明書を手動で承認する必要があります。

セキュリティ証明書の承認ダイアログボックス(/en-us/workspace-environment-management/2607/media/accept-security-certificate.png)

WEMは、以下のURLからライセンスおよび証明書情報を取得します。

```
https://{licenseServerAddress}:{lasLicenseServerPort}/ls_server/serverinfo
```

このURLがブロックされているか、到達できない場合、WEMはライセンスサーバー情報を取得できず、証明書承認ダイアログボックスは表示されません。

解決策:

WEMインフラストラクチャサーバーが、ネットワークまたはファイアウォールの制限なしに上記のURLに到達できることを確認してください。

証明書承認ダイアログボックスを強制的に表示する

証明書承認ダイアログボックスを強制的に表示する必要がある場合は、構成方法に応じた手順に従ってください。

WEM Infrastructure Service Configuration utilityを使用して、**特定のWEMインフラストラクチャサーバー**用にライセンスサーバーを構成した場合：

1. **HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Infrastructure Services**の下にあるレジストリ値**SpecificLasLicenseServerCertificateThumbprint**を削除します。
2. **WEM インフラストラクチャ サービス構成ユーティリティ**を再度開きます。
3. もう一度**構成の保存**をクリックします。

   この操作により、**セキュリティ証明書の承認**ダイアログボックスがトリガーされ、ライセンスサーバー証明書を手動で承認できるようになります。

WEMコンソールでライセンスサーバーを**グローバルに**構成した場合：

1. データベースの**VUEMParameters**テーブルにある**GlobalLasLicenseServerCertificateThumbprint**の値をクリアします。
2. WEMコンソールでライセンスサーバーを再構成します。この操作により、証明書の受け入れプロセスがトリガーされます。

> **注意:**

> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。変更する前にレジストリをバックアップしてください。

詳細なLASログを収集する

上記の手順で問題が解決しない場合は、トレースレベルのログを有効にし、Citrix SupportのためにLASクライアントログを収集してください。問題を報告しているコンポーネントでログを有効にします。

- インフラストラクチャサービスまたはレガシーコンソールに関する問題については、WEMインフラストラクチャサーバー。
- Webコンソールに関する問題については、Webコンソールサーバー。

ログを有効にするには、次の手順に従います。

1. 影響を受けるサーバーで、**レジストリエディター** (`regedit.exe`) を開きます。
2. 次のキーに移動します。

   ```
   HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM\Licensing
   ```

3. 次の設定で**文字列値 (REG_SZ)** を作成します。
   - **名前**: `LasLicenseServerLogLevel`
   - **値**: `Trace`
4. 変更を有効にするには、サービスを再起動します。
   - WEMインフラストラクチャサーバーで、**Citrix WEM Infrastructure Service**を再起動します。
   - Webコンソールサーバーで、**Citrix WEM Public API Service**を再起動します。
5. 問題を再現し、**Citrix WEM LAS Client Log.log**ファイルを取得してCitrix Supportに提供します。ログファイルは、コンポーネントのインストールフォルダーの`Licensing\Las`サブフォルダーにあります。
   - **WEMインフラストラクチャサーバー**: `<Infrastructure Service installation folder>\Licensing\Las`。デフォルトでは、インストールフォルダーは`C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services`です。
   - **オンプレミスWebコンソール**サーバー: `<Web Console installation folder>\Licensing\Las`。デフォルトでは、インストールフォルダーは`C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Web Console`です。

注意:

レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。変更する前にレジストリをバックアップしてください。

WEM ヘルスチェックツール

WEM ヘルスチェックツールは、WEM コンポーネントのステータスを確認し、WEM 展開における構成の問題を特定して解決するのに役立つスタンドアロンツールです。このツールは、WEM エージェントおよび WEM インフラストラクチャサービスとともにインストールされます。

ツールの起動

このツールを実行するには、**ローカル管理者**権限が必要です。次のいずれかの方法を使用して `Citrix.WEM.Health.Check.Tool.exe` を起動します。

- WEM インフラストラクチャサーバーで、`<Installation folder of WEM Infrastructure Services>\Health Check Tool` に移動します (例: `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services\Health Check Tool`)。
- WEM エージェントがインストールされているマシンで、`<Installation folder of WEM agent>\Health Check Tool` に移動します (例: `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Health Check Tool`)。

トラブルシューティングのためにログを収集するには、**デバッグモード**を有効にします。問題が発生した後、分析のためにログを取得します。

ホーム

ホームページには、次の構成が含まれています。

- WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサーバーの両方の構成。**名前**、**エージェントの種類**、**エージェントバージョン**、および**参加の種類**を選択します。
- **参加**の種類には、AD 参加または非ドメイン参加のいずれかを前提条件とすることができます。
- WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサーバーに対して、それぞれ**強制デバッグモード**または**デバッグモード**を有効にできます。
- **強制デバッグモード**を有効にすると、**管理**コンソールで指定された設定に関係なく、エージェントのデバッグモードがオンになります。
- WEM エージェントまたは WEM インフラストラクチャサーバーに変更をすぐに適用するには、それぞれ `Citrix WEM agent Host Service` と `VUEMUIAgent.exe` または `Citrix WEM Infrastructure Service` を再起動できます。
- **ログの取得**を使用すると、ログをパッケージとして圧縮フォルダーに取得して保存できます。その後、ローカルマシンに保存されたパッケージを確認できます。

インフラストラクチャサーバー

WEMインフラストラクチャサーバーの構成を確認するには、ツールを開き、インフラストラクチャサーバーの基本情報を確認します。

- インフラストラクチャサーバーの**デバッグモード**を有効にします。
- **チェック開始**ボタンをクリックして、インフラストラクチャサーバーの構成を確認します。
- **ログの取得**をクリックしてログを取得し、**レポートファイルを開く**をクリックして詳細レポートを表示し、**再チェック**をクリックして構成を再確認します。

ヘルスチェックレポートの生成には、以下のコンポーネントが考慮されます。

- Windowsファイアウォールの構成
- エージェントブローカーサービス
- キャッシュ同期サービス
- 管理サービス
- ライセンスサーバー

> **注:**
>
> - エージェントキャッシュが永続的な場所に存在することを確認してください。非永続的なキャッシュの場所を使用すると、キャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。
> - ディレクトリサービスのタイムアウトは、接続時間に基づいて設定することをお勧めします。

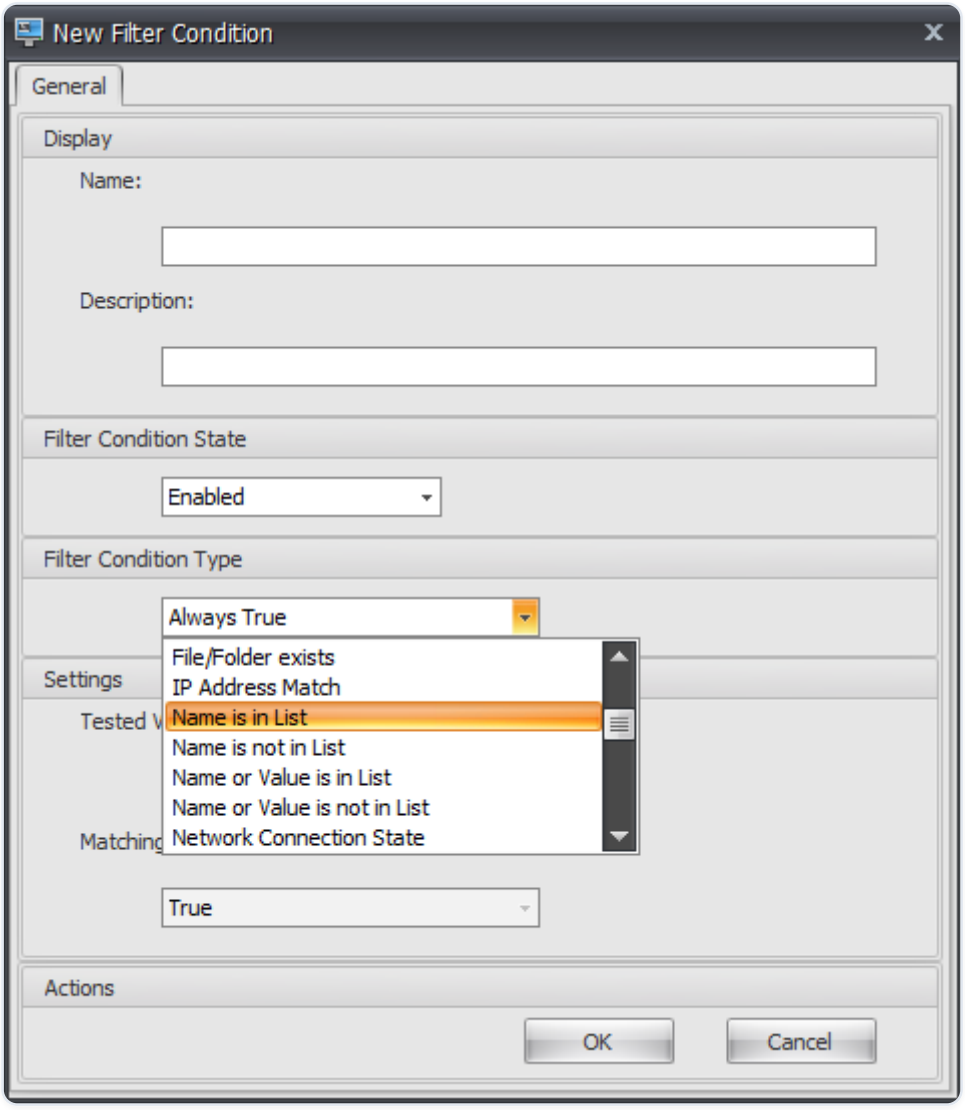
> WEMエージェントが期待どおりに機能するには、以下のサービスが必要です。サービスが実行されており、各サービスのスタートアップの種類が自動に設定されていることを確認してください。

- システムイベント通知サービス
- Citrix WEMエージェントホストサービス
- Citrix WEM ユーザーログオンサービス

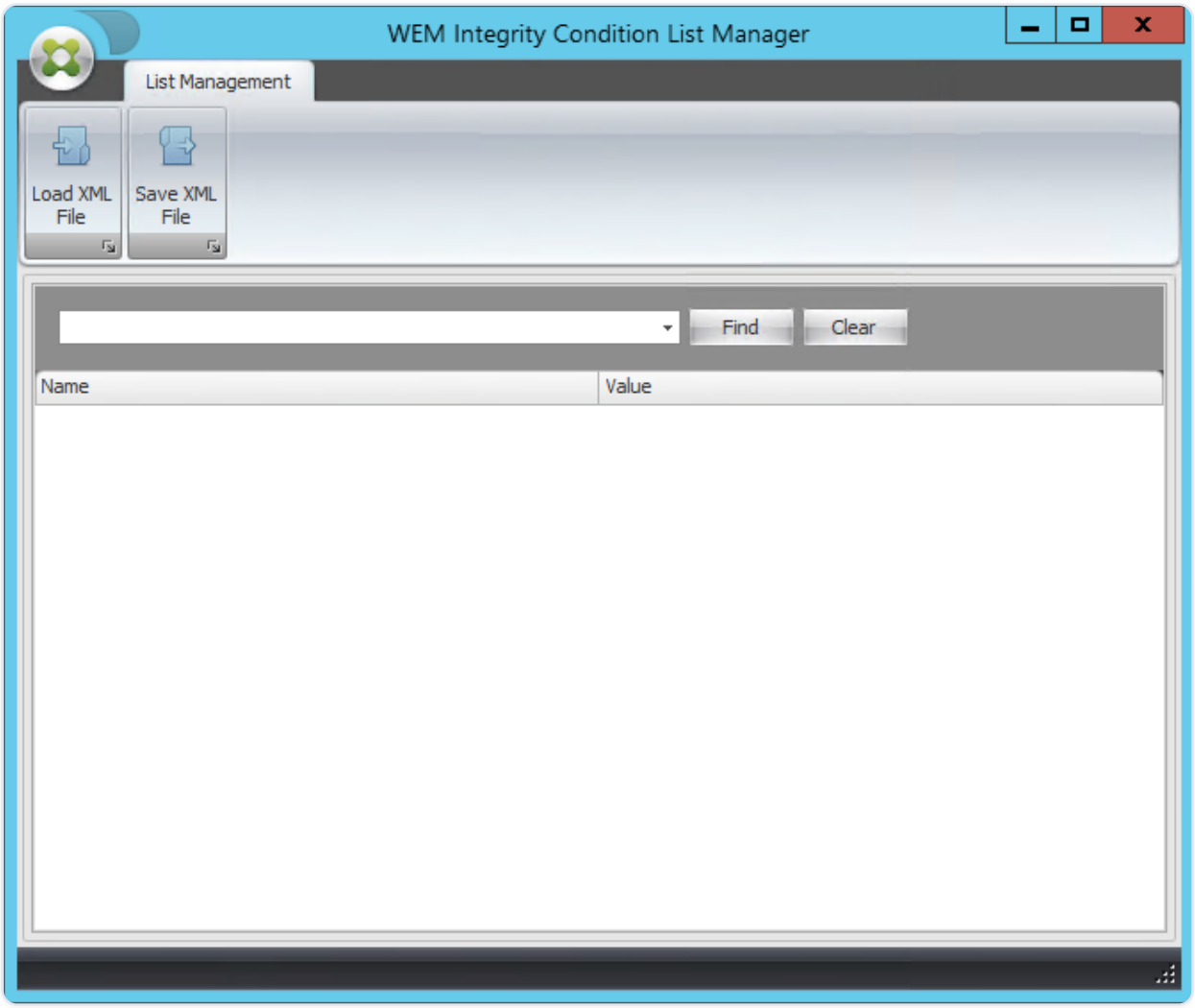
WEM インテグリティ条件リストマネージャー

WEM Integrity Condition List Manager は、フィルタリング目的の XML ファイルを作成するのに役立つ強力なツールです。このツールは、次のフィルター条件タイプで使用されます: **名前がリストにある、名前がリストにない、名前または値がリストにある、名前または値がリストにない**。これらの条件を管理コンソールで使用する方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

この記事では、WEM Integrity Condition List Manager を使用して、フィルタリング目的の XML ファイルを作成する方法について説明します。たとえば、**名前がリストにある** と組み合わせて WEM Integrity Condition List Manager を使用してアクションをフィルタリングするとします。

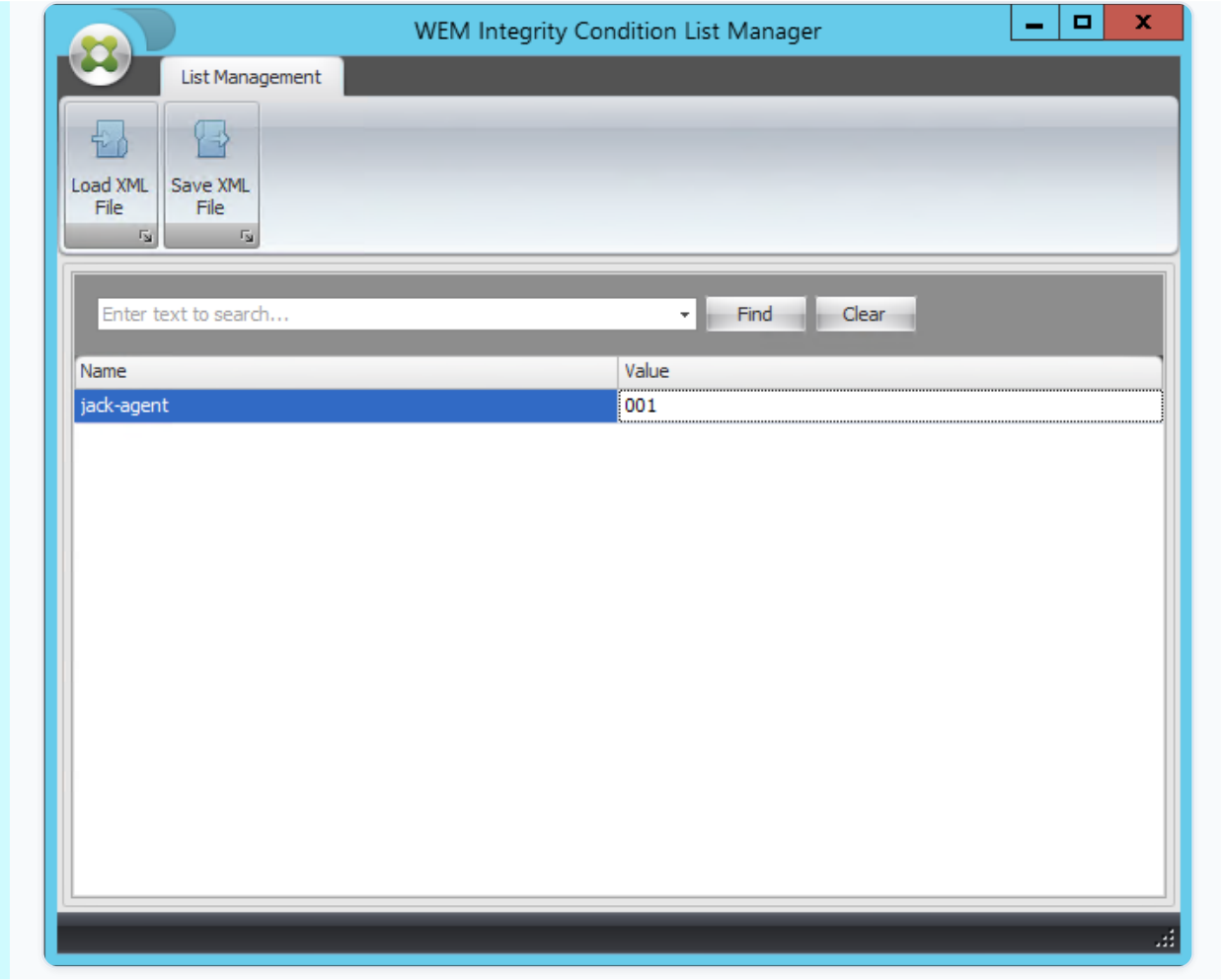


1. WEM インテグリティ条件リストマネージャーを開きます。

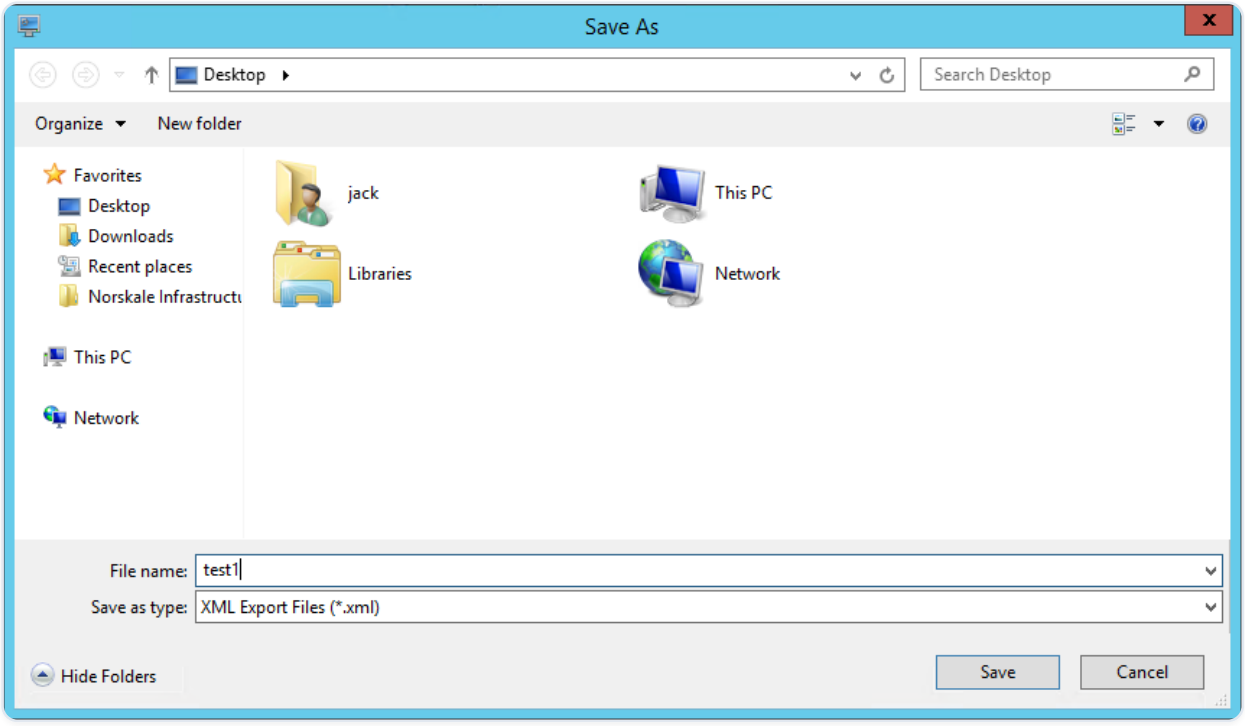


2. 空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで **追加** を選択します。
3. **名前** フィールドに名前を入力します。

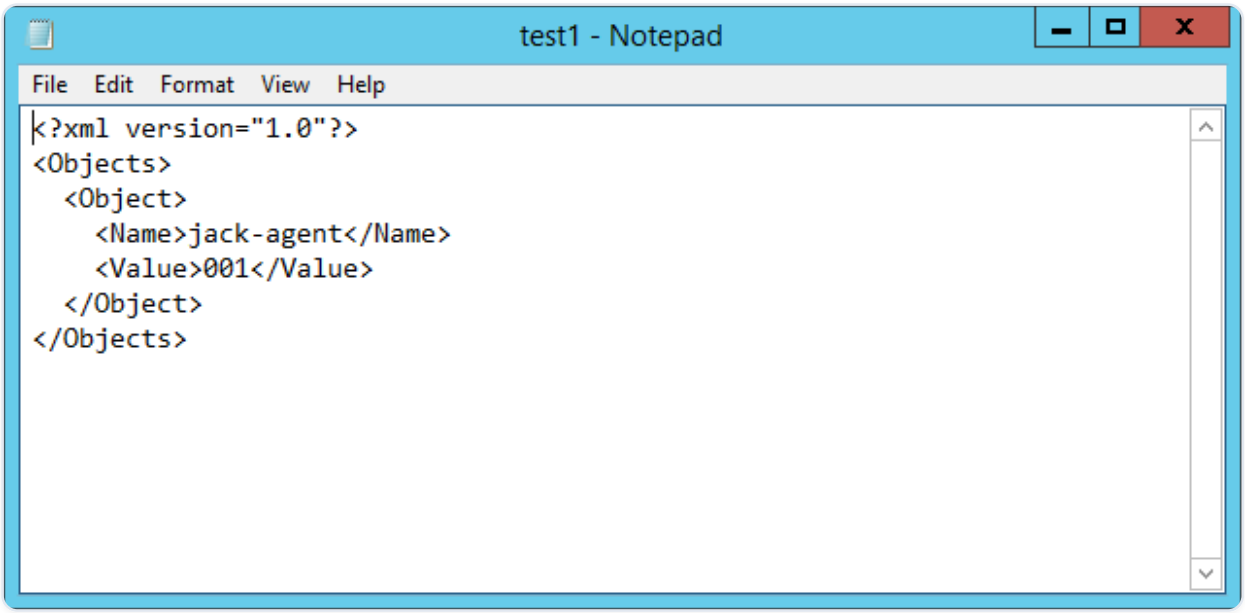
> **注:**
>
> WEM エージェントが実行されているマシン (エージェントホスト) の名前を入力します。



4. **XML ファイルの保存** をクリックし、目的のフォルダーを参照して、**保存** をクリックします。



5. 保存した XML ファイルを開き、提供した情報が正しく保存されていることを確認します。



6. 保存した XML ファイルをエージェントホスト上のフォルダーにコピーします。

> **注:**
>
> この機能は、XMLファイルを管理コンソールマシンに保存した場合、動作しません。

7. **Administration Console \> Filters \> Conditions \> Filter Condition List**タブに移動し、**Add**をクリックします。

   管理コンソール 1 (/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-integrity-condition-list-manager-06.png)

8. 情報を入力し、**OK**をクリックします。

   新しいフィルター条件 (/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-integrity-condition-list-manager-07.png)

> **注:**
>
> - **フィルター条件タイプ。「名前がリストにある」**を選択します。
> - **XMLリストファイル**: `C:\Users\<user1>\Desktop\test1.xml` (エージェントホスト上のファイルアドレス)
> - **テスト値**。WEM整合性条件リストマネージャーの**名前**フィールドに入力した名前に対応する動的トークンを入力します。この例では、エージェントが実行されているマ

> シン（エージェントホスト）の名前を入力しました。したがって、動的トークン「##ComputerName##」を使用する必要があります。動的トークンの使用方法の詳細については、「動的トークン」を参照してください。

9. **Administration Console \> Filters \> Rules \> Filter Rule List**タブに移動し、**Add**をクリックします。

   管理コンソール 2 (/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-integrity-condition-list-manager-08.png)

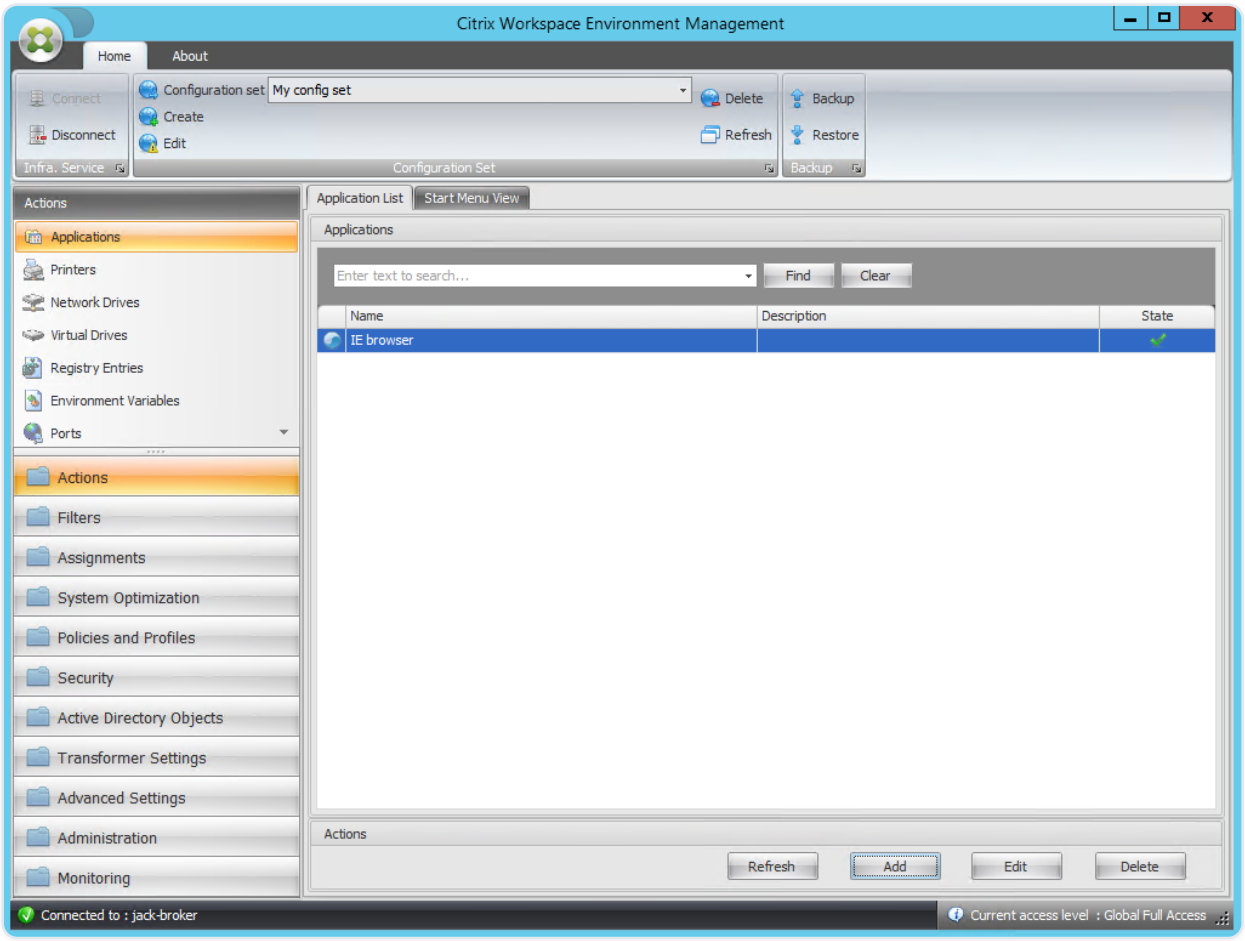
10. **名前**フィールドにフィルター名を入力します。

    新しいフィルター規則 1 (/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-integrity-condition-list-manager-09.png)

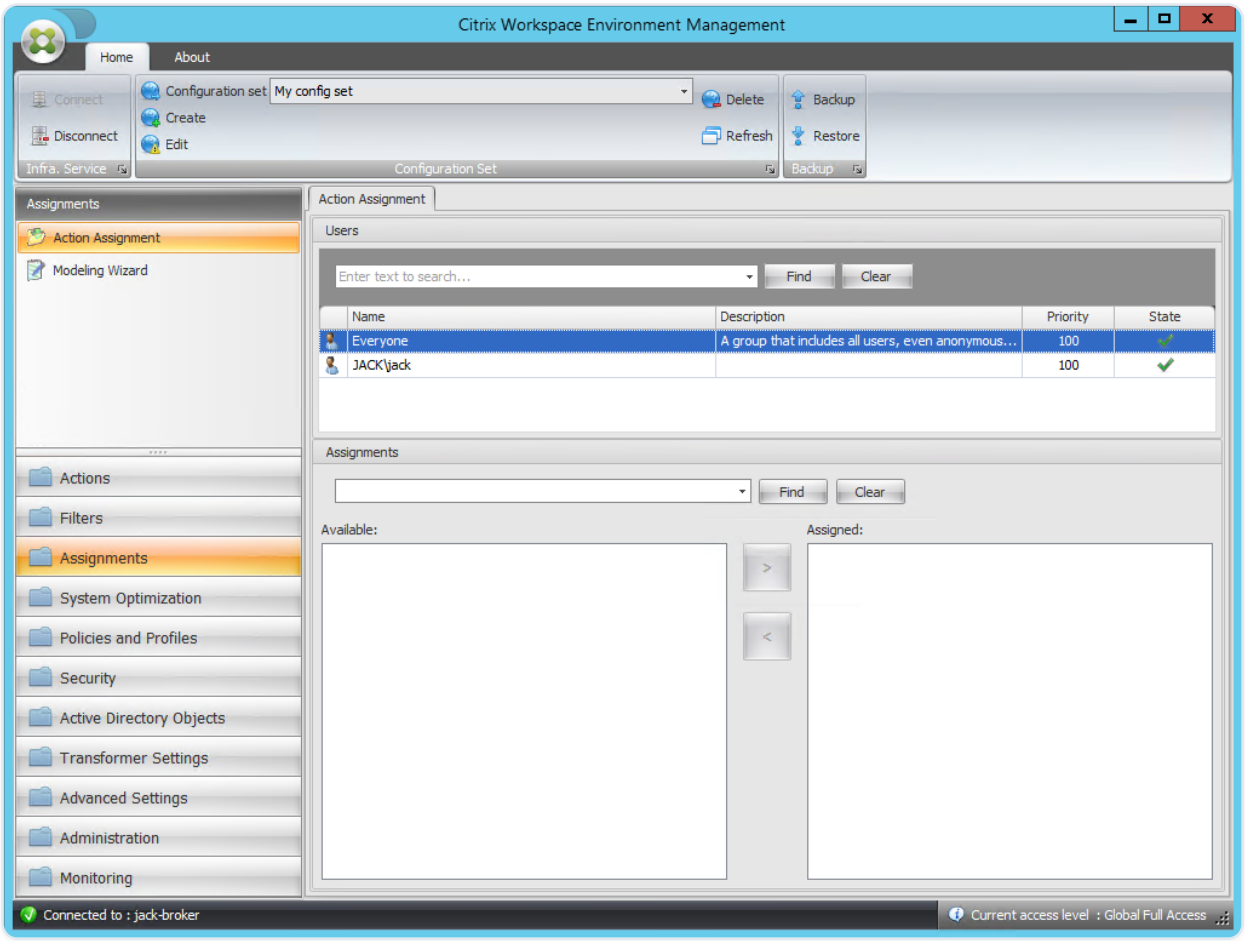
11. 設定済みの条件を**利用可能**ペインから**設定済み**ペインに移動し、**OK**をクリックします。

    新しいフィルター規則 2 (/en-us/workspace-environment-management/2607/media/wem-integrity-condition-list-manager-10.png)

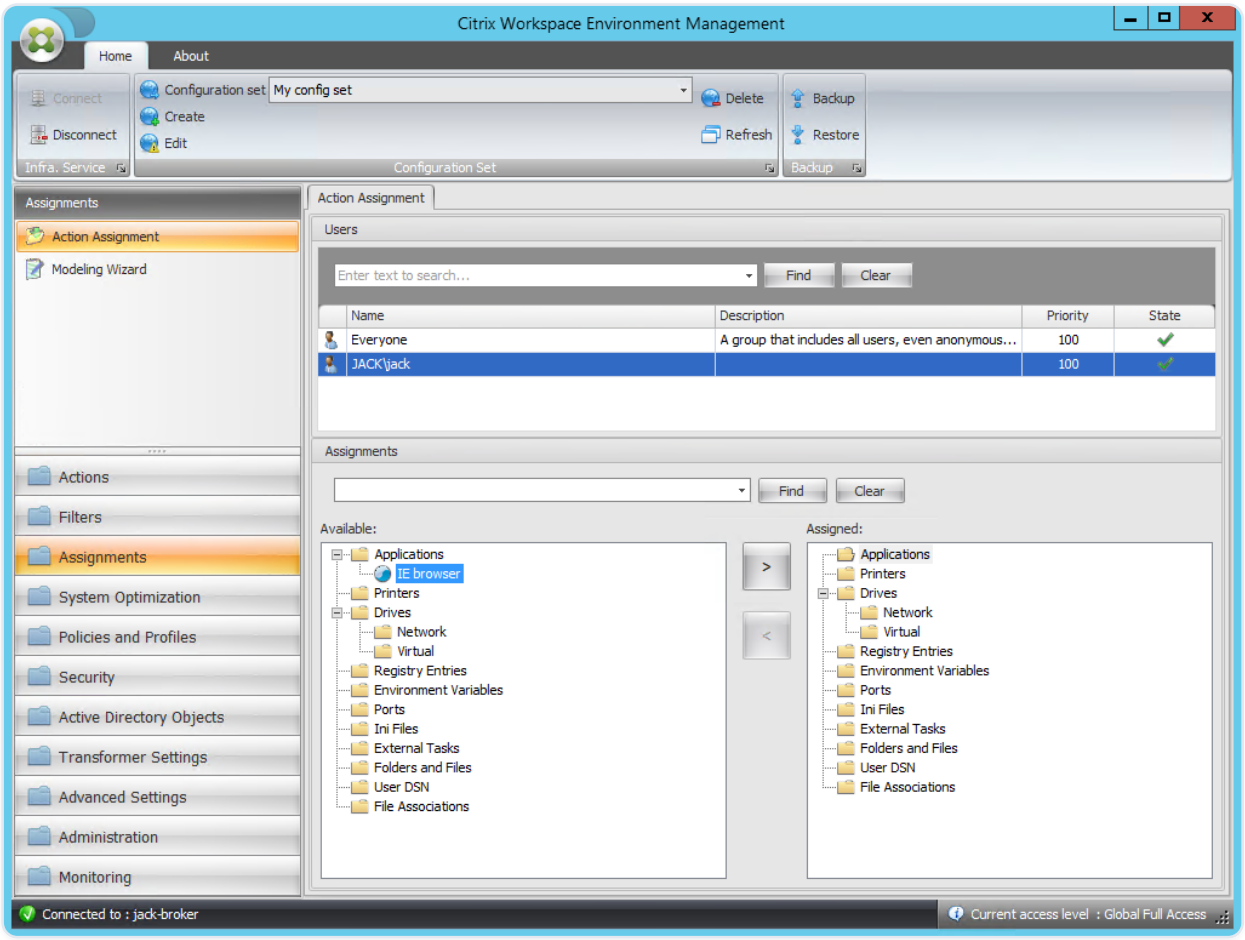
12. **Administration Console \> Actions \> Applications \> Application List**タブに移動し、アプリケーションを追加します。



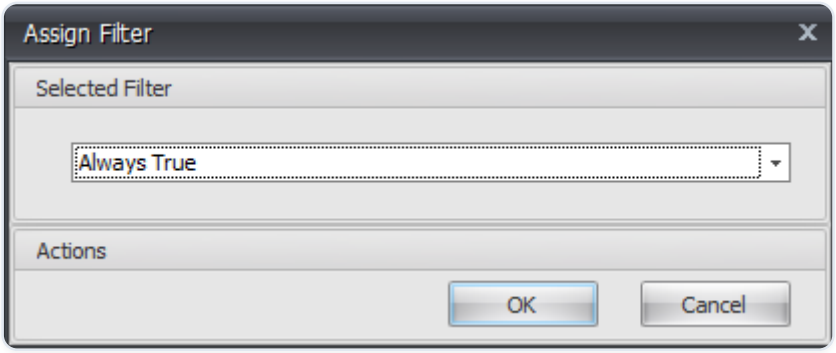
13. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て** タブに移動します。



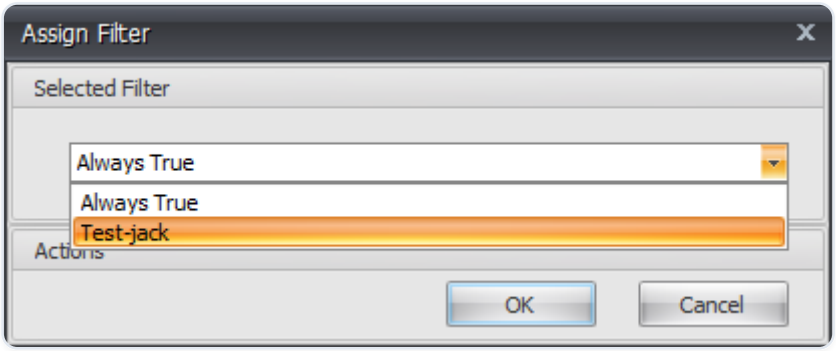
14. 目的のユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします (この例では、エージェントホストを選択します)。



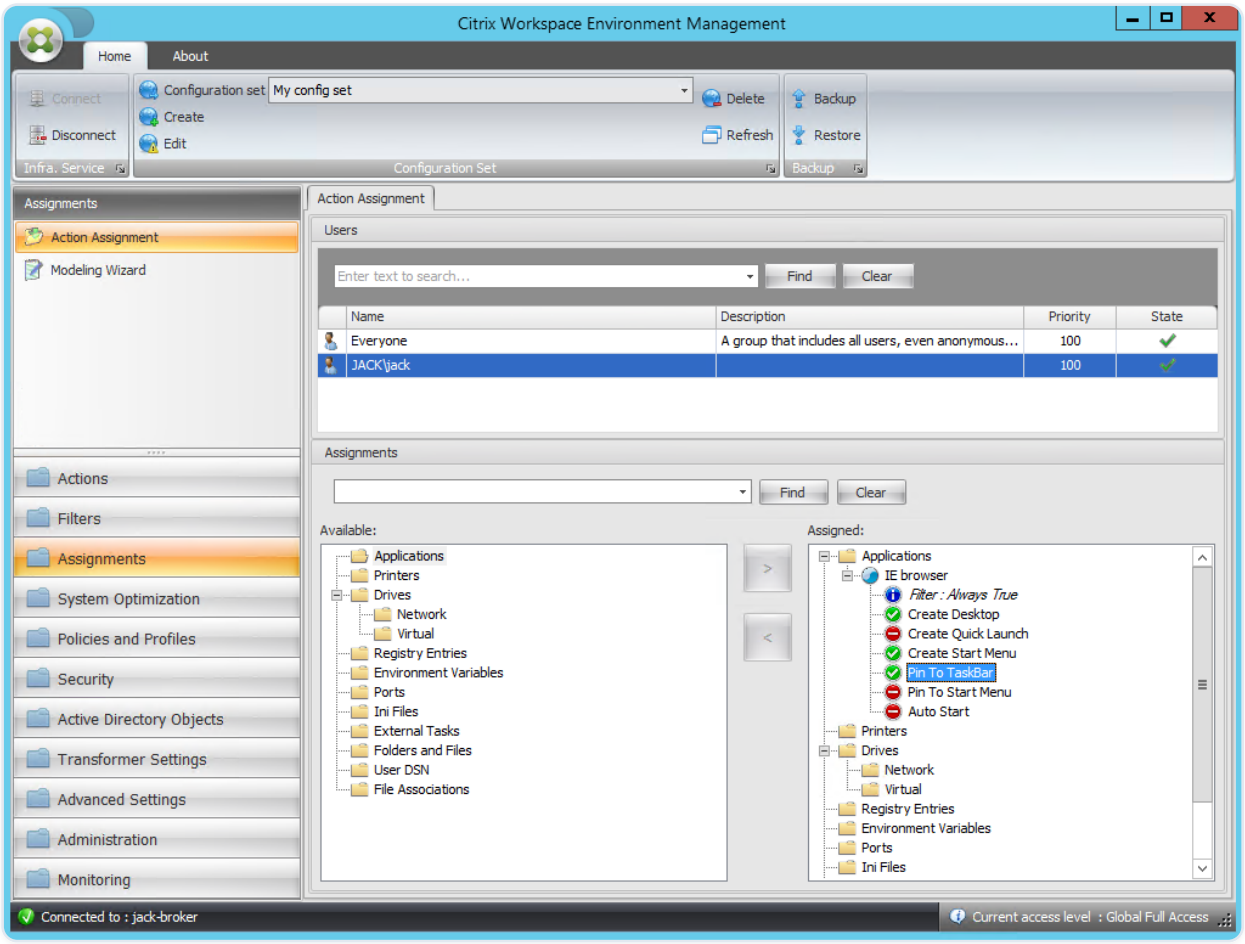
15. アプリケーションを **Available** ペインから **Assigned** ペインに移動します。



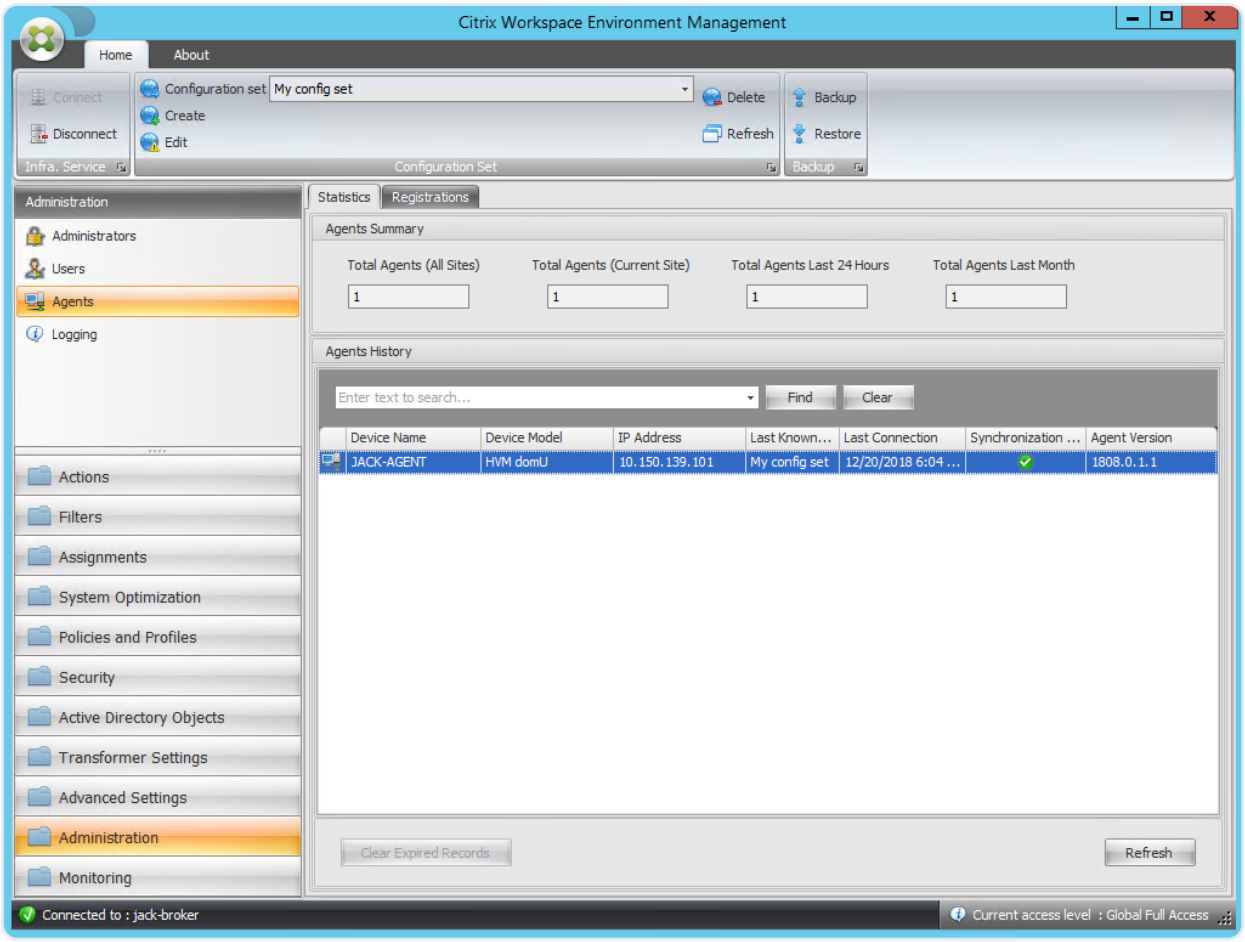
16. フィルターを選択し、**OK** をクリックします。



17. 割り当てられたアプリケーションのオプションを有効にします (この例では、**Create Desktop** と **Pin To TaskBar** を有効にします)。

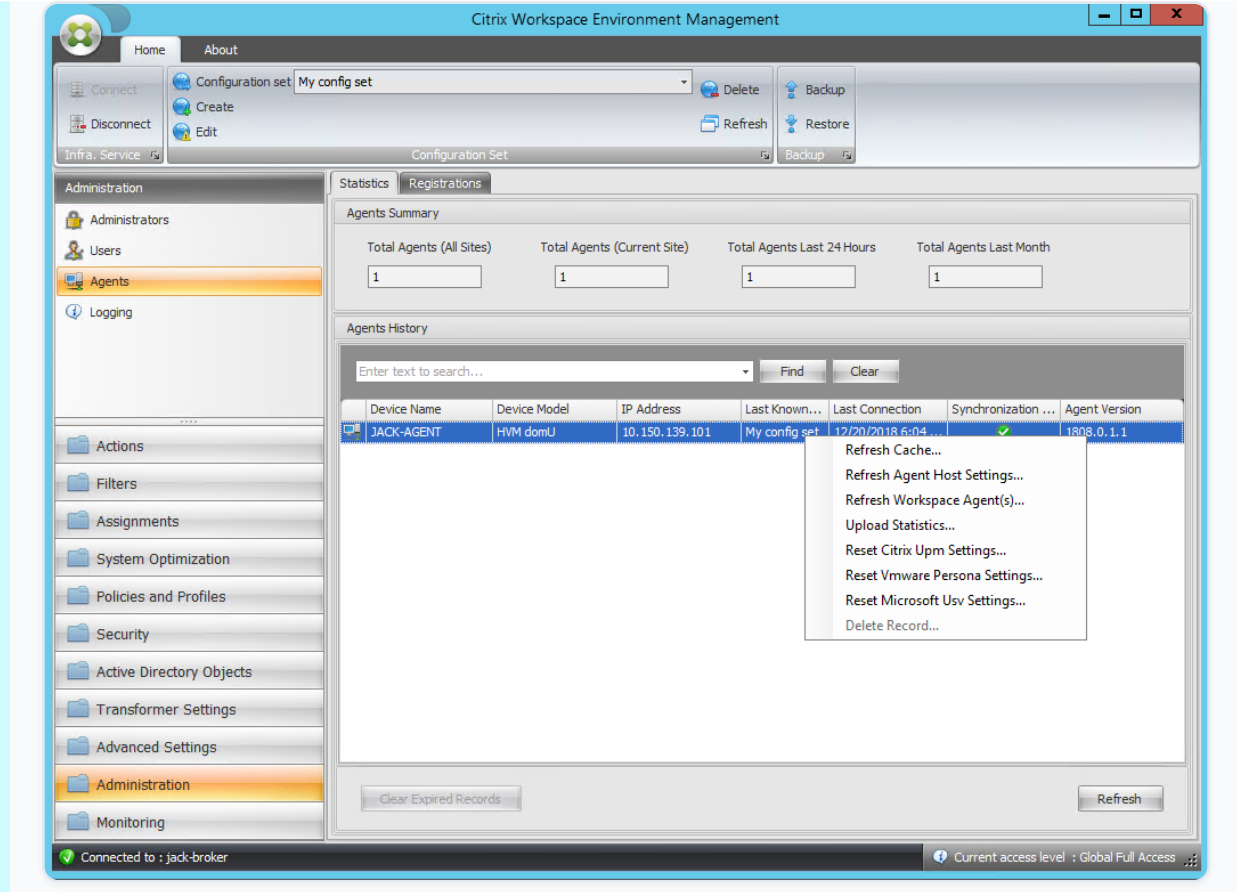


18. **Administration Console \> Administration \> Agents \> Statistics** タブに移動し、**Refresh** をクリックします。

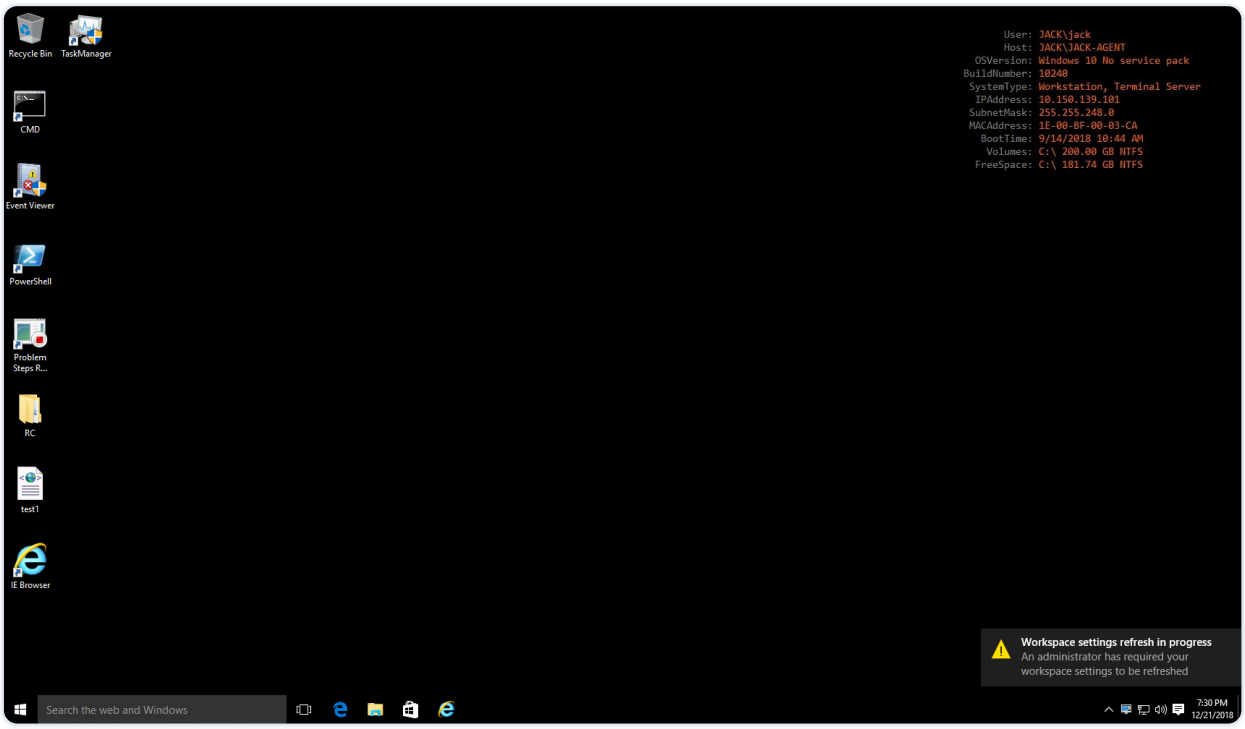


19. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで **Refresh Workspace Agent(s)** を選択します。

> **注:**
>
> 設定を有効にするには、エージェントが実行されているマシンに移動し、Citrix WEM Agent を更新することもできます。



20. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）に移動し、構成された条件が機能することを確認します。



この例では、アプリケーションはエージェントマシンに正常に割り当てられました。アプリケーションはデスクトップに作成され、タスクバーにピン留めされました。

XML プリンターリストの構成

Workspace Environment Management™ には、XML プリンターリストファイルを使用してユーザープリンターを構成する機能が含まれています。

XML プリンターリストファイルを作成したら、管理コンソールで **アクションの種類** オプションを **デバイスマッピングプリンターファイルを使用** に設定して、プリンターアクション を作成します。

> **注:**
>
> 特定の Windows 資格情報を必要としないプリンターのみがサポートされます。

XML プリンターリストファイルの構造

XML ファイルは UTF-8 でエンコードされており、次の基本的な XML 構造を持っています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



    <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">

    ...

    </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

すべてのクライアントと関連付けられたデバイスは、次の種類のオブジェクトによって表されます。

```
SerializableKeyValuePair&lt;string, List&lt;VUEMUserAssignedPrinter>>>
```

各デバイスは次のように表されます。

```
    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
        <Key>DEVICE1</Key>
        <Value>
            <VUEMUserAssignedPrinter>
               ...
            </VUEMUserAssignedPrinter>
        </Value>
    </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

各デバイスブロックは、特定のクライアントまたはコンピューター名と一致している必要があります。**\<Key>** タグには関連する名前が含まれます。**\<Value>** タグには、指定されたクライアントに割り当てられたプリンターと一致する **VUEMUserAssignedPrinter** オブジェクトのリストが含まれます。

```
    <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



 <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">
        <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
            <Key>DEVICE1</Key>
            <Value>
                <VUEMUserAssignedPrinter>
             ...
                </VUEMUserAssignedPrinter>
```

```
            </Value>

         </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

VUEMUserAssignedPrinter タグの構文

各構成済みプリンターは、次の属性を使用して **\<VUEMUserAssignedPrinter>** タグで定義する必要があります。

\<IdPrinter>。これは、構成済みプリンターの Workspace Environment Management プリンター ID です。各プリンターは異なる ID を持つ必要があります。**注** Workspace Environment Management 管理コンソールで構成された XML プリンターリストアクションも、独自の ID を持つプリンターアクションであり、XML リストで個別に構成されたプリンターの ID とは異なる必要があります。

\<IdSite>。関連する Workspace Environment Management サイトのサイト ID が含まれます。これは、既存のサイトの ID と一致する必要があります。

\<State>。プリンターの状態を指定します。1 はアクティブ、0 は無効です。

\<ActionType>。常に 0 である必要があります。

\<UseExtCredentials>. 0である必要があります。特定のWindows資格情報の使用は現在サポートされていません。

\<isDefault>. 1の場合、プリンターはデフォルトのWindowsプリンターです。0の場合、デフォルトとして構成されていません。

\<IdFilterRule>. 常に1である必要があります。

\<RevisionId>. 常に1である必要があります。プリンターのプロパティが後で変更された場合、エージェントホストに通知し、プリンターアクションが再処理されるように、この値を1増やしてください。

\<Name>. これは、Workspace Environment Management Agent Hostによって認識されるプリンター名です。このフィールドは空白にすることは**できません**。

\<Description>. これは、Workspace Environment Management Agent Hostによって認識されるプリンターの説明です。このフィールドは空白にすることができます。

\<DisplayName>. これは使用されておらず、空白のままにする必要があります。

\<TargetPath>. これはプリンターへのUNCパスです。

\<ExtLogin>. 接続のためにWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウント名が含まれます。。

\<ExtPassword>. 接続のためにWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウントのパスワードが含まれます。。

\<Reserved01>. これには詳細設定が含まれています。**いかなる方法でも**変更しないでください。

```
&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabled&lt;/
Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption
```

特定のプリンターオブジェクトの自己修復を有効にするには、上記のコンテンツをコピーして貼り付け、強調表示された**0**の値を**1**に変更するだけです。

プリンターオブジェクトの例

次の例では、クライアントまたはコンピューター**DEVICE1**に2つのアクティブなプリンターを割り当てます。

- **HP LaserJet 2200 Series** (UNCパス `\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series` 上) (デフォルトプリンター)
- UNC パス `\\server.example.net\Canon C5531i Series` 上の **Canon C5531i Series** プリンター

クライアントまたはコンピューター DEVICE2 に、1 つのアクティブなプリンターも割り当てます。

- UNC パス `\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series` 上の **HP LaserJet 2200 Series**

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

  <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

```
        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>1</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>
```

```
            </VUEMUserAssignedPrinter>
        </Value>
      <Value>
            <VUEMUserAssignedPrinter>
                <IdPrinter>2</IdPrinter>
                <IdSite>1</IdSite>
                <State>1</State>
                <ActionType>0</ActionType>
                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
                <isDefault>0</isDefault>
                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
                <RevisionId>1</RevisionId>
                <Name>Canon C5531i Series</Name>
                <Description />
                <DisplayName />
                <TargetPath>\\server.example.net\Canon C5531i Series</
TargetPath>
                <ExtLogin />
                <ExtPassword />
                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
```

```
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

      <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE2</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>0</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />
```

```
                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

   </ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

用語集

この記事には、Workspace Environment Management™ (WEM) ソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。

オンプレミス用語のみ

Citrix Cloud™ サービス用語のみ

Admin Broker Port。「管理ポート」のレガシー用語です。

管理コンソール。インフラストラクチャサービスに接続するインターフェイスです。管理コンソールを使用して、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix virtual apps™ サーバーでホストされます。Web ブラウザーを使用して、サービスの **Manage** タブから管理コンソールを使用して WEM のインストールを管理します。

管理ポート 。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートです。ポートの既定値は 8284 で、AdminPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、エージェントサービスとセッションエージェントの2つのコンポーネントで構成されます。これらのコンポーネントはエージェントホストにインストールされます。

Agent Host executable。「セッションエージェント」のレガシー用語です。

Agent Host machine。「エージェントホスト」のレガシー用語です。

Agent Host service。「エージェントサービス」のレガシー用語です。

Agent Broker Port。「エージェントサービスポート」のレガシー用語です。

Agent Cache Synchronization Port。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語です。

エージェントホスト。エージェントがインストールされているマシンです。

エージェントホスト構成GPO。エージェントのインストール時にADMまたはADMXファイルとして提供されるグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレート。管理者はこれらのファイルをActive Directoryにインポートし、その後、適切な組織単位に設定を適用します。

エージェントポート 。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。たとえば、管理コンソールからエージェントを強制的に更新するために使用されます。ポートのデフォルトは49752です。

エージェントサービス。VDAまたはTransformerのユースケースにおける物理Windowsデバイスに展開されるサービスです。管理コンソールを使用して構成する設定を適用する責任があります。

エージェントサービスポート 。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。ポートのデフォルトは8286で、AgentPortコマンドライン引数に対応します。

エージェント同期ブローカーポート。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語。

ブローカー。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

ブローカーアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

ブローカーサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

ブローカーサービスアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

キャッシュ同期ポート 。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期させるためのポート。ポートのデフォルトは8285で、AgentSyncPortコマンドライン引数に対応します。

Citrixライセンスサーバーポート 。Citrixライセンスサーバーがリッスンしており、インフラストラクチャサービスがライセンス検証のために接続するポート。ポートのデフォルトは27000です。

Citrix Cloud Connector™ 。リソースロケーション内のマシンがCitrix Cloudと通信できるようにするソフトウェア。各リソースロケーションで少なくとも1台のマシン（クラウドコネクタ）にインストールされます。

構成セット。Workspace Environment Managementの構成設定のセット。

コネクションブローカー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

データベース。Workspace Environment Managementの構成設定を含むデータベース。

Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、データベースは SQL Server インスタンスに作成されます。Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの設定は Microsoft Azure SQL Database サービスに保存されます。

データベースサーバーアカウント 。データベース作成ウィザードが SQL インスタンスに接続して Workspace Environment Management データベースを作成するために使用するアカウント。

DSN。データソース名 (DSN) には、データベース名、ディレクトリ、データベースドライバー、ユーザーID、パスワード、その他の情報が含まれます。特定のデータベース用に DSN を作成すると、アプリケーションでその DSN を使用してデータベースから情報を呼び出すことができます。

インフラストラクチャサーバー 。Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューター。

インフラストラクチャサーバー管理ポート。「管理ポート」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサーバーにインストールされているサービスで、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server、Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソール、エージェントホスト) と同期します。このサービスは以前「ブローカー」と呼ばれていました。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

インフラストラクチャサービスアカウント 。インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するアカウント。デフォルトでは、このアカウントは vuemUser SQL アカウントですが、データベース作成時に、インフラストラクチャサービスが使用する他の Windows 資格情報をオプションで指定できます。

インフラストラクチャサービスサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスインストールプロセスによってインフラストラクチャサーバーにインストールされるサービス。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

初期管理者グループ 。データベース作成時に選択されるユーザーグループ。このグループのメンバーのみが、管理コンソールのすべての Workspace Environment Management サイトに対するフルアクセス権を持ちます。デフォルトでは、このグループがこのアクセス権を持つ唯一のグループです。

統合接続 。データベース作成ウィザードが SQL アカウントではなく、現在の Windows アカウントを使用して SQL インスタンスに接続すること。

キオスクモード。エージェントが Web またはアプリケーションランチャーとなり、ユーザーを単一のアプリまたはデスクトップエクスペリエンスにリダイレクトするモード。これにより、管理者はユーザー環境を単一のアプリまたはデスクトップにロックダウンできます。

監視ブローカーポート。「WEM 監視ポート」のレガシー用語。

混合モード認証 。SQL Serverにおいて、Windows認証とSQL Server認証の両方を有効にする認証モードです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するためのデフォルトのメカニズムです。

ライセンスサーバーポート。「Citrix License Server port」のレガシー用語です。

ネットワークドライブ。LAN、サーバー、またはNASデバイス上の物理ストレージデバイスです。

リソースの場所 。サブスクライバーにサービスを提供するために必要なリソースを含む場所（パブリックまたはプライベートクラウド、支店、データセンターなど）です。

SaaS 。*Software as a service*は、サードパーティプロバイダーがアプリケーションをホストし、インターネット経由で顧客に提供するソフトウェア配布モデルです。

セルフサービスウィンドウ。エンドユーザーがWorkspace Environment Managementで構成された機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できるインターフェイスです。このインターフェイスは、「UIモード」のセッションエージェントによって提供されます。

サービスプリンシパル名 (SPN)。サービスインスタンスの一意の識別子です。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。

セッションエージェント。ユーザーセッションのアプリショートカットを構成するエージェントです。エージェントは「UIモード」と「コマンドライン」モードで動作します。UIモードは、ステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスを提供し、エンドユーザーはそこから特定の機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できます。

サイト。「構成セット」のレガシー用語です。

SQLユーザーアカウント 。インストール中に作成される「vuemUser」という名前のSQLユーザーアカウントです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

トランスフォーマー。Workspace Environment Managementエージェントが制限されたキオスクモードで接続する機能です。

仮想ドライブ。**subst**コマンドまたは**DefineDosDevice**関数を使用して作成されたWindows仮想ドライブ（MS-DOSデバイス名とも呼ばれます）。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングします。

仮想IPアドレス (VIP)。実際の物理ネットワークインターフェイス（ポート）に対応しないIPアドレスです。

VUEM。Virtual User Environment Management。これは、製品の一部の箇所に表示されるレガシーなNorskale用語です。

vuemUser 。Workspace Environment Managementデータベース作成時に作成されるSQLアカウントです。これは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

WEM Broker。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

WEM monitoring port 。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリスニングポート。ポートはデフォルトで8287です。（未実装）

WEM UI Agent executable。「セッションエージェント」のレガシー用語。

Windows account impersonation。サービスがWindowsアカウントのIDで実行される場合。

Windows AppLocker。ファイルの一意のIDに基づいて、組織内で特定のアプリケーションを実行できるユーザーまたはグループを指定できるWindows機能。AppLockerを使用すると、アプリケーションの実行を許可または拒否するルールを作成できます。

Windows authentication。SQL Serverにおいて、特定のWindowsユーザーアカウントとグループアカウントがSQL Serverへのログインを信頼されるデフォルトの認証モード。SQL Serverの代替認証モードは混合モード認証です。

Windows security。「Windows認証」のレガシー用語。

Workspace Environment Management (WEM) service 。WEM管理コンポーネントをSaaSサービスとして提供するCitrix Cloudサービス。